

ミレニアム女性の健康及び働き方意識調査（報告）

■ 調査の概要

株式会社日本総合研究所は、「ミレニアム女性」と呼ばれる1980年～1995年生まれの女性に焦点を当て、健康及び働き方意識に関するアンケート調査を実施した。

■ 調査の実施方法

- 調査期間および実施方法：2022年2月17日から2月20日にかけてウェブ調査により実施。
- 調査対象：全国の1980年～1995年生まれの女性を対象とした。GM0リサーチ株式会社の調査パネル1148人から回答を受領。

目次

《回答者の属性》	6
1. 労働環境	10
1.1. 労働環境（デスクワークが多い）	11
1.2. 労働環境（希望したときに有給休暇を取得することができる）	14
1.3. 労働環境（立ち仕事が多い）	17
1.4. 労働環境（接客を行う時間が長い）	20
1.5. 労働環境（働く日や曜日が固定されていない）	23
1.6. 労働環境（出社や退社時間を柔軟に選択できる）	26
1.7. 労働環境（自分が出社しないと仕事が回らない日が多い）	29
1.8. 労働環境（オフィス以外で仕事をすることができる）	32
1.9. 労働環境（残業時間が多い）	35
1.10. 労働環境（勤務時間が変則的である）	38
1.11. 労働環境（スケジュールを前もって立てることが難しい）	41
1.12. 労働環境（顧客先オフィスで仕事を行う時間が長い）	44
1.13. 労働環境（工場や工事現場など作業を行う時間が長い）	47
1.14. 労働環境（休日出勤が多い）	50
1.15. 労働環境（顧客先への往訪が多い）	53
1.16. 労働環境（出張が多い）	56
2. 勤務先の取組み	59
3. 勤務先の取組みの内容	61
4. 女性特有の健康課題の認知度	62
4.1. 女性特有の健康課題の認知度（妊娠・出産・不妊）	63
4.2. 女性特有の健康課題の認知度（月経前症候群）	66
4.3. 女性特有の健康課題の認知度（貧血）	69
4.4. 女性特有の健康課題の認知度（月経困難症）	72
4.5. 女性特有の健康課題の認知度（痩せ）	75
4.6. 女性特有の健康課題の認知度（乳がん）	78
4.7. 女性特有の健康課題の認知度（子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん）	81
4.8. 女性特有の健康課題の認知度（子宮内膜症）	84
4.9. 女性特有の健康課題の認知度（子宮筋腫）	87
4.10. 女性特有の健康課題の認知度（卵巣のう腫）	90
4.11. 女性特有の健康課題の認知度（新型栄養失調）	93
5. 女性特有の健康課題の認知経路	96
5.1. 女性特有の健康課題の認知経路（妊娠・出産・不妊）	106
5.2. 女性特有の健康課題の認知経路（月経前症候群）	115
5.3. 女性特有の健康課題の認知経路（貧血）	124
5.4. 女性特有の健康課題の認知経路（月経困難症）	133
5.5. 女性特有の健康課題の認知経路（痩せ）	142
5.6. 女性特有の健康課題の認知経路（乳がん）	151
5.7. 女性特有の健康課題の認知経路（子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん）	160

5.8. 女性特有の健康課題の認知経路（子宮内膜症）	169
5.9. 女性特有の健康課題の認知経路（子宮筋腫）	178
5.10. 女性特有の健康課題の認知経路（卵巣のう腫）	187
5.11. 女性特有の健康課題の認知経路（新型栄養失調）	196
6. 抱えている女性特有の健康課題	205
7. 女性特有の健康課題の相談相手	214
7.1. 女性特有の健康課題の相談相手（女性特有の健康課題の仕事への影響別）	219
8. 医師に相談しない理由	220
9. 女性特有の健康課題の仕事への影響度	223
10. 女性特有の健康課題の仕事への影響内容	226
11. 月経不調の負担度	231
11.1. 月経不調の負担度（期間別）	234
11.1.1. 月経不調の負担度（月経期間）	235
11.1.2. 月経不調の負担度（月経後）	238
11.1.3. 月経不調の負担度（排卵期）	241
11.1.4. 月経不調の負担度（排卵期後）	244
12. 健康管理サービスの利用・認知	247
12.1. 健康管理サービスの利用・認知（サービス別）	250
12.1.1. 健康管理サービスの利用・認知（ルナルナ）	251
12.1.2. 健康管理サービスの利用・認知（ラルーン）	254
13. 子どもの希望	257
14. 健康の維持改善	260
15. 食品の摂取頻度	263
15.1. 食品の摂取頻度（ごはん）	264
15.2. 食品の摂取頻度（野菜類・海藻類・きのこ類）	267
15.3. 食品の摂取頻度（牛乳・乳製品）	270
15.4. 食品の摂取頻度（パン）	273
15.5. 食品の摂取頻度（菓子類）	276
15.6. 食品の摂取頻度（嗜好飲料）	279
15.7. 食品の摂取頻度（卵類）	282
15.8. 食品の摂取頻度（大豆・大豆製品）	285
15.9. 食品の摂取頻度（肉類）	288
15.10. 食品の摂取頻度（果実類）	291
15.11. 食品の摂取頻度（アルコール）	294
15.12. 食品の摂取頻度（麺類）	297
15.13. 食品の摂取頻度（魚介類）	300
15.14. 食品の摂取頻度（インスタントラーメンやカップ麺）	303
15.15. 食品の摂取頻度（ファーストフード）	306

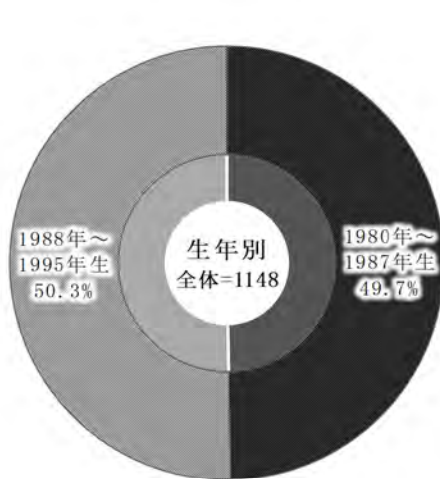
16. 食事形態（一日）	309
16.1. 食事形態（朝食・昼食・夕食別）	312
16.1.1. 食事形態（朝食）	313
16.1.2. 食事形態（昼食）	316
16.1.3. 食事形態（夕食）	319
17. 食事・運動への意識	322
17.1. 食事・運動への意識（食品を選ぶのに困らない知識がある）	323
17.2. 食事・運動への意識（日々の食事を整えるのに困らない知識がある）	326
17.3. 食事・運動への意識（日々の食事を整えるのに困らない技術がある）	329
17.4. 食事・運動への意識（健康づくりのために栄養や食事について考える）	332
17.5. 食事・運動への意識（食事量を減らすよう心がけている）	335
17.6. 食事・運動への意識（運動量を増やすよう心がけている）	338
18. 体型	341
19. 理想体重（現在の体重比）	344
20. 体力	347
21. 運動量	350
22. 自覚している精神状態	353
22.1. 自覚している精神状態（神経過敏に感じた）	354
22.2. 自覚している精神状態（絶望的だと感じた）	357
22.3. 自覚している精神状態（そわそわ落ち着かない）	360
22.4. 自覚している精神状態（気分が沈み込んで何をしても気が晴れない）	363
22.5. 自覚している精神状態（何をするのも骨折りだと感じた）	366
22.6. 自覚している精神状態（自分は価値のない人間だと感じた）	369
23. 感情の変化の頻度	372
24. 気分の不調の業務影響への意識	375
24.1. 気分の不調の業務影響への意識（感情の変化の頻度別）	378
25. 自認している性格	379
25.1. 自認している性格（活発で外向的だ）	380
25.2. 自認している性格（他人に不満を持ち、もめごとを起こしやすい）	384
25.3. 自認している性格（しっかりしていて、自分に厳しい）	387
25.4. 自認している性格（心配性で、うろたえやすい）	390
25.5. 自認している性格（新しいことが好きで、変わった考えを持つ）	393
25.6. 自認している性格（ひかえめで、おとなしい）	396
25.7. 自認している性格（人に気をつかう、やさしい人間だ）	399
25.8. 自認している性格（だらしなく、うっかりしている）	402
25.9. 自認している性格（冷静で気分が安定している）	405
25.10. 自認している性格（発想力に欠けた、平凡な人間だ）	408

26. 女性活躍社会の動向の認知度	411
26.1. 女性活躍社会の動向の認知度（認知機会別）	414
26.1.1. 女性活躍社会の動向の認知度（就業機会の増加）	415
26.1.2. 女性活躍社会の動向の認知度（男女均等の採用機会）	418
26.1.3. 女性活躍社会の動向の認知度（女性経営層の増加）	421
26.1.4. 女性活躍社会の動向の認知度（女性の管理職登用）	424
26.1.5. 女性活躍社会の動向の認知度（女性起業家の増加）	427
26.1.6. 女性活躍社会の動向の認知度（ハラスメントの減少）	430
26.1.7. 女性活躍社会の動向の認知度（仕事と子育ての両立）	433
26.1.8. 女性活躍社会の動向の認知度（仕事と私生活の両立）	436
26.1.9. 女性活躍社会の動向の認知度（仕事と健康の両立）	439
26.1.10. 女性活躍社会の動向の認知度（配偶者との家事・育児分担）	442
26.1.11. 女性活躍社会の動向の認知度（女性の政治分野の活躍）	445
26.1.12. 女性活躍社会の動向の認知度（女性の学術・研究分野での活躍）	448
26.1.13. 女性活躍社会の動向の認知度（女性のメディアでの発言機会の増加）	451
27. 女性が活躍するために必要なこと（自由意見）	454
28. 地方部で働く女性増加に必要なこと（自由意見）	457
29. 勤労女性の健康維持に必要なこと	460
30. 現職を定年まで継続する意思	466
31. 転職希望の理由	469

《回答者の属性》

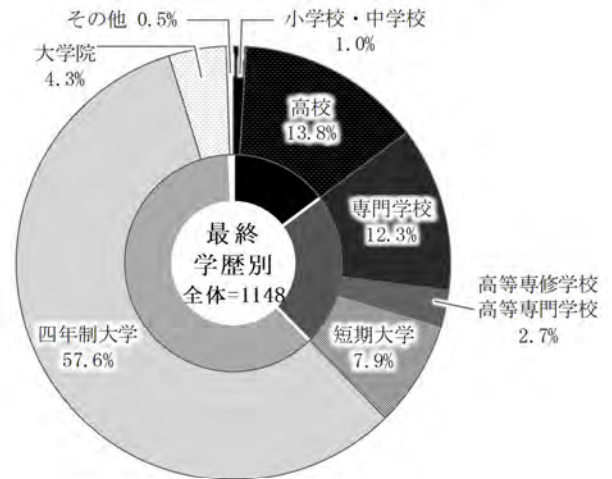
- 回答者の属性は下のグラフのとおり。次章以降の属性はグラフ下の属性名により表記する。
- 体型別、健康課題有無、健康の維持改善、子どもの希望別の、分析と属性別グラフは後述する。

図表 回答者の属性[単一選択]



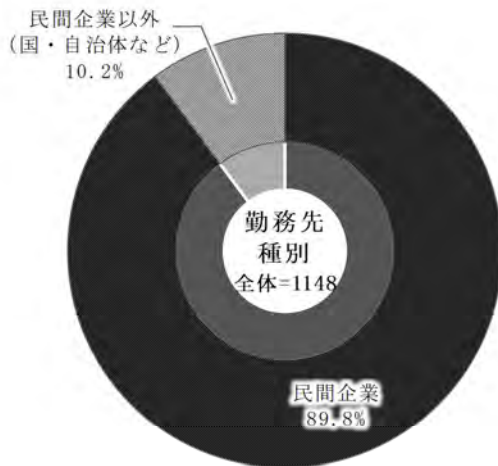
＜集計属性＞

- 属性名：1980年～87年生
1980年～1987年生
- 属性名：1988年～95年生
1988年～1995年生



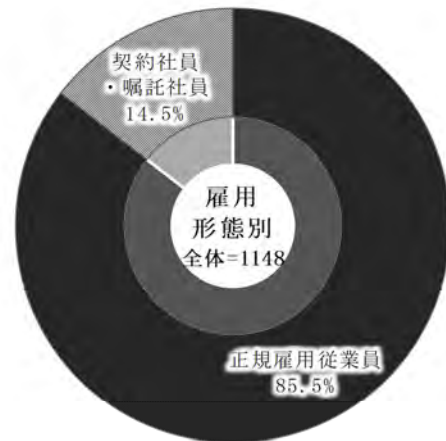
＜集計属性＞

- 属性名：小・中・高校
小学校・中学校 / 高校
- 属性名：専門学校・短大等
専門学校 / 高等専修学校・高等専門学校 / 短期大学
- 属性名：四大・大学院
四年制大学 / 大学院



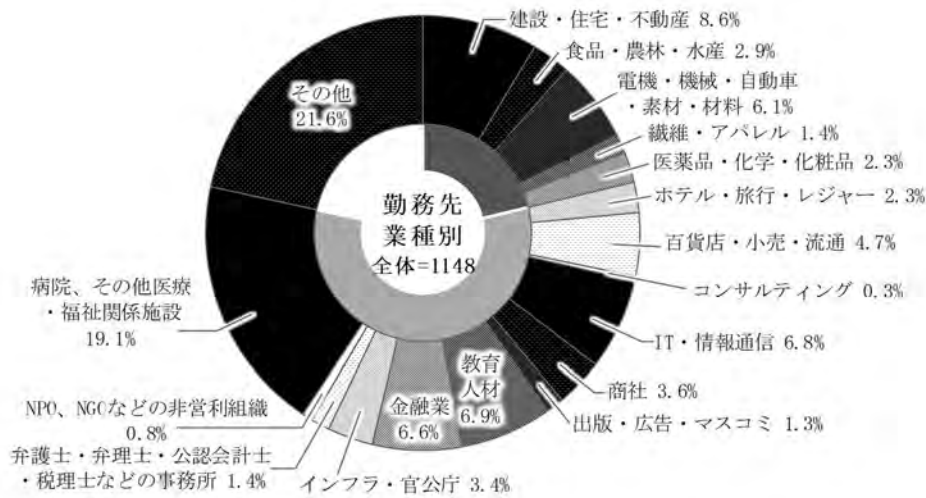
＜集計属性＞

- 属性名：民間
民間企業
- 属性名：国・自治体
民間企業以外 (国・自治体など)



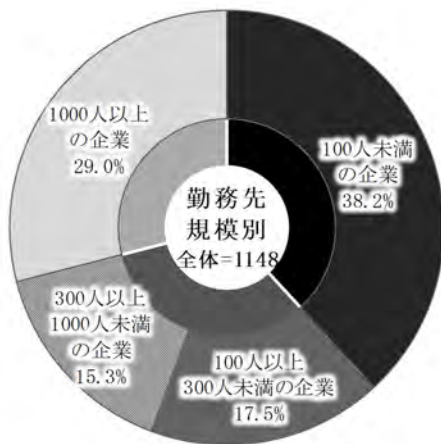
＜集計属性＞

- 属性名：正規
正規雇用従業員
- 属性名：契約・嘱託
契約社員・嘱託社員



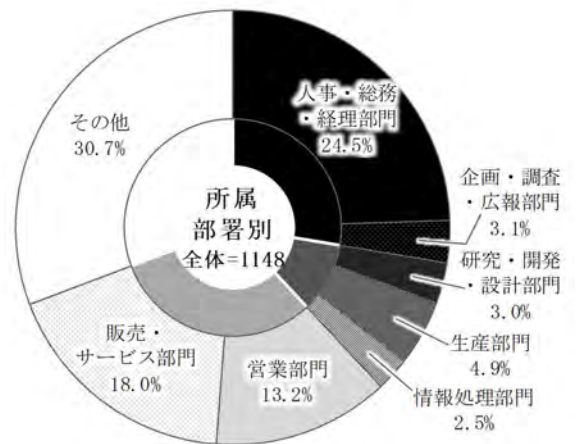
<集計属性>

- 属性名：製造系
建設・住宅・不動産 / 食品・農林・水産 / 電機・機械・自動車・素材・材料 / 繊維・アパレル / 医薬品・化学・化粧品
- 属性名：サービス系
ホテル・旅行・レジャー / 百貨店・小売・流通 / コンサルティング / IT・情報通信 / 商社(総合商社・専門商社) / 出版・広告・マスコミ / 教育・人材 / 金融業(銀行・証券・保険など) / インフラ(電力・ガス・鉄道・エアラインなど)・官公庁 / 弁護士・弁理士・公認会計士・税理士などの事務所 / NPO、NGOなどの非営利組織 / 病院、その他医療・福祉関係施設



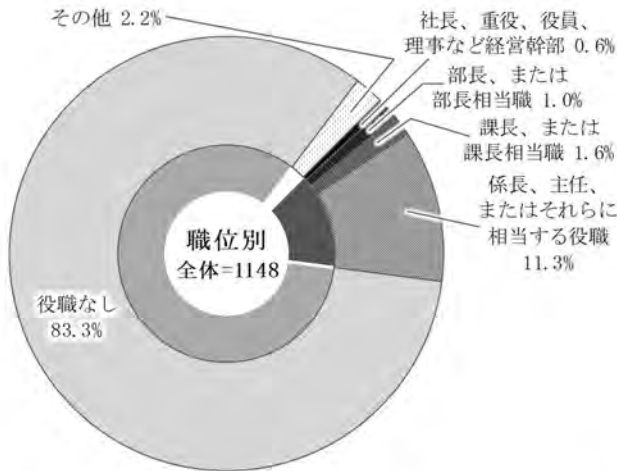
<集計属性>

- 属性名：100人未満
100人未満の企業
- 属性名：100人以上1000人未満
100人～300人未満の企業 / 300人～1000人未満の企業
- 属性名：1000人以上
1000人以上の企業



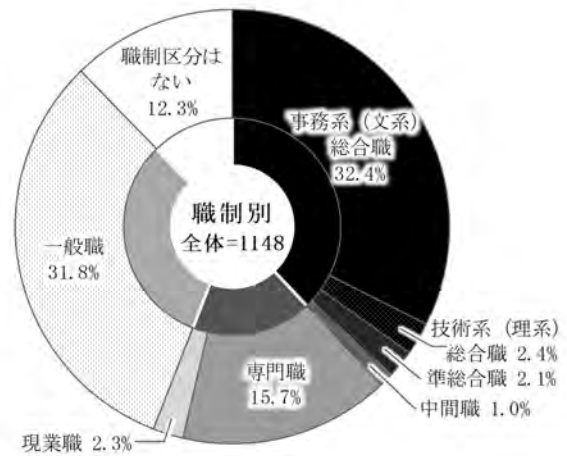
<集計属性>

- 属性名：管理系
人事・総務・経理部門 / 企画・調査・広報部門
- 属性名：生産系
研究・開発・設計部門 / 生産部門 / 情報処理部門
- 属性名：営業系
営業部門 / 販売・サービス部門



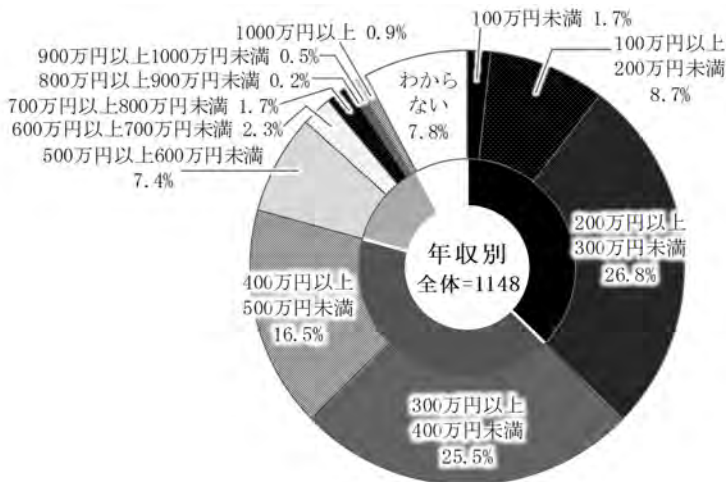
<集計属性>

- 属性名：役員・管理職
社長、重役、役員、理事など経営幹部 / 部長、または部長相当職 / 課長、または課長相当職 / 係長、主任、またはそれらに相当する役職
- 属性名：役職なし
役職なし



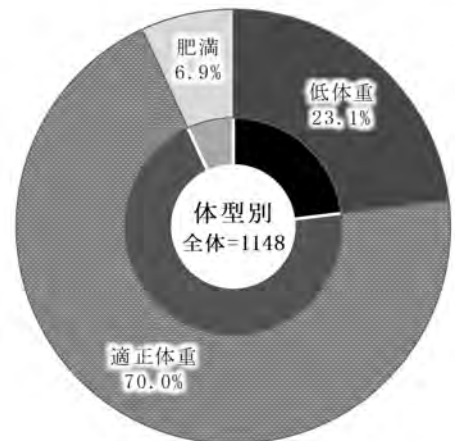
<集計属性>

- 属性名：総合職等
事務系(文系)総合職(基幹的業務または企画立案、対外折衝など総合的な判断を要する業務に従事し、原則転居を伴う転勤がある。研究開発など技術系に該当するものを除く) / 技術系(理系)総合職(基幹的業務または企画立案、対外折衝など総合的な判断を要する業務に従事し、原則転居を伴う転勤がある。研究開発など技術系に該当するものに限る) / 準総合職(総合職に準ずる業務に従事し、原則一定地域エリア内のみの転勤がある) / 中間職(総合職に準ずる業務に従事するが、原則転居を伴う転勤はない)
- 属性名：専門職・現業職
専門職(特殊な分野の業務において専門的業務に従事する) / 現業職(技能分野の業務に従事する)
- 属性名：一般職
一般職(主に定型的業務に従事し、原則転居を伴う転勤がない)



<集計属性>

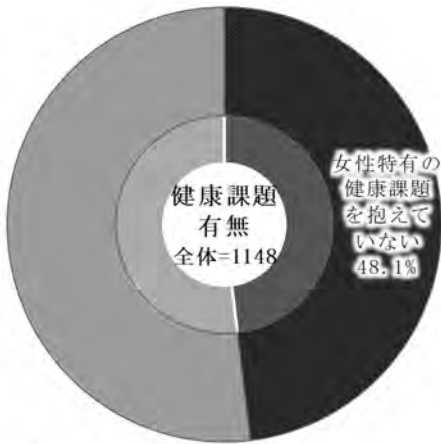
- 属性名：300万円未満
100万円未満 / 100万円以上200万円未満 / 200万円以上300万円未満
- 属性名：300万円以上500万円未満
300万円以上400万円未満 / 400万円以上500万円未満
- 属性名：500万円以上
500万円以上600万円未満 / 600万円以上700万円未満 / 700万円以上800万円未満 / 800万円以上900万円未満 / 900万円以上1000万円未満 / 1000万円以上



<集計属性>

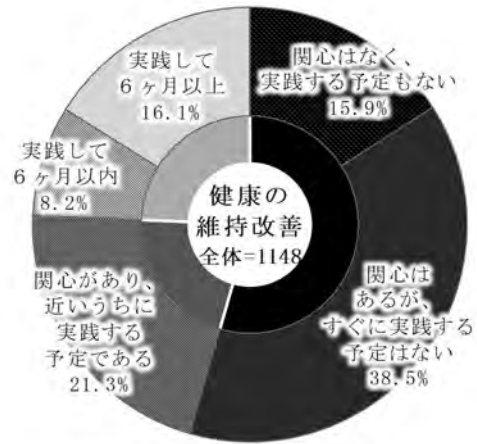
- 属性名：低体重
BMI 18.5未満
 - 属性名：適正体重
BMI 18.5以上25未満
 - 属性名：肥満
BMI 25以上
- ※日本肥満学会による分類。
BMI：体重(kg)÷身長(m)の2乗

月経前症候群(PMS)、貧血、妊娠・出産・不妊、月経困難症、子宮筋腫、痩せ、子宮内膜症、卵巣のう腫、子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん、乳がん、新型栄養失調、その他女性特有の健康問題を抱えている
51.9%



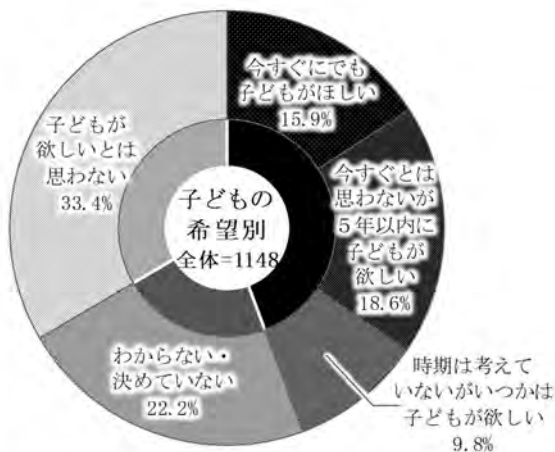
<集計属性>

- 属性名：課題なし
女性特有の健康課題を抱えていない
- 属性名：課題あり
月経前症候群(PMS)、貧血、妊娠・出産・不妊、月経困難症、子宮筋腫、痩せ、子宮内膜症、卵巣のう腫、子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん、乳がん、新型栄養失調、その他女性特有の健康問題を抱えている



<集計属性>

- 属性名：予定なし
関心はなく、実践する予定もない / 関心はあるが、すぐに実践する予定はない
- 属性名：予定あり
関心があり、近いうちに実践する予定である
- 属性名：実践中
現在すでに実践して、実践するようになってから6ヶ月以内である / 現在すでに実践して、実践するようになってから6ヶ月以上たっている



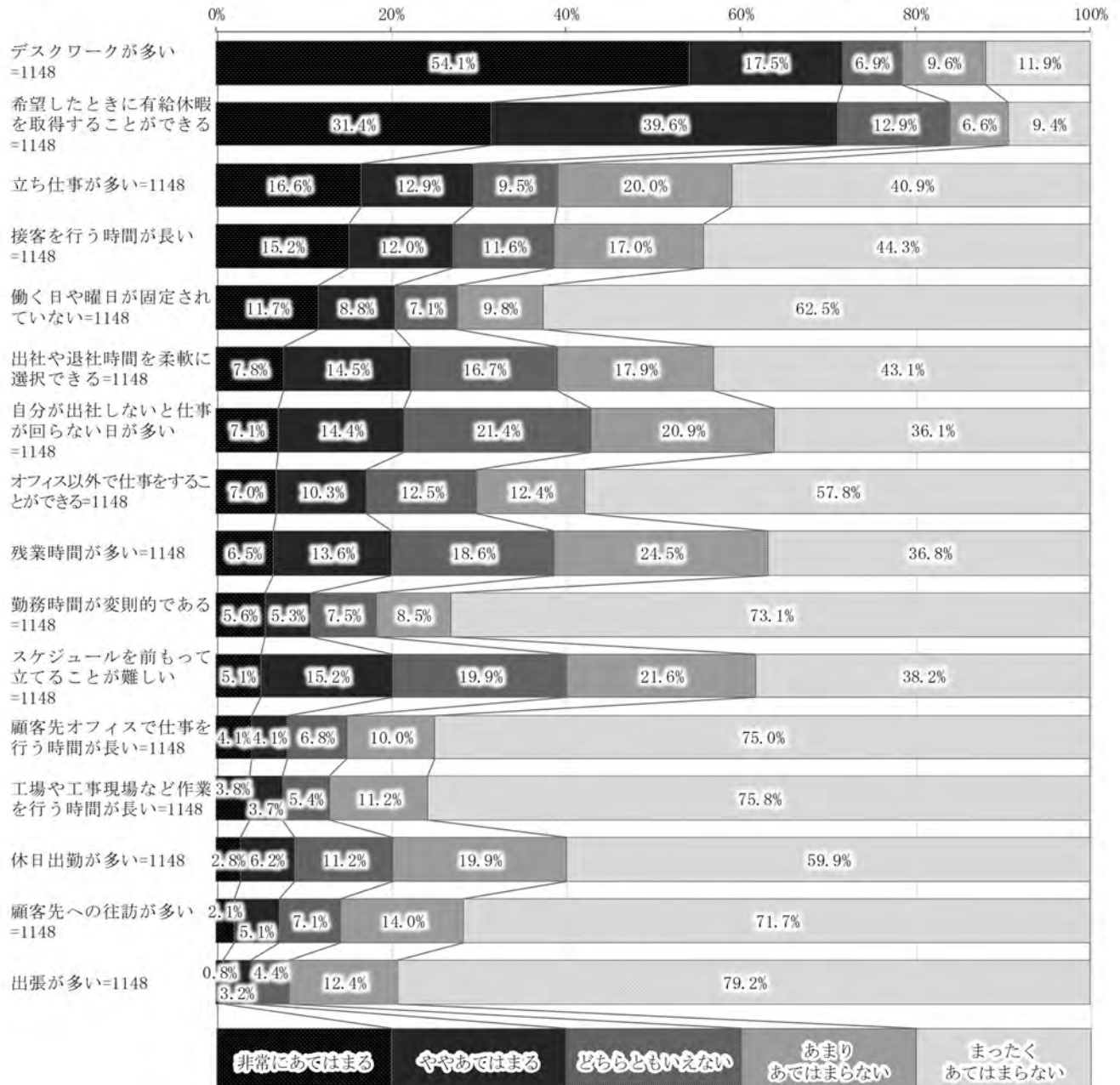
<集計属性>

- 属性名：子どもが欲しい
今すぐにも子どもがほしい / 今すぐとは思わないが5年以内に子どもがほしい / 時期は考えていないがいつかは子どもがほしい
- 属性名：わからない・決めていない
わからない・決めていない
- 属性名：子どもが欲しいとは思わない
子どもが欲しいとは思わない

1. 労働環境

- 労働環境について尋ねたところ、「デスクワークが多い」の「非常にあてはまる」54.1%が最も多く、「ややあてはまる」を合わせると7割を超えた。
- 次いで「希望したときに有給休暇を取得することができる」の「非常にあてはまる」31.4%が多く、これも「ややあてはまる」を合わせると7割を超えた。

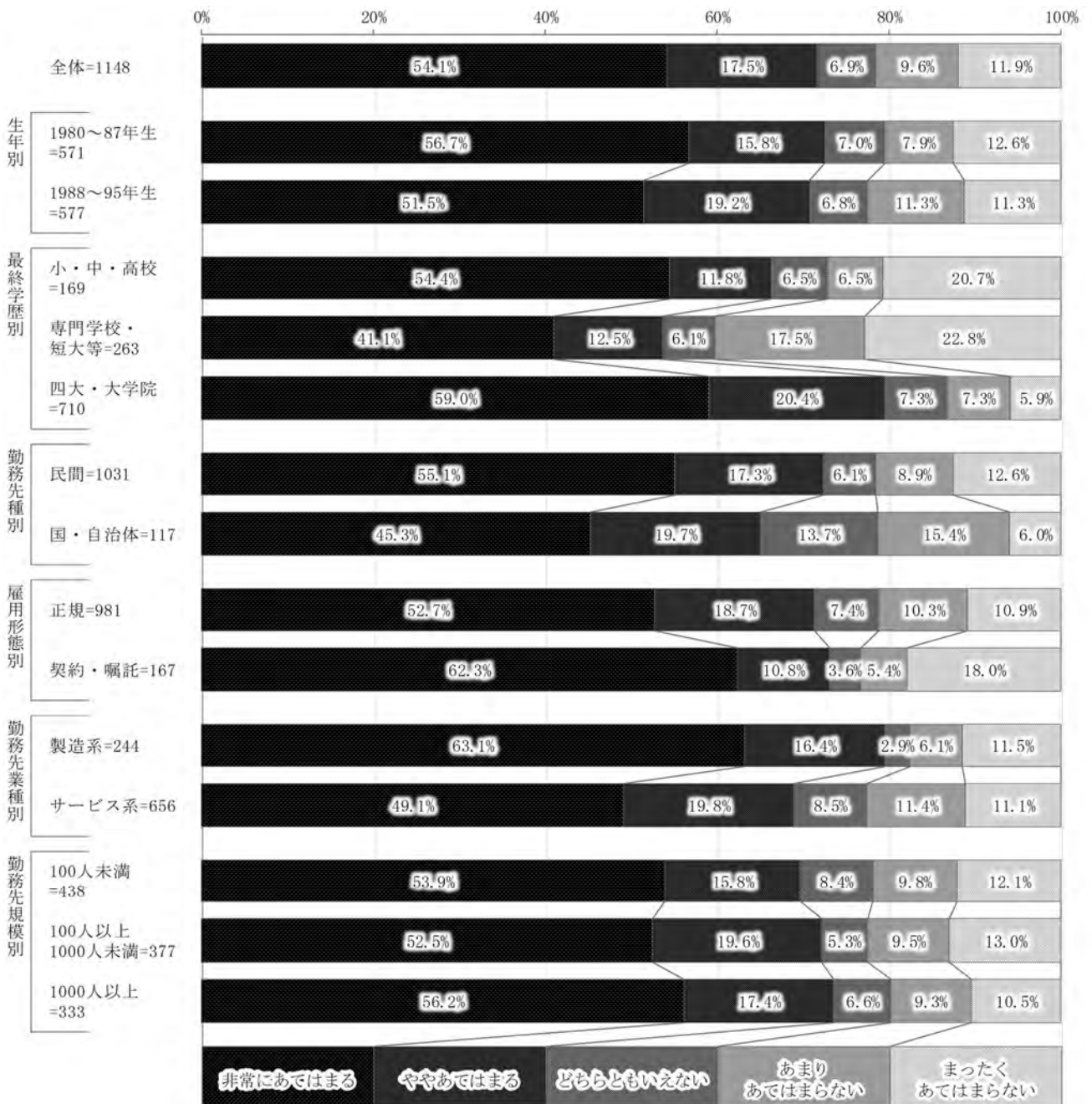
図表 1.労働環境[単一選択]

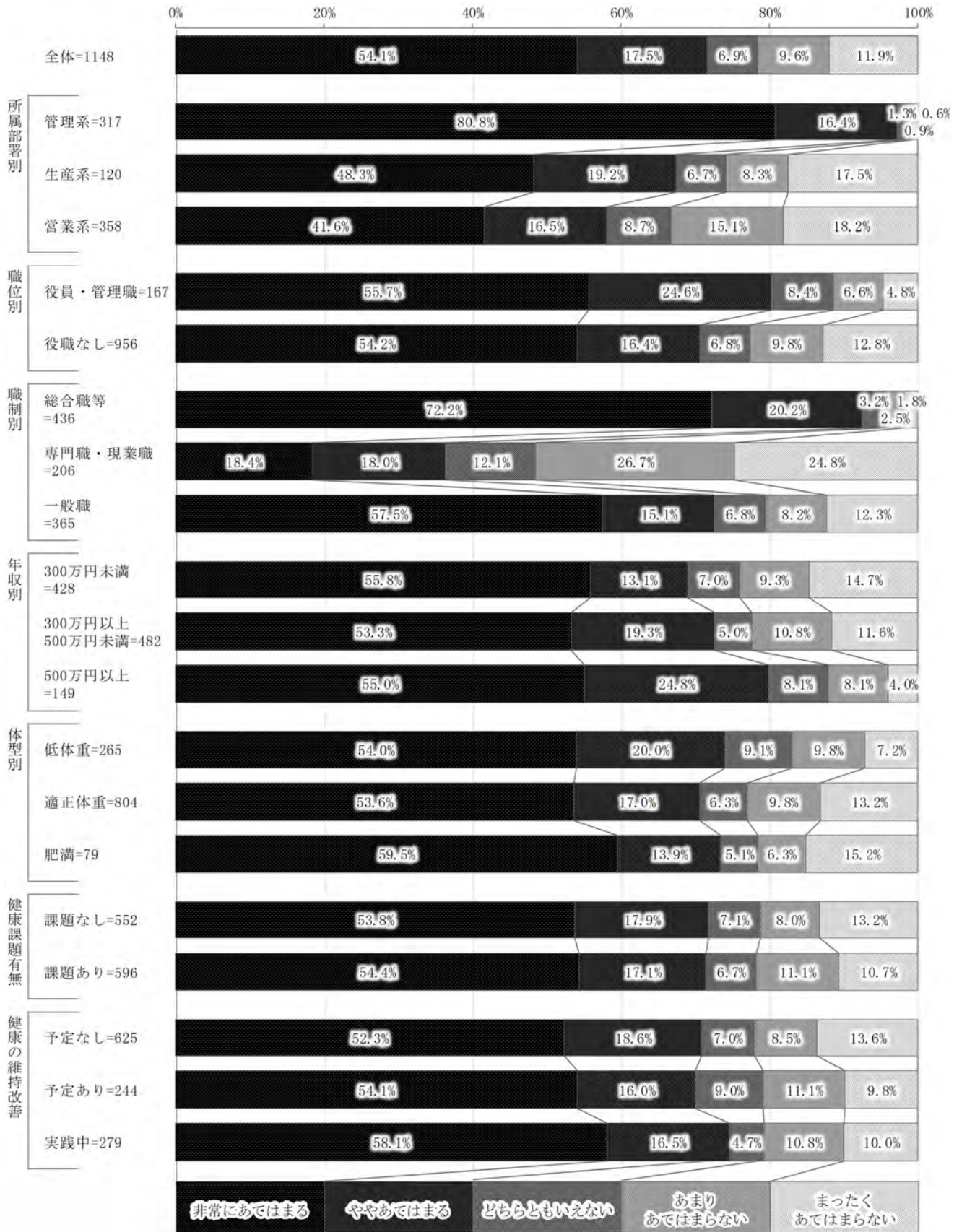


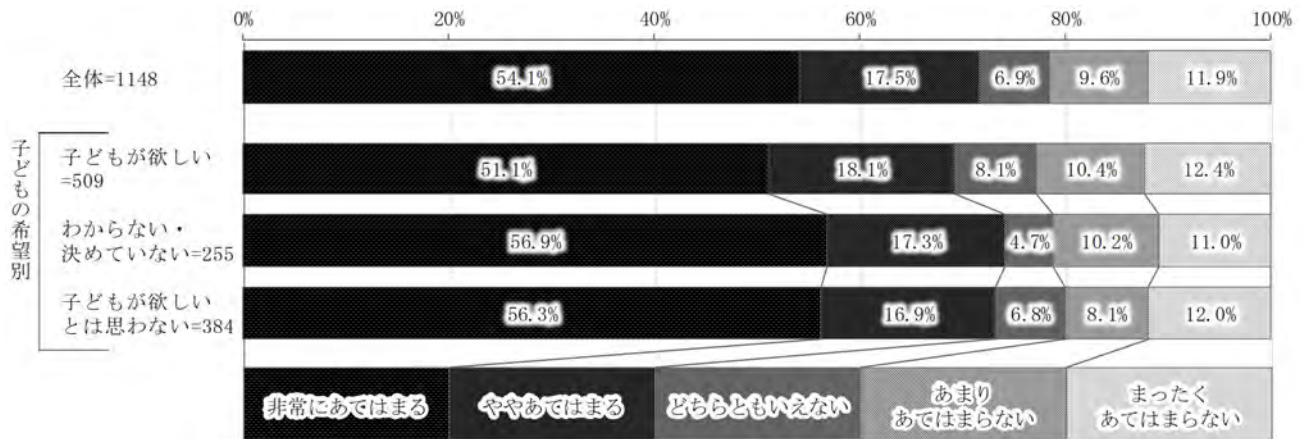
1.1. 労働環境（デスクワークが多い）

- デスクワークが多いか尋ねたところ、全体では「非常にあてはまる」が 54.1%と最も多く、次に多い「ややあてはまる」を合わせると 7 割を超え、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の計は約 2 割に止まった。
- 「非常にあてはまる」「ややあてはまる」の計は、最終学歴別で四大・大学院の回答者、小・中・高校の回答者、専門学校・短大等の回答者の順、勤務先業種別で製造系の回答者、所属部署別で管理系の回答者、職制別で総合職等の回答者、一般職の回答者、専門職・現業職の回答者の順、年収別で 500 万円以上の回答者、300 万円以上 500 万円未満の回答者、300 万円未満の回答者の順で多い。

図表 1.1.労働環境（デスクワークが多い）【単一選択】



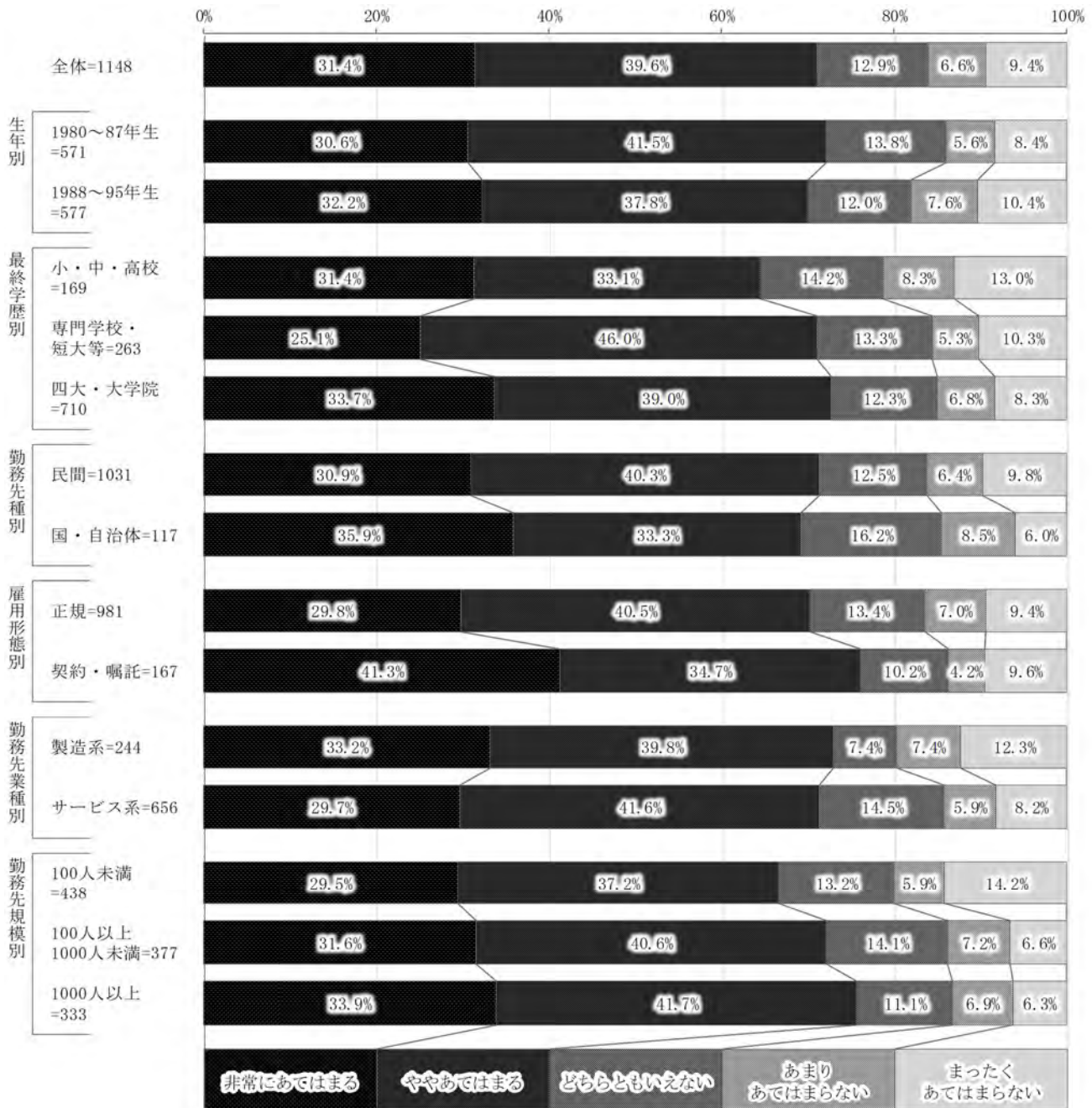


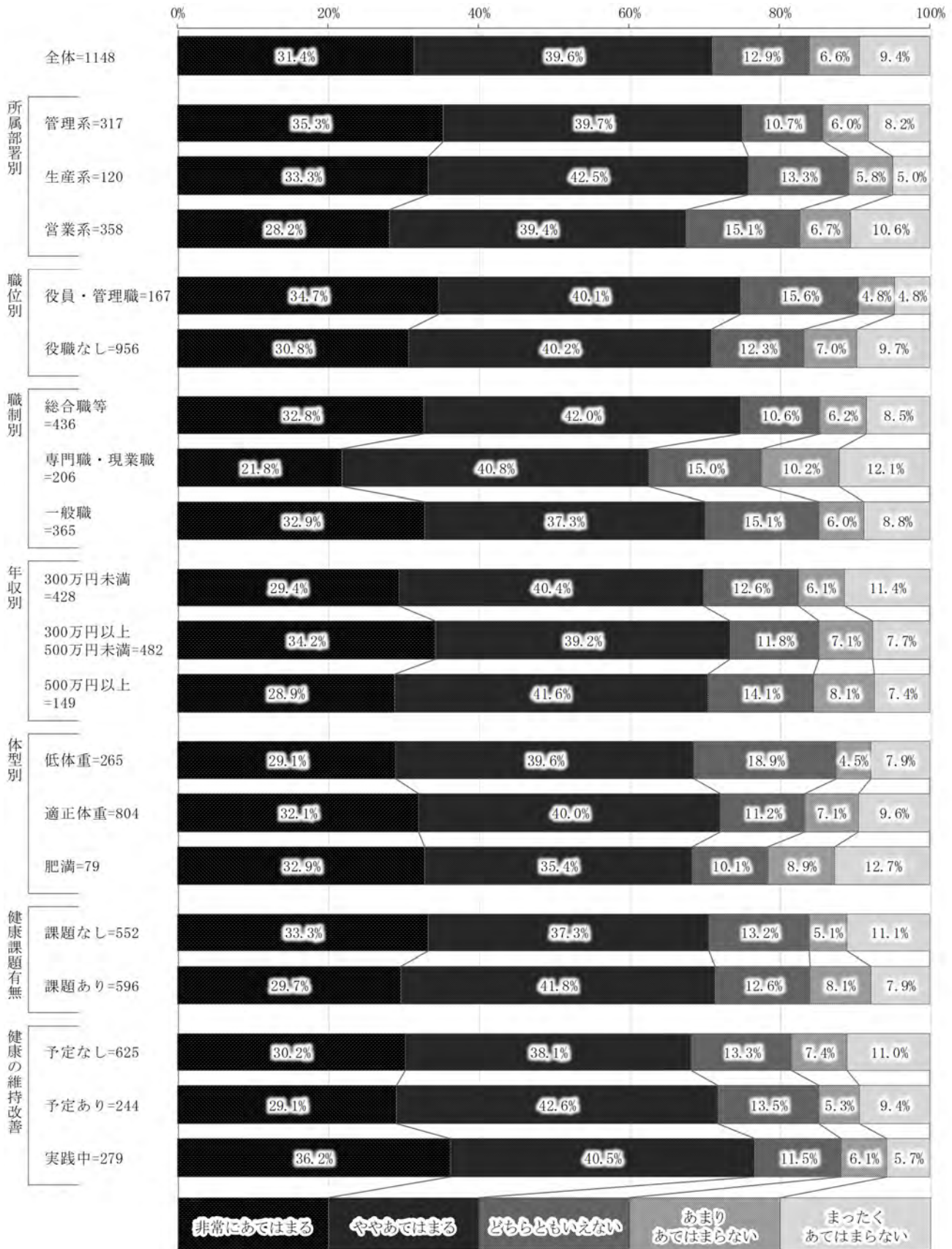


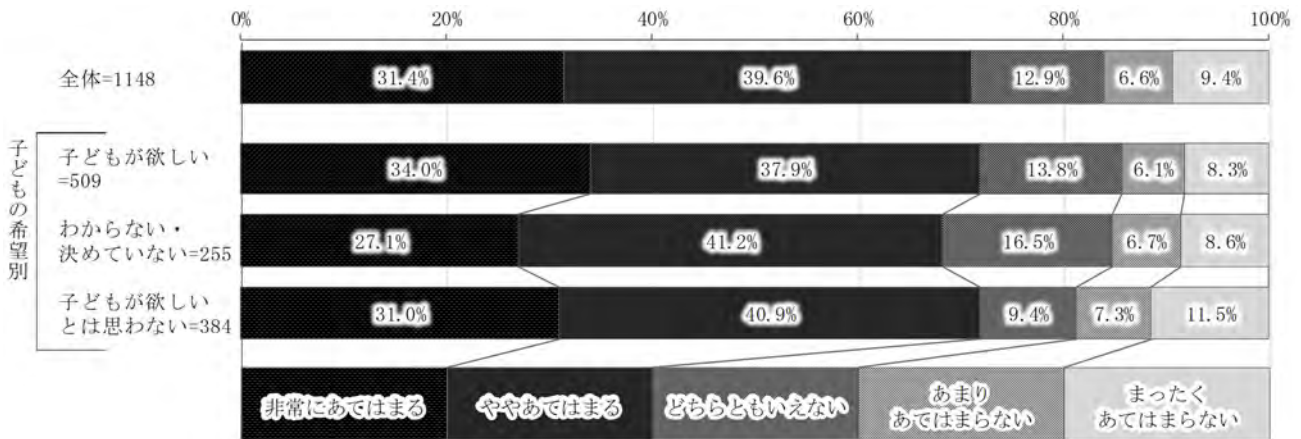
1.2. 労働環境（希望したときに有給休暇を取得することができる）

- 希望したときに有給休暇を取得することができるか尋ねたところ、全体では「ややあてはまる」が39.6%と最も多く、次に多い「非常にあてはまる」を合わせると7割を超え、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の計は2割に満たなかった。
- 「非常にあてはまる」は、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、職制別で一般職の回答者、総合職等の回答者、専門職・現業職の回答者の順で多い。

図表 1.2.労働環境（希望したときに有給休暇を取得することができる）[単一選択]



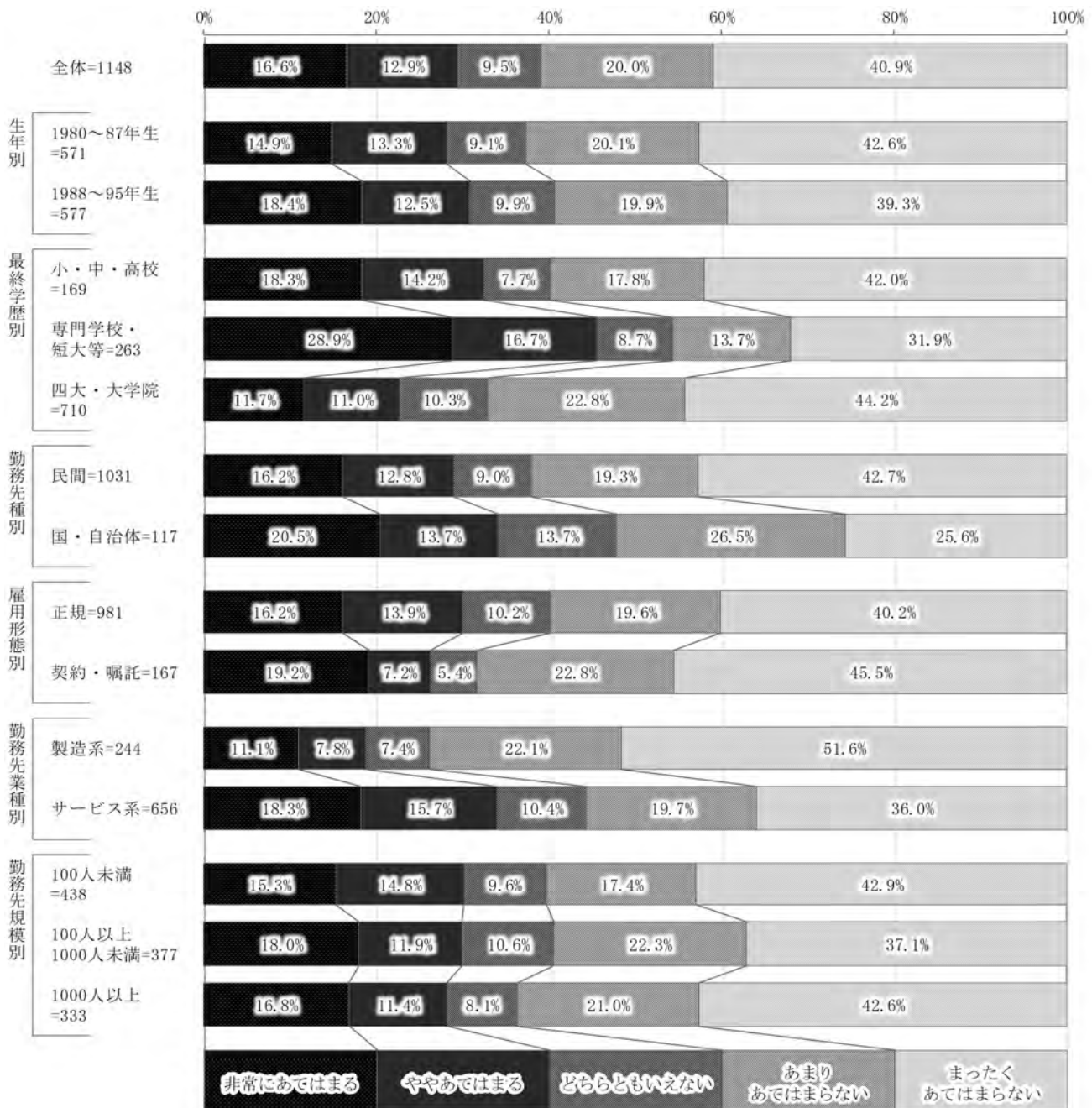


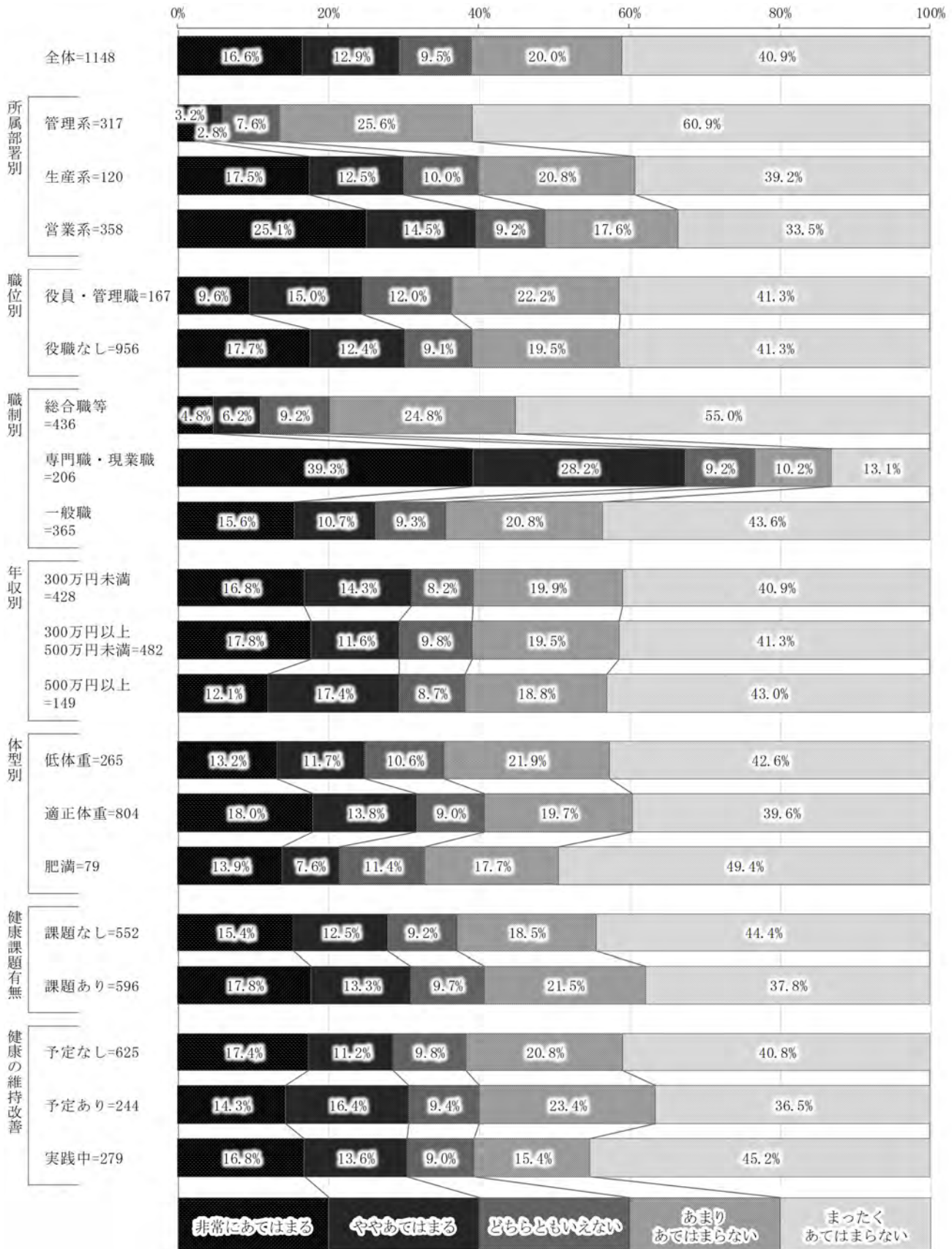


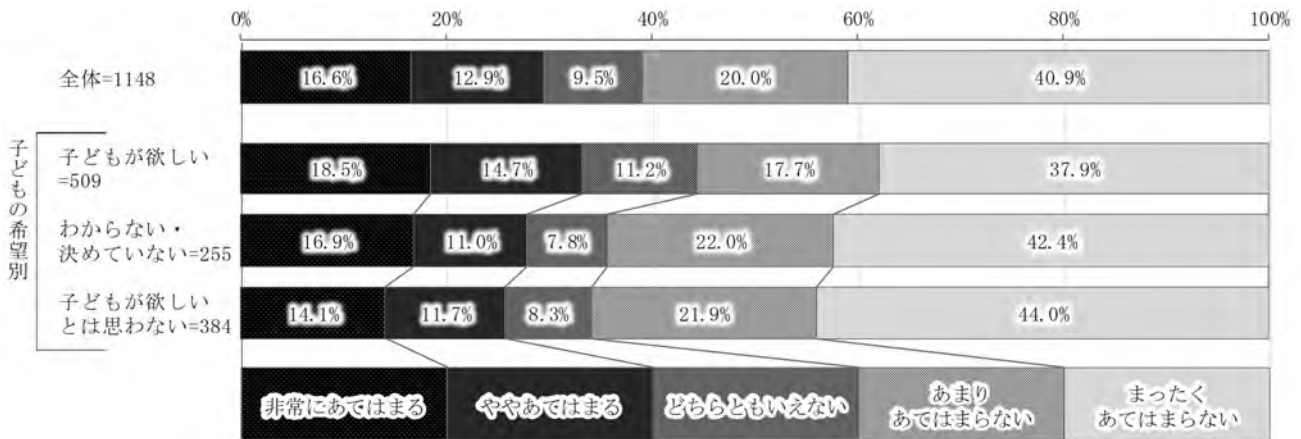
1.3. 労働環境（立ち仕事が多い）

- 立ち仕事が多いか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が40.9%と最も多く、次に多い「あまりあてはまらない」を合わせると6割を超え、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は3割に満たなかった。
- 「非常にあてはまる」「ややあてはまる」の計は、最終学歴別で専門学校・短大等の回答者、小・中・高校の回答者、四大・大学院の回答者の順、勤務先業種別でサービス系の回答者、所属部署別で営業系の回答者、生産系の回答者、管理系の回答者の順、職制別で専門職・現業職の回答者、一般職の回答者、総合職等の回答者の順で多い。

図表 1.3.労働環境（立ち仕事が多い）【単一選択】



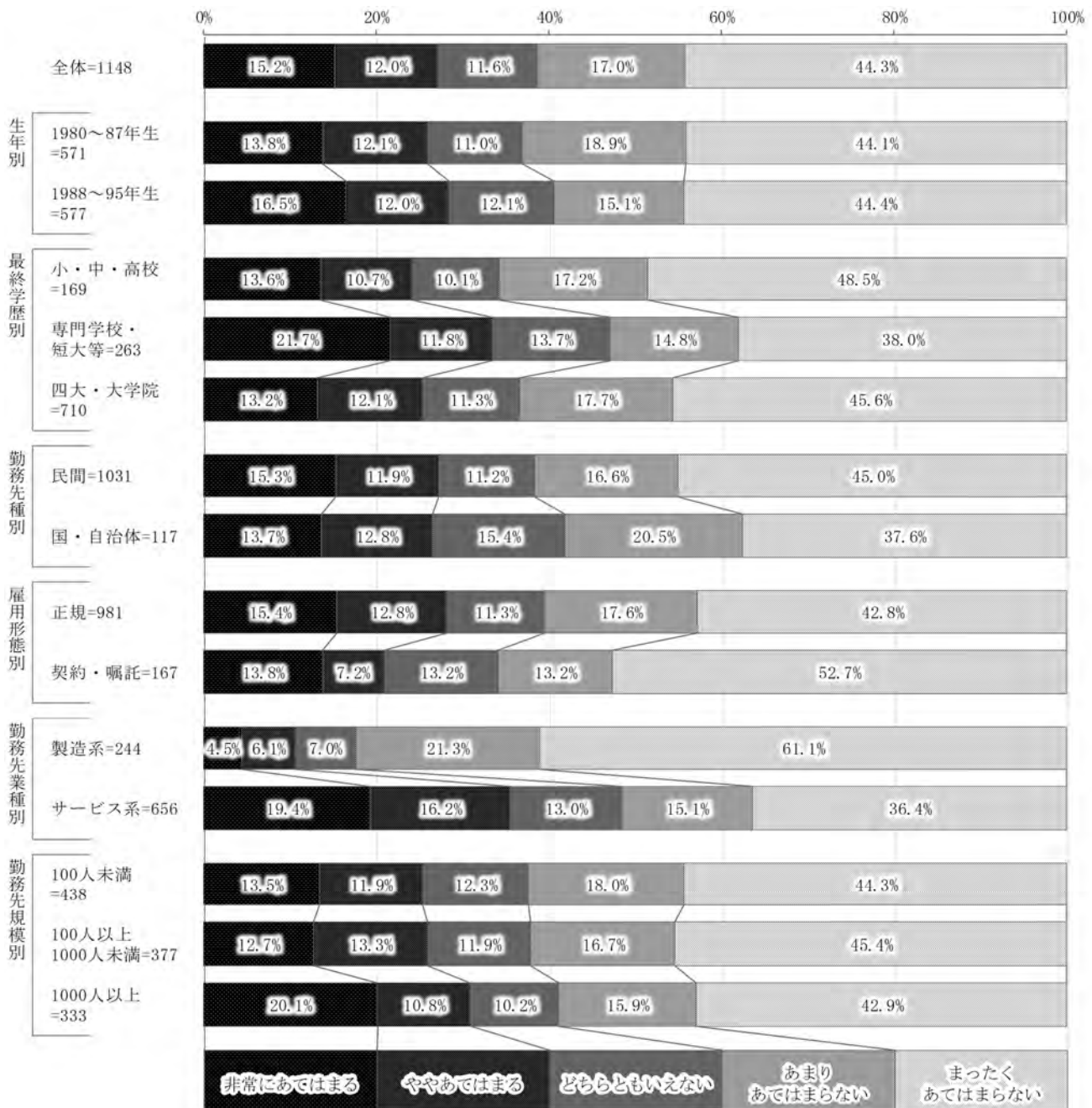


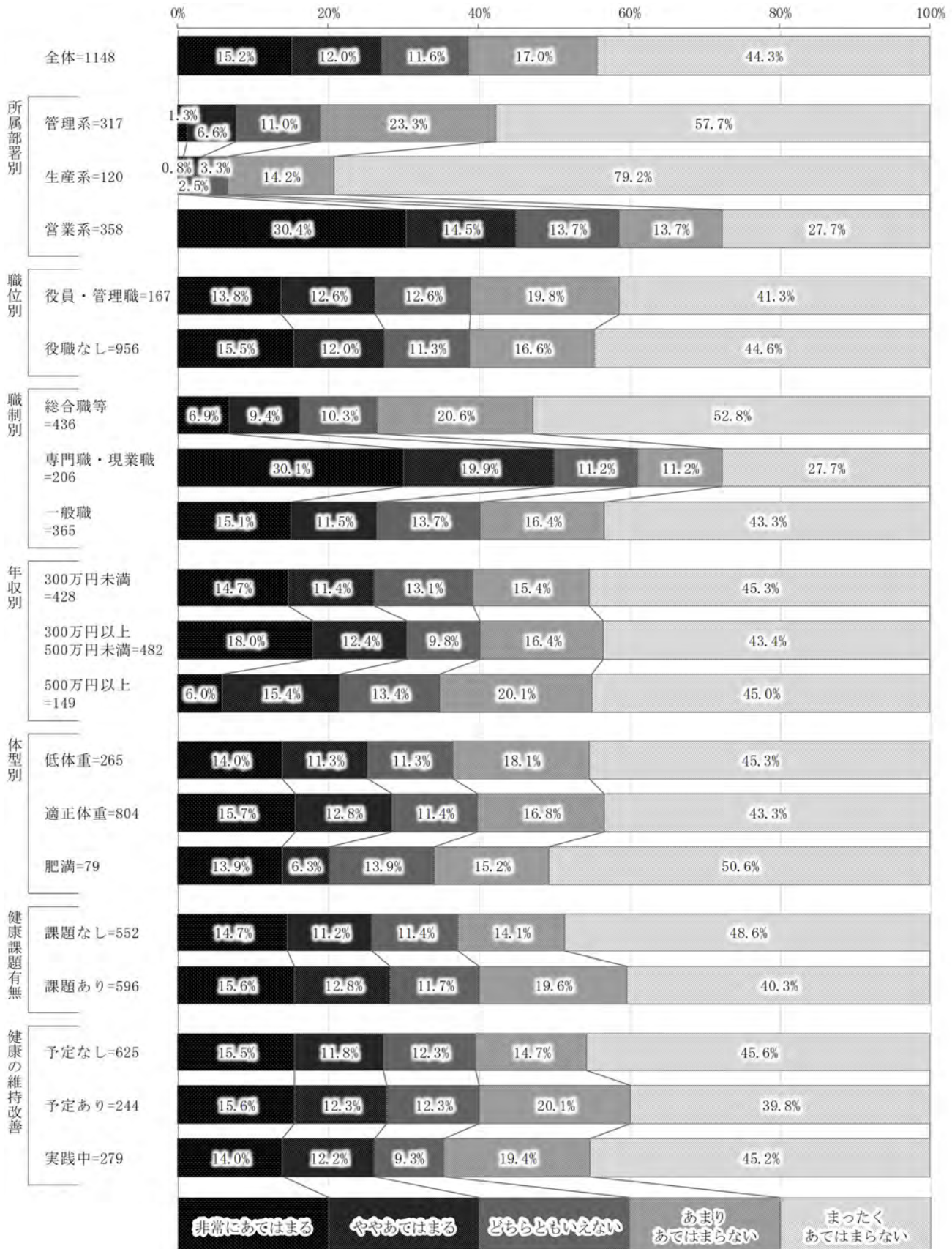


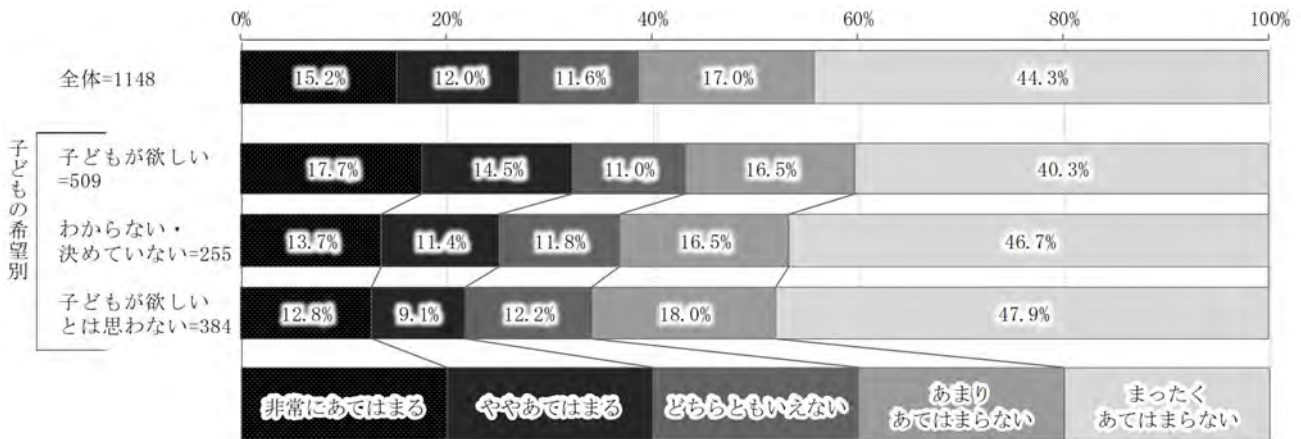
1.4. 労働環境（接客を行う時間が長い）

- 接客を行う時間が長いか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が44.3%と最も多く、次に多い「あまりあてはまらない」を合わせると6割を超え、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は3割に満たなかった。
- 「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」の計は、最終学歴別で小・中・高校の回答者、四大・大学院の回答者、専門学校・短大等の回答者の順、勤務先業種別で製造系の回答者、所属部署別で生産系の回答者、管理系の回答者、営業系の回答者の順、職制別で総合職等の回答者、一般職の回答者、専門職・現業職の回答者の順で多い。

図表 1.4.労働環境（接客を行う時間が長い）【単一選択】



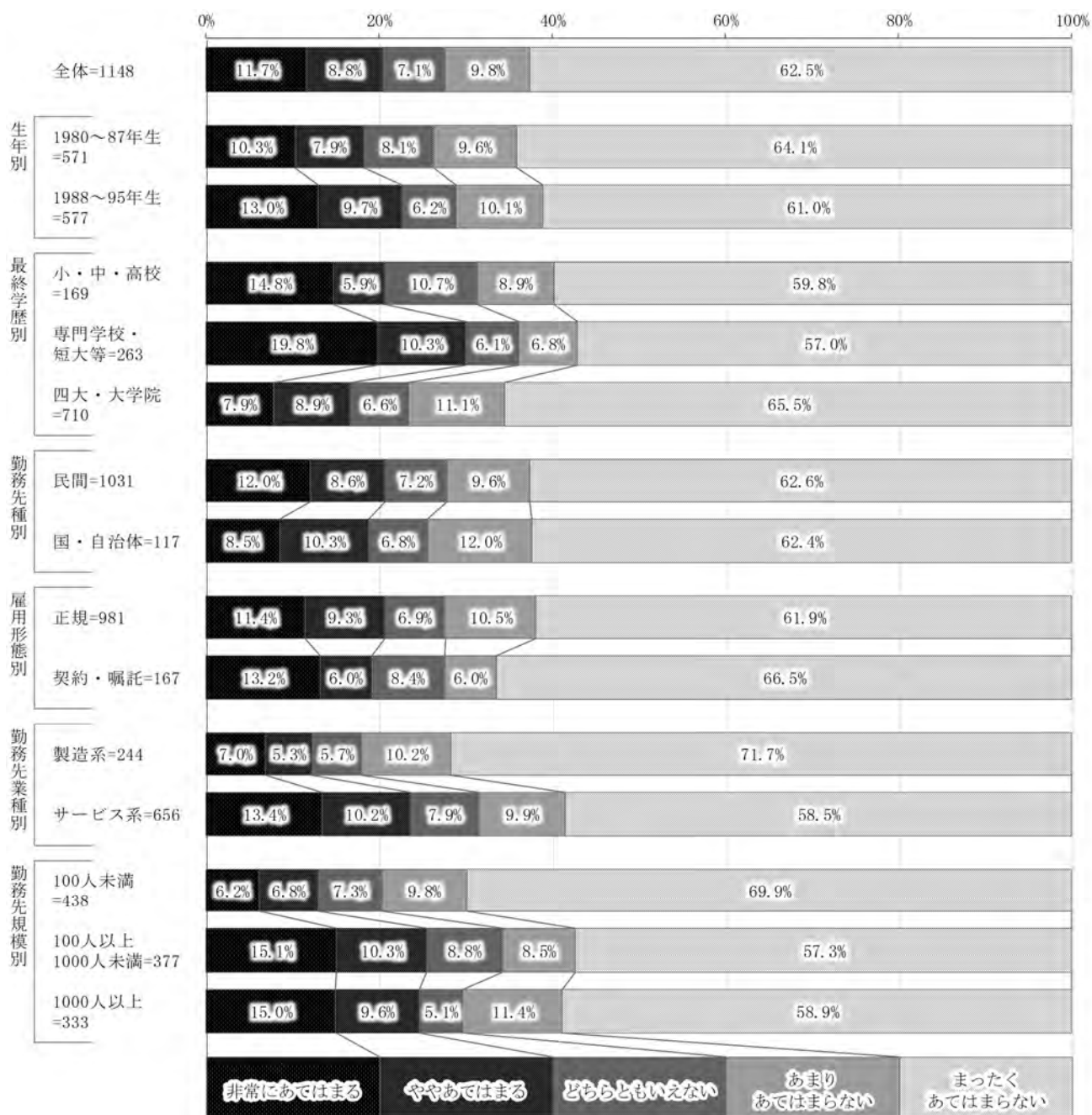


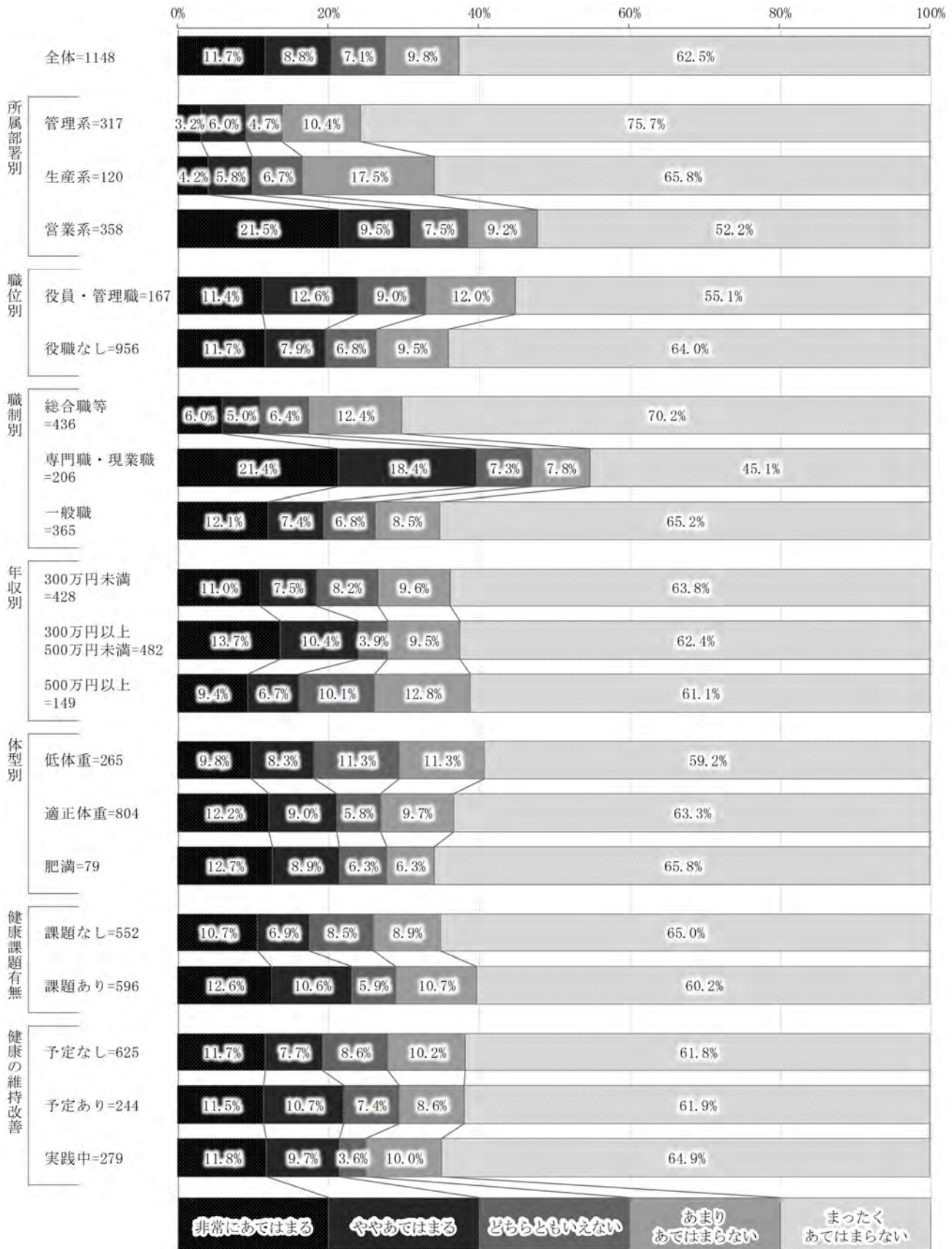


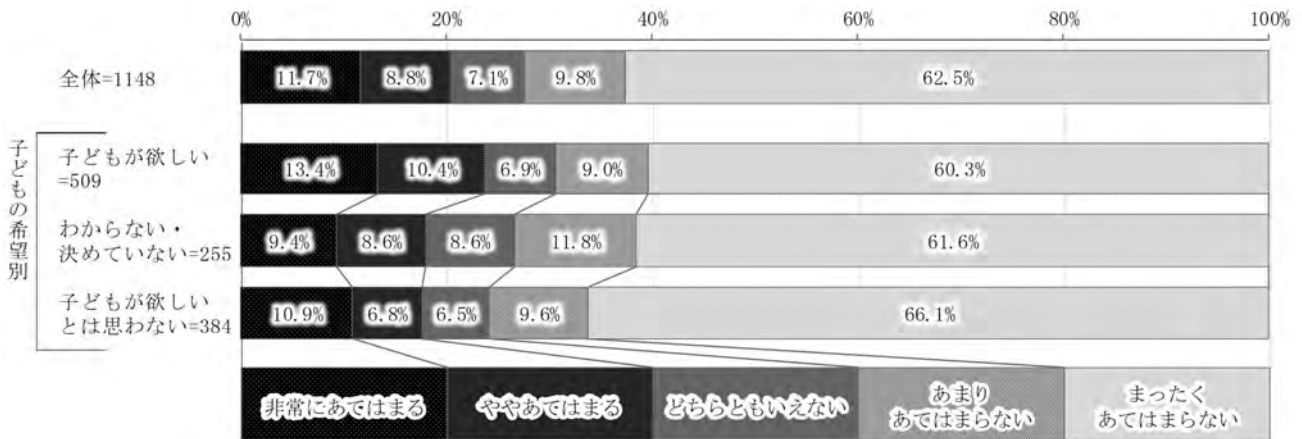
1.5. 労働環境（働く日や曜日が固定されていない）

- 働く日や曜日が固定されていないか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が62.5%と最も多く、次に多い「あまりあてはまらない」を合わせると7割を超え、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は約2割に止まった。
- 「非常にあてはまる」「ややあてはまる」の計は、最終学歴別で専門学校・短大等の回答者、小・中・高校の回答者、四大・大学院の回答者の順、勤務先業種別でサービス系の回答者、勤務先規模別で100人以上1000人未満の回答者、1000人以上の回答者、100人未満の回答者の順、所属部署別で営業系の回答者、職制別で専門職・現業職の回答者が多い。

図表 1.5.労働環境（働く日や曜日が固定されていない）【単一選択】



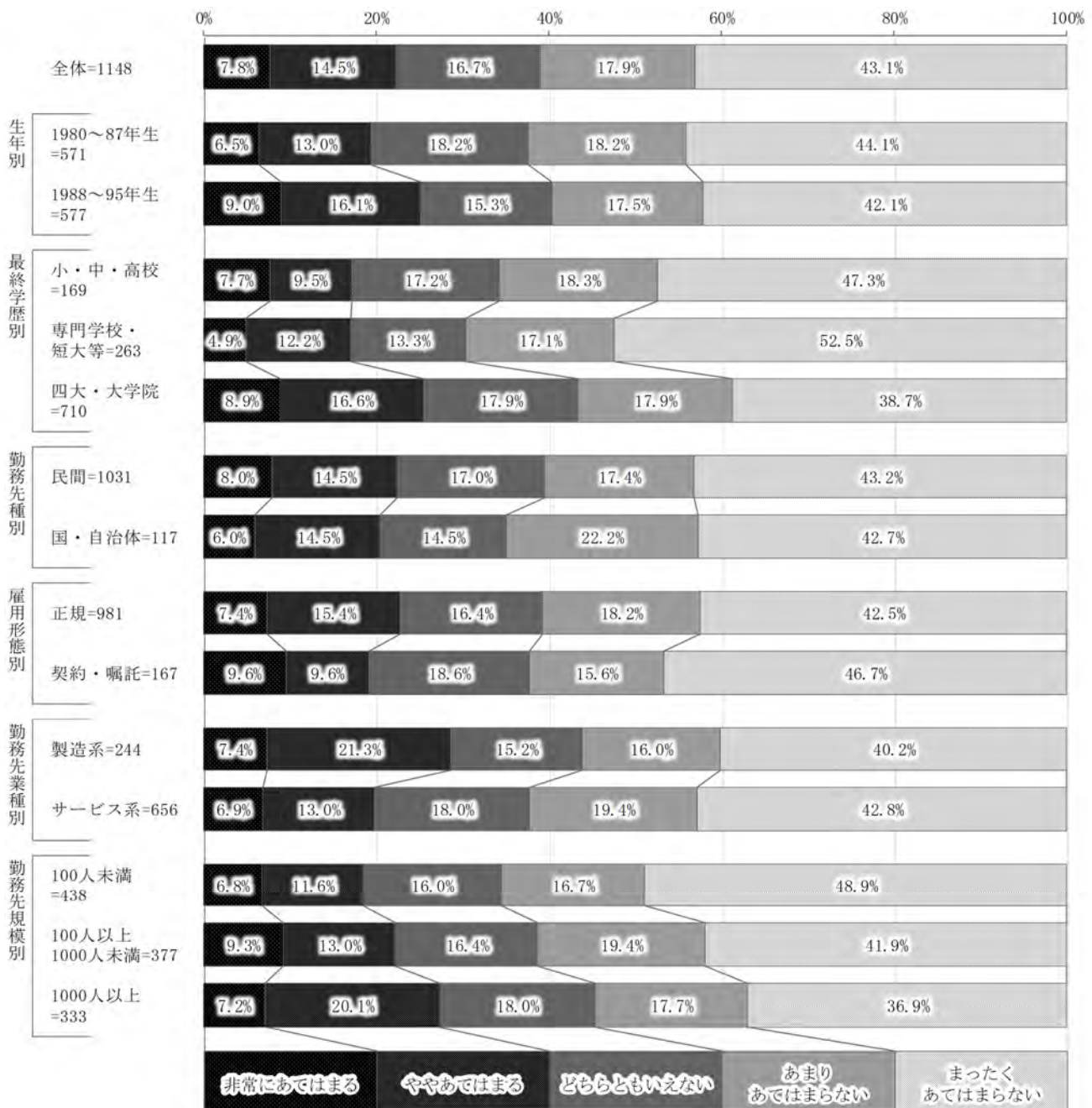


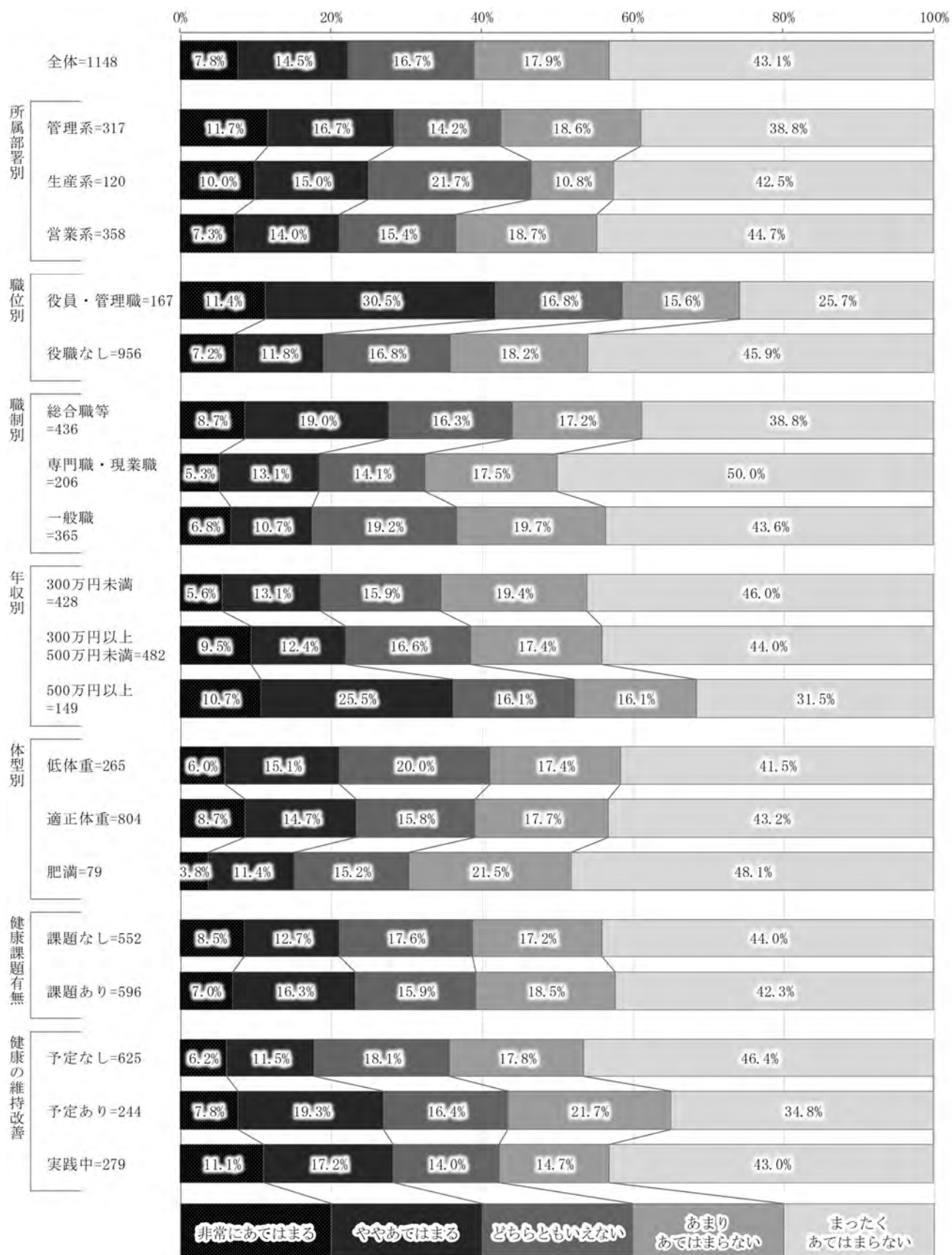


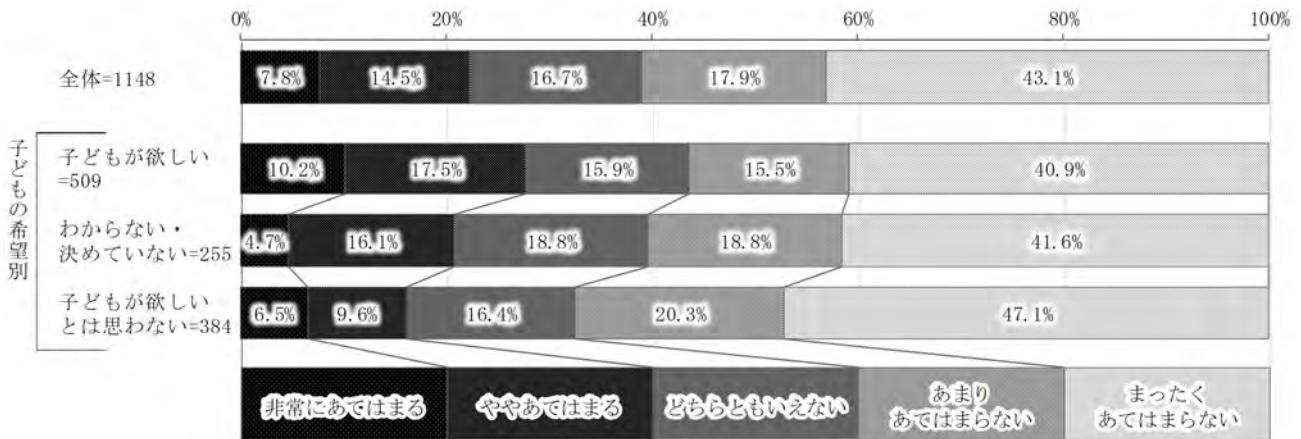
1.6. 労働環境（出社や退社時間を柔軟に選択できる）

- ・出社や退社時間を柔軟に選択できるか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が43.1%と最も多く、次に多い「あまりあてはまらない」を合わせると6割を超え、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は約2割に止まった。
- ・「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」の計は、最終学歴別で専門学校・短大等の回答者、小・中・高校の回答者、四大・大学院の回答者の順、勤務先規模別で100人未満の回答者、100人以上1000人未満の回答者、1000人以上の回答者の順、所属部署別で営業系の回答者、管理系の回答者、生産系の回答者の順、職位別で役職なしの回答者、職制別で専門職・現業職の回答者、一般職の回答者、総合職等の回答者の順、年収別で300万円未満の回答者、300万円以上500万円未満の回答者、500万円以上の回答者の順が多い。

図表 1.6.労働環境（出社や退社時間を柔軟に選択できる）[単一選択]



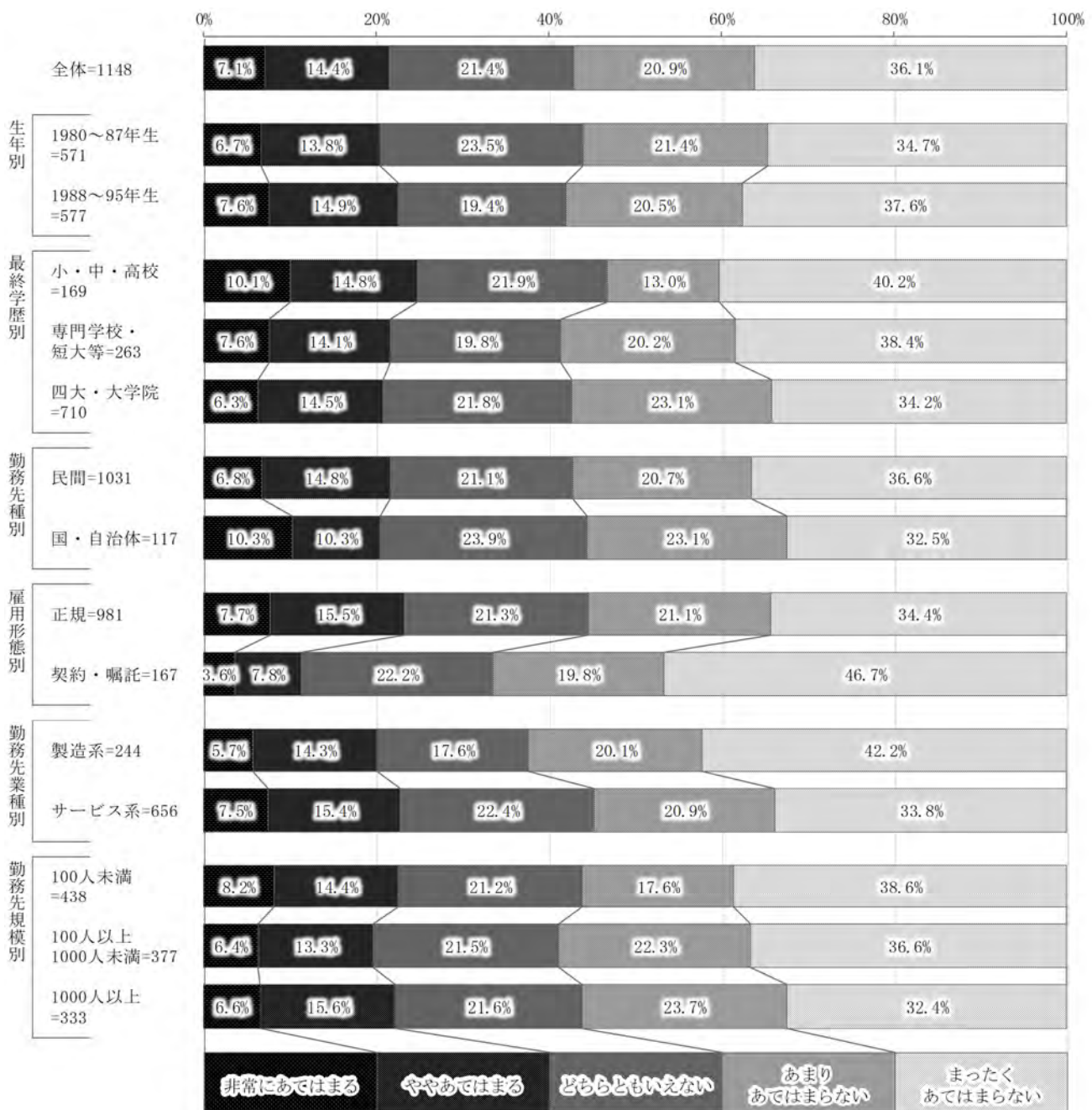


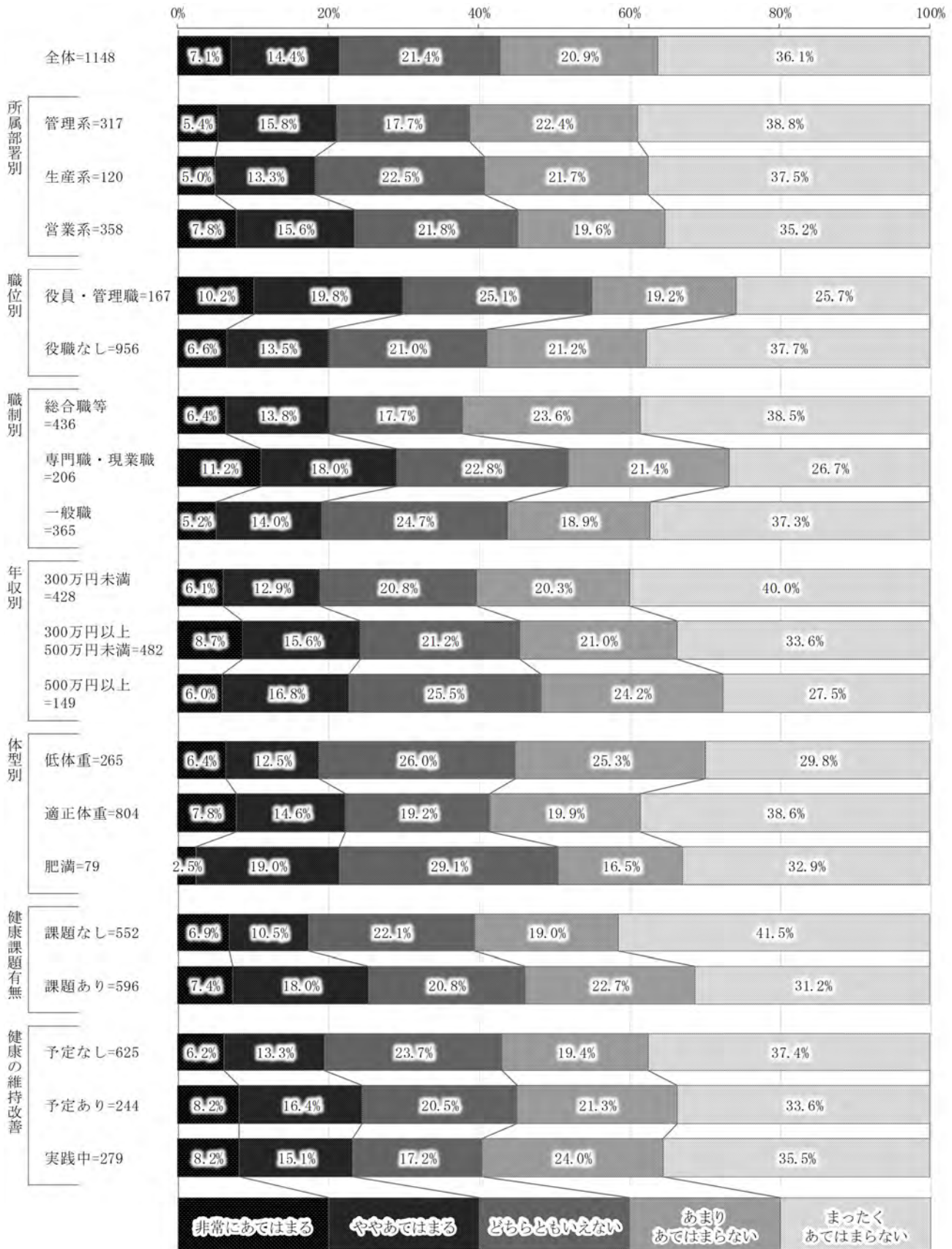


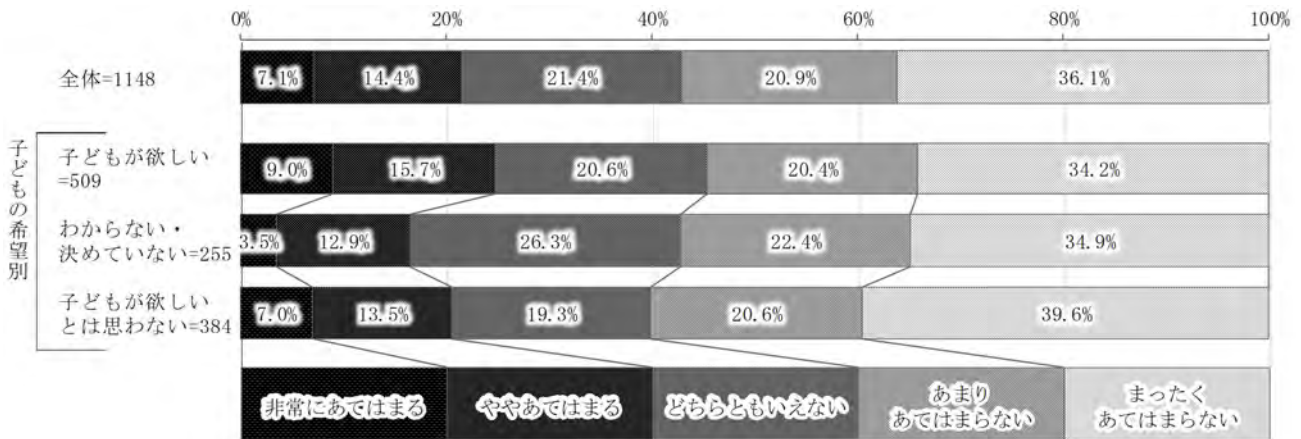
1.7. 労働環境（自分が出社しないと仕事が回らない日が多い）

- ・自分が出社しないと仕事が回らない日が多いか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が36.1%と最も多く、「あまりあてはまらない」を合わせると約6割に及び、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は約2割に止まった。
- ・「まったくあてはまらない」は、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、職位別で役職なしの回答者、職制別で総合職等の回答者、一般職の回答者、専門職・現業職の回答者の順、健康課題有無で課題なしの回答者が多い。

図表 1.7.労働環境（自分が出社しないと仕事が回らない日が多い）【単一選択】



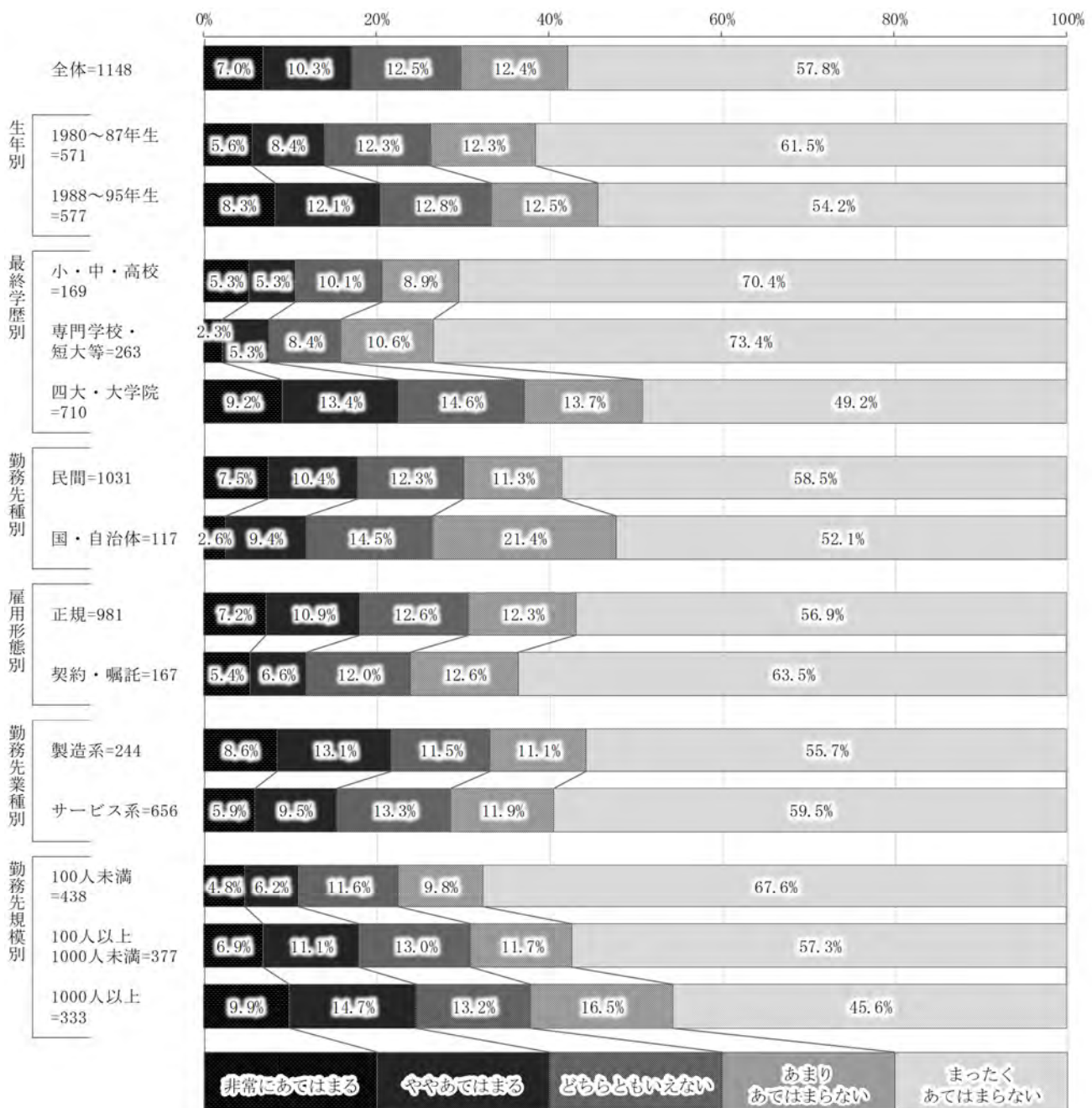


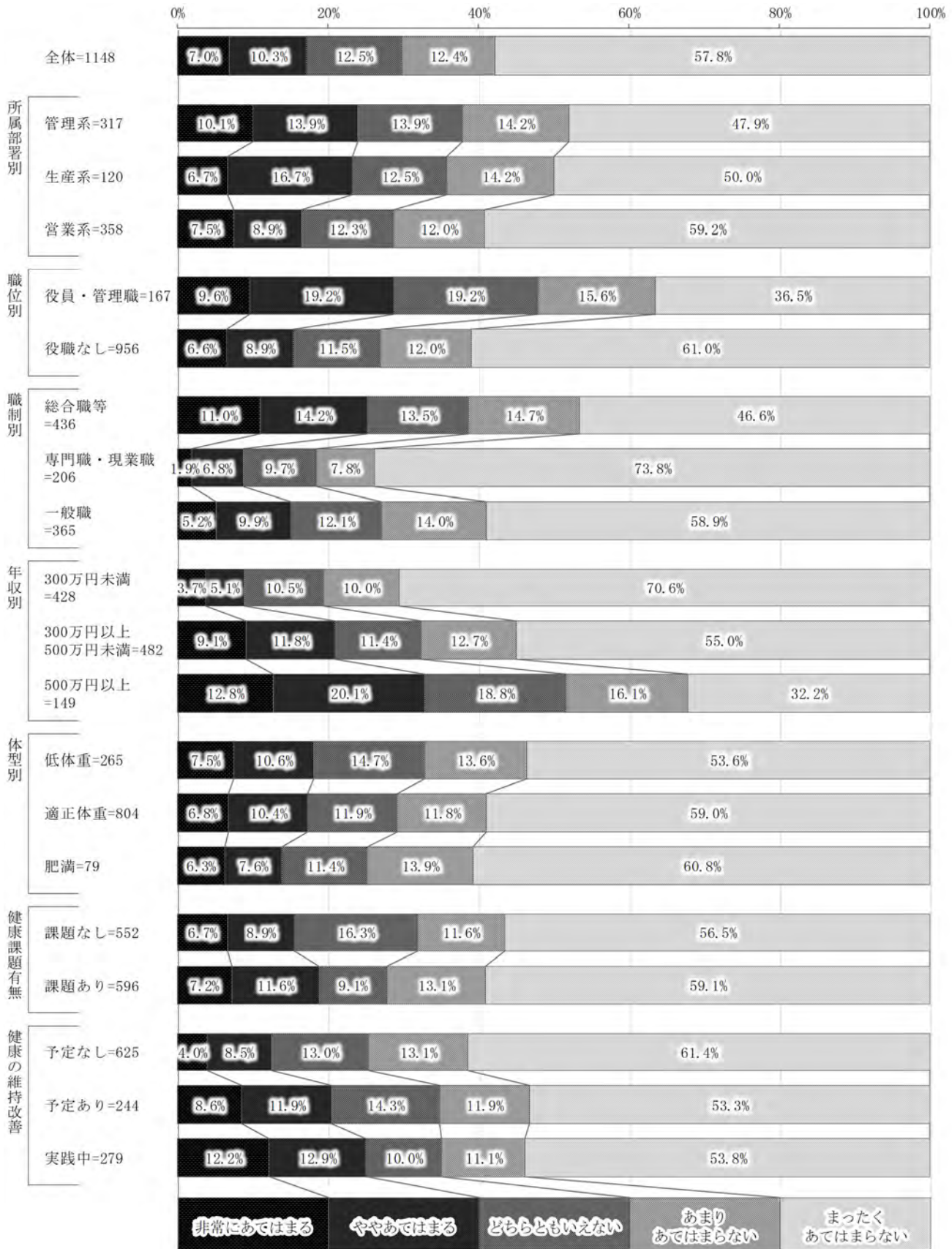


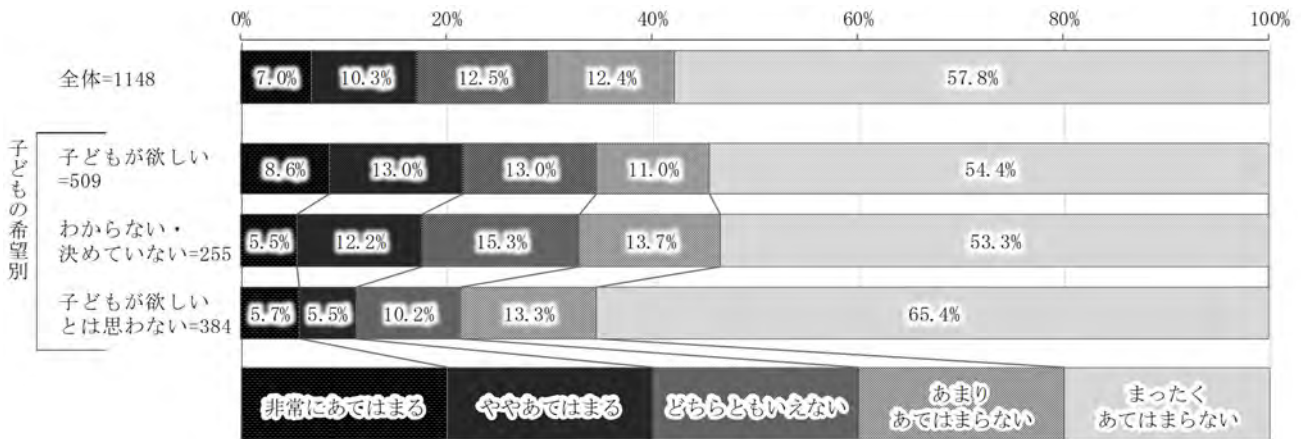
1.8. 労働環境（オフィス以外で仕事をする事ができる）

- オフィス以外で仕事をする事ができるか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が57.8%と最も多く、「あまりあてはまらない」を合わせると7割を超え、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は2割に満たなかった。
- 「まったくあてはまらない」は、最終学歴別で専門学校・短大等の回答者、小・中・高校の回答者、四大・大学院の回答者の順、勤務先規模別で100人未満の回答者、100人以上1000人未満の回答者、1000人以上の回答者の順、職位別で役職なしの回答者、職制別で専門職・現業職の回答者、一般職の回答者、総合職等の回答者の順、年収別で300万円未満の回答者、300万円以上500万円未満の回答者、500万円以上の回答者の順、子どもの希望別で子どもが欲しいとは思わない回答者が多い。

図表 1.8.労働環境（オフィス以外で仕事をする事ができる）【単一選択】



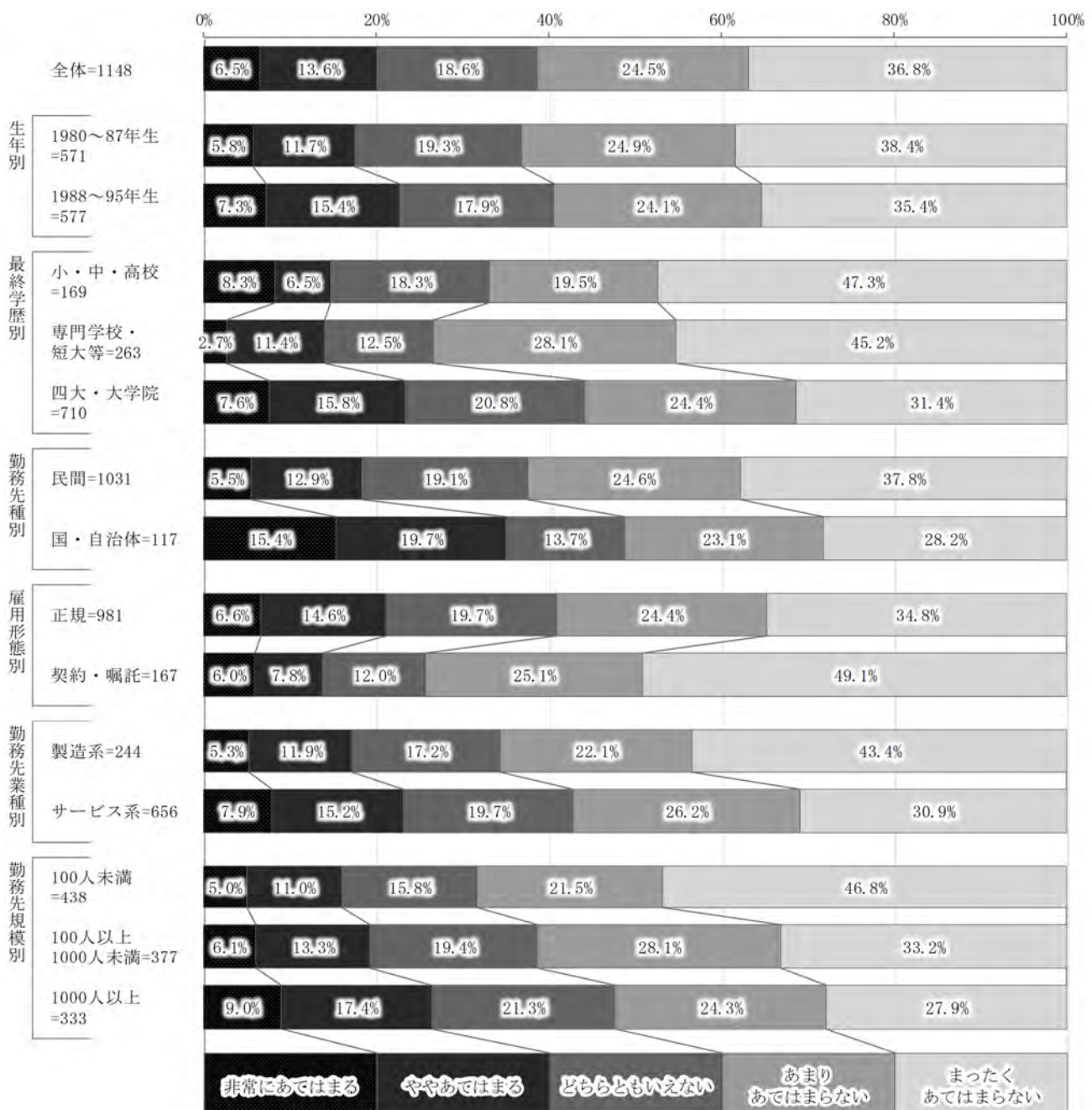


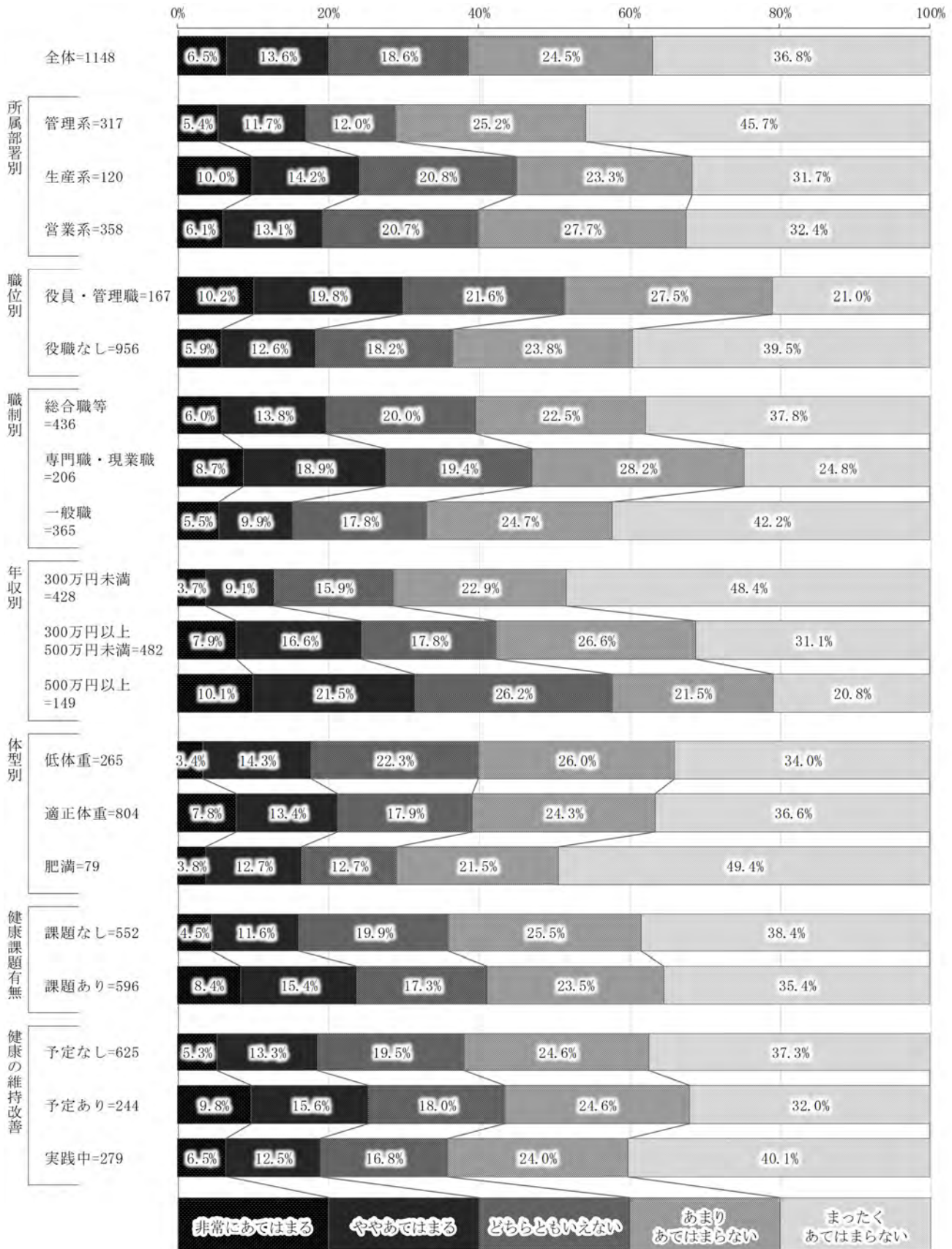


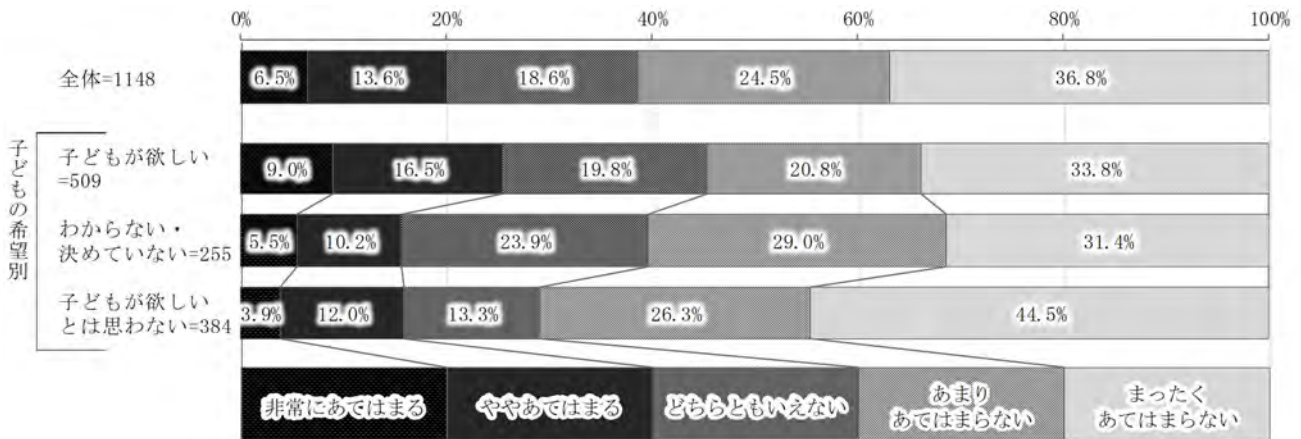
1.9. 労働環境（残業時間が多い）

- ・残業時間が多いか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が36.8%と最も多く、次に多い「あまりあてはまらない」を合わせると6割を超え、「非常にあてはまる」「ややあてはまる」の計は2割に止まった。
- ・「まったくあてはまらない」は、最終学歴別で小・中・高校の回答者、専門学校・短大等の回答者、四大・大学院の回答者の順、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、勤務先業種別で製造系の回答者、勤務先規模別で100人未満の回答者、所属部署別で管理系の回答者、職位別で役職なしの回答者、職制別で一般職の回答者、総合職等の回答者、専門職・現業職の回答者の順、年収別で300万円未満の回答者、300万円以上500万円未満の回答者、500万円以上の回答者の順、体型別で肥満の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しいとは思わない回答者が多い。

図表 1.9.労働環境（残業時間が多い）【単一選択】



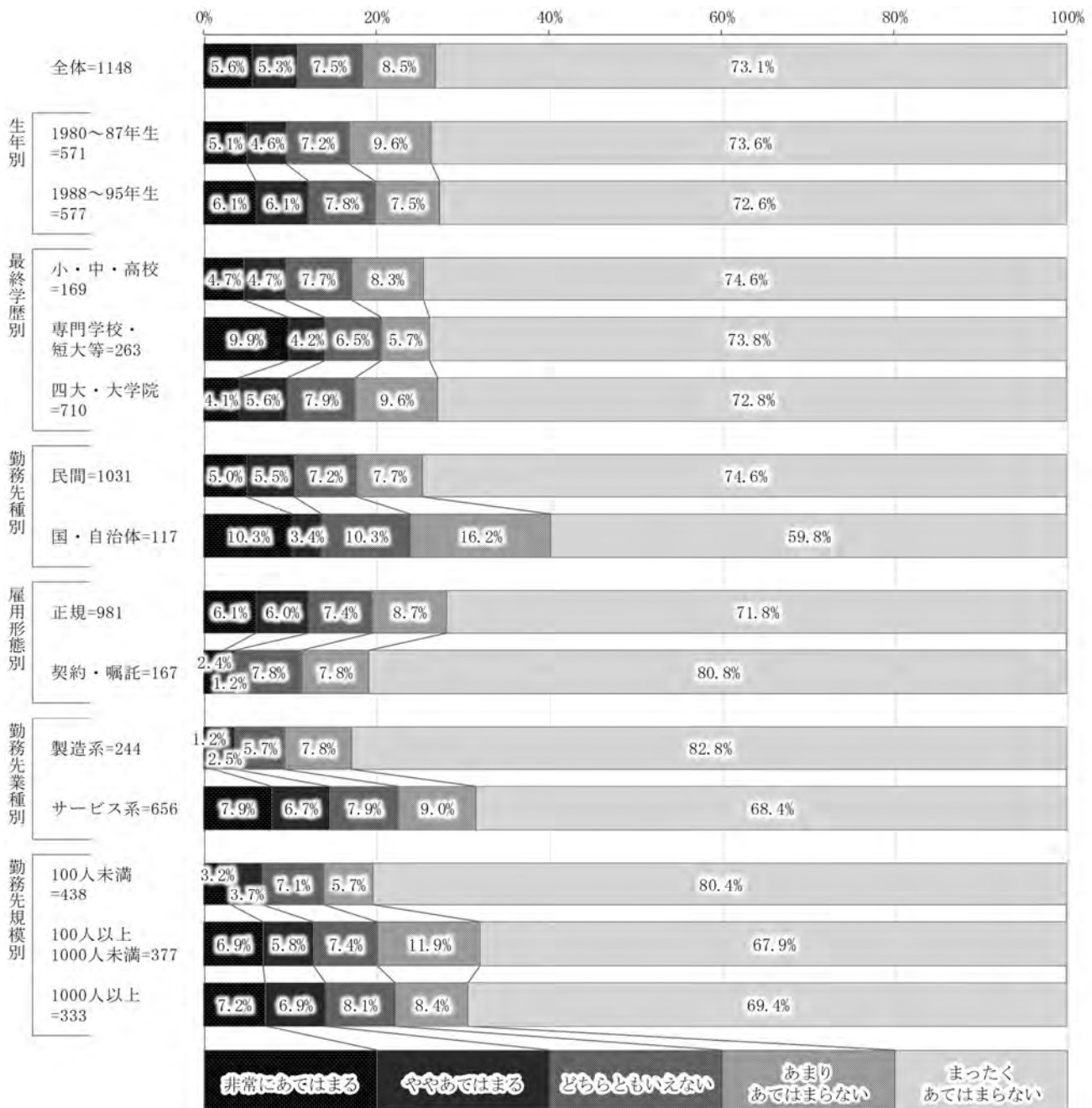


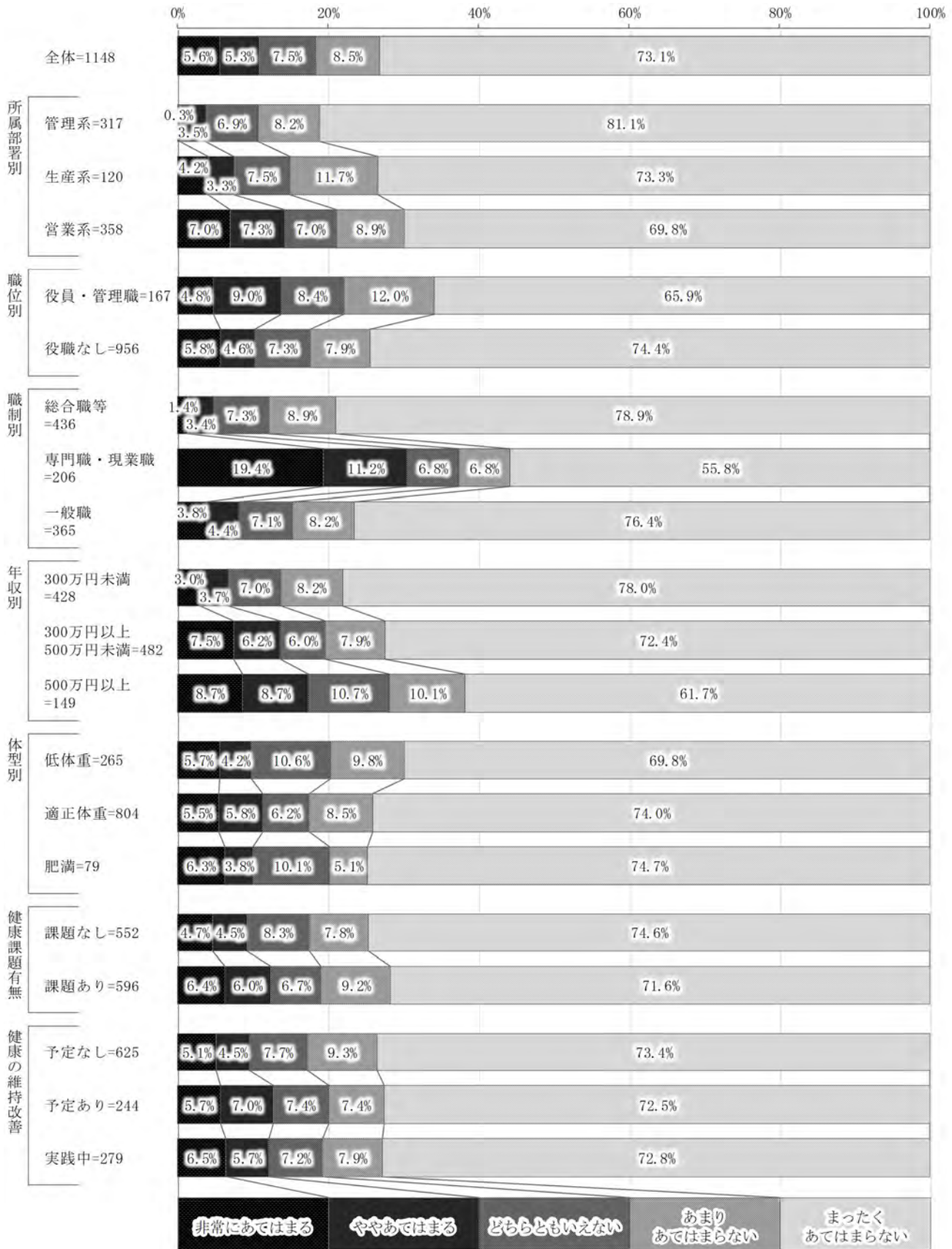


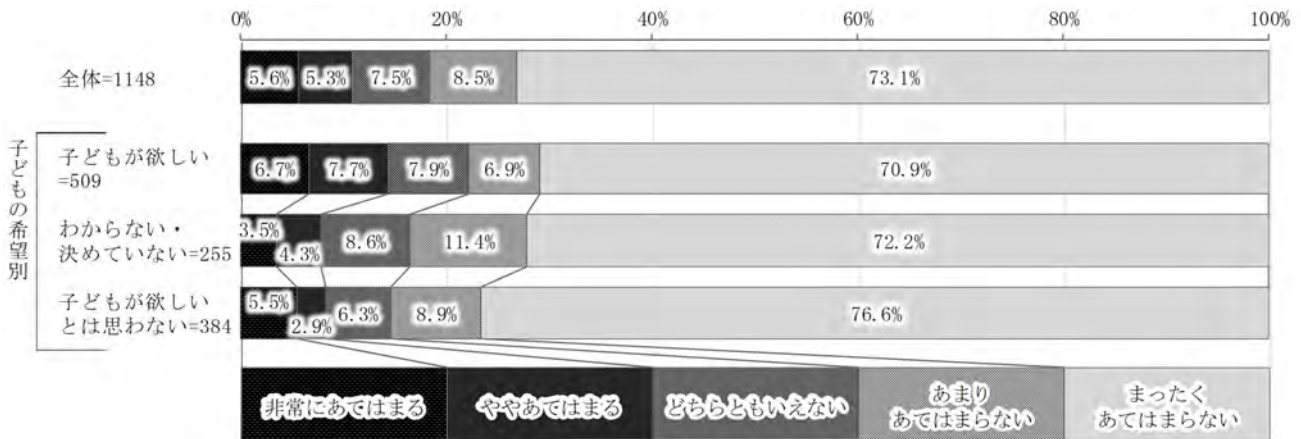
1.10. 労働環境（勤務時間が変則的である）

- 勤務時間が変則的であるか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が73.1%と最も多く、次に多い「あまりあてはまらない」を合わせると8割を超え、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は約1割だった。
- 「まったくあてはまらない」は、勤務先種別で民間の回答者、勤務先業種別で製造系の回答者、勤務先規模別で100人未満の回答者、職制別で総合職等の回答者、一般職の回答者、専門職・現業職の回答者の順、年収別で300万円未満の回答者、300万円以上500万円未満の回答者、500万円以上の回答者の順が多い。

図表 1.10.労働環境（勤務時間が変則的である）[単一選択]



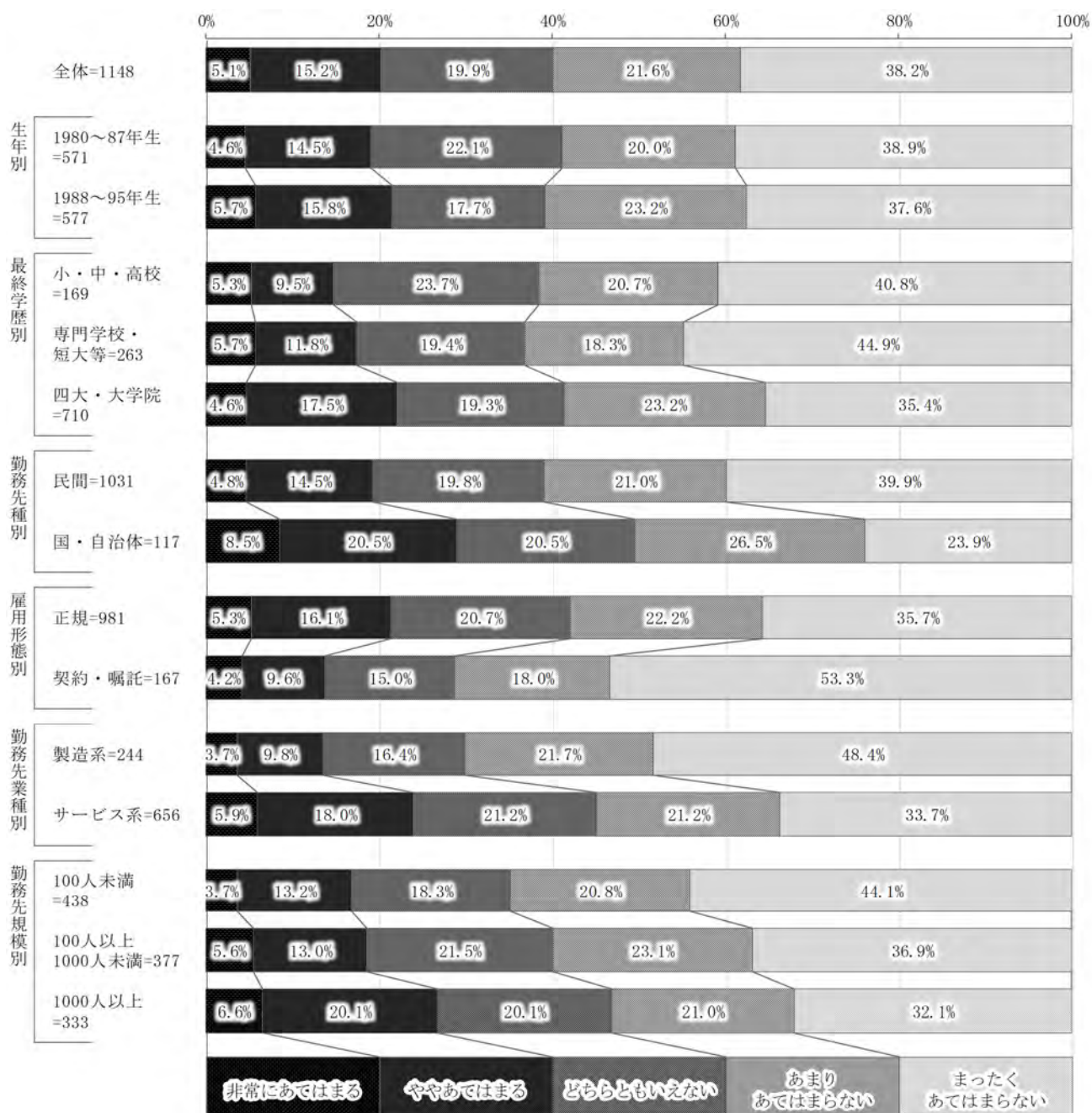


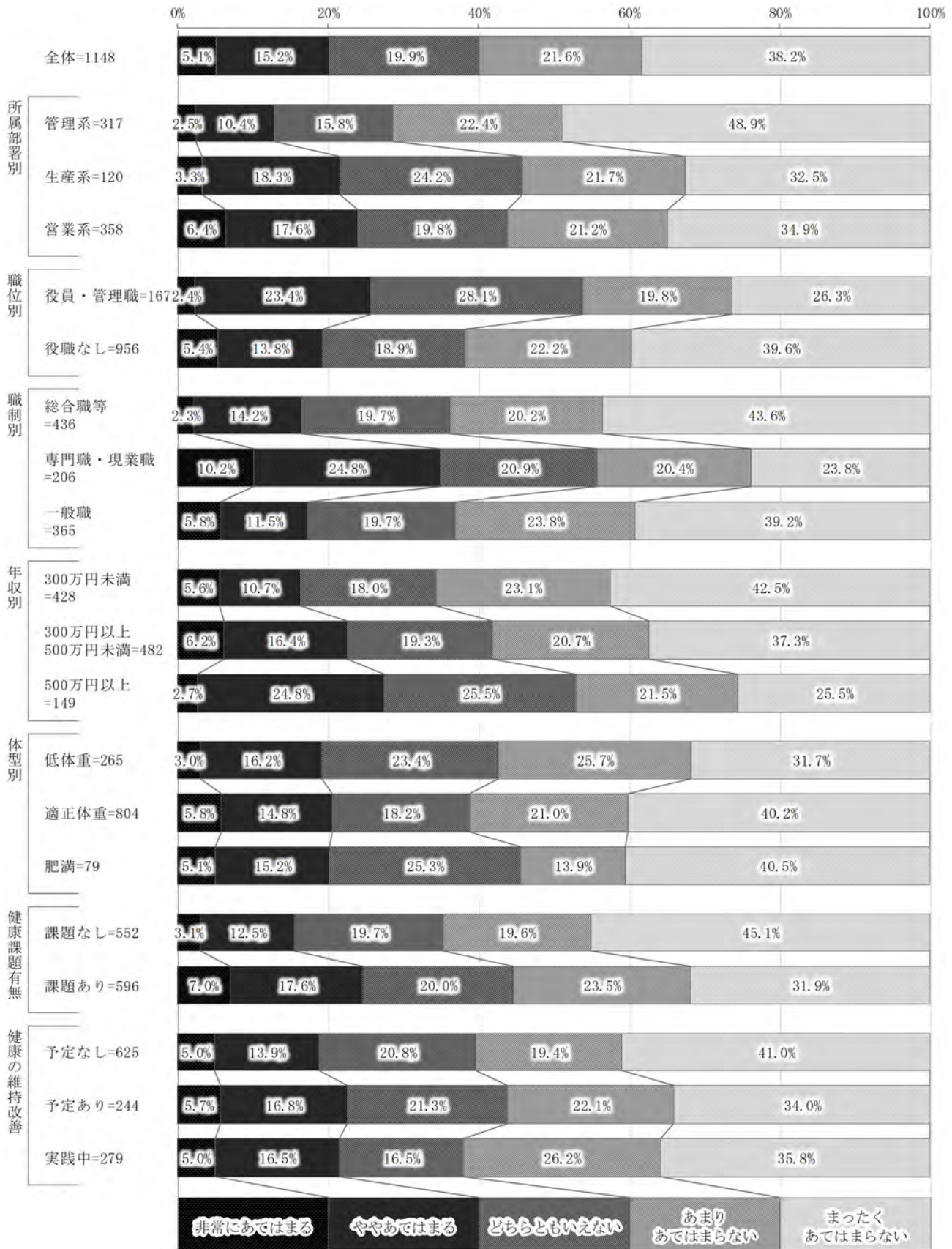


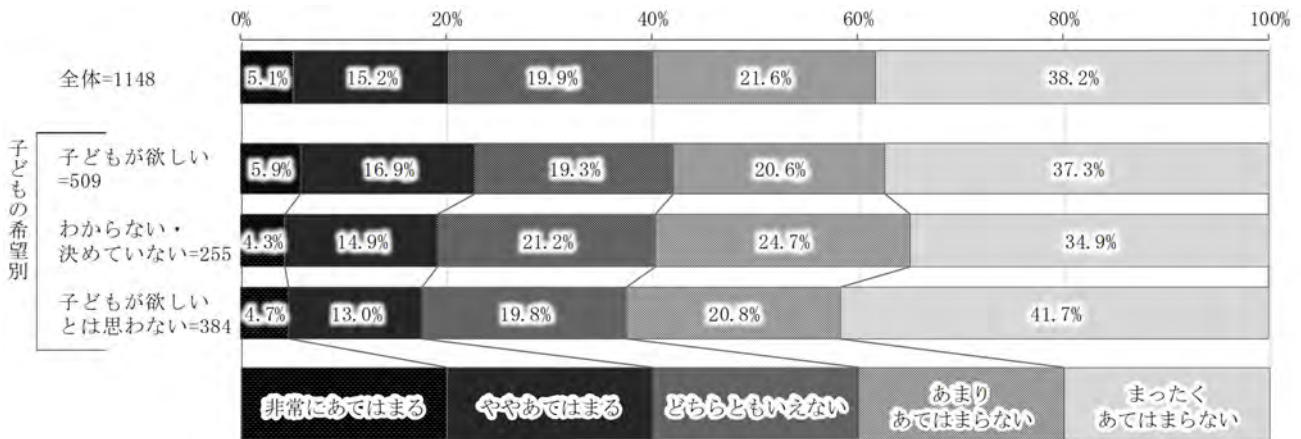
1.11. 労働環境（スケジュールを前もって立てることが難しい）

- スケジュールを前もって立てることが難しいか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が38.2%と最も多く、次に多い「あまりあてはまらない」を合わせると約6割に及び、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は約2割に止まった。
- 「まったくあてはまらない」は、勤務先種別で民間の回答者、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、勤務先業種別で製造系の回答者、勤務先規模別で100人未満の回答者、100人以上1000人未満の回答者、1000人以上の回答者の順、職位別で役職なしの回答者、職制別で総合職等の回答者、一般職の回答者、専門職・現業職の回答者の順、年収別で300万円未満の回答者、300万円以上500万円未満の回答者、500万円以上の回答者の順、健康課題有無で課題なしの回答者が多い。

図表 1.11.労働環境（スケジュールを前もって立てることが難しい）[単一選択]



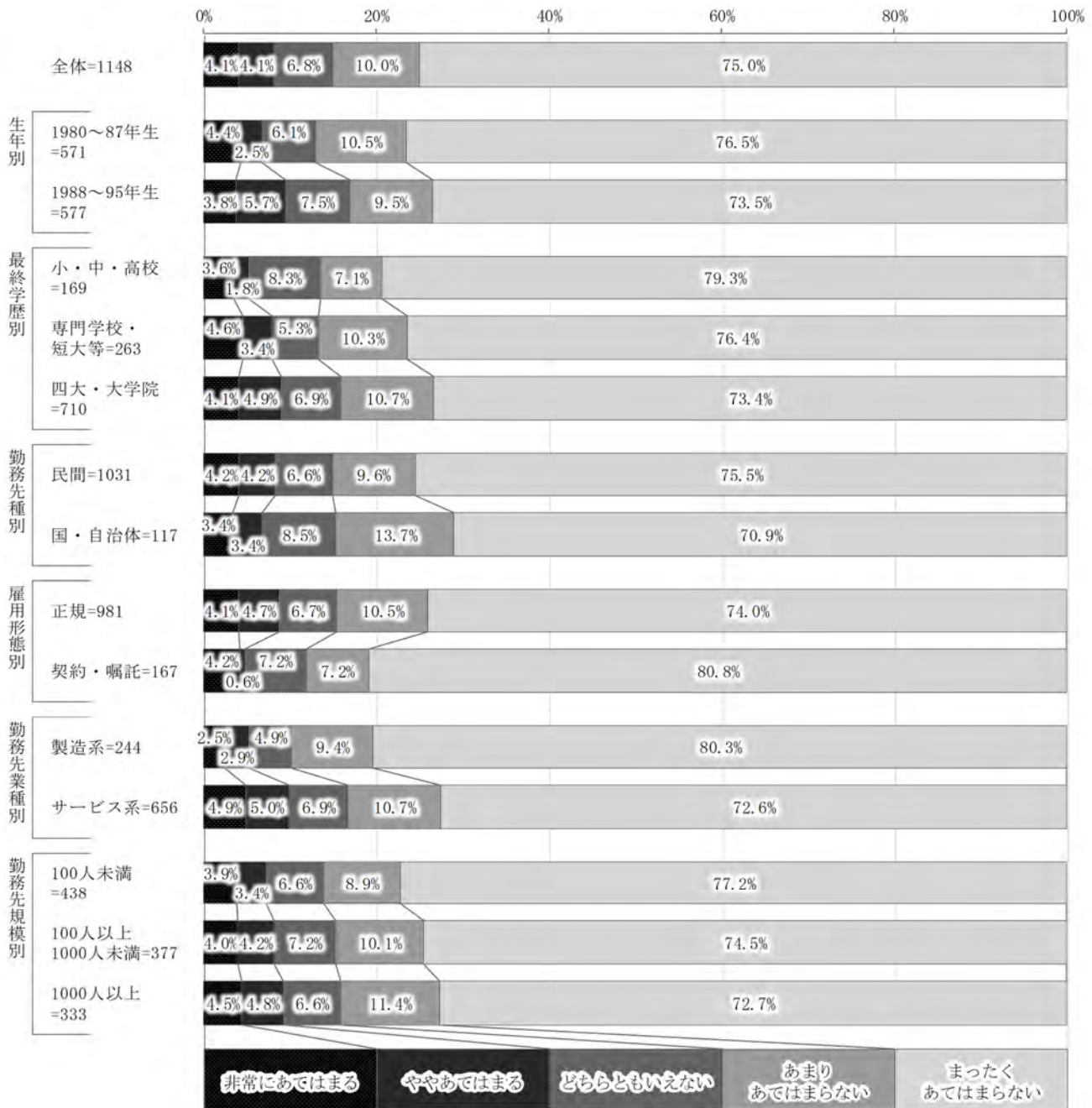


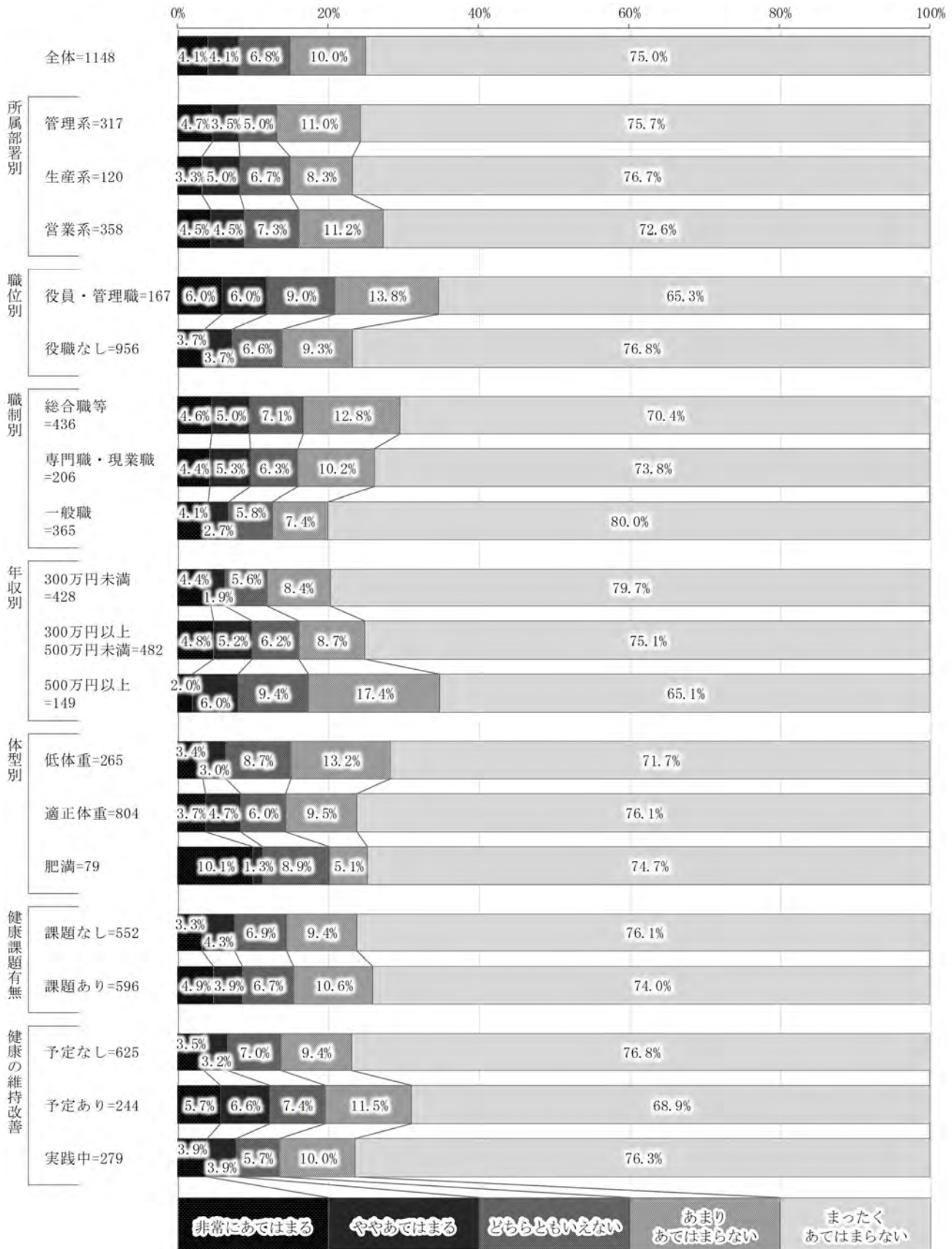


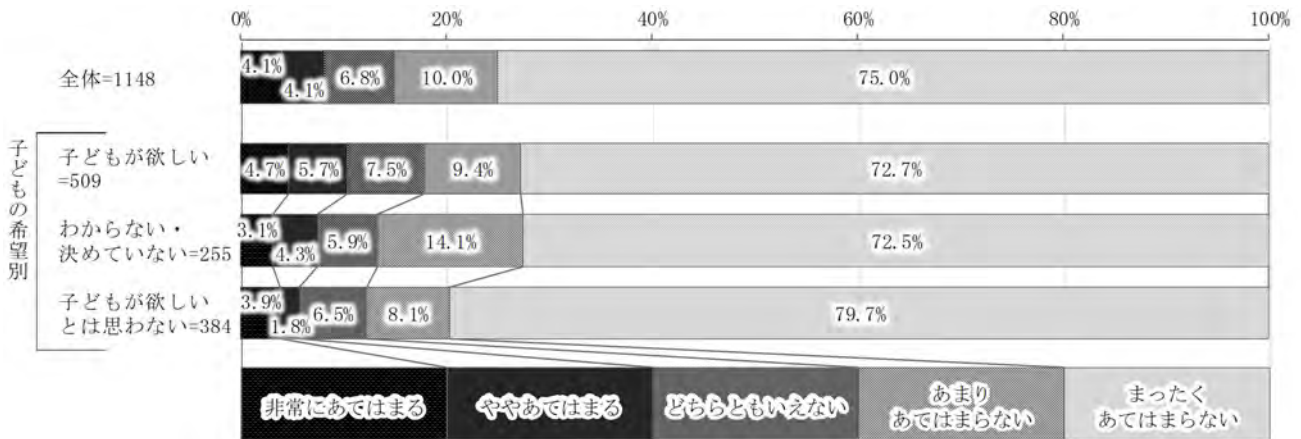
1.12. 労働環境（顧客先オフィスで仕事を行う時間が長い）

- 顧客先オフィスで仕事を行う時間が長いか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が75.0%と最も多く、次に多い「あまりあてはまらない」を合わせると約9割と大多数を占め、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は1割に満たなかった。
- 「まったくあてはまらない」は、職位別で役職なしの回答者、年収別で300万円未満の回答者、300万円以上500万円未満の回答者、500万円以上の回答者の順に多い。

図表 1.12.労働環境（顧客先オフィスで仕事を行う時間が長い）[単一選択]



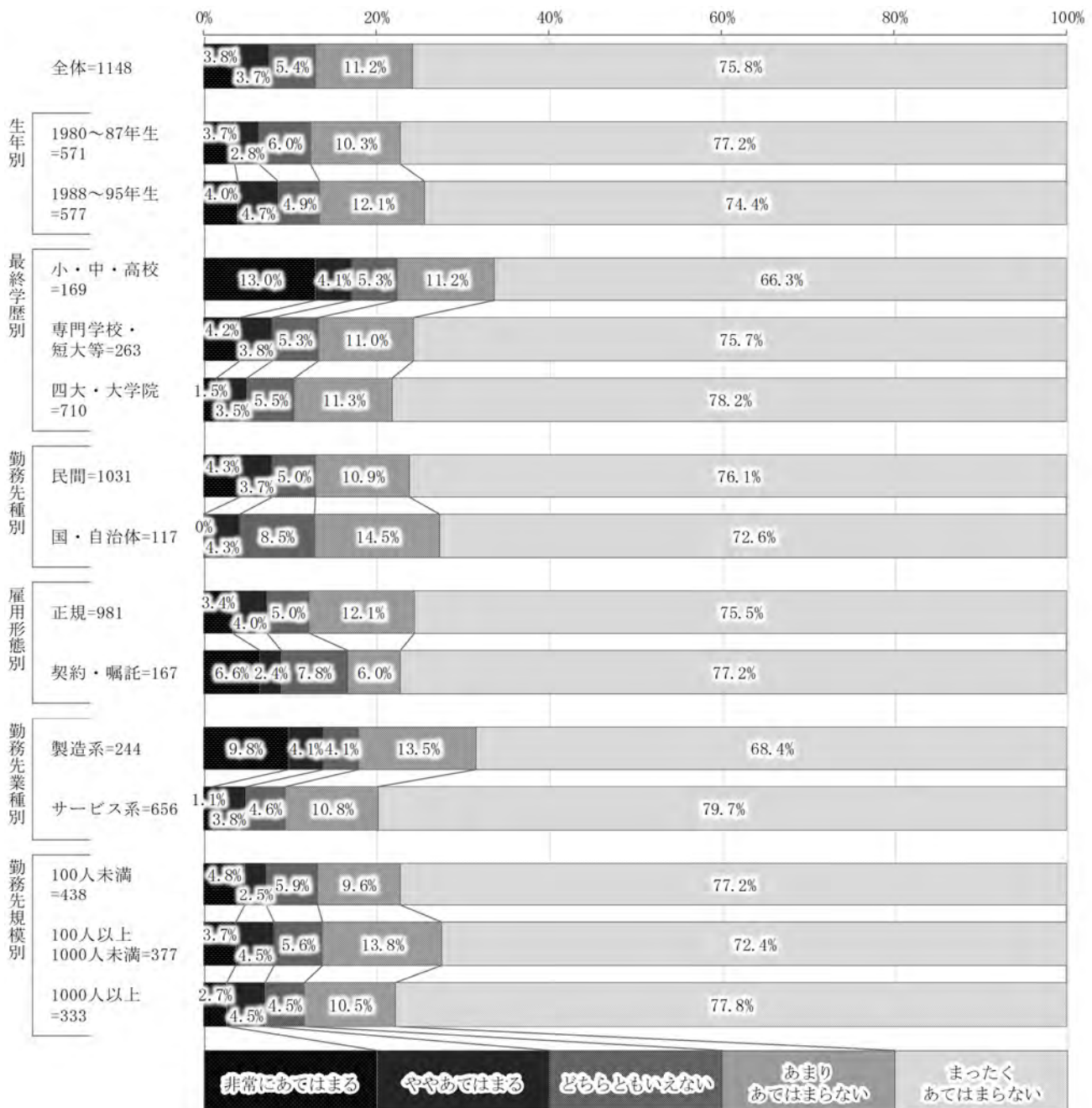


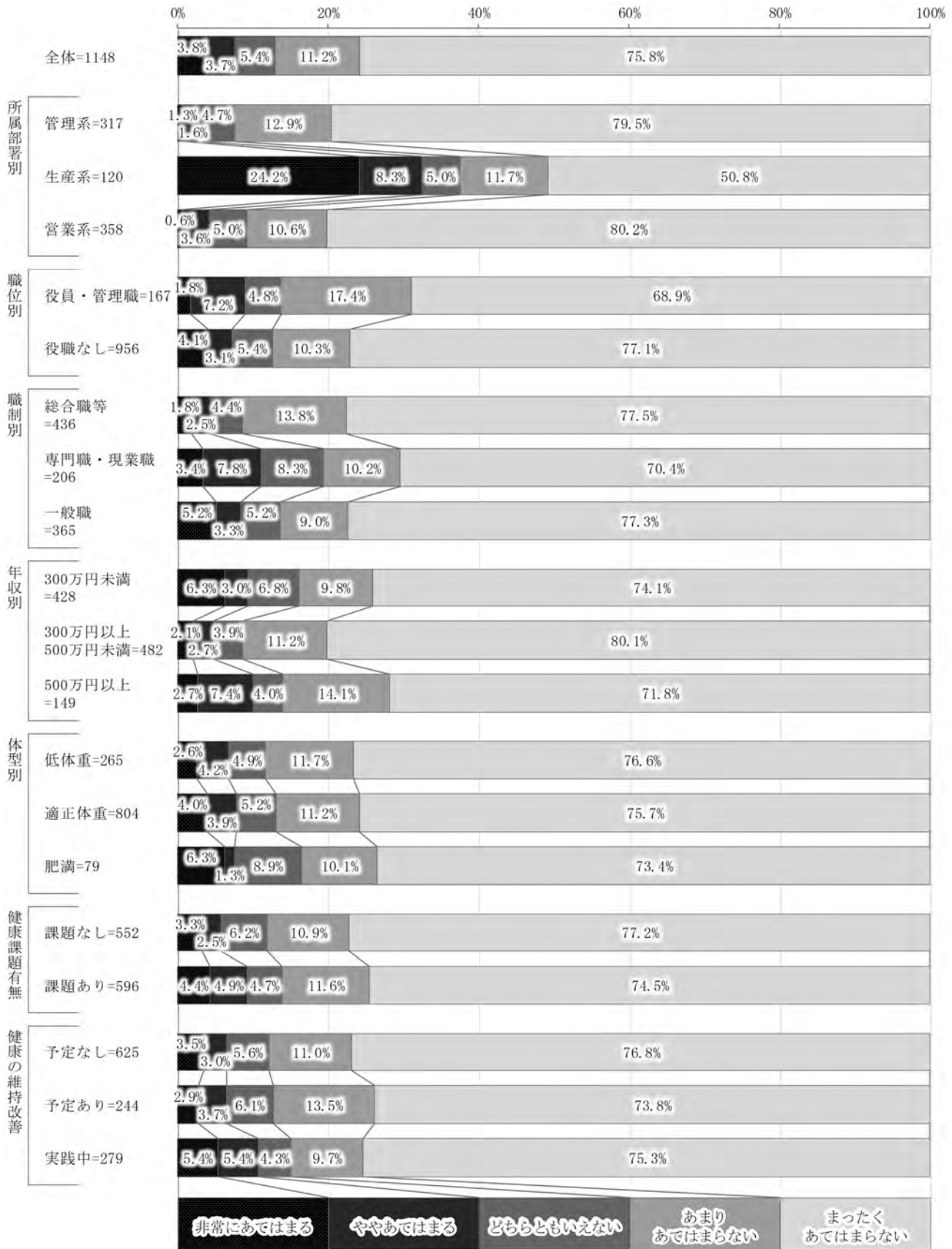


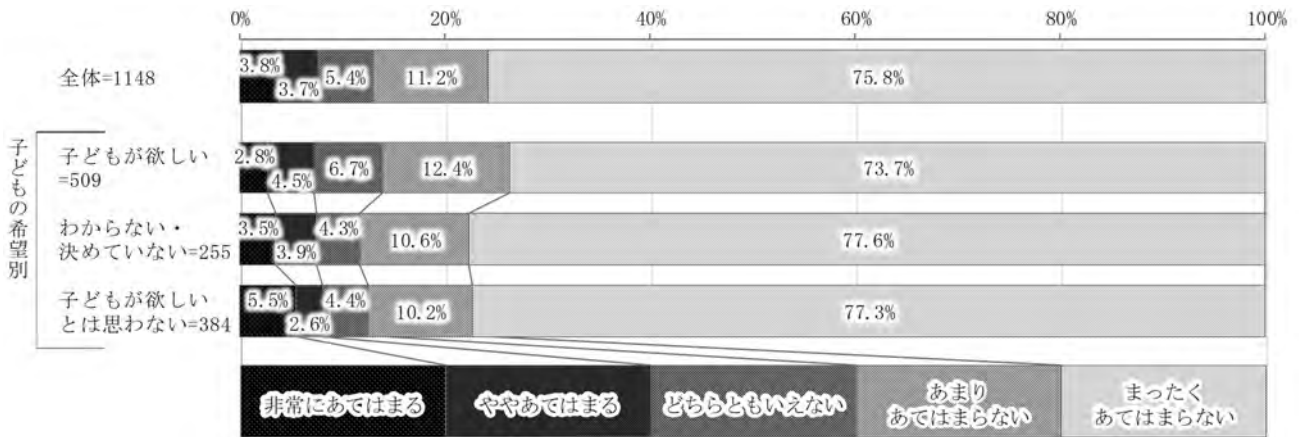
1.13. 労働環境（工場や工事現場など作業を行う時間が長い）

- 工場や工事現場など作業を行う時間が長いか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が75.8%と最も多く、次に多い「あまりあてはまらない」を合わせると約9割と大多数を占め、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は1割に満たなかった。
- 「まったくあてはまらない」は、最終学歴別で四大・大学院の回答者、専門学校・短大等の回答者、小・中・高校の回答者の順、勤務先業種別でサービス系の回答者、所属部署別で営業系の回答者、管理系の回答者、生産系の回答者の順で多い。

図表 1.13.労働環境（工場や工事現場など作業を行う時間が長い）【単一選択】



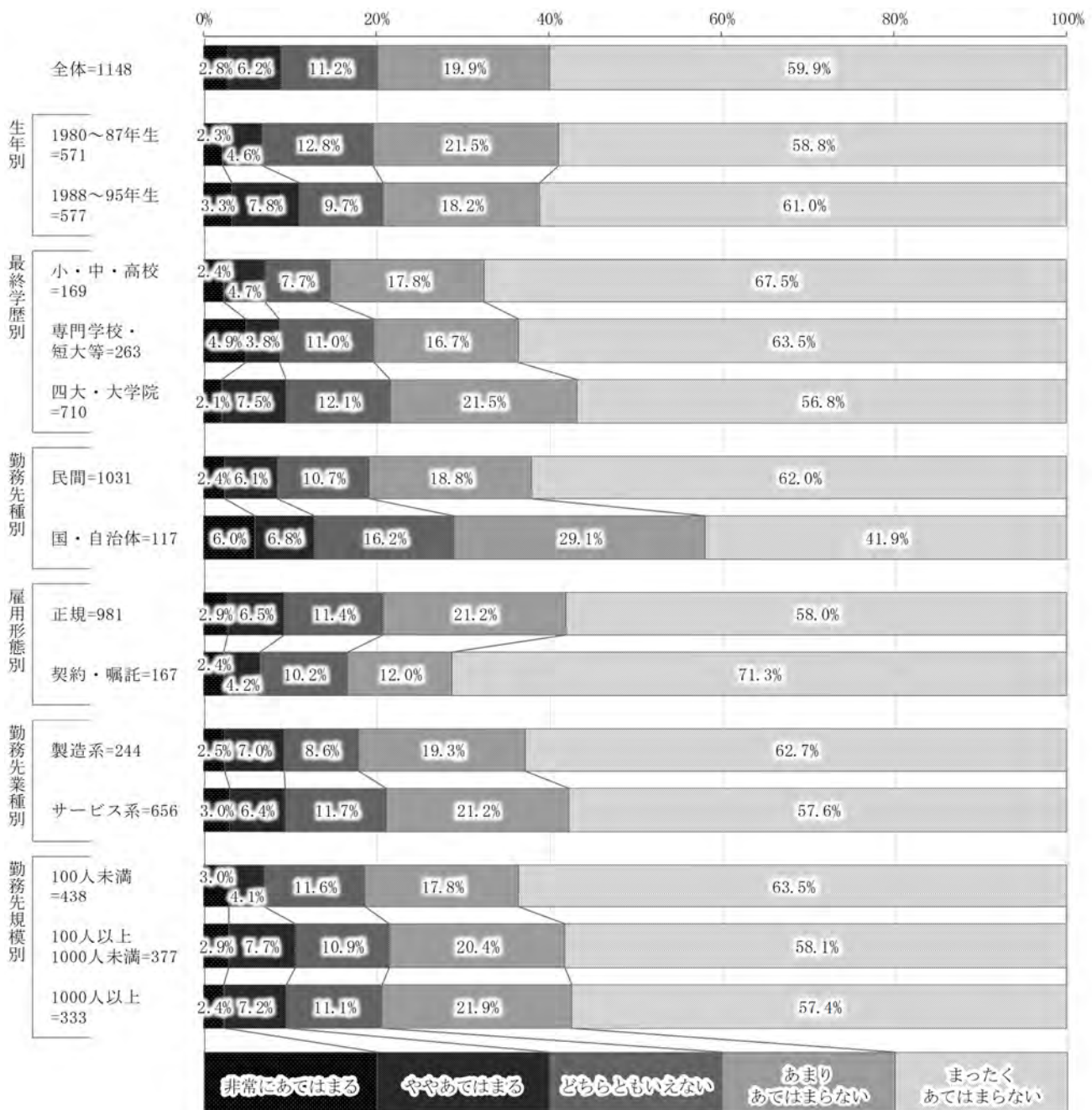


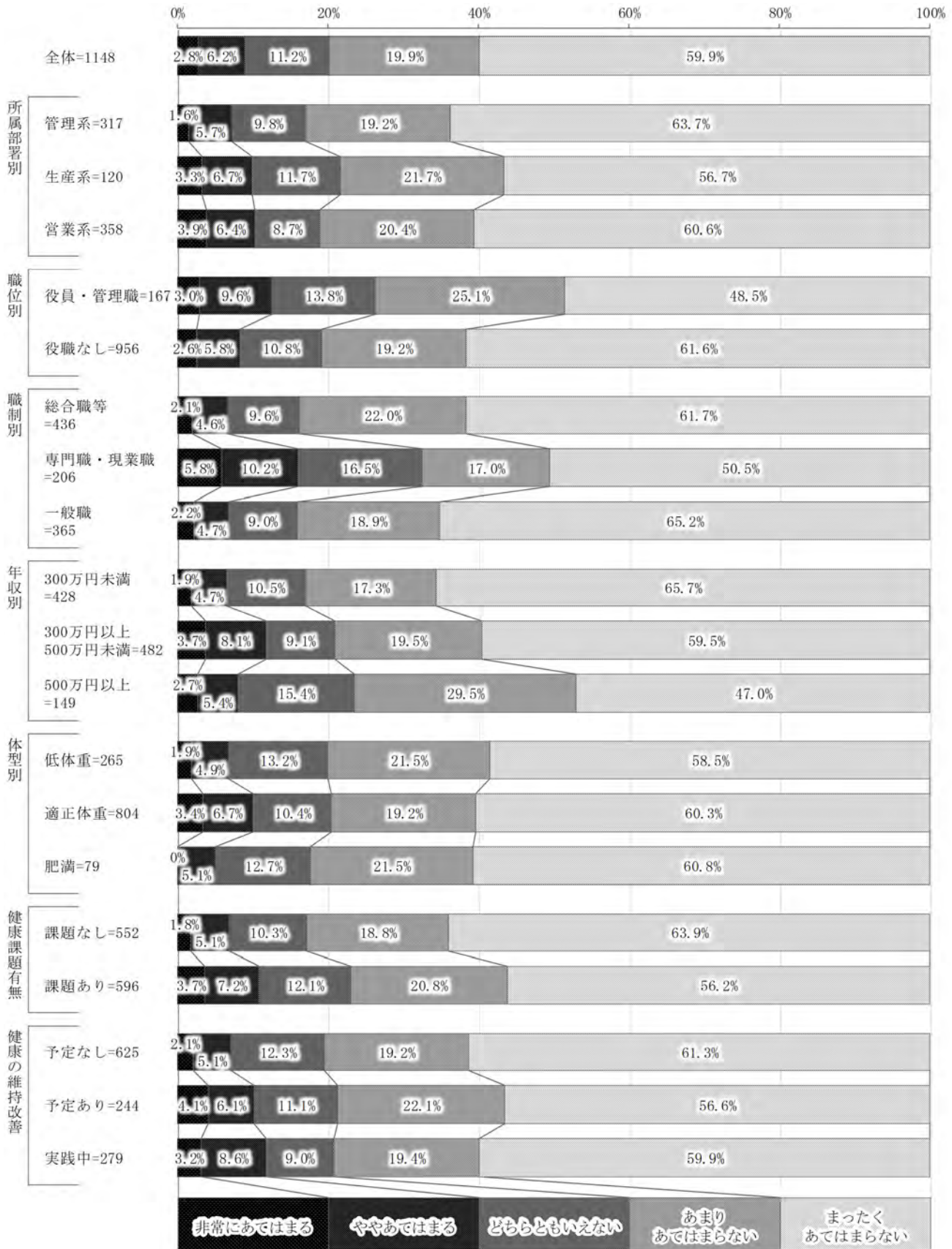


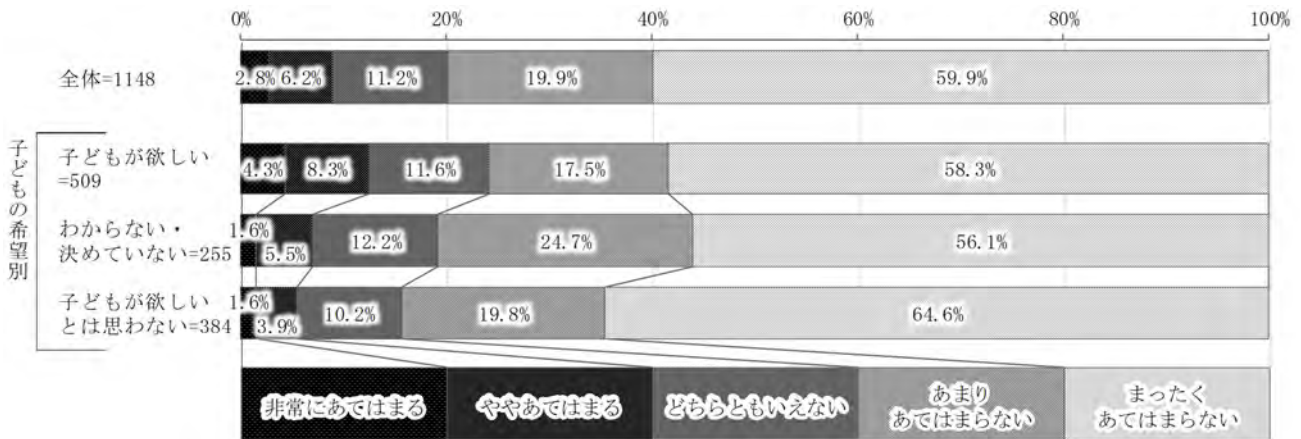
1.14. 労働環境（休日出勤が多い）

- ・休日出勤が多いか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が59.9%と最も多く、次に多い「あまりあてはまらない」を合わせると約8割に及び、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は1割に満たなかった。
- ・「まったくあてはまらない」は、勤務先種別で民間の回答者、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、職位別で役職なしの回答者、職制別で一般職の回答者、総合職等の回答者、専門職・現業職の回答者の順、年収別で300万円未満の回答者、300万円以上500万円未満の回答者、500万円以上の回答者の順で多い。

図表 1.14.労働環境（休日出勤が多い）[単一選択]



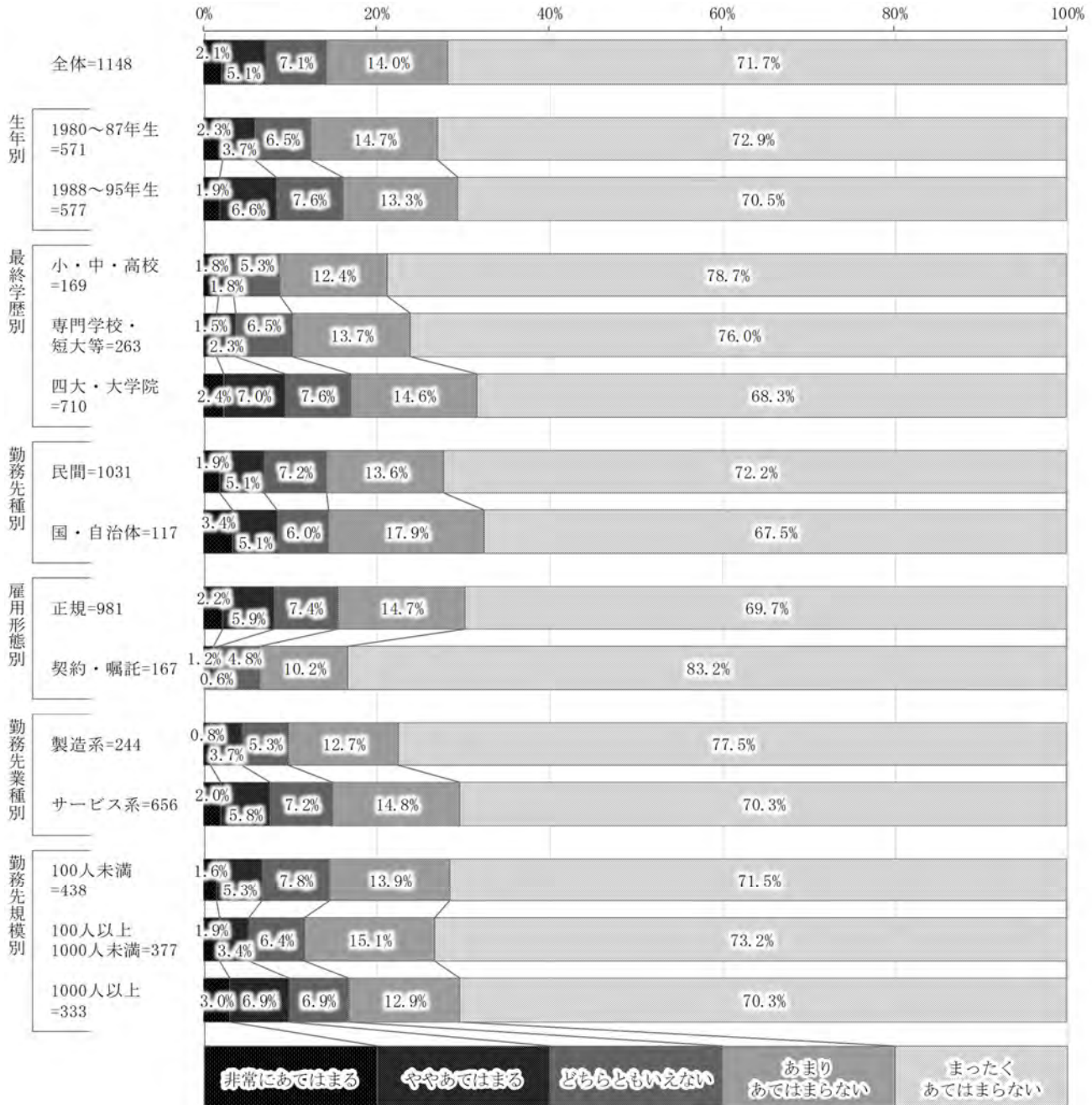


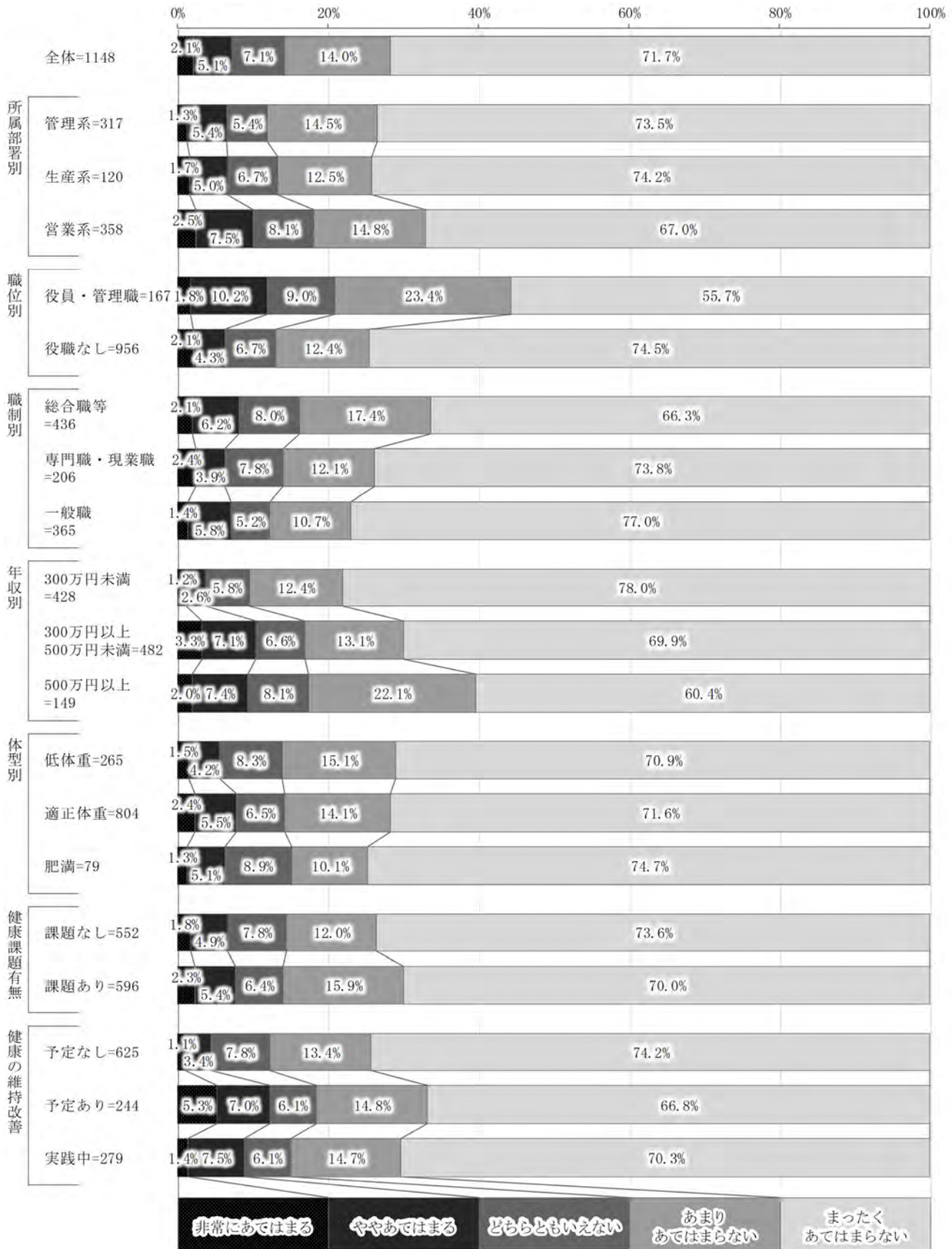


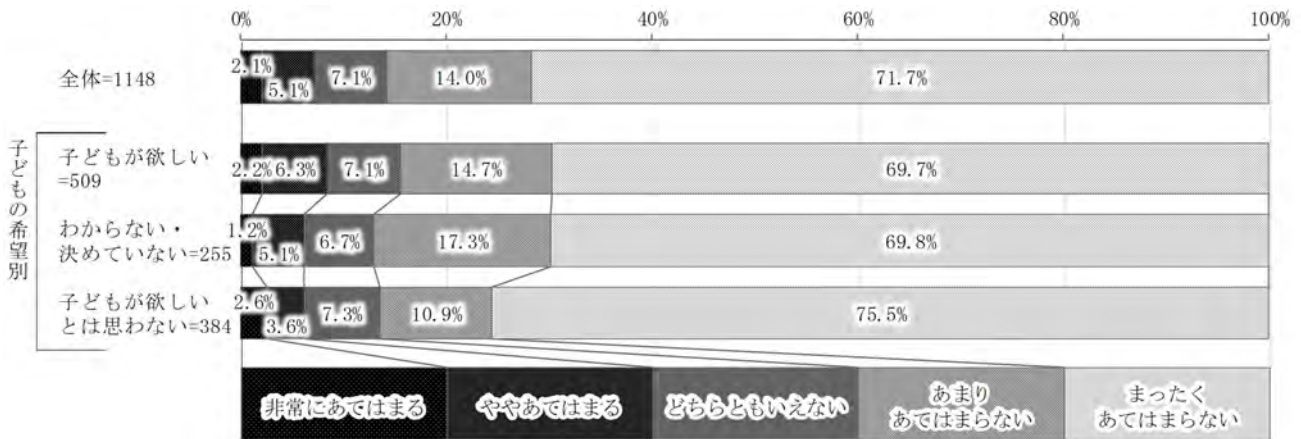
1.15. 労働環境（顧客先への往訪が多い）

- 顧客先への往訪が多いか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が71.7%と最も多く、次に多い「あまりあてはまらない」を合わせると約9割と大多数を占め、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は1割に満たなかった。
- 「まったくあてはまらない」は、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、職位別で役職なしの回答者が多い。

図表 1.15.労働環境（顧客先への往訪が多い）[単一選択]



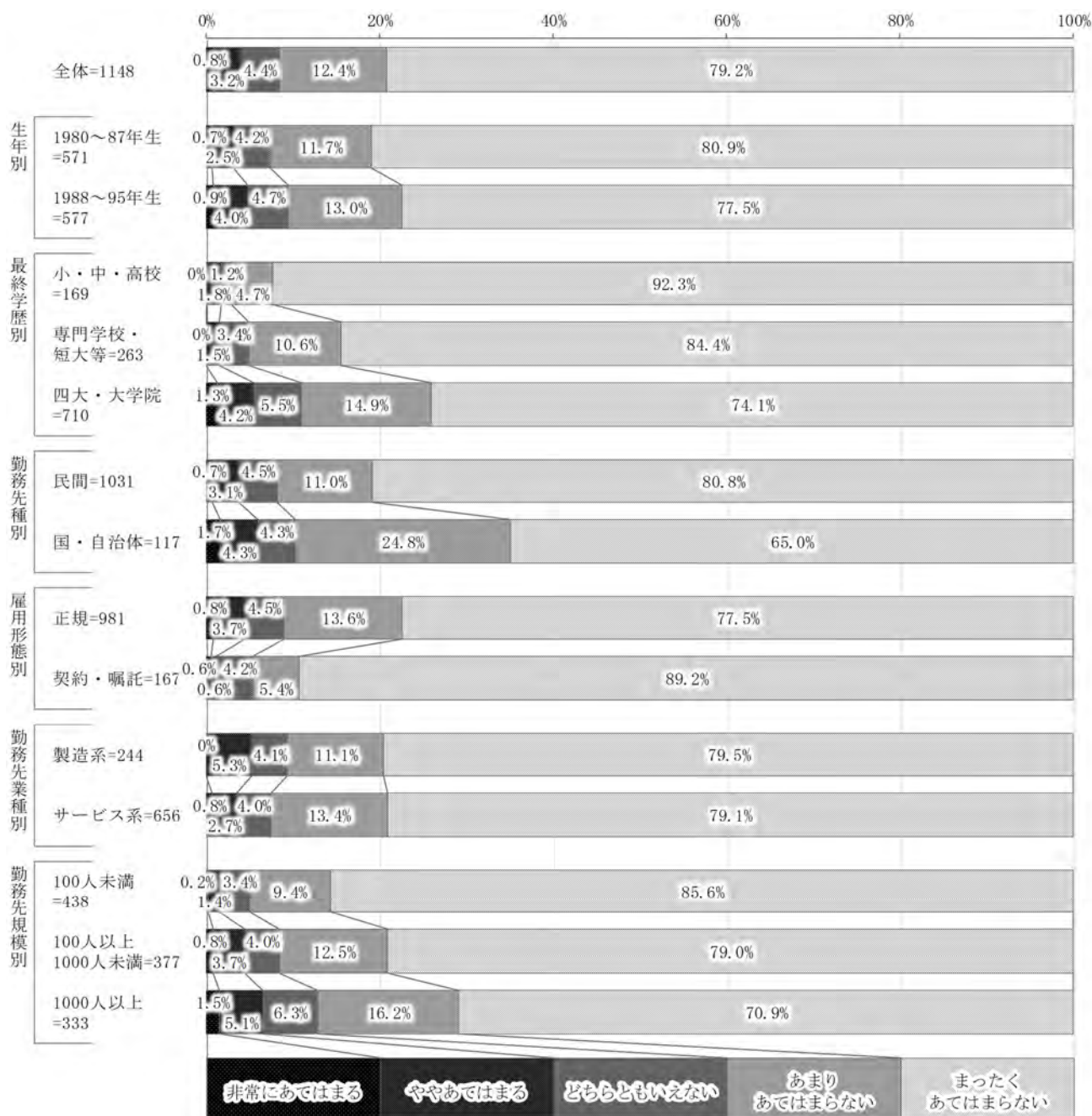


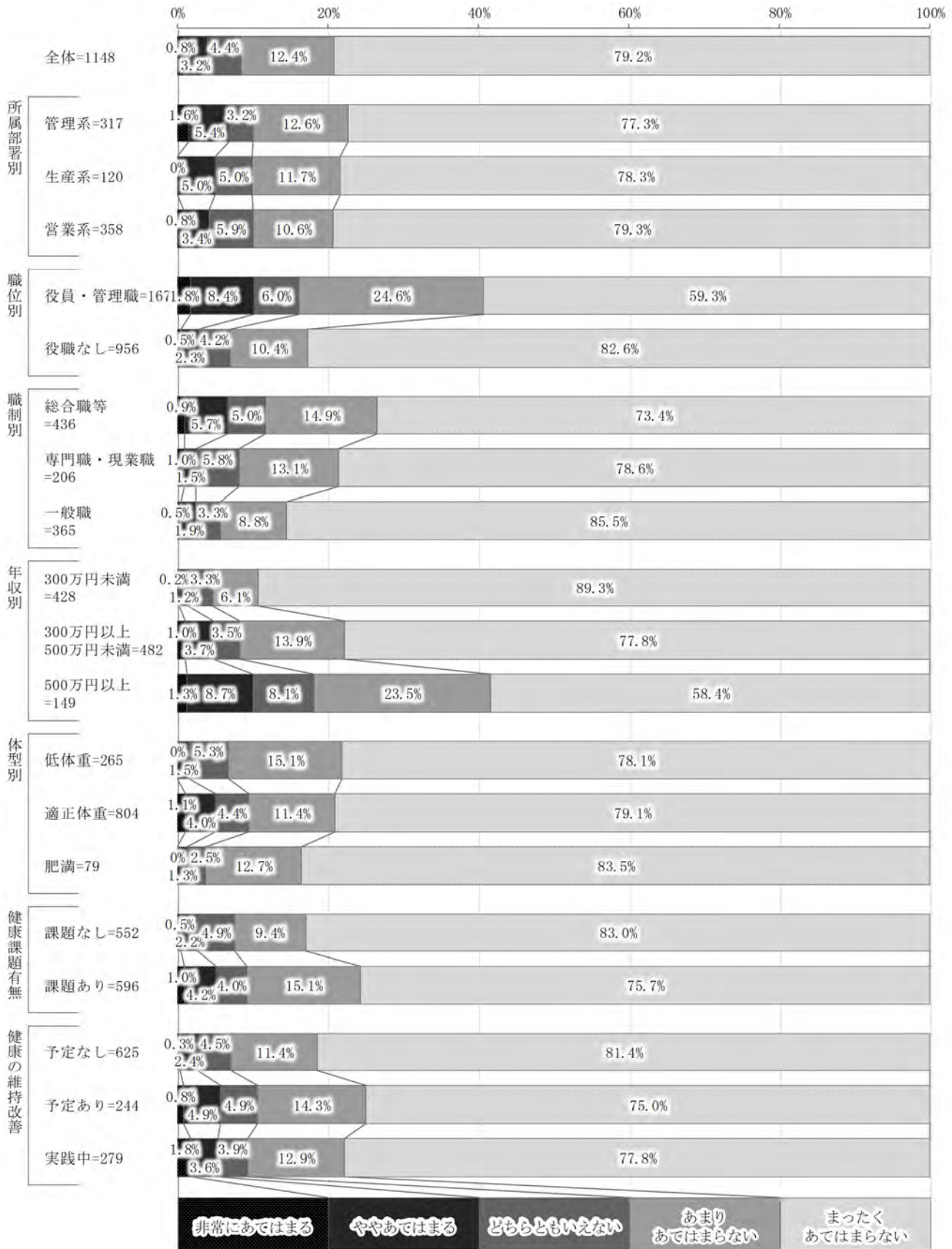


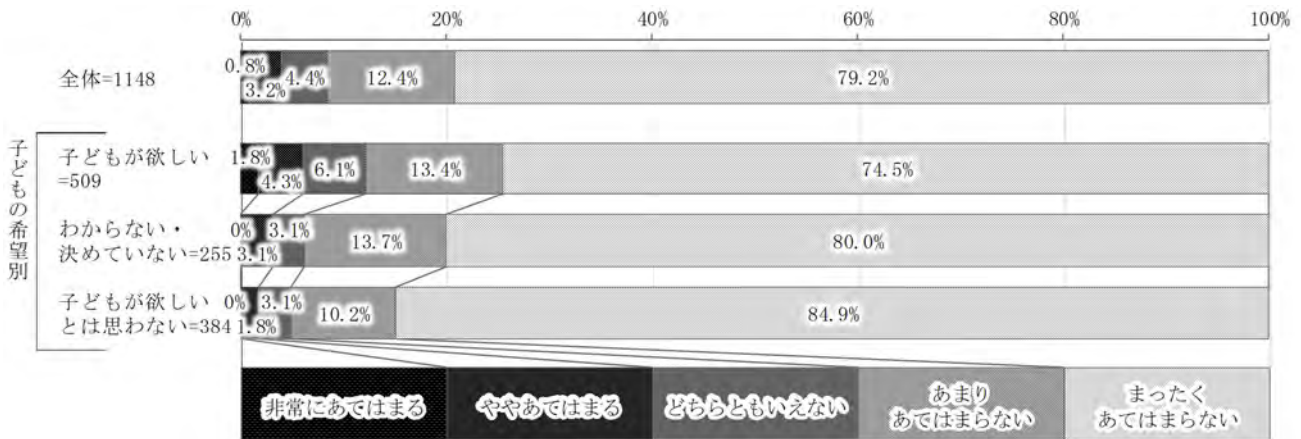
1.16. 労働環境（出張が多い）

- 出張が多いか尋ねたところ、全体では「まったくあてはまらない」が79.2%と最も多く、次に多い「あまりあてはまらない」を合わせると9割と大多数を占め、「ややあてはまる」「非常にあてはまる」の計は4.0%だった。
- 「まったくあてはまらない」は、最終学歴別で小・中・高校の回答者、専門学校・短大等の回答者、四大・大学院の回答者の順、勤務先種別で民間の回答者、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、職位別で役職なしの回答者、年収別で300万円未満の回答者、300万円以上500万円未満の回答者、500万円以上の回答者の順で多い。

図表 1.16.労働環境（出張が多い）[単一選択]



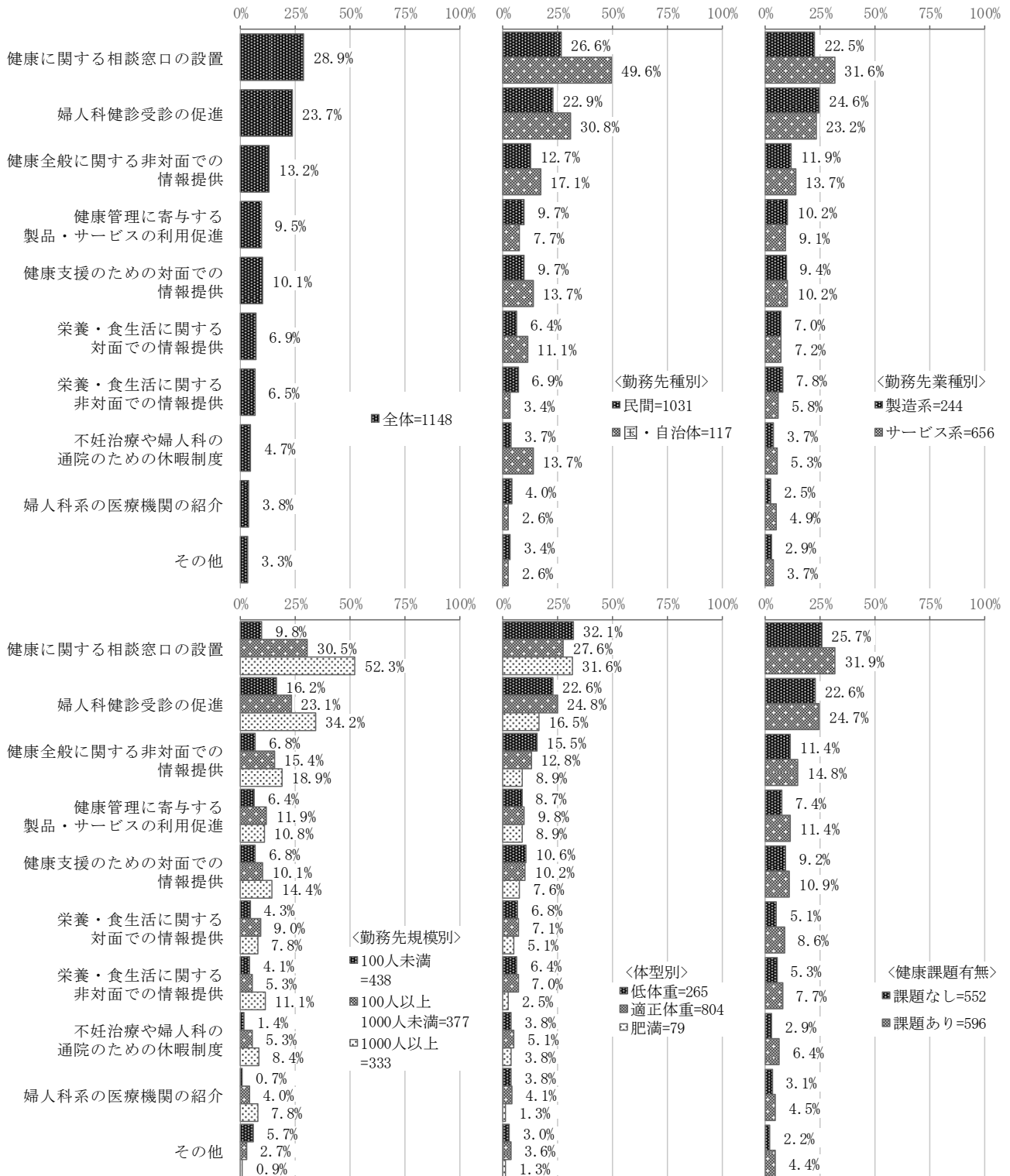


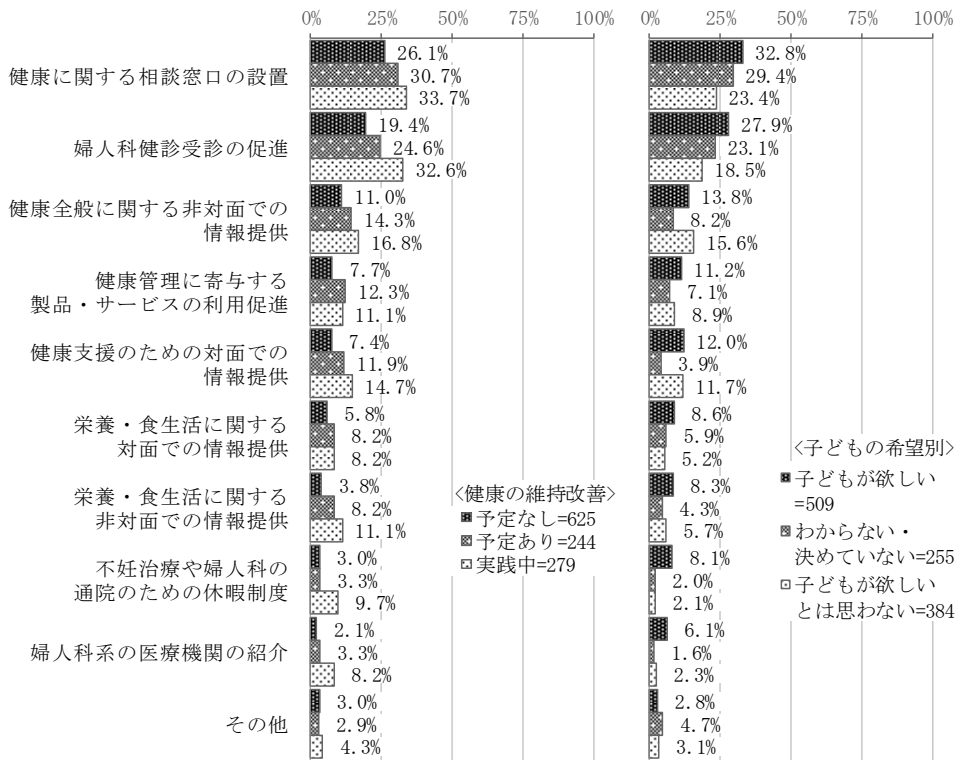


2. 勤務先の取組み

- 勤務先が実施している健康に関する取組を尋ねたところ、全体では「健康に関する相談窓口の設置」28.9%が最も多く、次いで「婦人科健診受診の促進」23.7%が多い。
- 「健康に関する相談窓口の設置」は、勤務先種別で民間の回答者、勤務先規模別で100人未満の回答者が少ない。
- 「婦人科健診受診の促進」は、勤務先規模別で1000人以上の回答者が多い。

図表 2.勤務先の取組み[複数選択]





注 「その他」には、「定期健診」「人間ドック」「歯科検診」「予防接種促進」「皮膚治療」「メンタルヘルス」「健康に関するセミナー」「介護」「障がい者福祉」「福祉」があった。

3. 勤務先の取組みの内容

「健康管理に寄与する製品・サービスの利用促進」を選択された回答者に、勤務先が実施している具体的な取組み内容を尋ねたところ、以下の回答を得た。

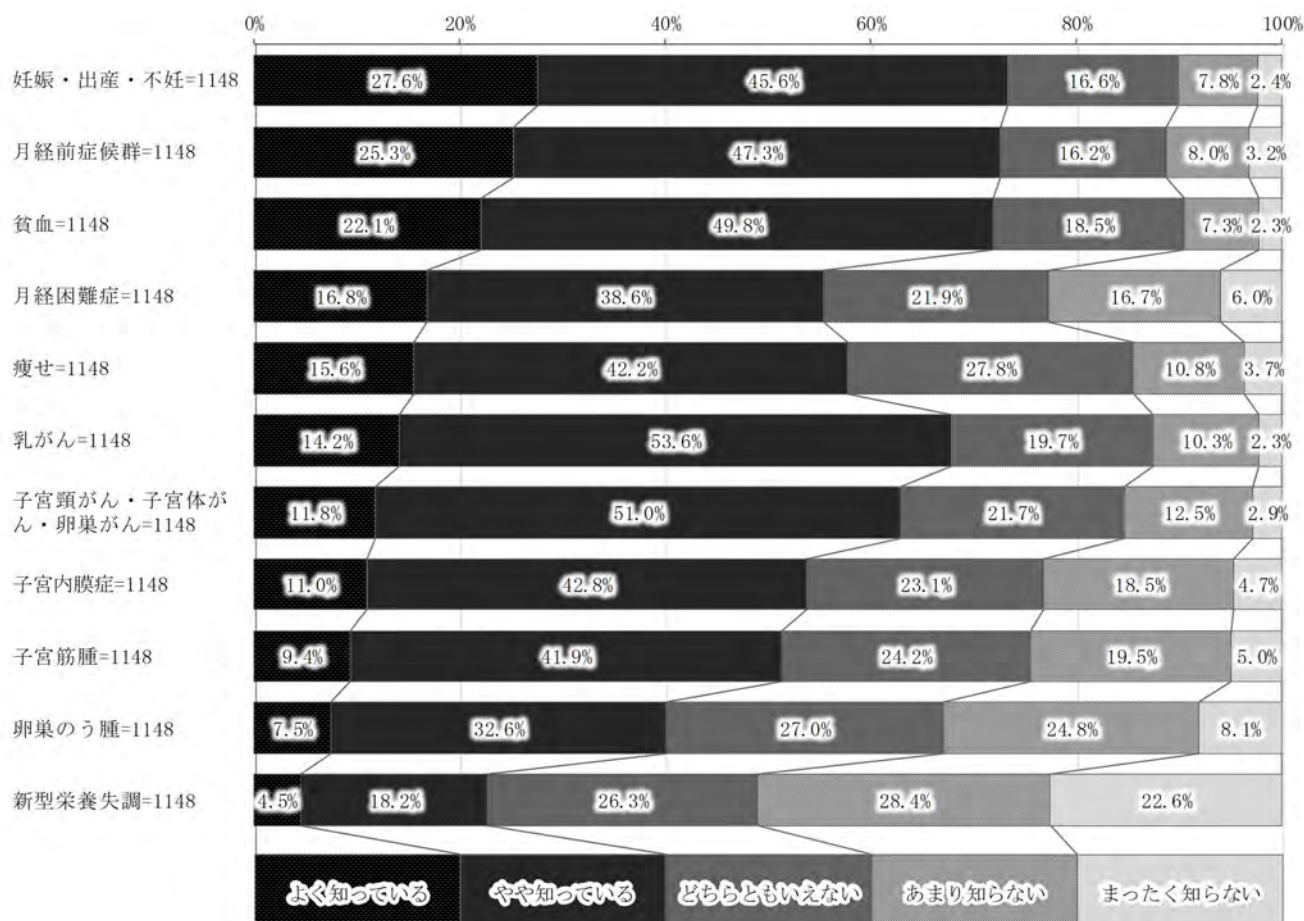
➤ マスク配布	44 件
➤ スポーツクラブ優待	20 件
➤ アプリの利用促進	19 件
➤ 消毒剤配布	15 件
➤ 薬・サプリ割引	8 件
➤ 健康診断	7 件
➤ 保険外医療	7 件
➤ 健康関連品割引	6 件
➤ 社員食堂等での食事療法支援	3 件
➤ ストレスチェック	2 件
➤ ウォーキングキャンペーン	2 件

その他、「福祉用具の提供」「メーカーを呼んで実演等してもらおう」「健康番組」「健保」「厚生関係での割引適応」「歩数チェックを毎日している」「健康に関する自治体の取り組みへの参加」「加湿器の購入」があった。

4. 女性特有の健康課題の認知度

- 女性特有の健康課題についての認知度を尋ねたところ、「妊娠・出産・不妊」の「よく知っている」27.6%が最も多く、「やや知っている」を合わせると7割を超えた。
- 2番目には「月経前症候群」の「よく知っている」25.3%が多く、これも「ややよく知っている」を合わせると7割を超えた。
- 3番目には「貧血」の「よく知っている」22.1%が多く、これも「ややよく知っている」を合わせると7割を超えた。
- 健康課題別の項で詳述するが、職制別で専門職・現業職の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で実践中の回答者と予定ありの回答者が多くの健康課題で「よく知っている」「やや知っている」の計が多い傾向にあった。

図表 4.女性特有の健康課題の認知度[単一選択]

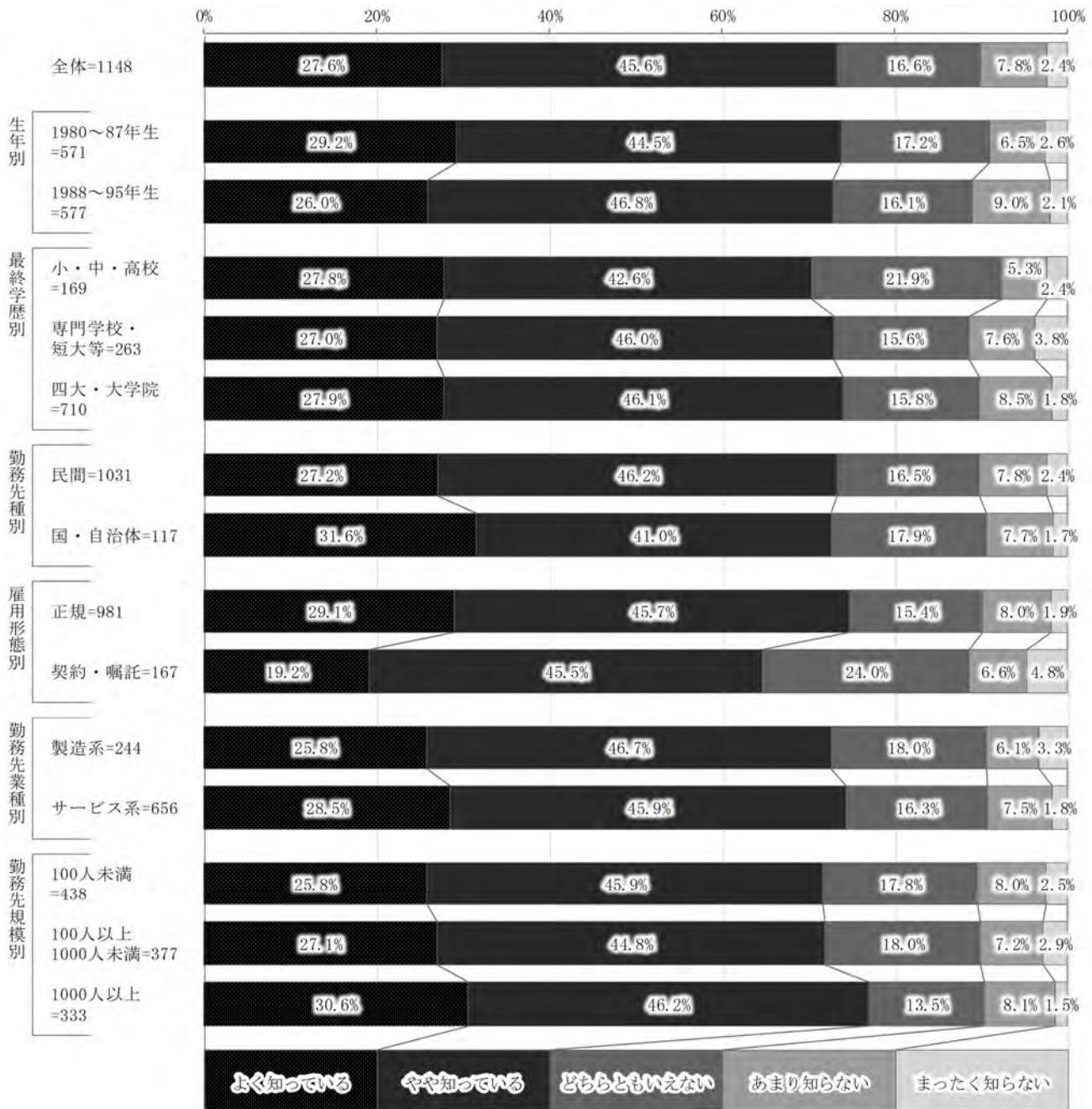


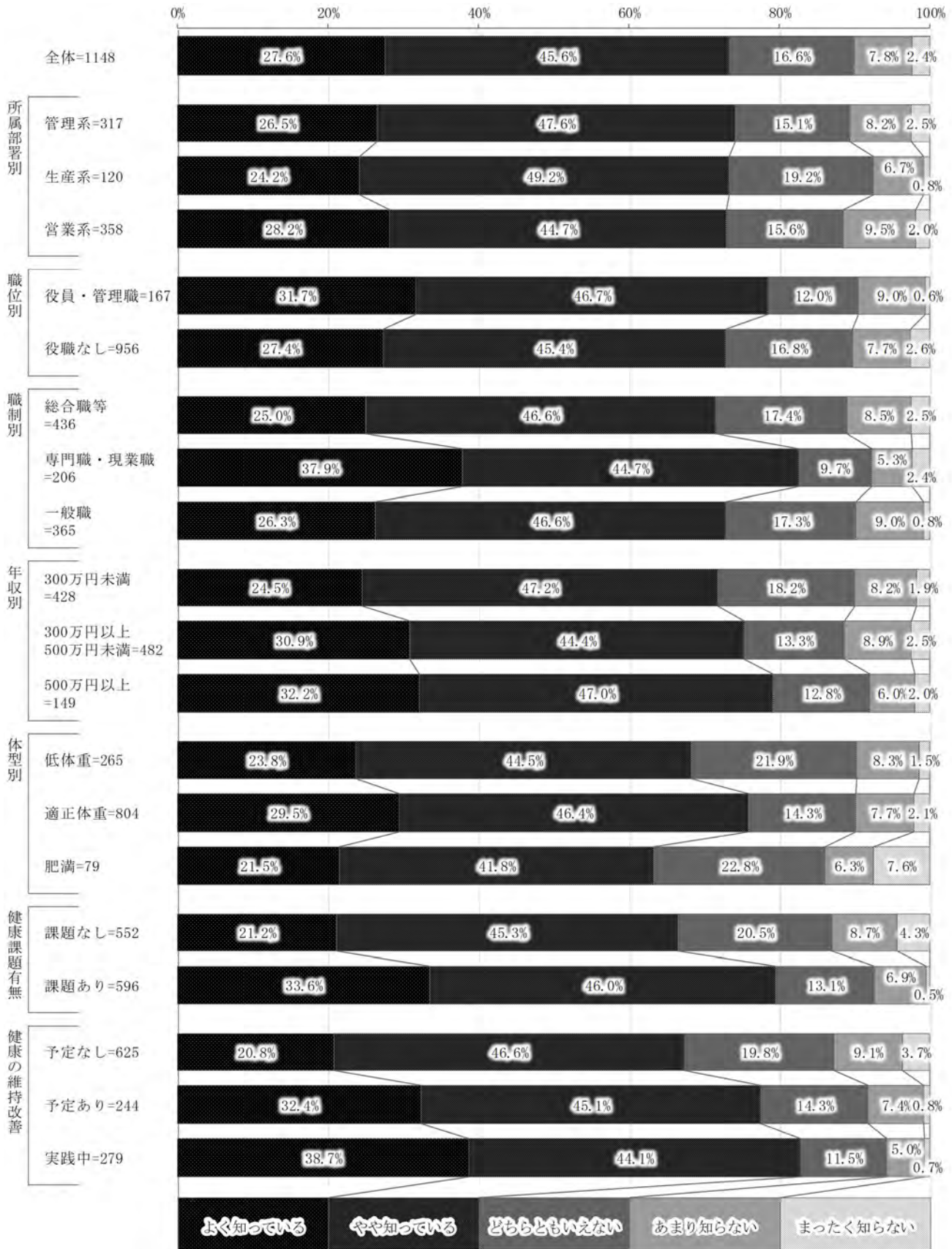
注 「その他」には、「更年期障害」「排卵時の不調」「うつ病」「ストレス」「拒食症」「低血圧」「冷え性」があった。

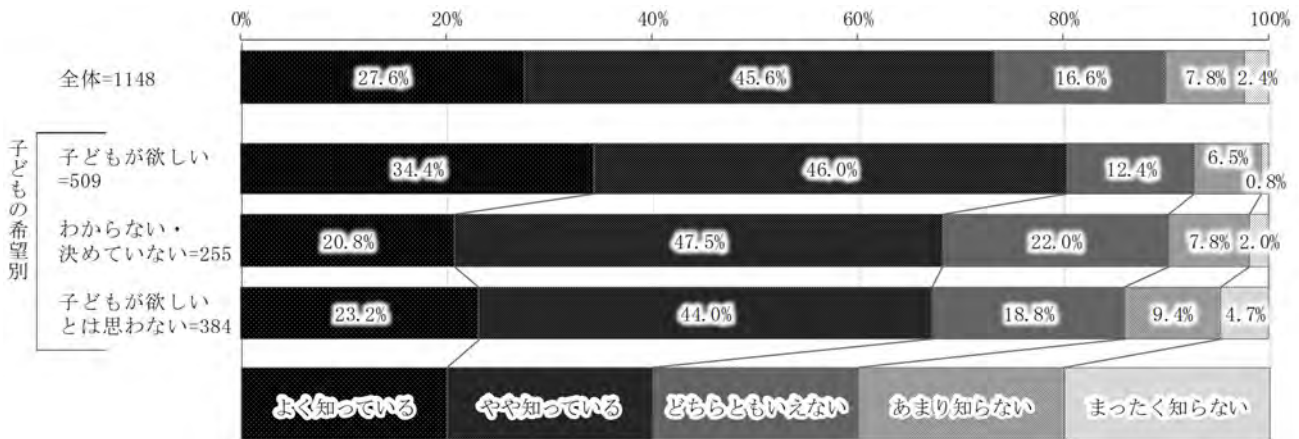
4.1. 女性特有の健康課題の認知度（妊娠・出産・不妊）

- 妊娠・出産・不妊についての認知度は、全体では「やや知っている」が45.6%と最も多く、次に多い「よく知っている」を合わせると7割を超え、「あまり知らない」「まったく知らない」の計は約1割だった。
- 「よく知っている」は、職制別で専門職・現業職の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で実践中の回答者と予定ありの回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。

図表 4.1. 女性特有の健康課題の認知度（妊娠・出産・不妊）【単一選択】



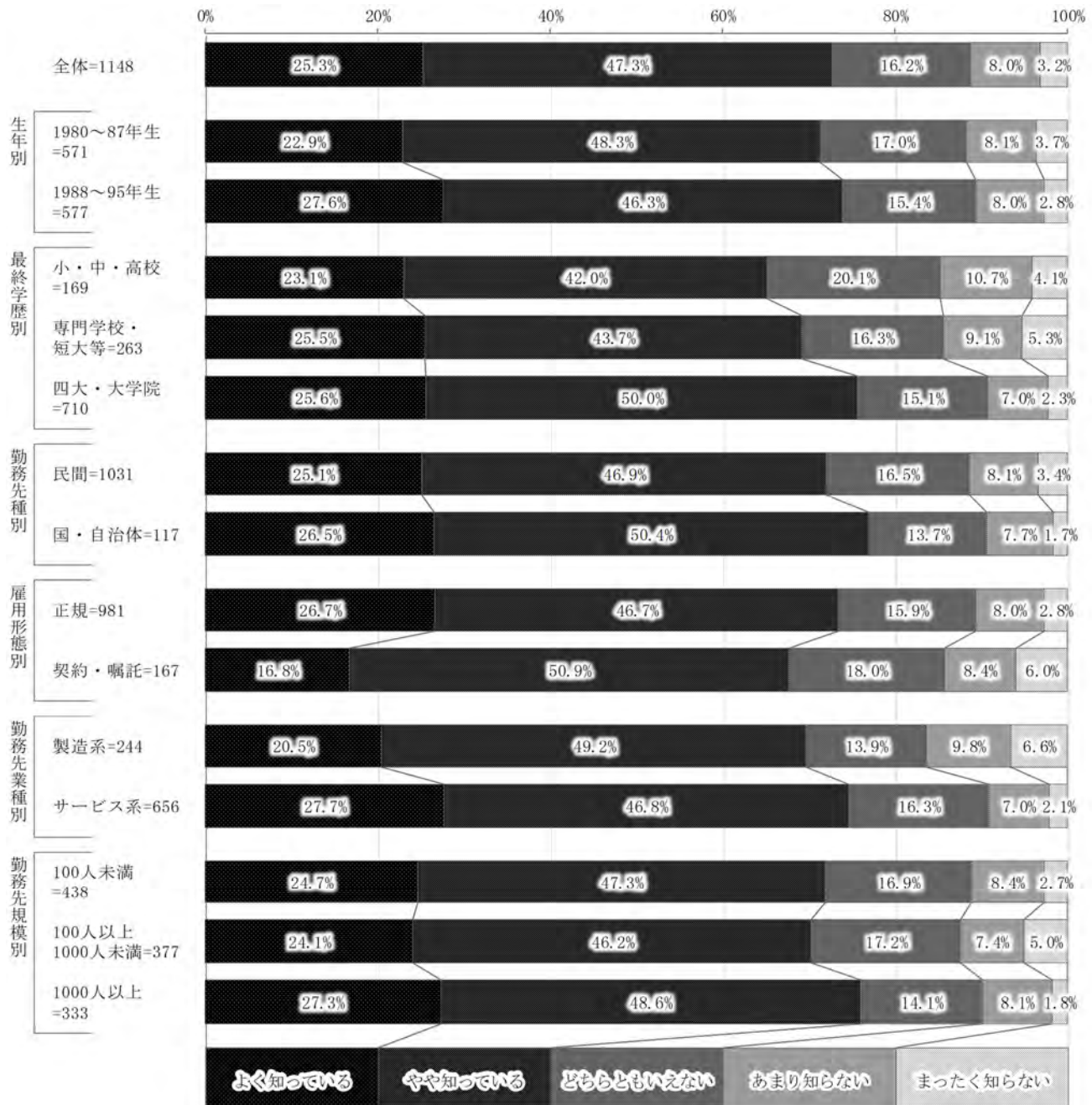


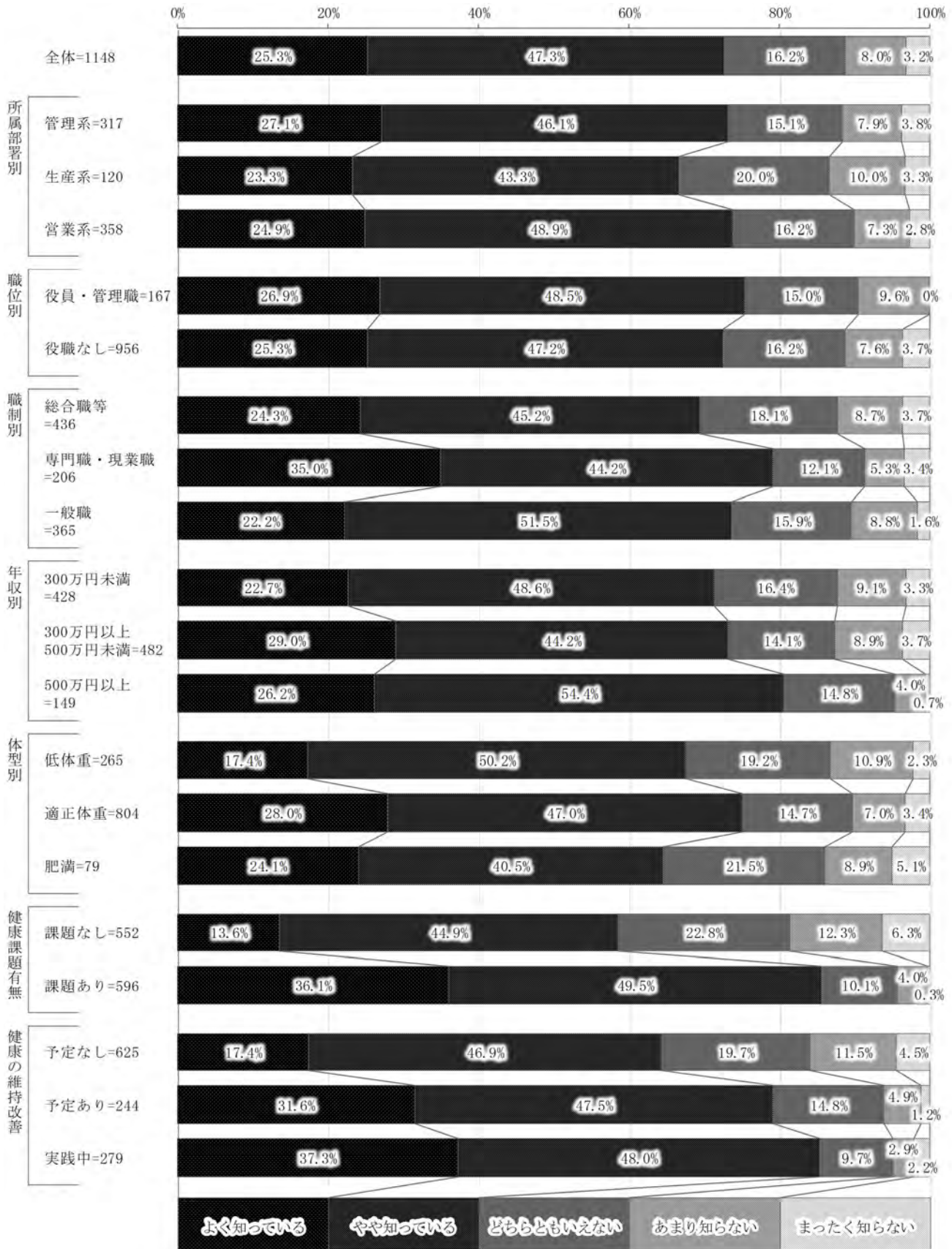


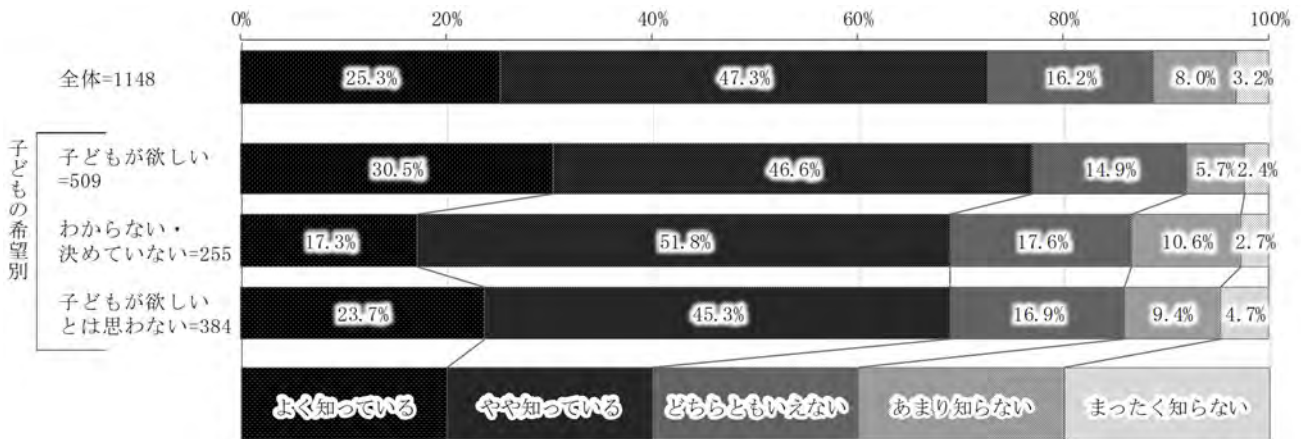
4.2. 女性特有の健康課題の認知度（月経前症候群）

- 月経前症候群についての認知度は、全体では「やや知っている」が47.3%と最も多く、次に多い「よく知っている」を合わせると7割を超え、「あまり知らない」「まったく知らない」の計は約1割だった。
- 「よく知っている」は、職制別で専門職・現業職の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で実践中の回答者と予定ありの回答者が多い。

図表 4.2. 女性特有の健康課題の認知度（月経前症候群）【単一選択】



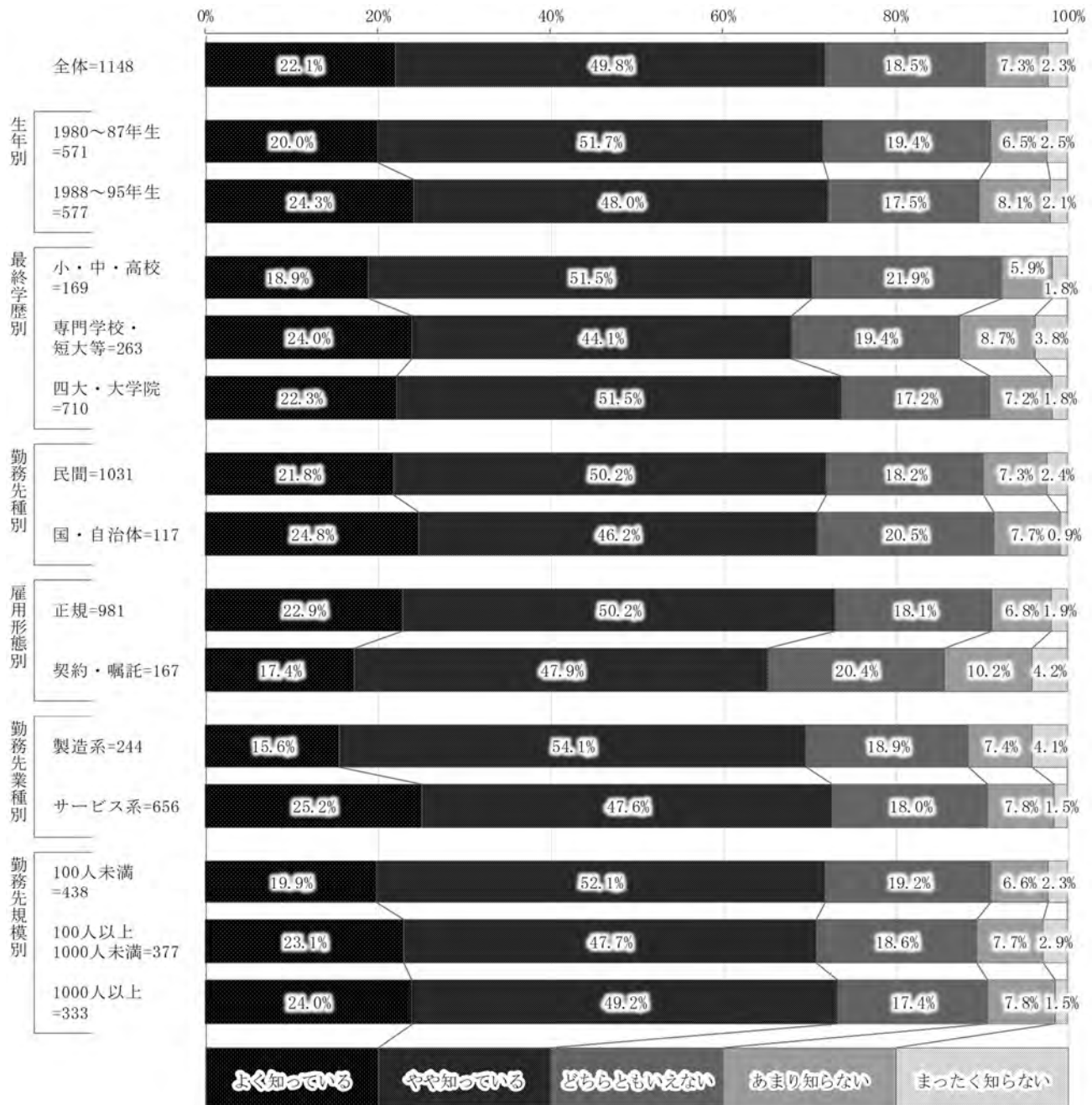


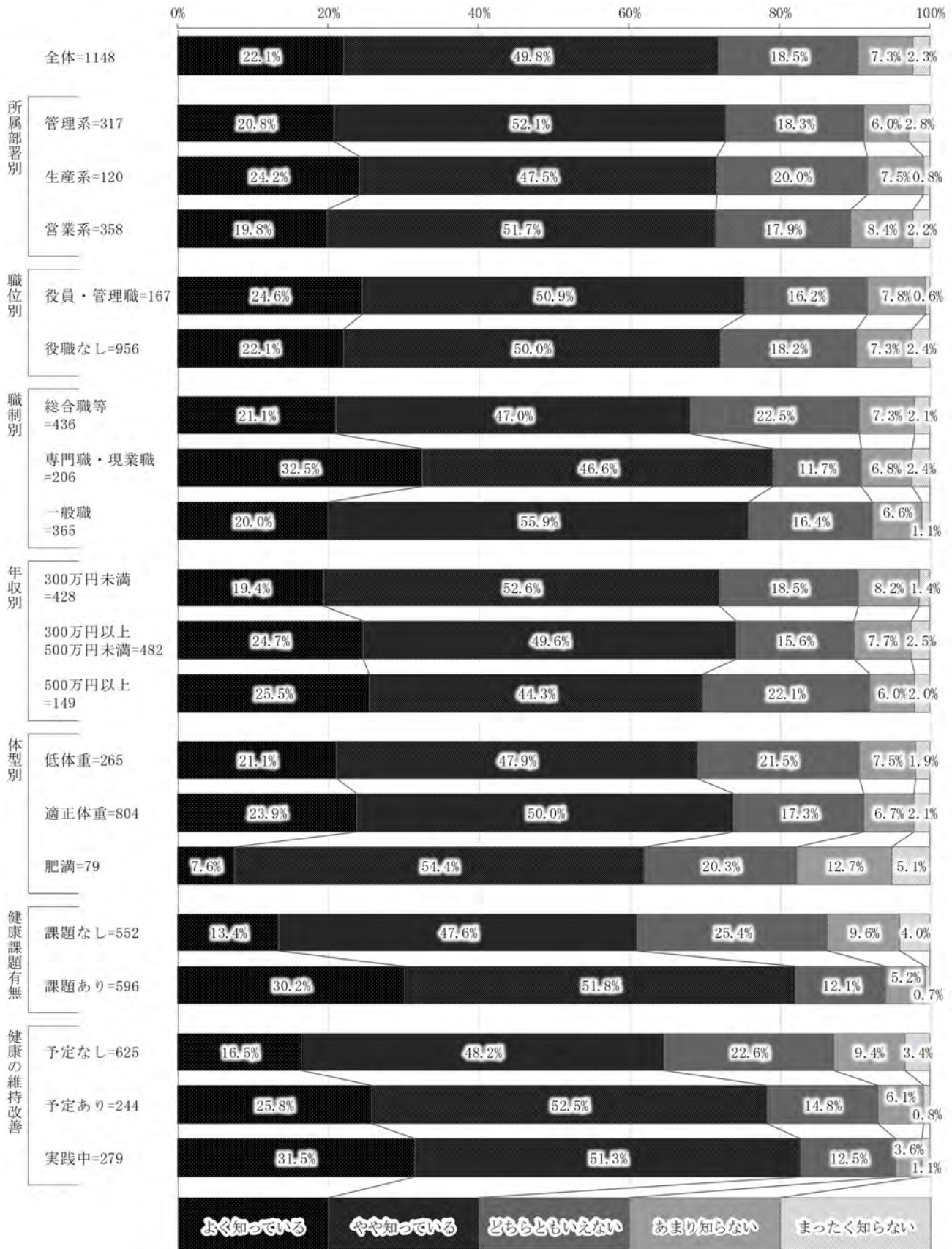


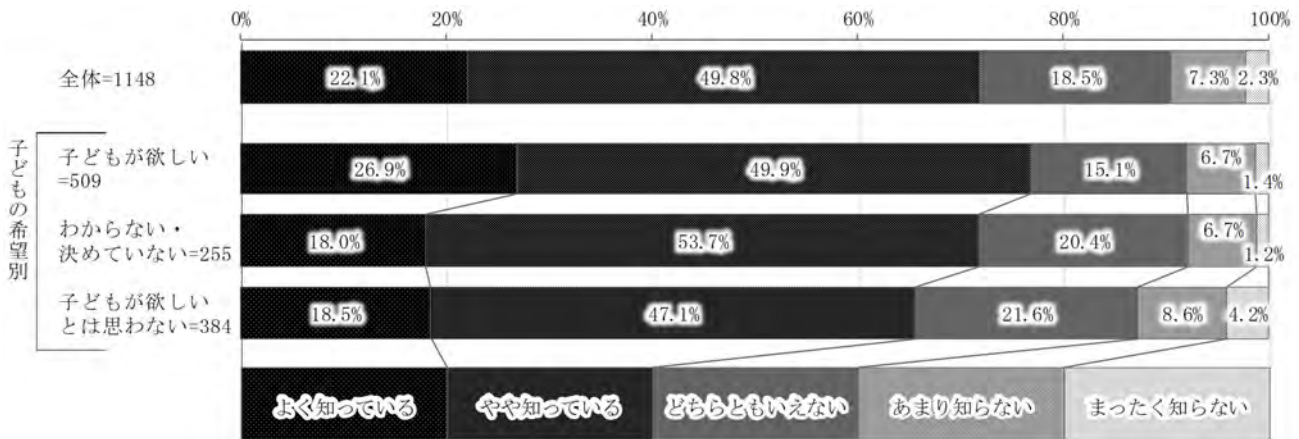
4.3. 女性特有の健康課題の認知度（貧血）

- 貧血についての認知度は、全体では「やや知っている」が49.8%と最も多く、次に多い「よく知っている」を合わせると7割を超え、「あまり知らない」「まったく知らない」の計は1割に満たなかった。
- 「よく知っている」は、職制別で専門職・現業職の回答者、体型別で適正体重の回答者と低体重の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者が多く、「やや知っている」を合わせると、健康の維持改善で実践中の回答者と予定ありの回答者も多い。

図表 4.3.女性特有の健康課題の認知度（貧血）[単一選択]



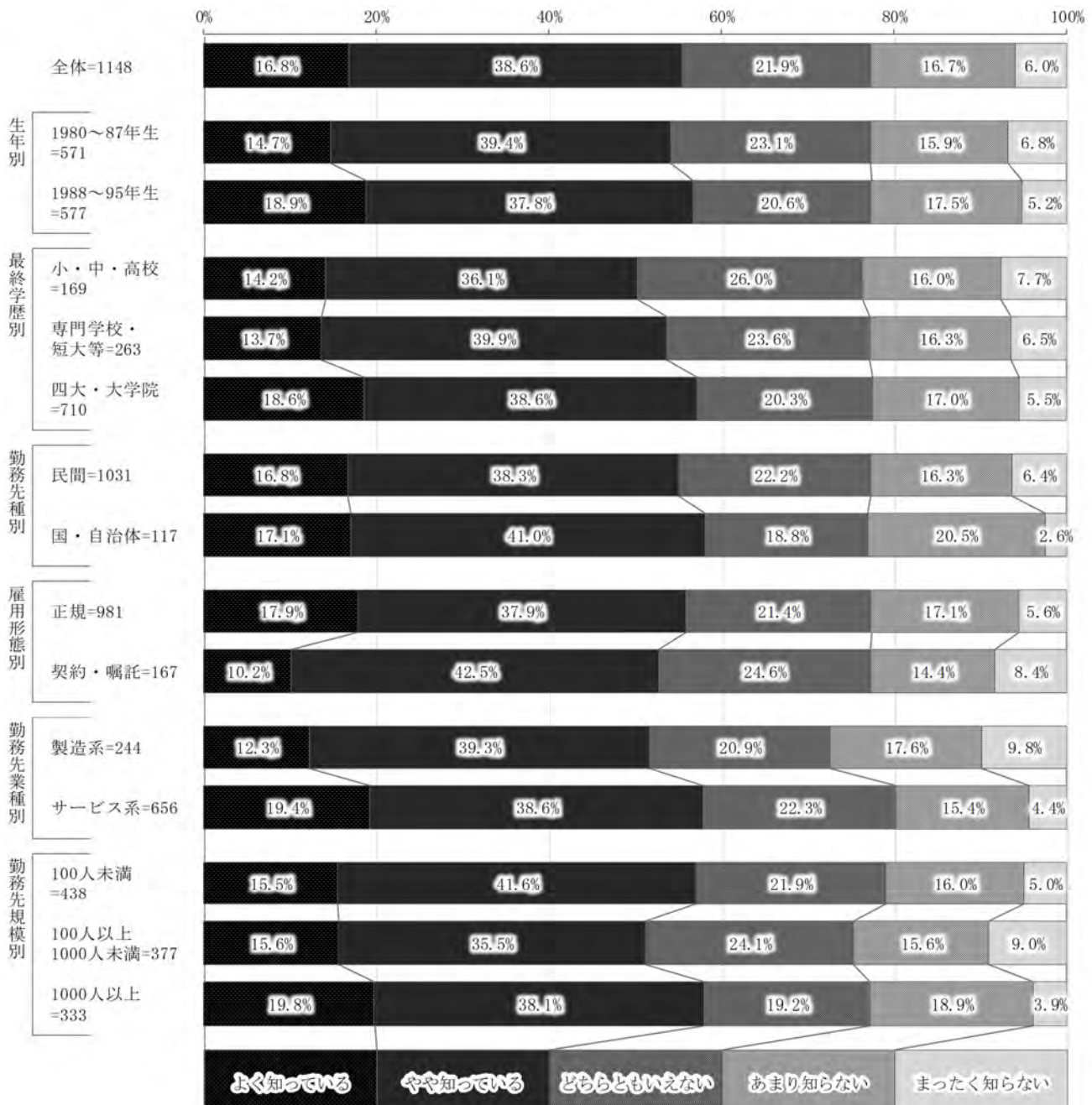


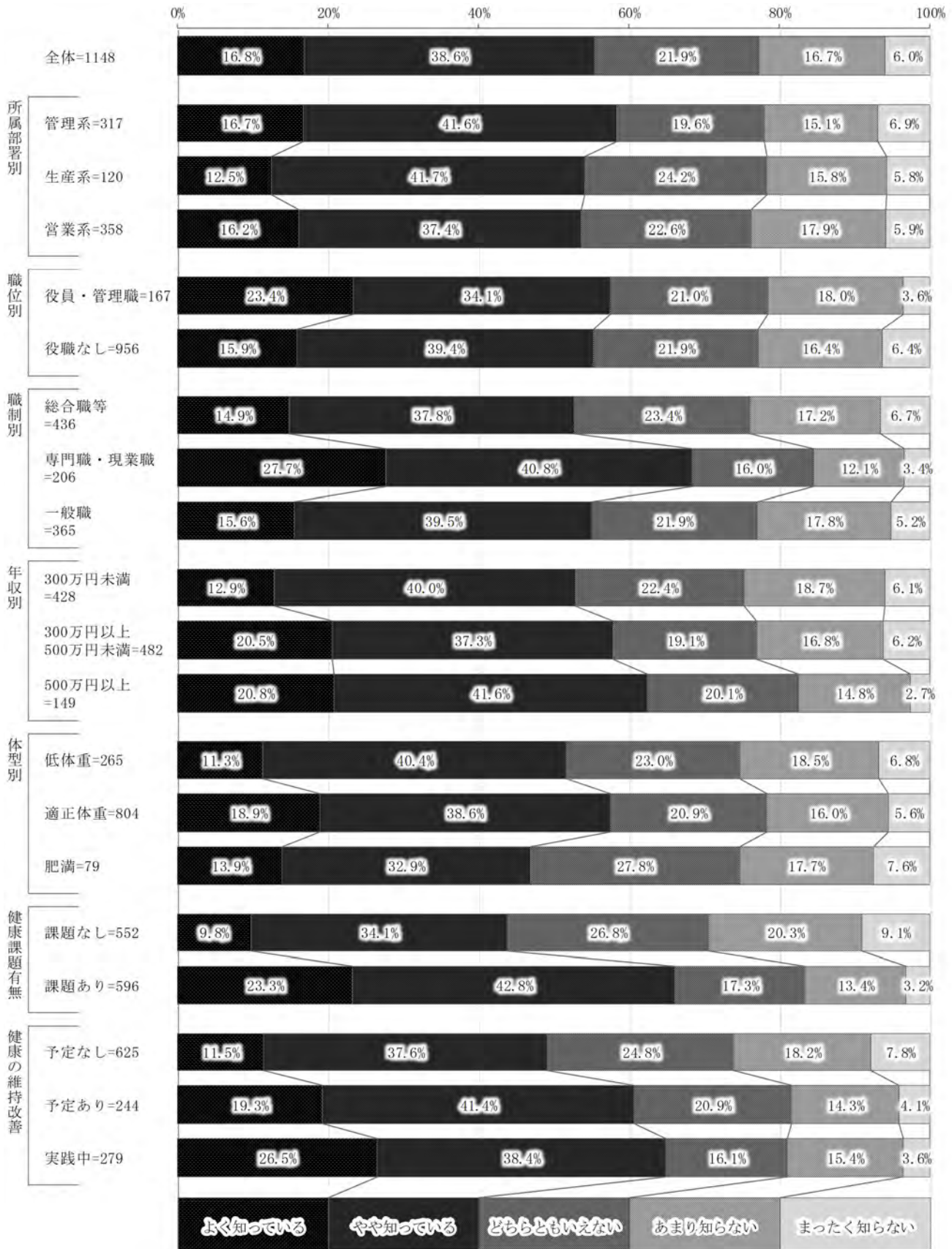


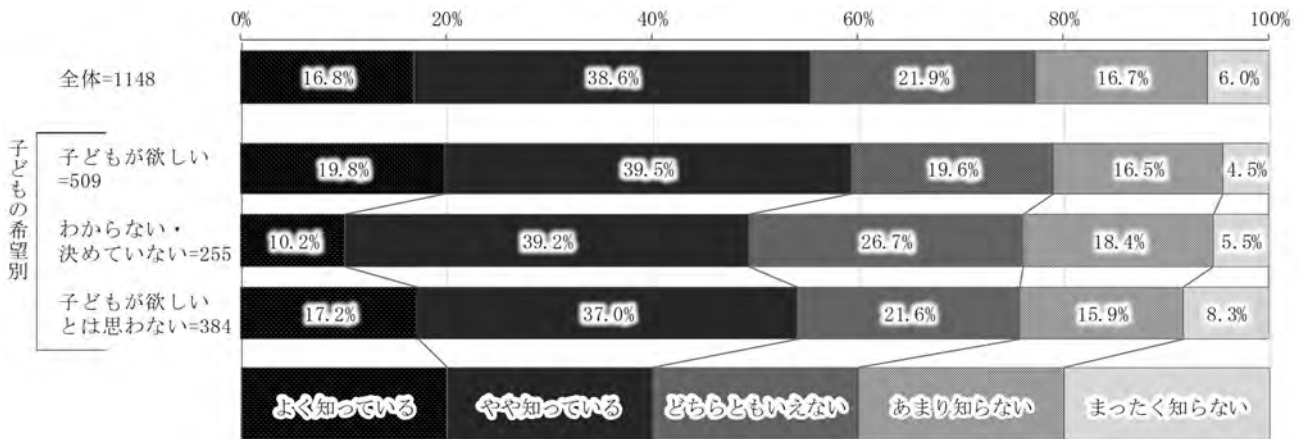
4.4. 女性特有の健康課題の認知度（月経困難症）

- ・月経困難症についての認知度は、全体では「やや知っている」が38.6%と最も多く、「よく知っている」を合わせると約6割に及び、「あまり知らない」「まったく知らない」の計は約2割だった。
- ・「よく知っている」は、職制別で専門職・現業職の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者が多い。

図表 4.4.女性特有の健康課題の認知度（月経困難症）【単一選択】



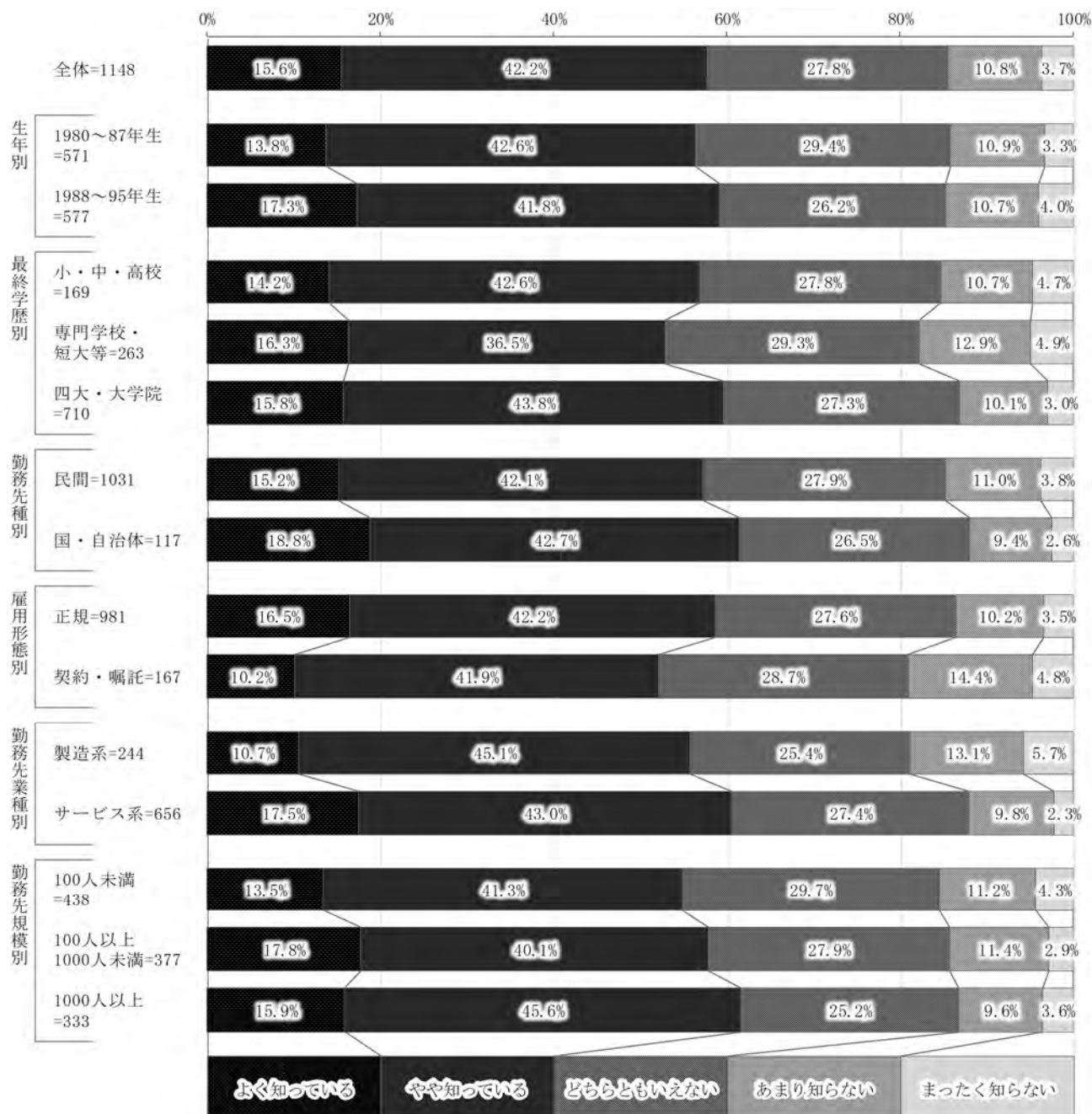


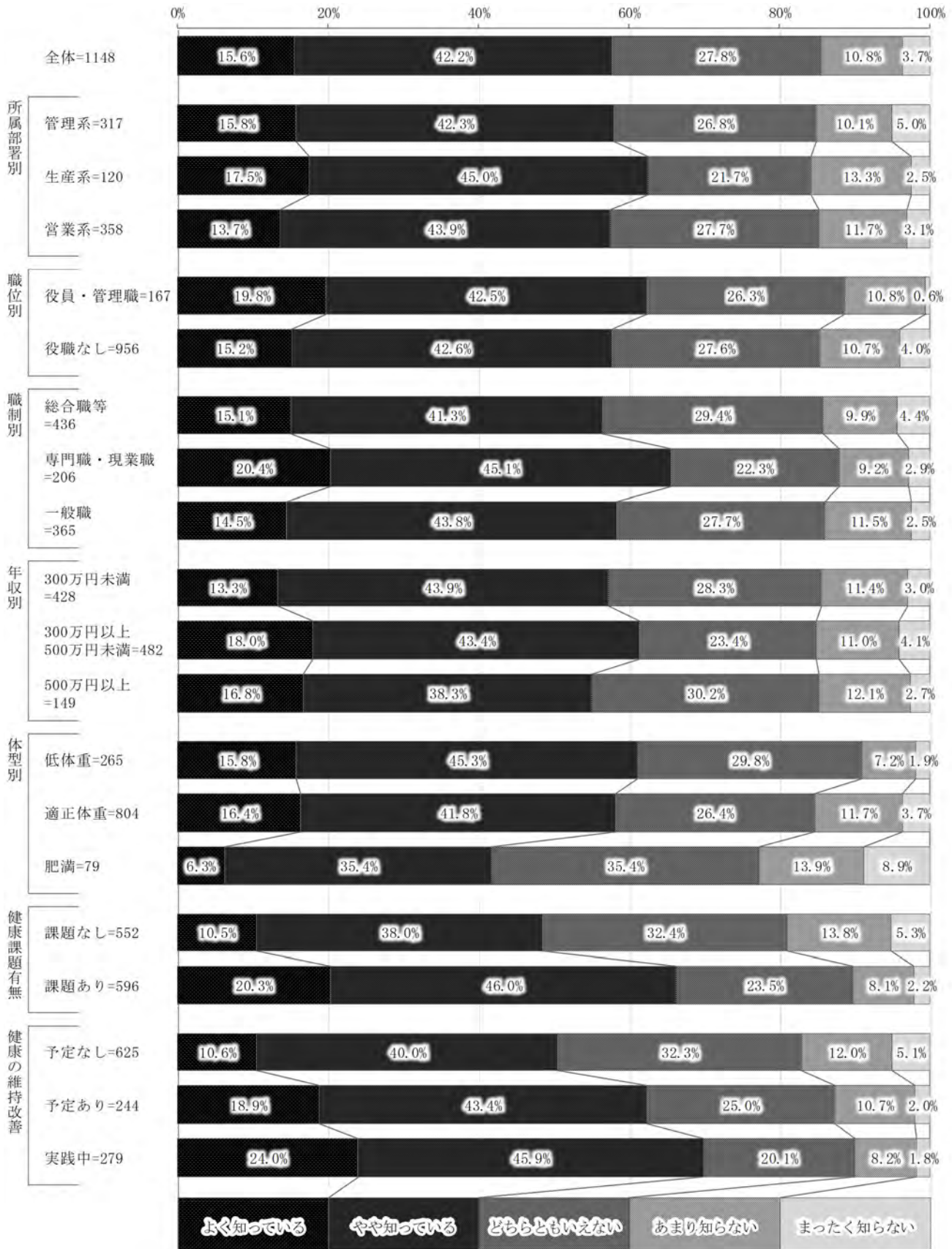


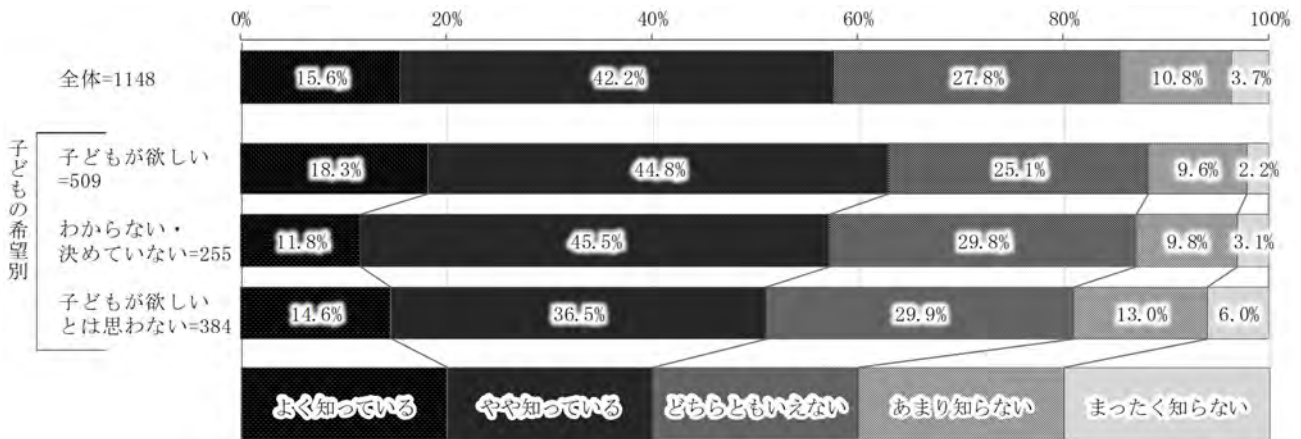
4.5. 女性特有の健康課題の認知度（痩せ）

- 痩せについての認知度は、全体では「やや知っている」が42.2%と最も多く、「よく知っている」を合わせると約6割に及び、「あまり知らない」「まったく知らない」の計は約1割だった。
- 「よく知っている」「やや知っている」の計は、体型別で低体重の回答者と適正体重の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で実践中の回答者と予定ありの回答者が多い。

図表 4.5.女性特有の健康課題の認知度（痩せ）[単一選択]



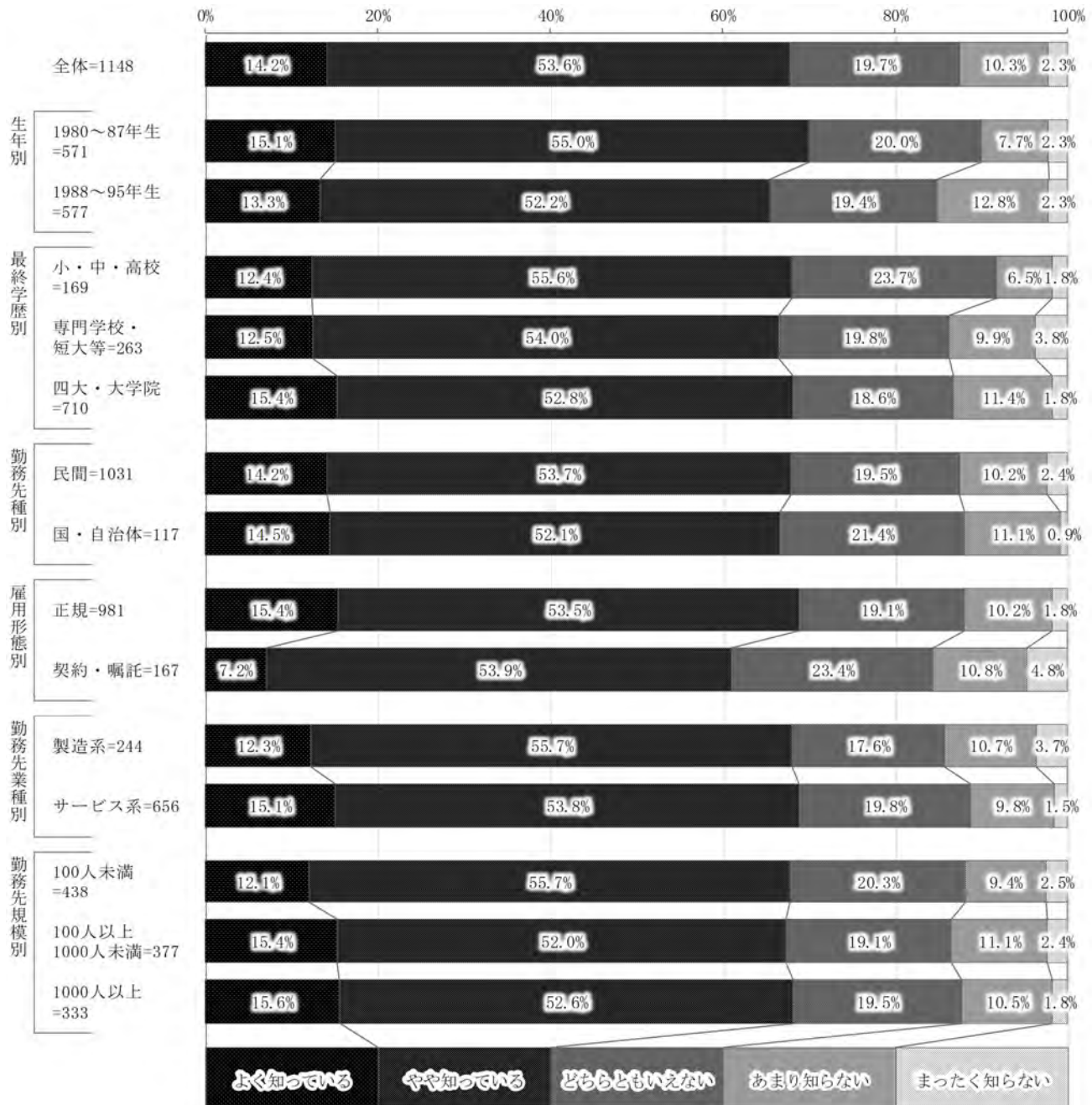


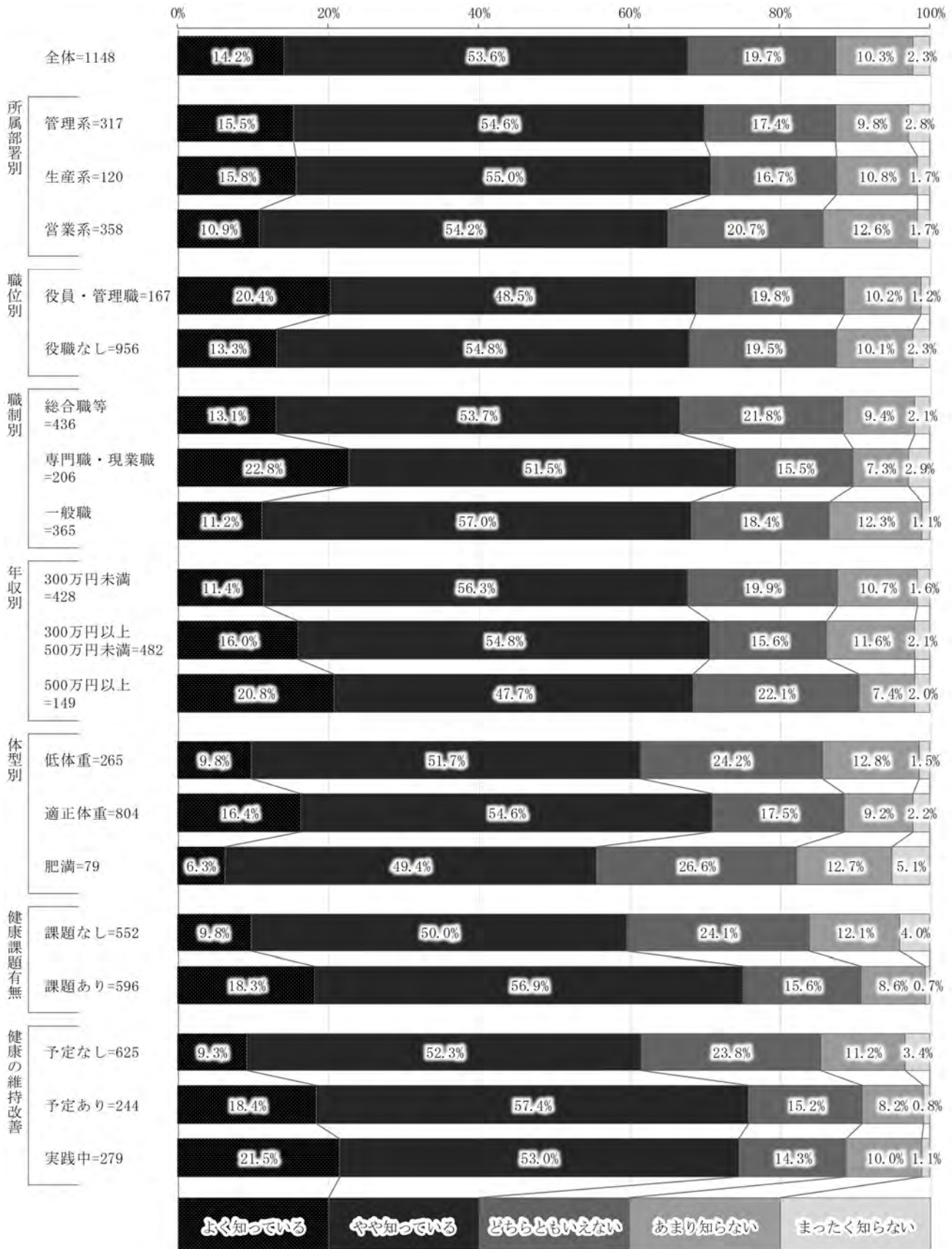


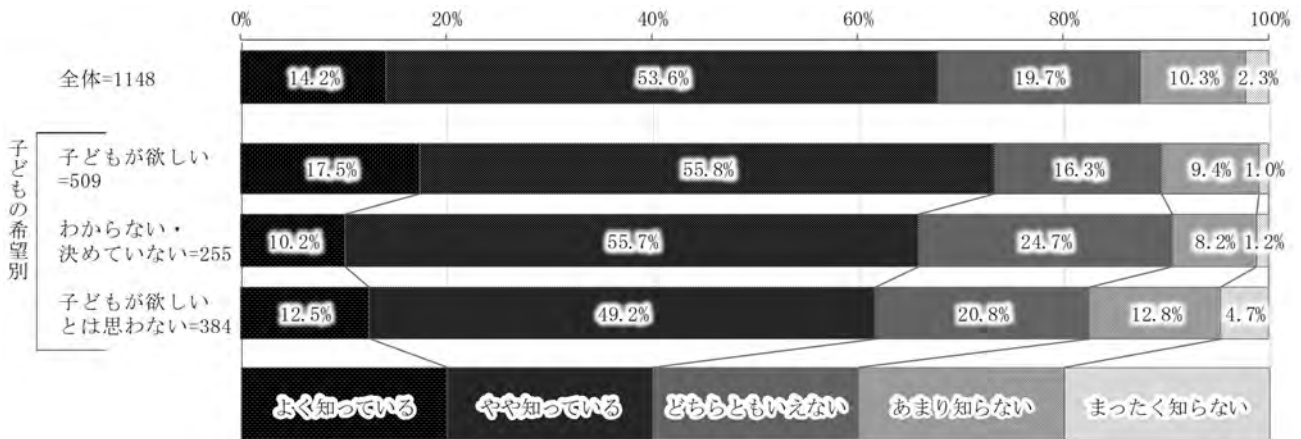
4.6. 女性特有の健康課題の認知度（乳がん）

- 乳がんについての認知度は、全体では「やや知っている」が53.6%と最も多く、「よく知っている」を合わせると約7割に及び、「あまり知らない」「まったく知らない」の計は約1割だった。
- 「よく知っている」「やや知っている」の計は、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で予定ありの回答者と実践中の回答者が多い。

図表 4.6.女性特有の健康課題の認知度（乳がん）[単一選択]



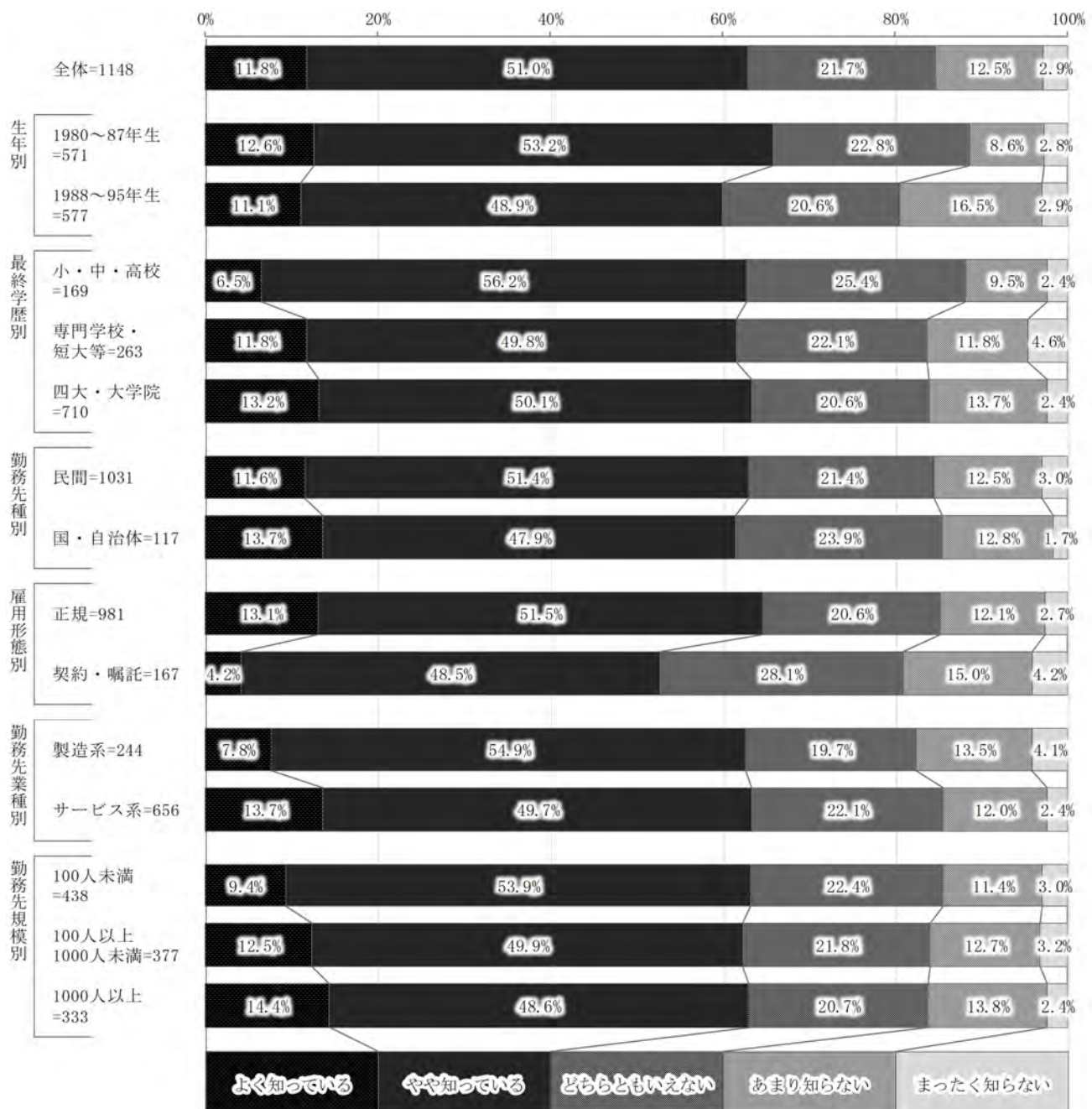


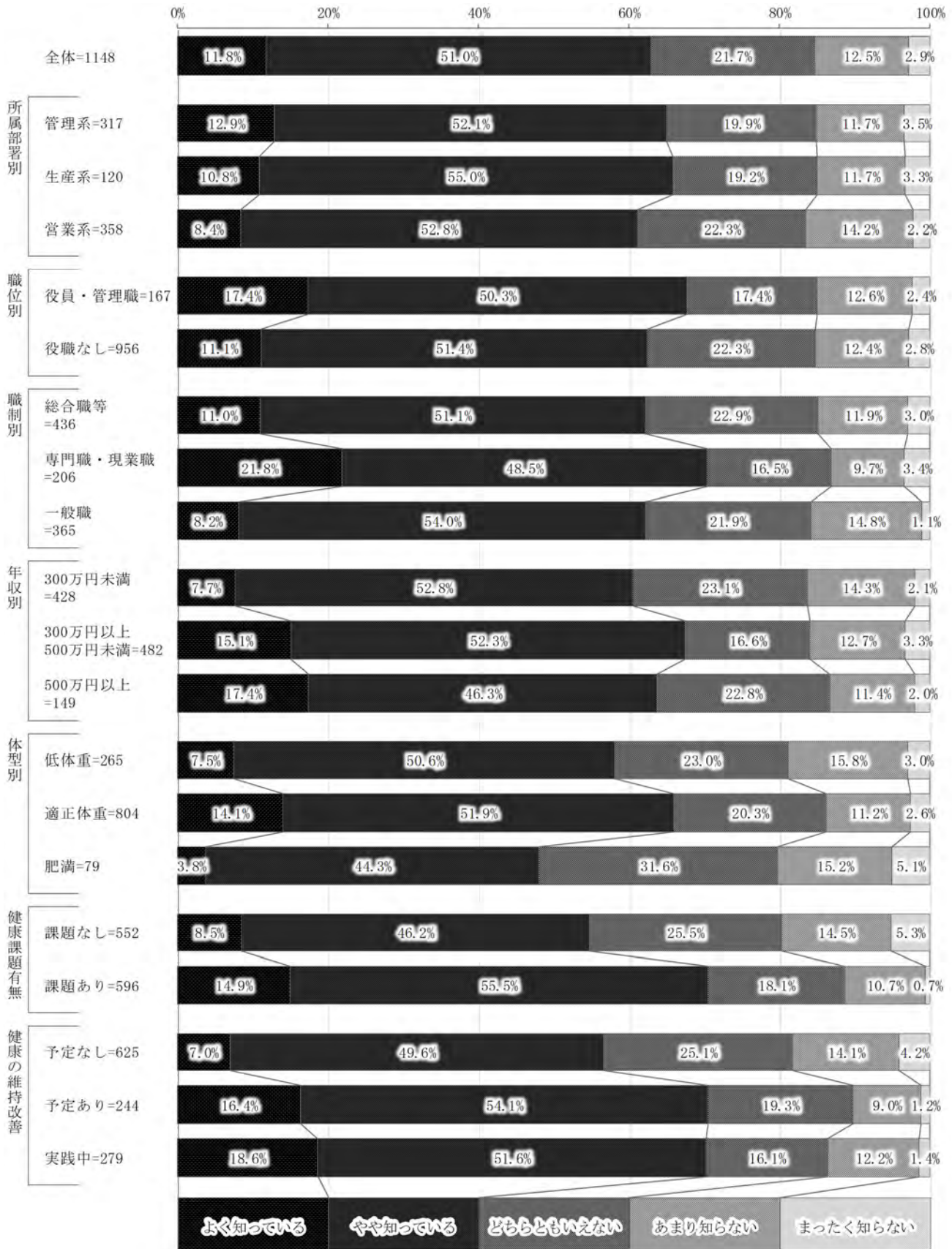


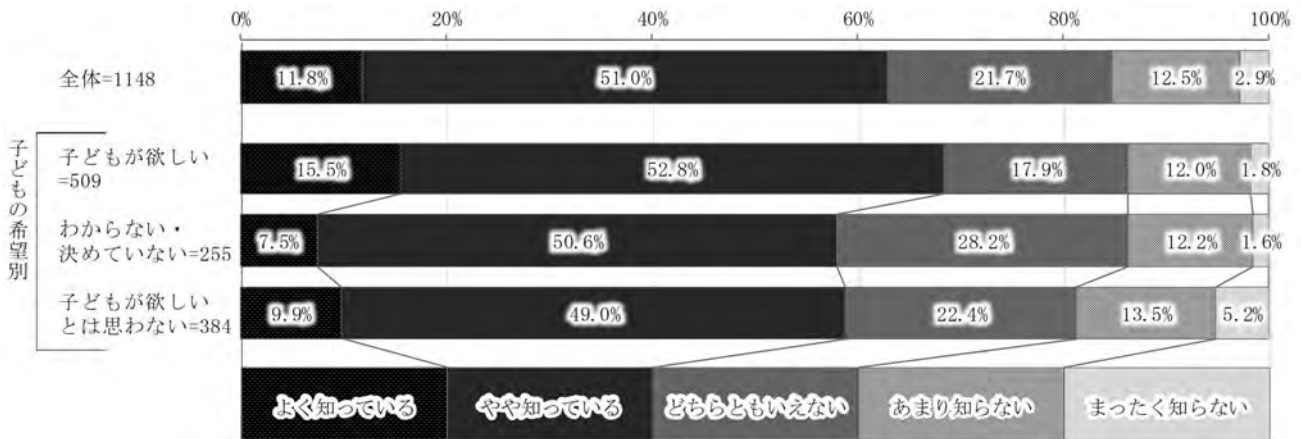
4.7. 女性特有の健康課題の認知度（子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん）

- ・子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がんについての認知度は、全体では「やや知っている」が51.0%と最も多く、「よく知っている」を合わせると6割を超え、「あまり知らない」「まったく知らない」の計は2割に満たなかった。
- ・「よく知っている」は、職制別で専門職・現業職の回答者が多く、「よく知っている」「やや知っている」の計は、雇用形態別で正規の回答者、体型別で適正体重の回答者、低体重の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で予定ありの回答者と実践中の回答者が多い。

図表 4.7.女性特有の健康課題の認知度（子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん）[単一選択]



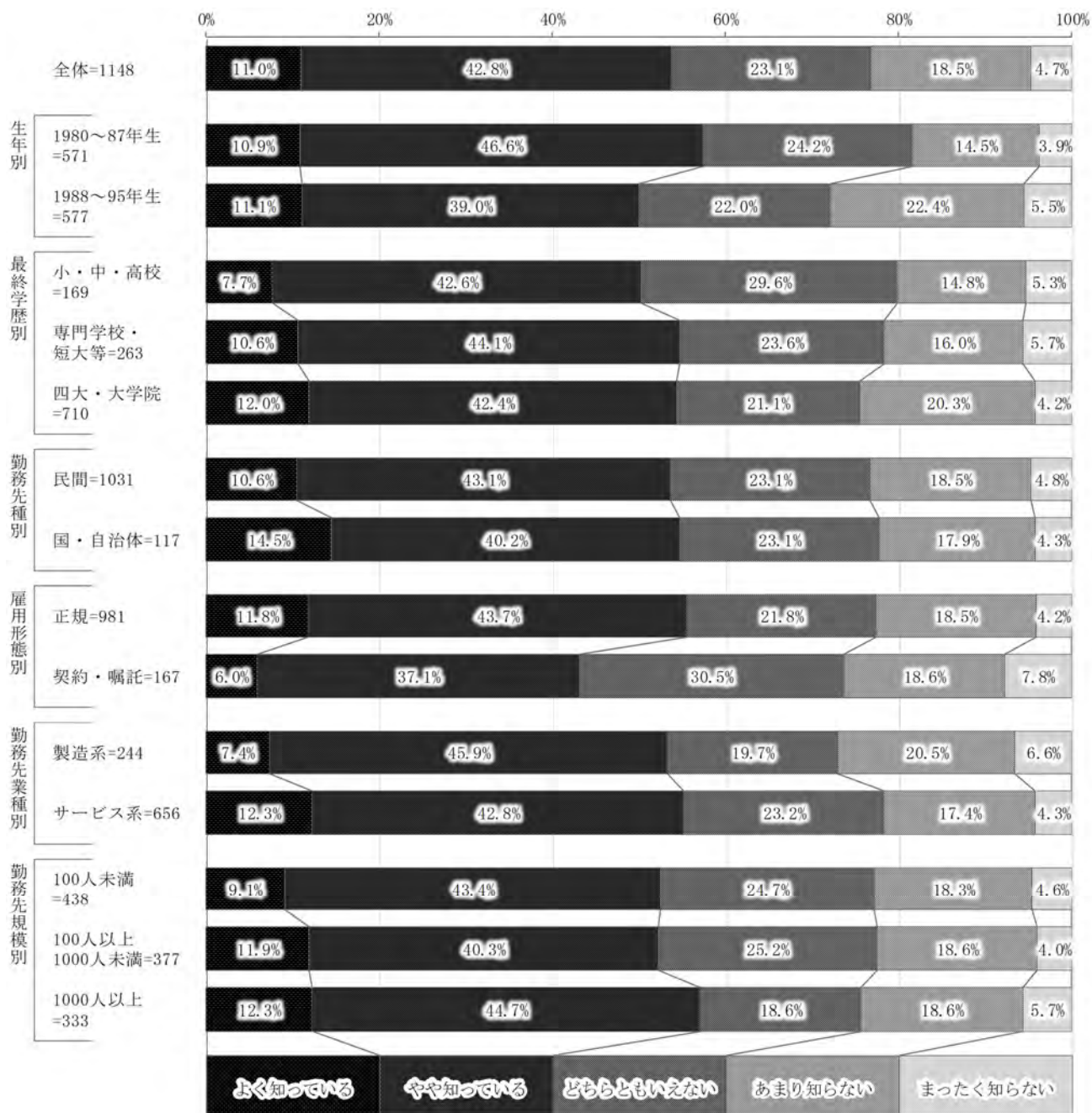


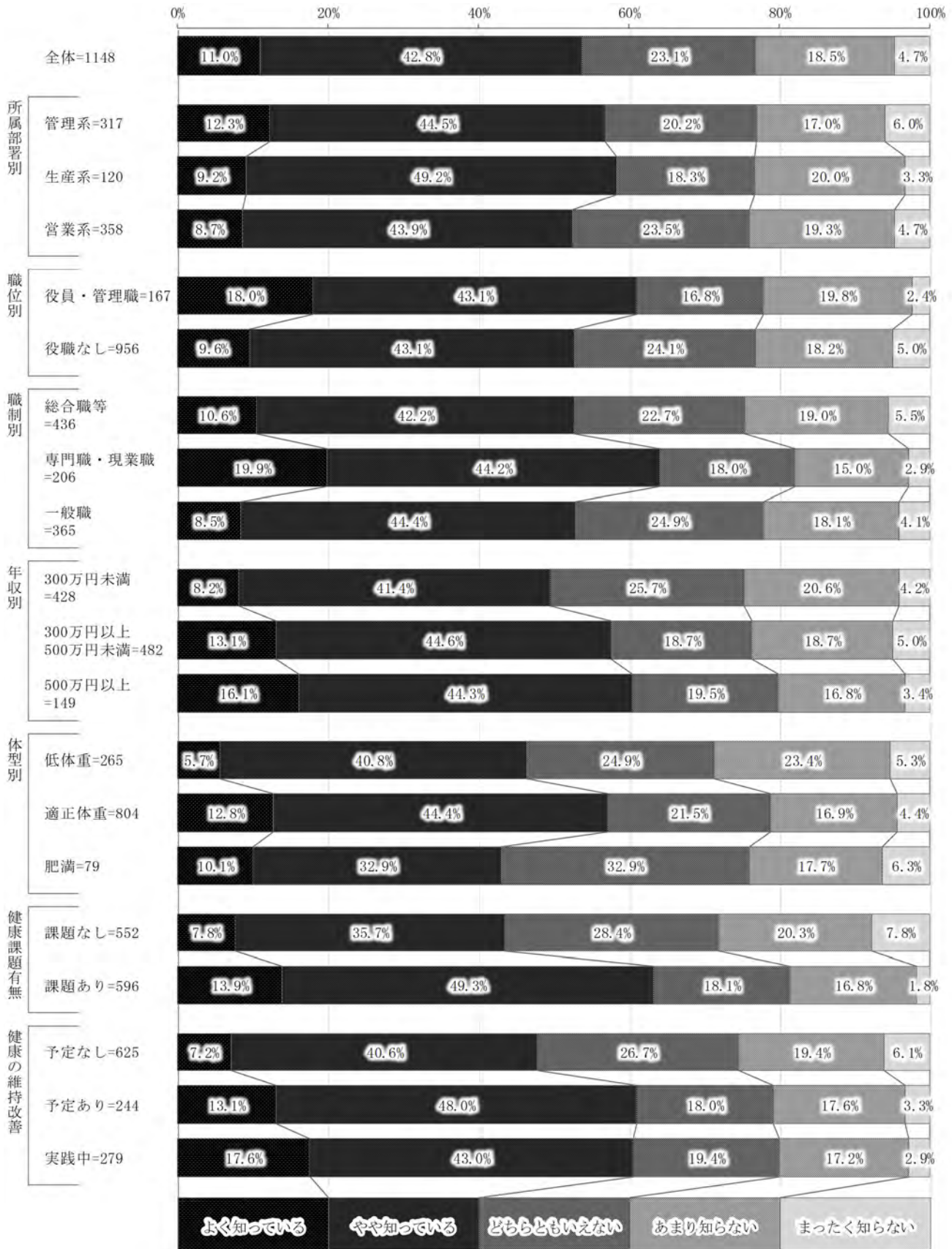


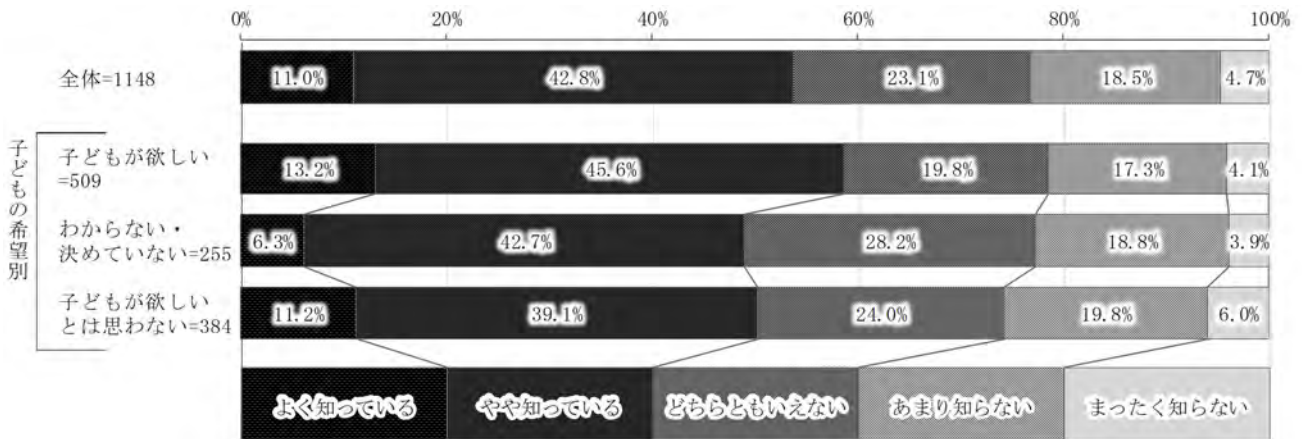
4.8. 女性特有の健康課題の認知度（子宮内膜症）

- 子宮内膜症についての認知度は、全体では「やや知っている」が42.8%と最も多く、「よく知っている」を合わせると5割を超え、「あまり知らない」「まったく知らない」の計は約2割だった。
- 「よく知っている」「やや知っている」の計は、雇用形態別で正規の回答者、職制別で専門職・現業職の回答者、体型別で適正体重の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で予定ありの回答者と実践中の回答者が多い。

図表 4.8. 女性特有の健康課題の認知度（子宮内膜症）[単一選択]



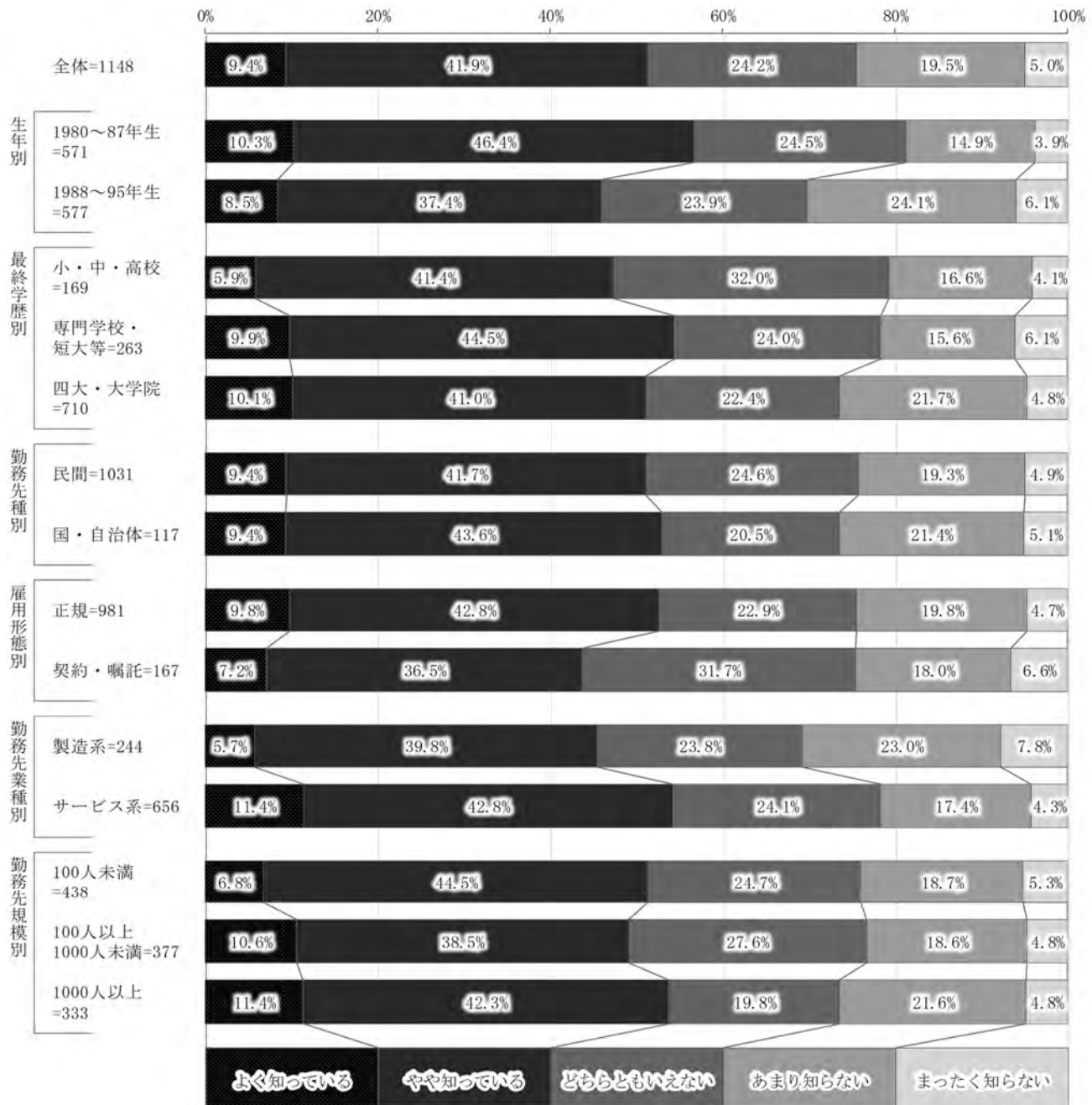


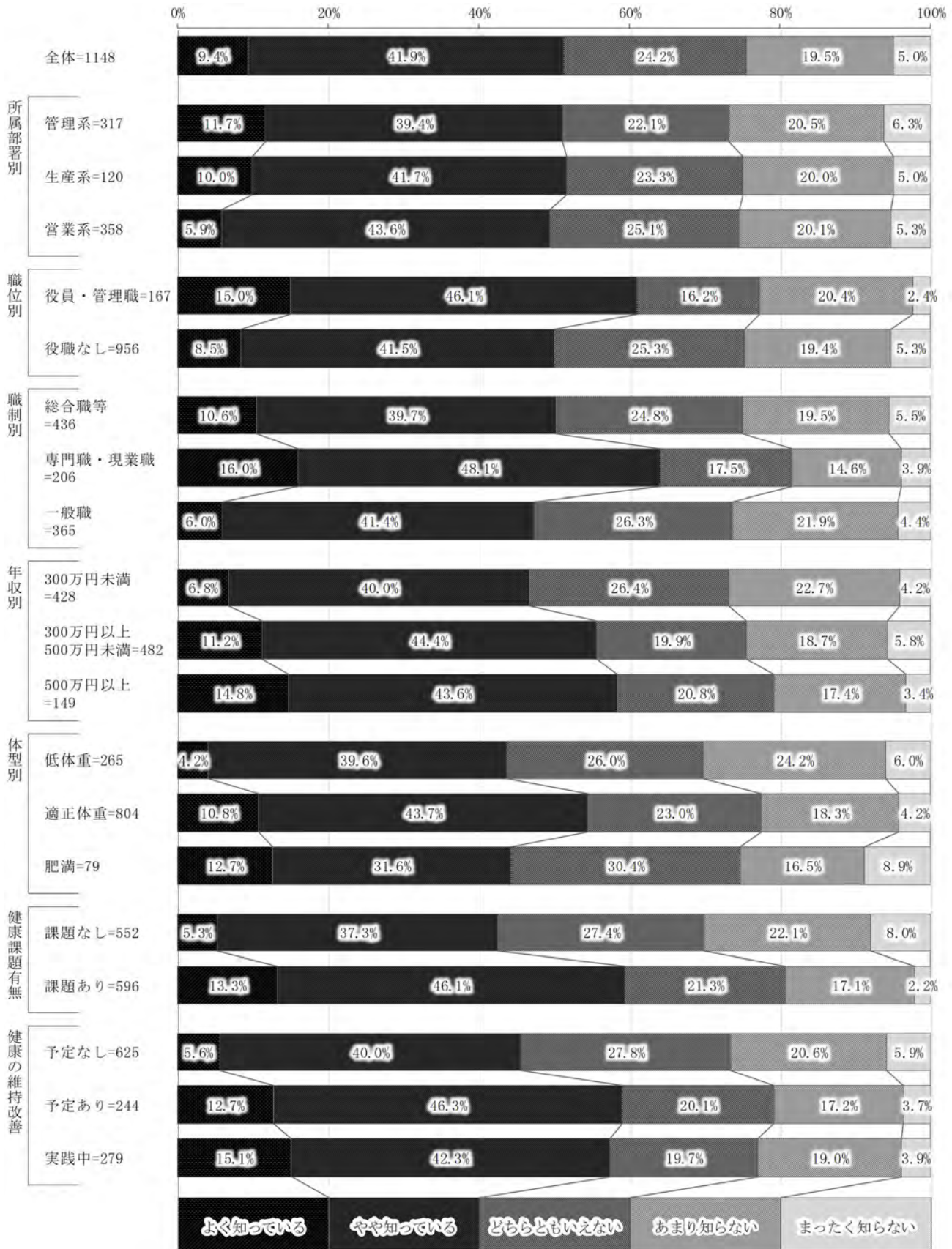


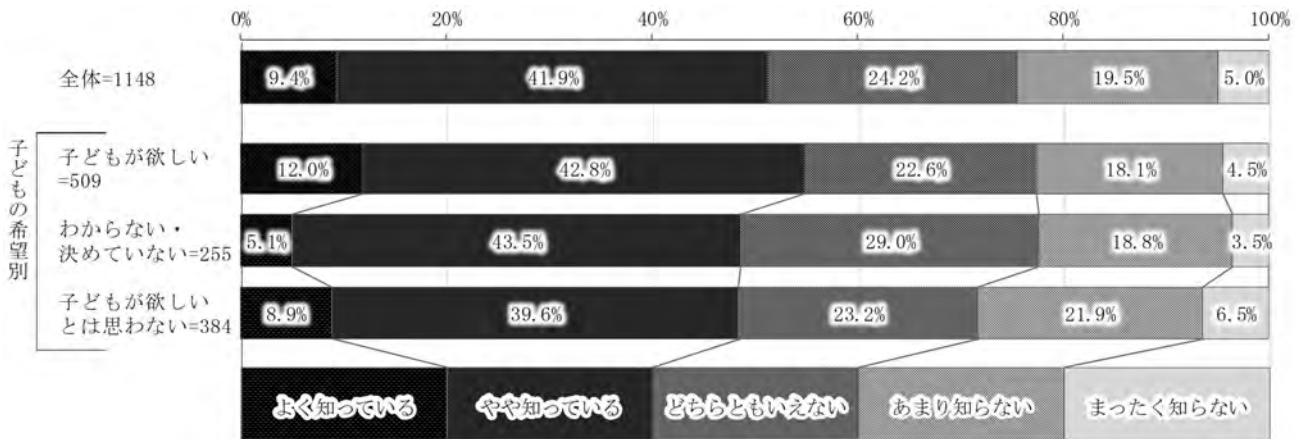
4.9. 女性特有の健康課題の認知度（子宮筋腫）

- 子宮筋腫についての認知度は、全体では「やや知っている」が41.9%と最も多く、「よく知っている」を合わせると5割を超え、「あまり知らない」「まったく知らない」の計は約2割だった。
- 「よく知っている」「やや知っている」の計は、生年別で1980～87年生の回答者、職位別で役員・管理職の回答者、職制別で専門職・現業職の回答者、体型別で適正体重の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で実践中の回答者と予定ありの回答者が多い。

図表 4.9.女性特有の健康課題の認知度（子宮筋腫）【単一選択】



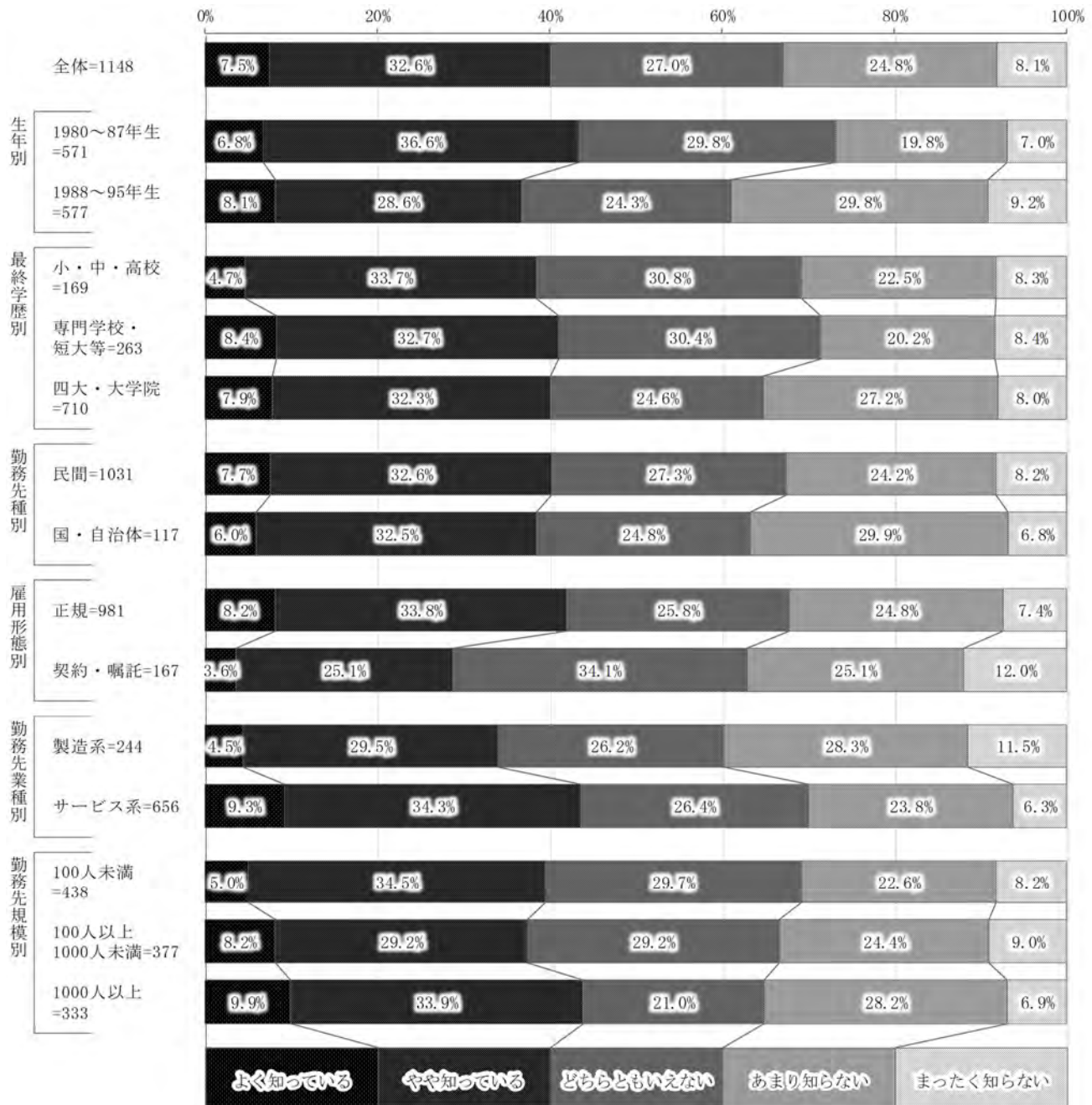


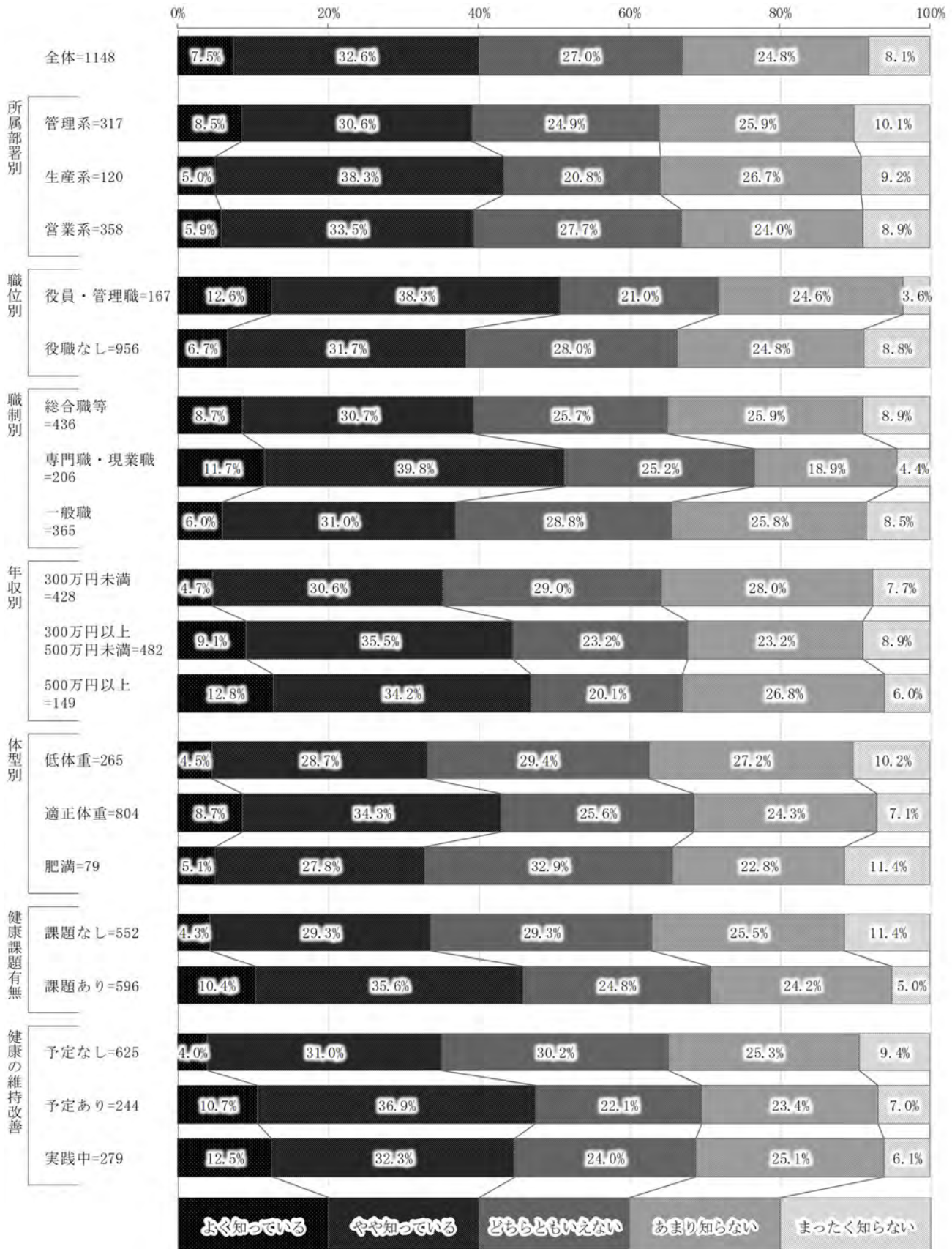


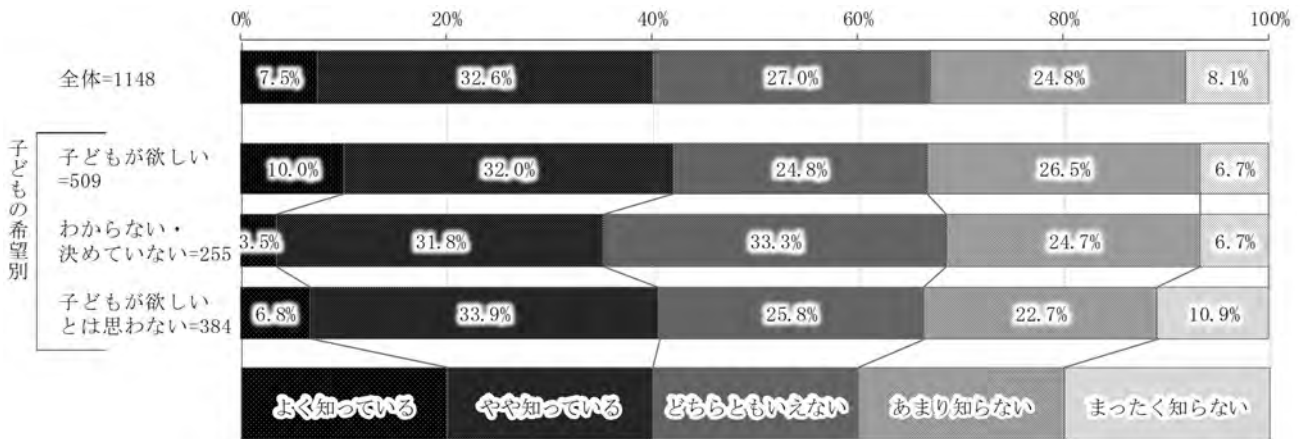
4.10. 女性特有の健康課題の認知度（卵巣のう腫）

- 卵巣のう腫についての認知度は、全体では「やや知っている」が32.6%と最も多く、「よく知っている」を合わせると4割を超え、「あまり知らない」「まったく知らない」の計は約3割だった。
- 「よく知っている」「やや知っている」の計は、雇用形態別で正規の回答者、職位別で役員・管理職の回答者、職制別で専門職・現業職の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者が多い。また生年別の1988～95年生の回答者は「まったく知らない」「あまり知らない」の計が多い。

図表 4.10. 女性特有の健康課題の認知度（卵巣のう腫）【単一選択】



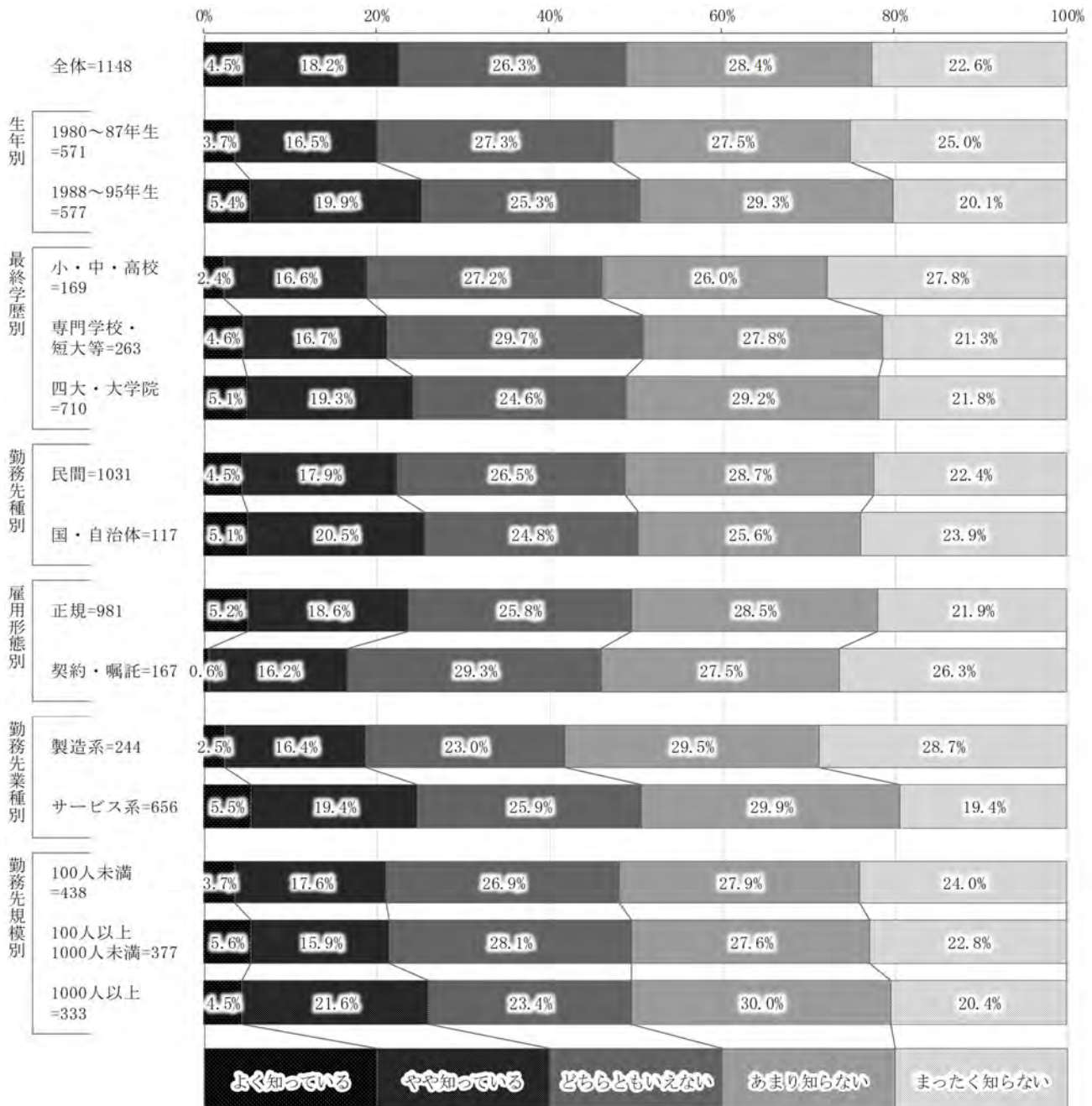


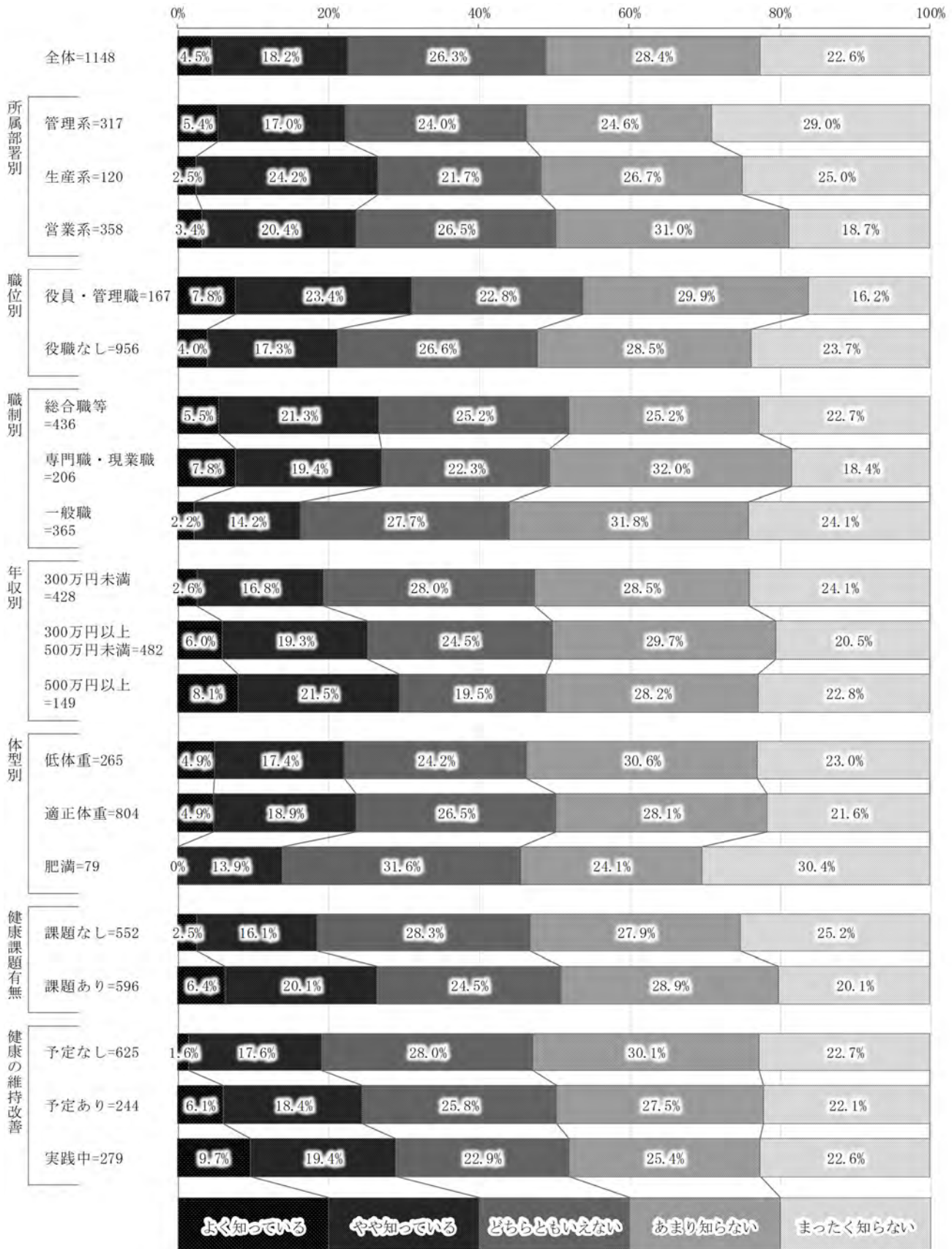


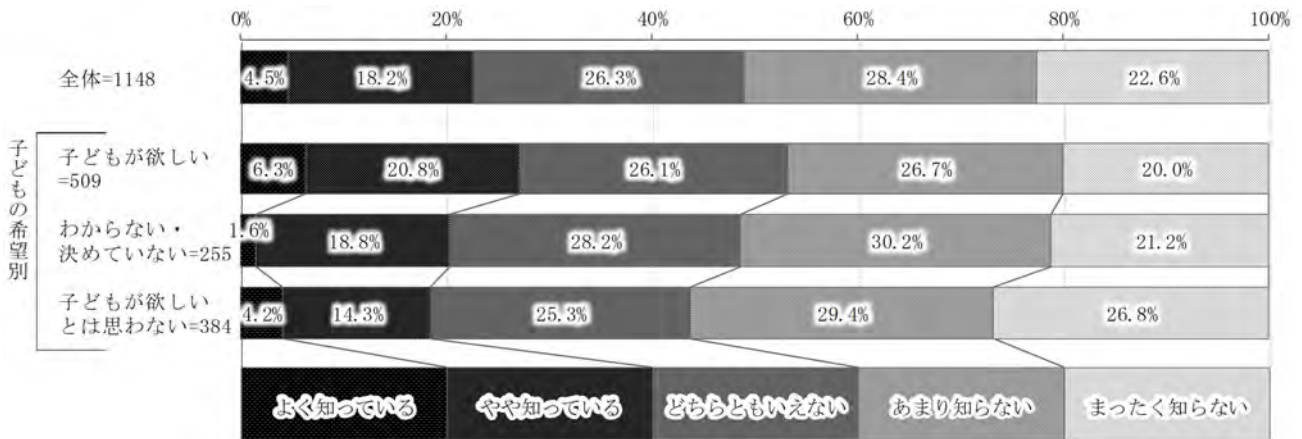
4.11. 女性特有の健康課題の認知度（新型栄養失調）

- 新型栄養失調についての認知度は、全体では「あまり知らない」が28.4%と最も多く、「まったく知らない」を合わせると5割を超え、「やや知っている」「よく知っている」の計は約2割だった。
- 子どもが欲しいと回答している女性のうち、「あまり知らない」「まったく知らない」と回答した女性は約半数に上る。

図表 4.11. 女性特有の健康課題の認知度（新型栄養失調） [単一選択]



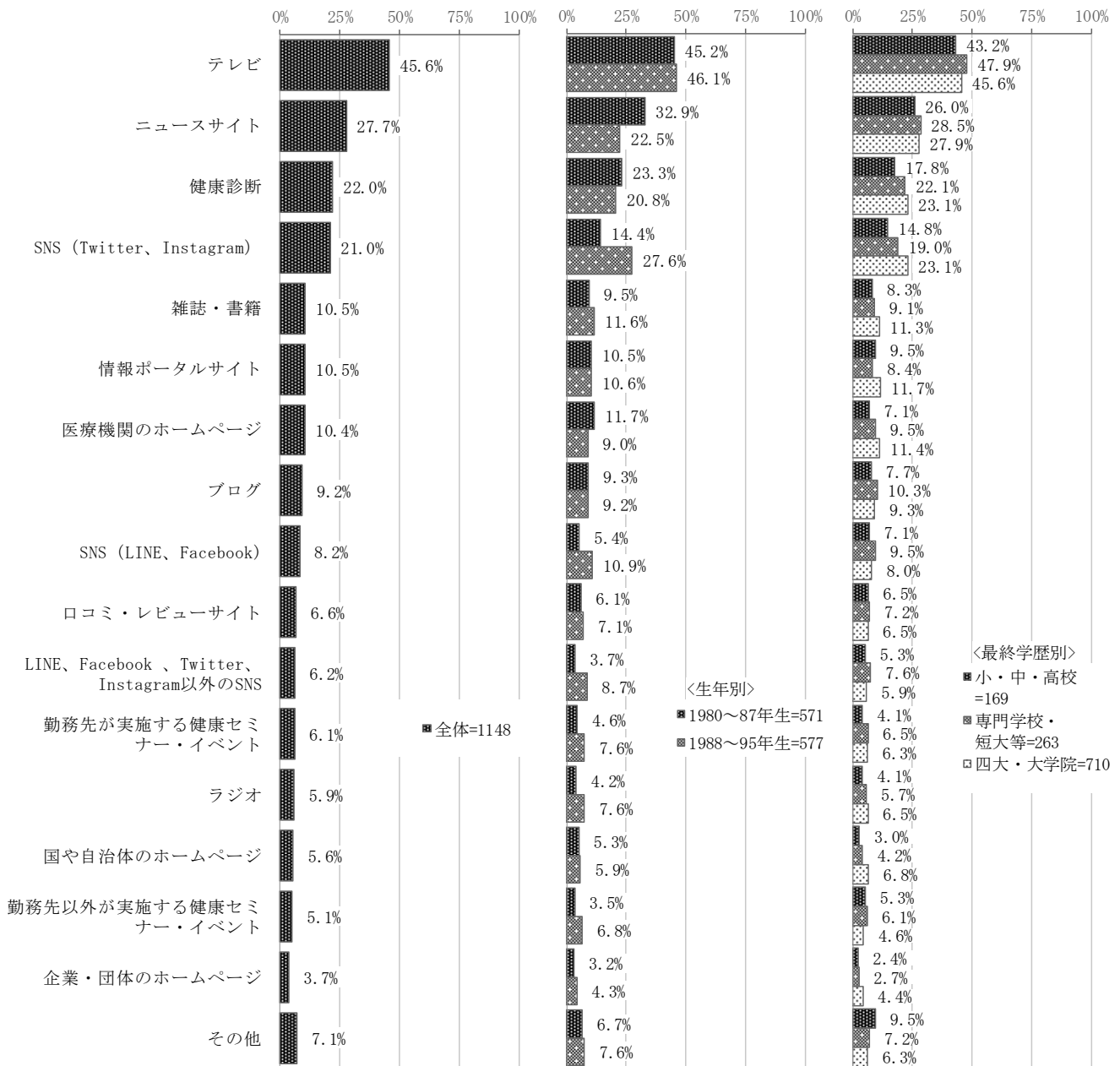


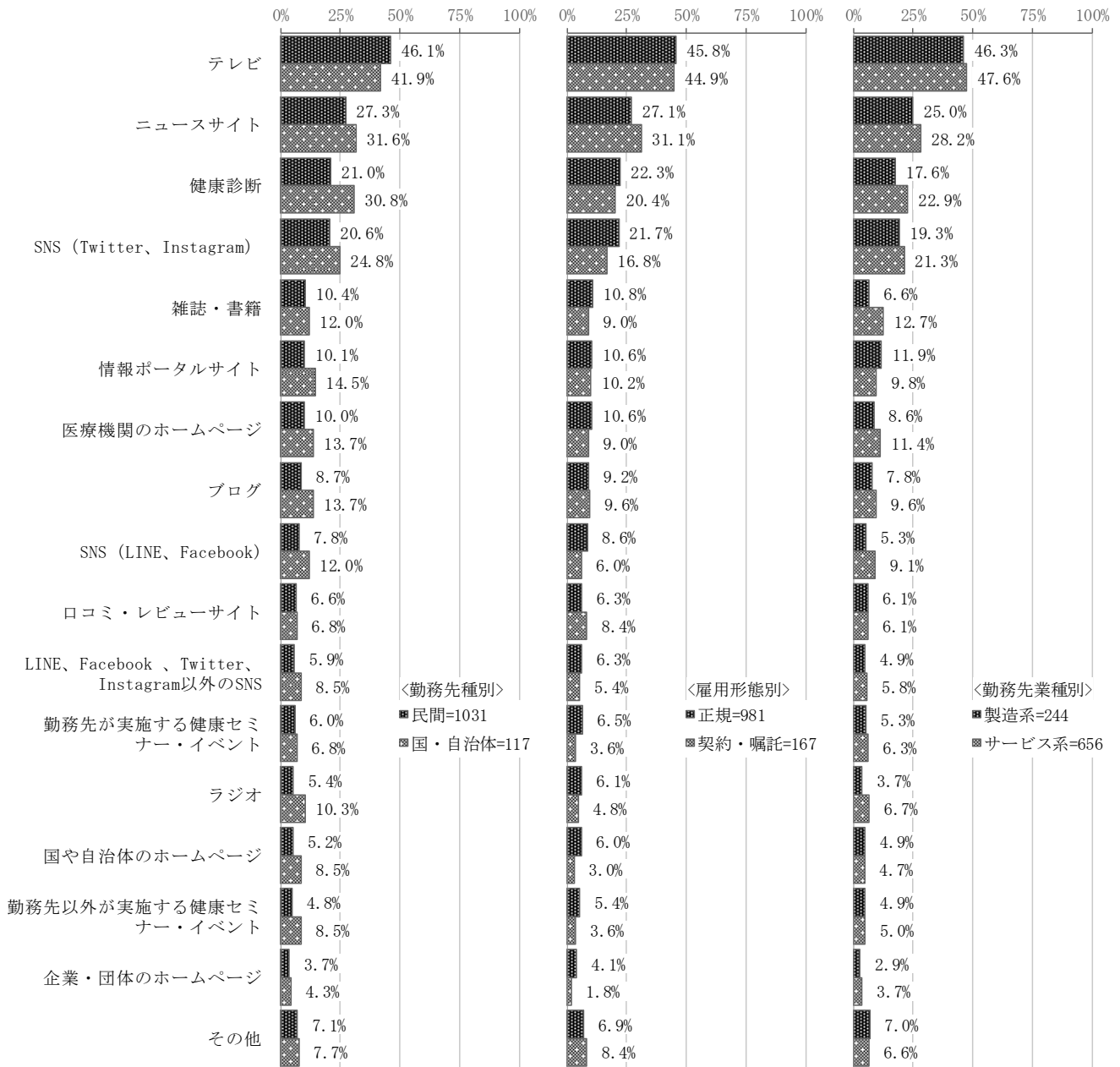


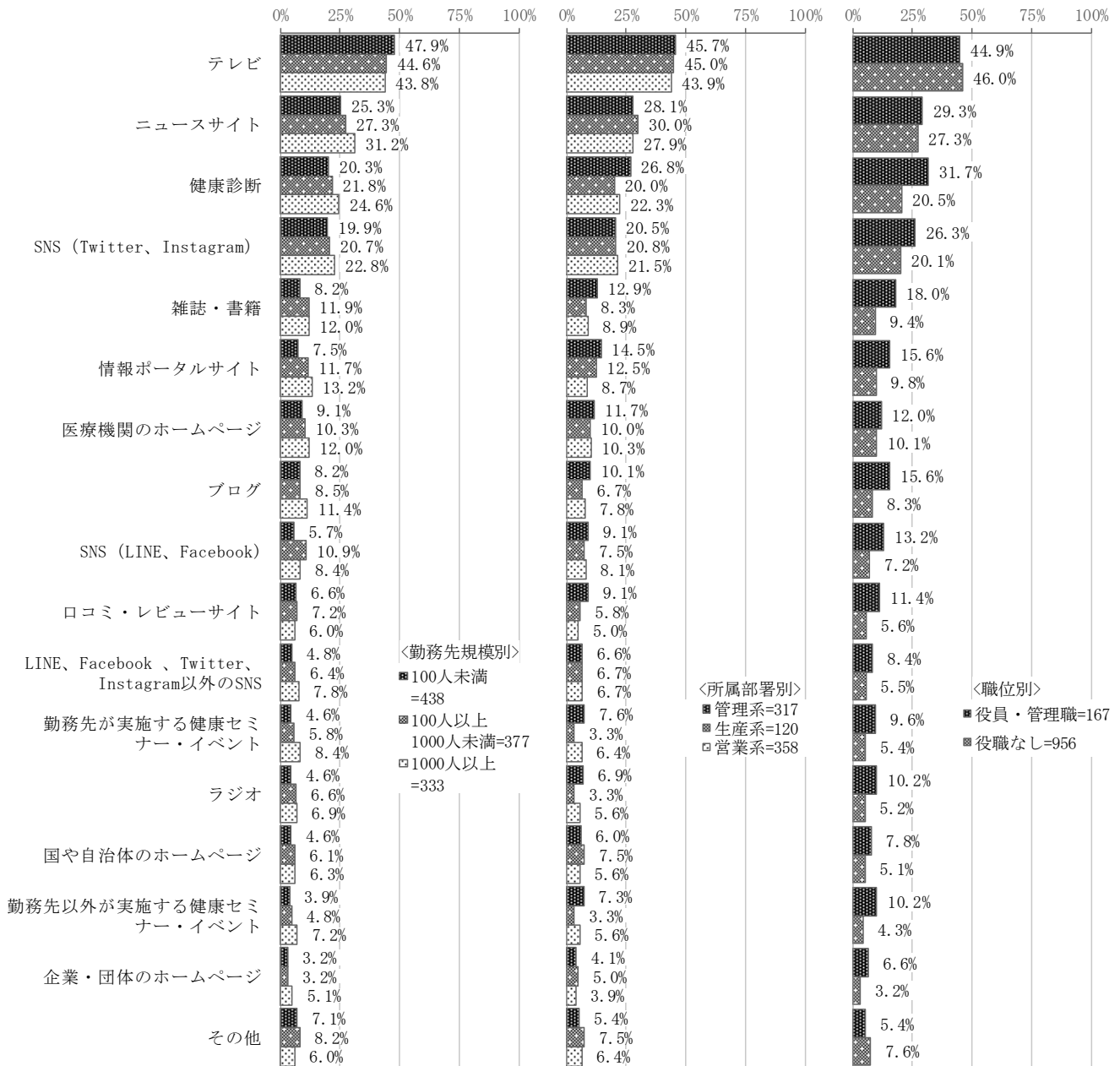
5. 女性特有の健康課題の認知経路

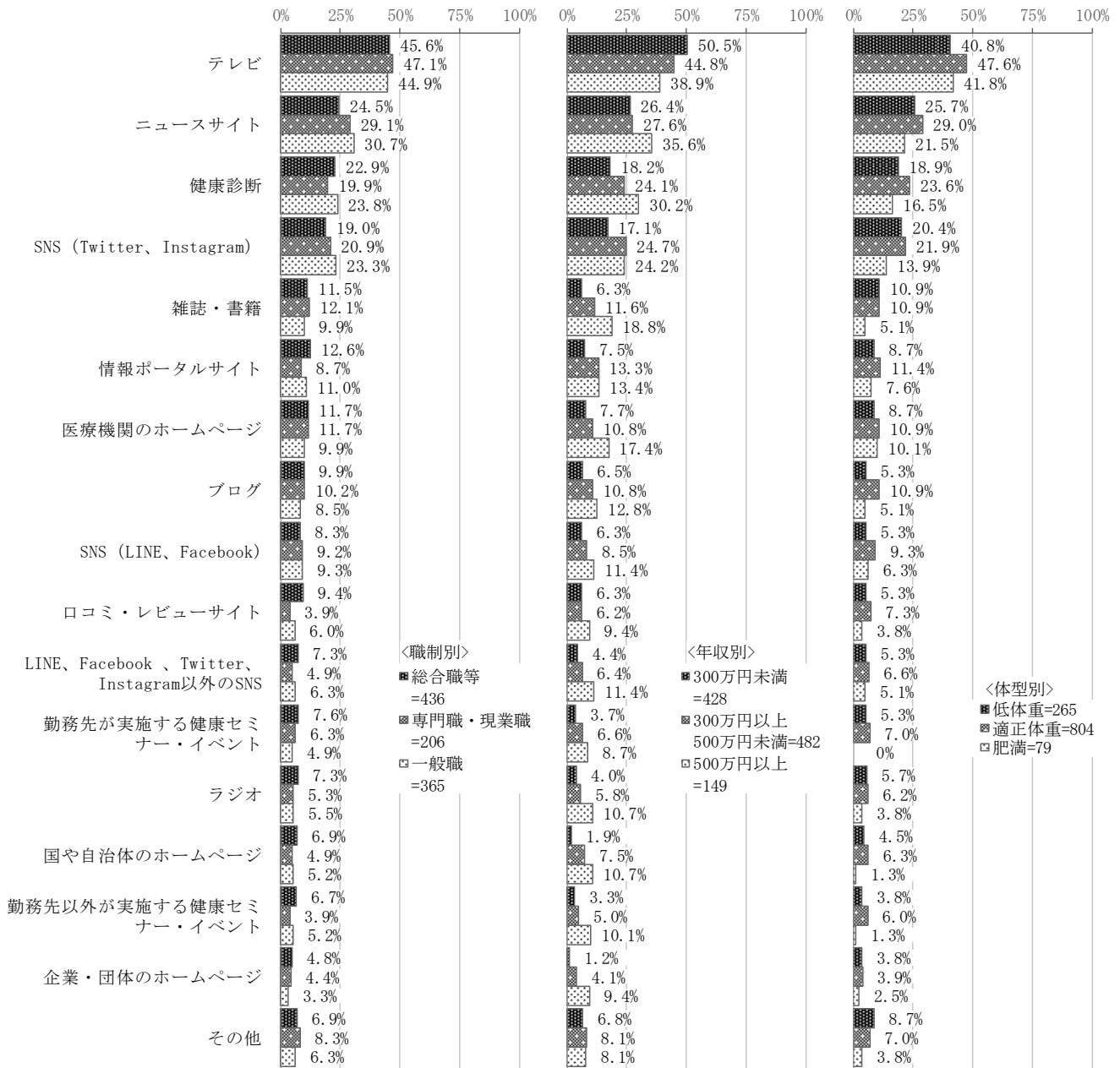
- 女性特有の健康課題について、前問で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者に、どのような機会を通じて知ることがあるか尋ねた。それぞれの認知経路をいずれかの健康課題で選択している回答者について、属性に該当する調査全体の回答者数に対する比を集計したところ、全体では「テレビ」が45.6%と最も多く、「ニュースサイト」27.7%、「健康診断」22.0%、「SNS (Twitter、Instagram)」21.0%と続いた。
- 「テレビ」は健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で予定ありの回答者と実践中の回答者が多い。
- 「ニュースサイト」は、生年別で1980～87年生の回答者、健康の維持改善で予定ありの回答者と実践中の回答者が多い。
- 「健康診断」は、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で実践中の回答者と予定ありの回答者が多い。
- 「SNS (Twitter、Instagram)」は、生年別で1988～95年生の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者が多い。

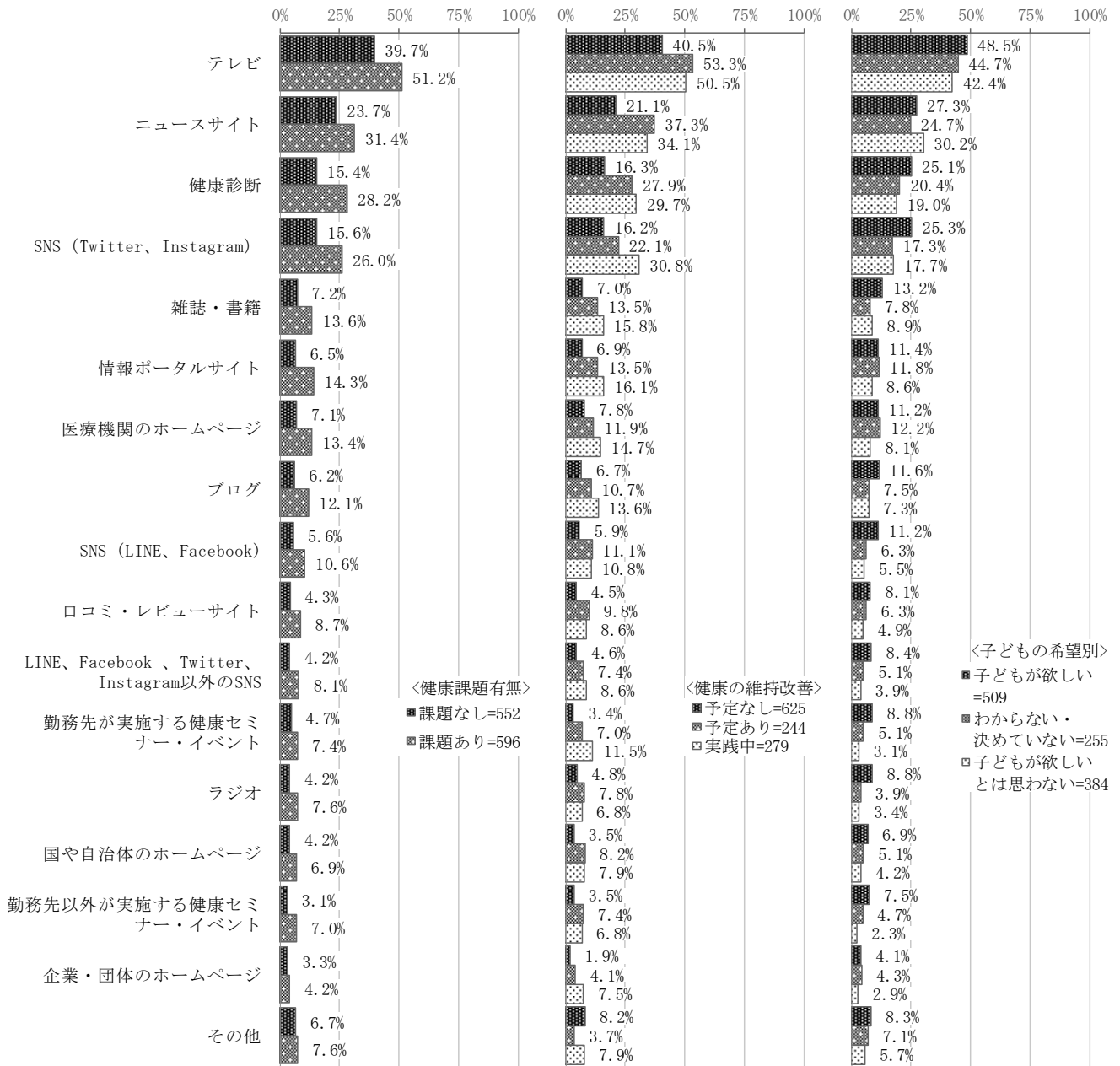
図表 5.女性特有の健康課題の認知経路[複数選択]

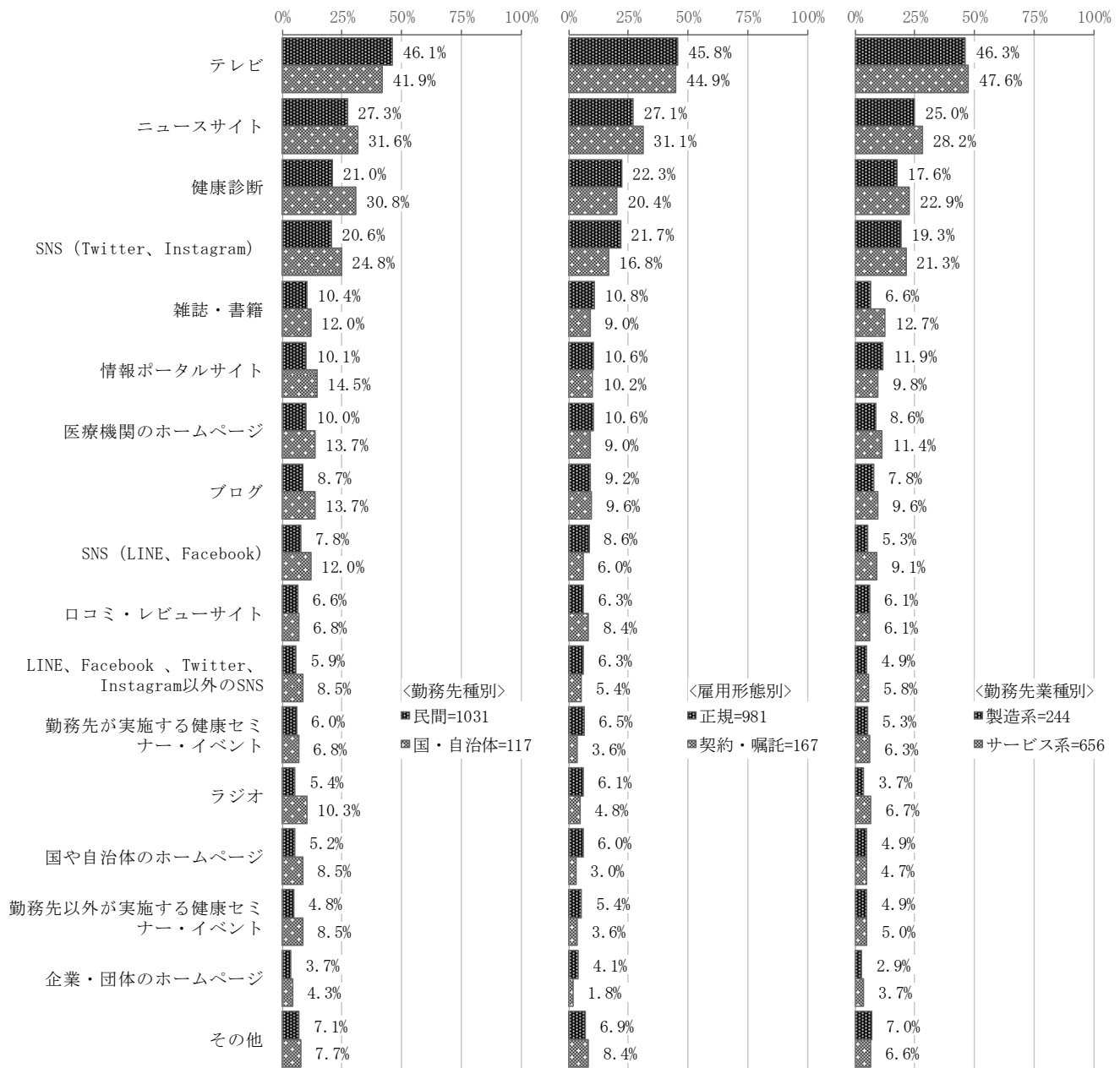


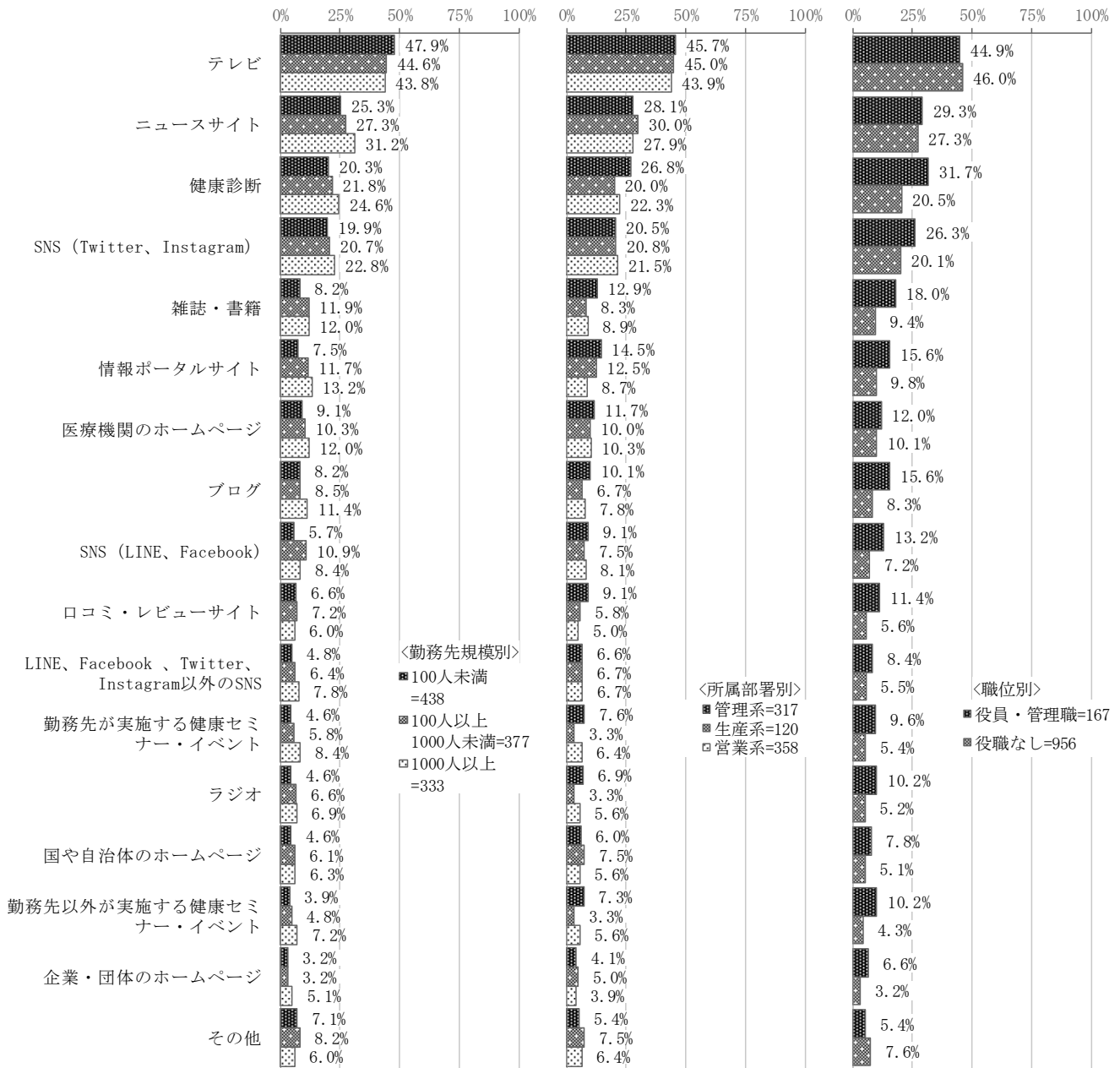


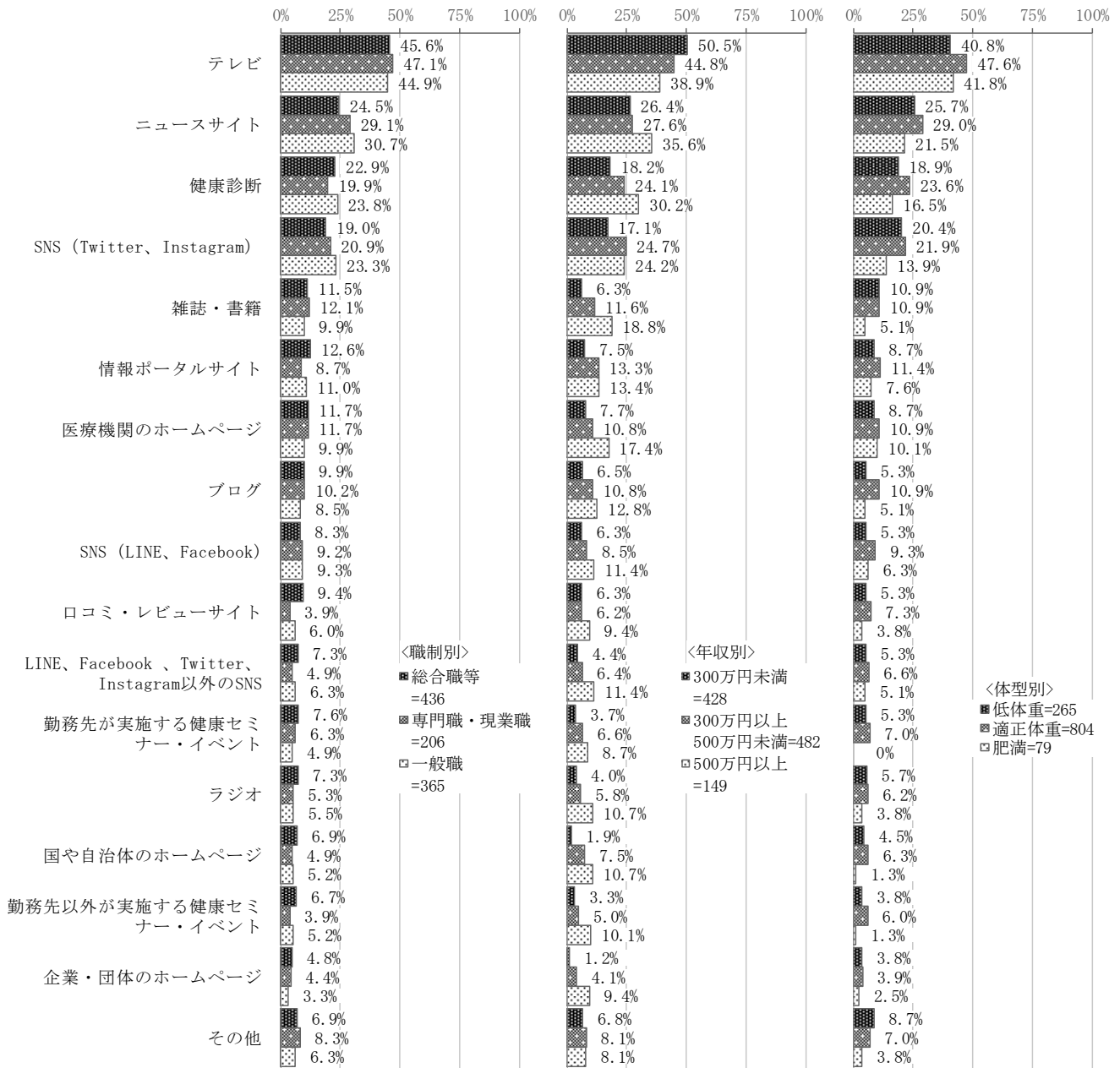


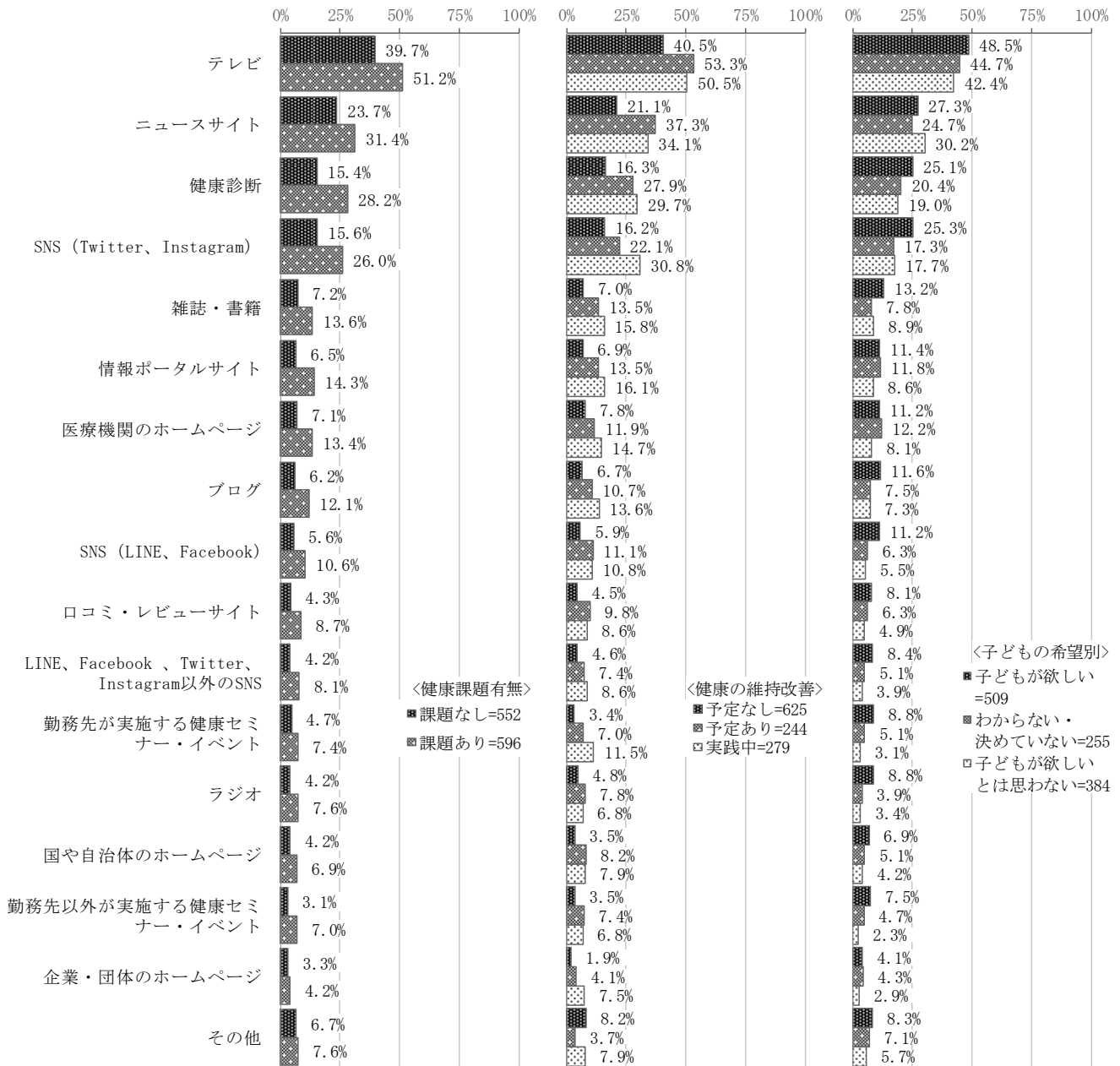










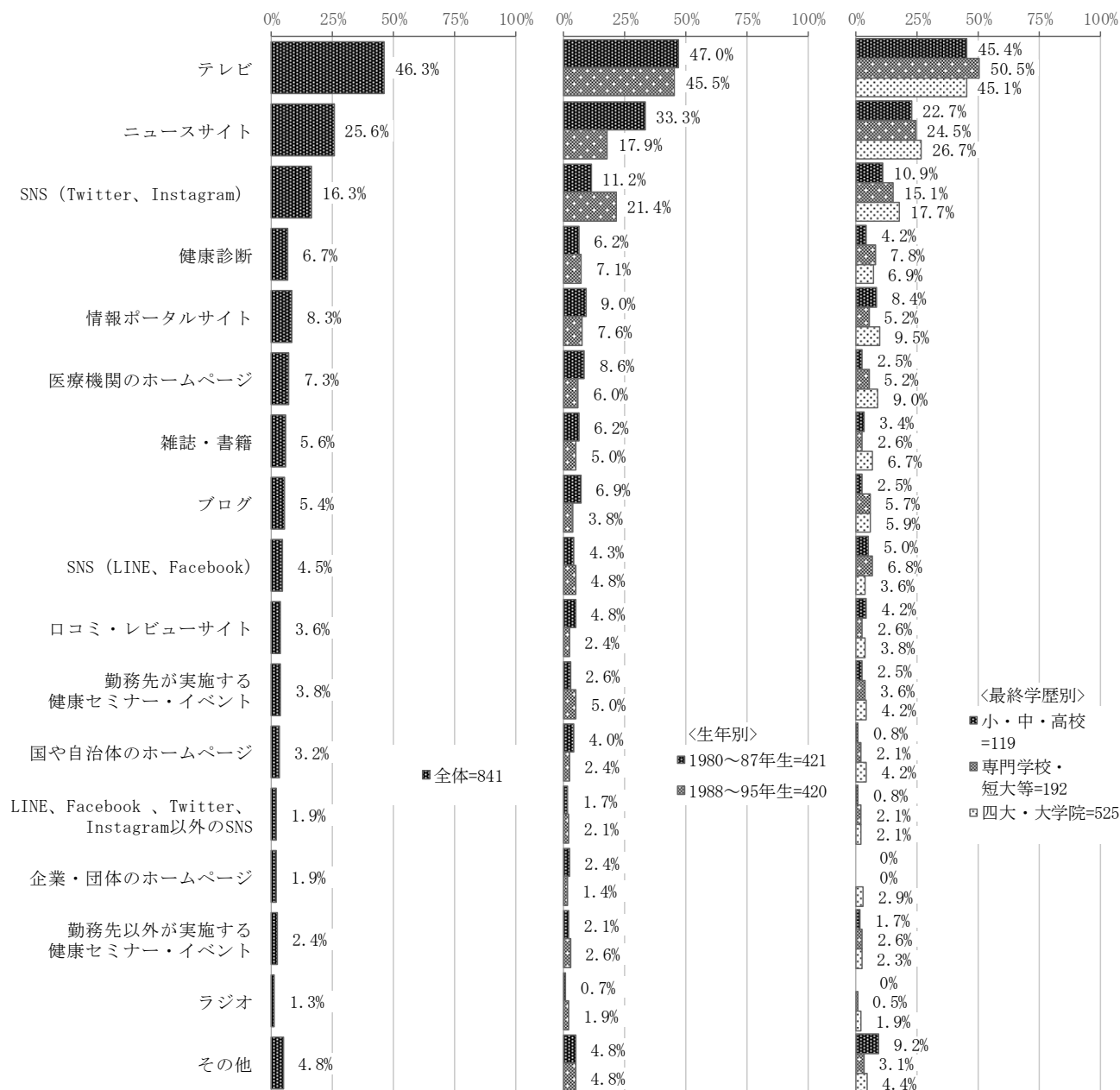


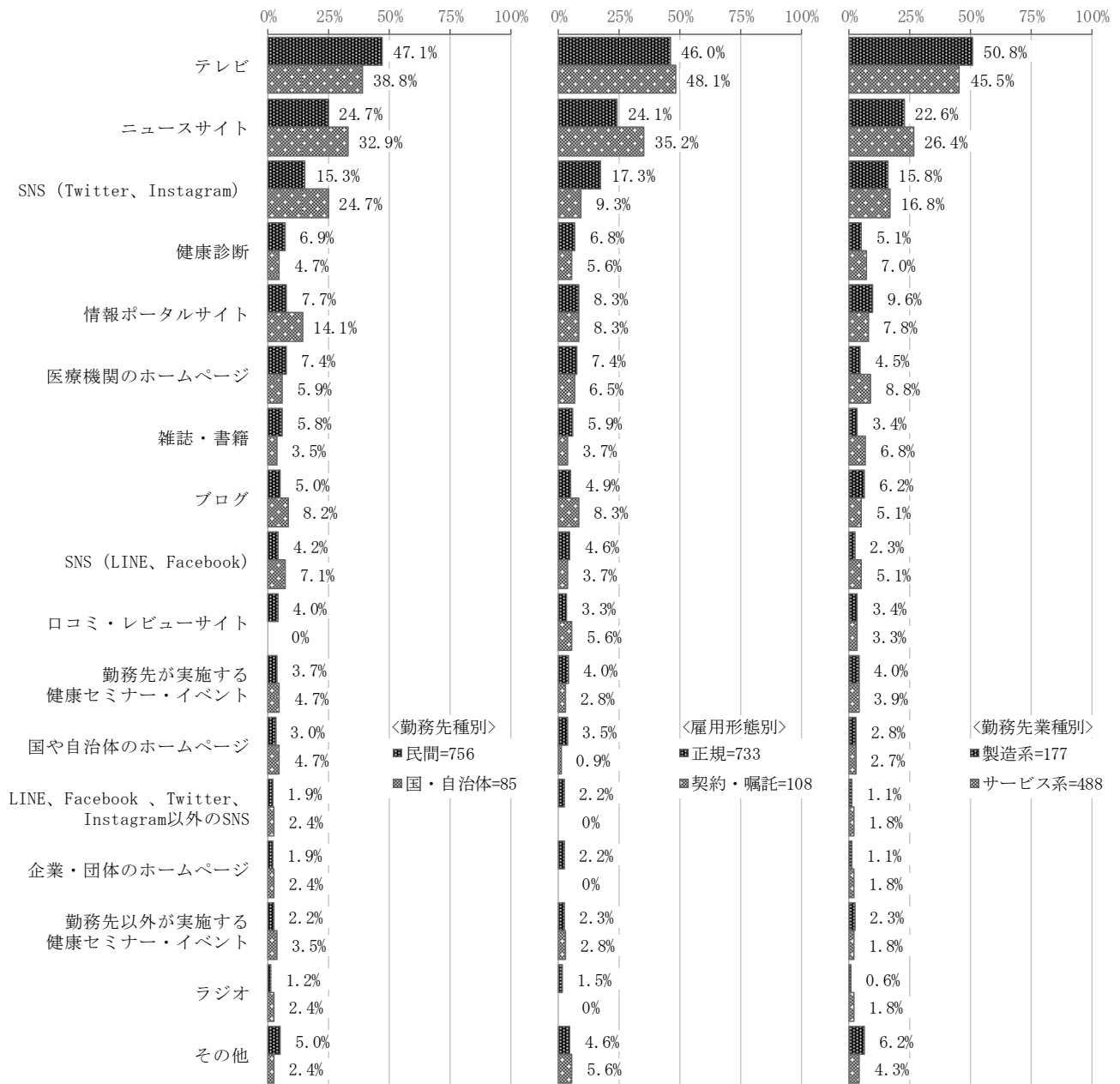
※ 設問対象者は、前問のそれぞれの課題で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者だが、比較のために課題の認知にかかわらず属性全体に対する比率を集計した。
 ※ その他の内容については、健康課題ごとの集計の末尾に記載した。

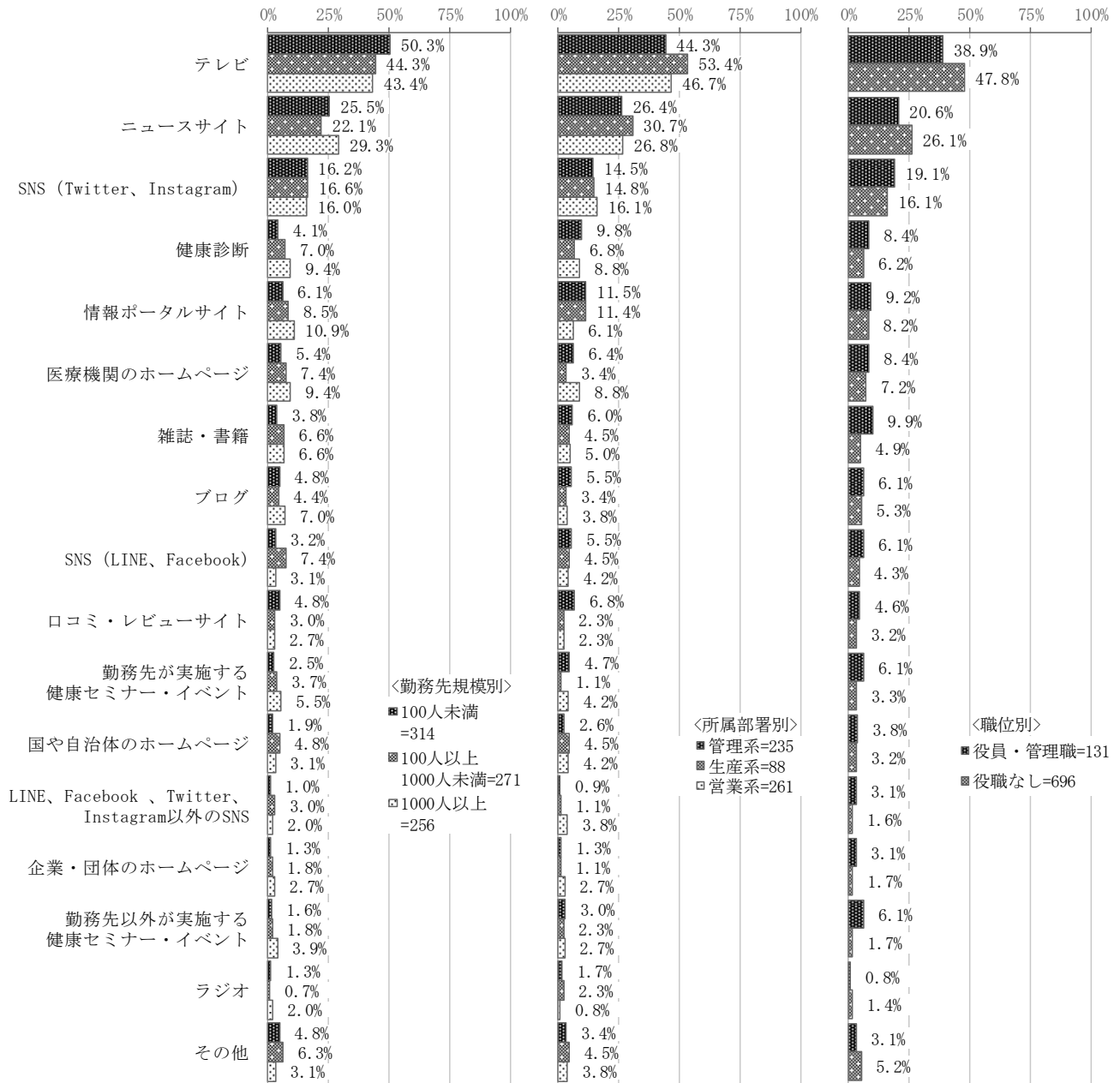
5.1. 女性特有の健康課題の認知経路（妊娠・出産・不妊）

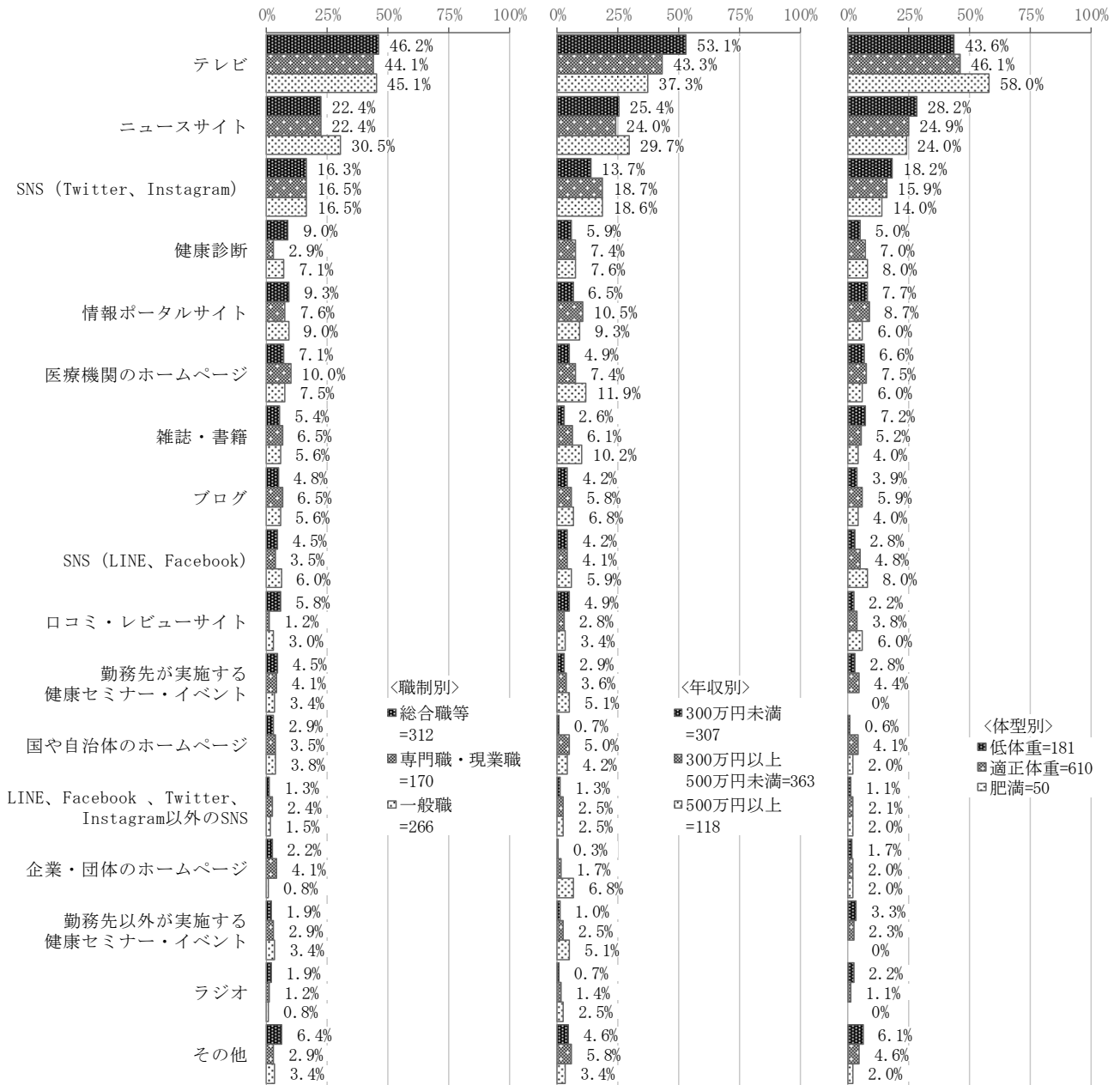
- 妊娠・出産・不妊について、前問で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者に、どのような機会を通じて知ることがあるか尋ねたところ、全体では「テレビ」が46.3%と最も多い。
- 「テレビ」は体型別で肥満の回答者が多い。
- 「ニュースサイト」は、生年別で1980～87年生の回答者、雇用形態別で契約・嘱託の回答者が多い。
- 「SNS (Twitter、Instagram)」は、生年別で1988～95年生の回答者が多い。

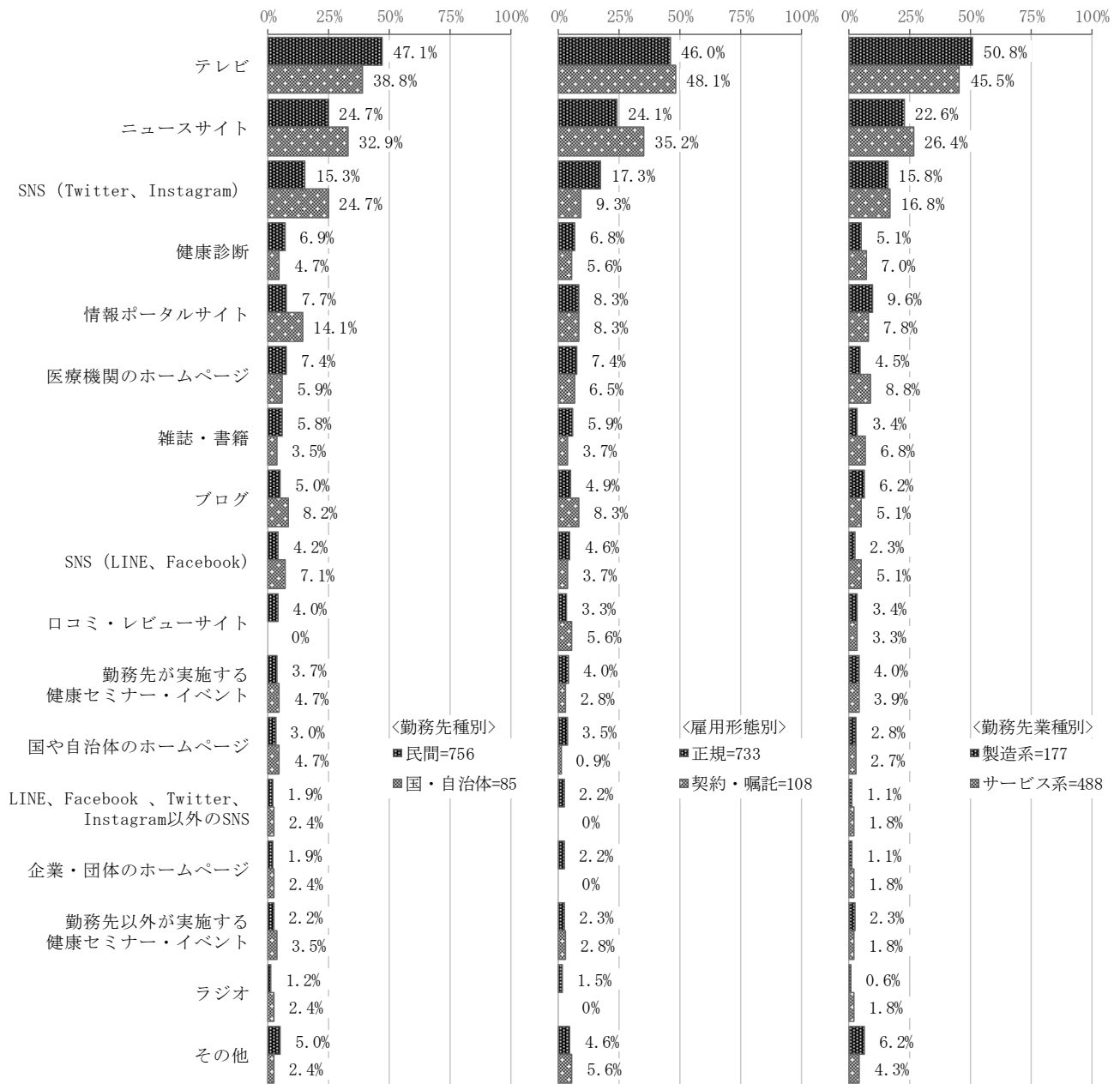
図表 5.1.女性特有の健康課題の認知経路（妊娠・出産・不妊）【複数選択】

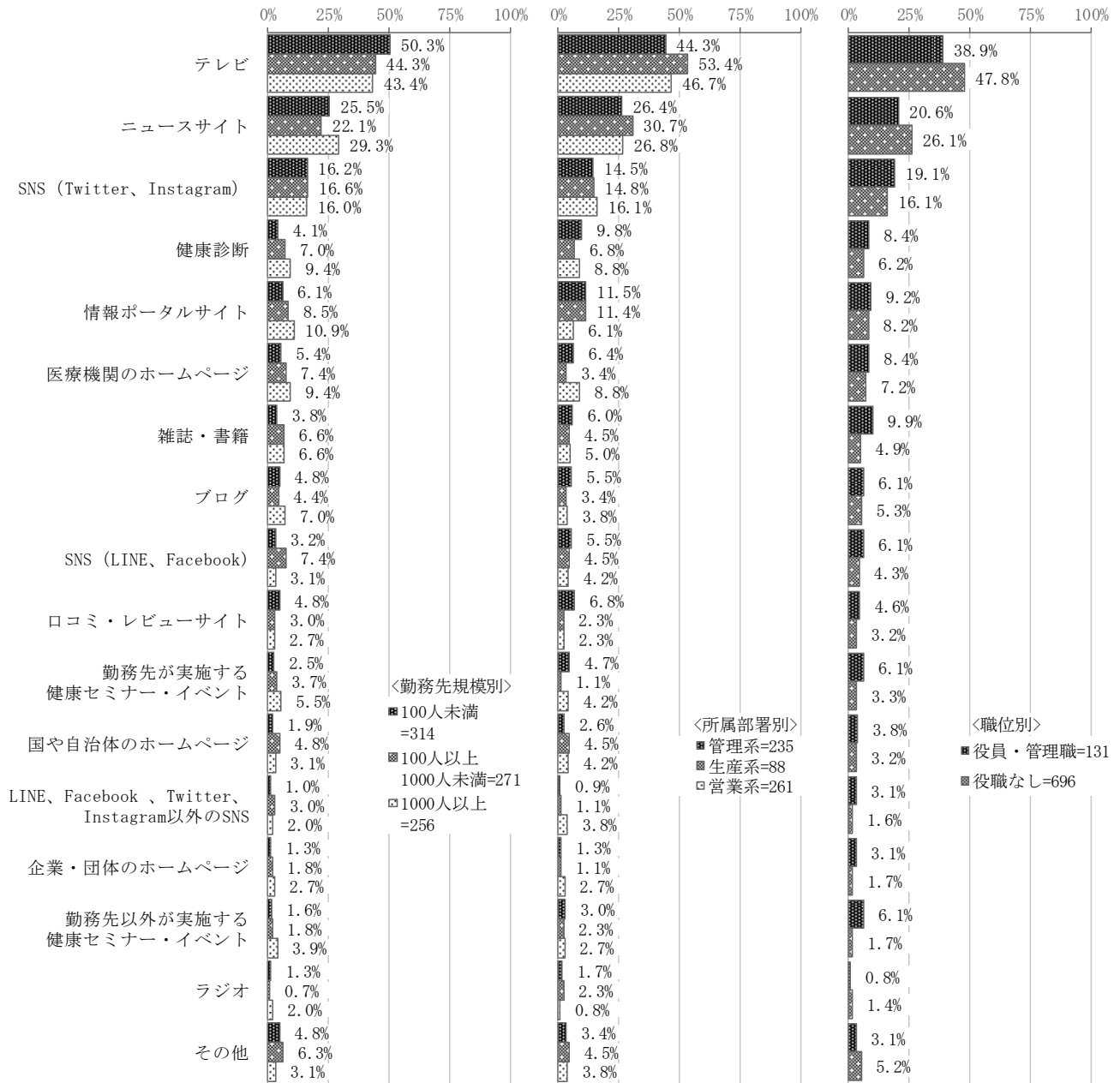


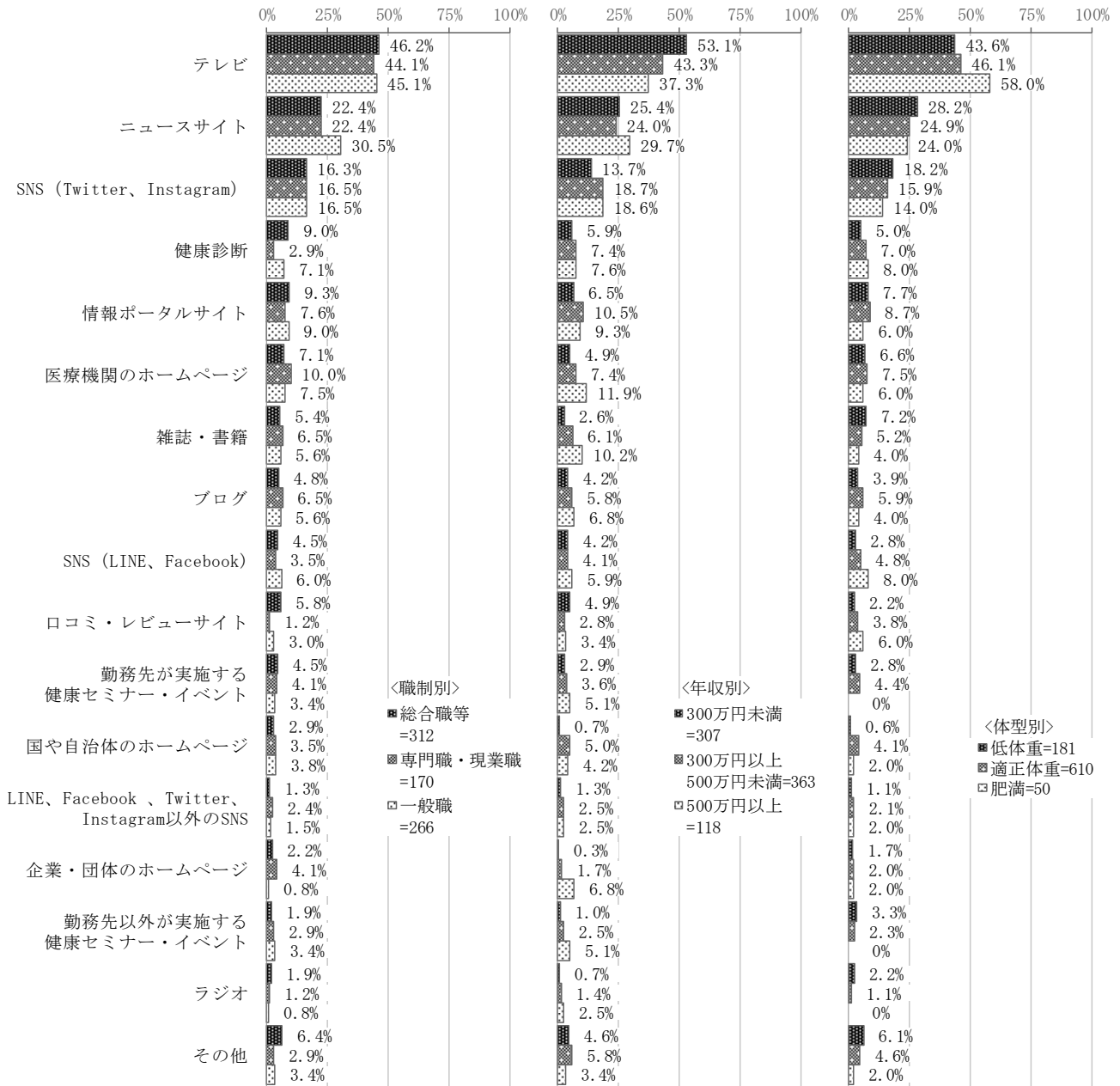


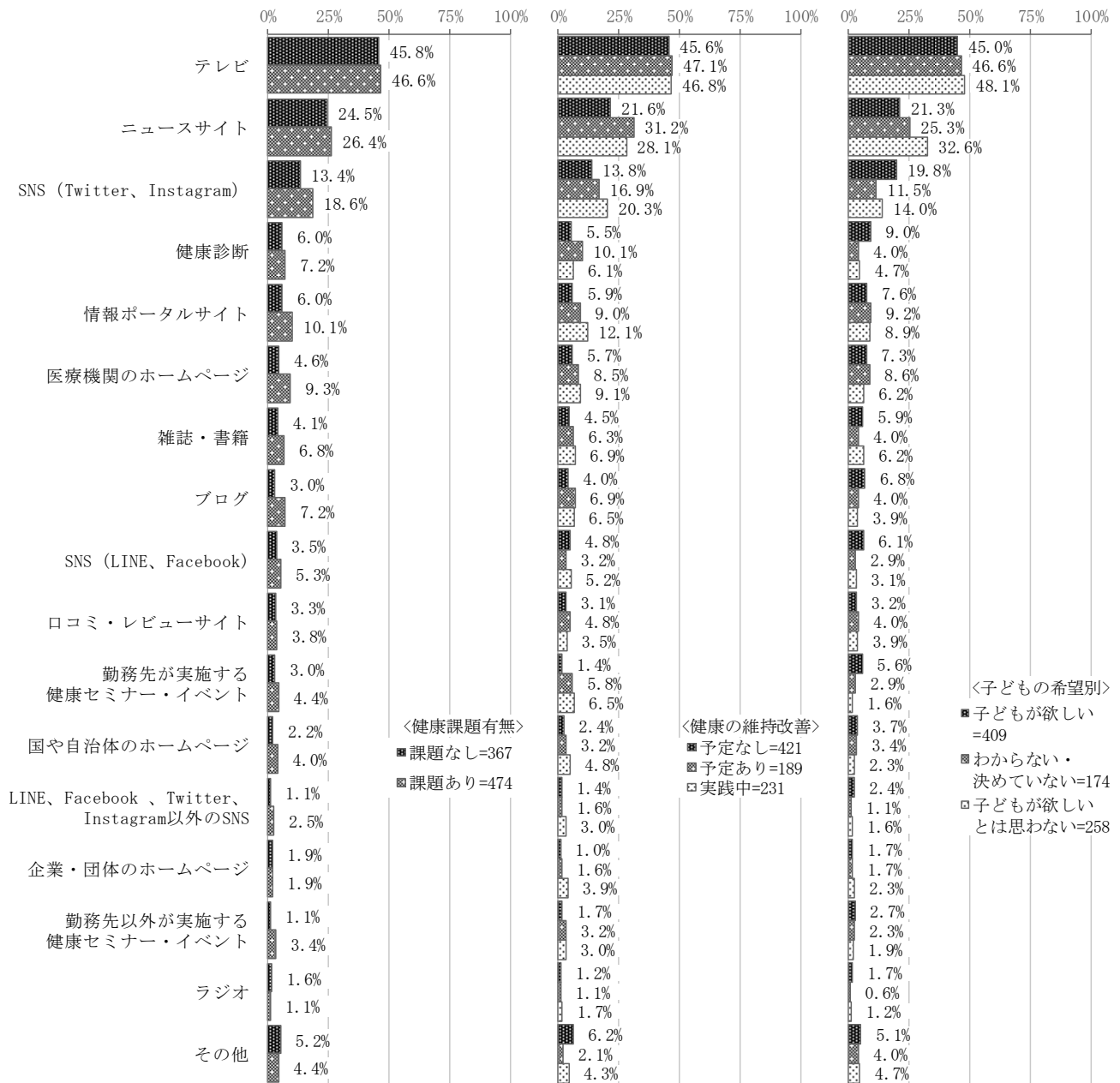










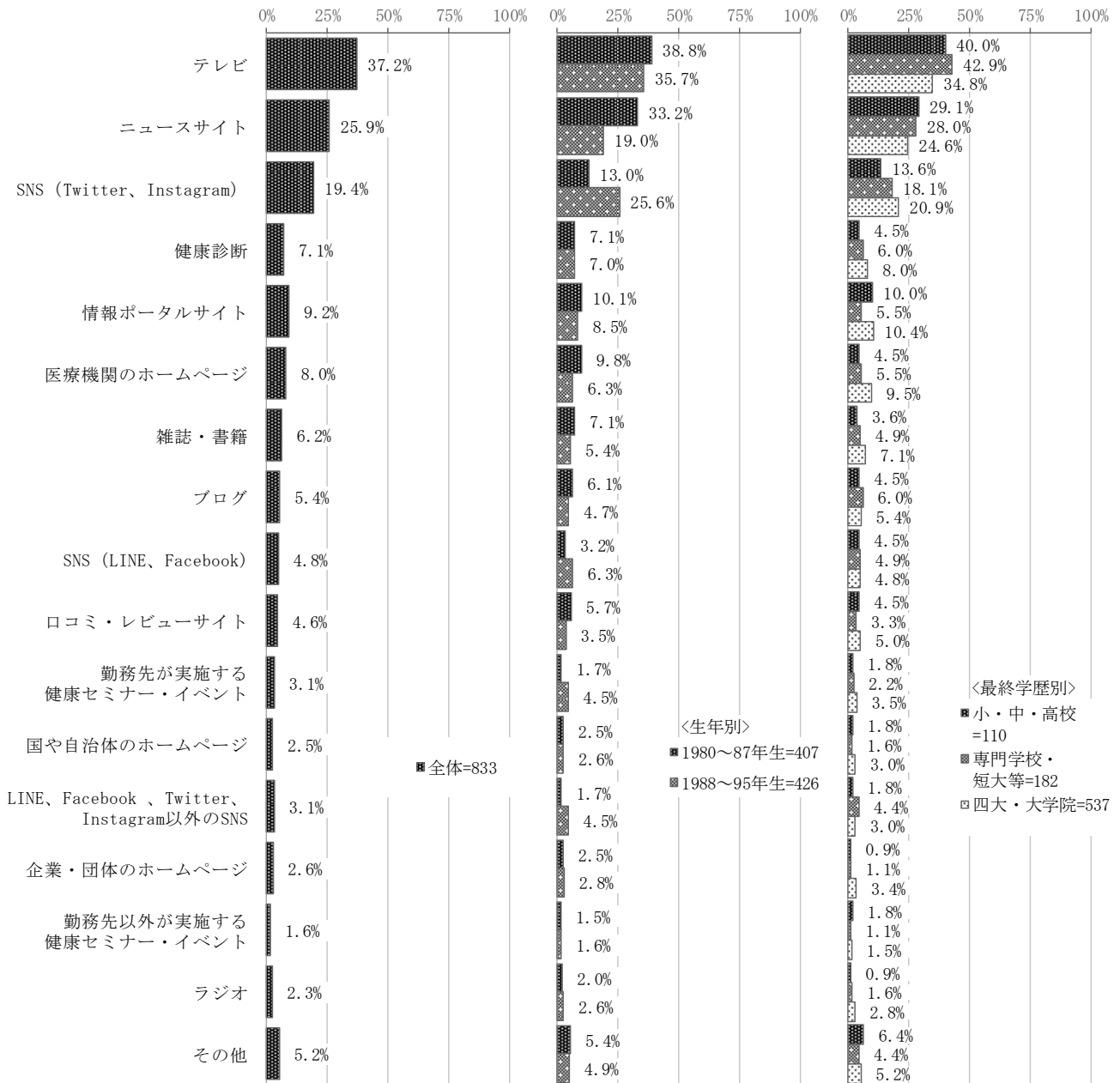


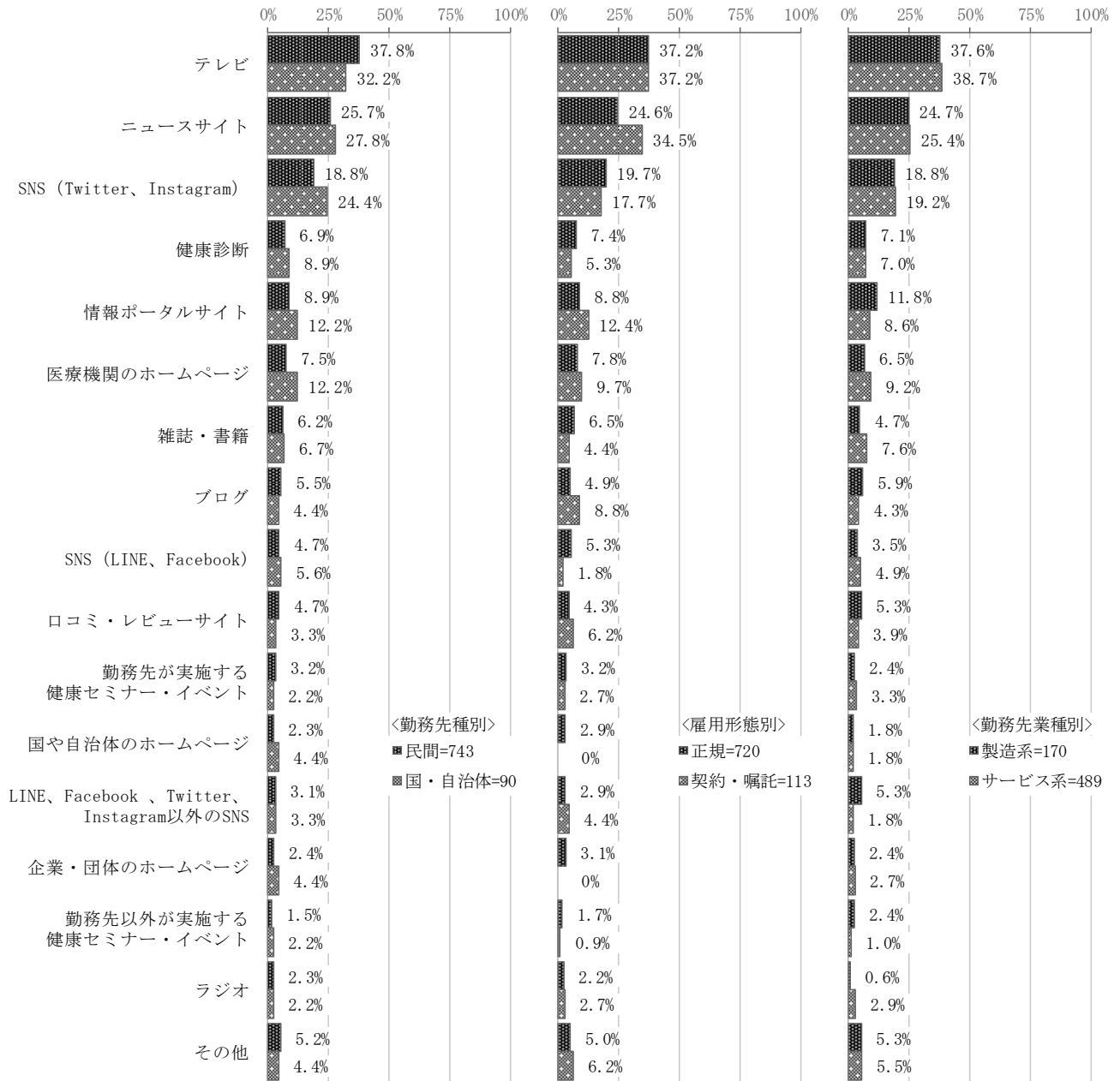
注 「その他」には、「YouTube等ネット」「医療機関」「自身の診断・検診」「家族・親戚」「家族・親戚以外の人」「勤務先」「学校」があった。

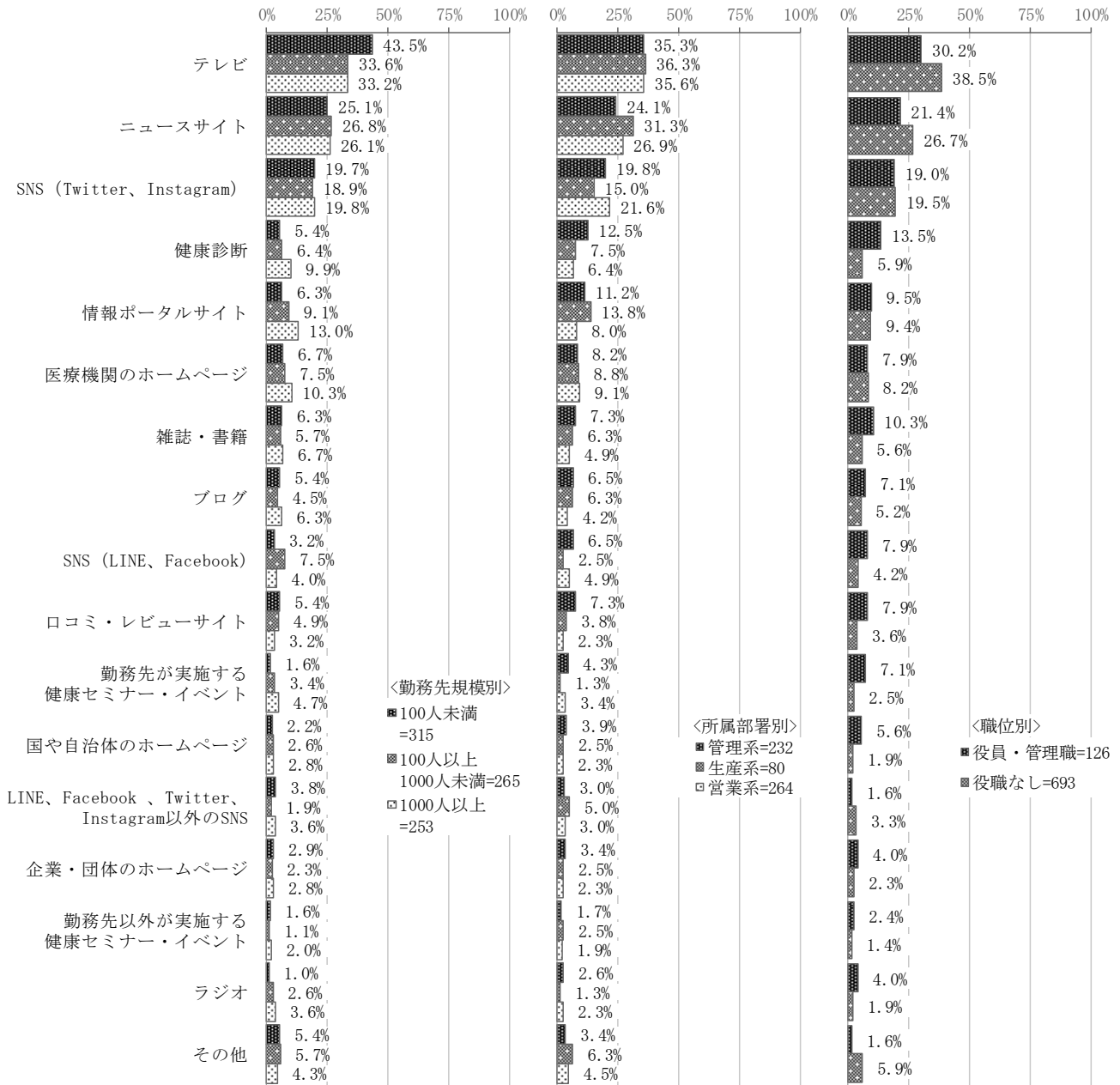
5.2. 女性特有の健康課題の認知経路（月経前症候群）

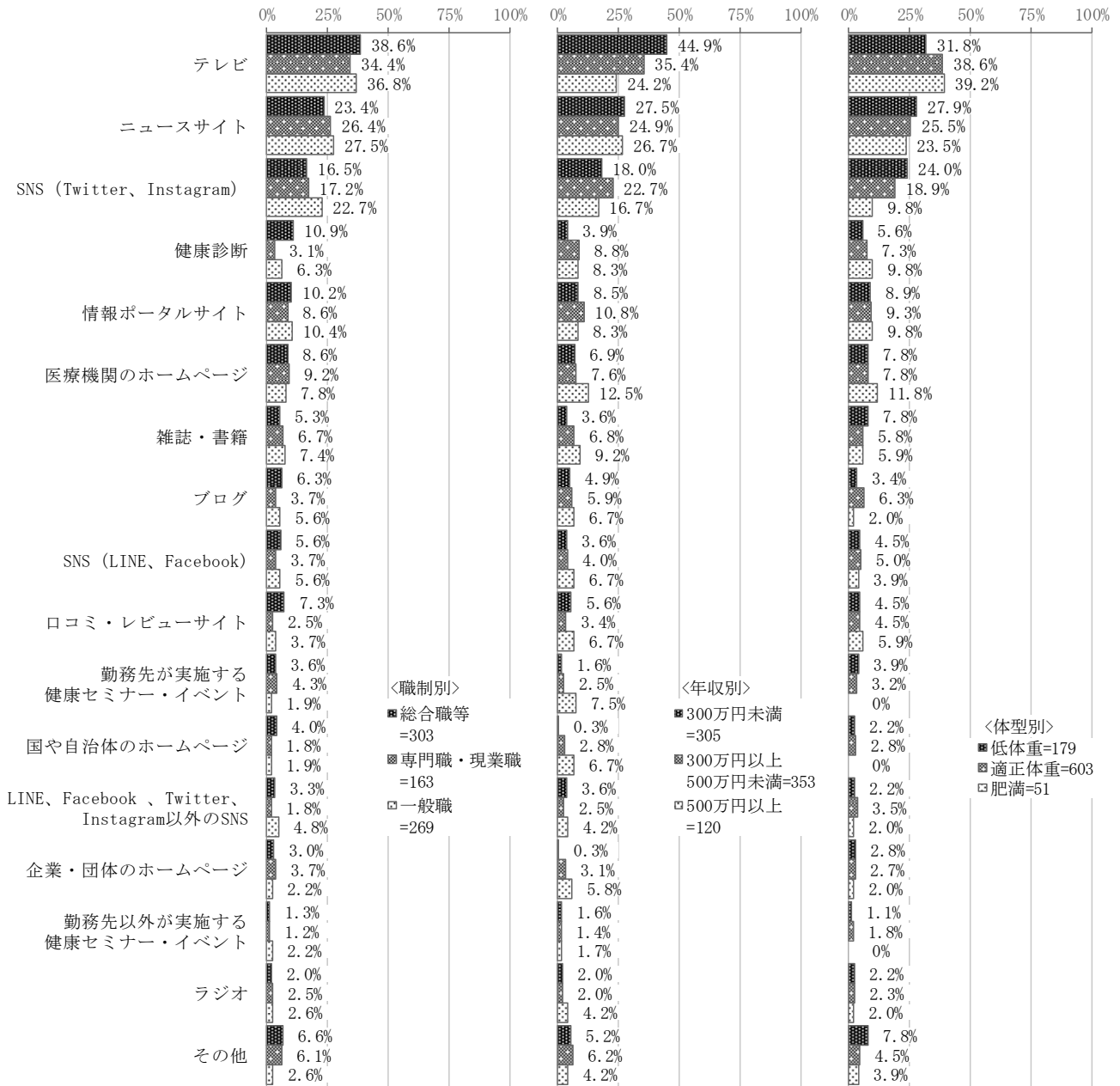
- 月経前症候群について、前問で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者に、どのような機会を通じて知ることがあるか尋ねたところ、全体では「テレビ」が37.2%と最も多く、「ニュースサイト」25.9%、「SNS（Twitter、Instagram）」19.4%と続いた。
- 「テレビ」は年収別で300万円未満の回答者が多い。
- 「ニュースサイト」は、生年別で1980～87年生の回答者が多い。
- 「SNS（Twitter、Instagram）」は、生年別で1988～95年生の回答者が多い。

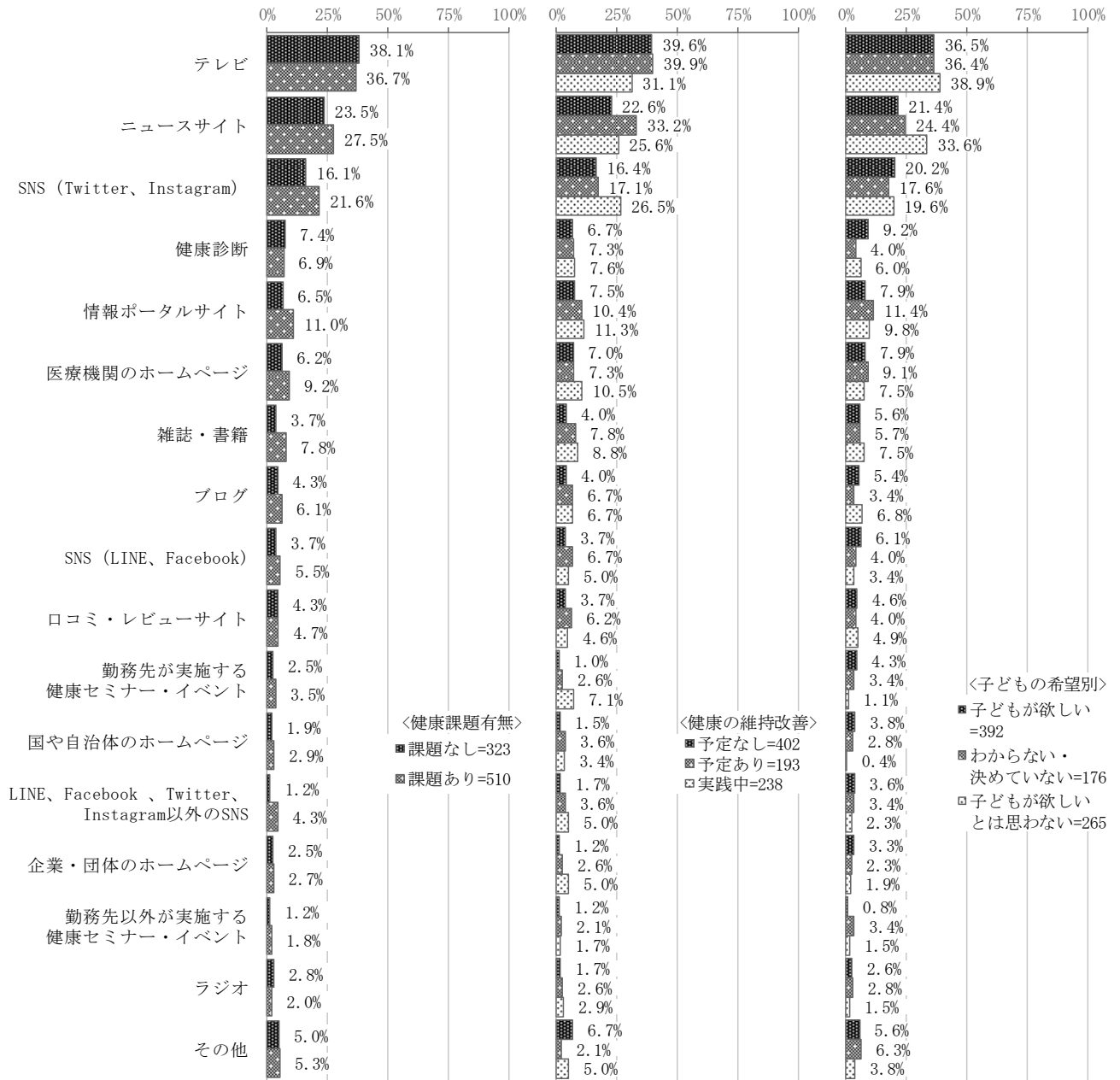
図表 5.2. 女性特有の健康課題の認知経路（月経前症候群）【複数選択】

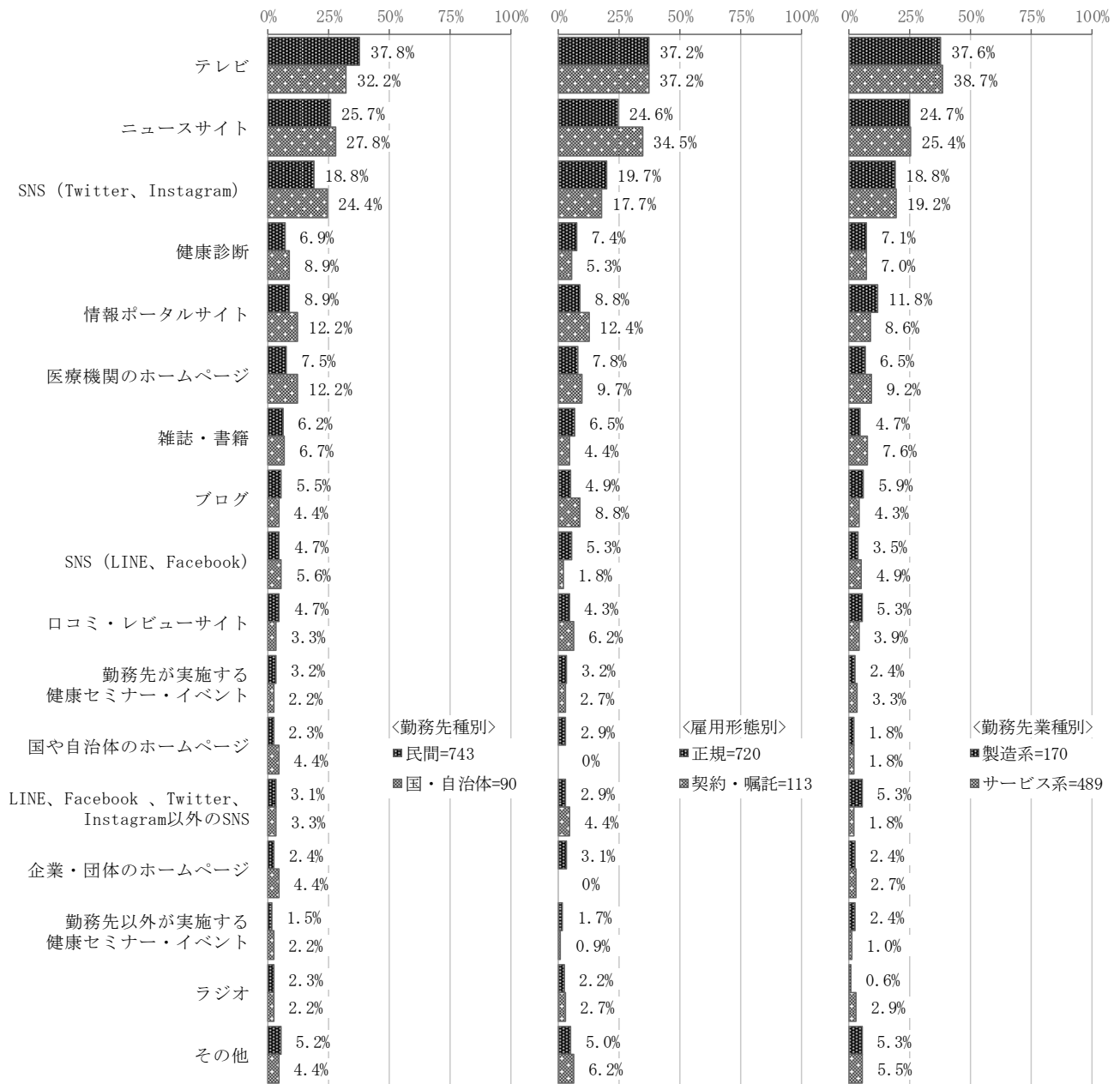


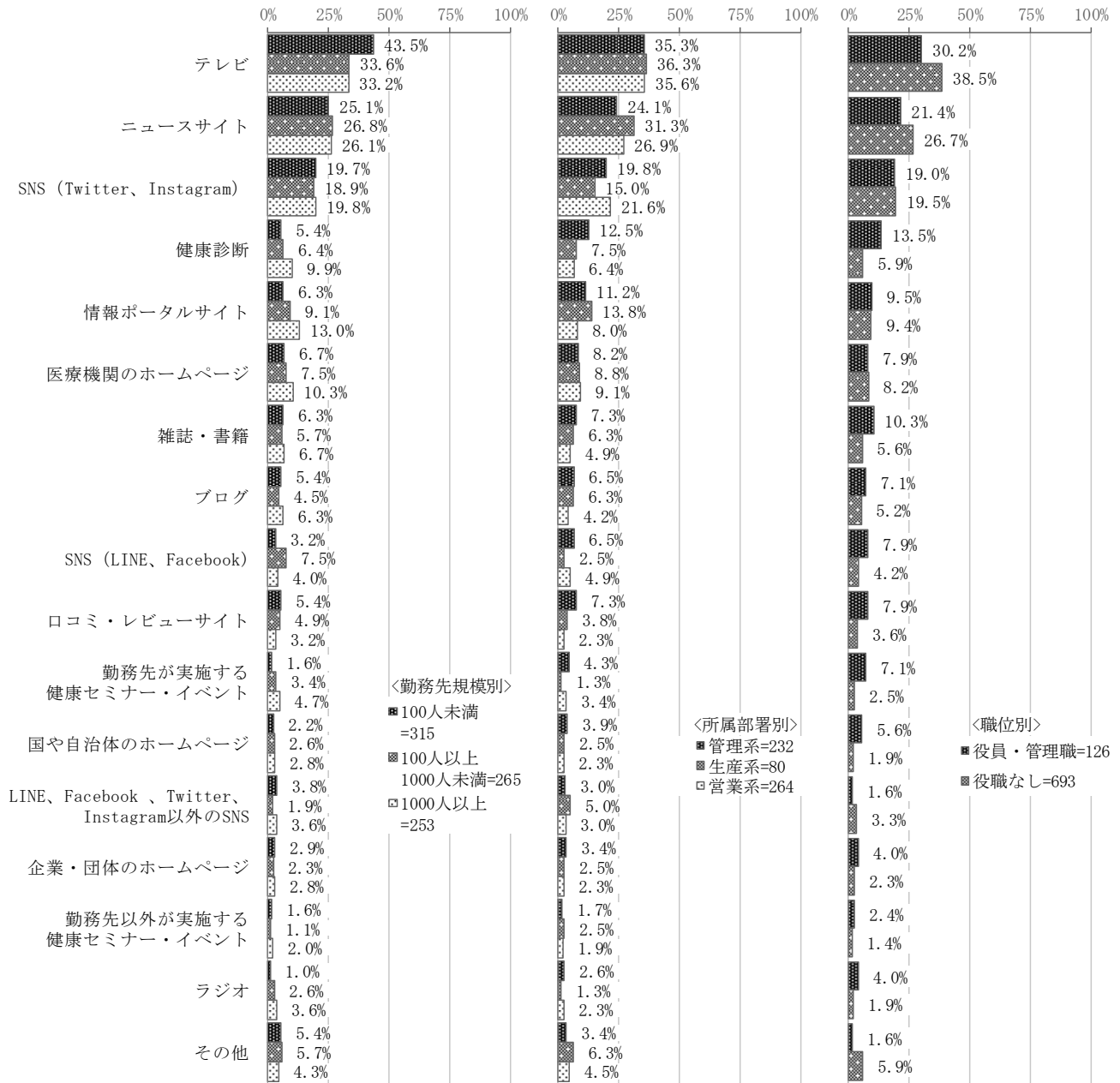


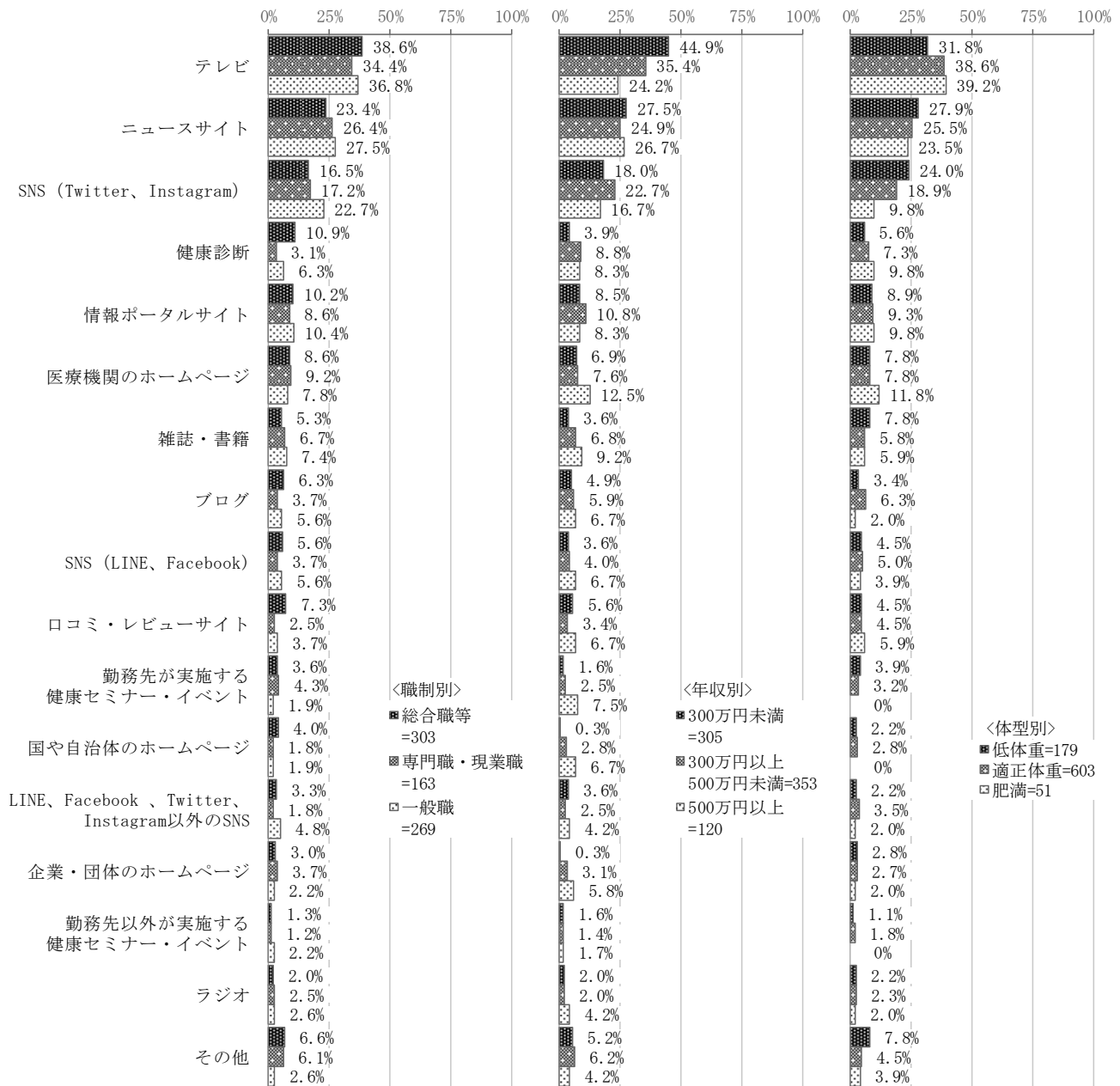


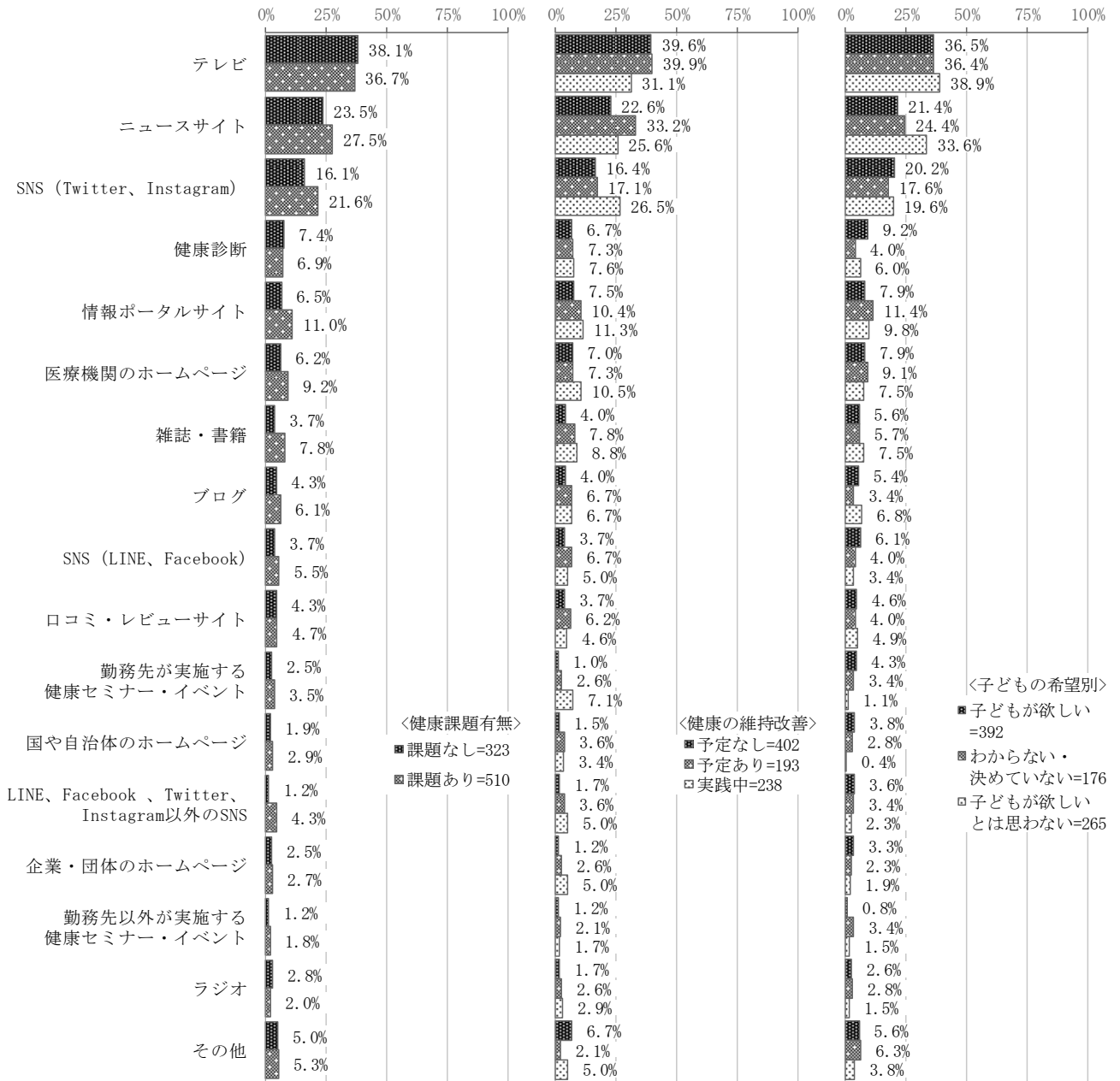










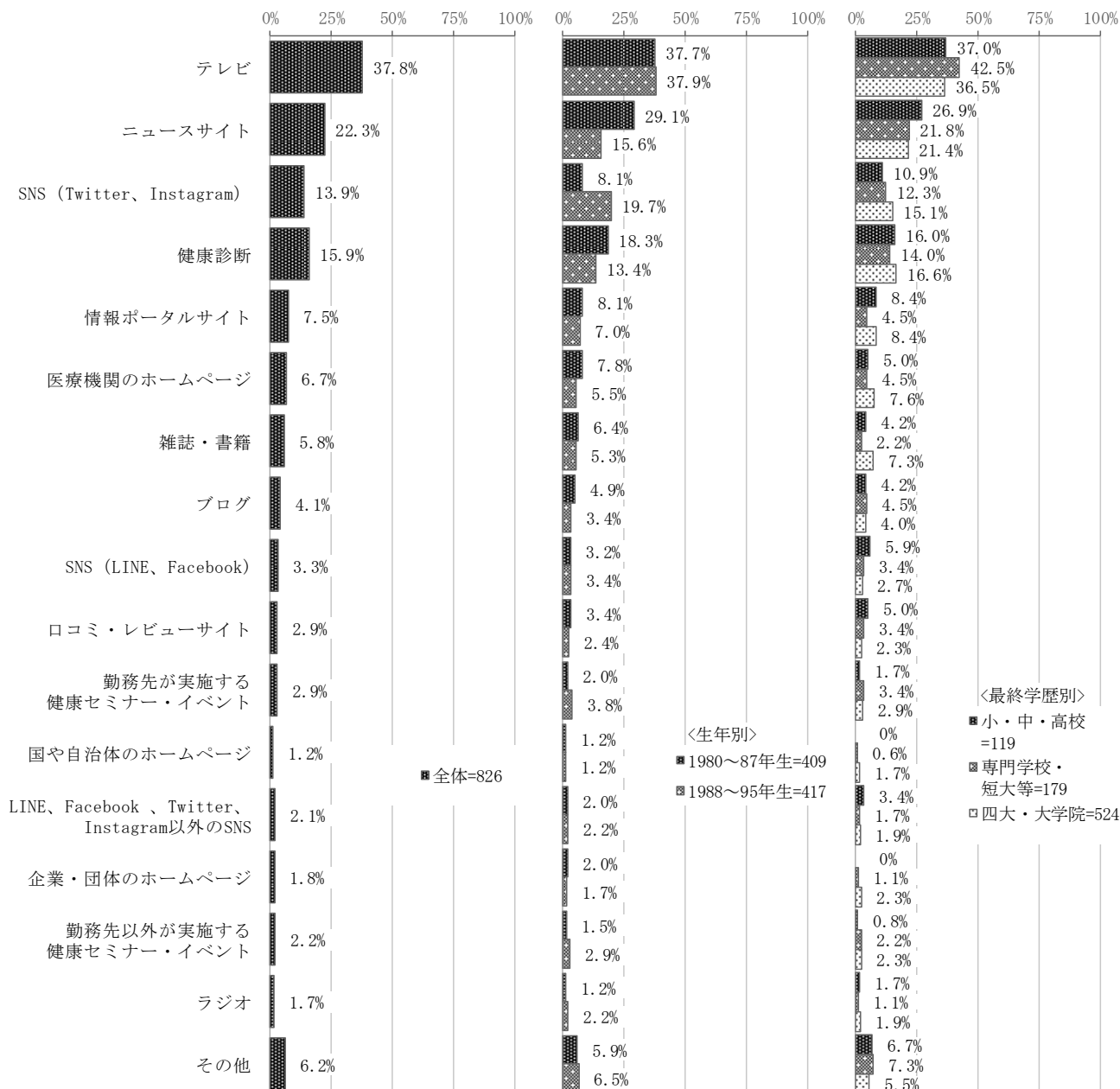


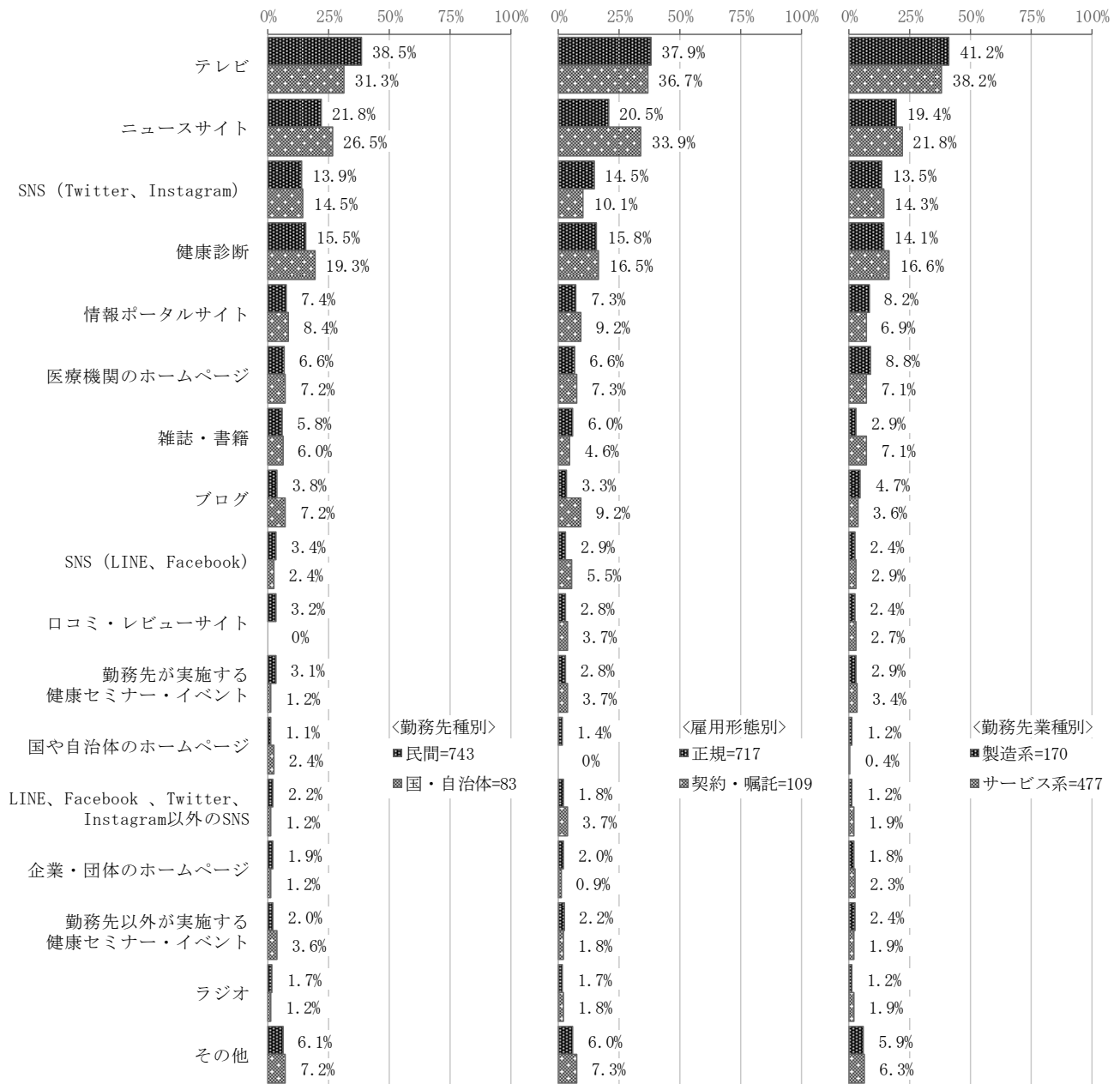
注 「その他」には、「YouTube等ネット」「医療機関」「自身の診断・検診」「家族・親戚」「家族・親戚以外の人」「勤務先」「学校」があった。

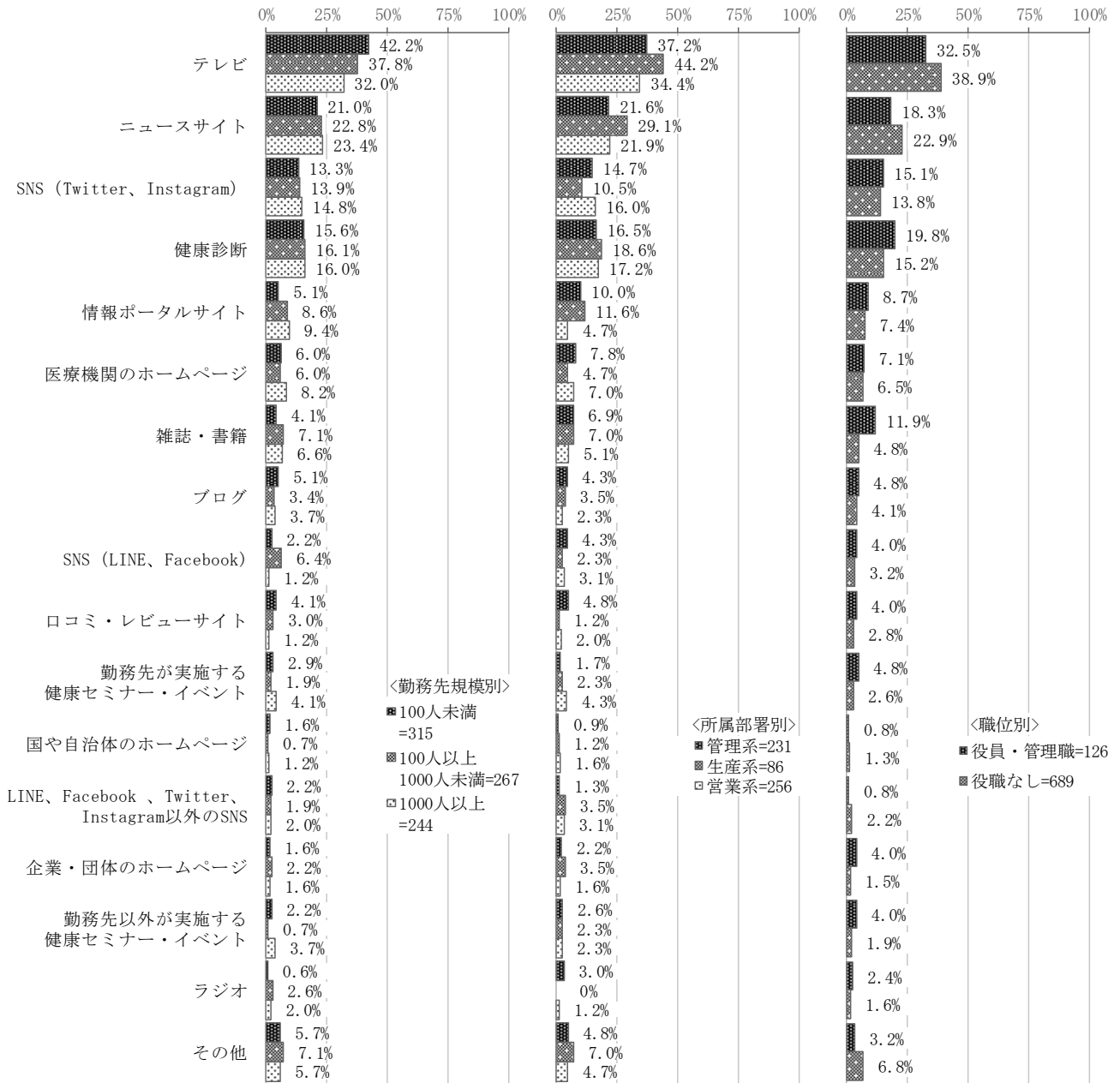
5.3. 女性特有の健康課題の認知経路（貧血）

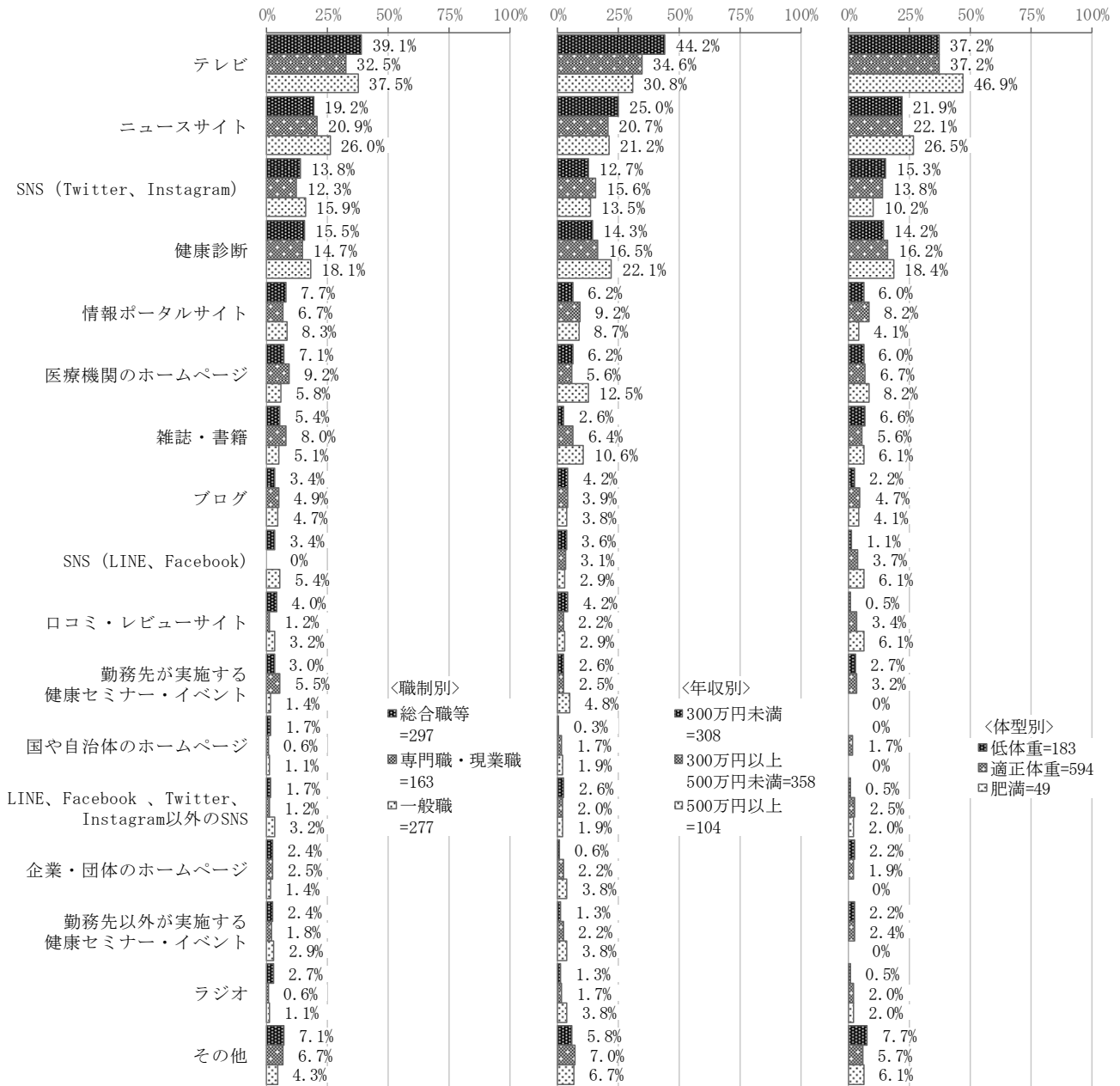
- 貧血について、前問で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者に、どのような機会を通じて知ることがあるか尋ねたところ、全体では「テレビ」が37.8%と最も多い。
- 「ニュースサイト」は、生年別で1980～87年生の回答者、雇用形態別で契約・嘱託の回答者が多い。
- 「SNS（Twitter、Instagram）」は、生年別で1988～95年生の回答者が多い。

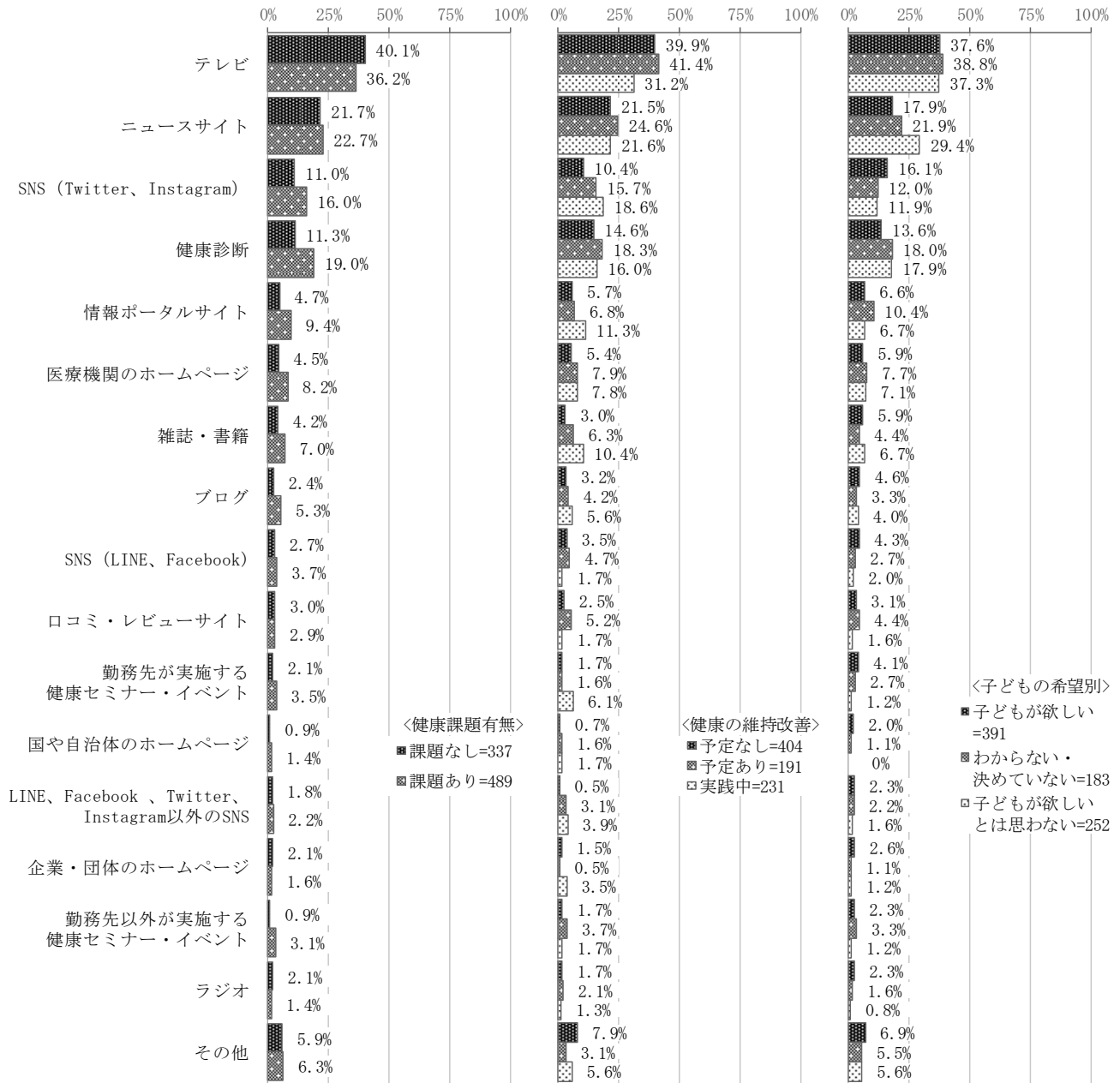
図表 5.3. 女性特有の健康課題の認知経路（貧血）【複数選択】

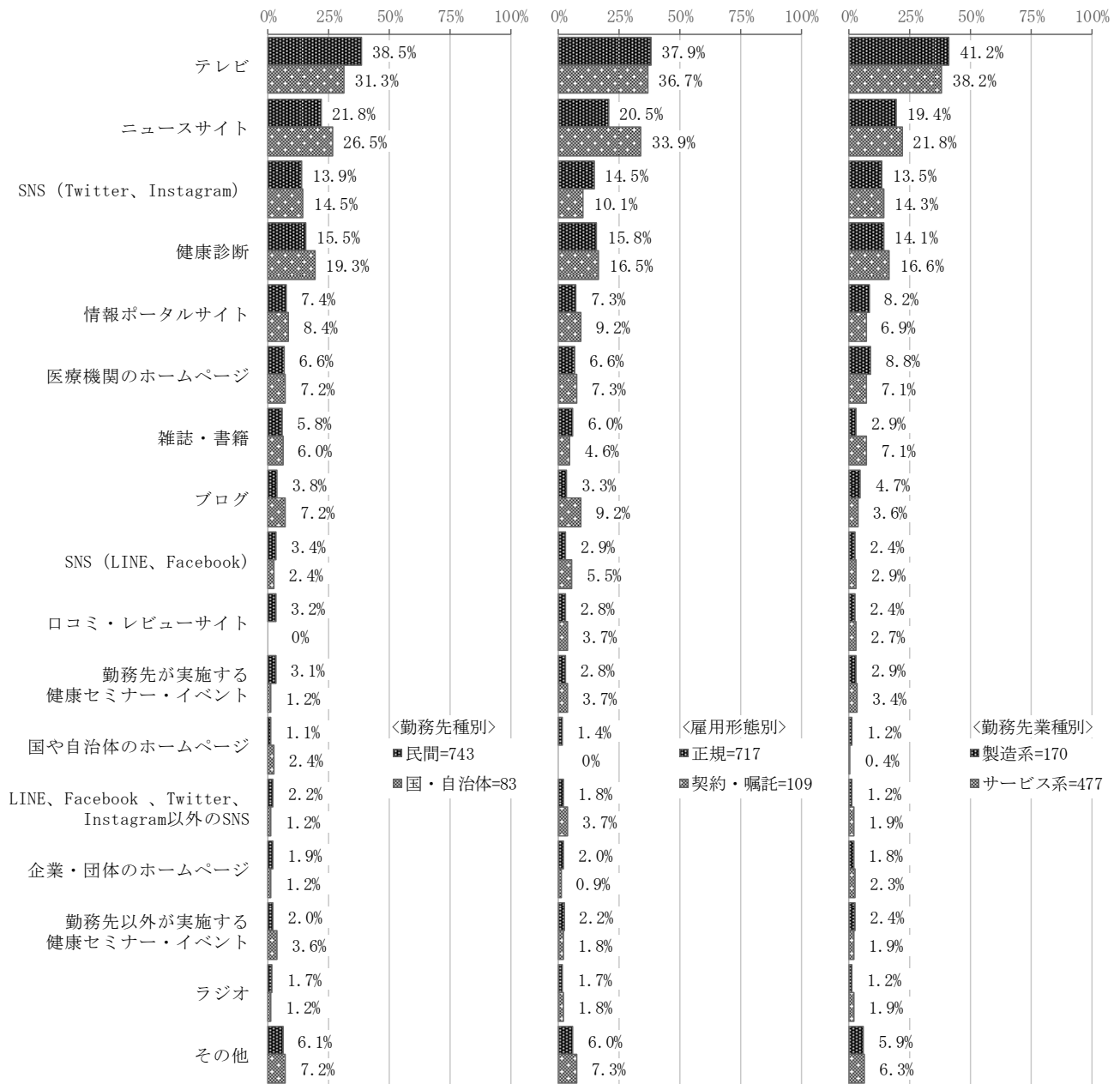


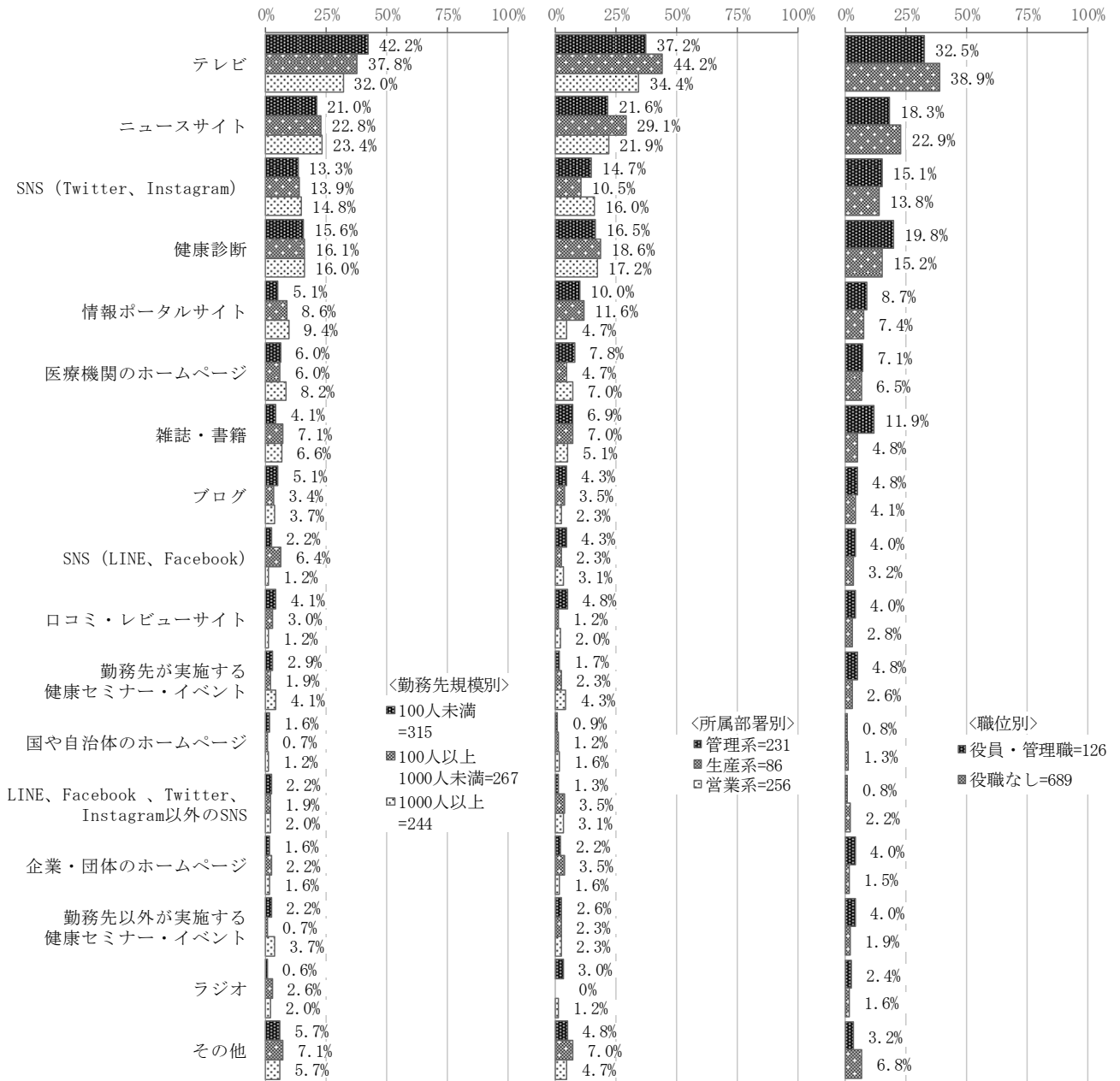


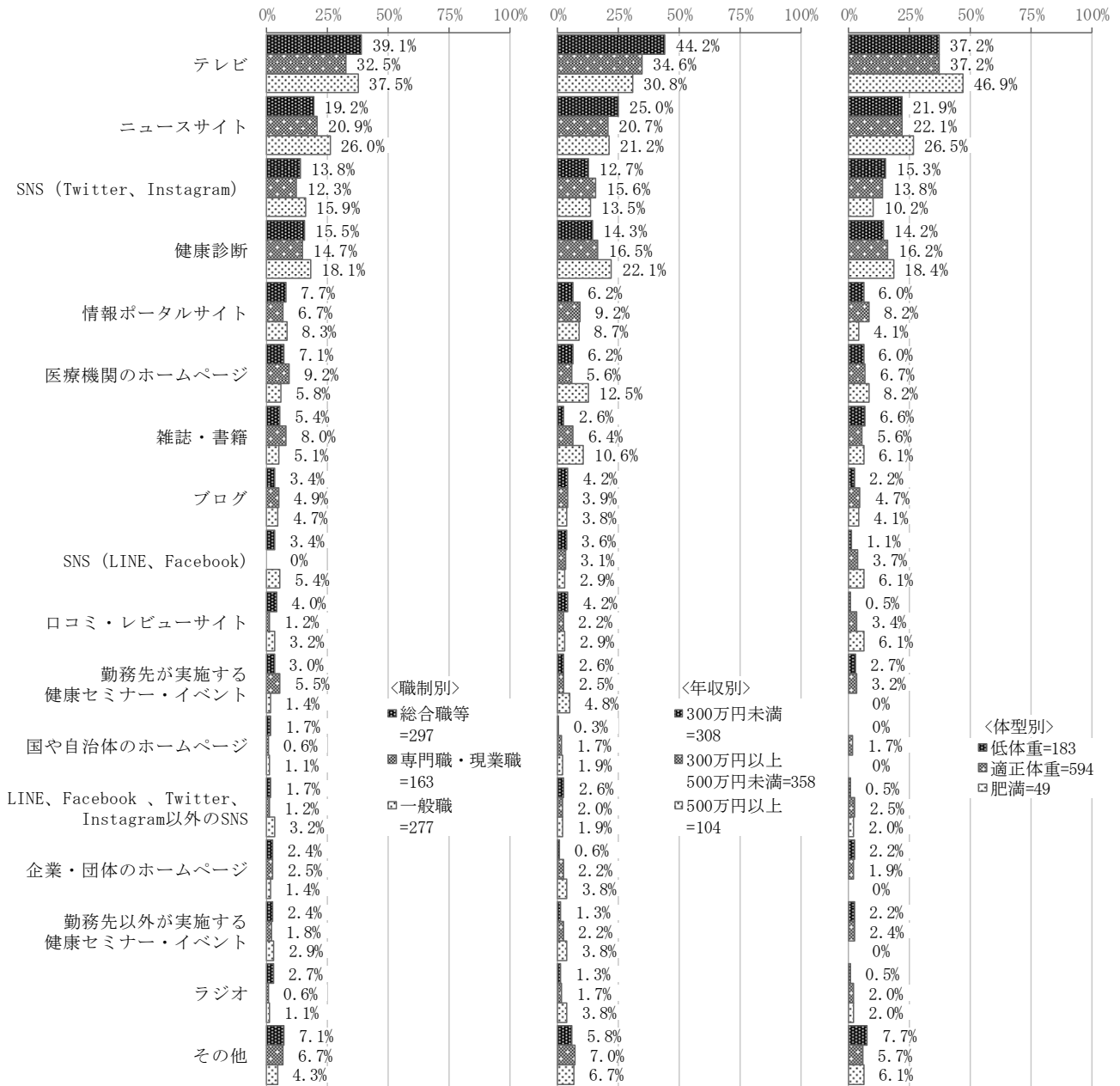


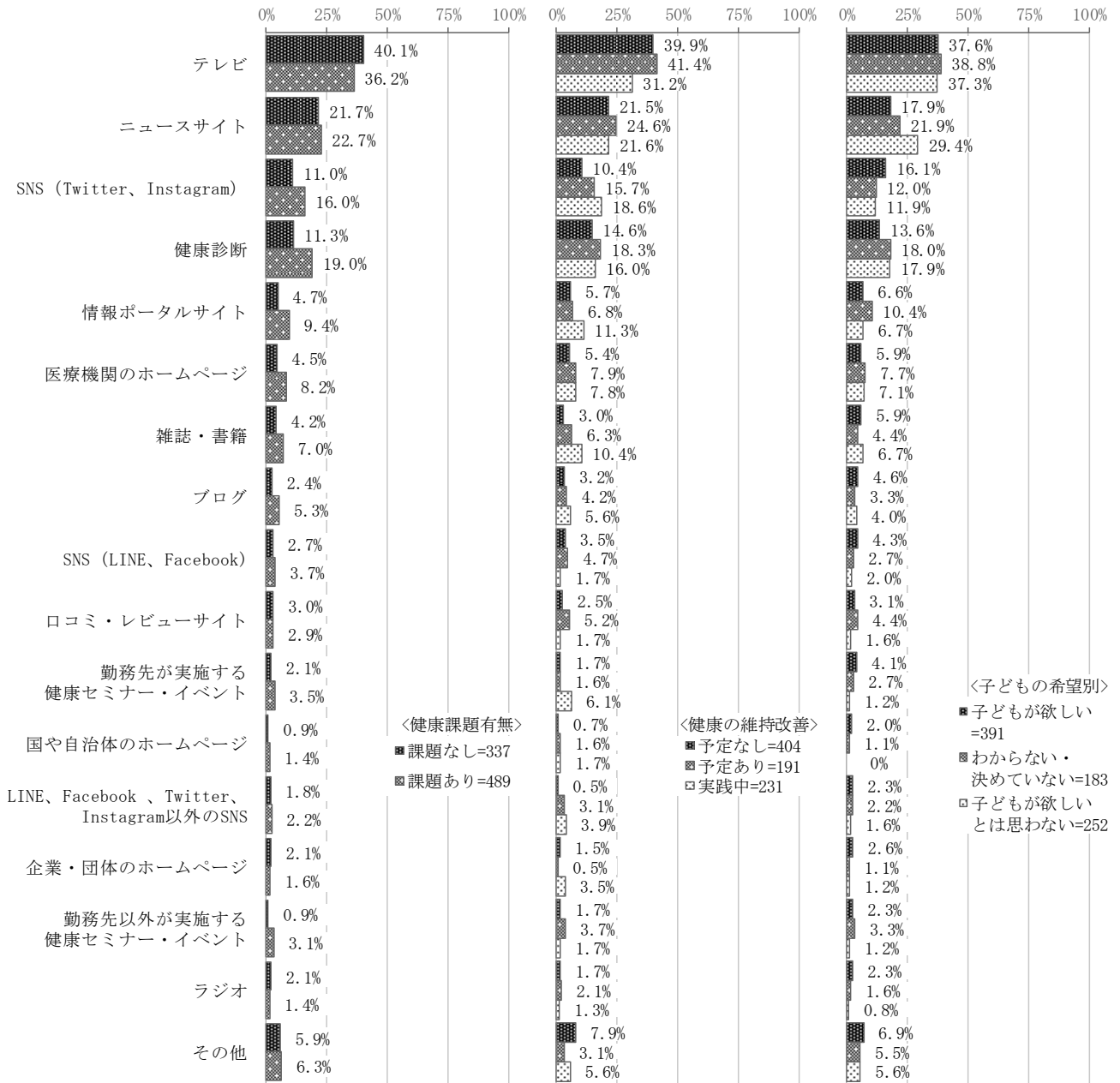










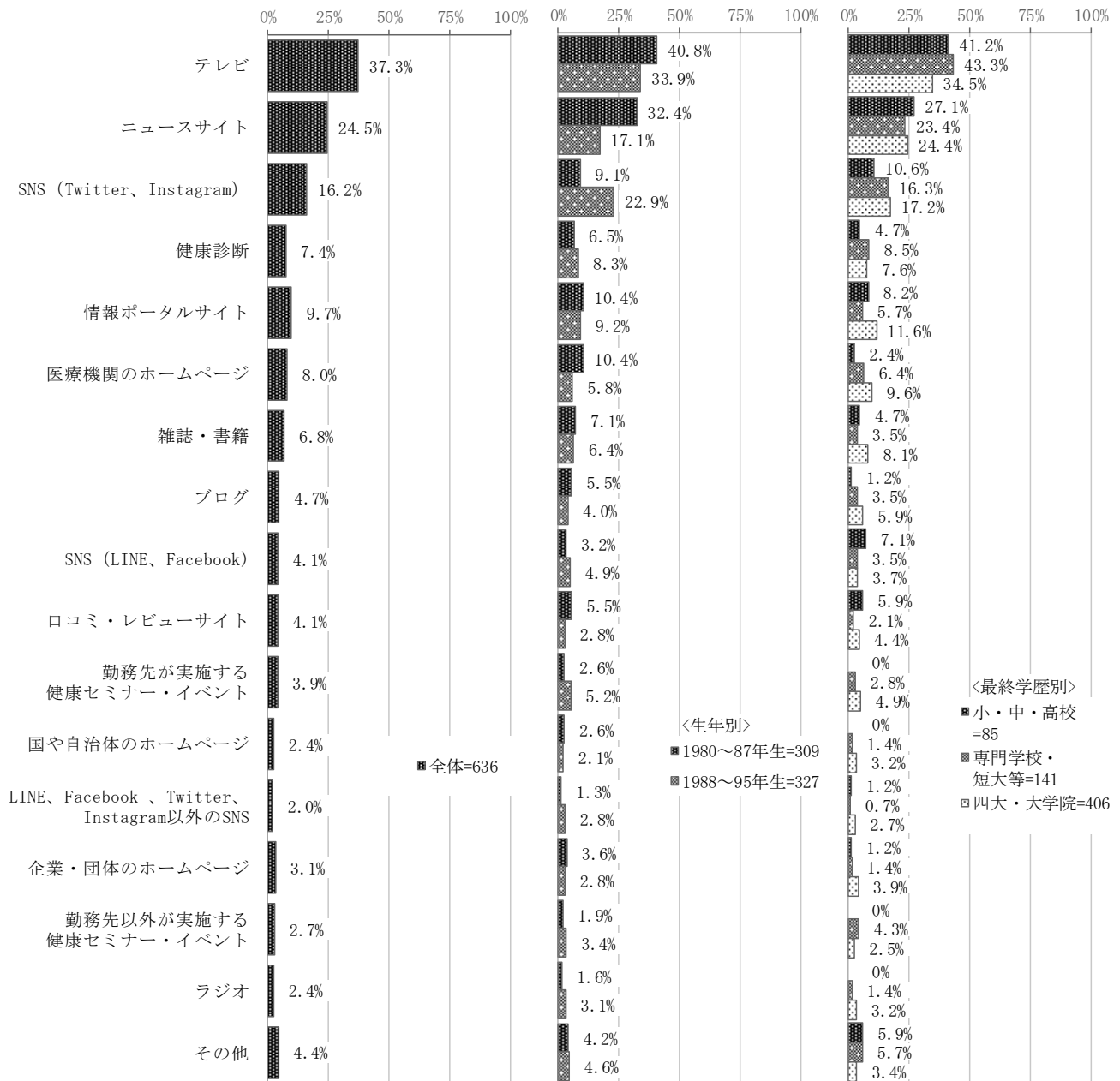


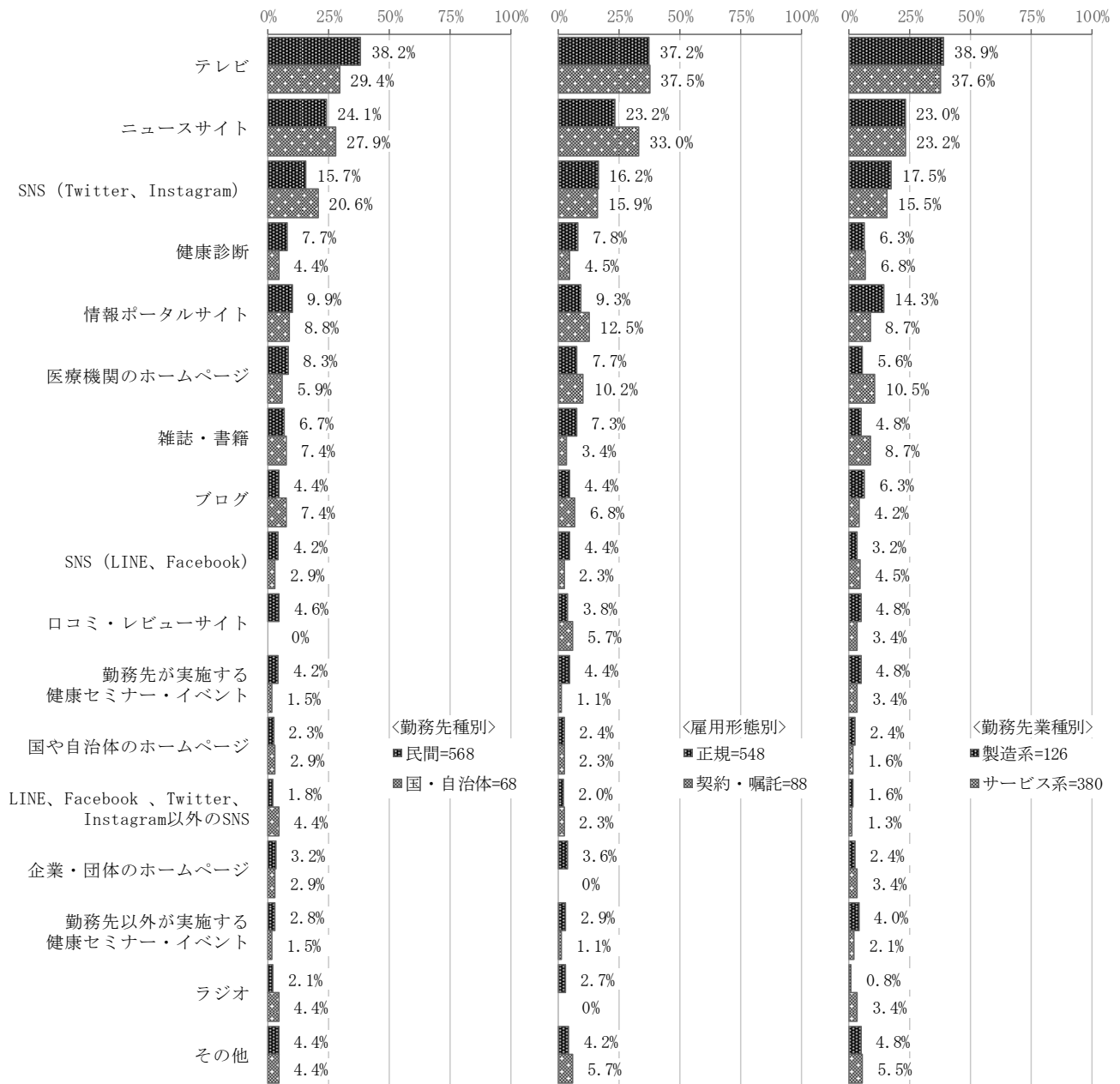
注 「その他」には、「YouTube等ネット」「医療機関」「自身の診断・検診」「家族・親戚」「家族・親戚以外の人」「勤務先」「学校」「リーフレット」があった。

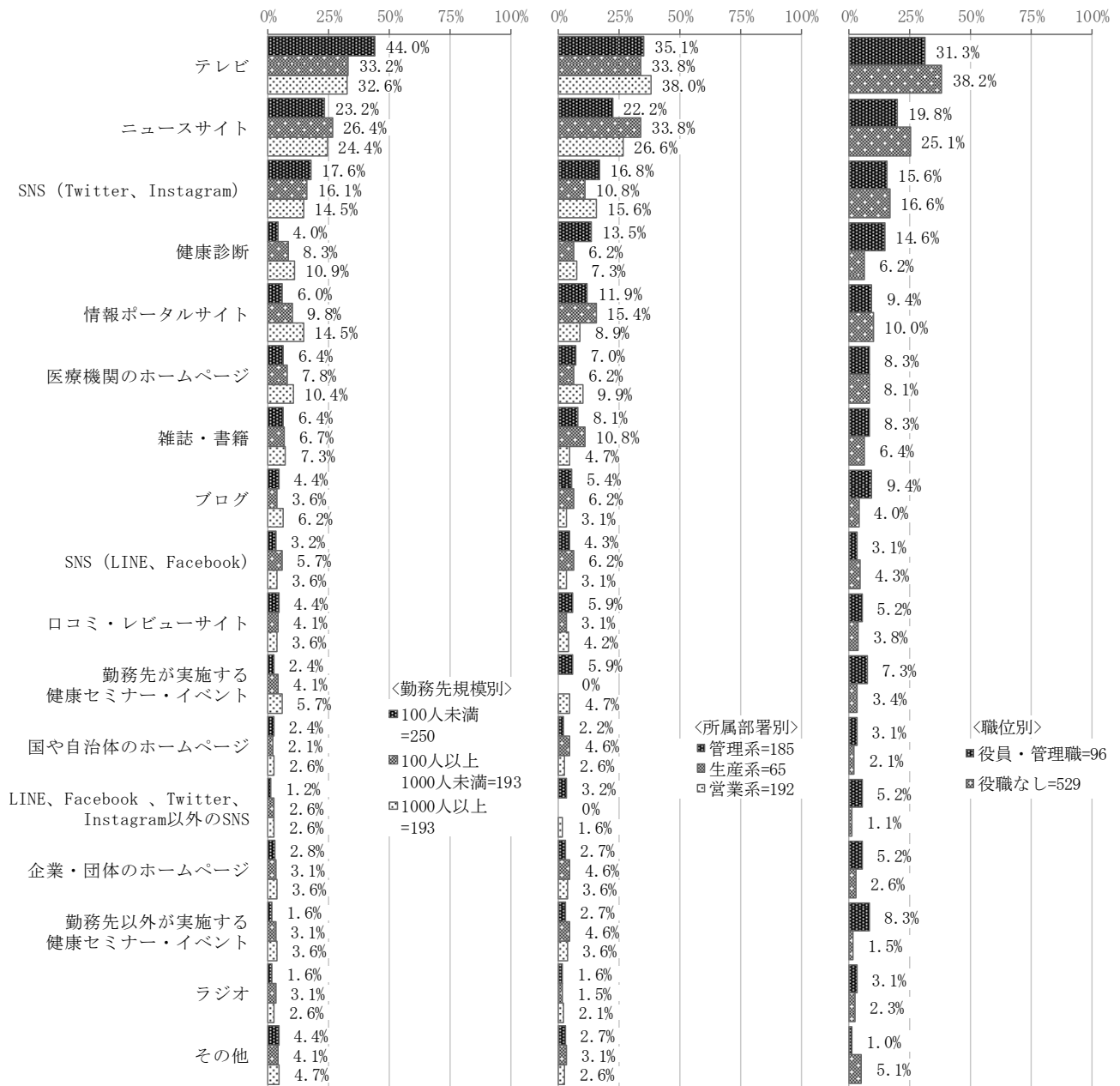
5.4. 女性特有の健康課題の認知経路（月経困難症）

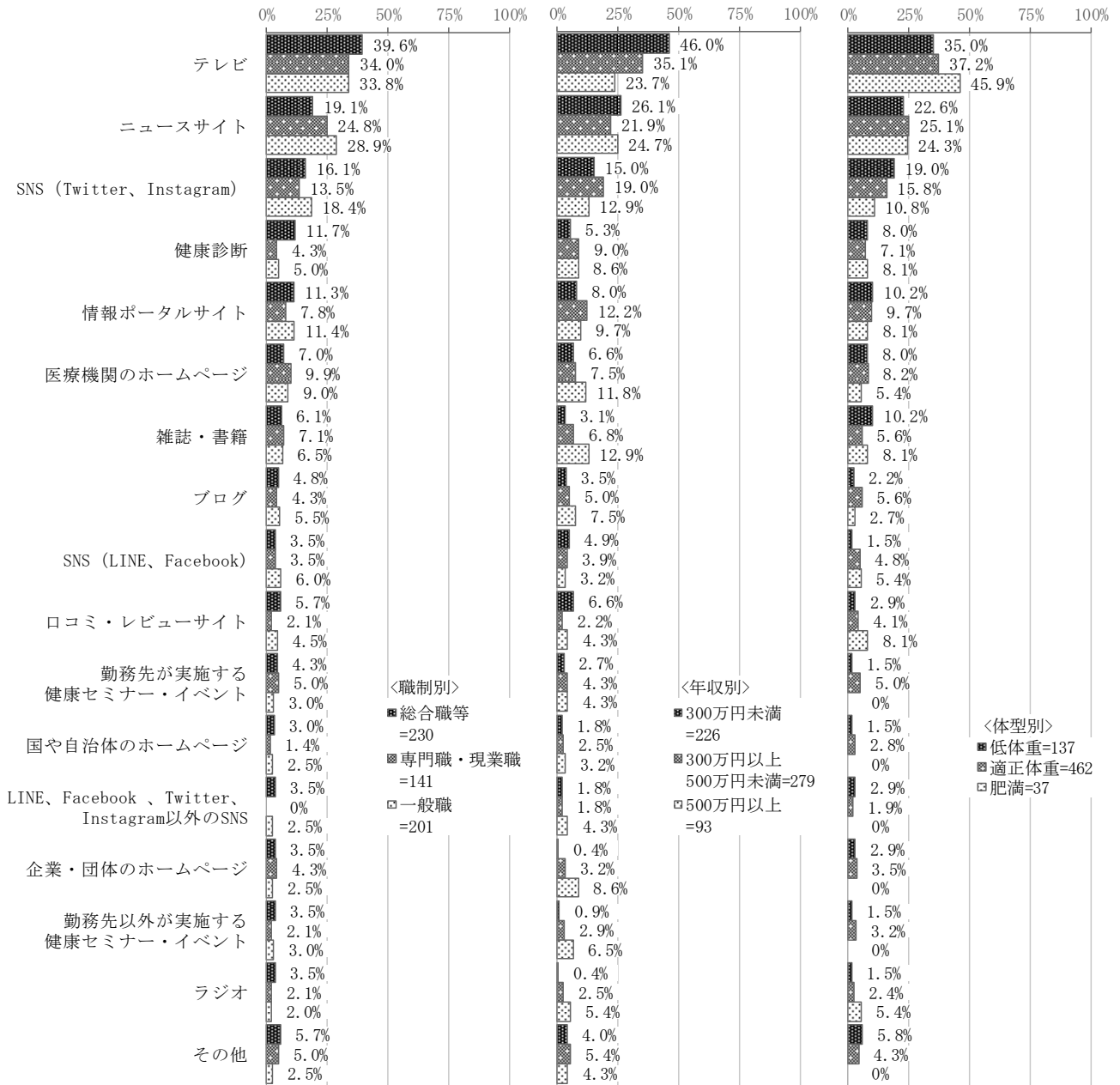
- 月経困難症について、前問で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者に、どのような機会を通じて知ることがあるか尋ねたところ、全体では「テレビ」が37.3%と最も多い。
- 「テレビ」は勤務先規模別で100人未満の回答者、年収別で300万円未満の回答者と300万円以上500万円未満の回答者、健康の維持改善で予定なしの回答者と予定ありの回答者が多い。
- 「ニュースサイト」は、生年別で1980～87年生の回答者が多い。
- 「SNS (Twitter、Instagram)」は、生年別で1988～95年生の回答者が多い。

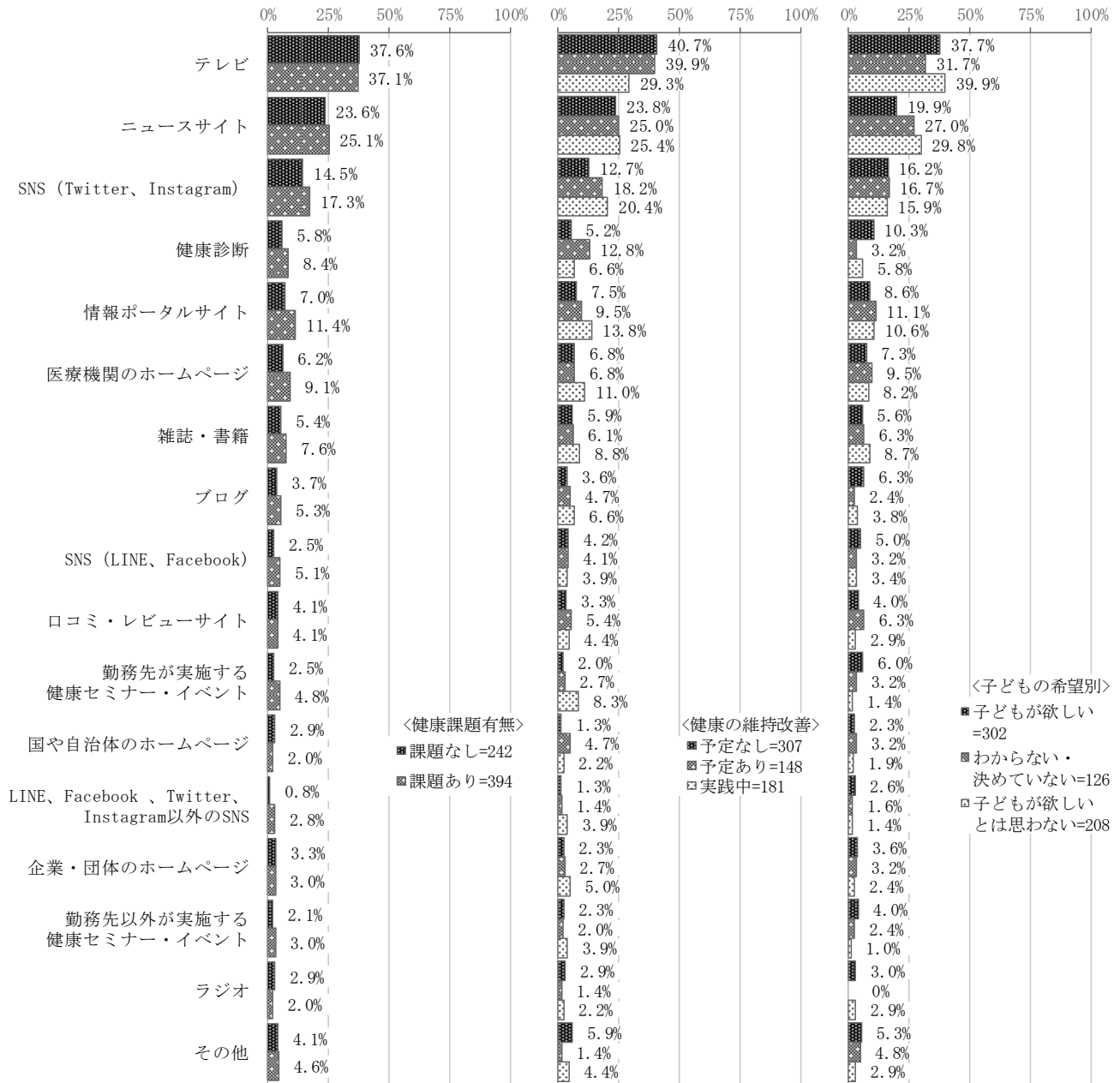
図表 5.4. 女性特有の健康課題の認知経路（月経困難症）【複数選択】

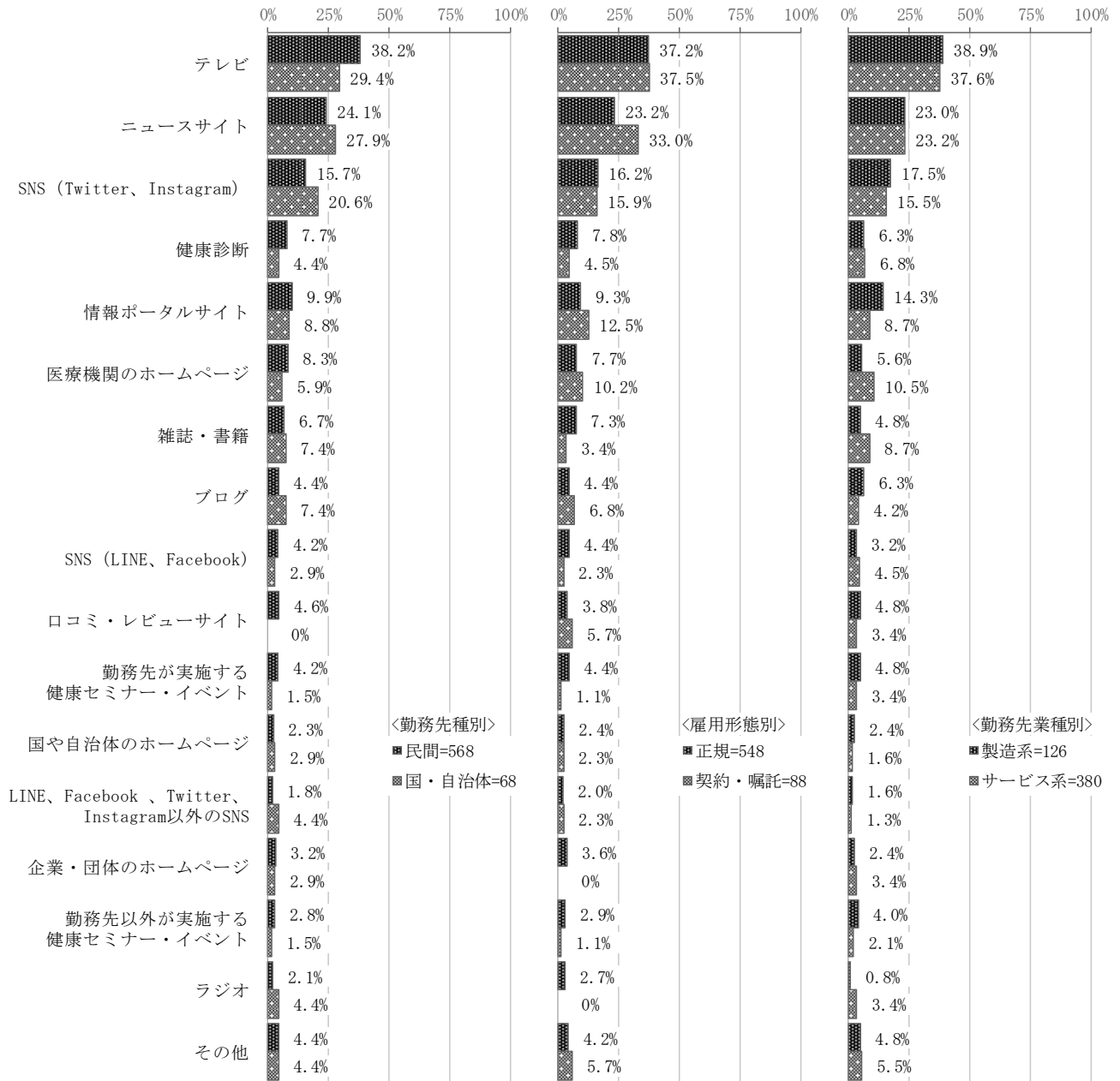


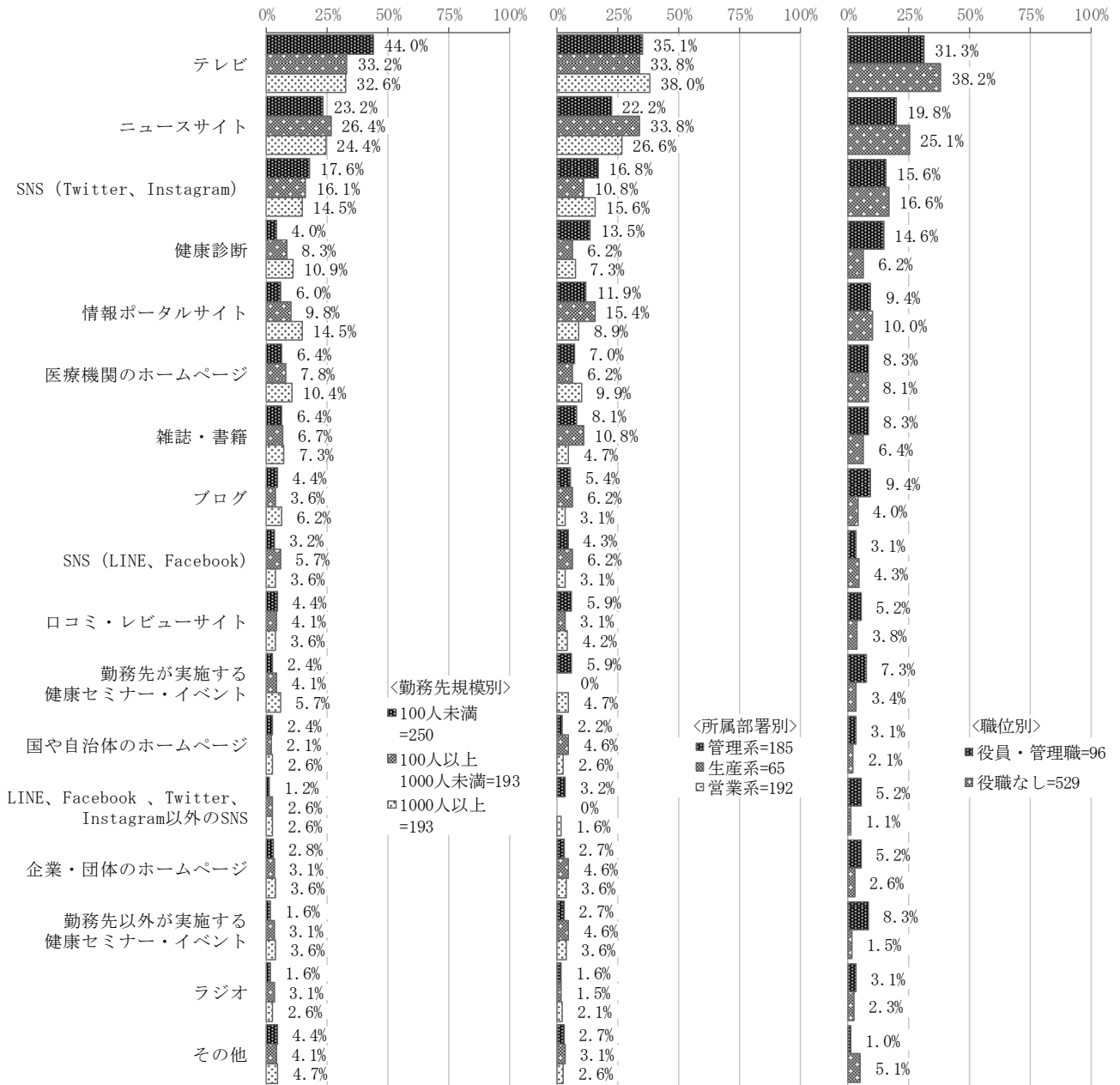


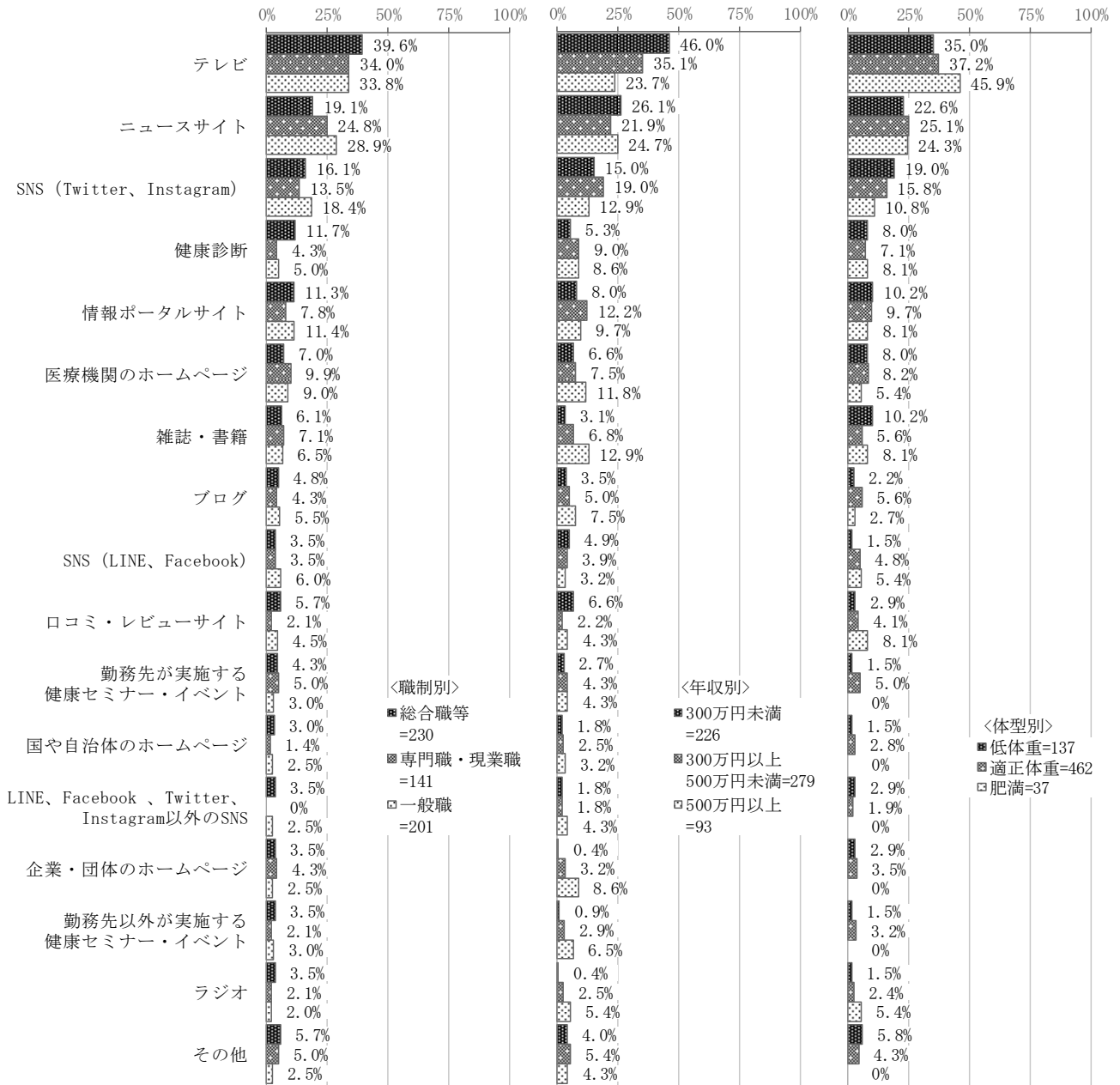


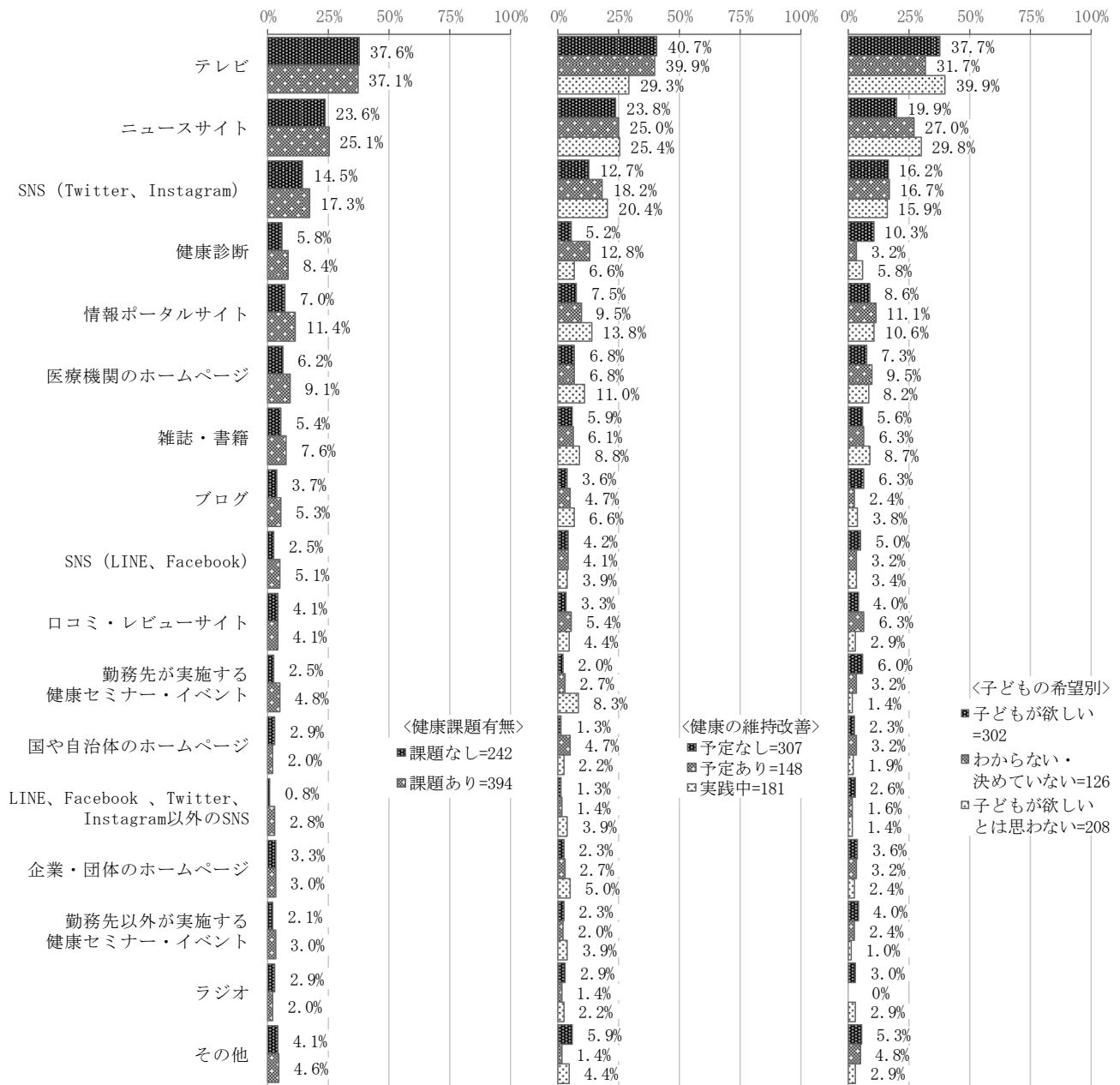










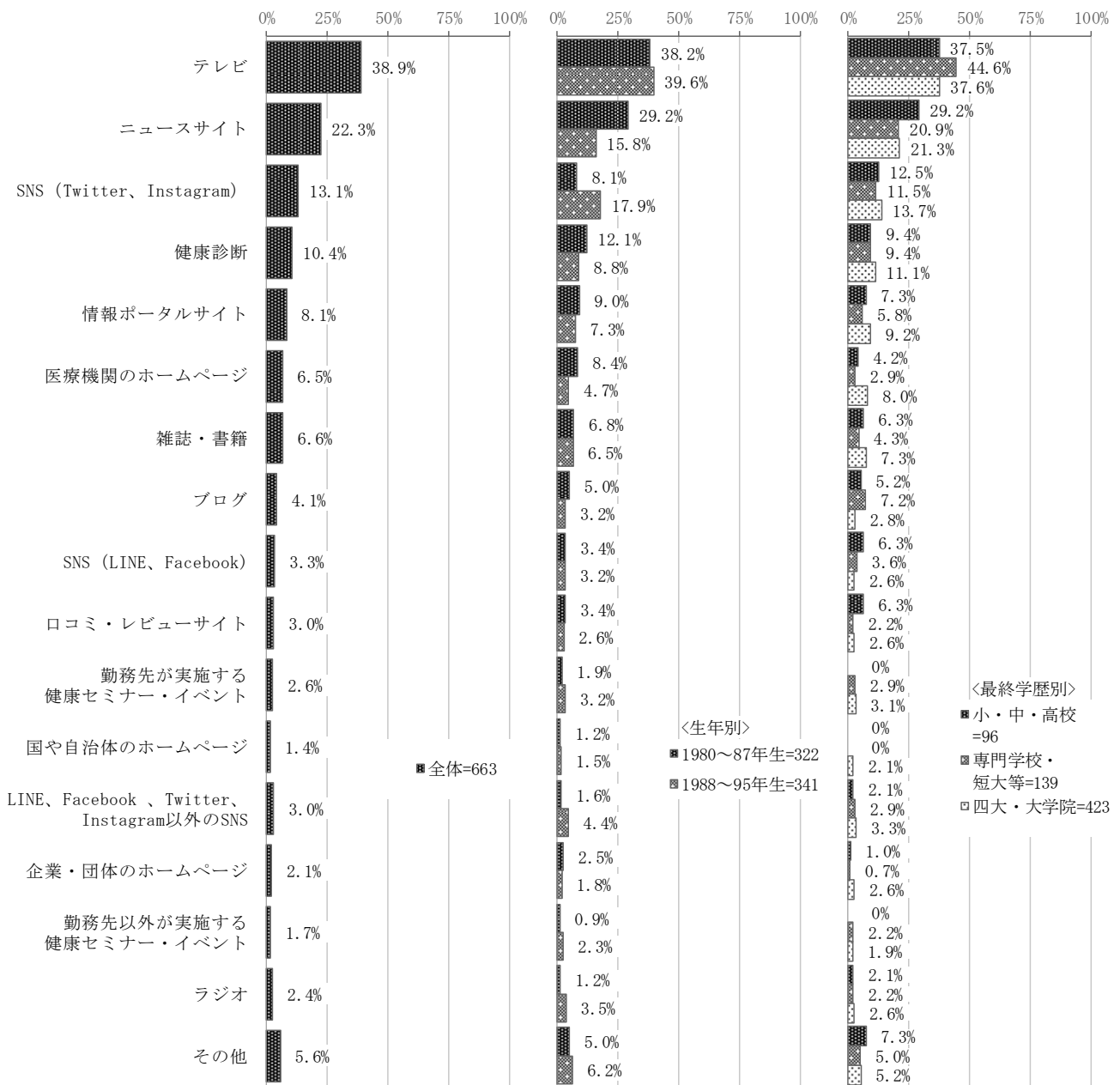


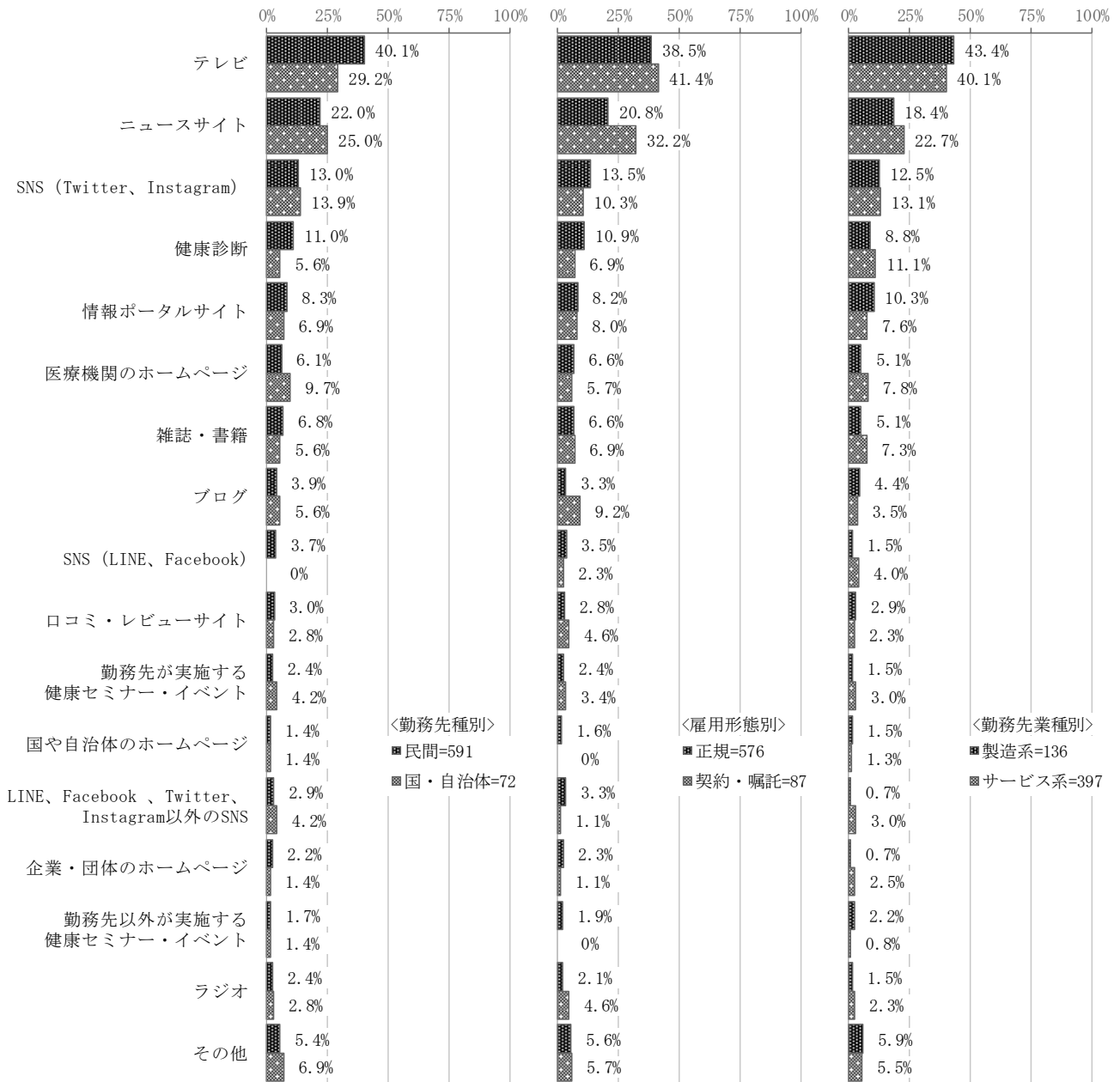
注 「その他」には、「YouTube等ネット」「医療機関」「自身の診断・検診」「家族・親戚」「家族・親戚以外の人」「勤務先」「学校」があった。

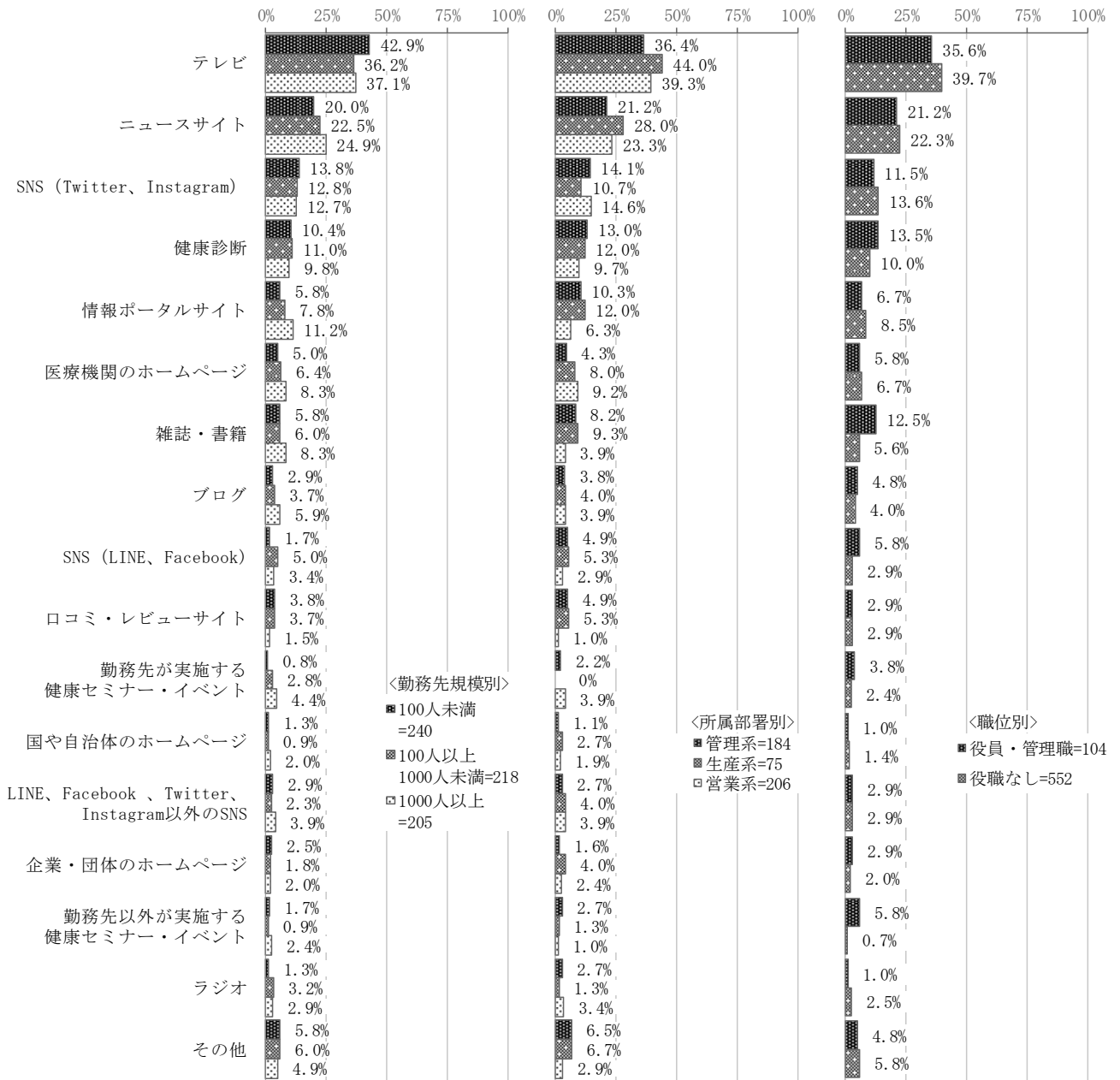
5.5. 女性特有の健康課題の認知経路（痩せ）

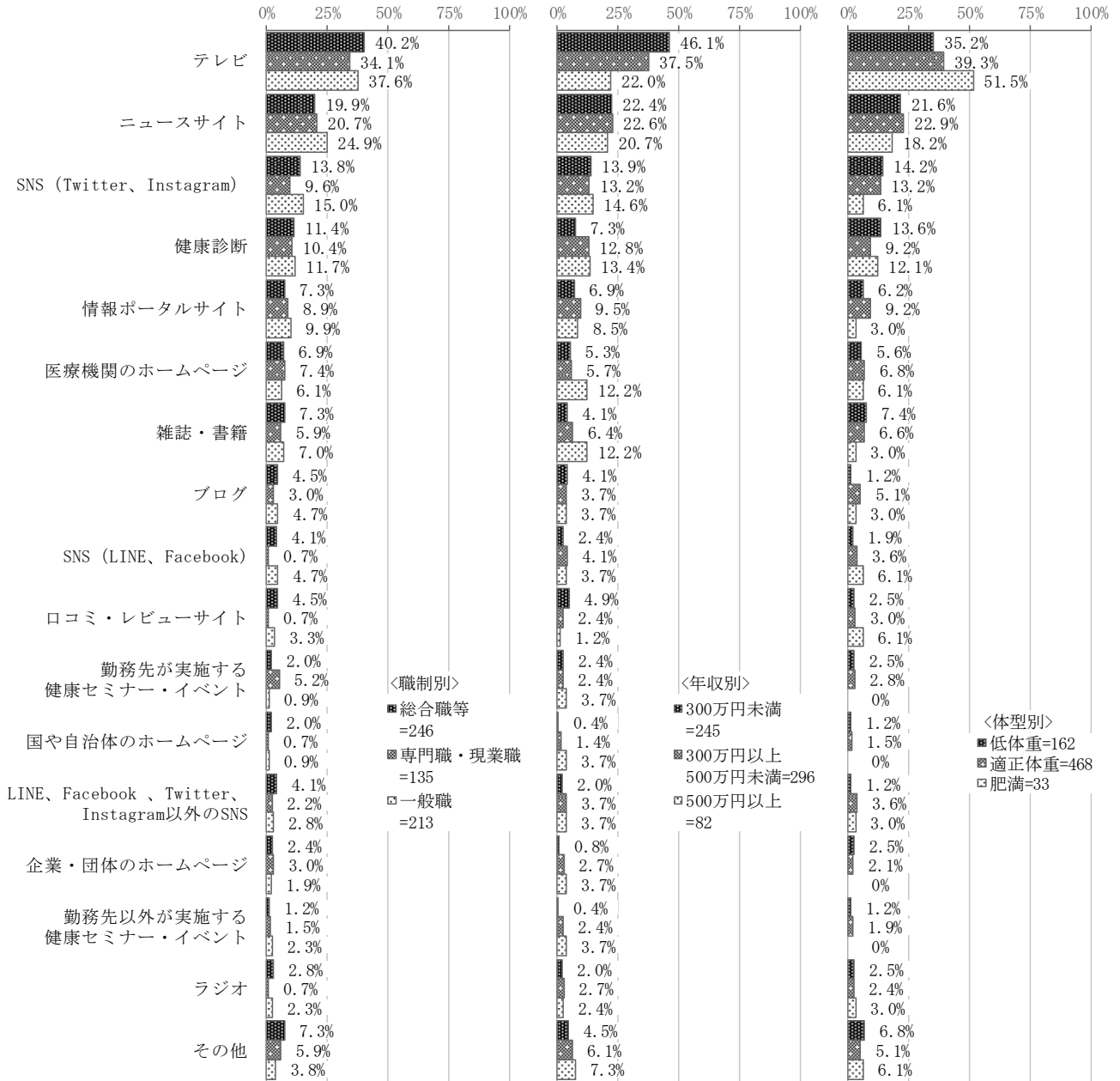
- 痩せについて、前問で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者に、どのような機会を通じて知ることがあるか尋ねたところ、全体では「テレビ」が38.9%と最も多い。
- 「テレビ」は勤務先種別で民間の回答者、年収別で300万円未満の回答者と300万円以上500万円未満の回答者、体型別で肥満の回答者、健康の維持改善で予定なしの回答者と予定ありの回答者が多い。
- 「ニュースサイト」は、生年別で1980～87年生の回答者、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しいとは思わない回答者が多い。

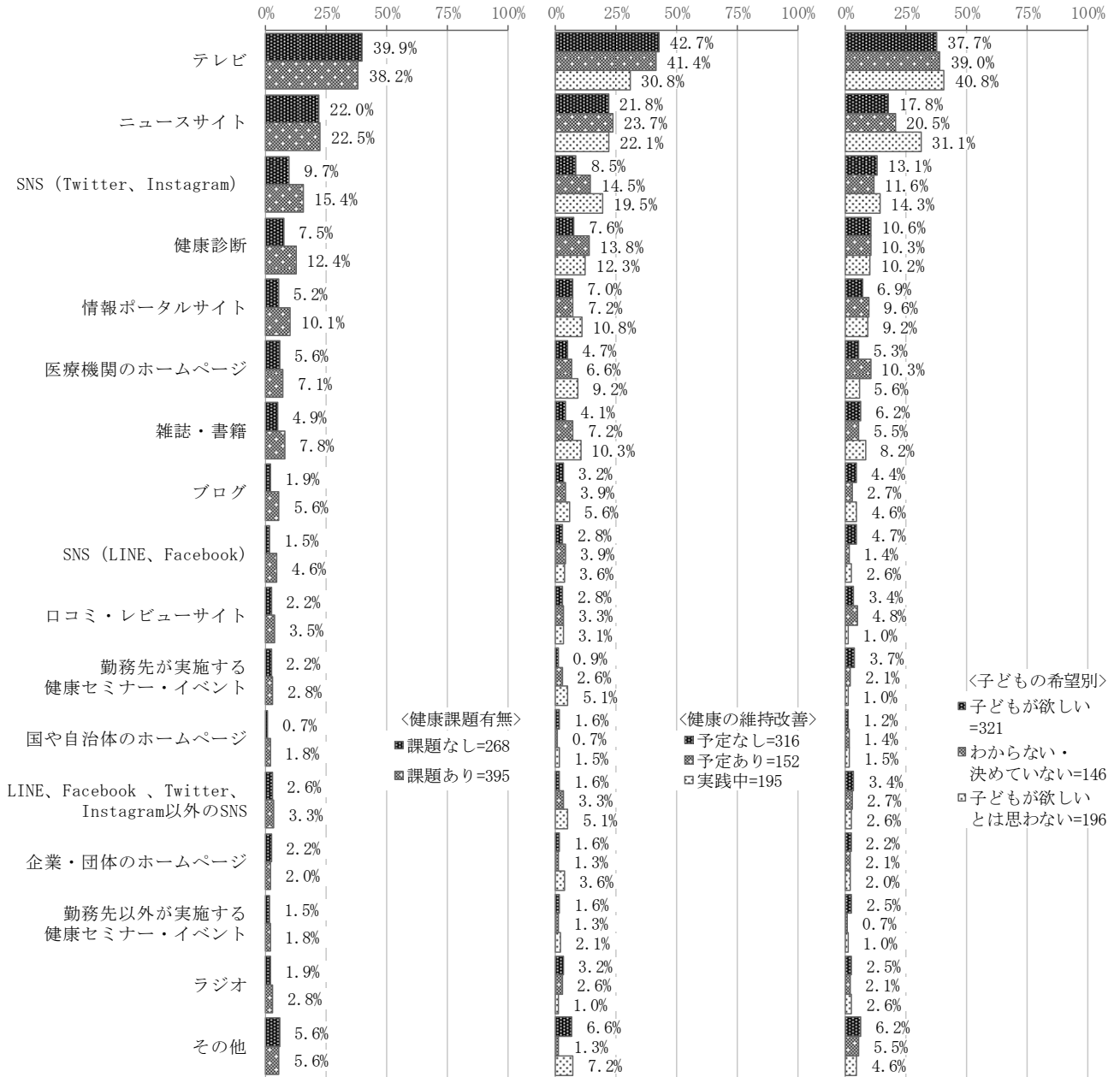
図表 5.5.女性特有の健康課題の認知経路（痩せ）【複数選択】

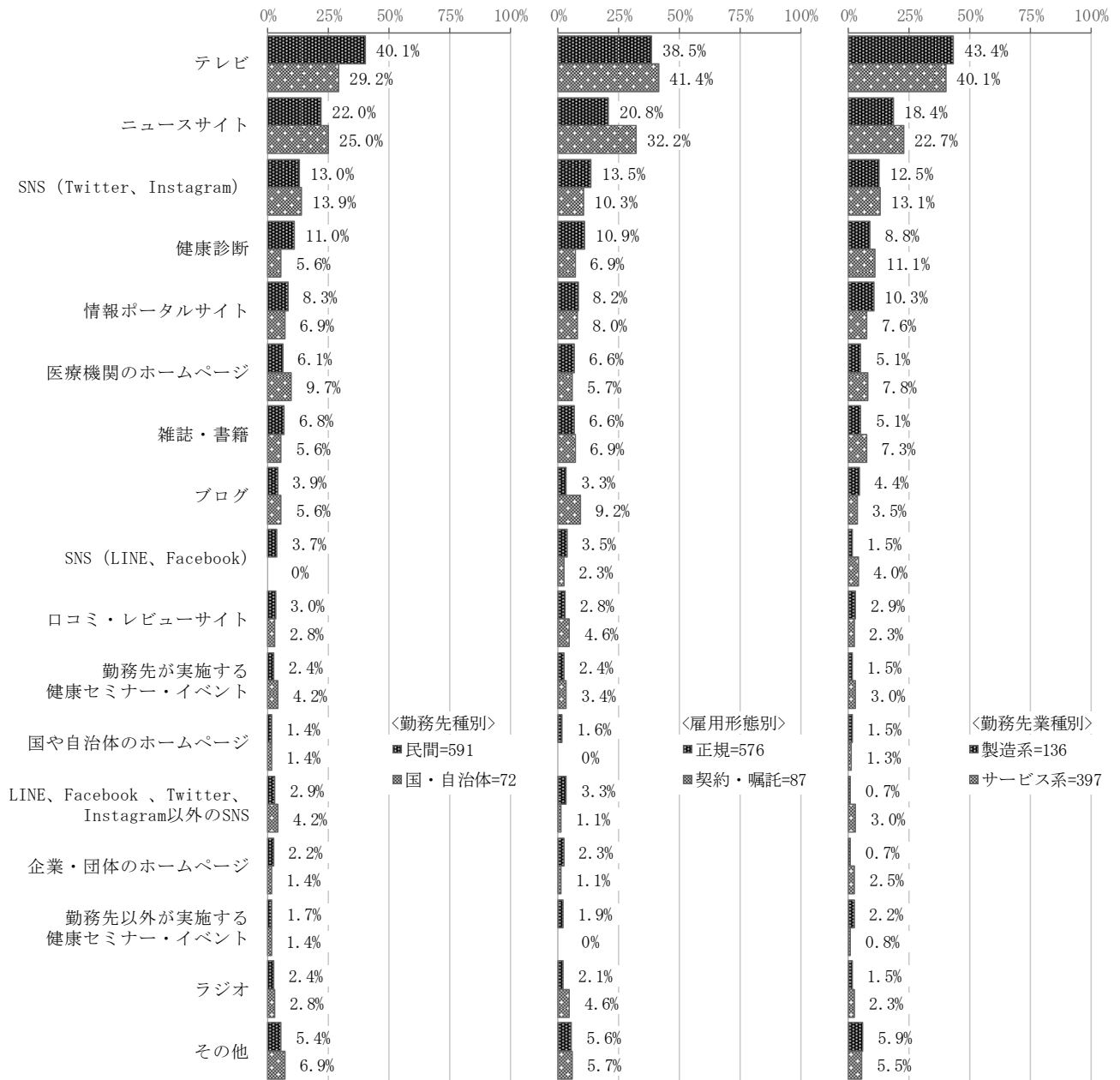


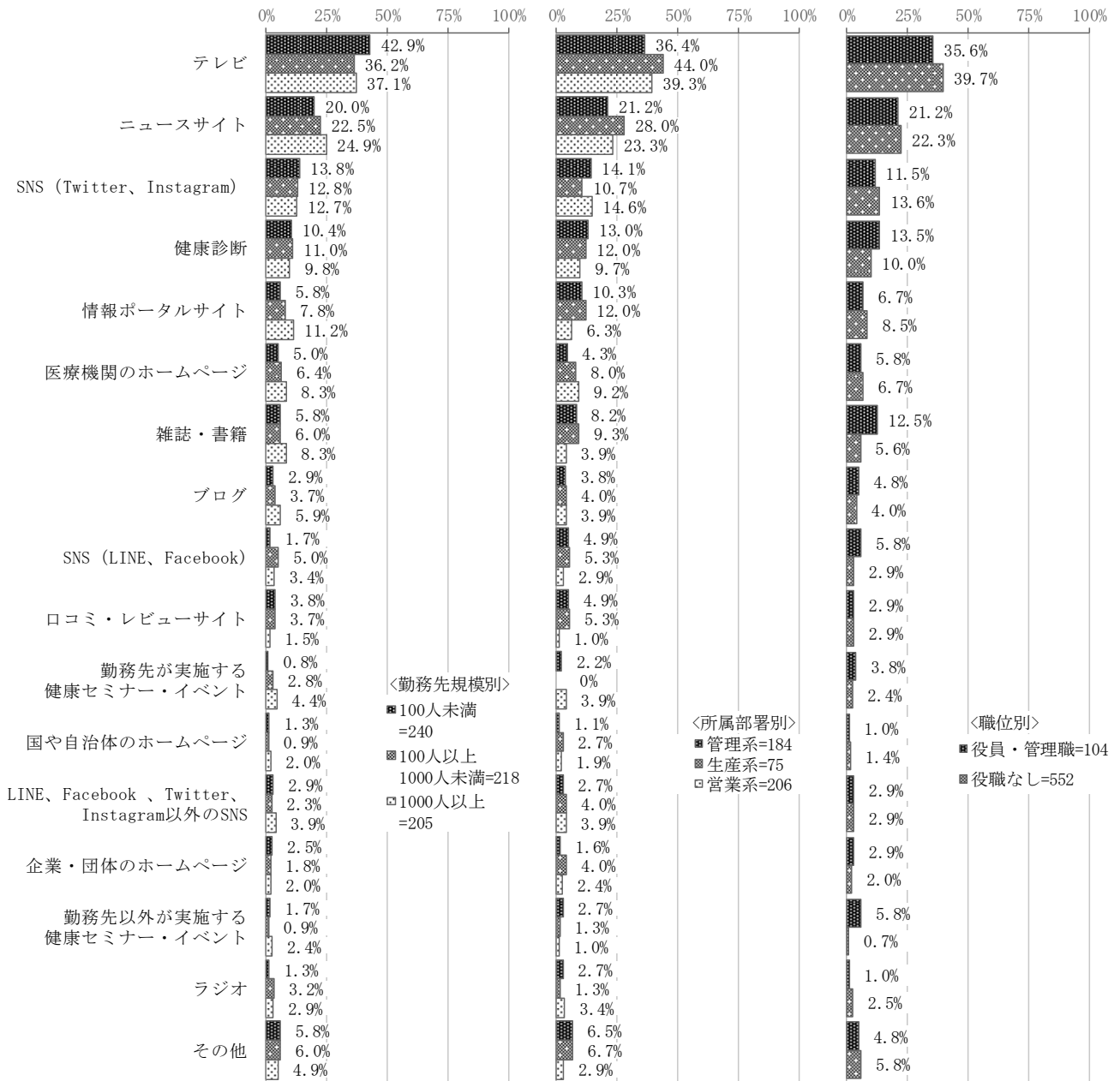


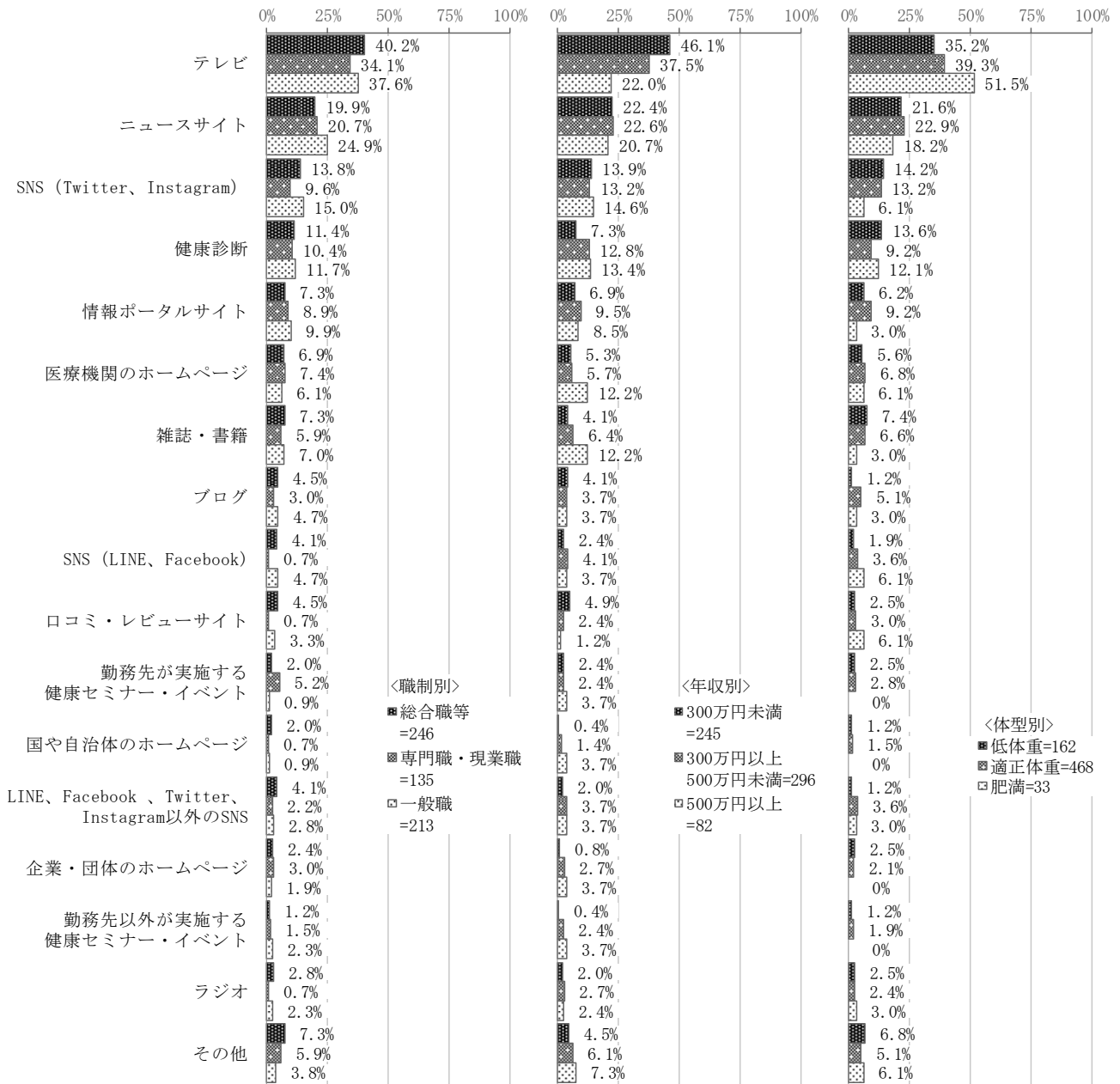


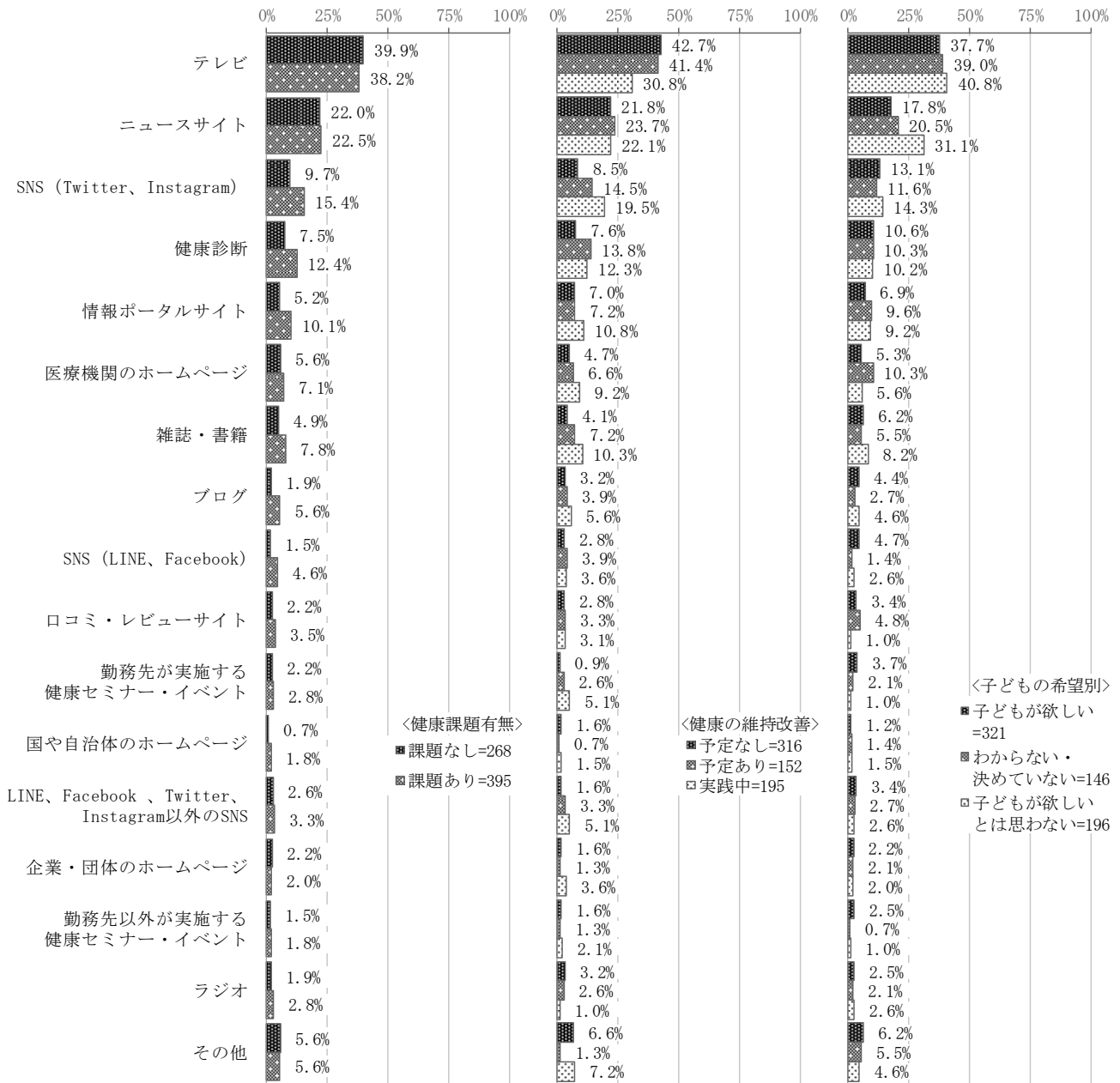










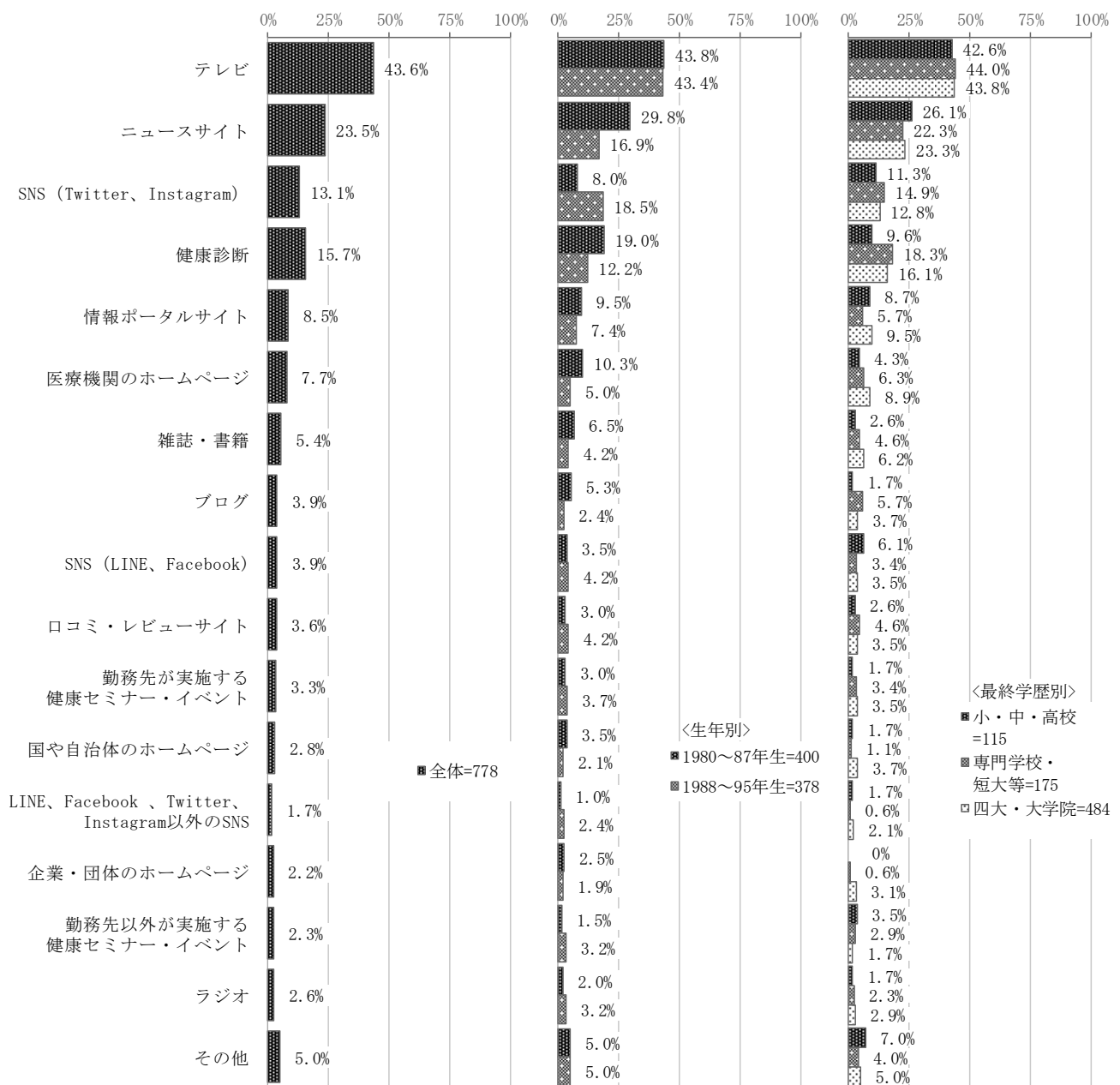


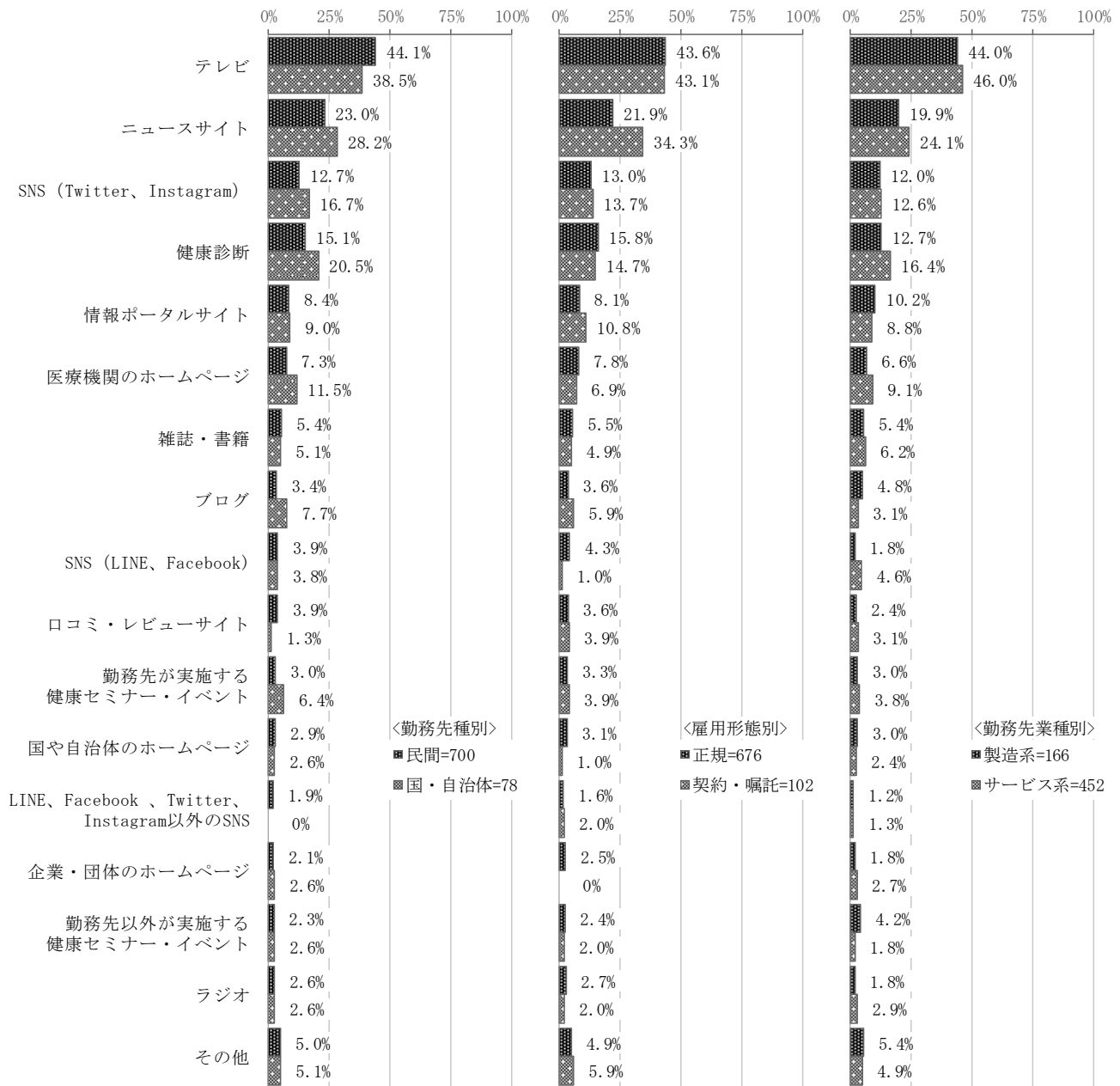
注 「その他」には、「YouTube等ネット」「医療機関」「自身の診断・検診」「家族・親戚」「家族・親戚以外の人」「勤務先」「学校」「新聞」「リーフレット」があった。

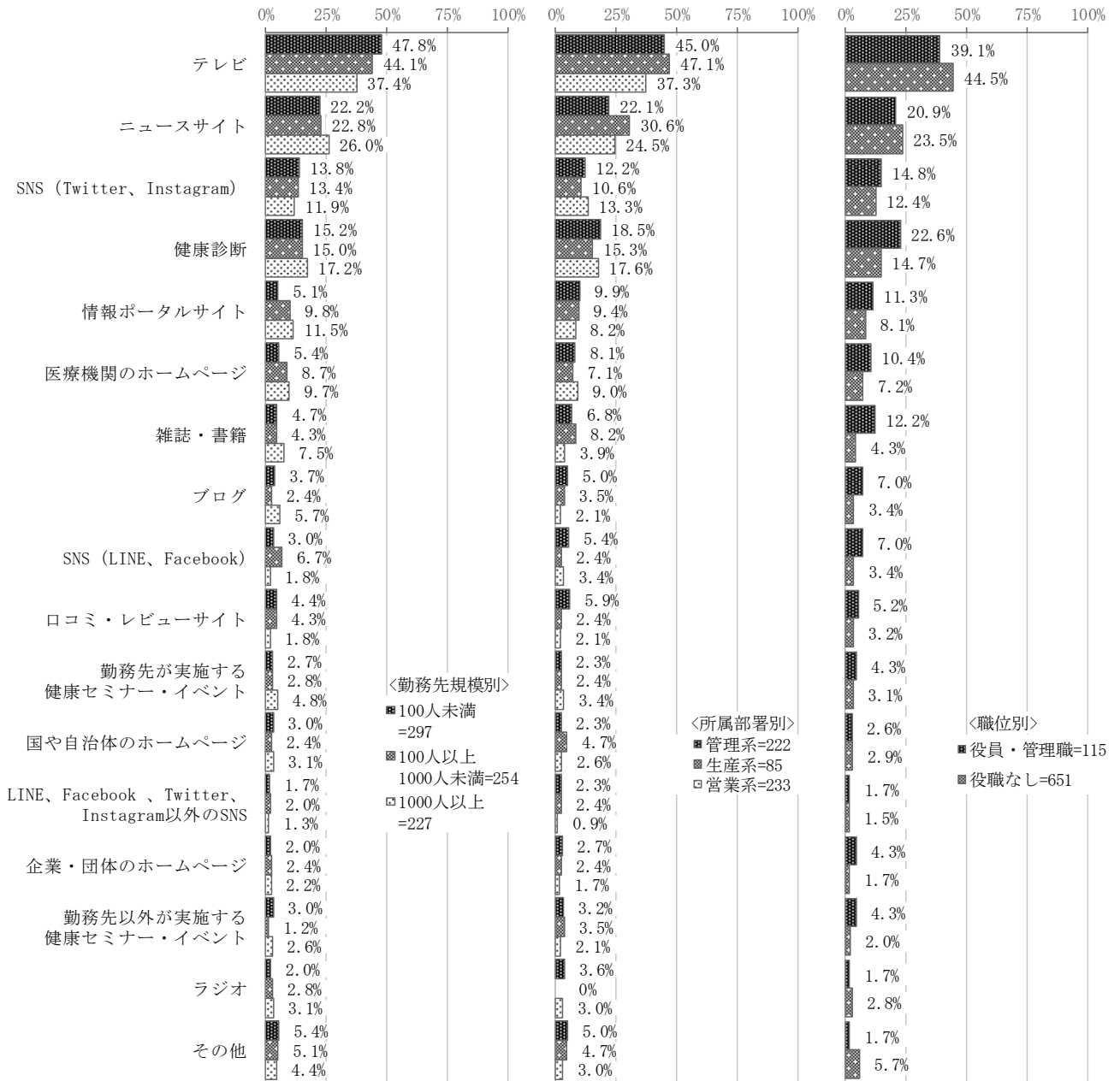
5.6. 女性特有の健康課題の認知経路（乳がん）

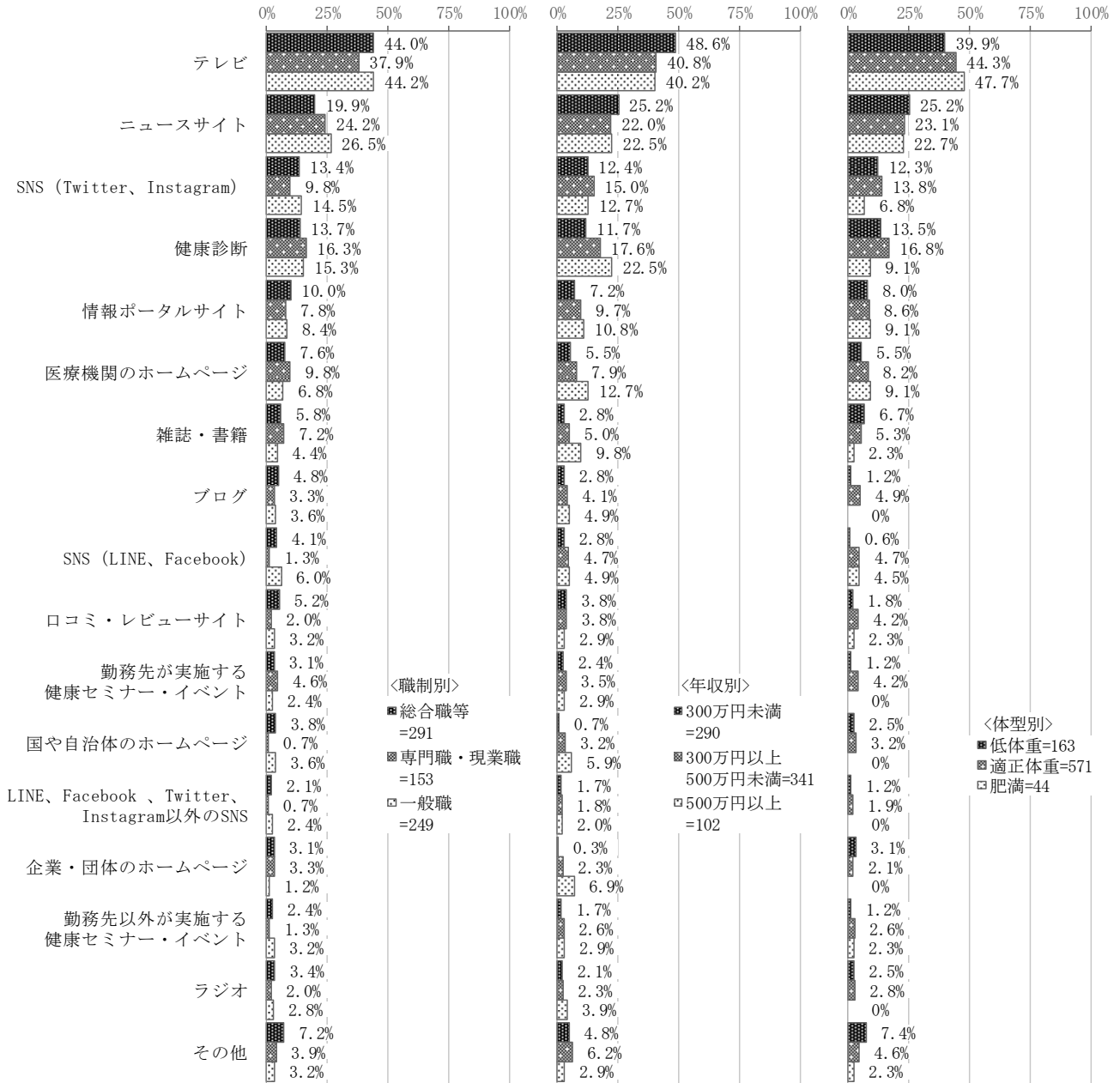
- 乳がんについて、前問で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者に、どのような機会を通じて知ることがあるか尋ねたところ、全体では「テレビ」が43.6%と最も多い。
- 「ニュースサイト」は、生年別で1980～87年生の回答者、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しいとは思わない回答者が多い。
- 「SNS (Twitter、Instagram)」は、生年別で1988～95年生の回答者が多い。

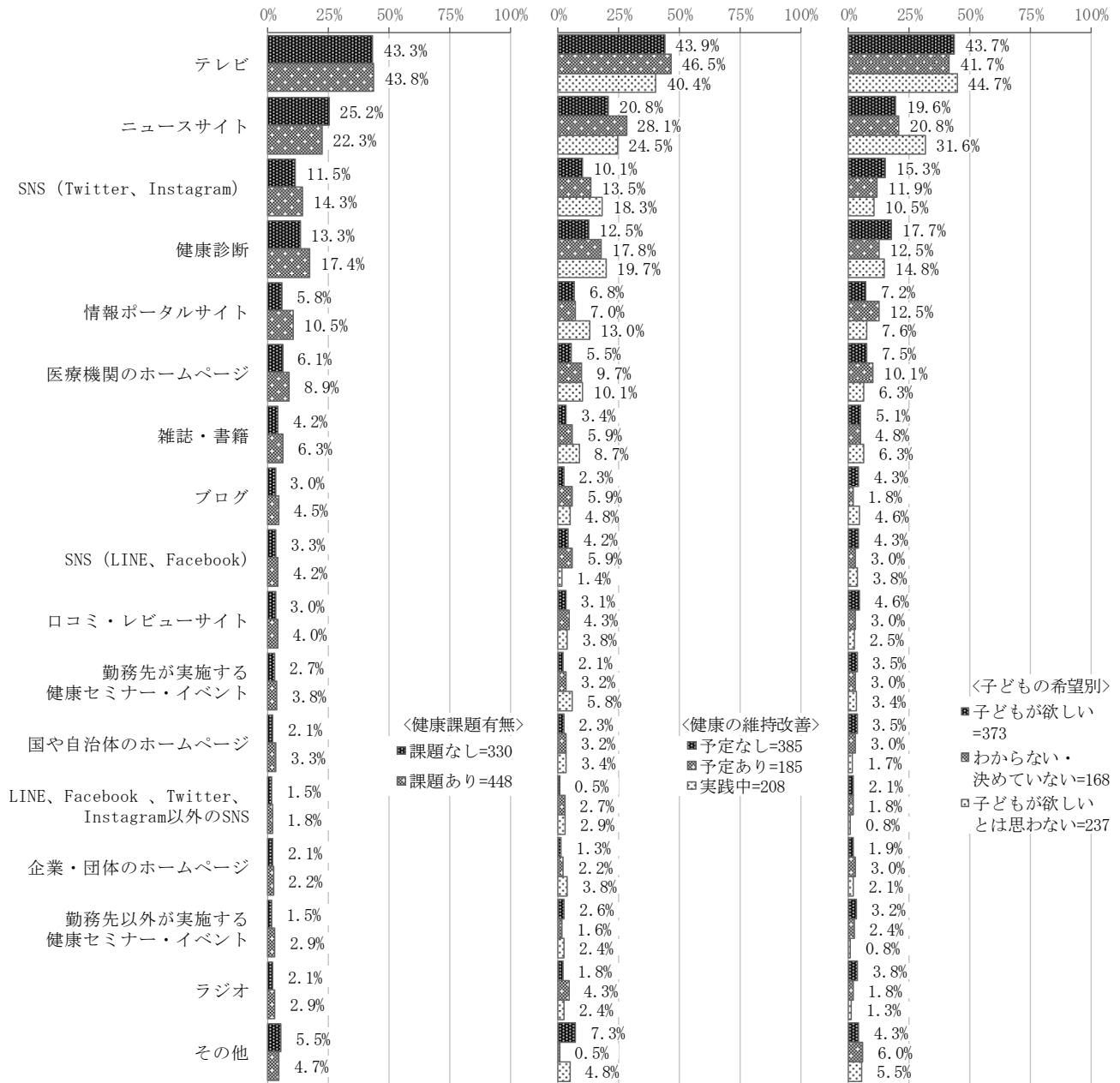
図表 5.6.女性特有の健康課題の認知経路（乳がん）【複数選択】

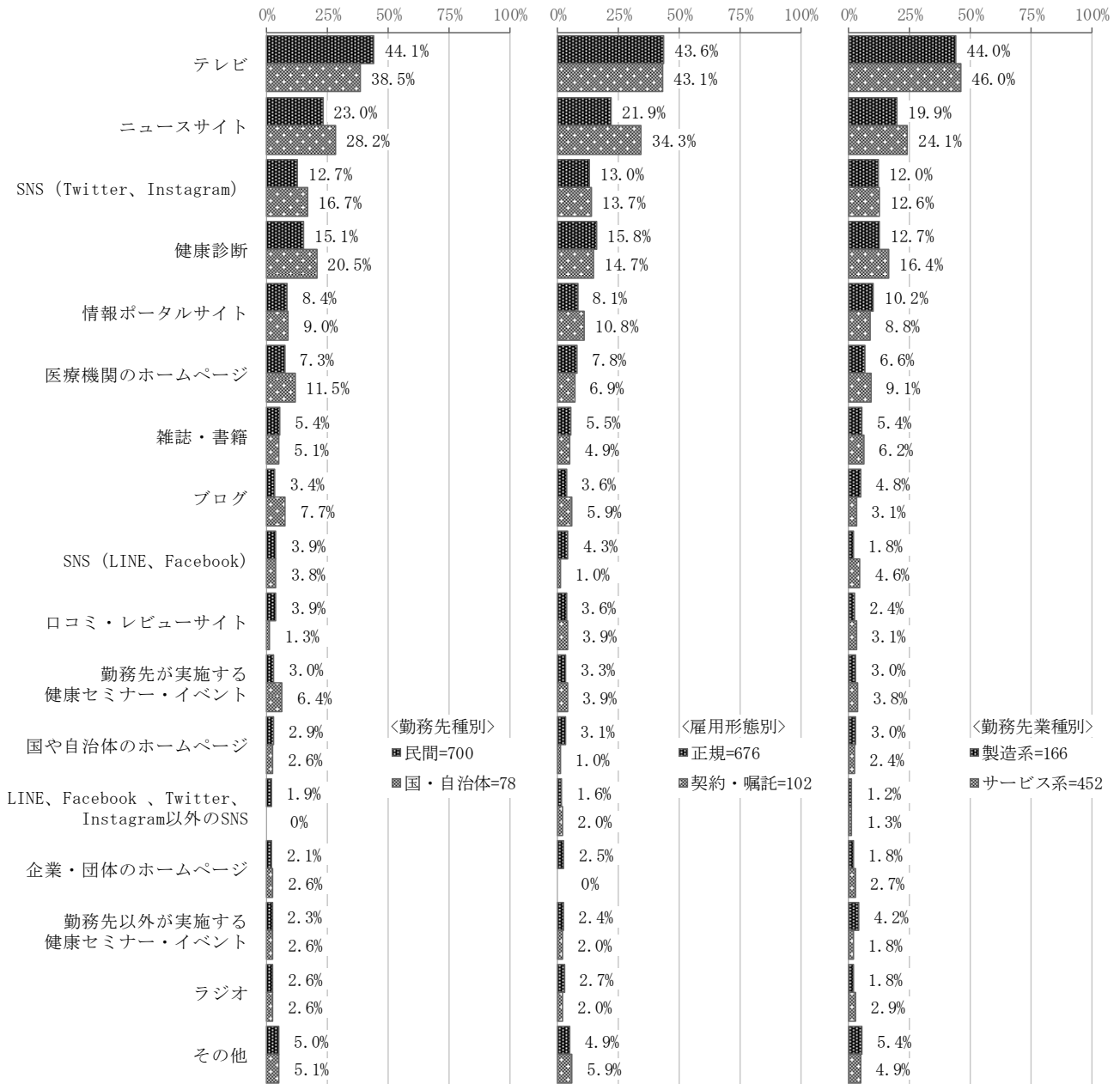


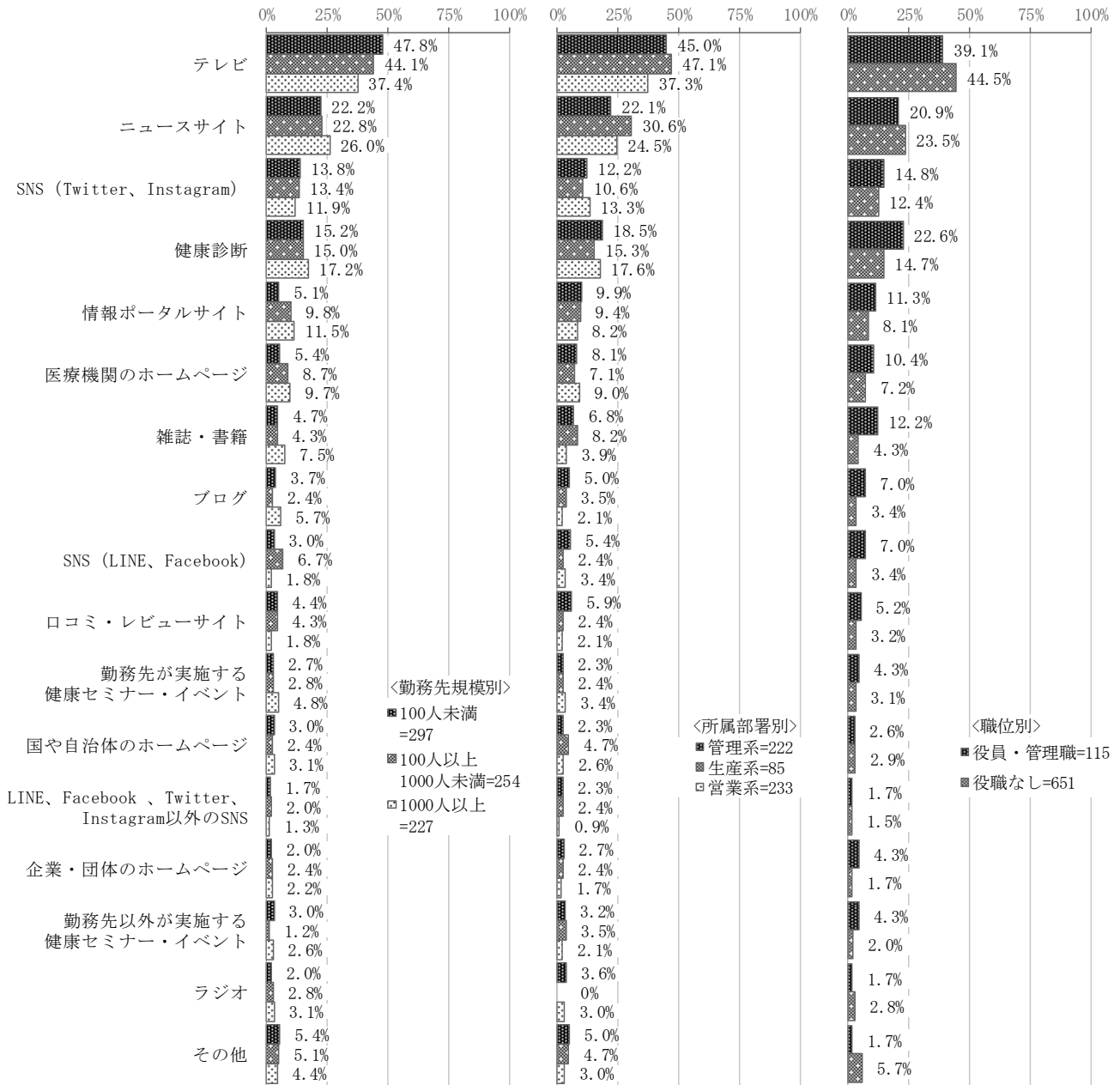


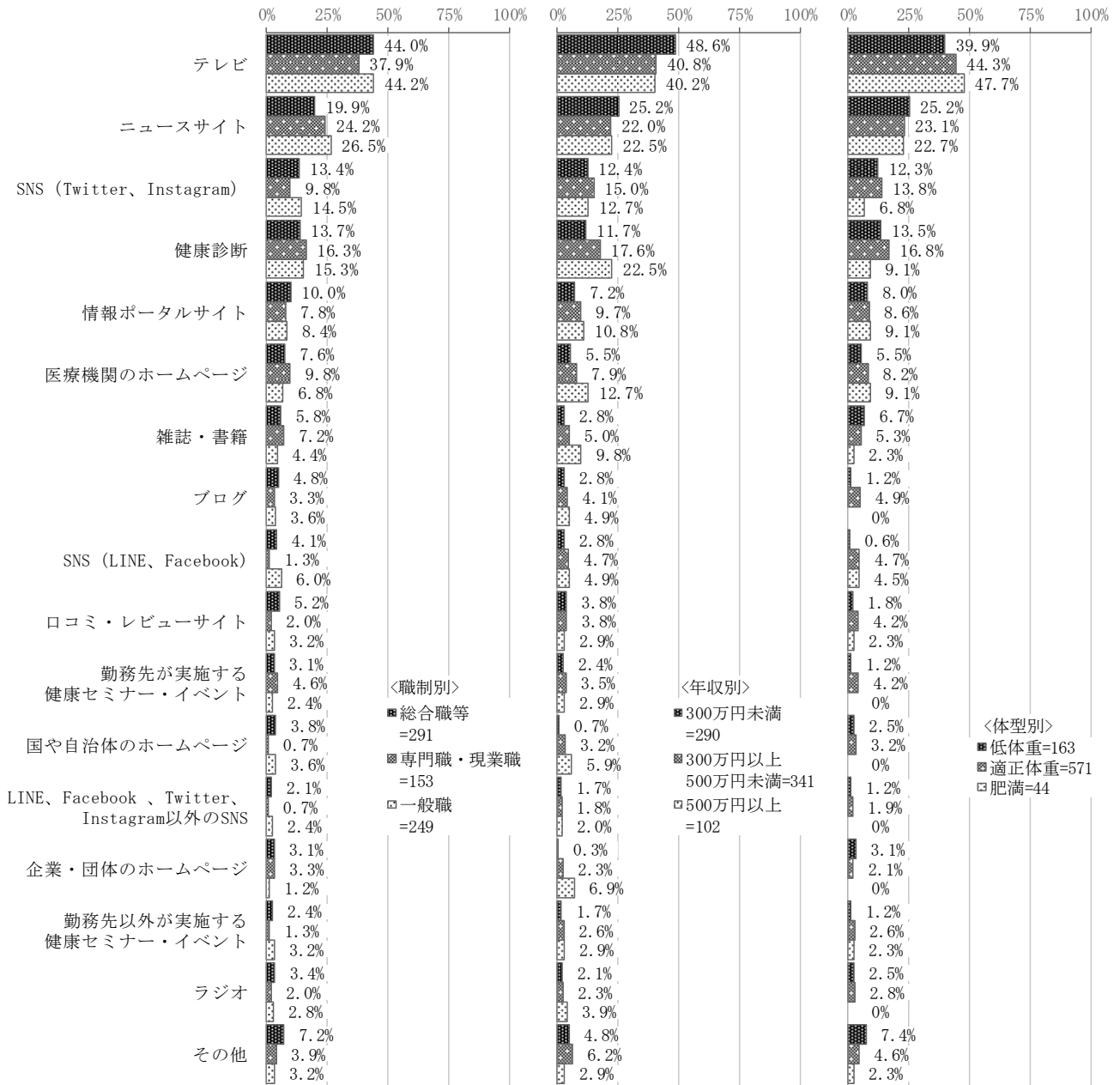


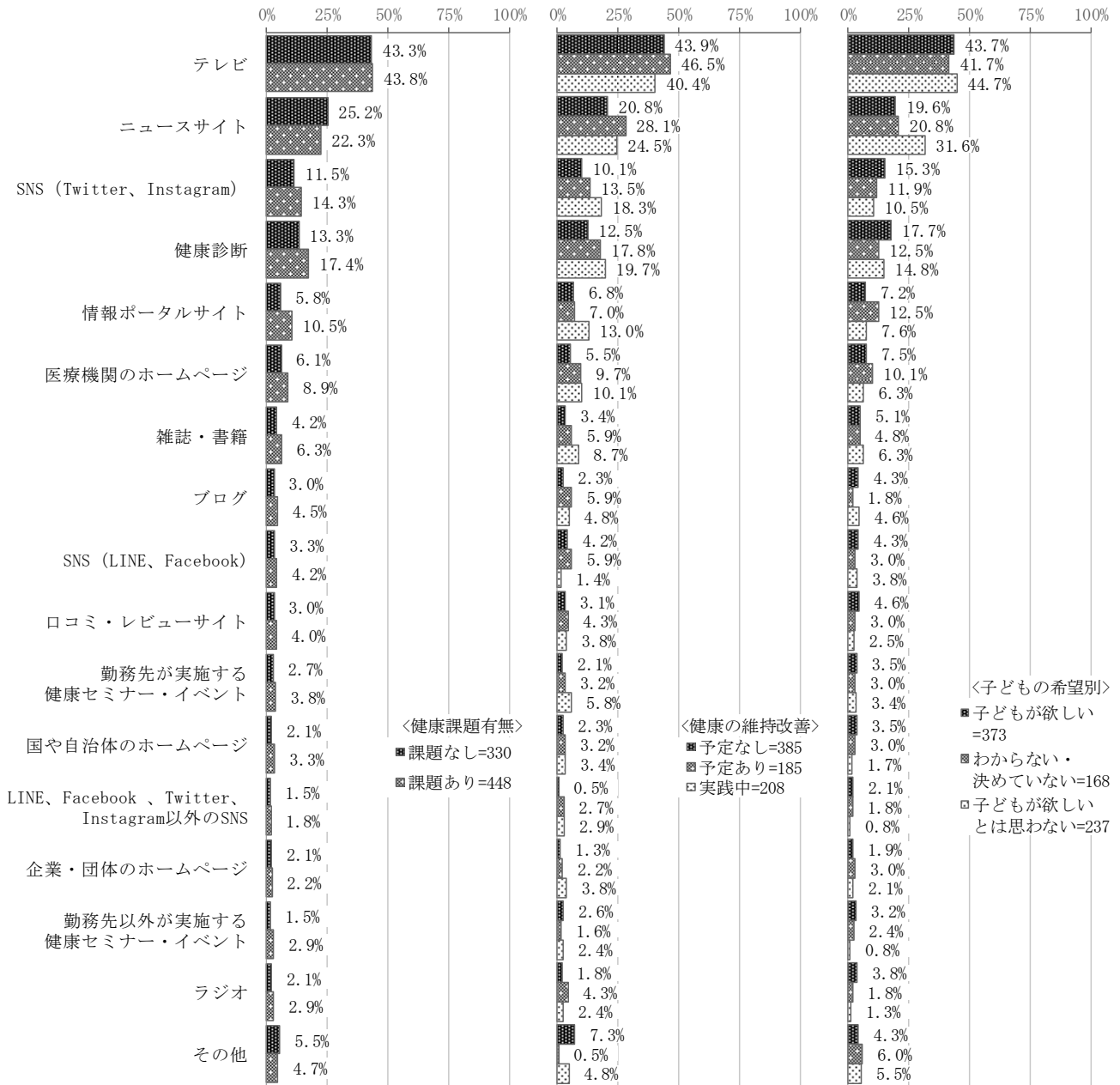










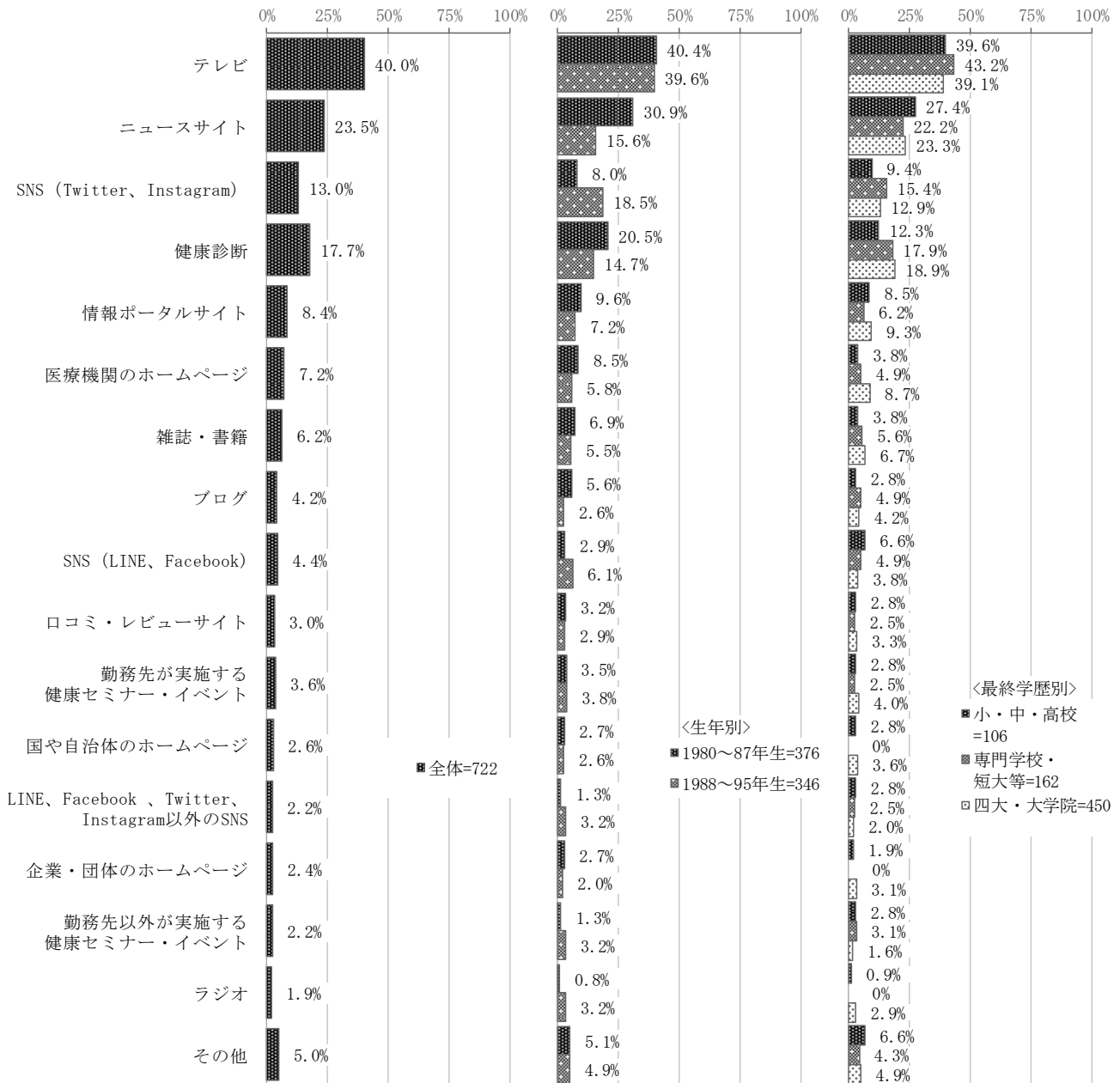


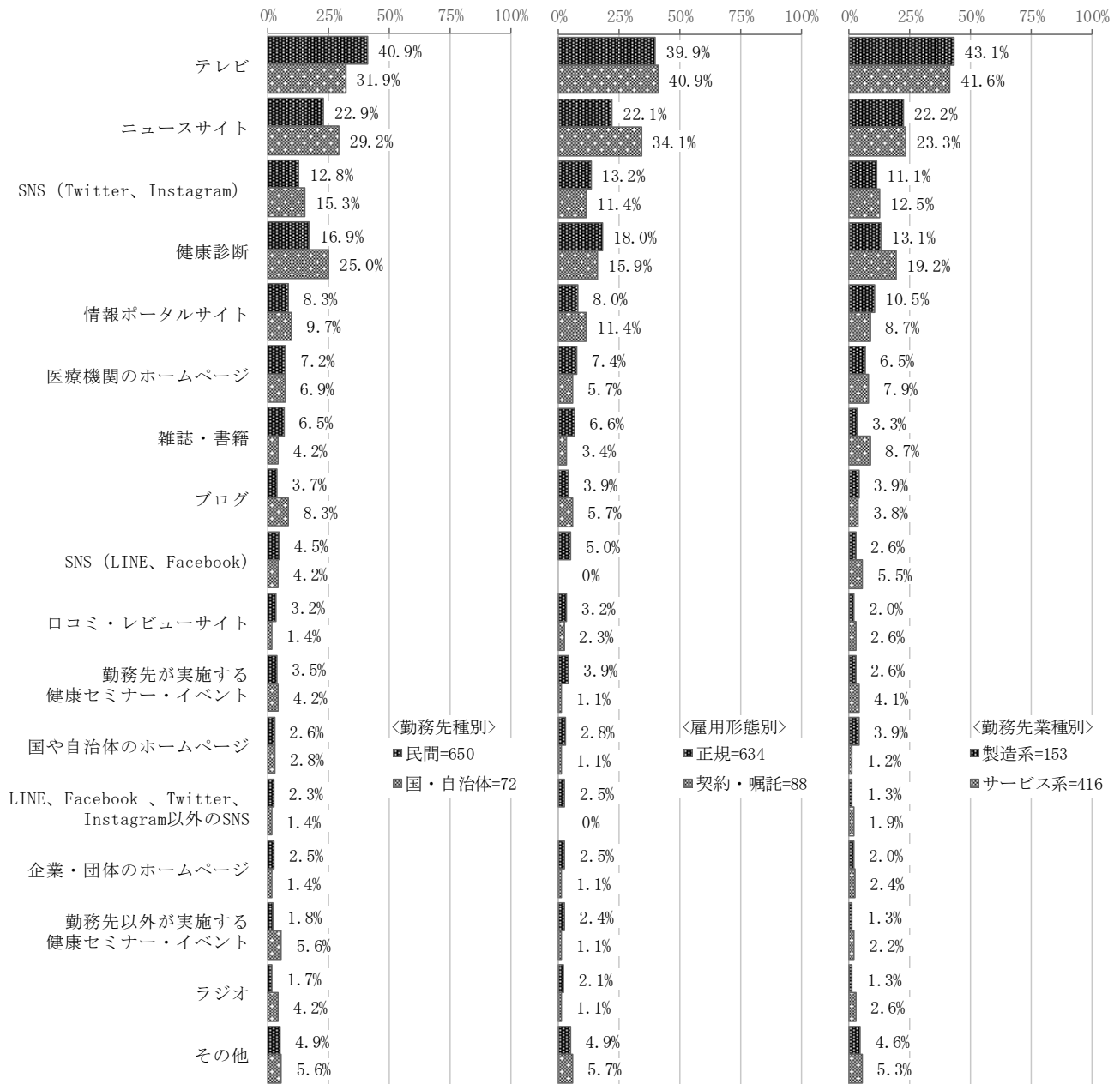
注 「その他」には、「YouTube等ネット」「医療機関」「自身の診断・検診」「家族・親戚」「家族・親戚以外の人」「勤務先」「学校」「自治体の広報」があった。

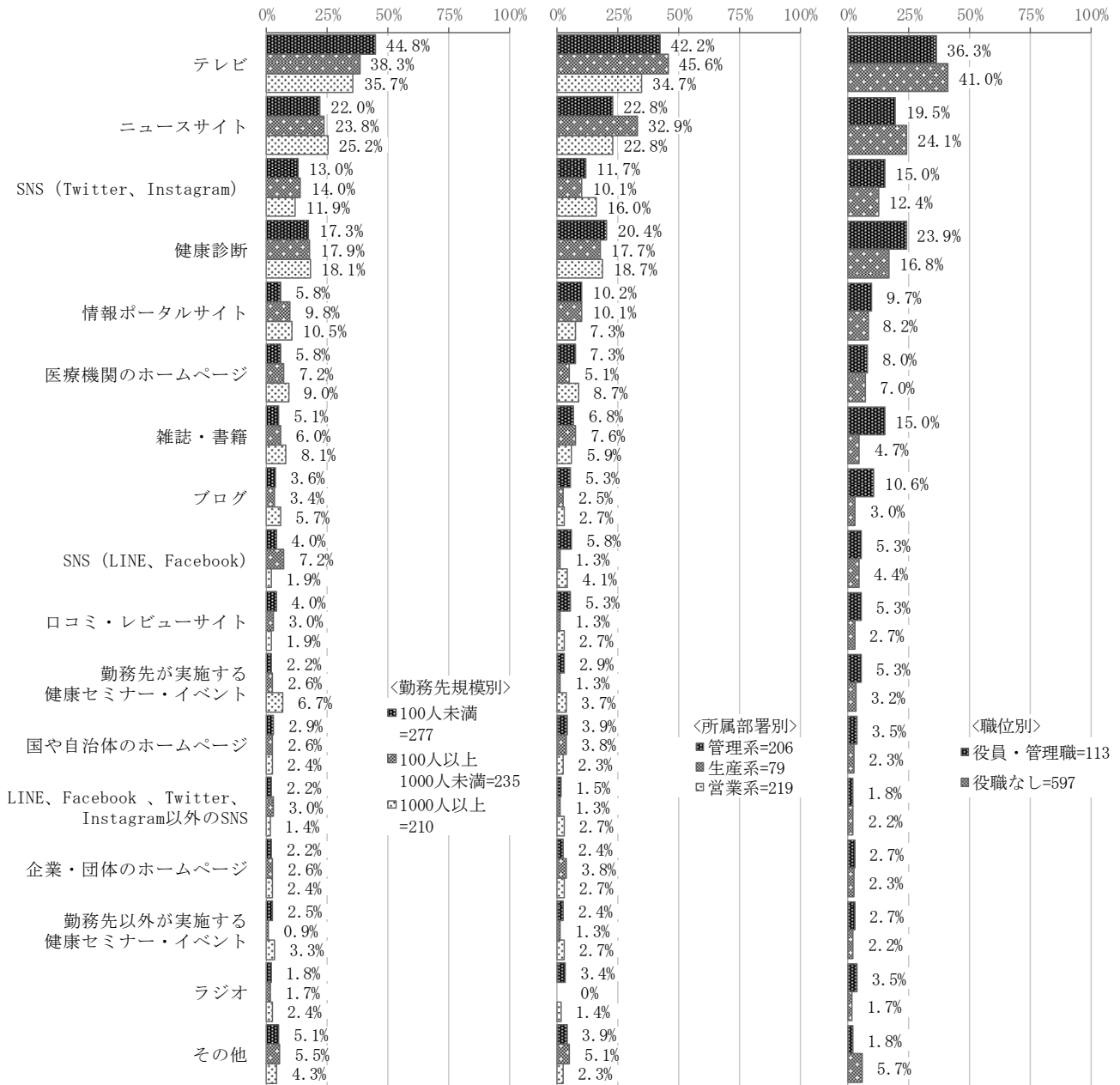
5.7. 女性特有の健康課題の認知経路（子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん）

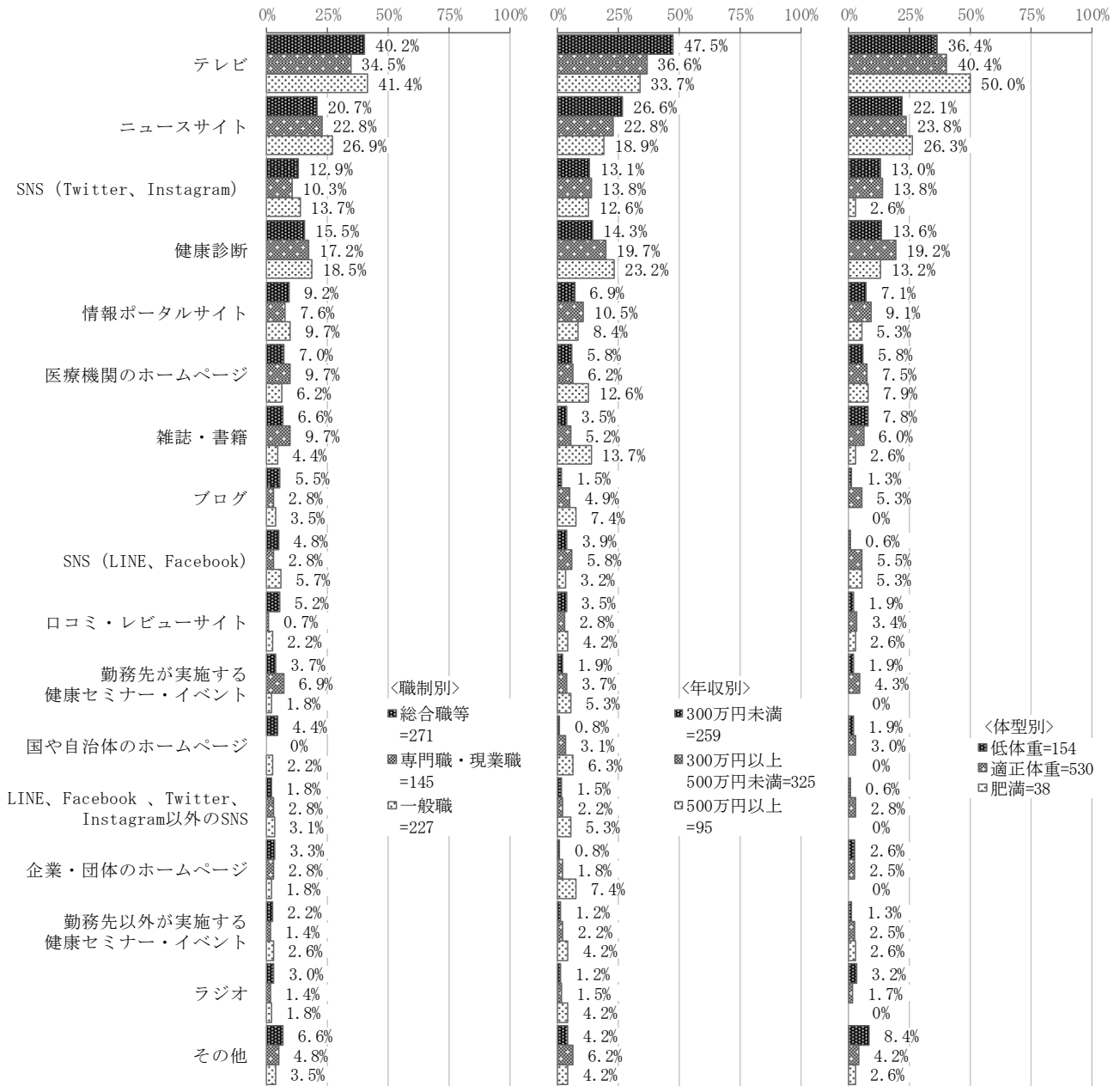
- 子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がんについて、前問で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者に、どのような機会を通じて知ることがあるか尋ねたところ、全体では「テレビ」が40.0%と最も多い。
- 「テレビ」は年収別で300万円未満の回答者が多い。
- 「ニュースサイト」は、生年別で1980～87年生の回答者、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、所属部署別で生産系の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しいとは思わない回答者が多い。
- 「SNS (Twitter、Instagram)」は、生年別で1988～95年生の回答者、体型別で適正体重の回答者と低体重の回答者が多い。
- 「雑誌・書籍」は全体では7位だが、職位別で役員・管理職の回答者が多い。

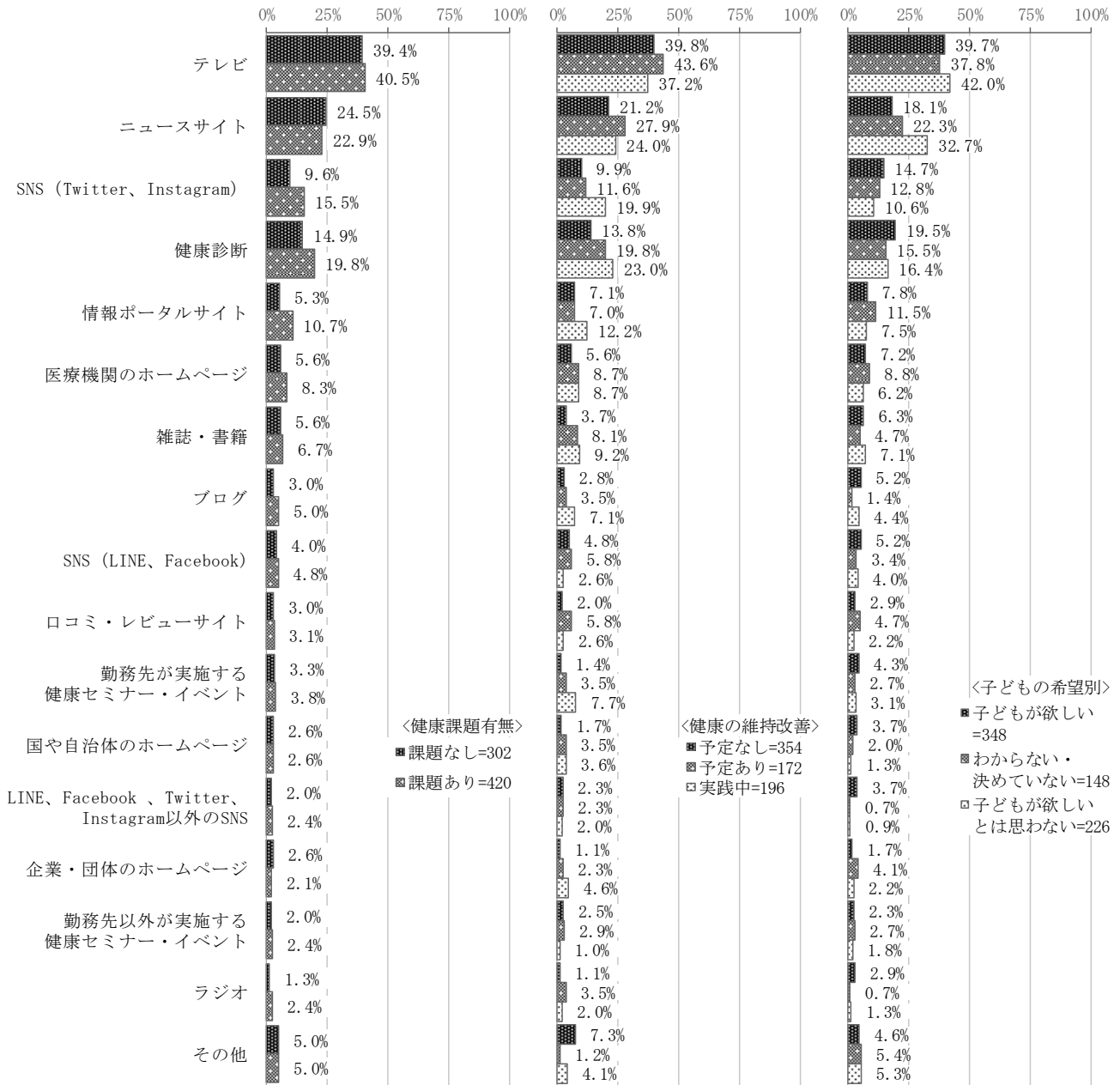
図表 5.7. 女性特有の健康課題の認知経路（子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん） [複数選択]

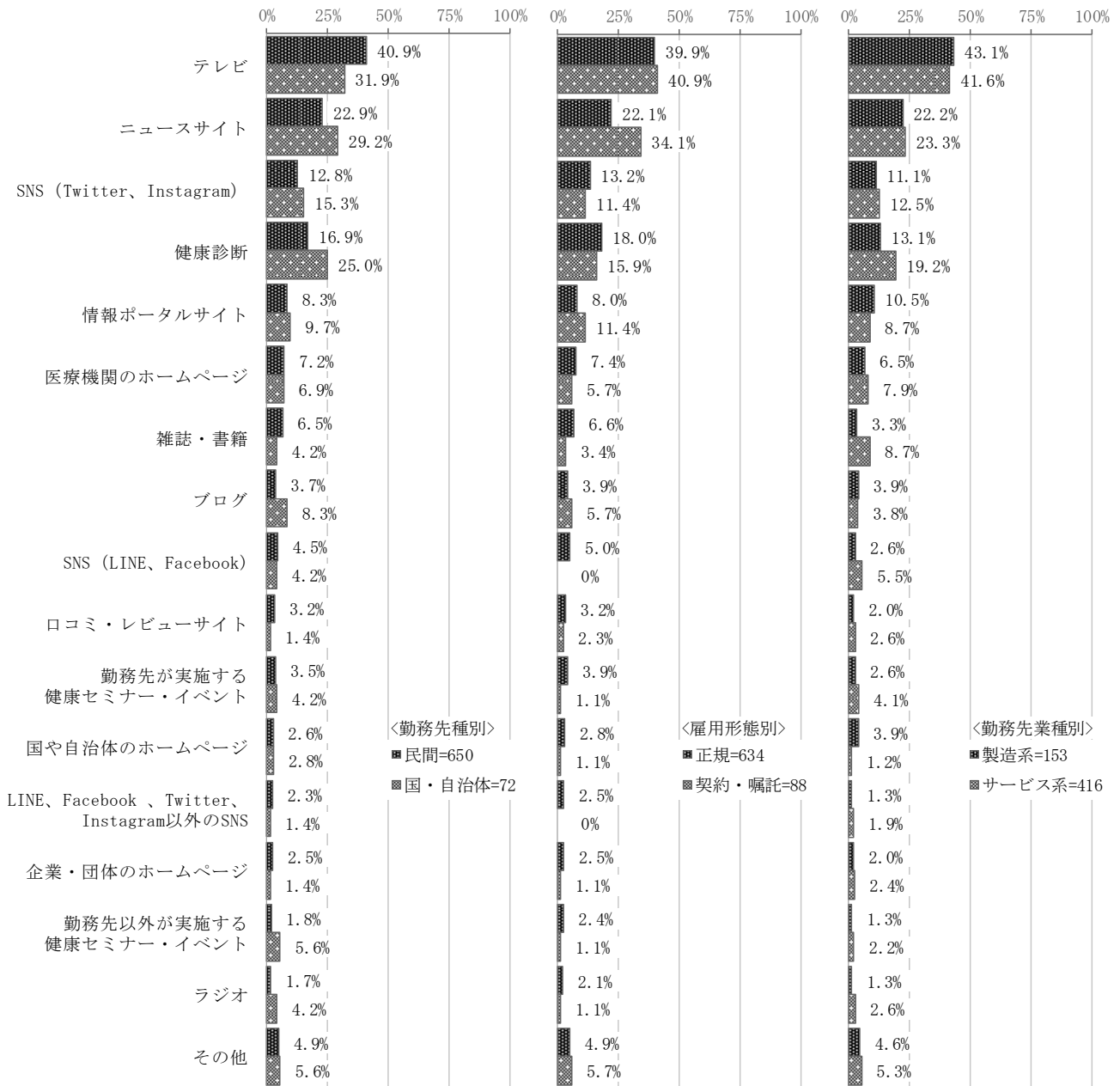


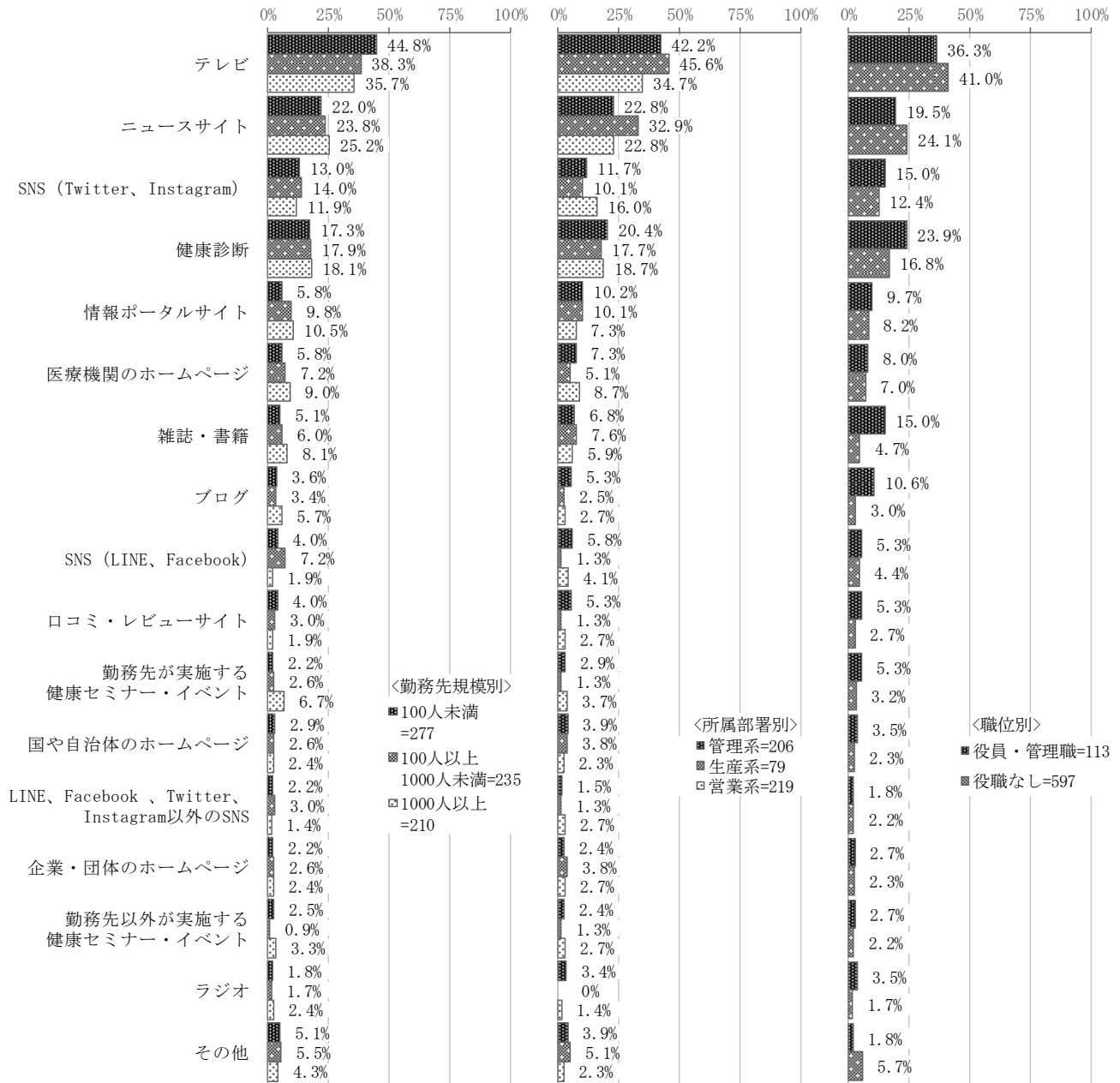


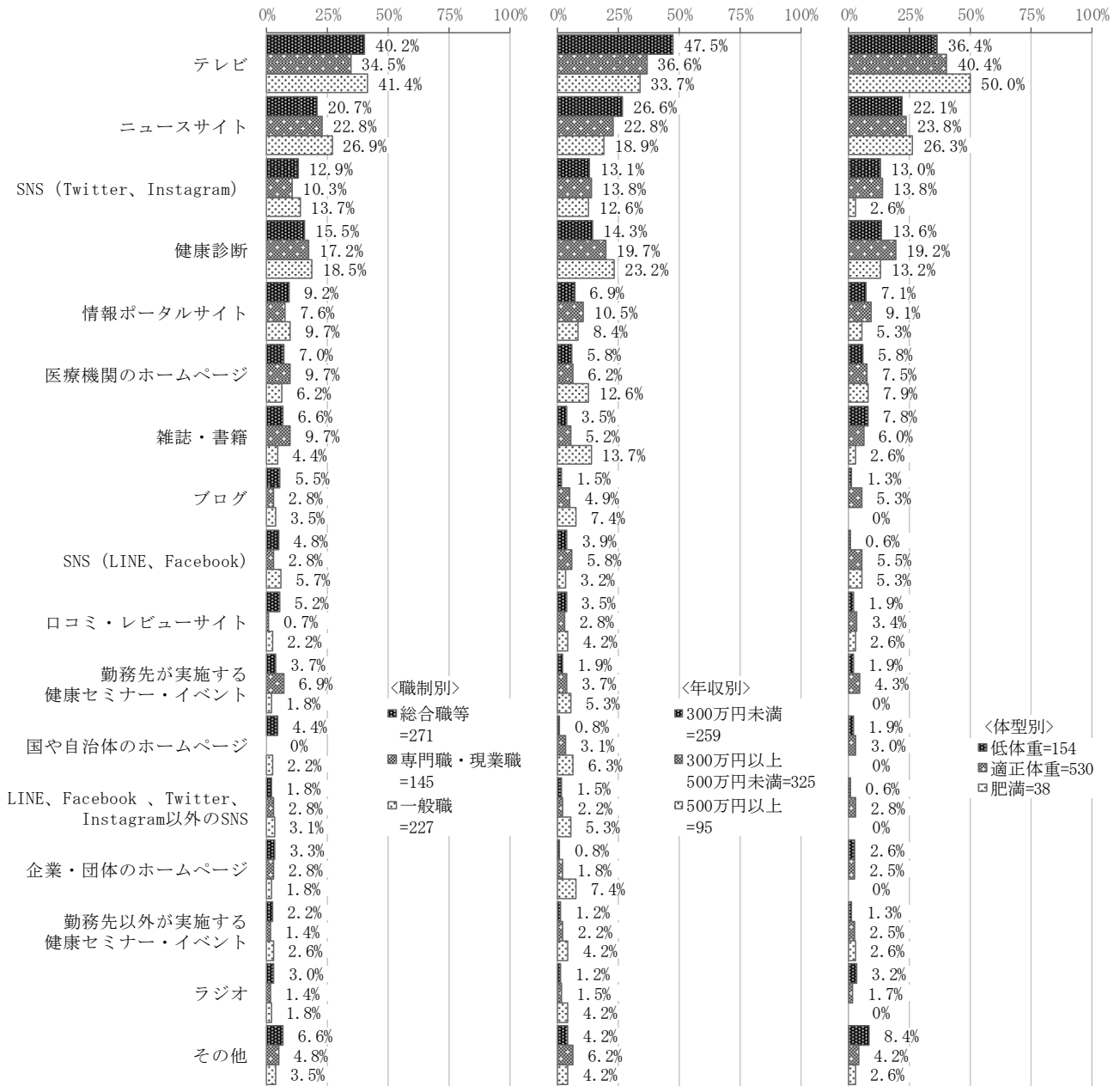


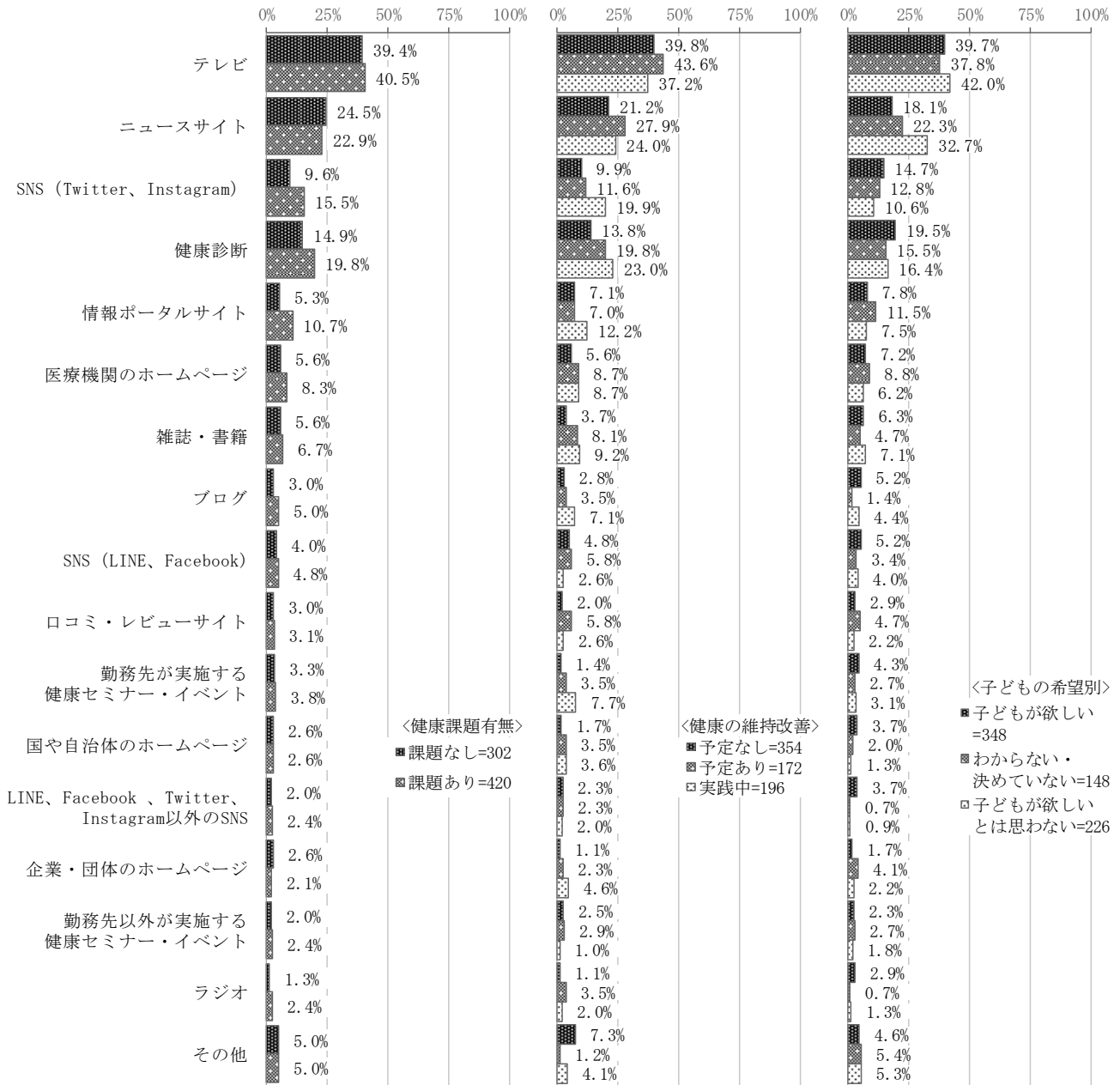










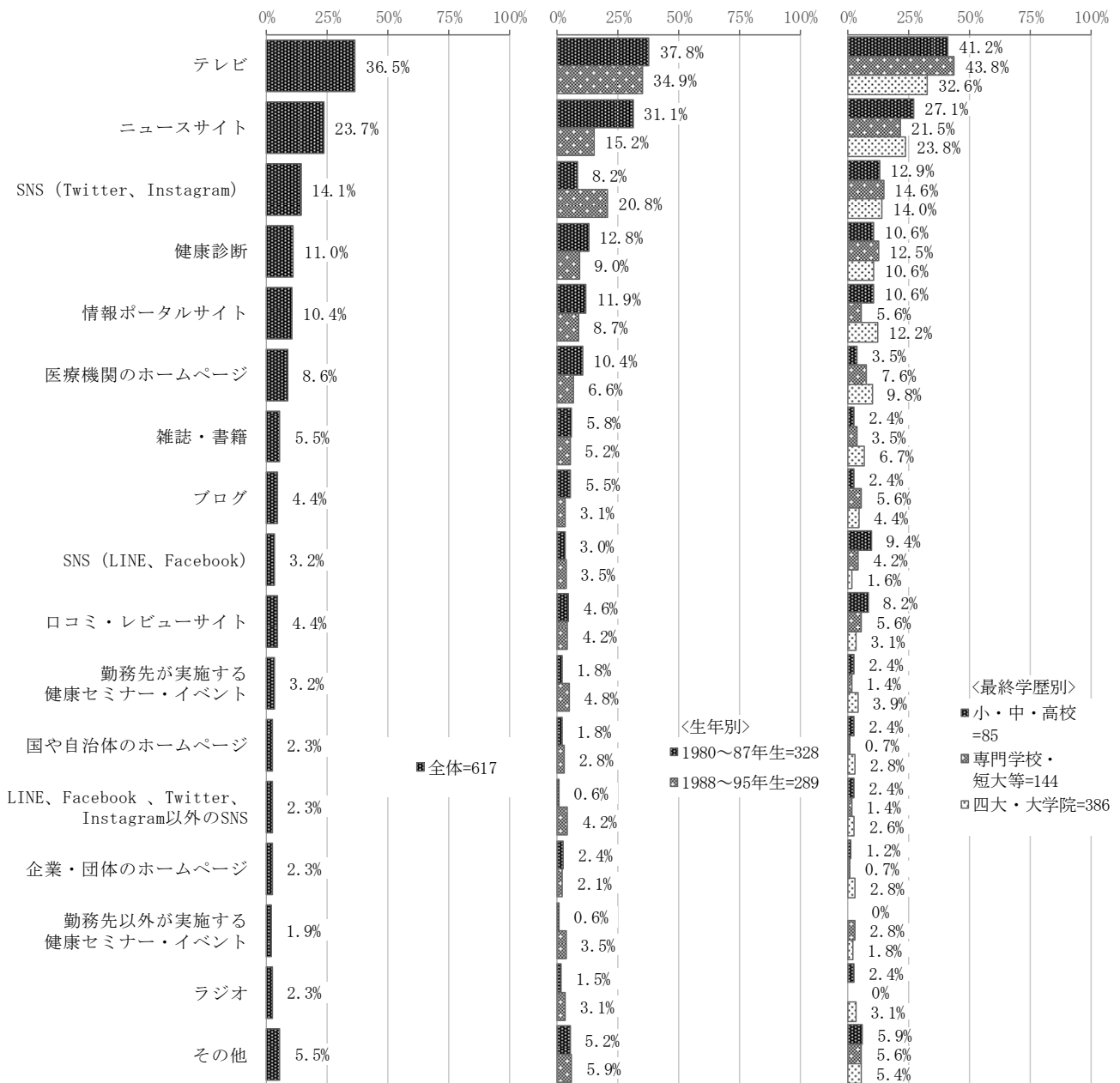


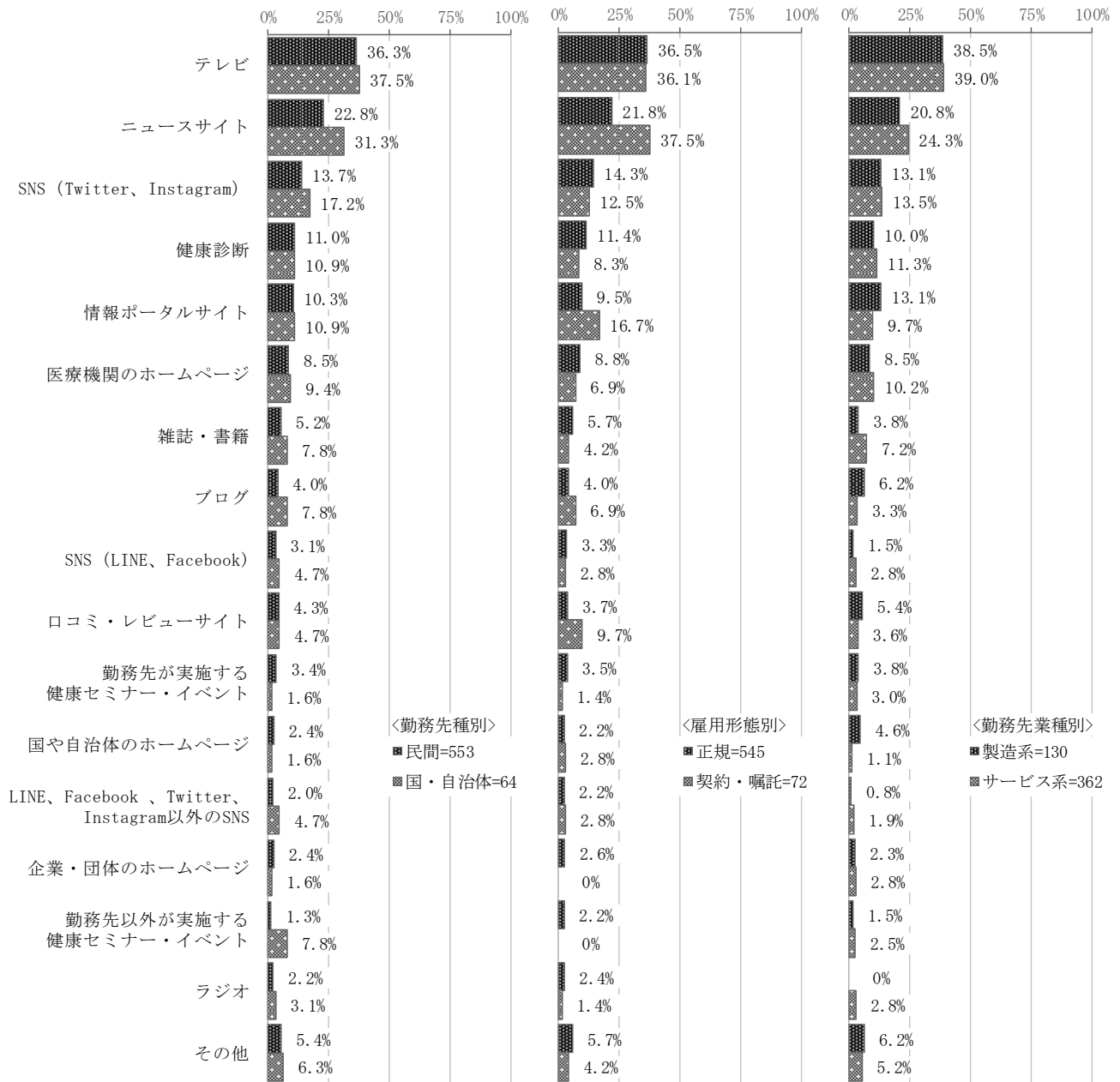
注 「その他」には、「YouTube等ネット」「医療機関」「自身の診断・検診」「家族・親戚」「家族・親戚以外の人」「勤務先」「学校」「自治体の広報」があった。

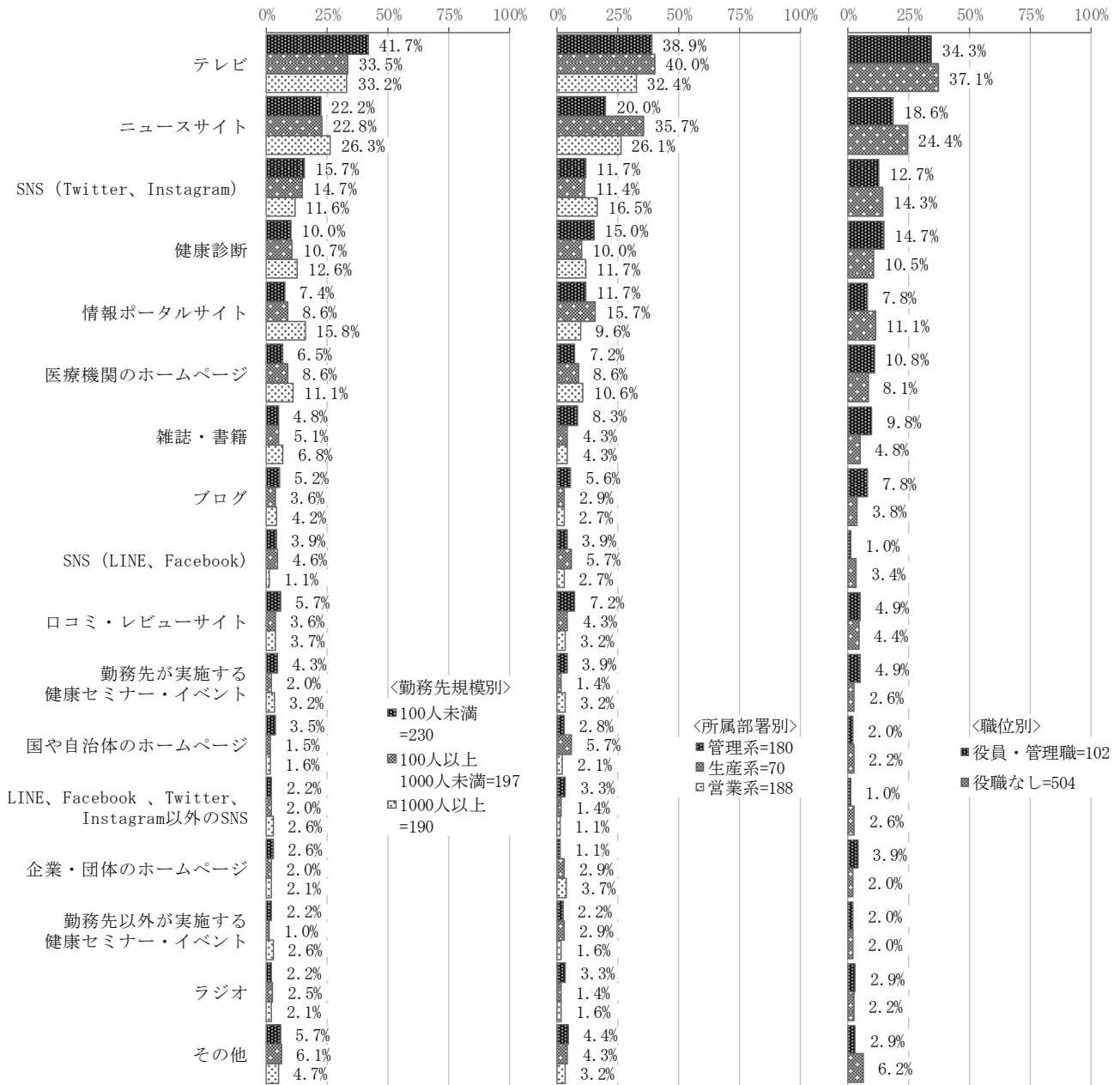
5.8. 女性特有の健康課題の認知経路（子宮内膜症）

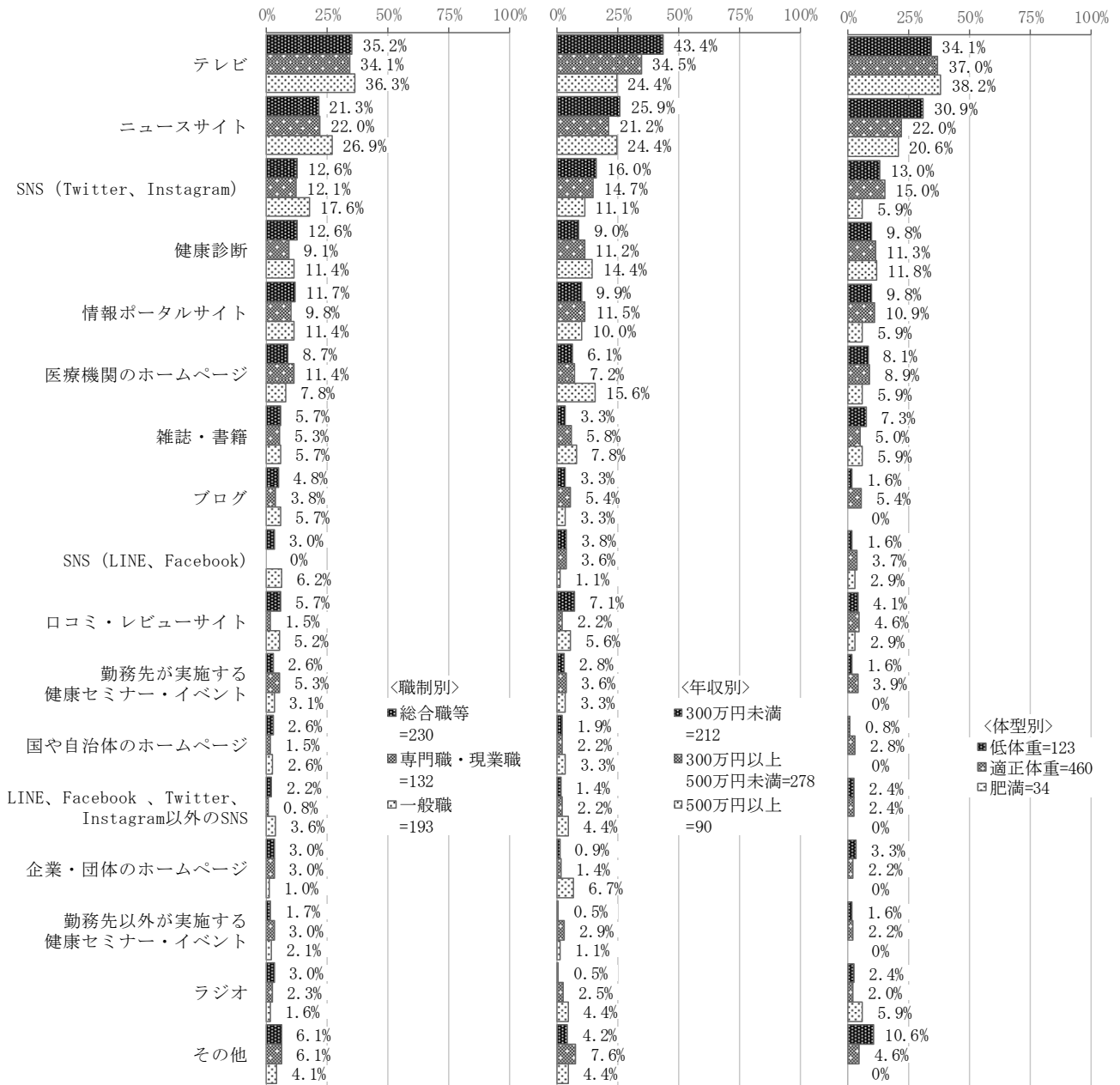
- 子宮内膜症について、前問で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者に、どのような機会を通じて知ることがあるか尋ねたところ、全体では「テレビ」が36.5%と最も多い。
- 「テレビ」は年収別で300万円未満の回答者と300万円以上500万円未満の回答者が多い。
- 「ニュースサイト」は、生年別で1980～87年生の回答者、雇用形態別で契約・嘱託の回答者が多い。
- 「SNS (Twitter、Instagram)」は、生年別で1988～95年生の回答者が多い。

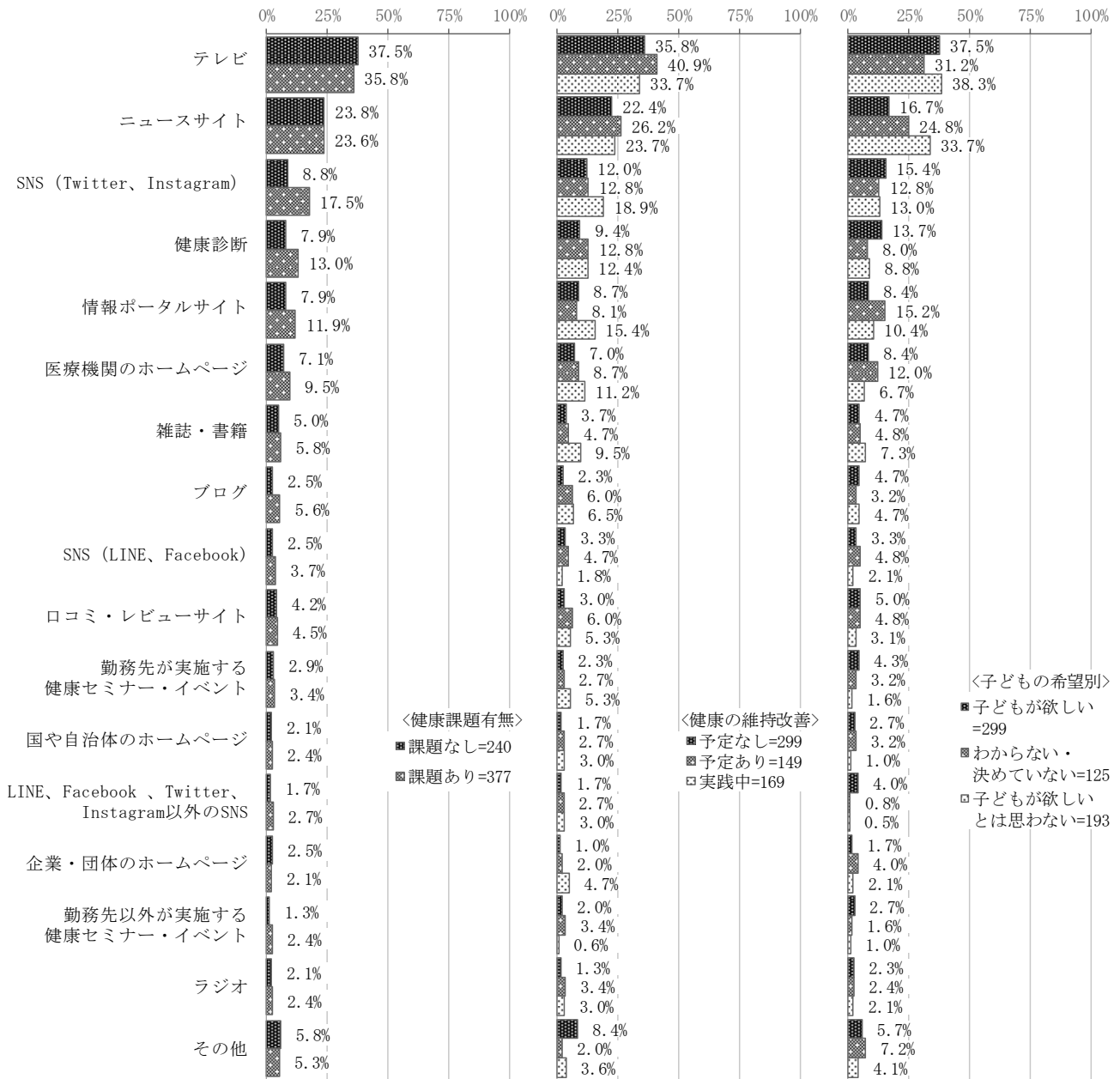
図表 5.8.女性特有の健康課題の認知経路（子宮内膜症）【複数選択】

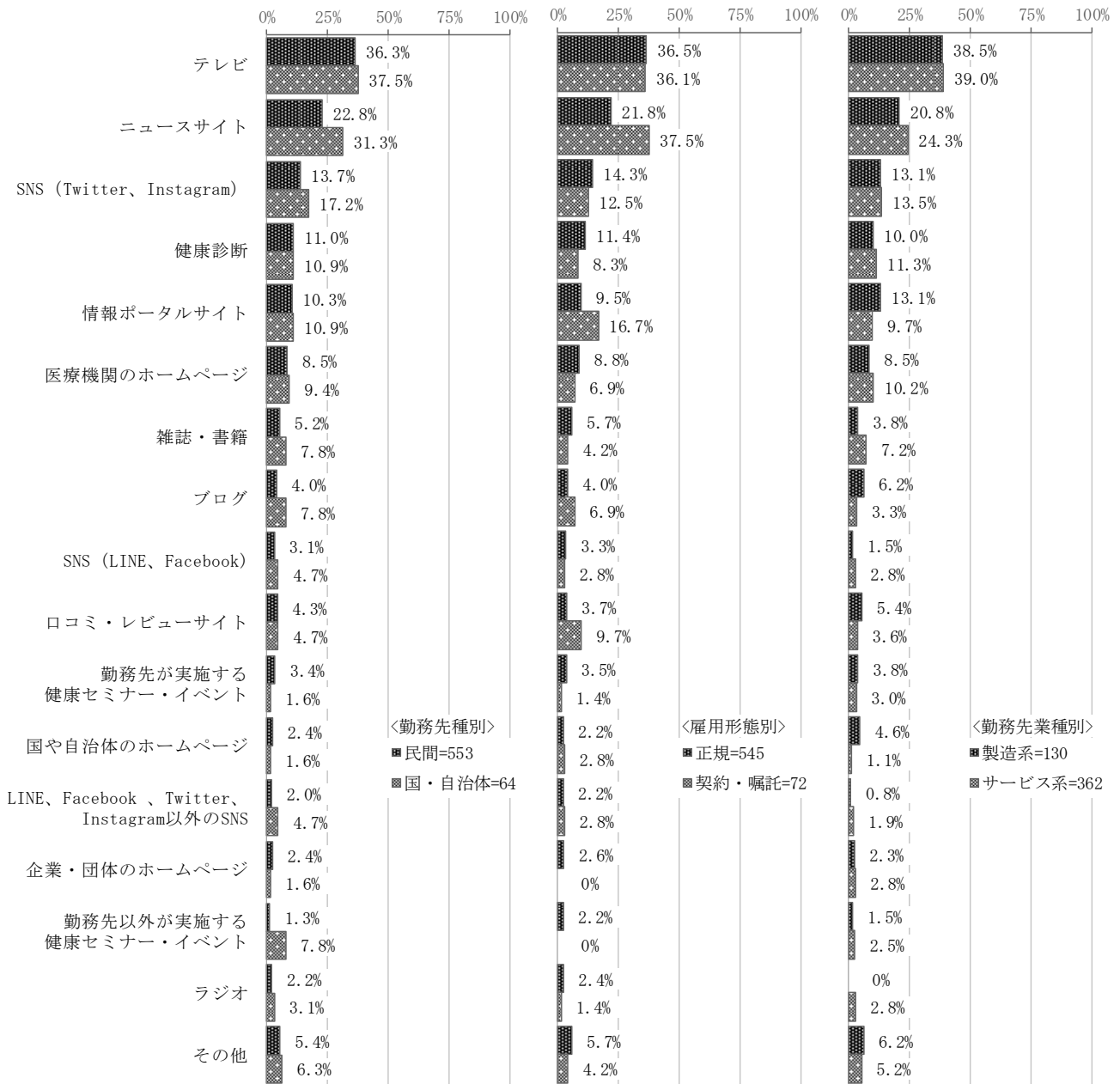


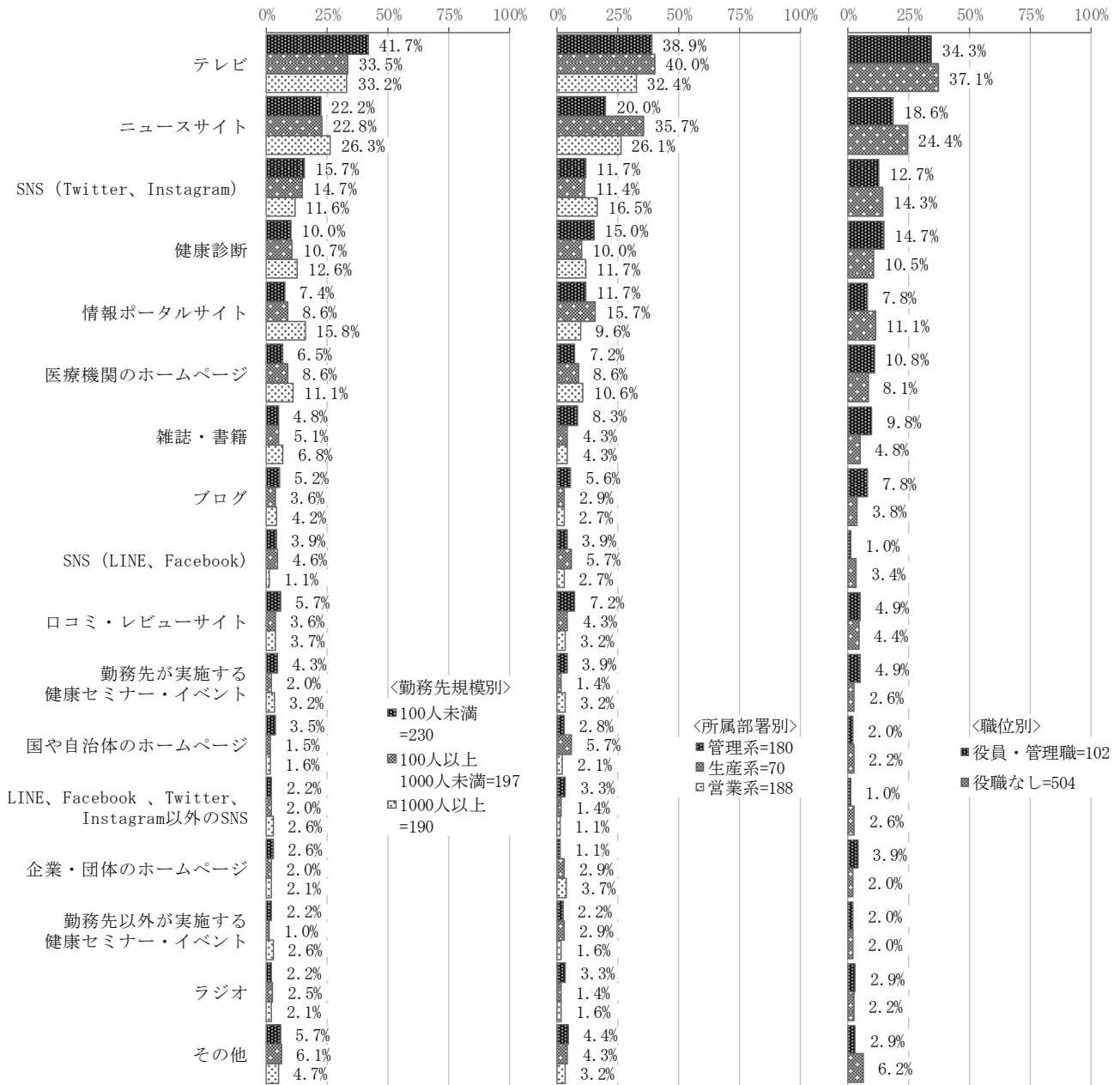


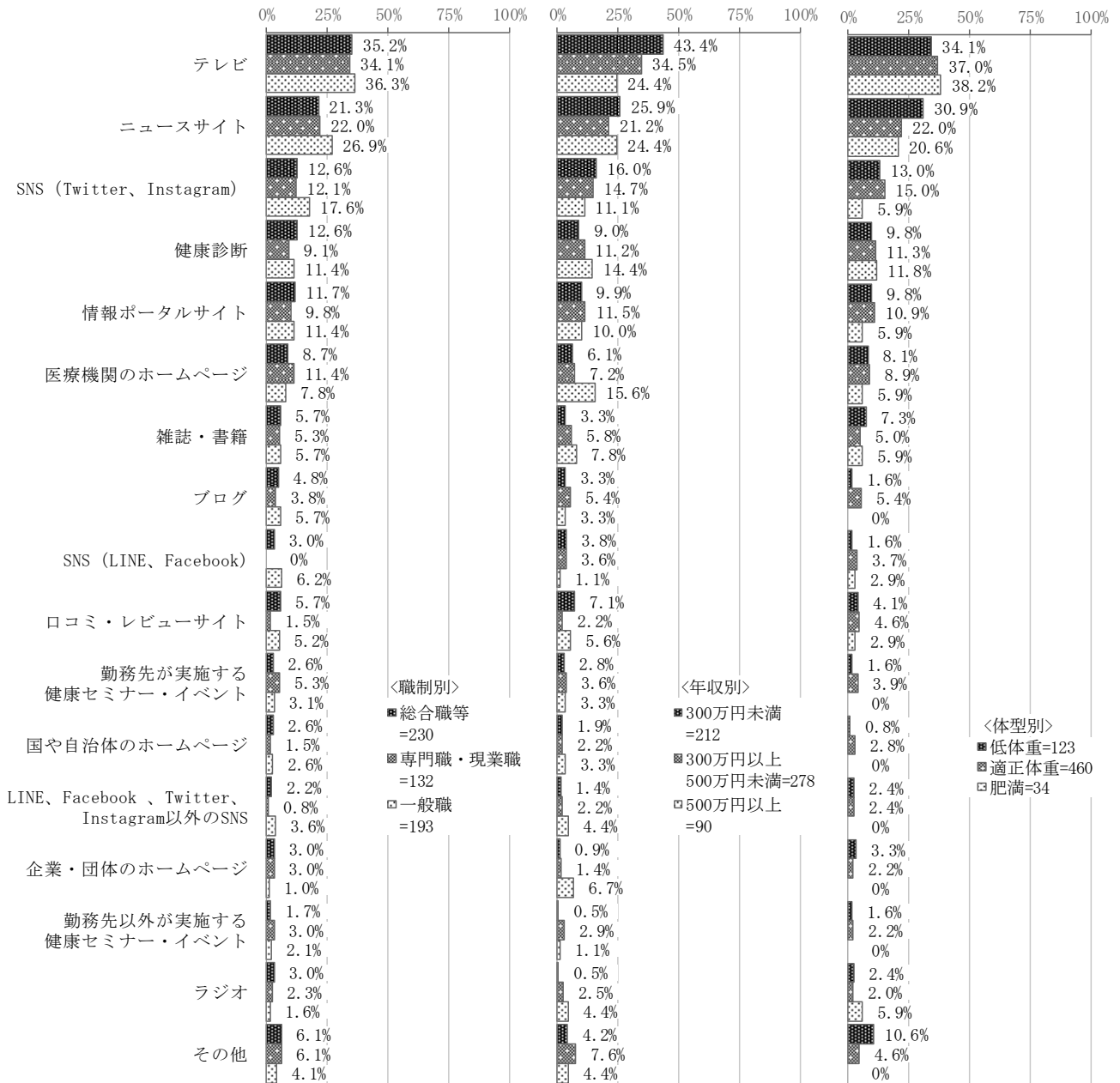


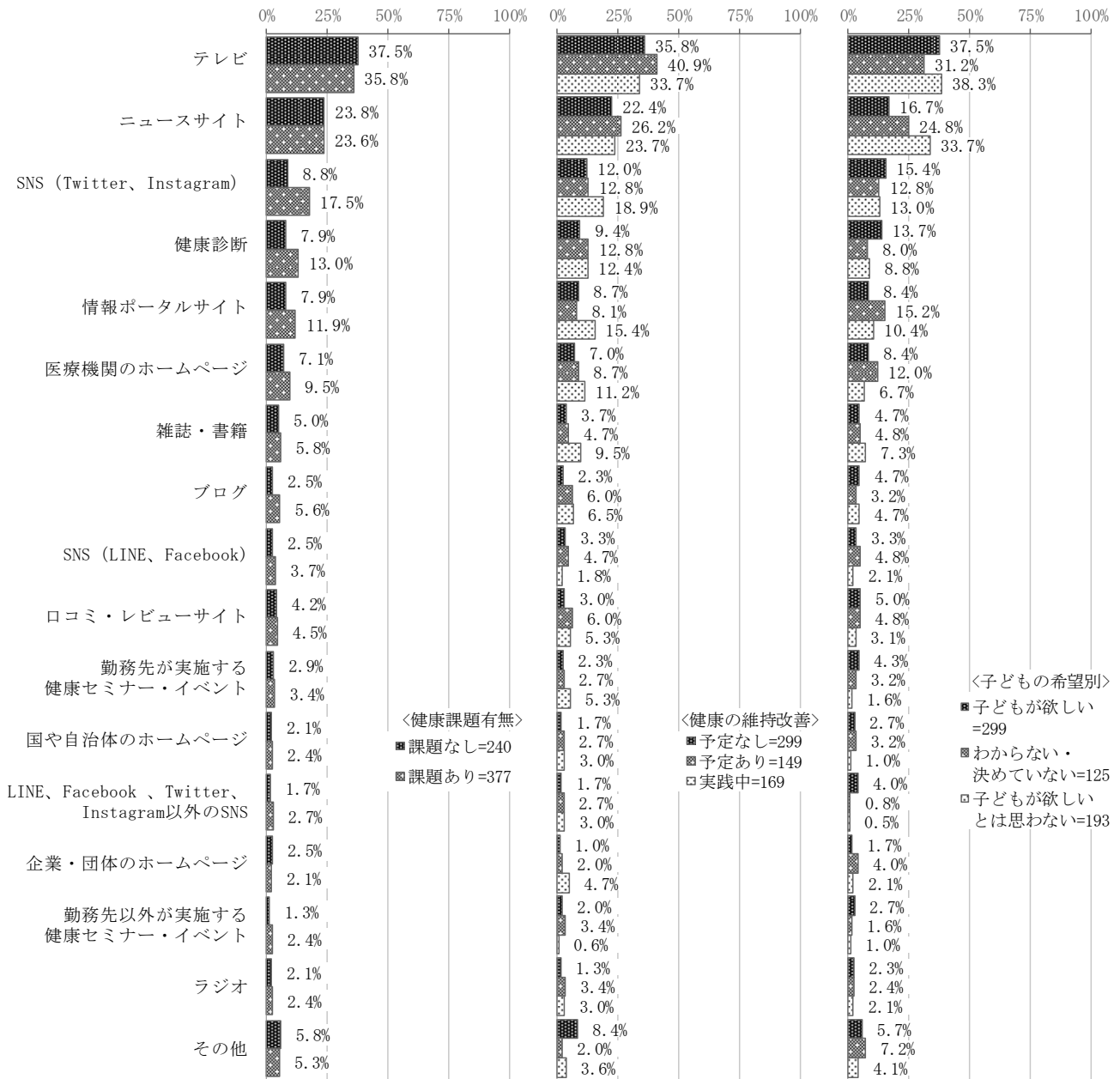










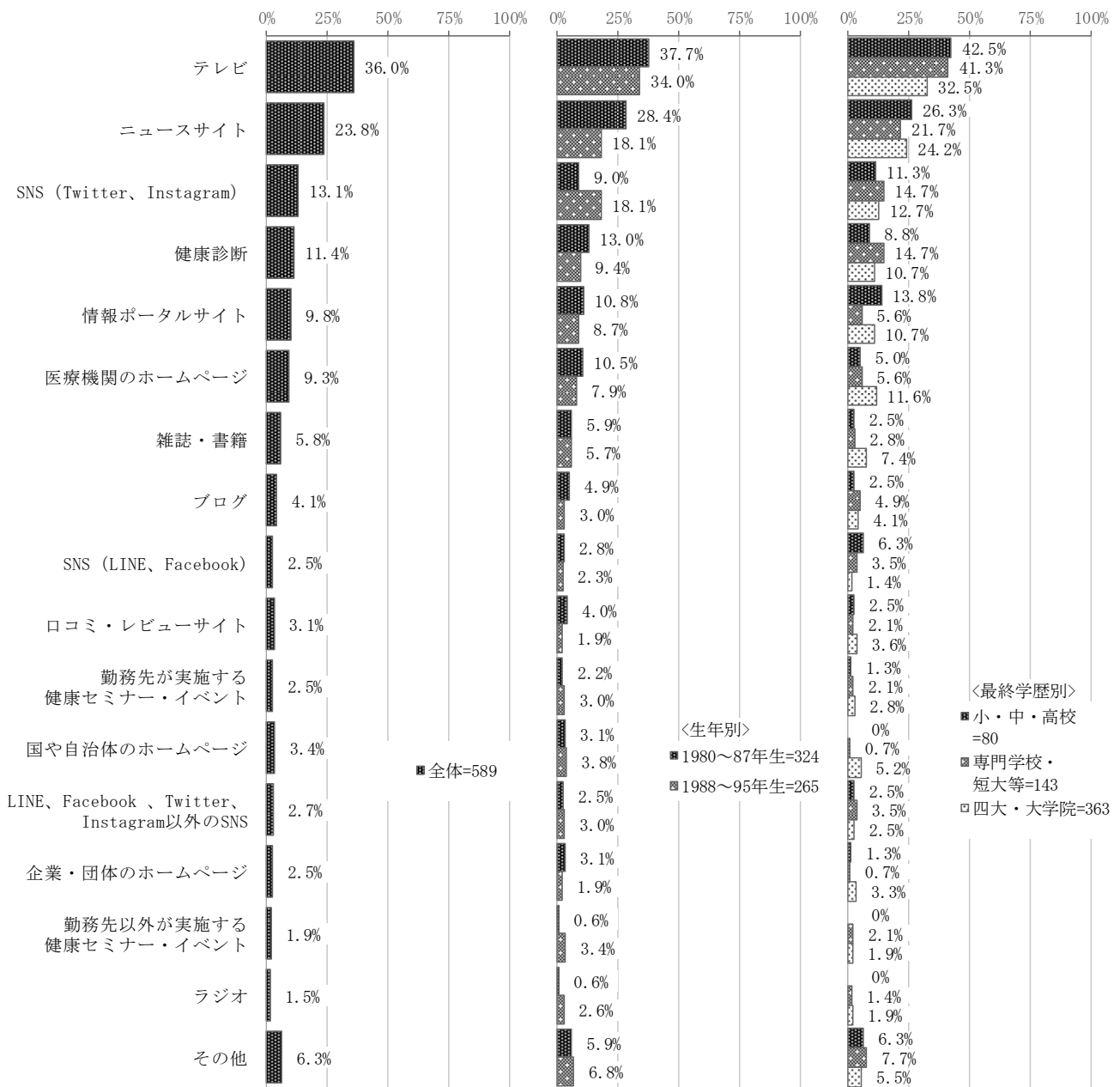


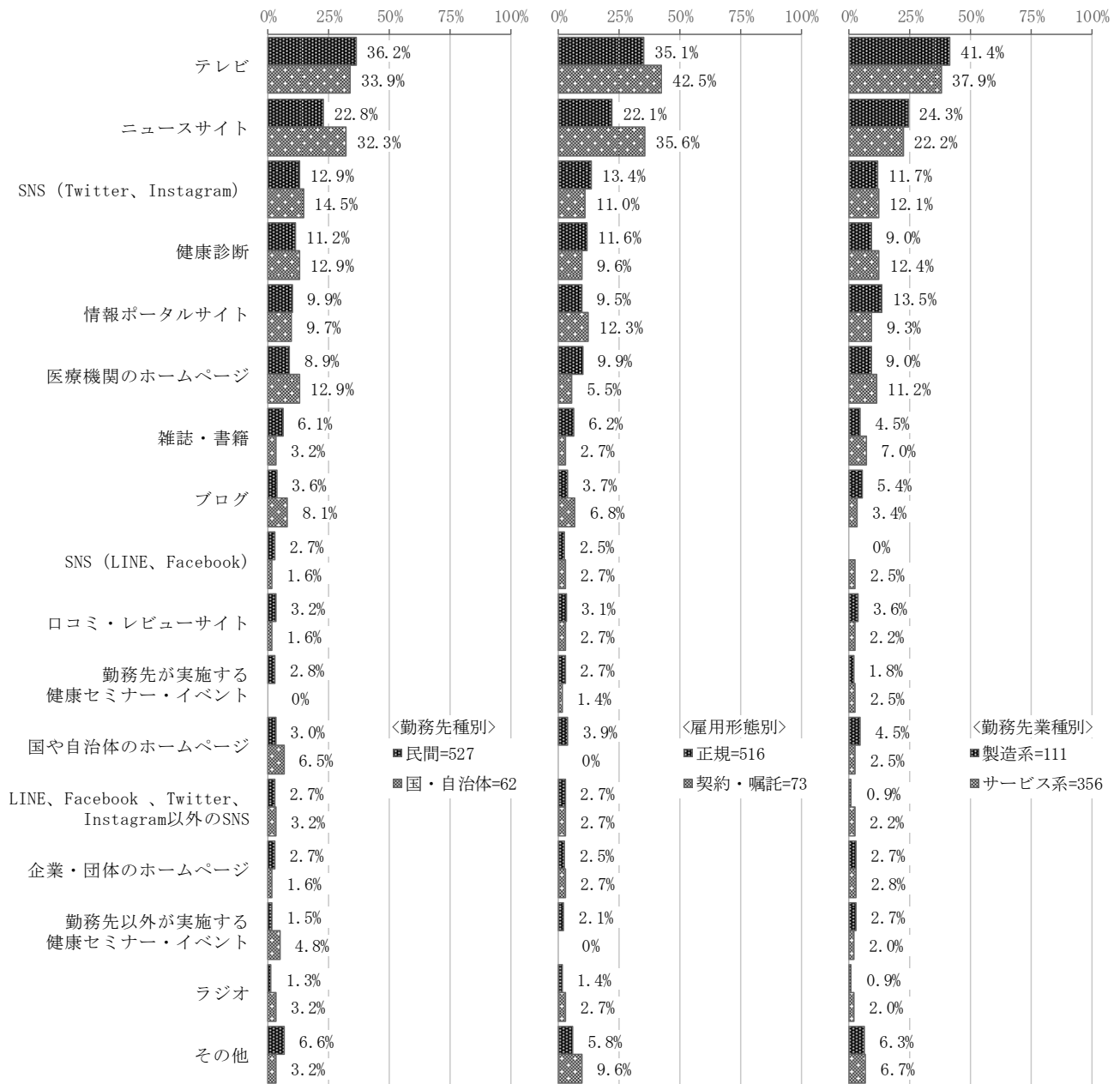
注 「その他」には、「YouTube等ネット」「医療機関」「自身の診断・検診」「家族・親戚」「家族・親戚以外の人」「勤務先」「学校」があった。

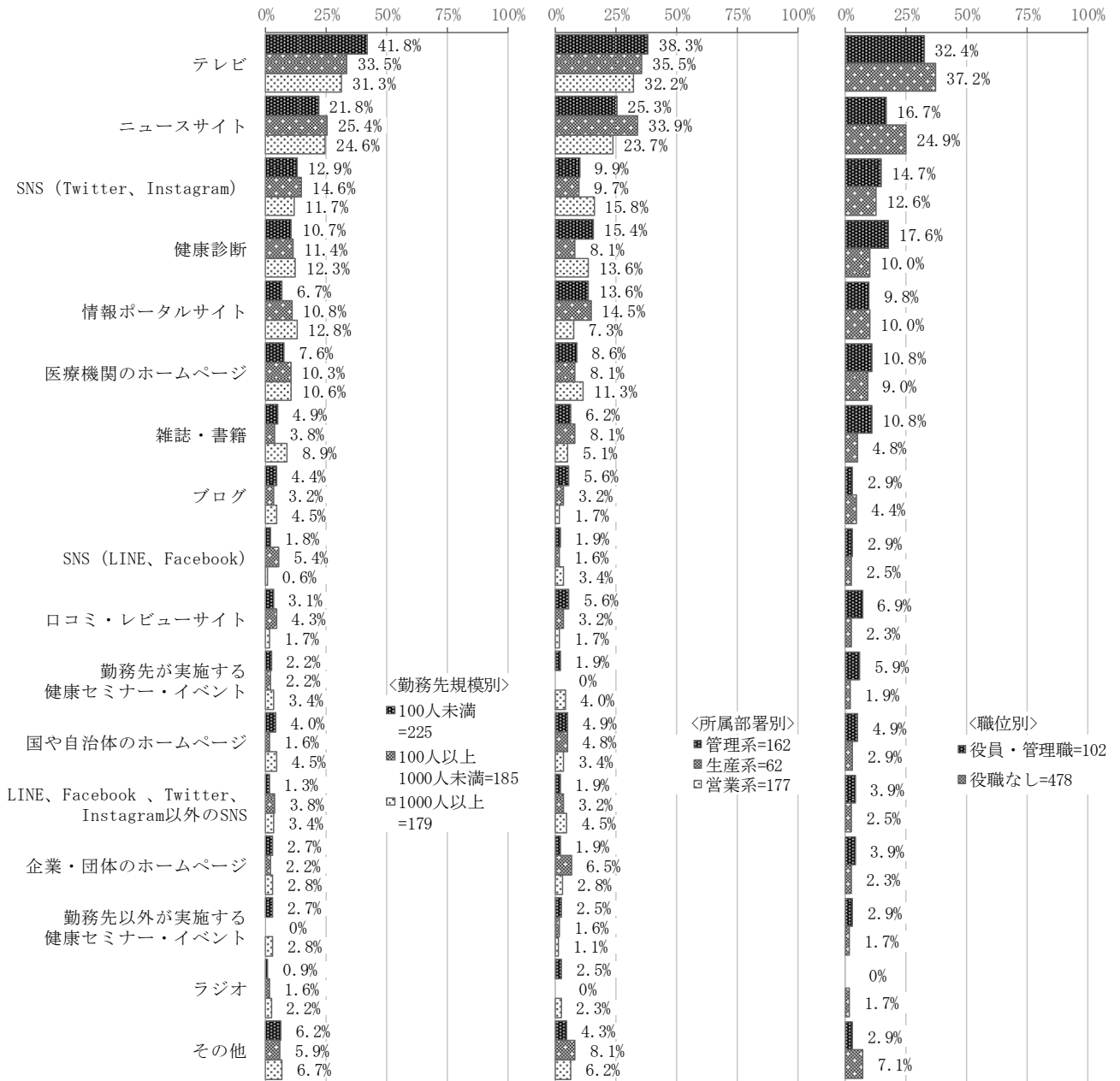
5.9. 女性特有の健康課題の認知経路（子宮筋腫）

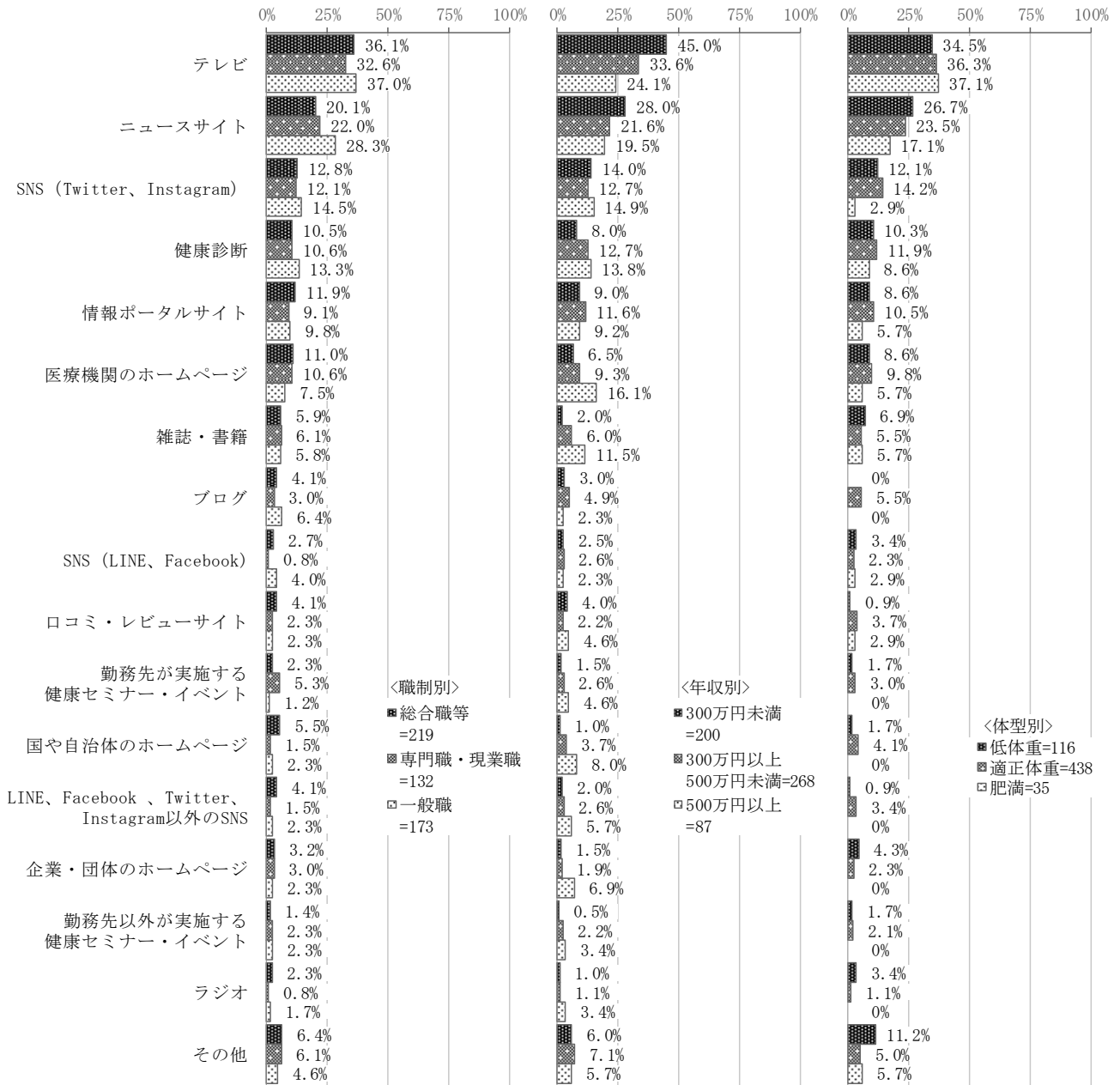
- 子宮筋腫について、前問で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者に、どのような機会を通じて知ることがあるか尋ねたところ、全体では「テレビ」が36.0%と最も多く、「ニュースサイト」23.8%と続いた。
- 「テレビ」は年収別で300万円未満の回答者が多い。
- 「ニュースサイト」は、生年別で1980～87年生の回答者、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しいとは思わない回答者が多い。

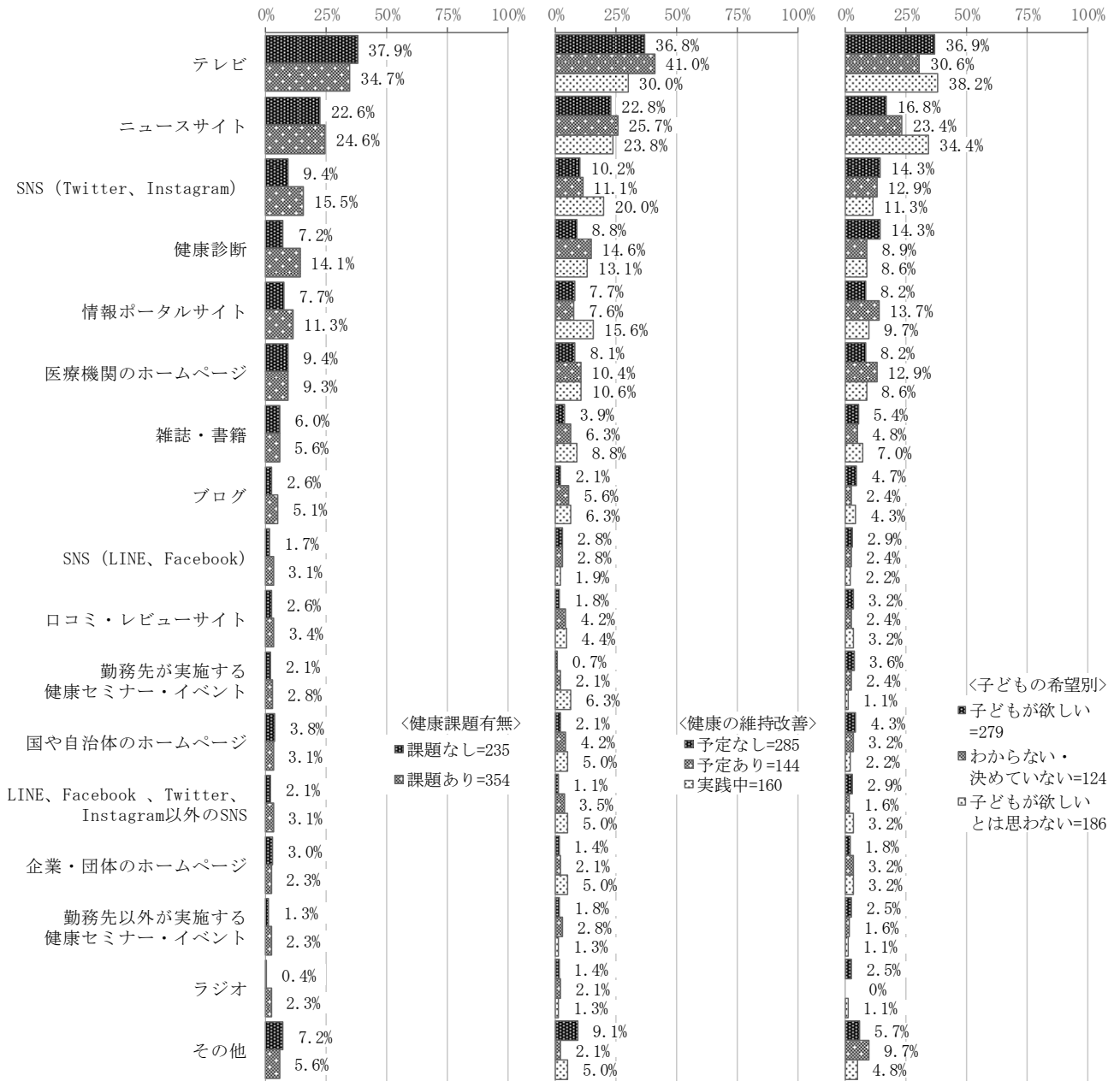
図表 5.9. 女性特有の健康課題の認知経路（子宮筋腫）【複数選択】

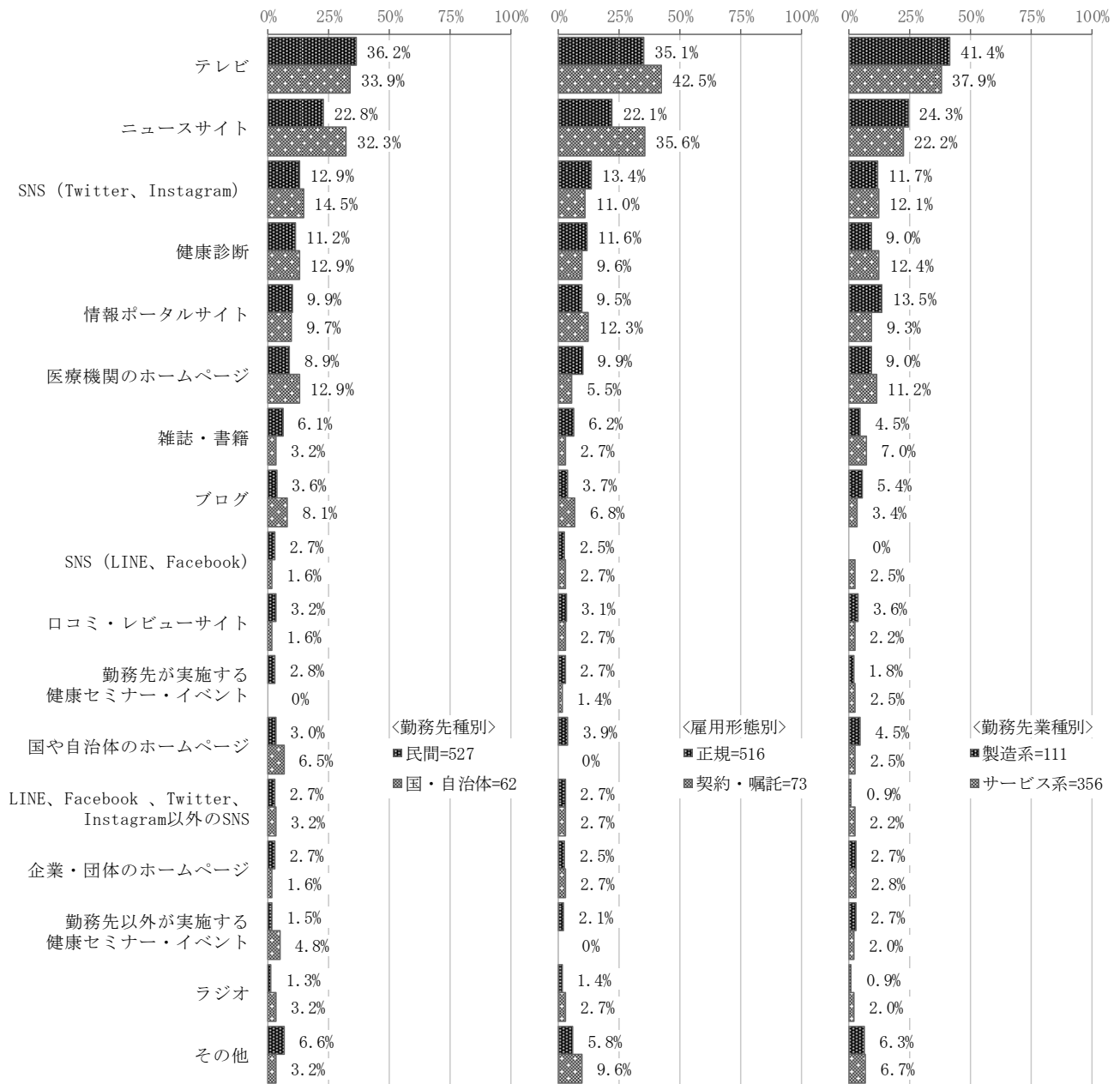


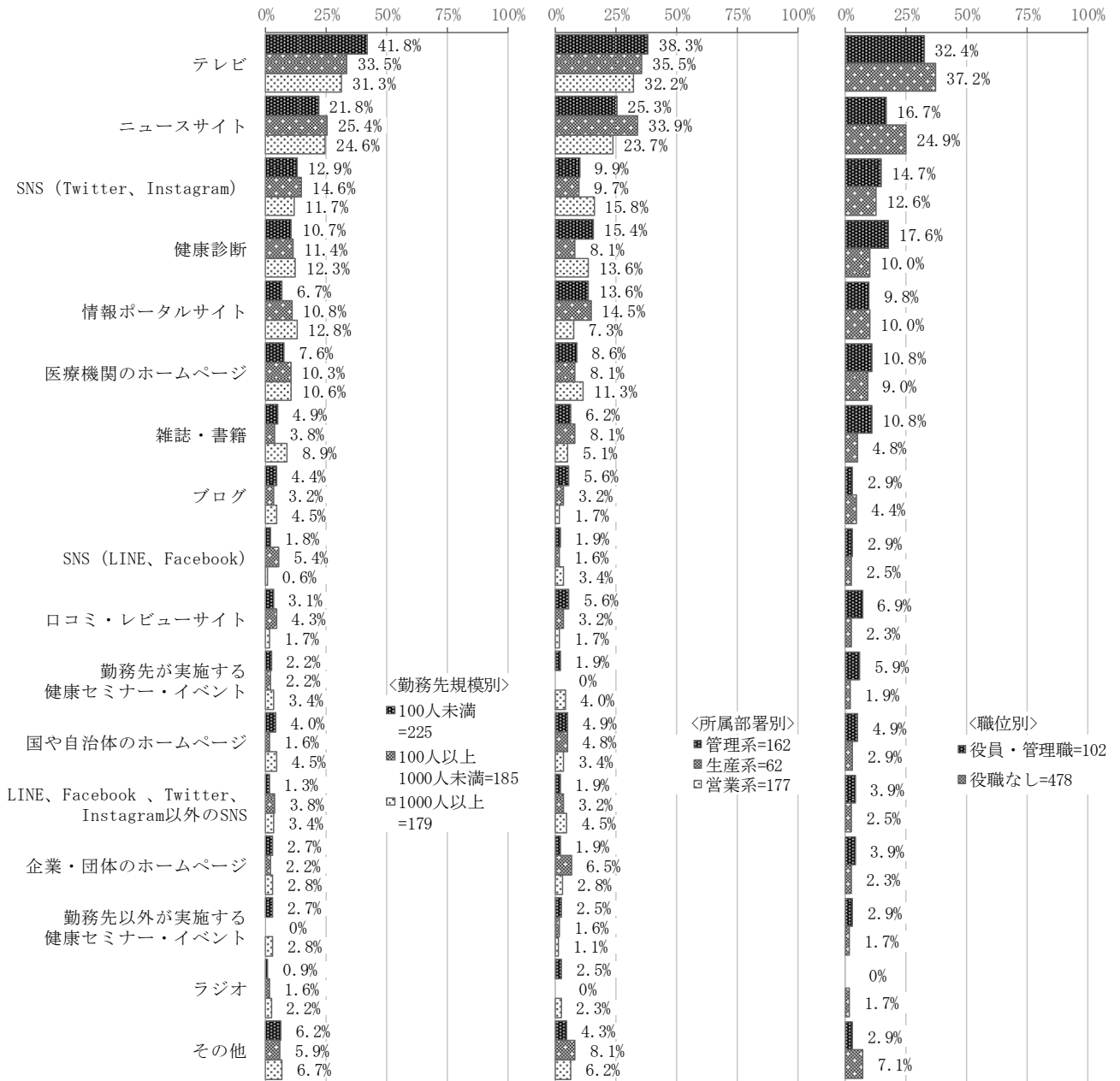


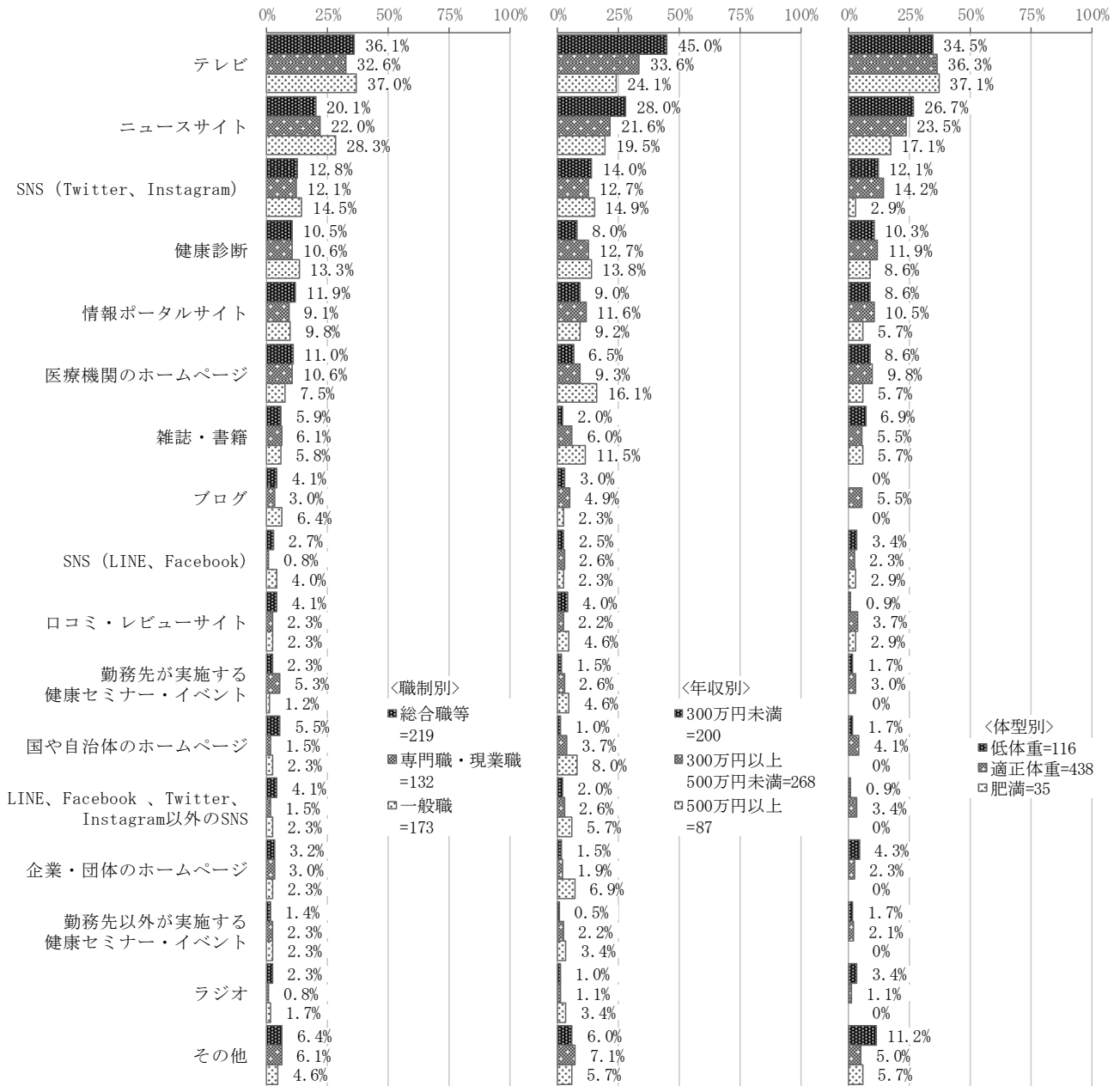


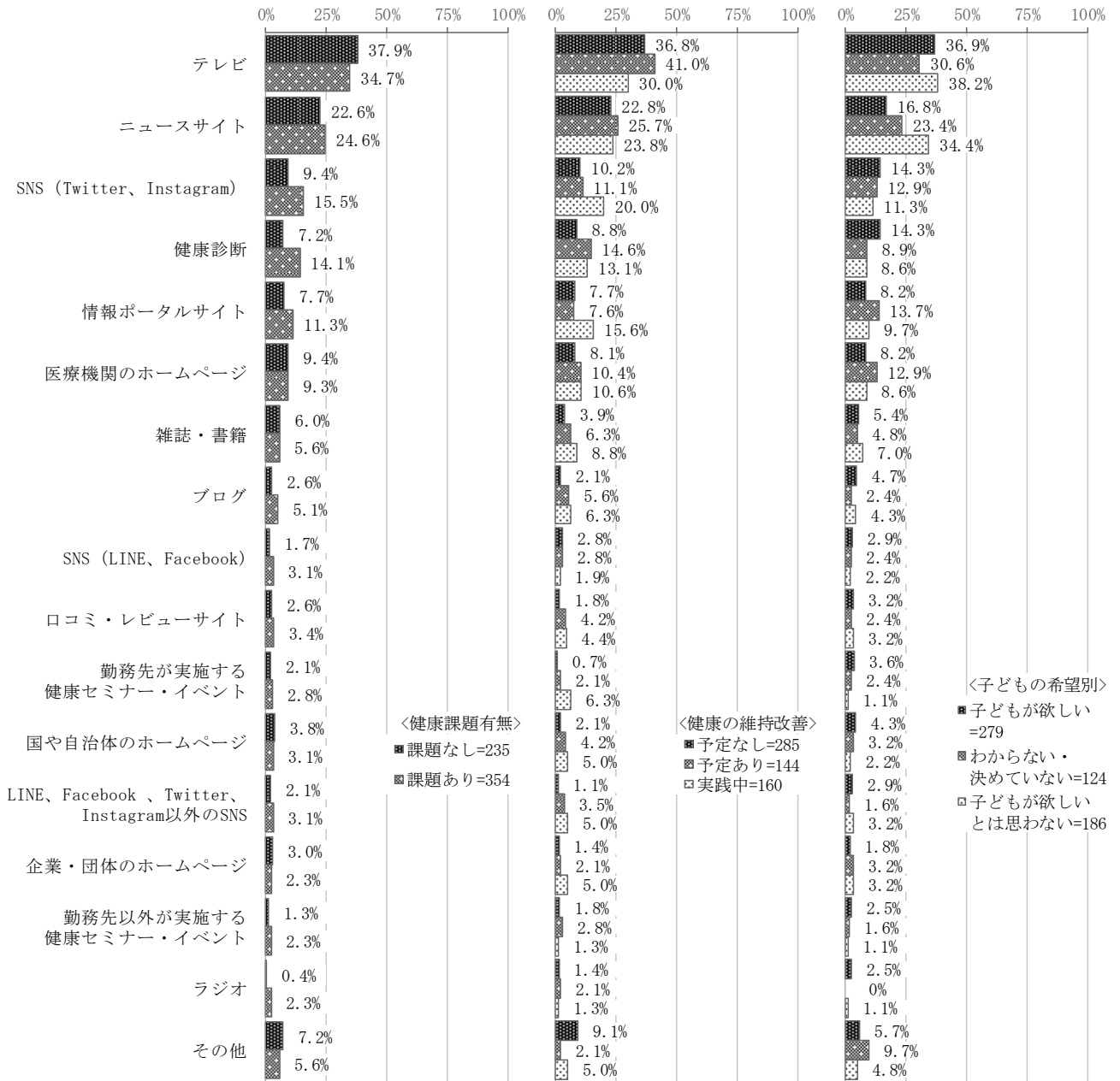










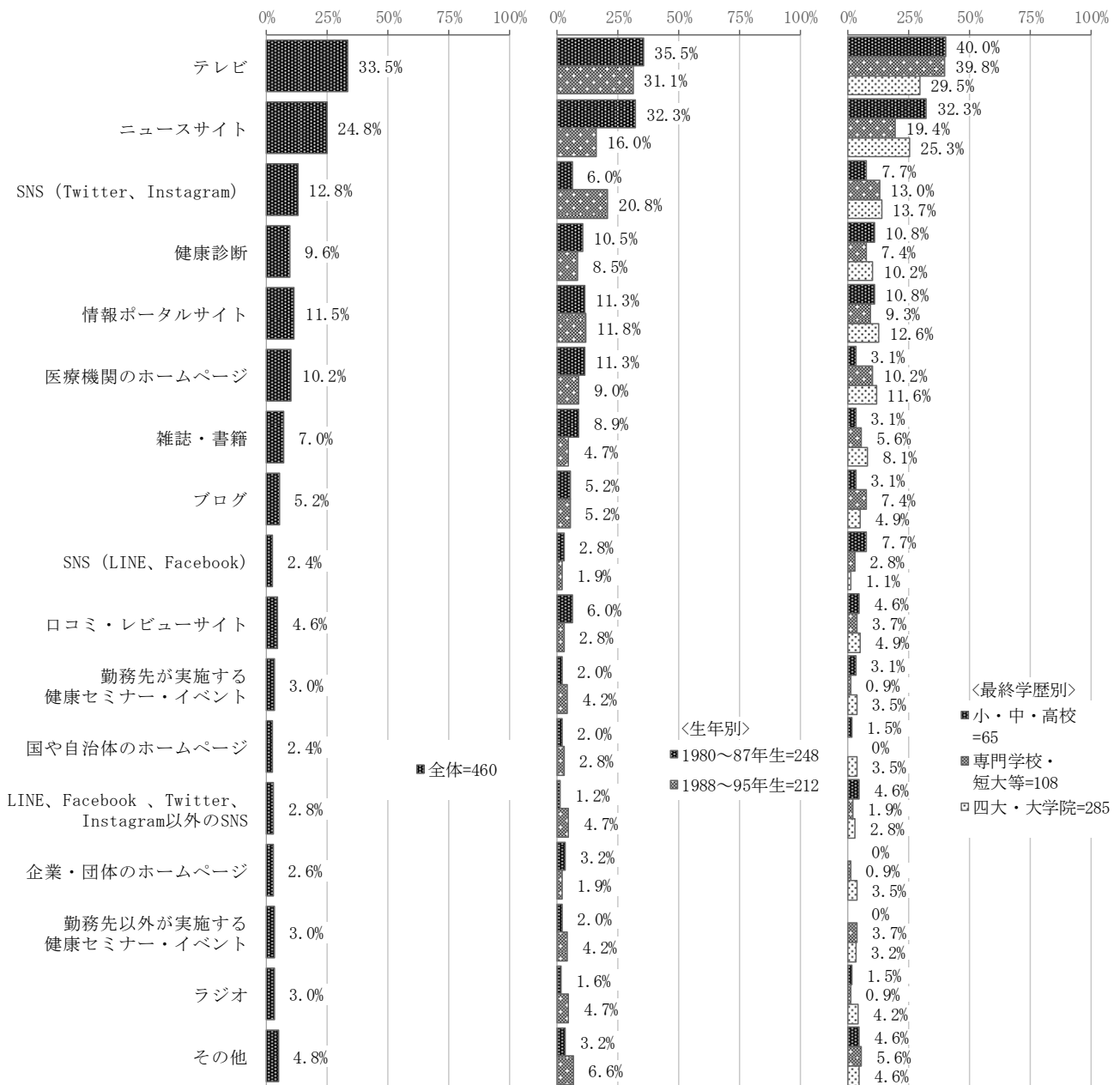


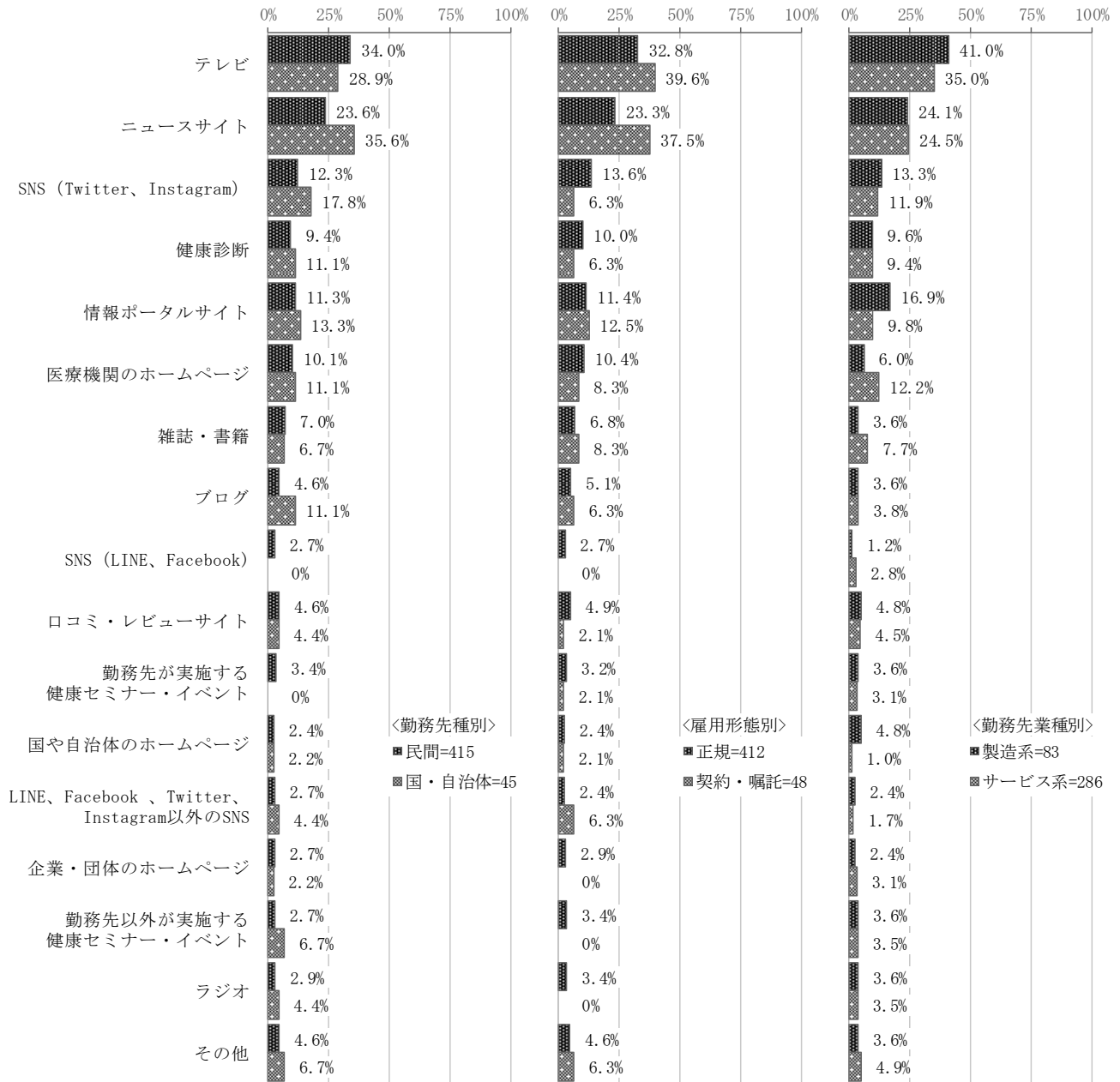
注 「その他」には、「YouTube等ネット」「医療機関」「自身の診断・検診」「家族・親戚」「家族・親戚以外の人」「勤務先」「学校」があった。

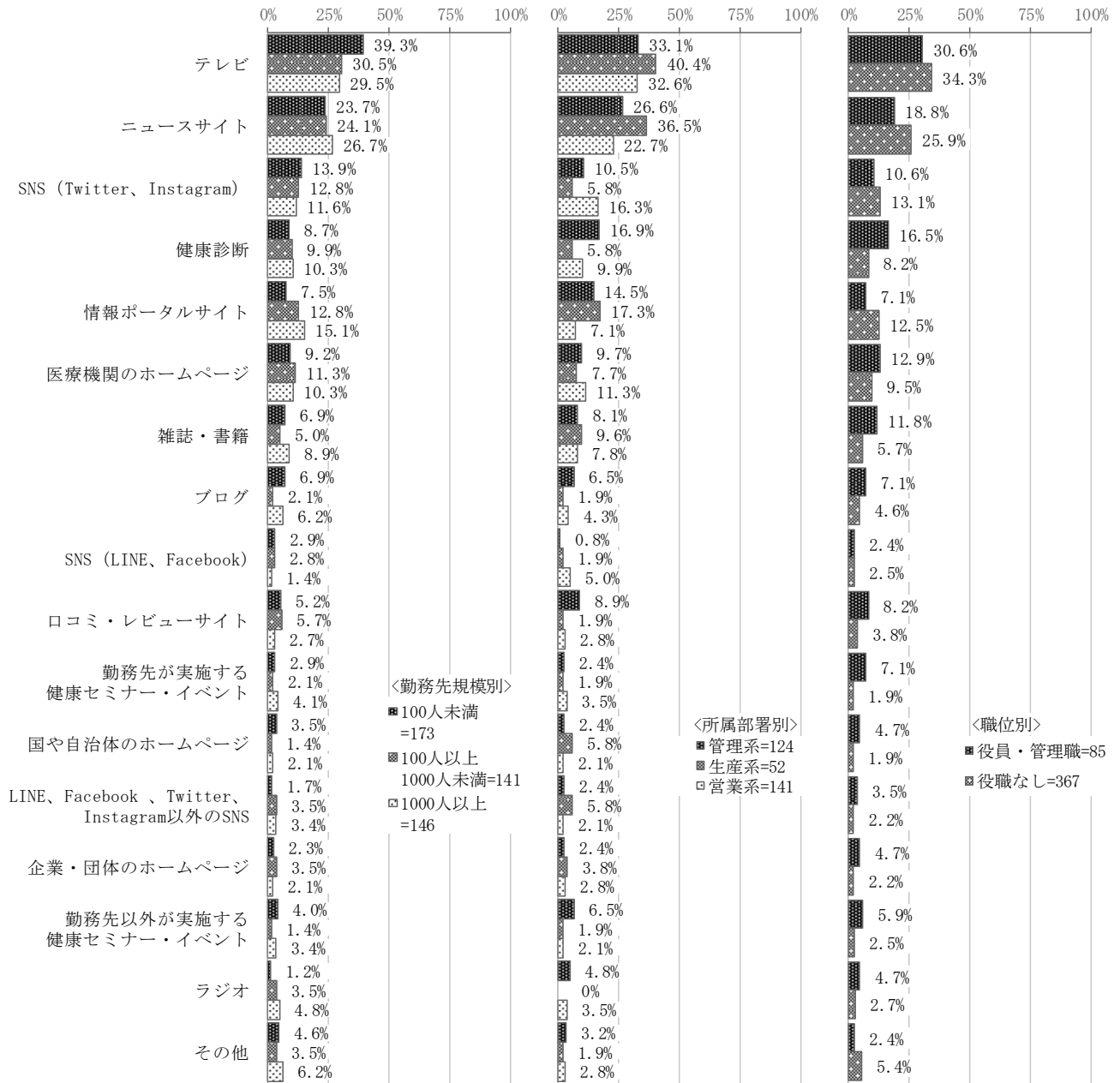
5.10. 女性特有の健康課題の認知経路（卵巣のう腫）

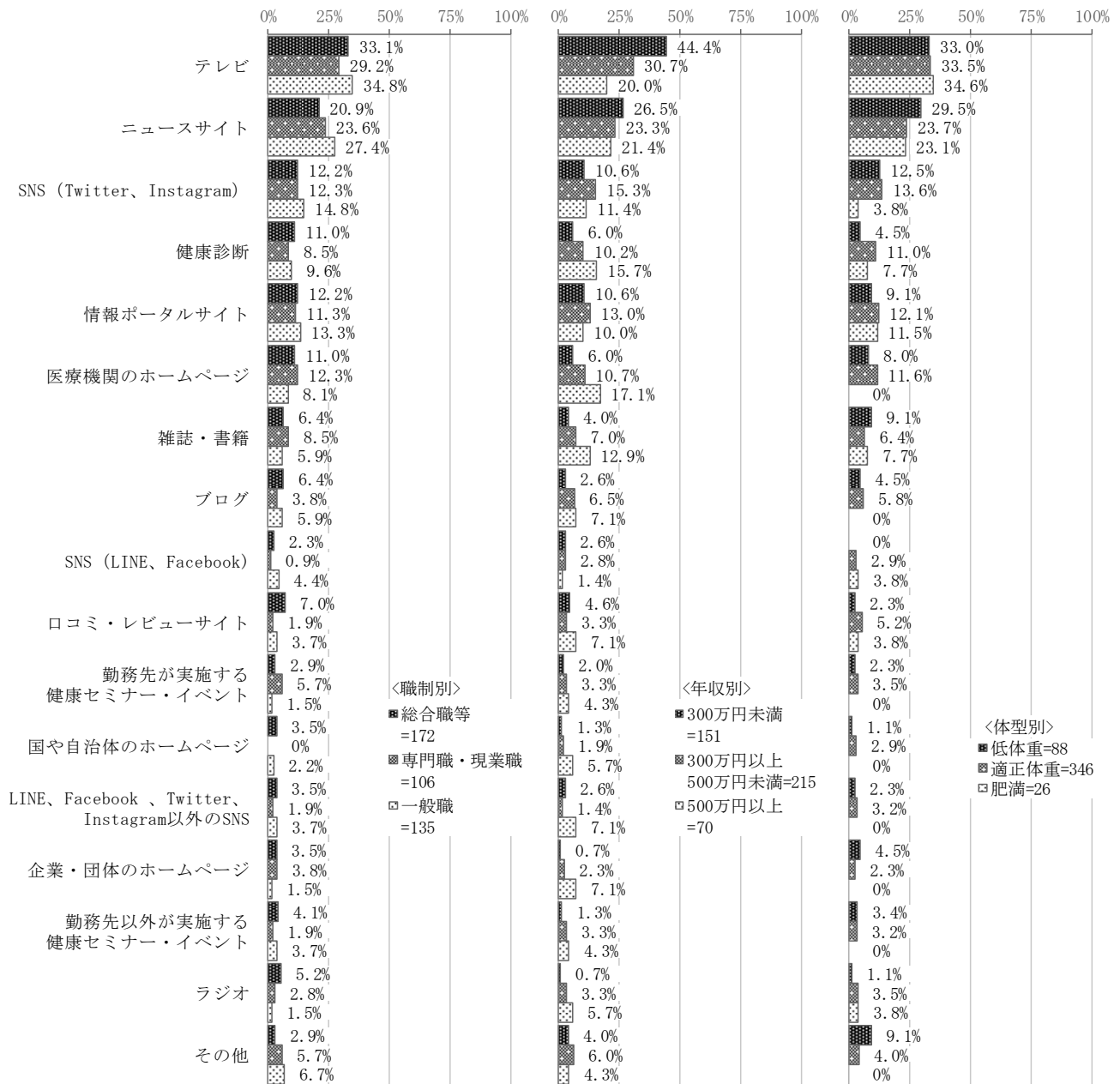
- 卵巣のう腫について、前問で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者に、どのような機会を通じて知ることがあるか尋ねたところ、全体では「テレビ」が33.5%と最も多く、「ニュースサイト」24.8%と続いた。
- 「テレビ」は最終学歴別で小・中・高校の回答者と専門学校・短大等の回答者、年収別で300万円未満の回答者と300万円以上500万円未満の回答者が多い。
- 「ニュースサイト」は、生年別で1980～87年生の回答者、勤務先種別で国・自治体の回答者、雇用形態別で契約・嘱託の回答者が多い。
- 「SNS (Twitter、Instagram)」は、生年別で1988～95年生の回答者が多い。

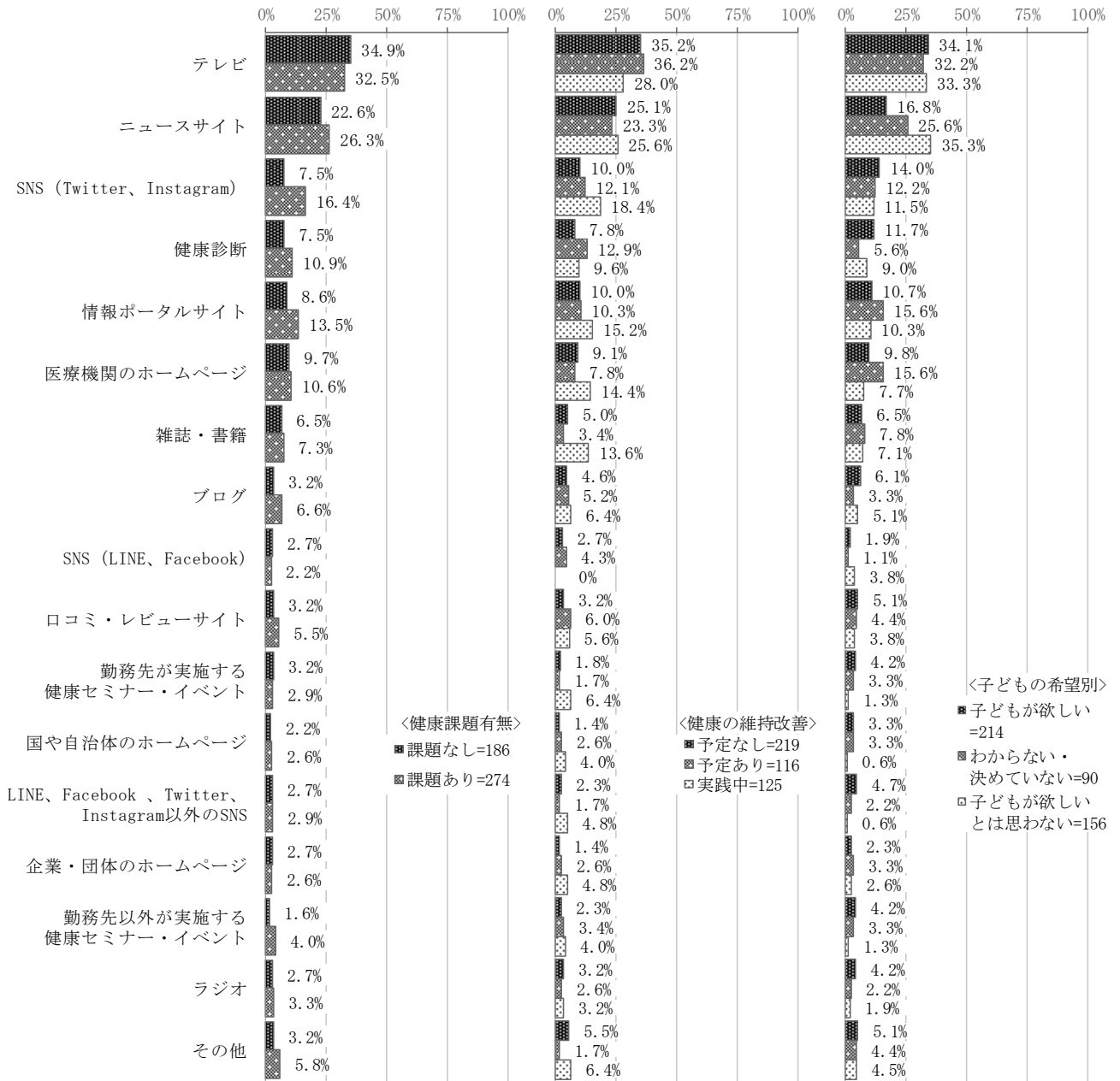
図表 5.10.女性特有の健康課題の認知経路（卵巣のう腫） [複数選択]

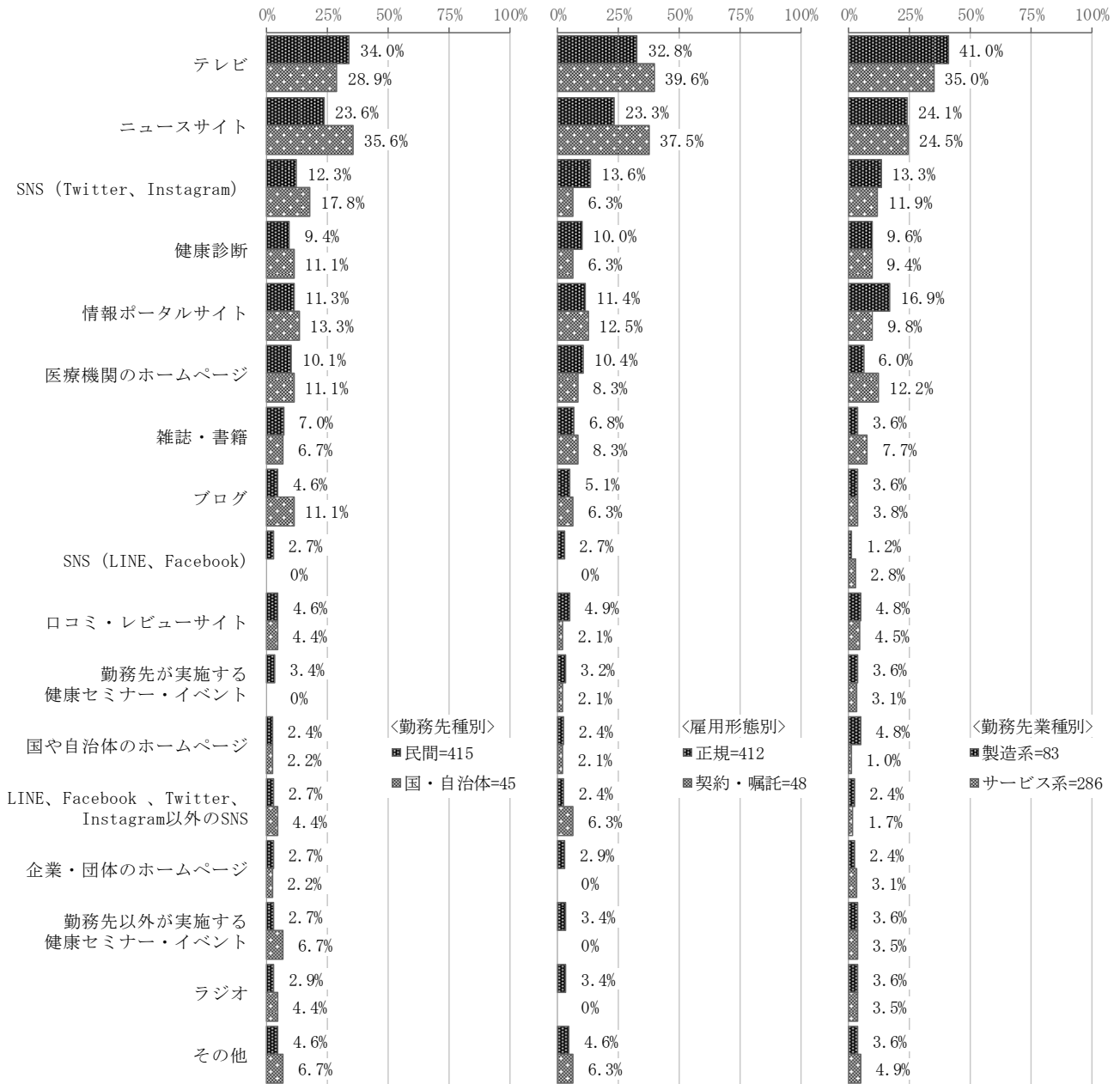


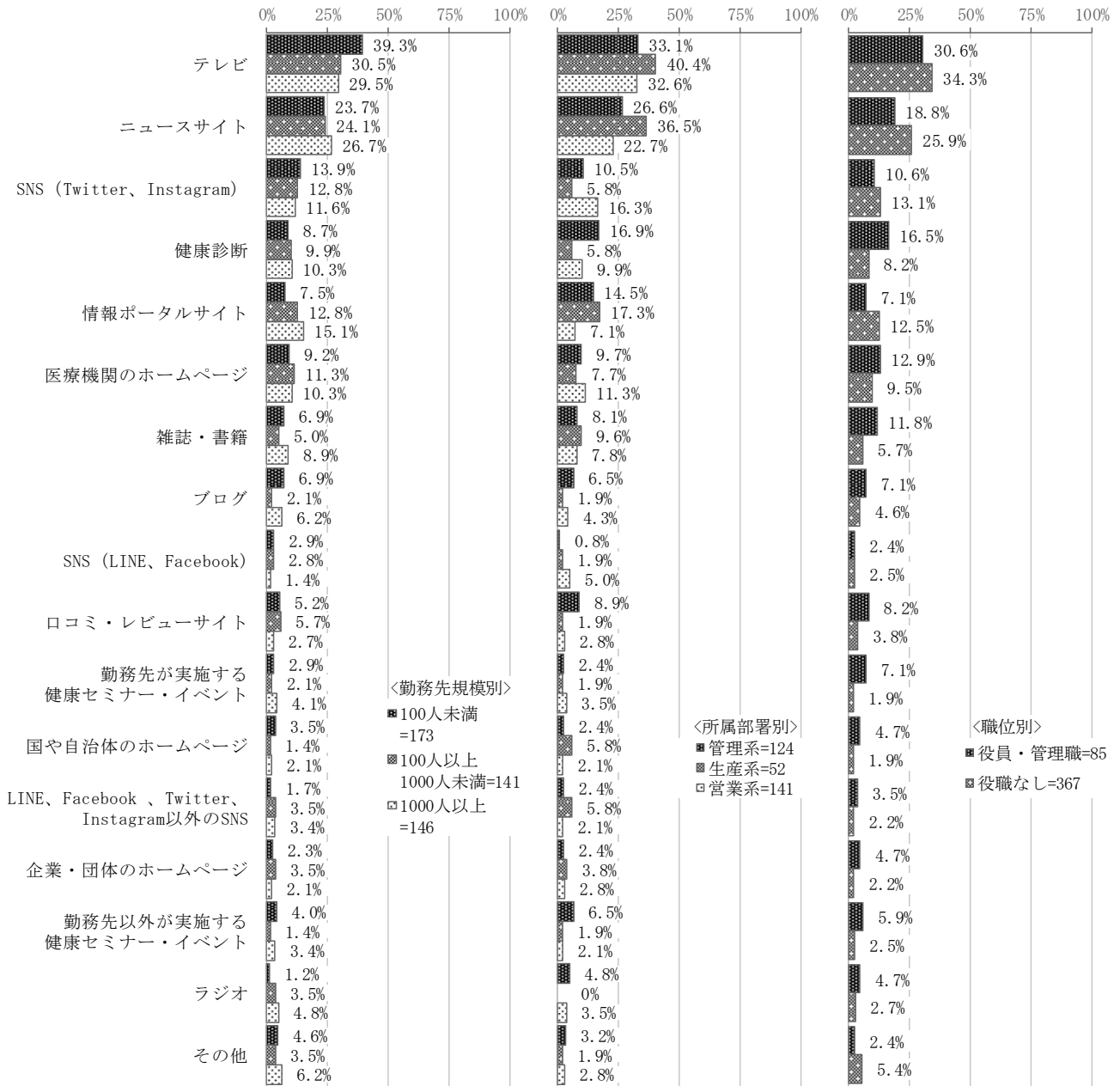


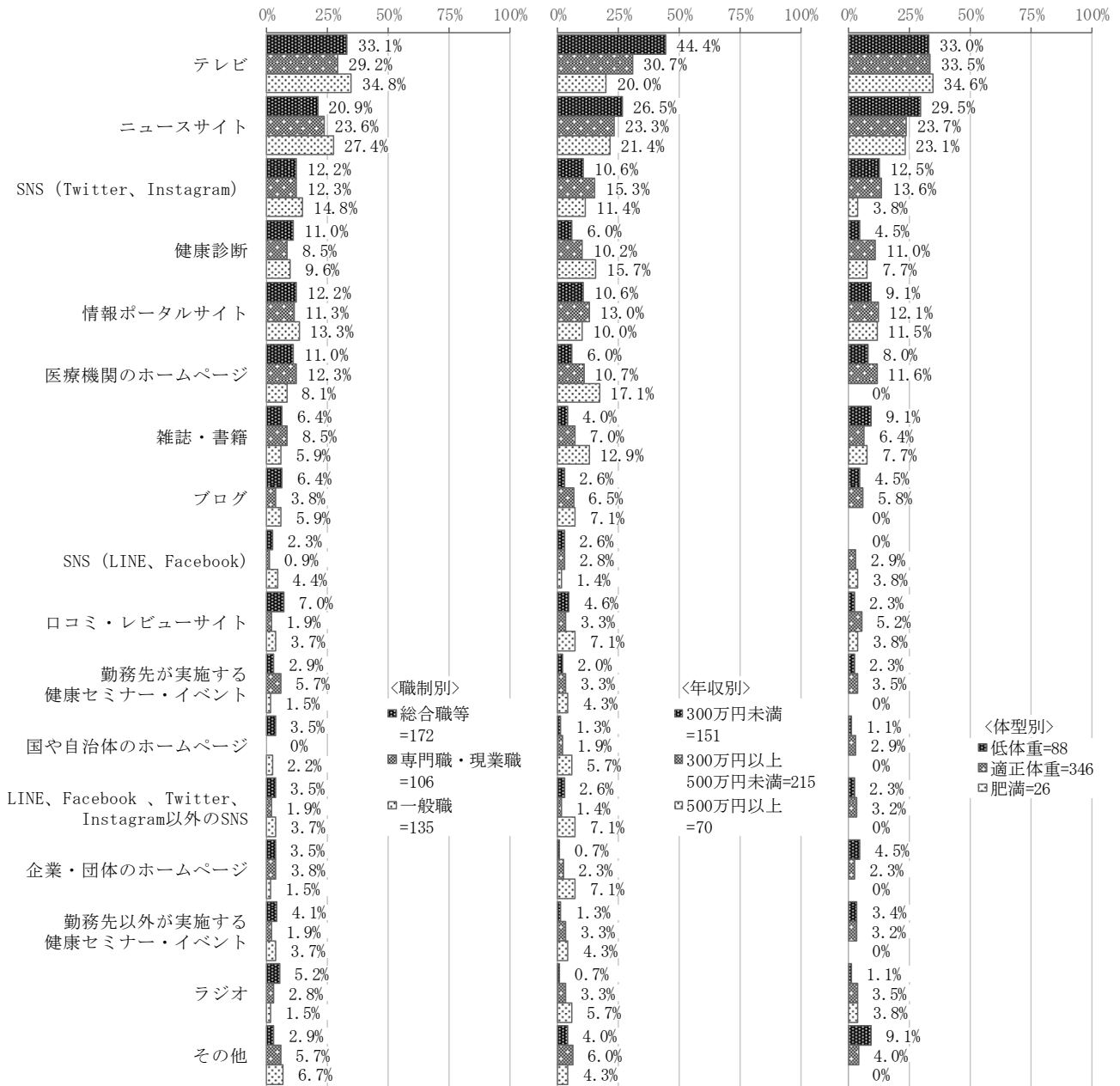


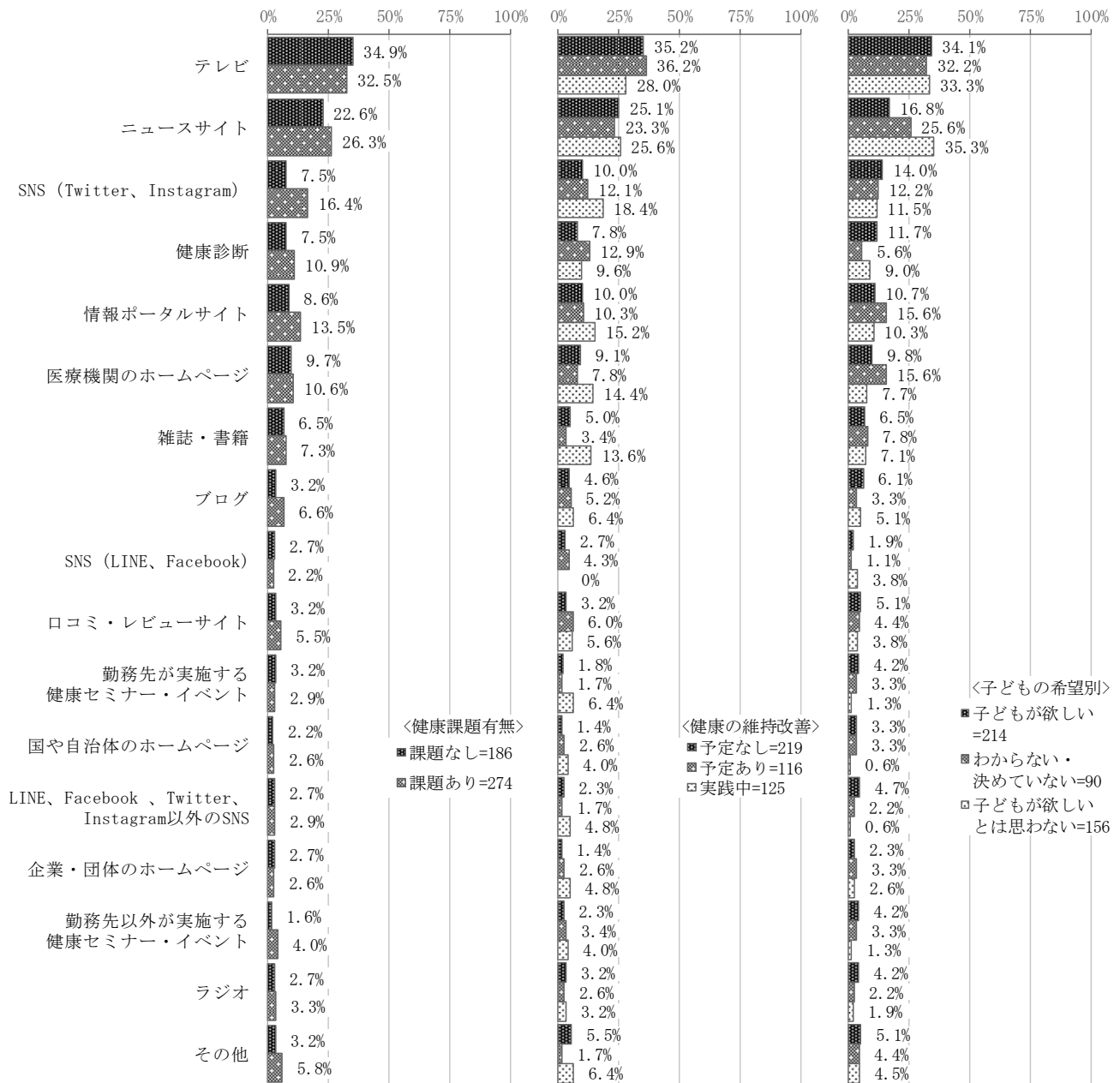










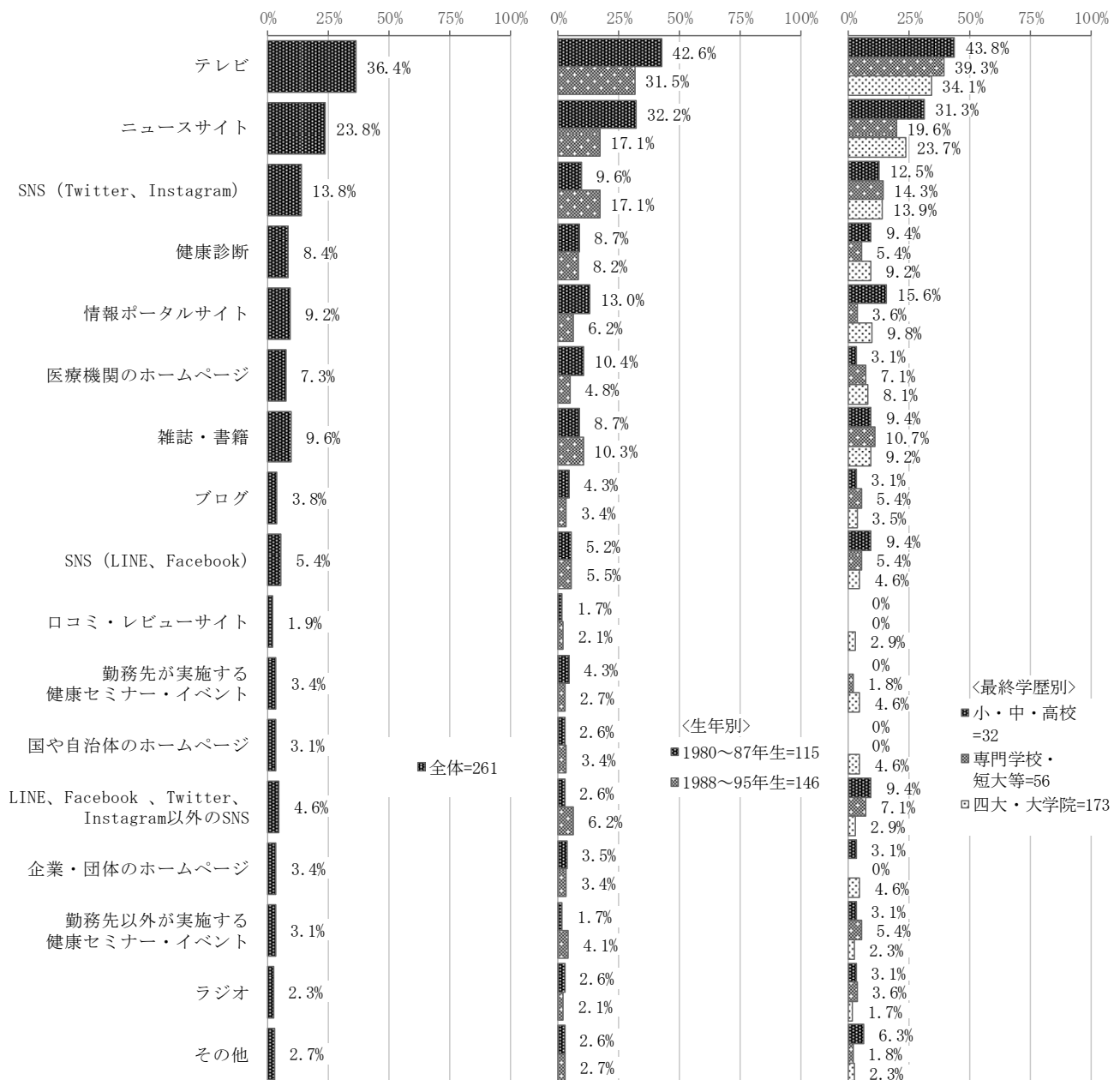


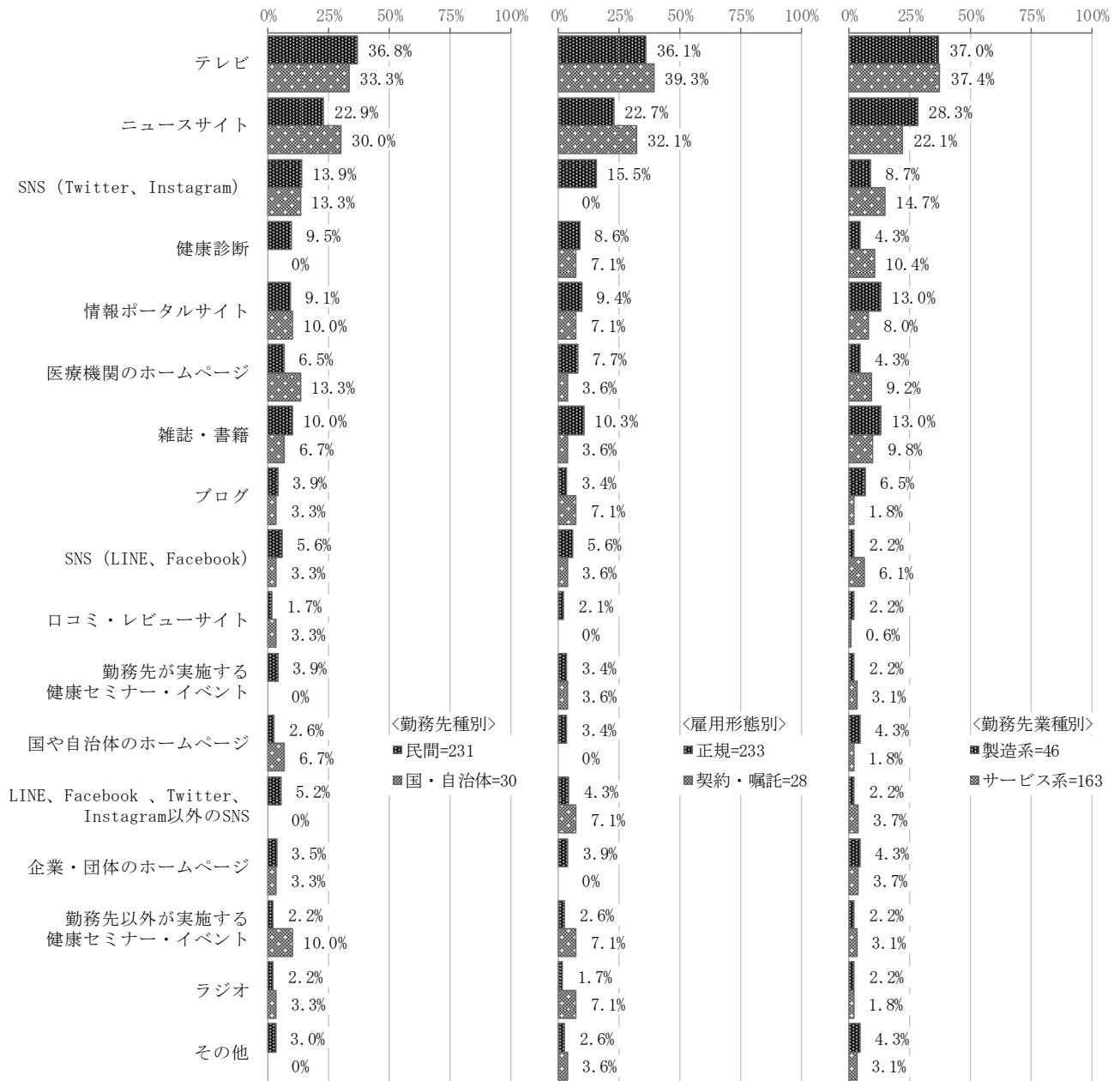
注 「その他」には、「YouTube等ネット」「医療機関」「自身の診断・検診」「家族・親戚」「家族・親戚以外の人」「勤務先」「新聞」があった。

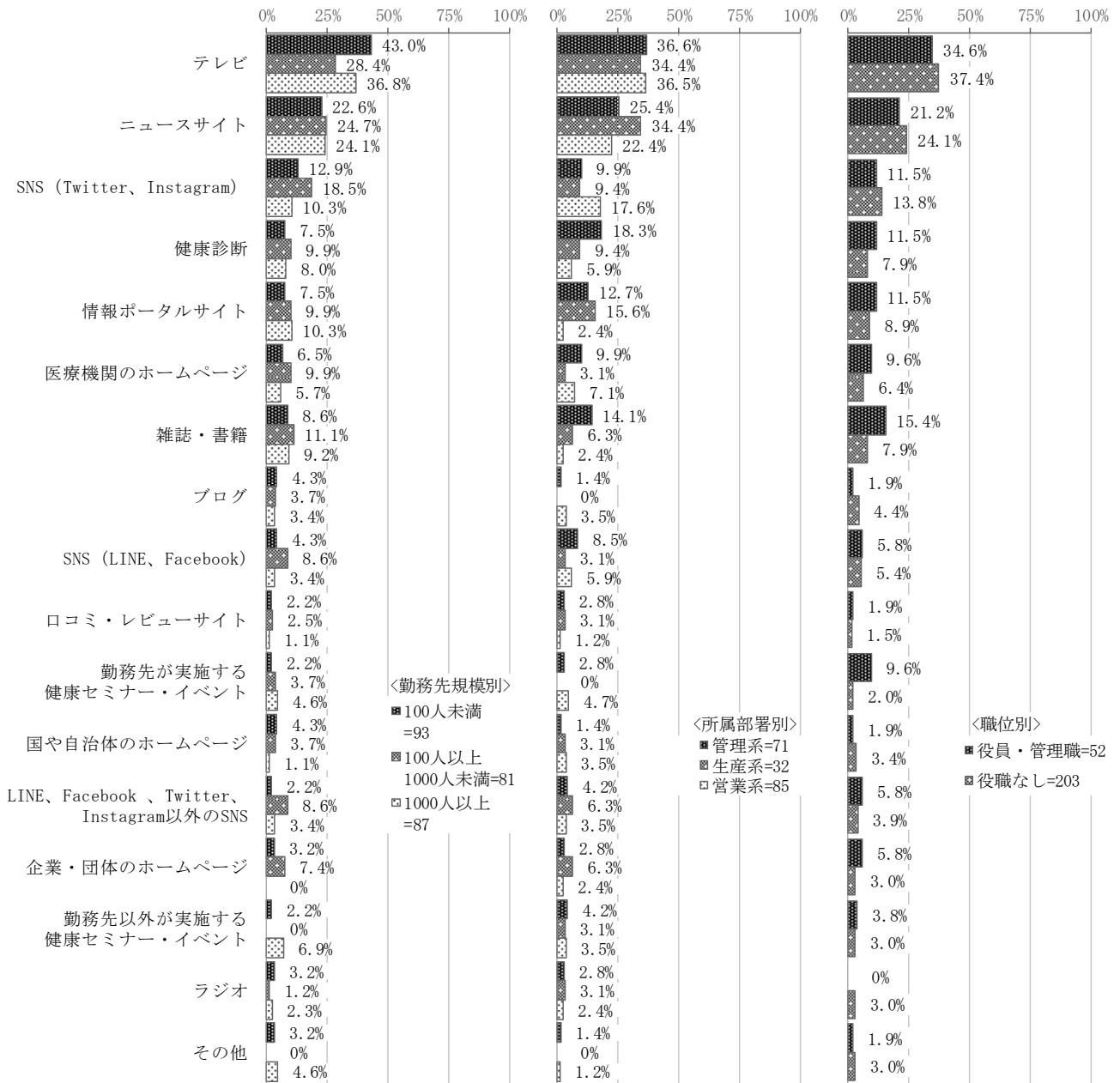
5.11. 女性特有の健康課題の認知経路（新型栄養失調）

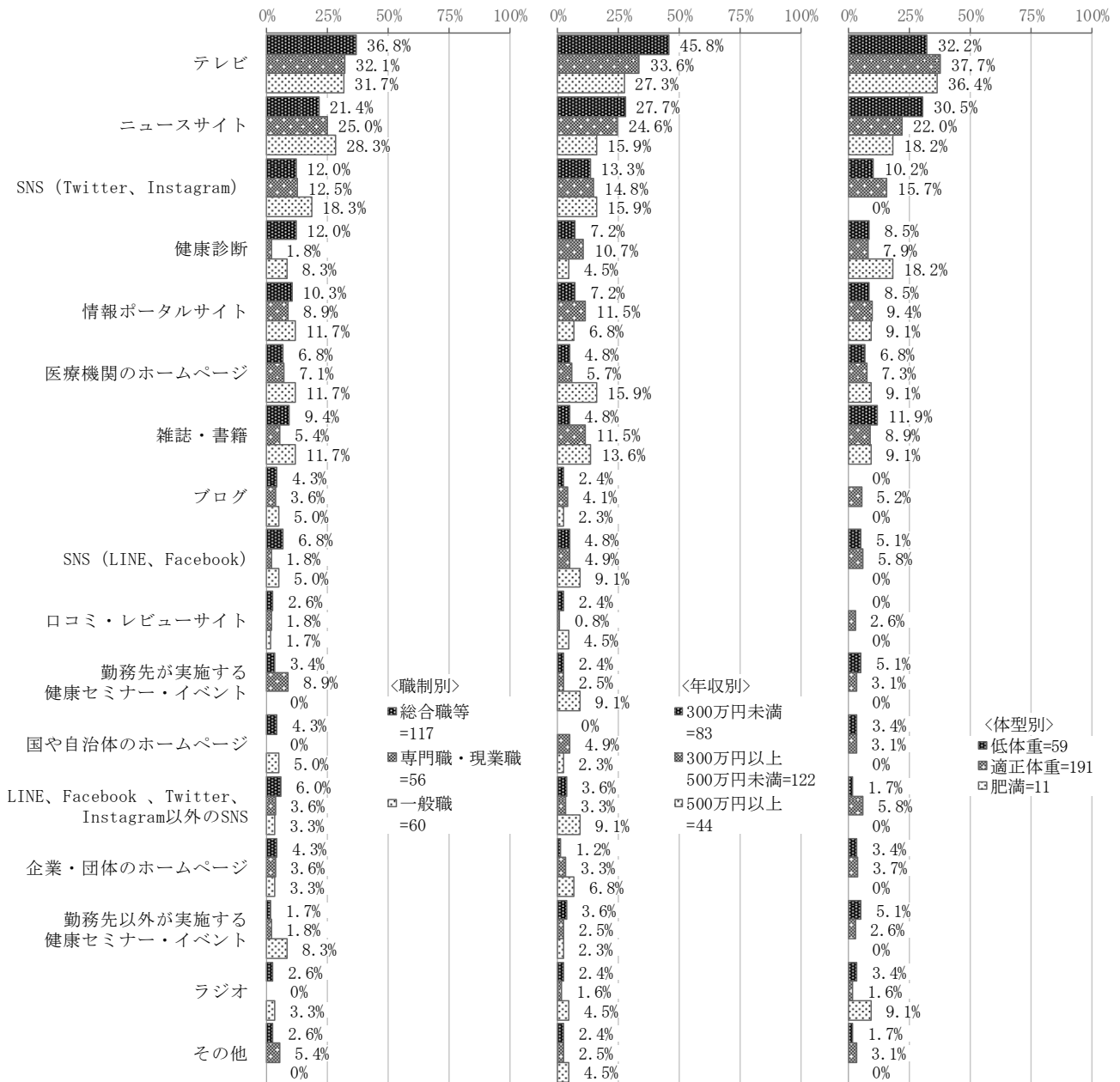
- 新型栄養失調について、前問で「よく知っている」または「やや知っている」を選択した回答者に、どのような機会を通じて知ることがあるか尋ねたところ、全体では「テレビ」が36.4%と最も多い。
- 「テレビ」は生年別で1980～87年生の回答者、年収別で300万円未満の回答者、健康課題有無で課題なしの回答者が多い。
- 「ニュースサイト」は、生年別で1980～87年生の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しいとは思わない回答者とわからない・決めていない回答者が多い。
- 「SNS (Twitter、Instagram)」は、雇用形態別で正規の回答者、体型別で適正体重の回答者と低体重の回答者が多い。
- 「情報ポータルサイト」は全体では5位だが、所属部署別で生産系の回答者が多い。
- 「医療機関のホームページ」は全体では7位だが、年収別で500万円以上の回答者が多い。

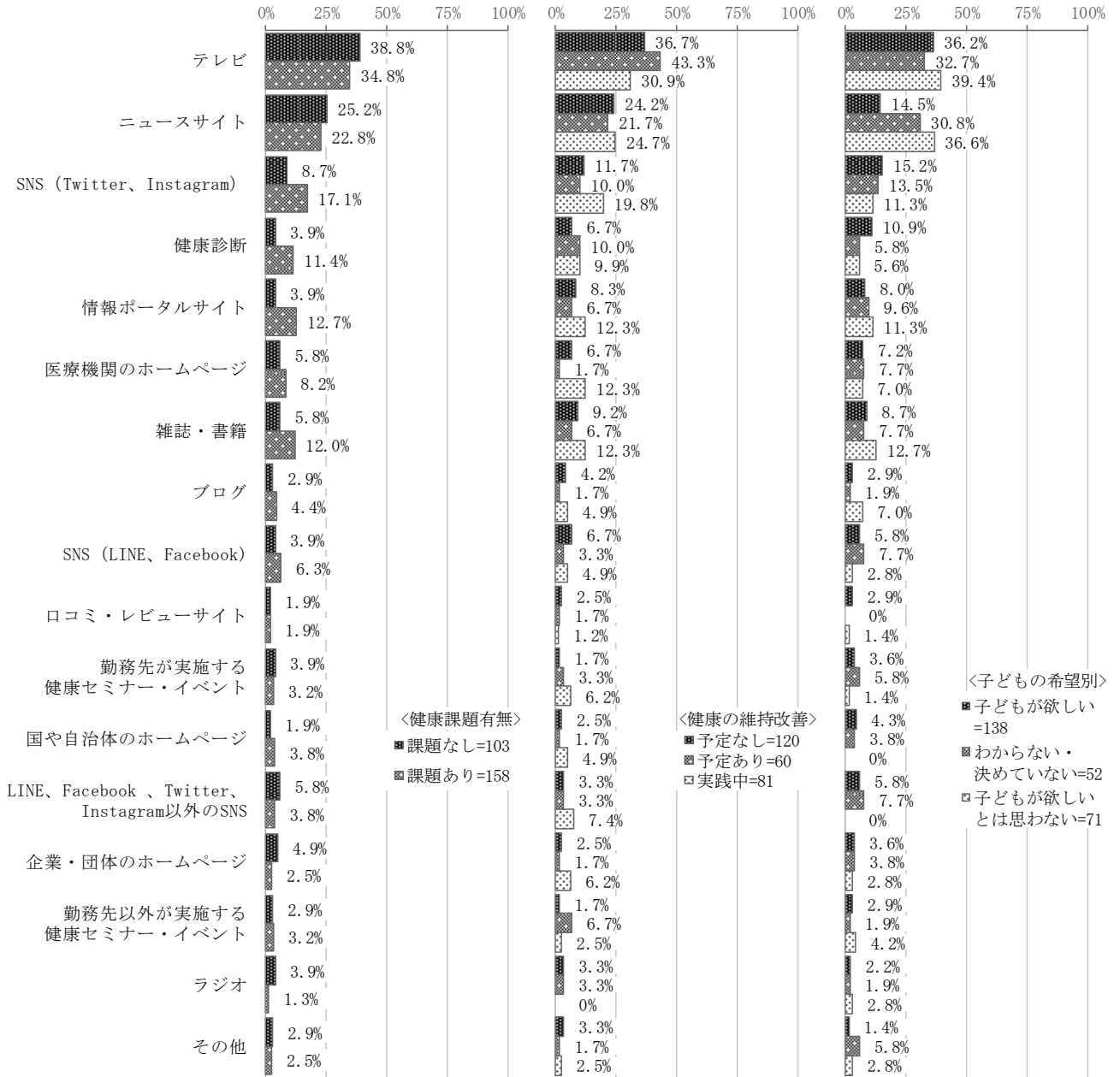
図表 5.11. 女性特有の健康課題の認知経路（新型栄養失調）【複数選択】

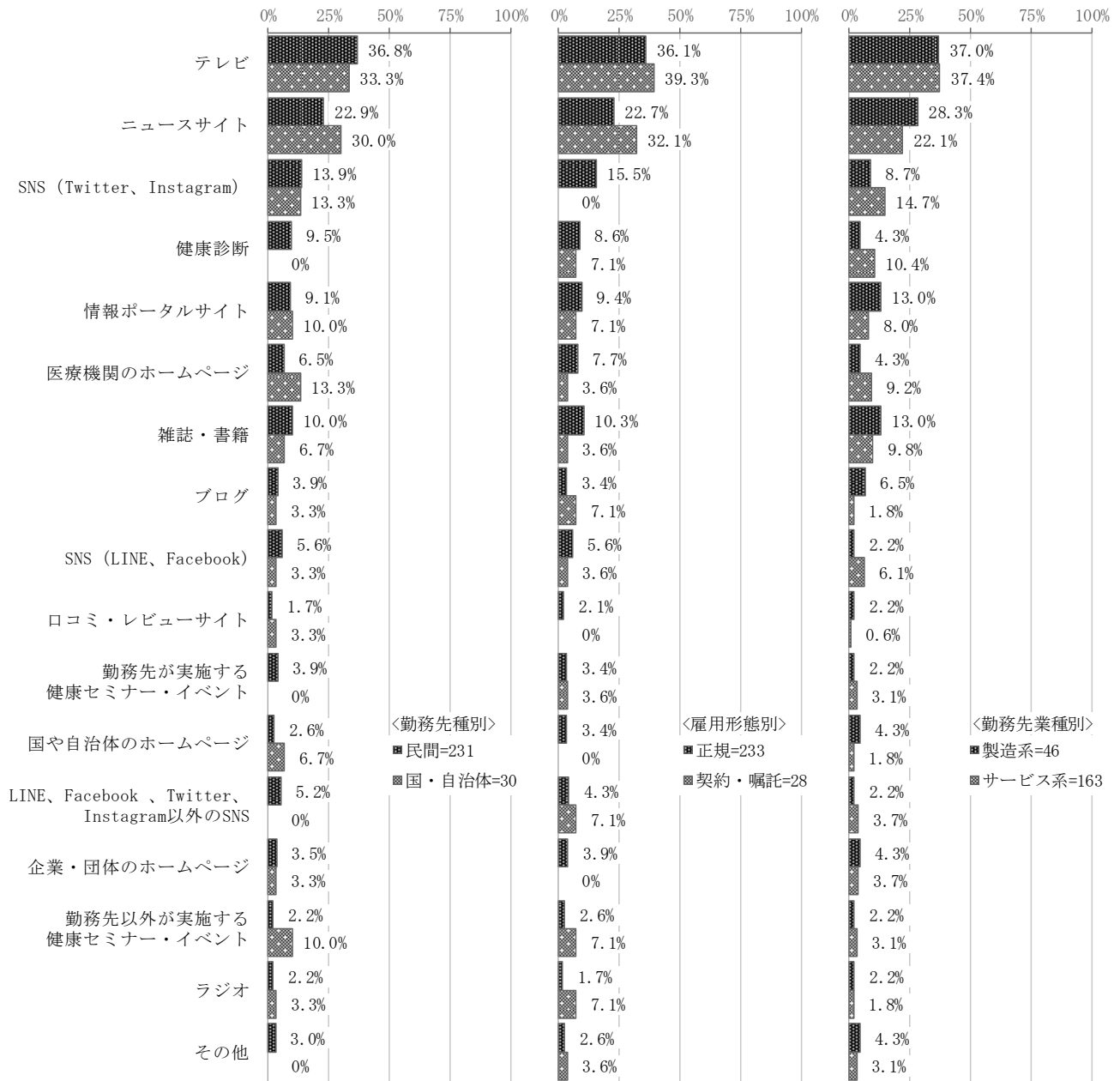


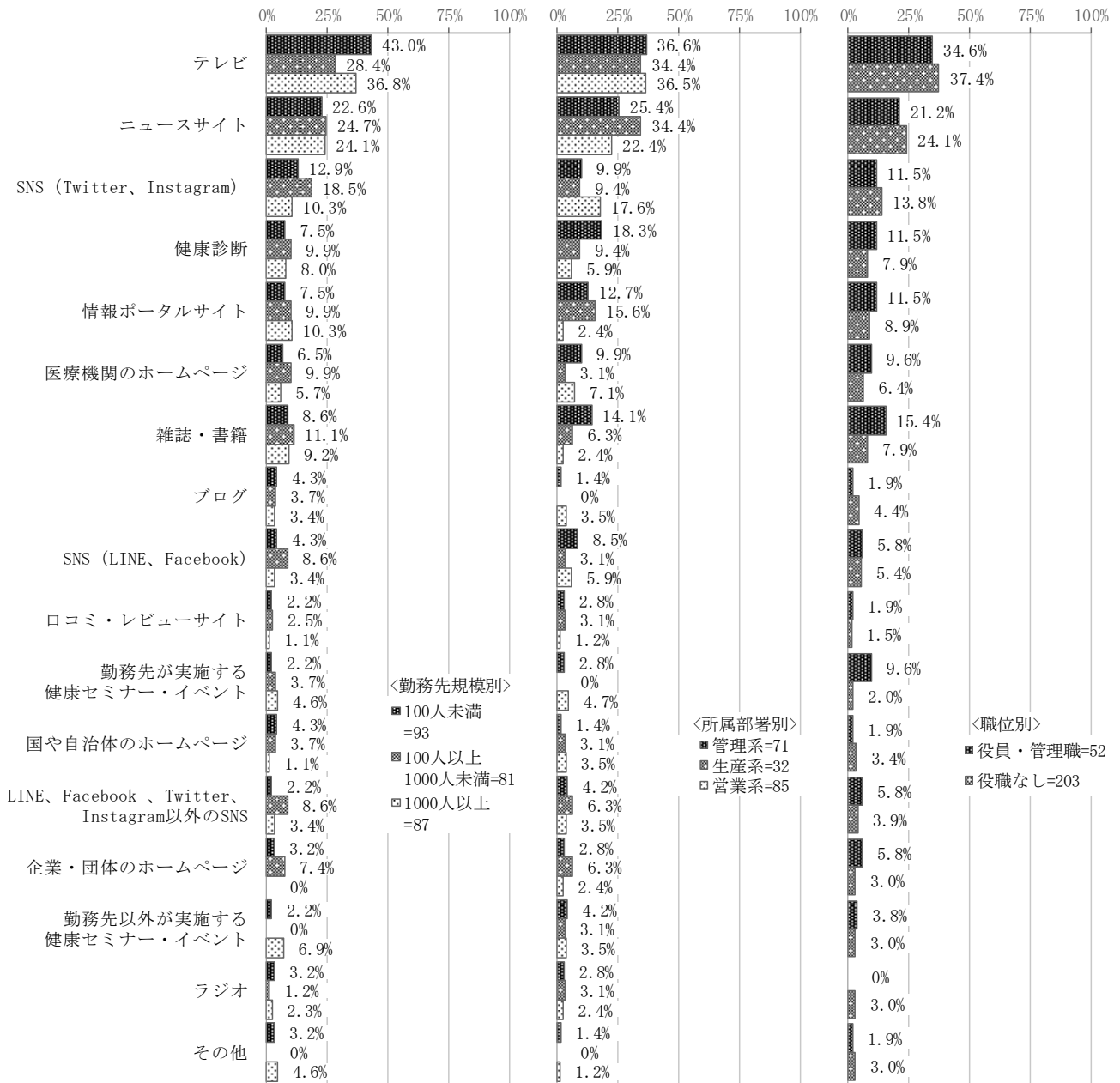


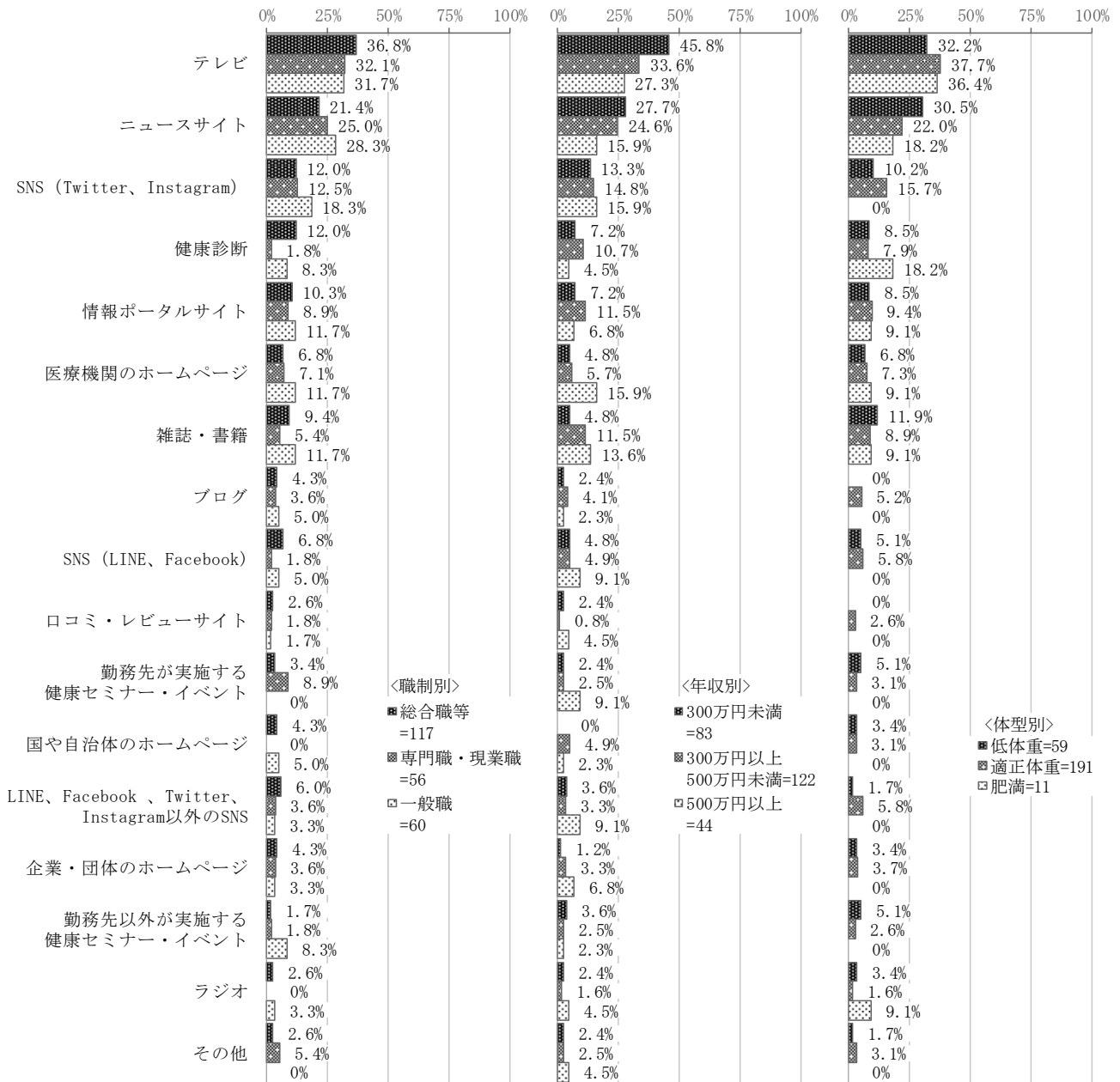


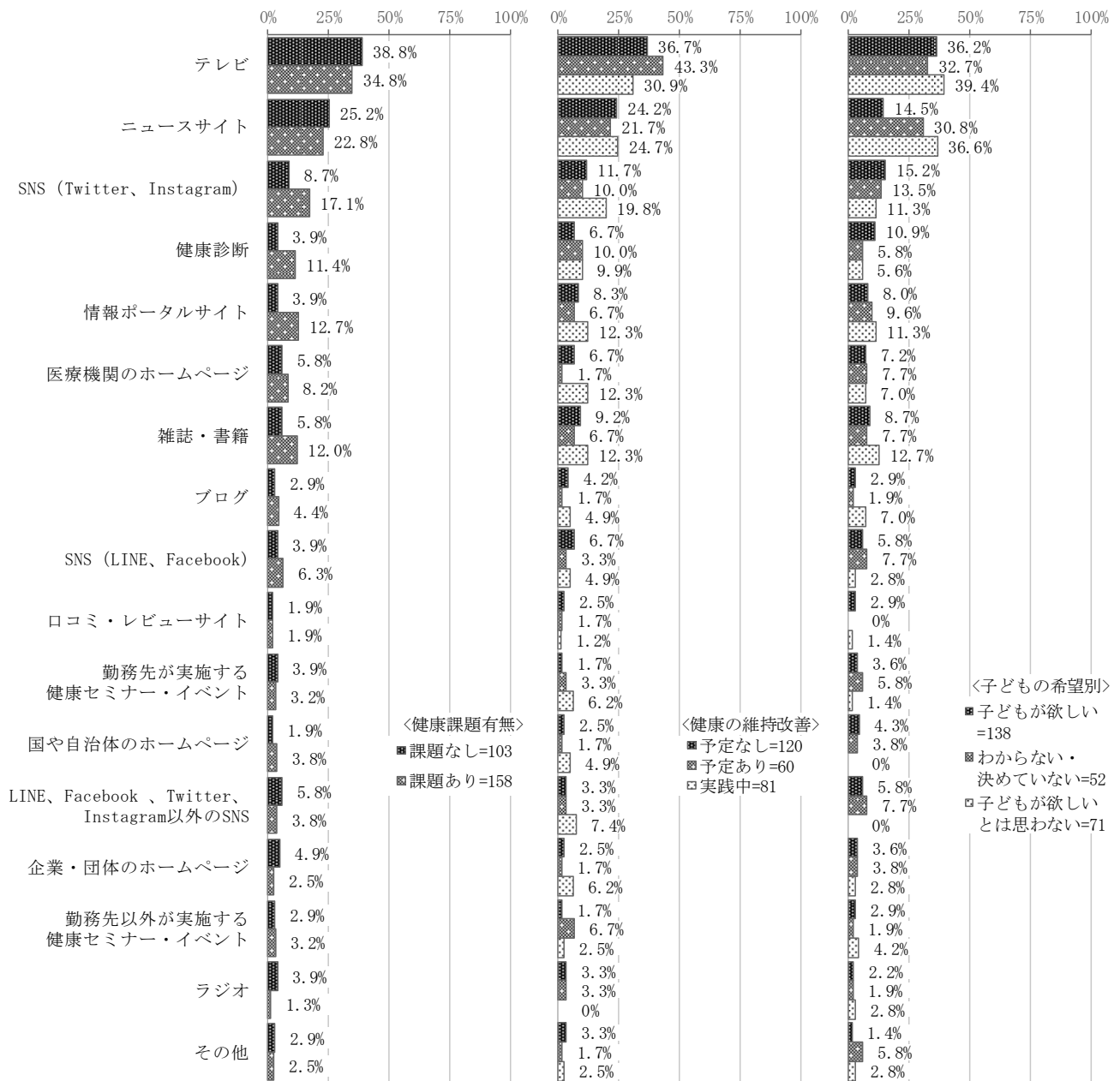










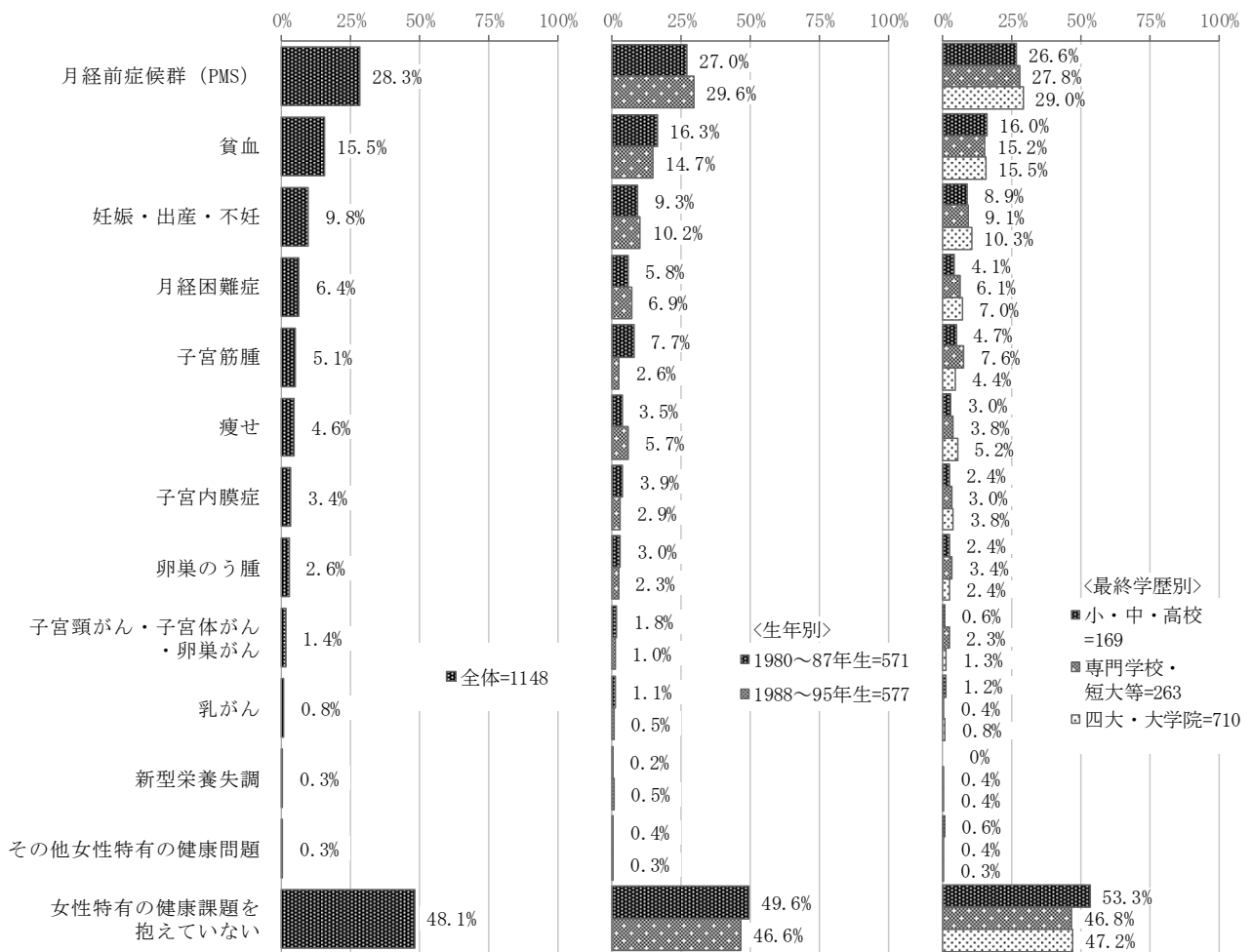


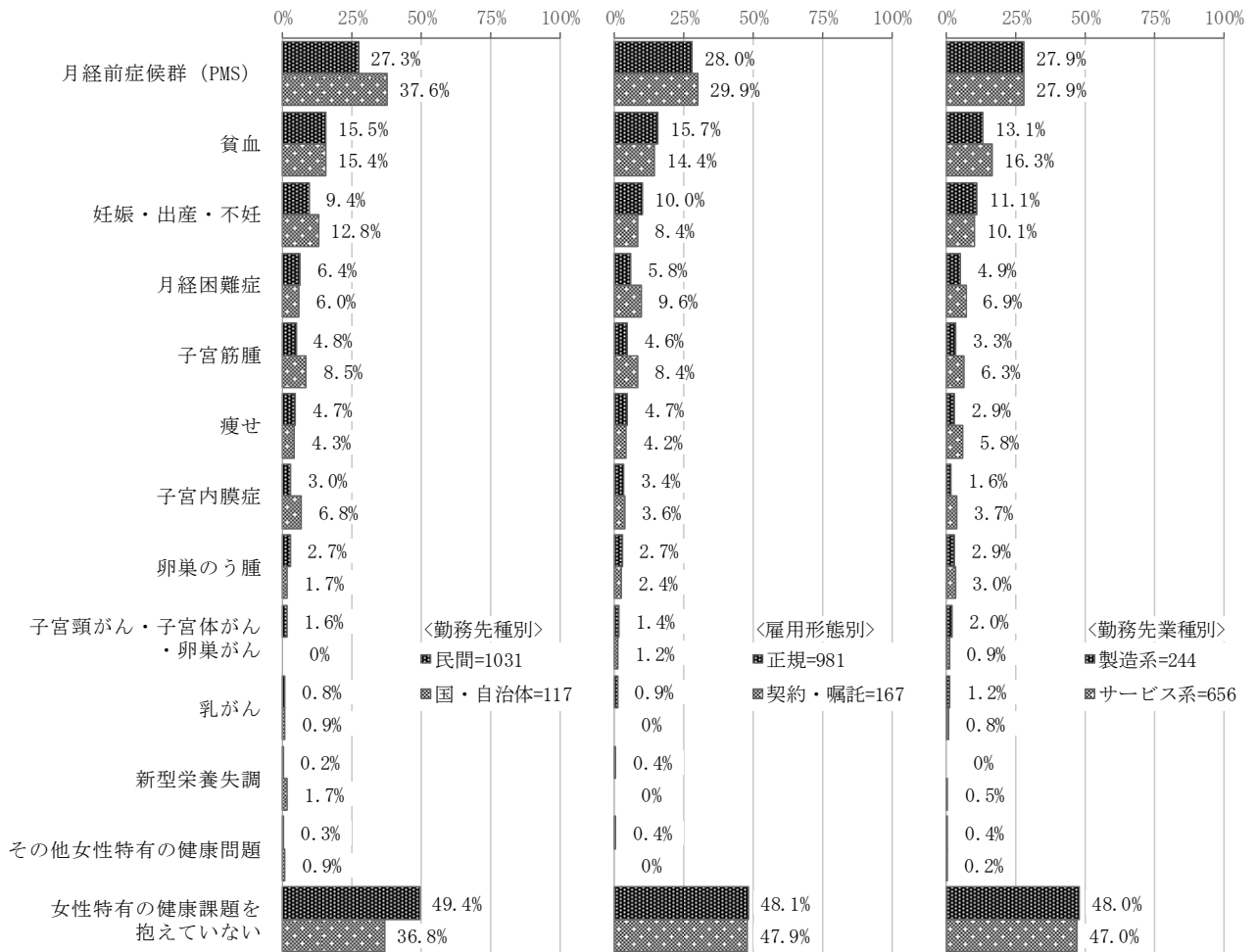
注 「その他」には、「医療機関」「家族・親戚以外の人」「勤務先」があった。

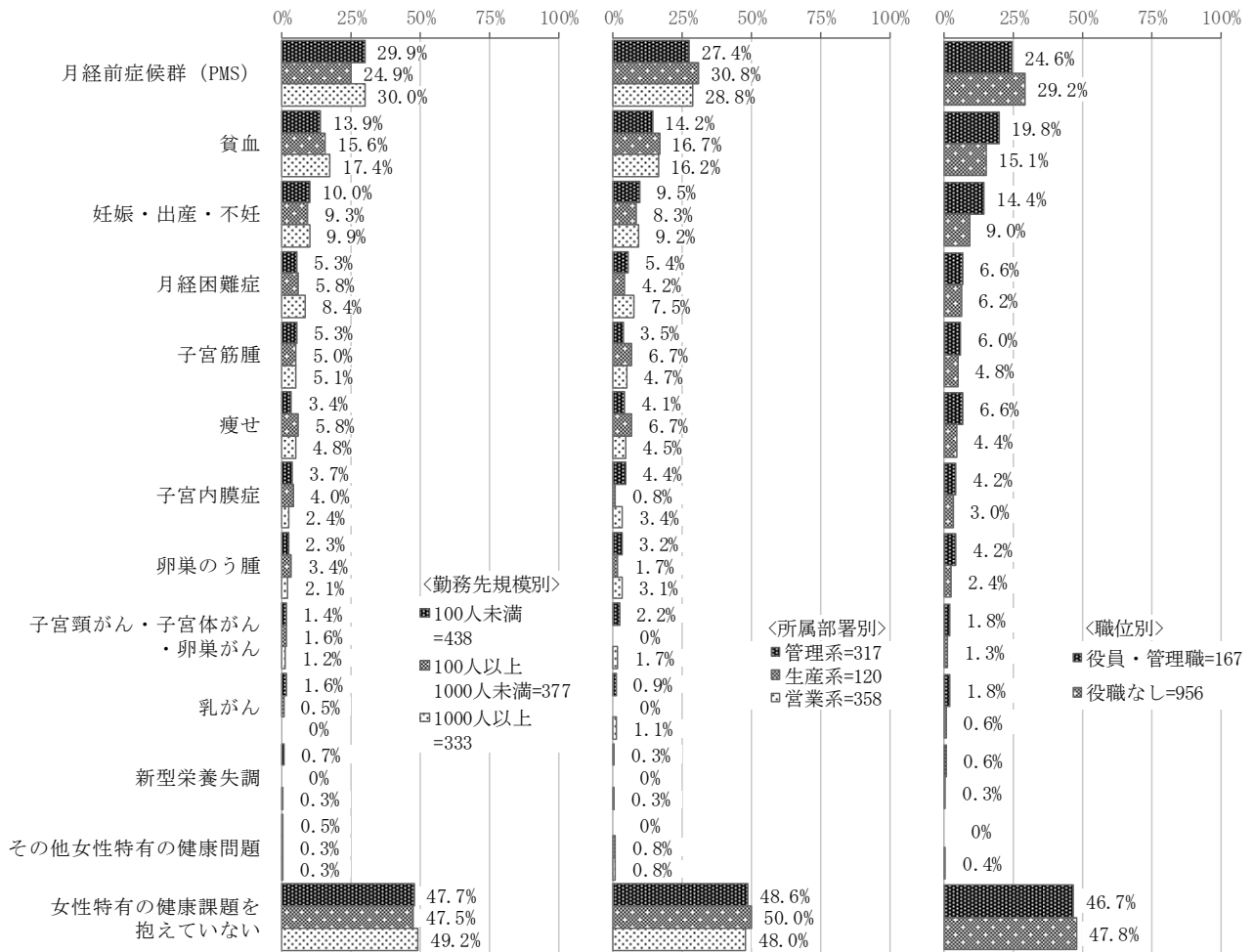
6. 抱えている女性特有の健康課題

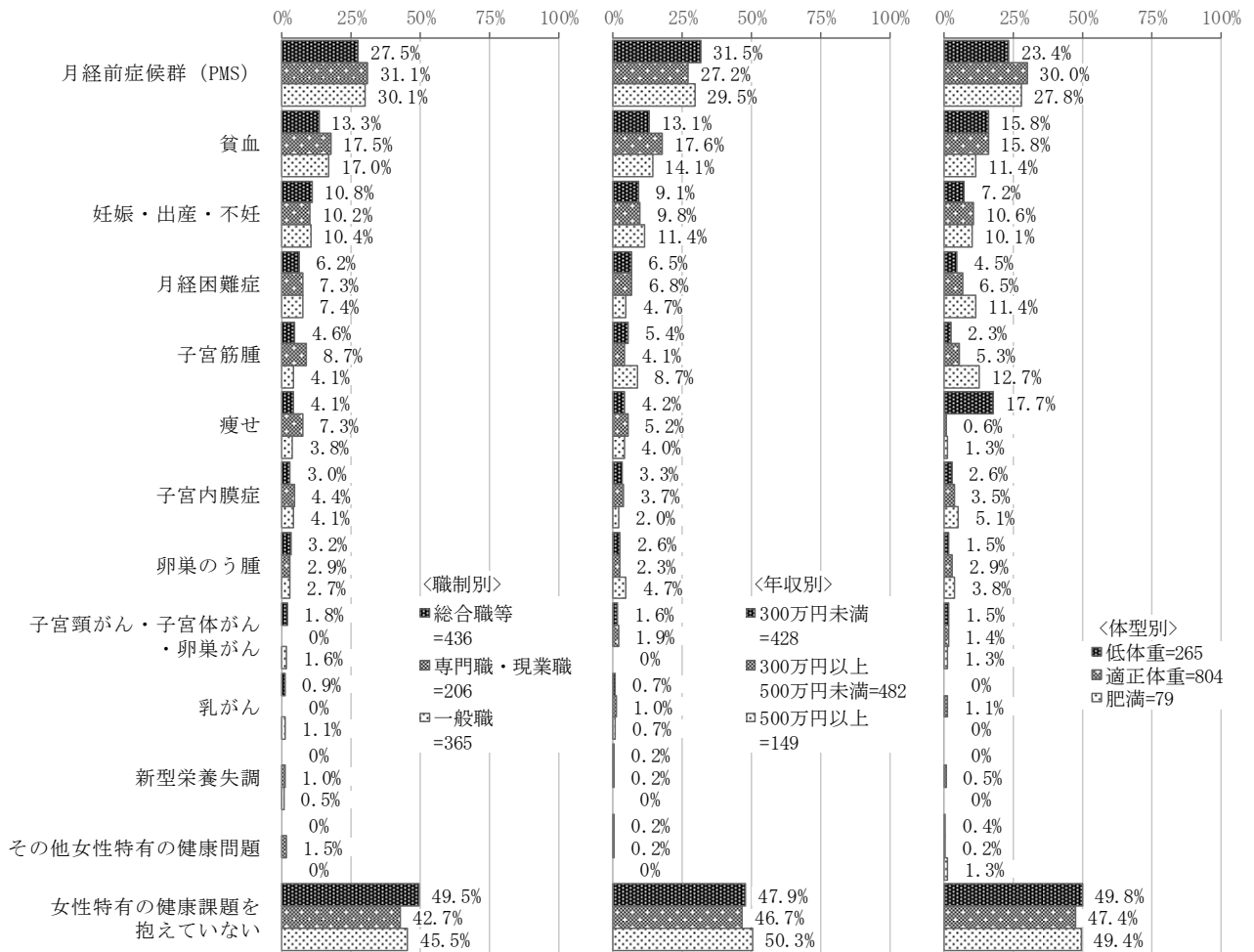
- 自身が抱える女性特有の健康課題を尋ねたところ、全体では「女性特有の健康課題を抱えていない」が48.1%と最も多く、健康課題としては「月経前症候群（PMS）」が28.3%と最も多い。
- 「女性特有の健康課題を抱えていない」は、勤務先種別で民間の回答者、健康の維持改善で予定なしの回答者が多い。
- 健康課題としては「月経前症候群（PMS）」は、勤務先種別で国・自治体の回答者が多い。
- 「妊娠・出産・不妊」は、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。
- 「痩せ」は、体型別で低体重の回答者が多い。

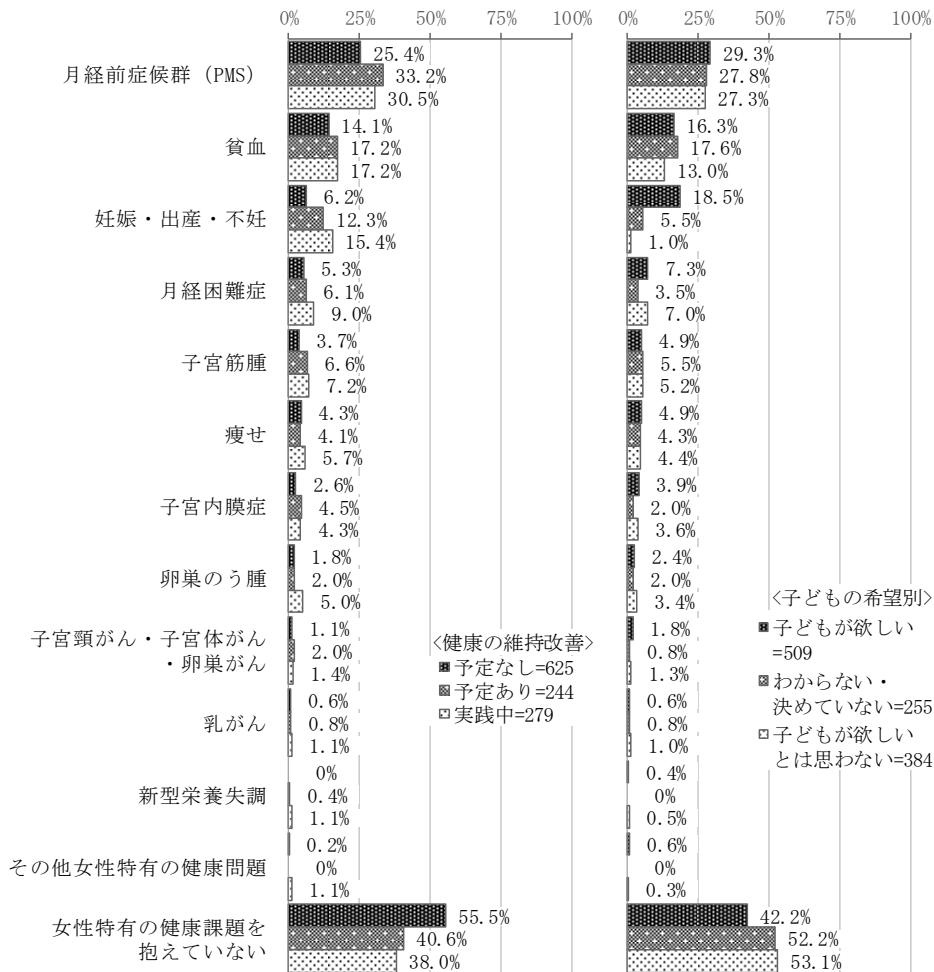
図表 6.抱えている女性特有の健康課題【複数選択】

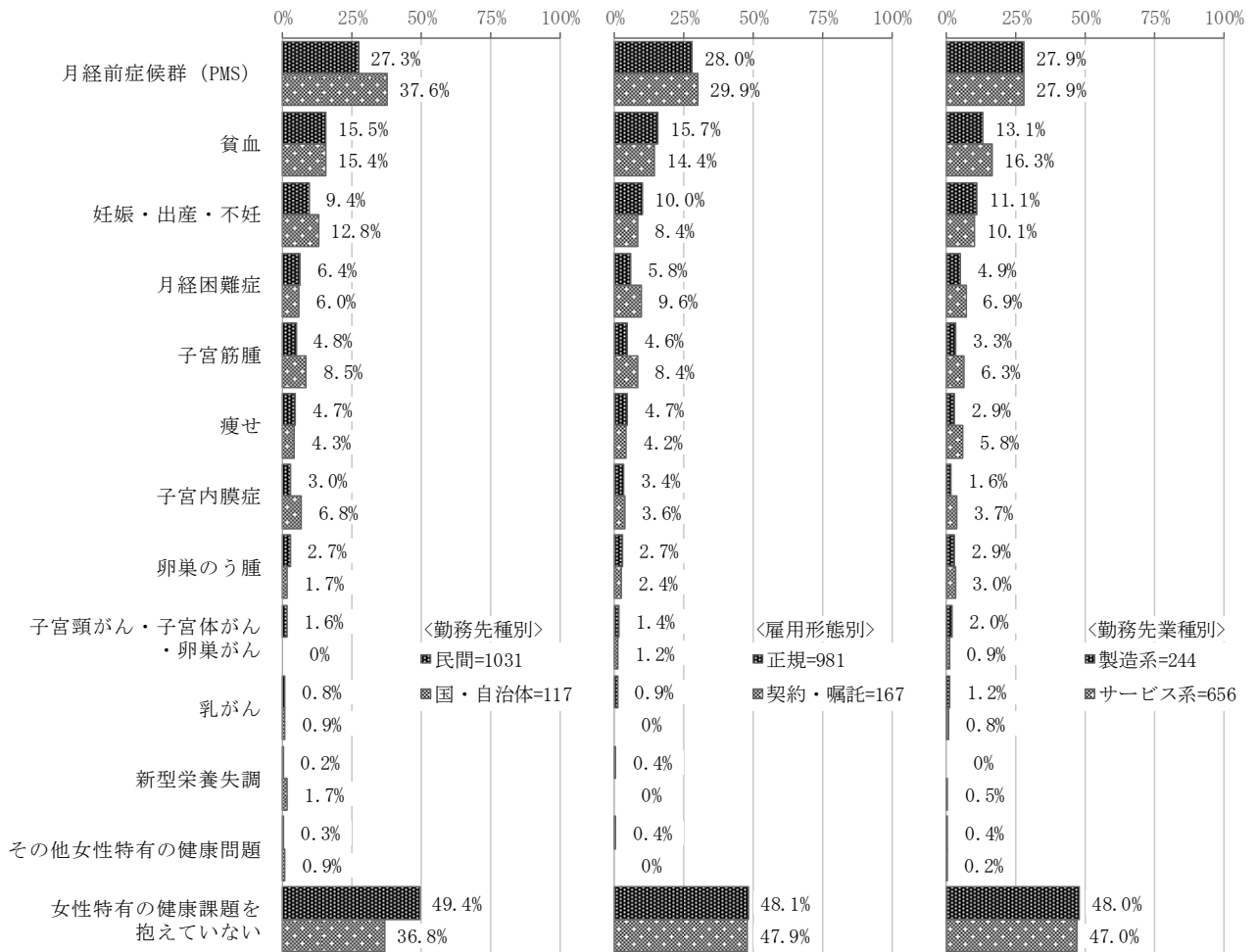


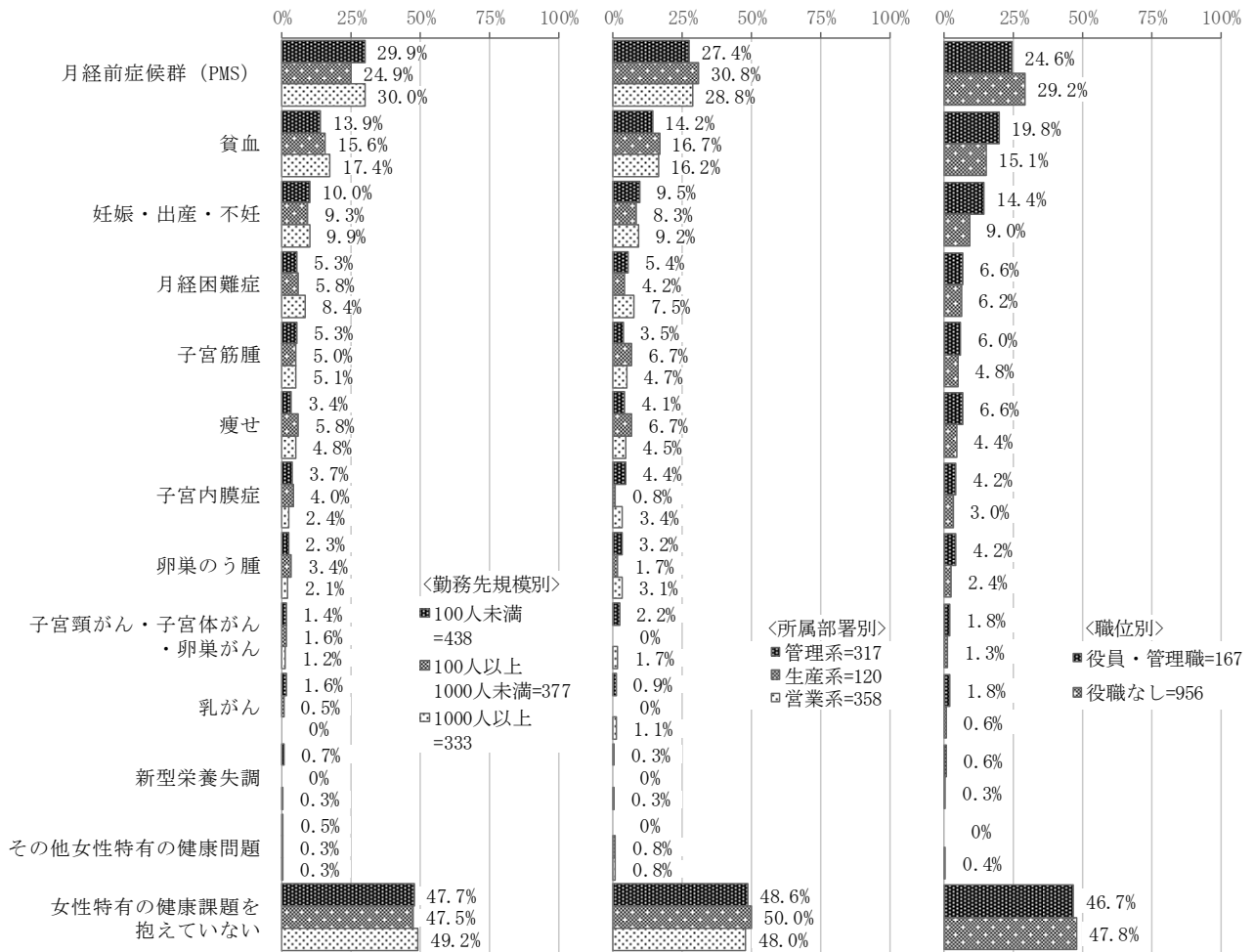


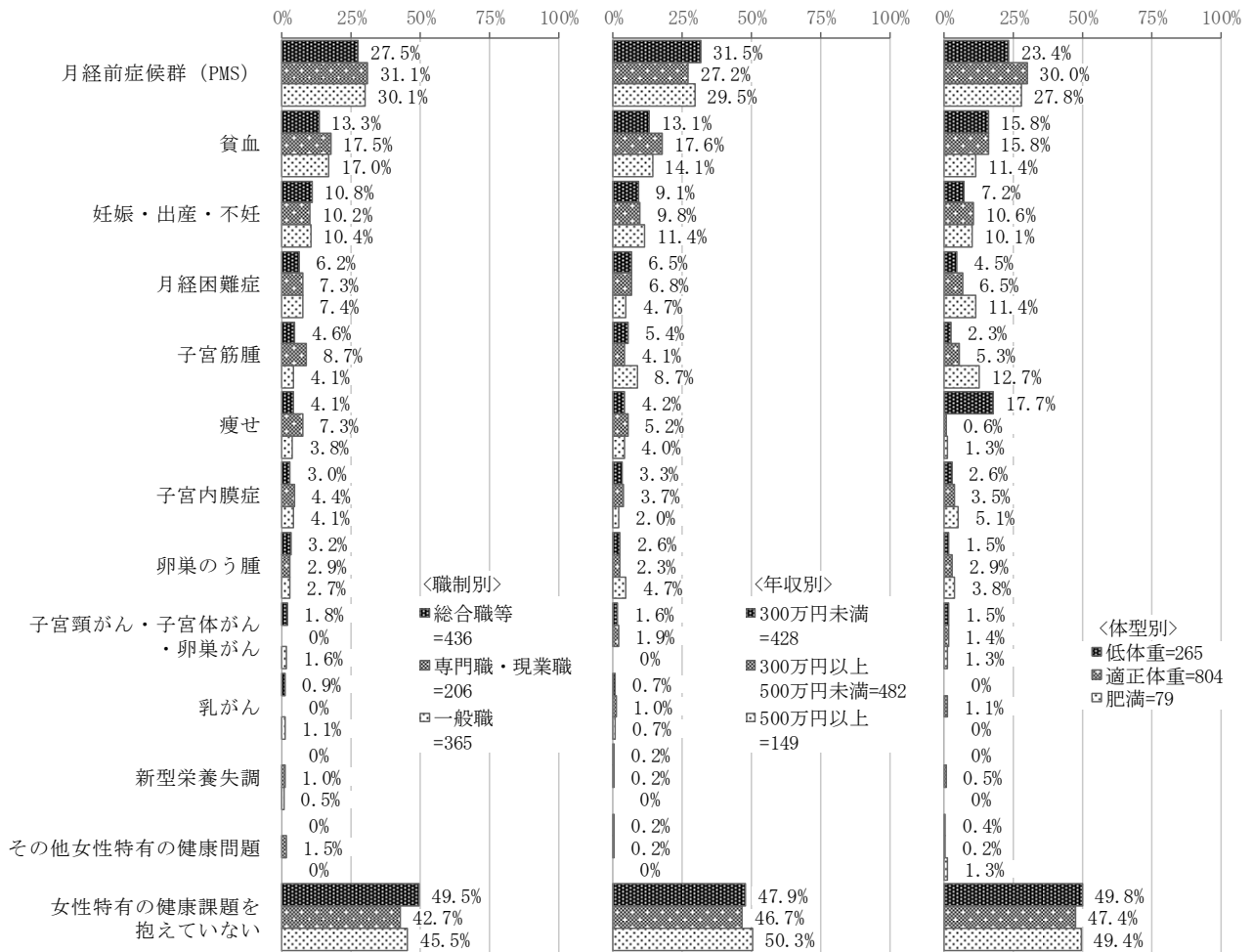


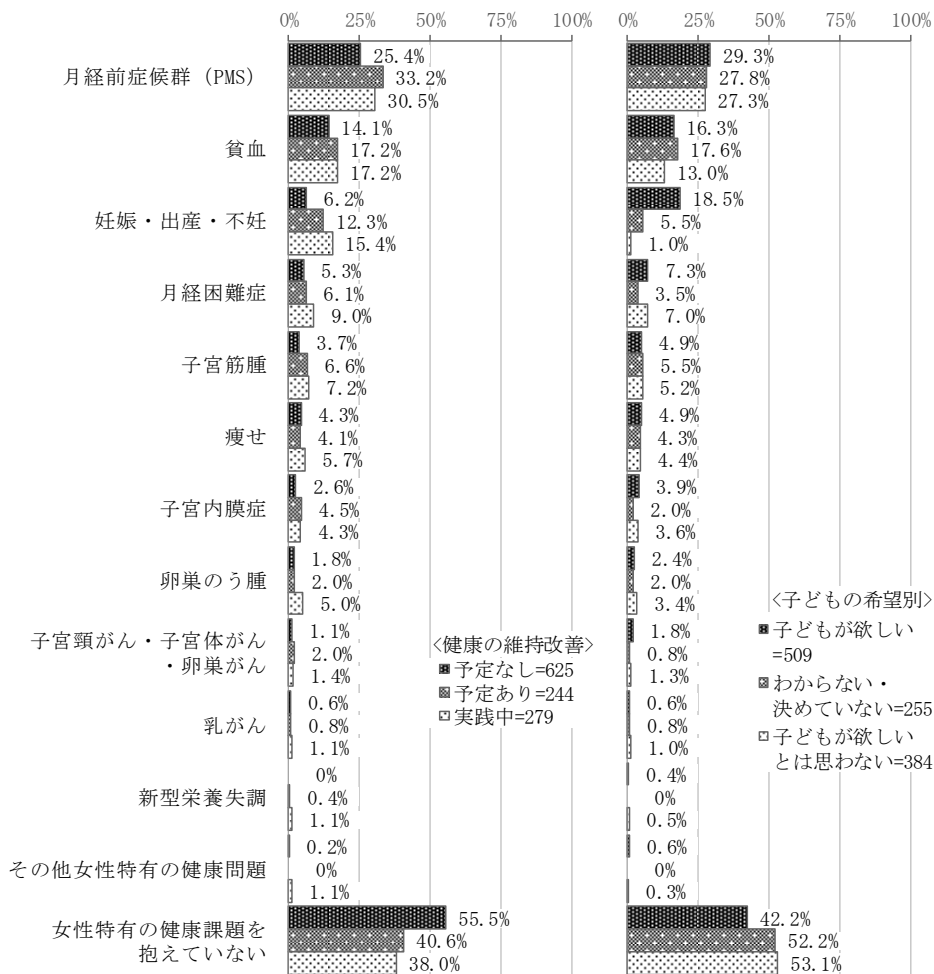










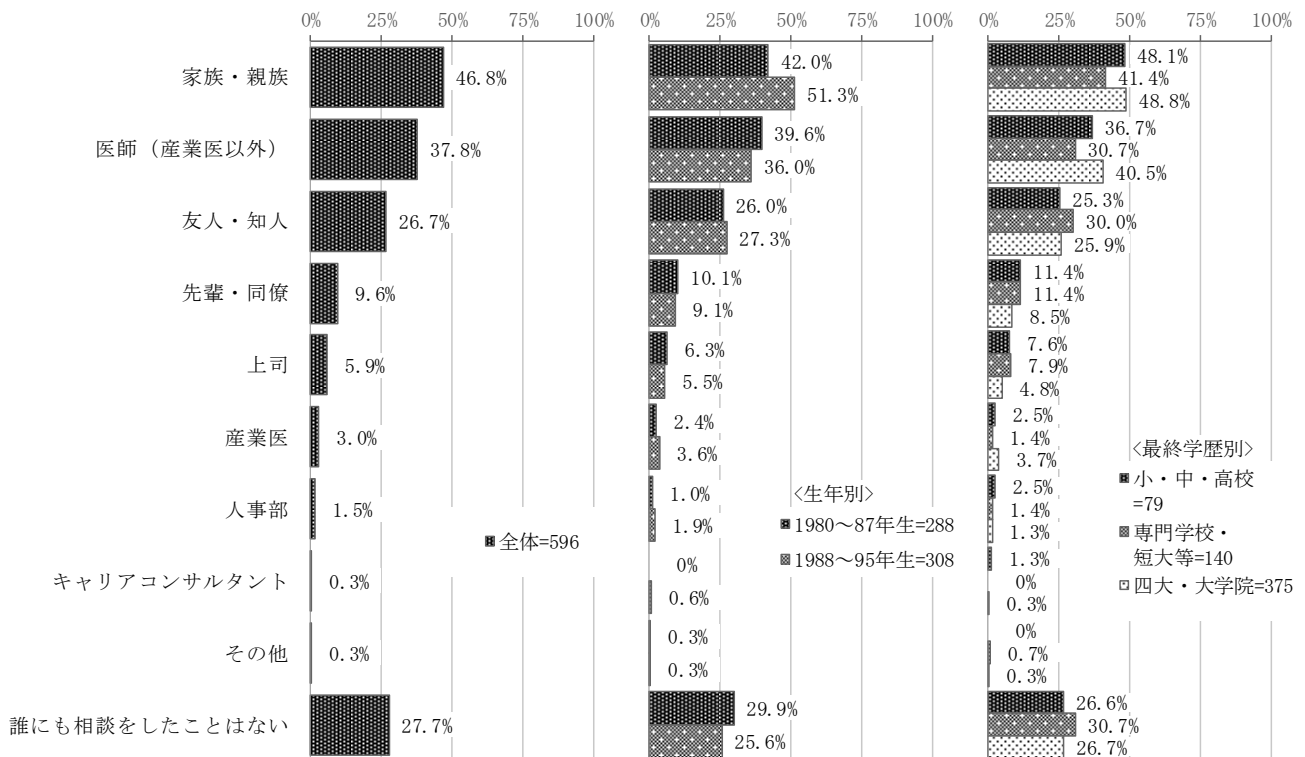


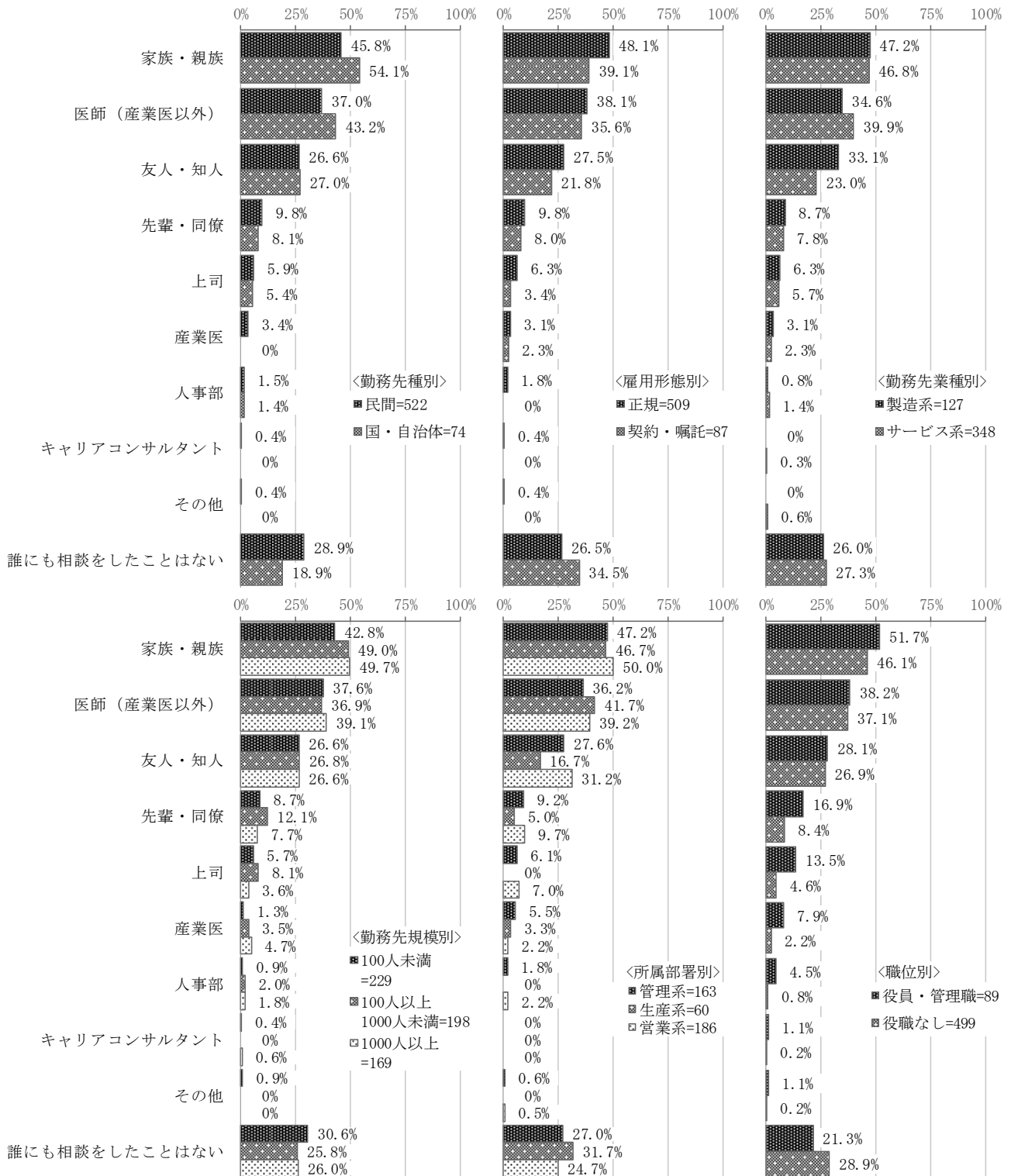
注 「その他女性特有の健康問題」には、「低血圧」「無月経」「排卵時の不調」「子宮腺筋症」があった。

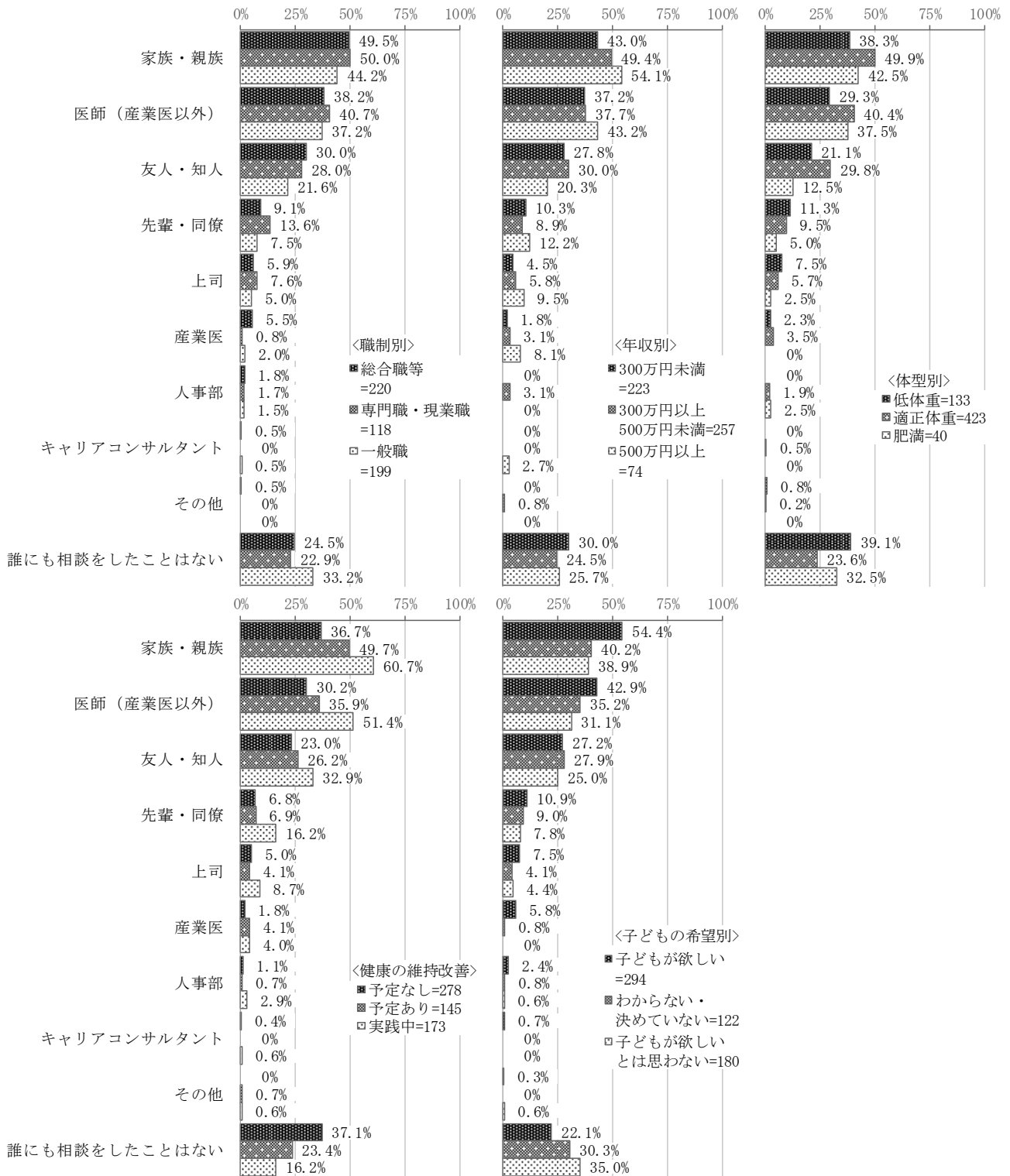
7. 女性特有の健康課題の相談相手

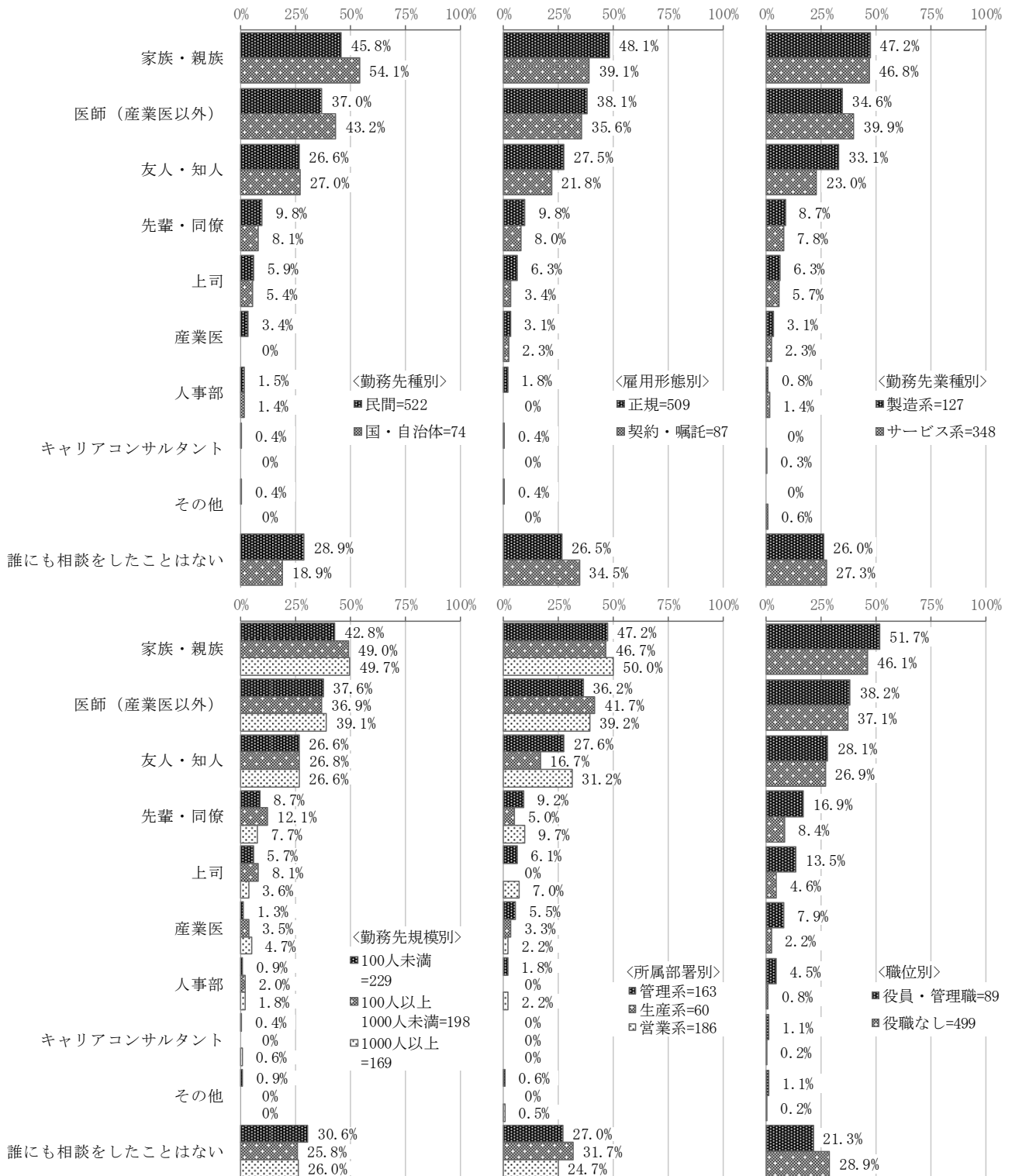
- いずれかの女性特有の健康課題を抱えている回答者に、健康課題について話をした相手を尋ねたところ、全体では「家族・親族」が46.8%と最も多く、「医師（産業医以外）」37.8%、「友人・知人」26.7%と続いた。また「誰にも相談をしたことはない」を選択した回答者も27.7%あった。
- 「家族・親族」は、健康の維持改善で実践中の回答者と予定ありの回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。
- 「医師（産業医以外）」は、健康の維持改善で実践中の回答者が多い。
- 「友人・知人」は、勤務先業種別で製造系の回答者、所属部署別で営業系の回答者、管理系の回答者が多い。

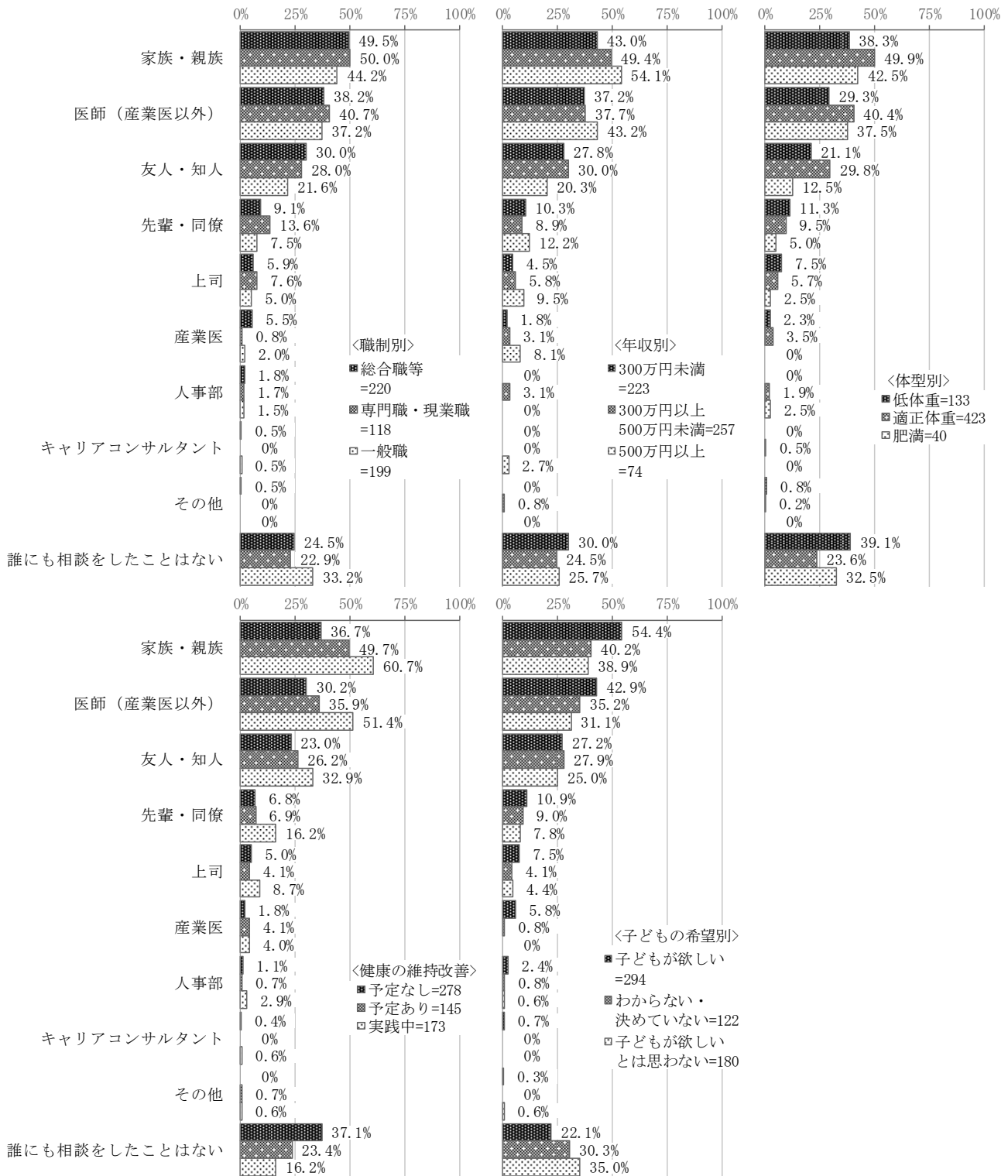
図表 7.女性特有の健康課題の相談相手【複数選択】









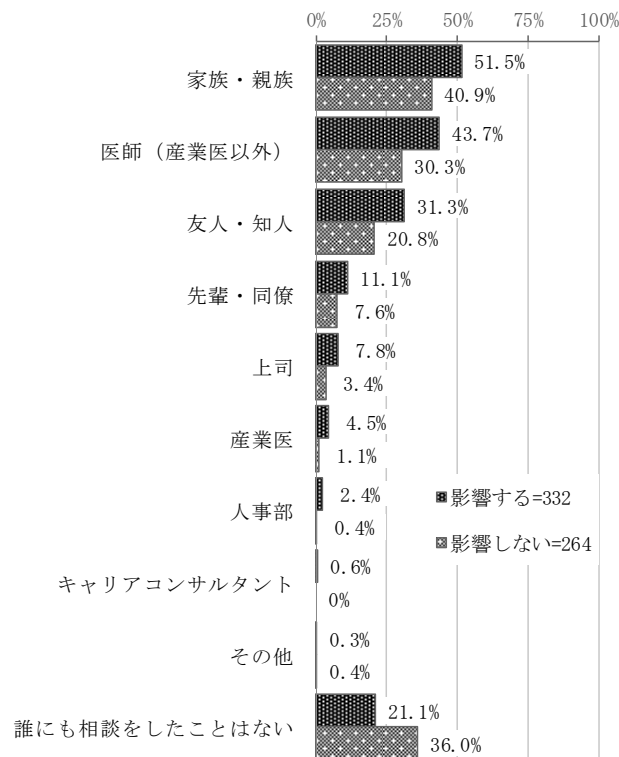


注 「その他」には、「漢方薬局の薬剤師」「漢方相談員」があった。

7.1. 女性特有の健康課題の相談相手（女性特有の健康課題の仕事への影響別）

- 抱えている健康課題が原因で仕事への影響について「非常に影響する」または「やや影響する」を選択した回答者と「あまり影響しない」または「まったく影響しない」を選択した回答者で、健康課題について話をした相手を比較したところ、「影響する」を選択した回答者は「家族・親族」51.5%、「医師（産業医以外）」43.7%、「友人・知人」31.3%と多く、中でも「医師（産業医以外）」の割合の差が大きかった。
- また、「影響しない」を選択した回答者の「誰にも相談をしたことはない」36.0%は、「影響する」を選択した回答者の割合を大きく上回った。

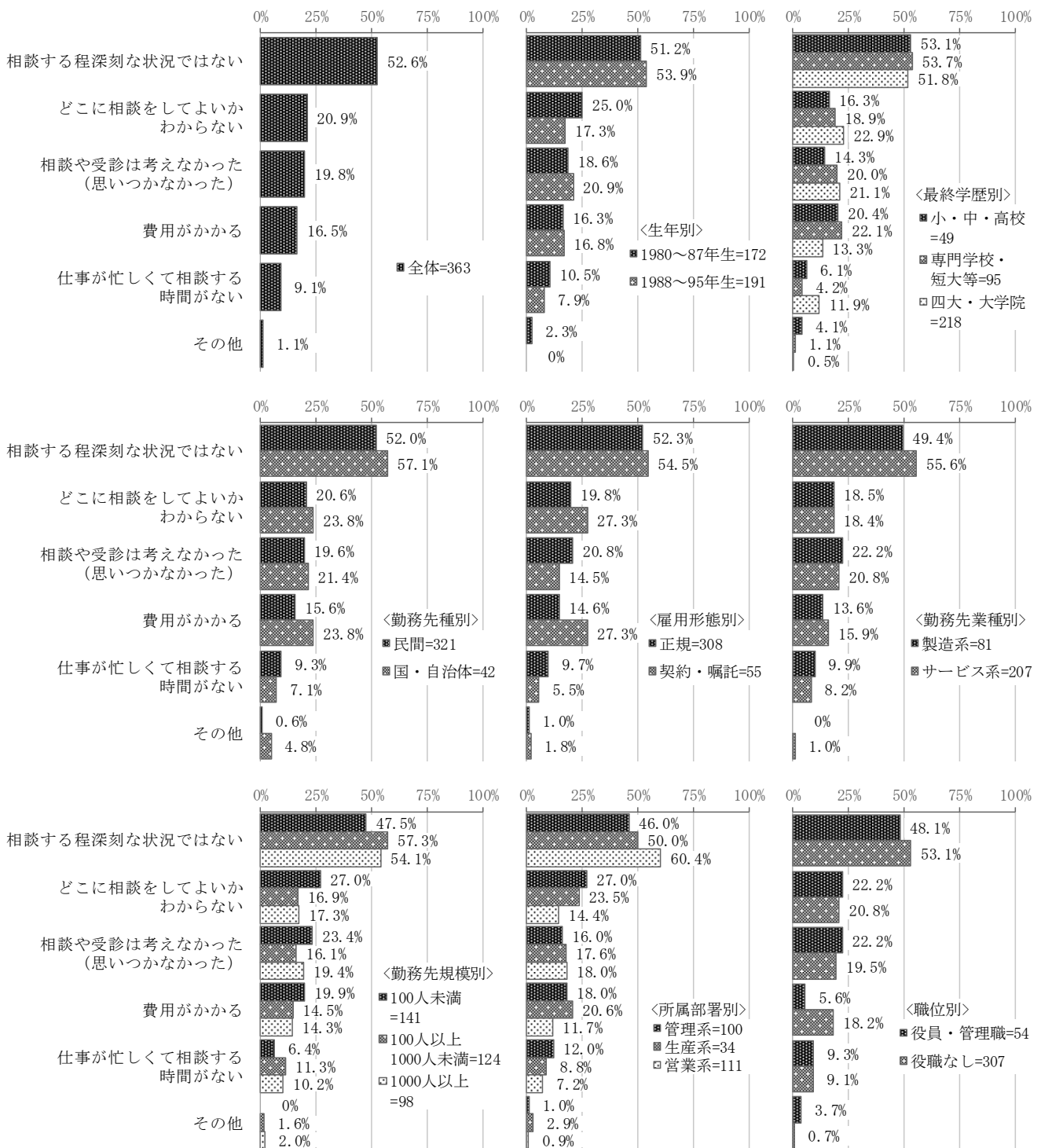
図表 7.1.女性特有の健康課題の相談相手（女性特有の健康課題の仕事への影響別）【複数選択】



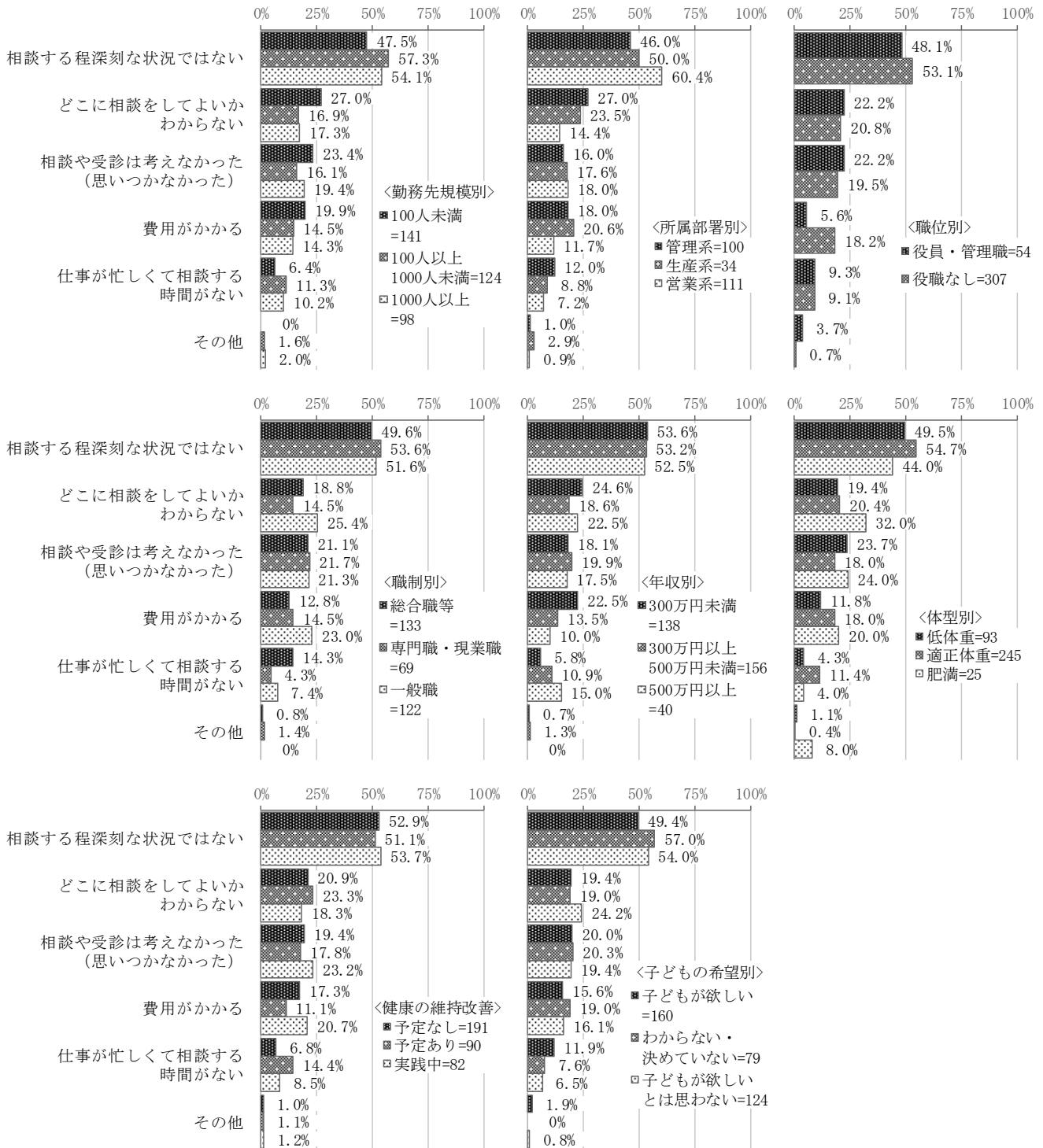
8. 医師に相談しない理由

- 前問で医師を選択しなかった回答者に、選択しなかった理由を尋ねたところ、全体では「相談する程深刻な状況ではない」が52.6%と最も多い。
- 「相談する程深刻な状況ではない」は、所属部署別で営業系の回答者が多い。
- 「費用がかかる」は全体では4位だが、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、職位別で役職なしの回答者が多い。

図表 8. 医師に相談しない理由[複数選択]





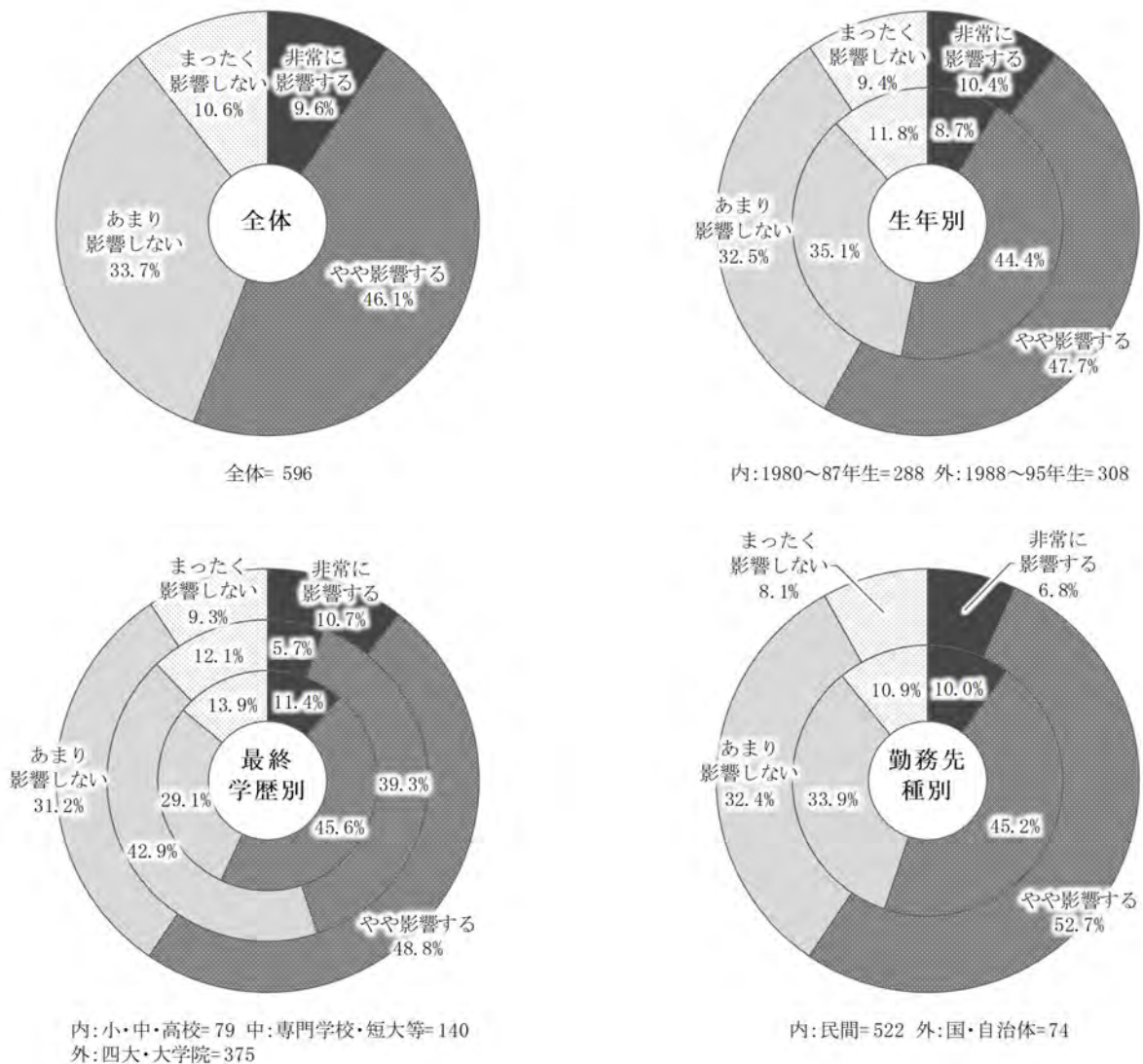


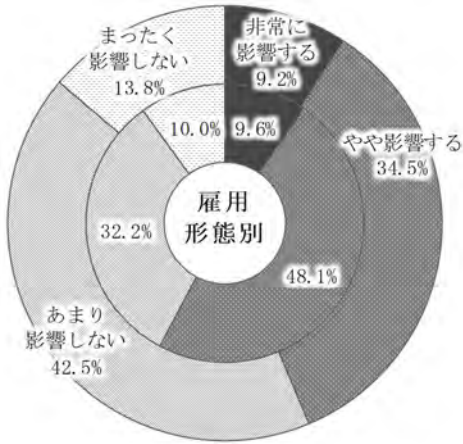
注 「その他」には、「産業医はいない」「人に相談したくない」があった。

9. 女性特有の健康課題の仕事への影響度

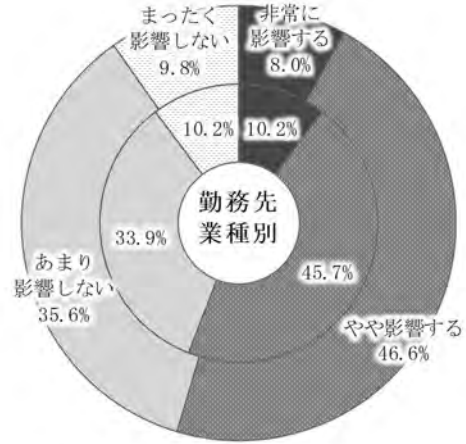
- いずれかの女性特有の健康課題を抱えている回答者に、抱えている健康課題が原因で仕事に影響を及ぼすことはあるか尋ねたところ、全体では「非常に影響する」「やや影響する」の計 55.7%が、「あまり影響しない」「まったく影響しない」の計 44.3%より多い。
- 「非常に影響する」「やや影響する」の計が多いのは、最終学歴別で四大・大学院の回答者と小・中・高校の回答者、雇用形態別で正規の回答者、健康の維持改善で実践中の回答者だった。

図表 9.女性特有の健康課題の仕事への影響度[単一選択]

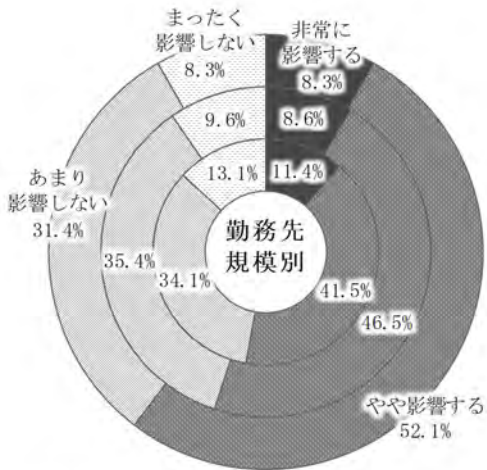




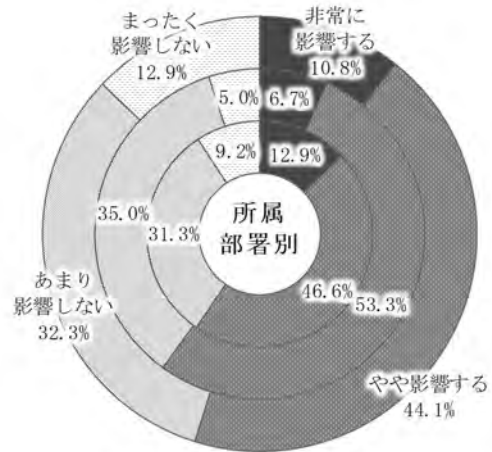
内: 正規=509 外: 契約・嘱託=87



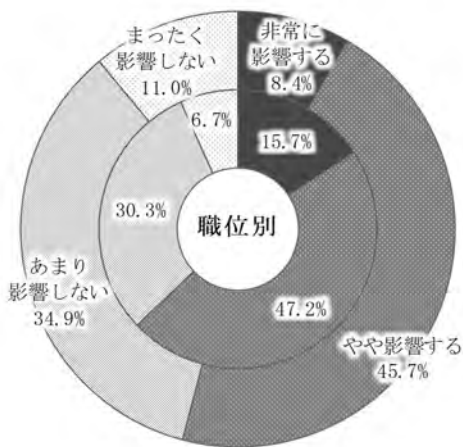
内: 製造系=127 外: サービス系=348



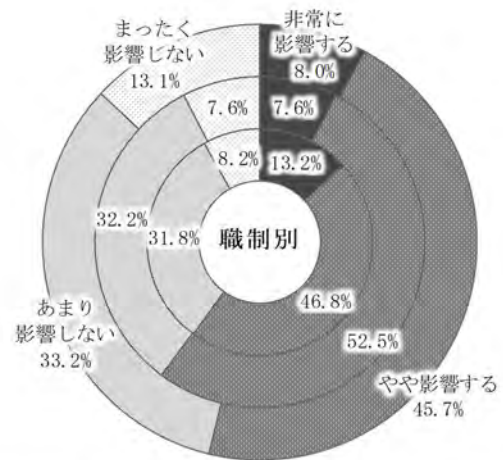
内: 100人未満=229 中: 100人以上1000人未満=198
外: 1000人以上=169



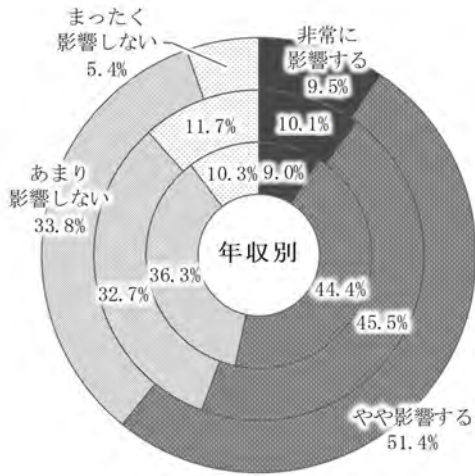
内: 管理系=163 中: 生産系=60 外: 営業系=186



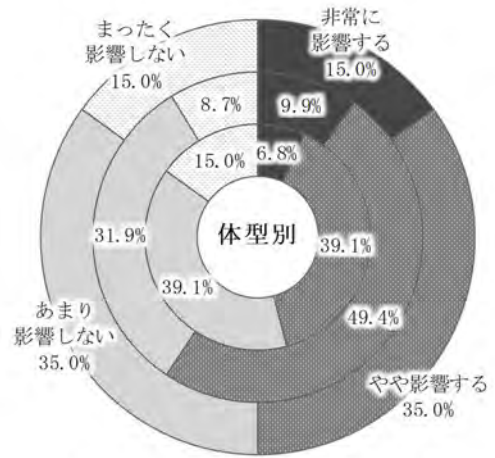
内: 役員・管理職=89 外: 役職なし=499



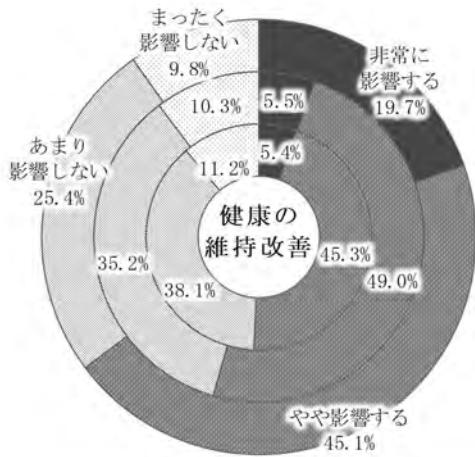
内: 総合職等=220 中: 専門職・現業職=118 外: 一般職=199



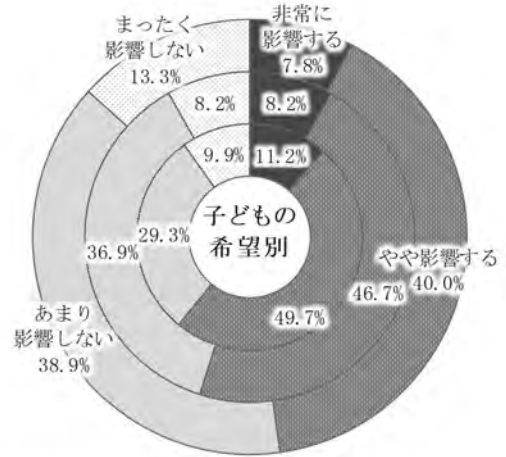
内: 300万円未満=223 中: 300万以上500万円未満=257
外: 500万円以上=74



内: 低体重=133 中: 適正体重=423 外: 肥満=40



内: 予定なし=278 中: 予定あり=145 外: 実践中=173

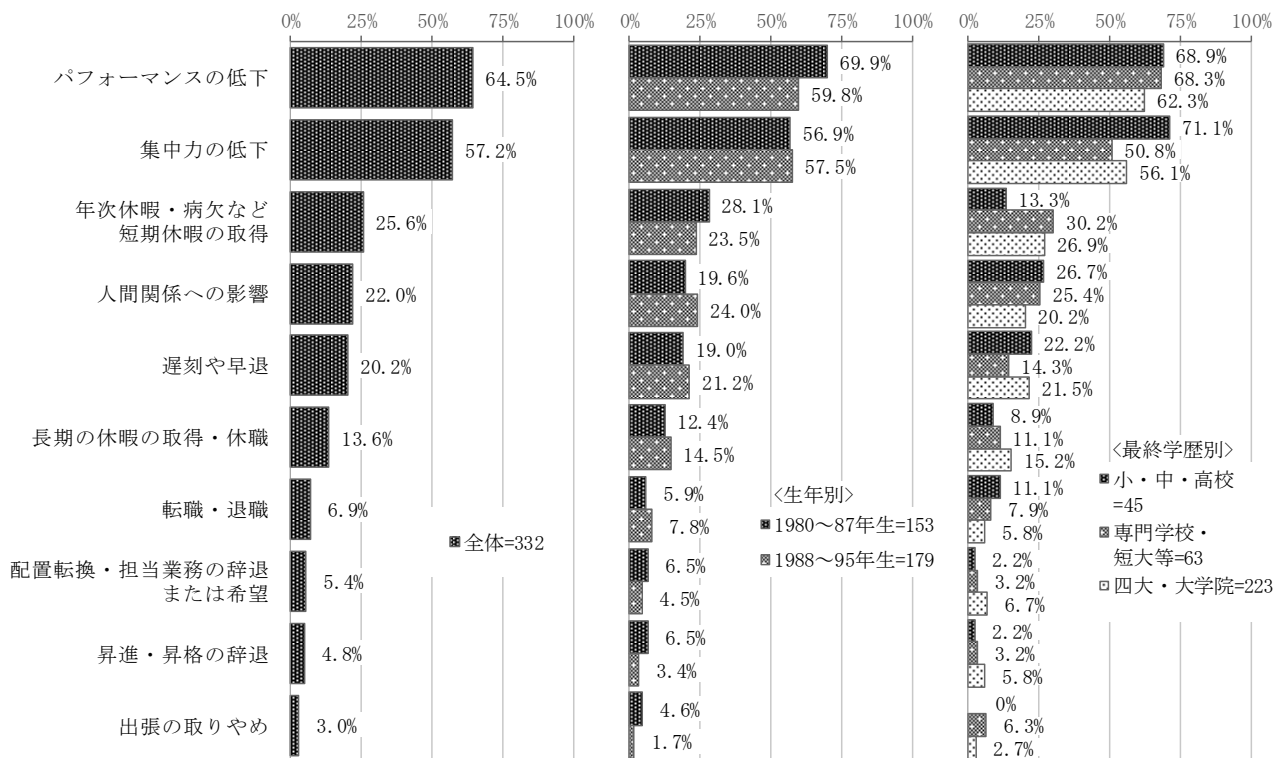


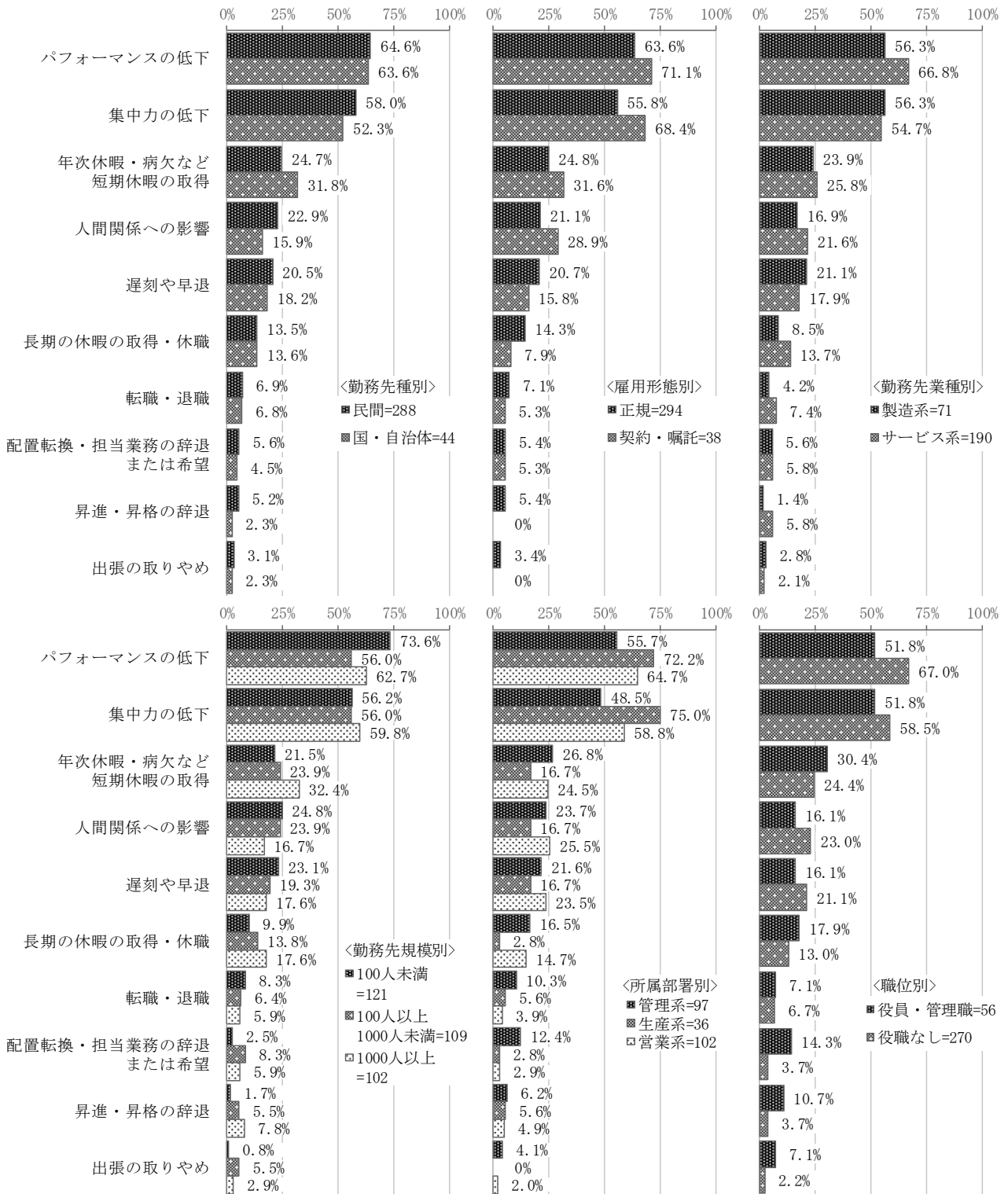
内: 子どもが欲しい=294 中: わからない・決めていない=122
外: 子どもが欲しいとは思わない=180

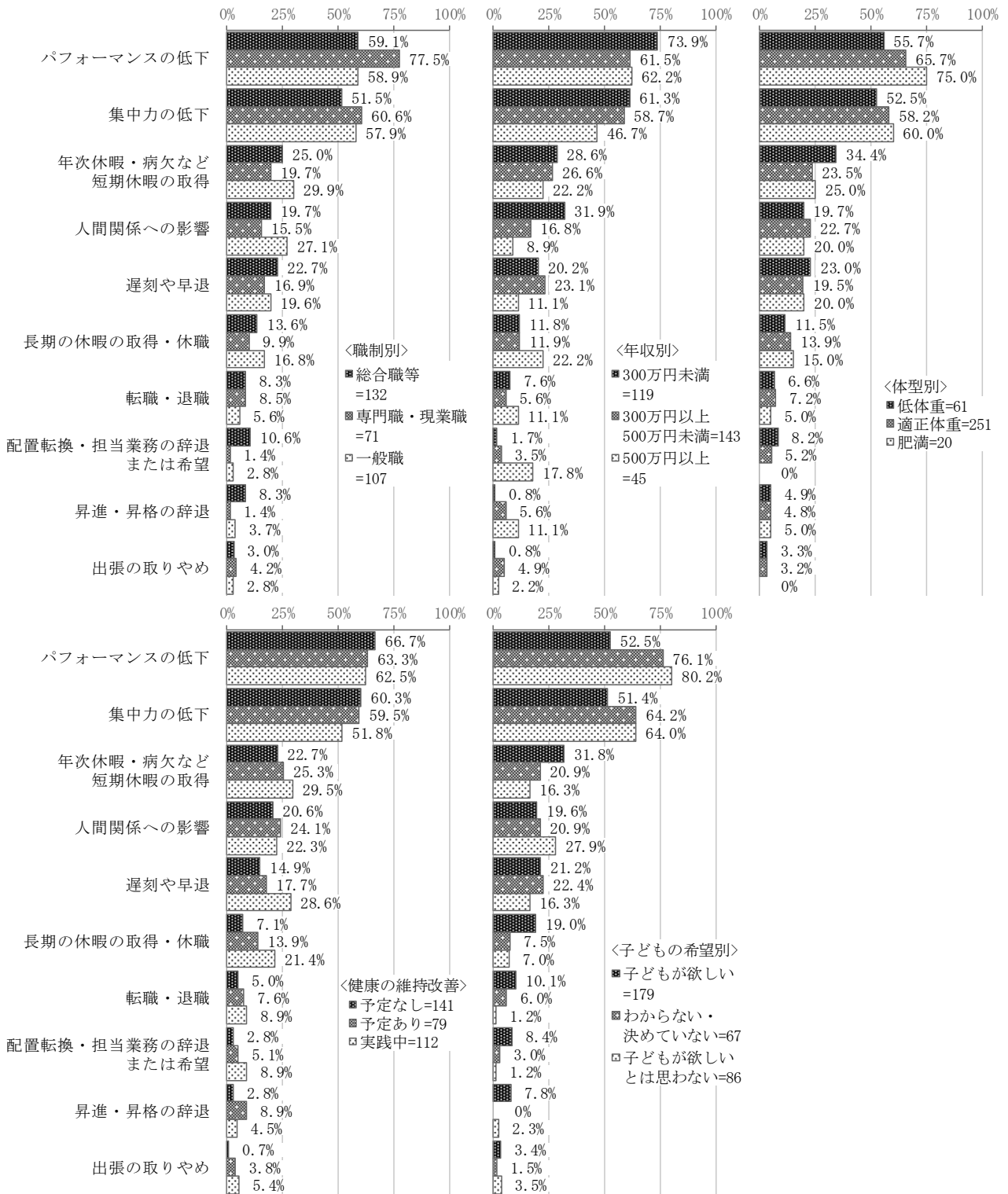
10. 女性特有の健康課題の仕事への影響内容

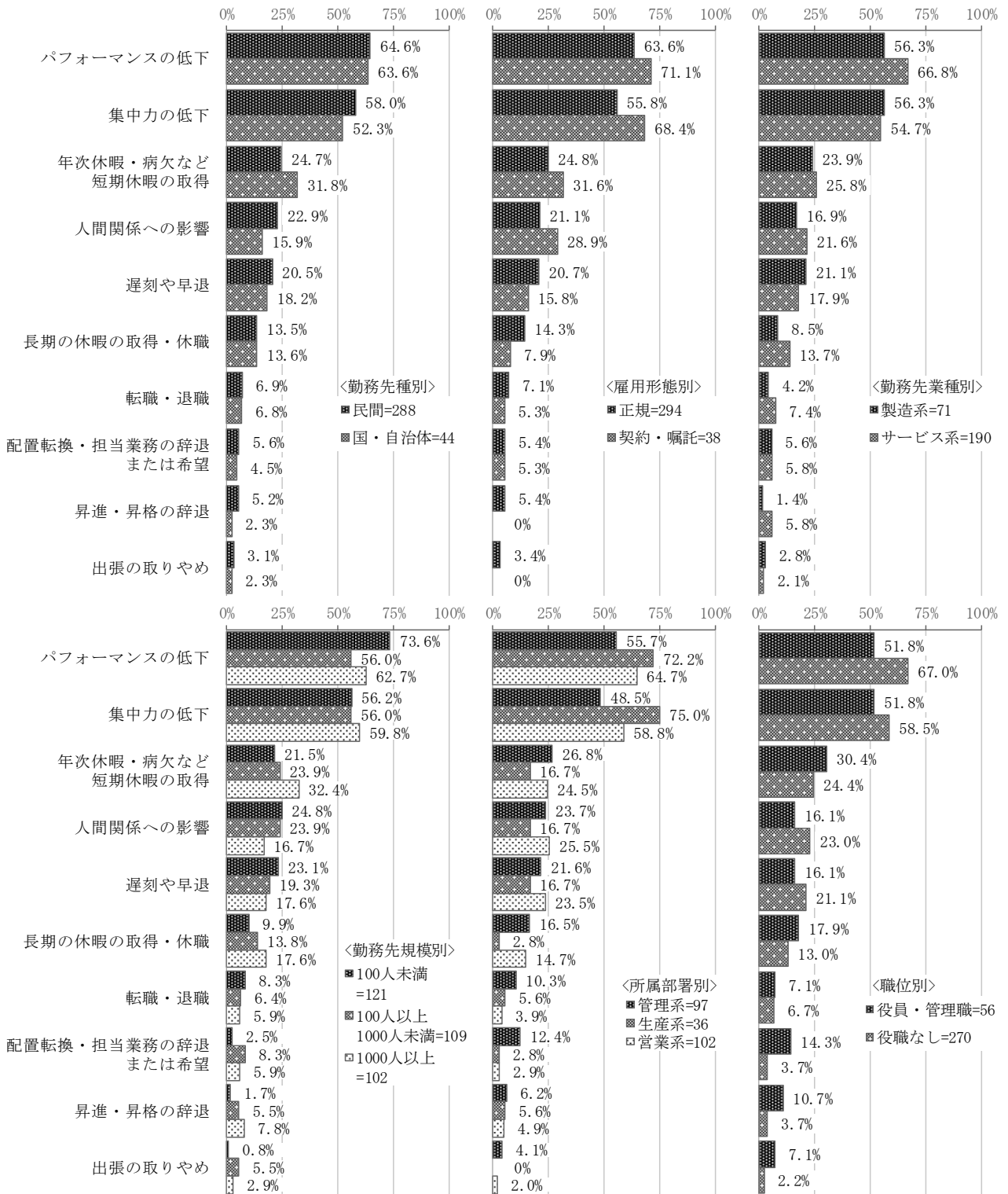
- 前問で抱えている健康課題の仕事への影響について、「非常に影響する」または「やや影響する」を選択した回答者に、影響の内容を尋ねたところ、全体では「パフォーマンスの低下」が64.5%と最も多く、「集中力の低下」57.2%が続く。
- 「パフォーマンスの低下」は、生年別で1980～87年生の回答者、勤務先業種別でサービス系の回答者、勤務先規模別で100人未満の回答者、職位別で役職なしの回答者、職制別で専門職・現業職の回答者、年収別で300万円未満の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しいとは思わない回答者とわからない・決めていない回答者が多い。
- 「集中力の低下」は、最終学歴別で小・中・高校の回答者、雇用形態別で契約・嘱託の回答者、所属部署別で生産系の回答者と営業系の回答者、年収別で300万円未満の回答者と300万円以上500万円未満の回答者、子どもの希望別でわからない・決めていない回答者と子どもが欲しいとは思わない回答者が多い。
- 「年次休暇・病欠など短期休暇の取得」は全体では3位だが、最終学歴別で専門学校・短大等の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。
- 「人間関係への影響」は全体では4位だが、年収別で300万円未満の回答者が多い。

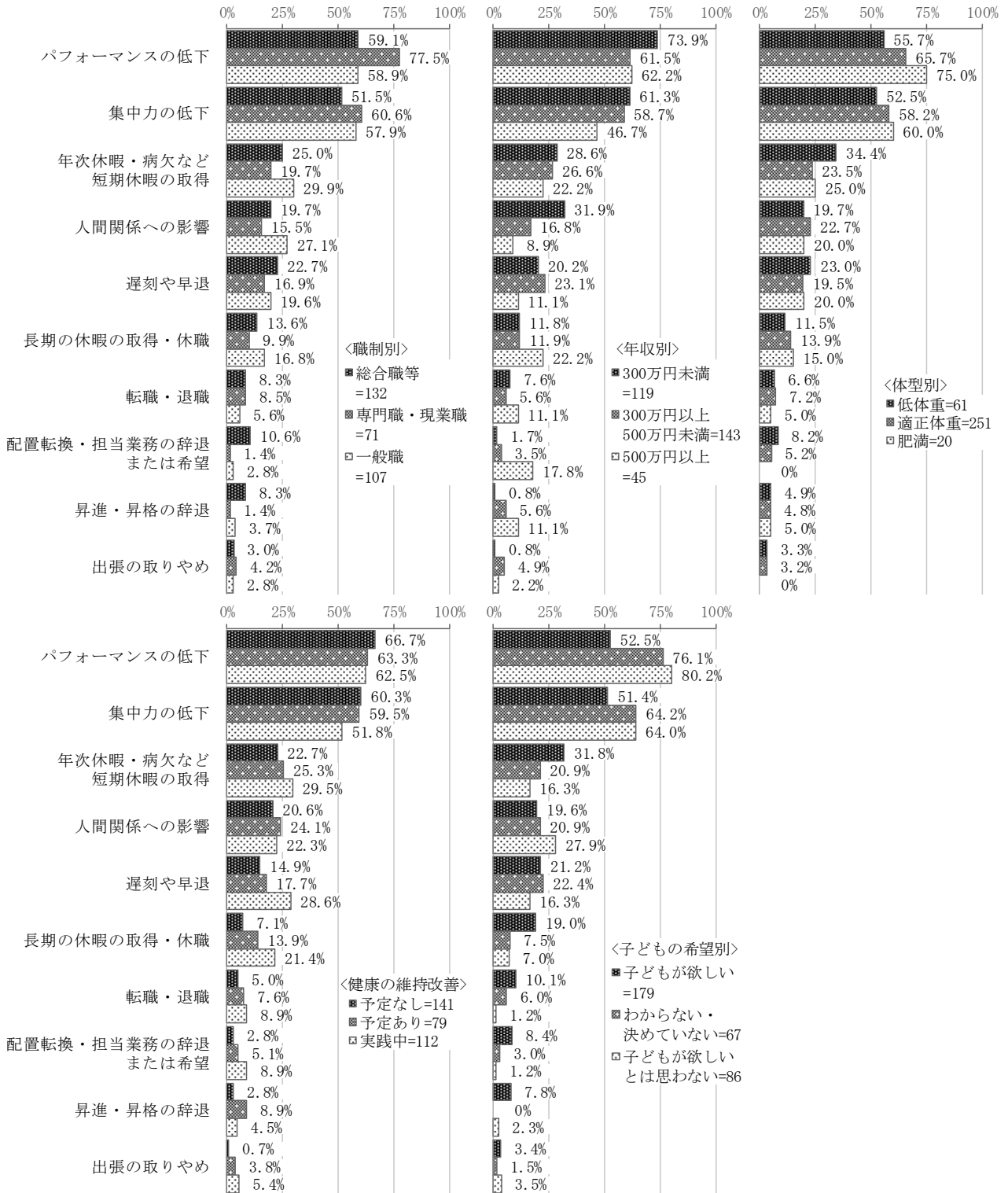
図表 10. 女性特有の健康課題の仕事への影響内容[複数選択]







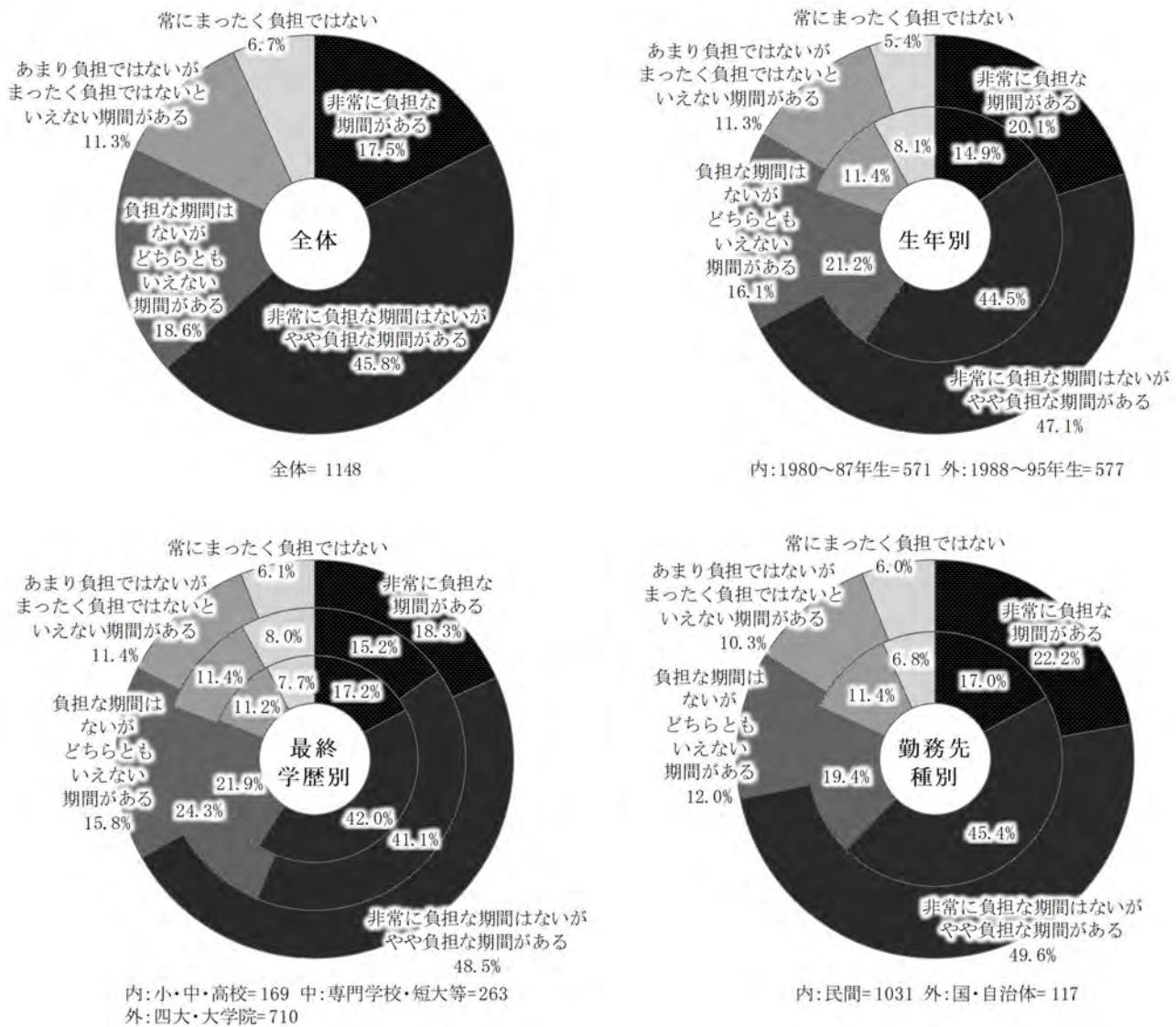


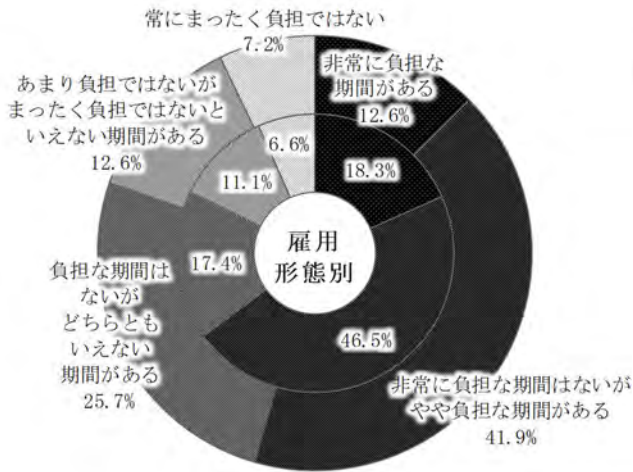


11. 月経不調の負担度

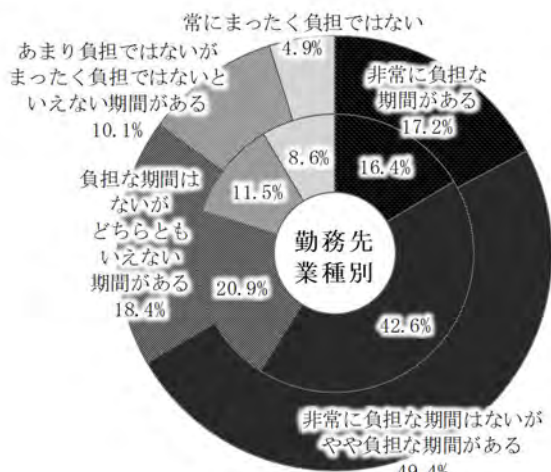
- 月経関連の不調について、おおよその頻度と負担を、月経期間、月経後（排卵期前）、排卵期（月経後7日～10日後）、排卵期後（月経前）それぞれで尋ね、最も負担の大きい期間の程度で集計したところ、全体では「非常に負担な期間はないがやや負担な期間がある」が45.8%と最も多く、「非常に負担な期間がある」を合わせると6割を超えた。
- 「非常に負担な期間がある」「非常に負担な期間はないがやや負担な期間がある」の計は、雇用形態別で正規の回答者が多い。

図表 11.月経不調の負担度[単一選択]

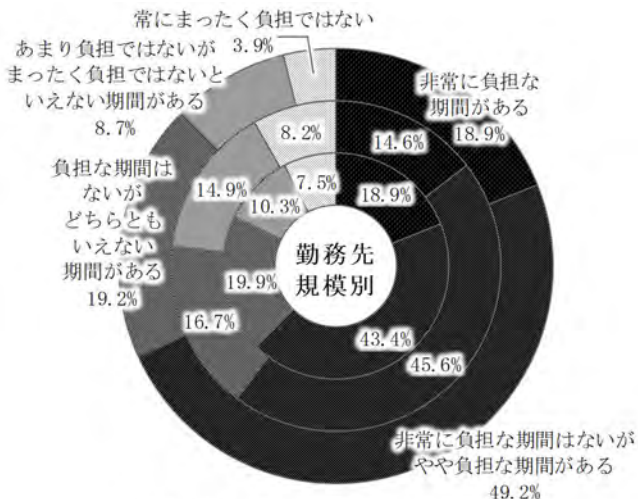




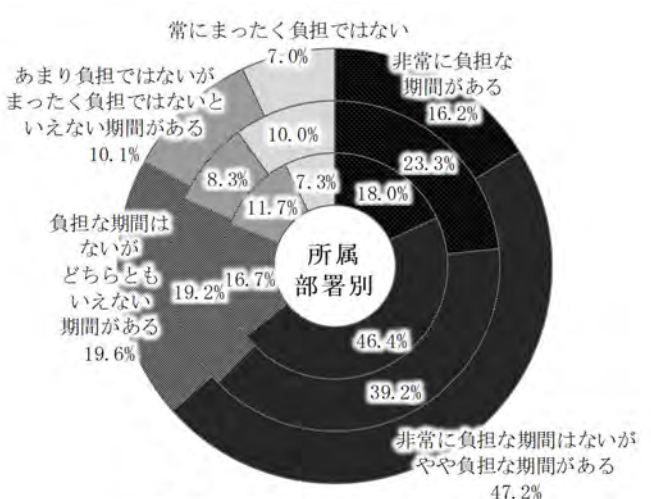
内:正規=981 外:契約・嘱託=167



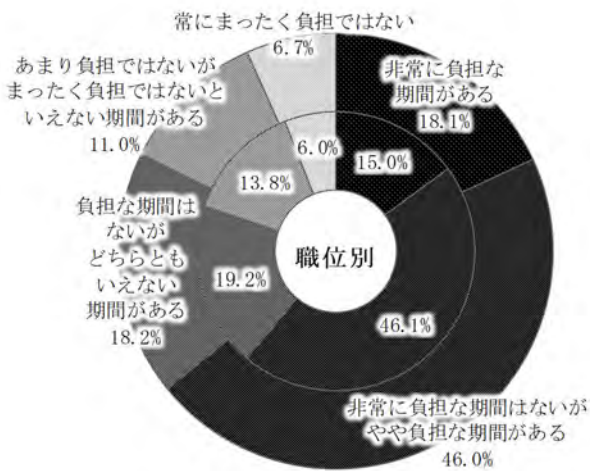
内:製造系=244 外:サービス系=656



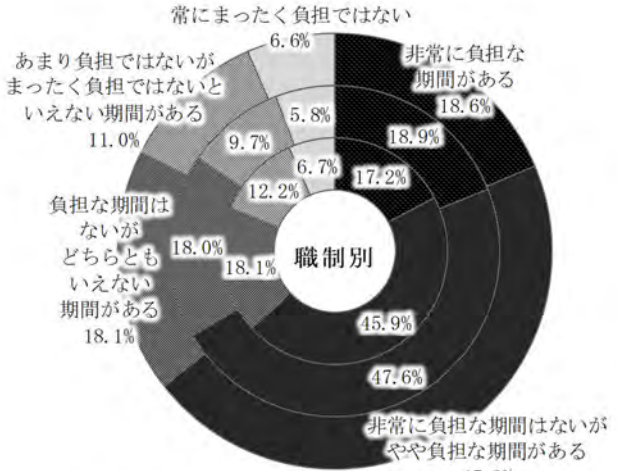
内:100人未満=438 中:100人以上1000人未満=377 外:1000人以上=333



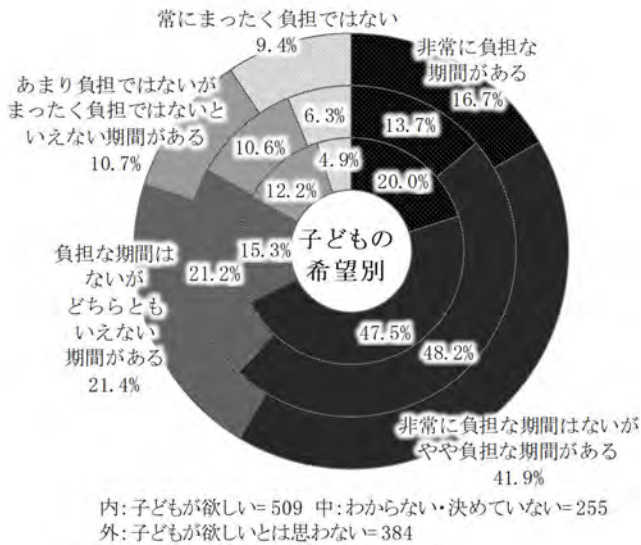
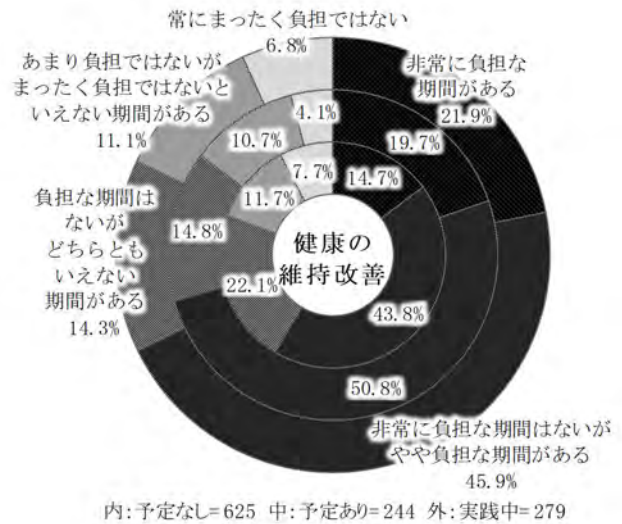
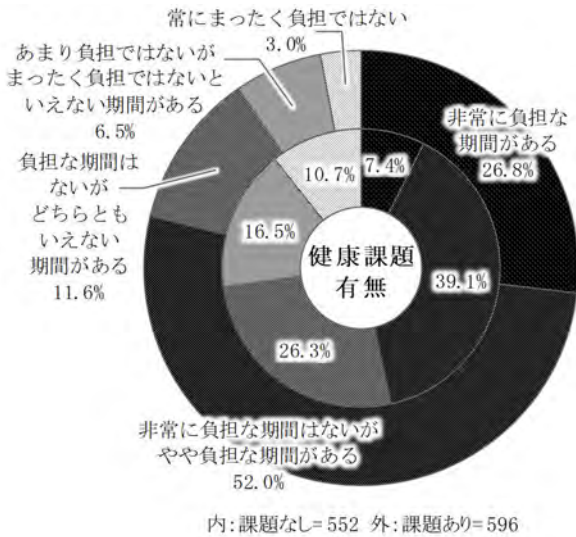
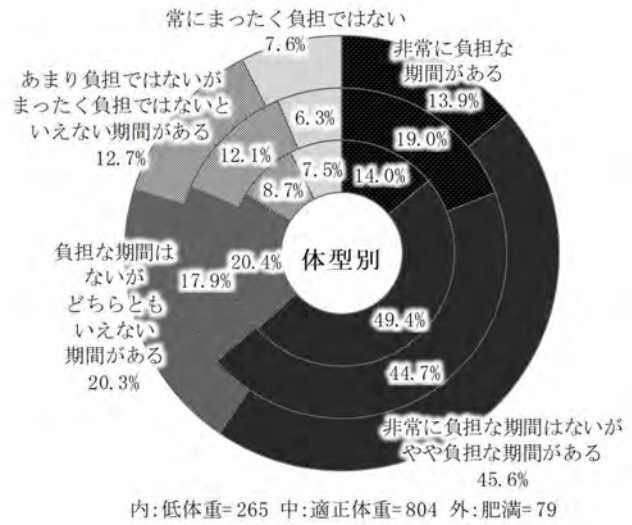
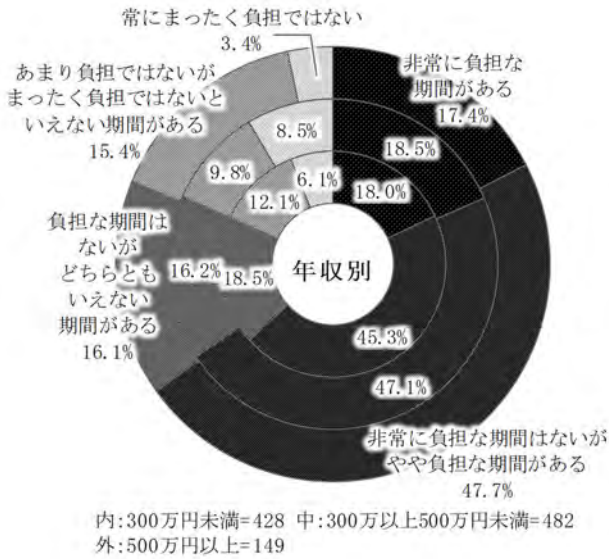
内:管理系=317 中:生産系=120 外:営業系=358



内:役員・管理職=167 外:役職なし=956



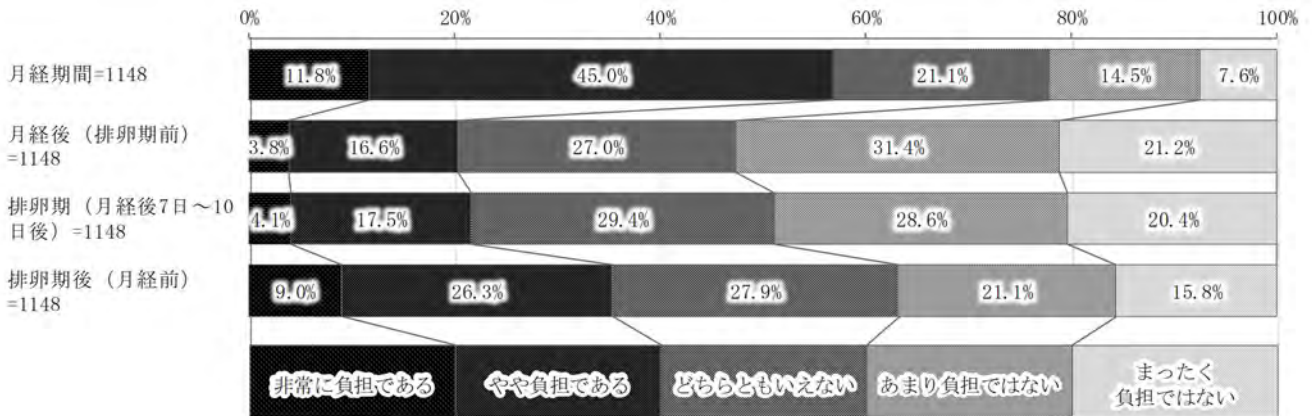
内:総合職等=436 中:専門職・現業職=206 外:一般職=365



11.1. 月経不調の負担度（期間別）

- 月経関連の不調について、おおよその頻度と負担を、月経期間、月経後（排卵期前）、排卵期（月経後7日～10日後）、排卵期後（月経前）それぞれで尋ねたところ、全体で「非常に負担である」「やや負担である」の計が大きいのは、「月経期間」56.8%で、「あまり負担ではない」「まったく負担ではない」の計の2倍を超えた。

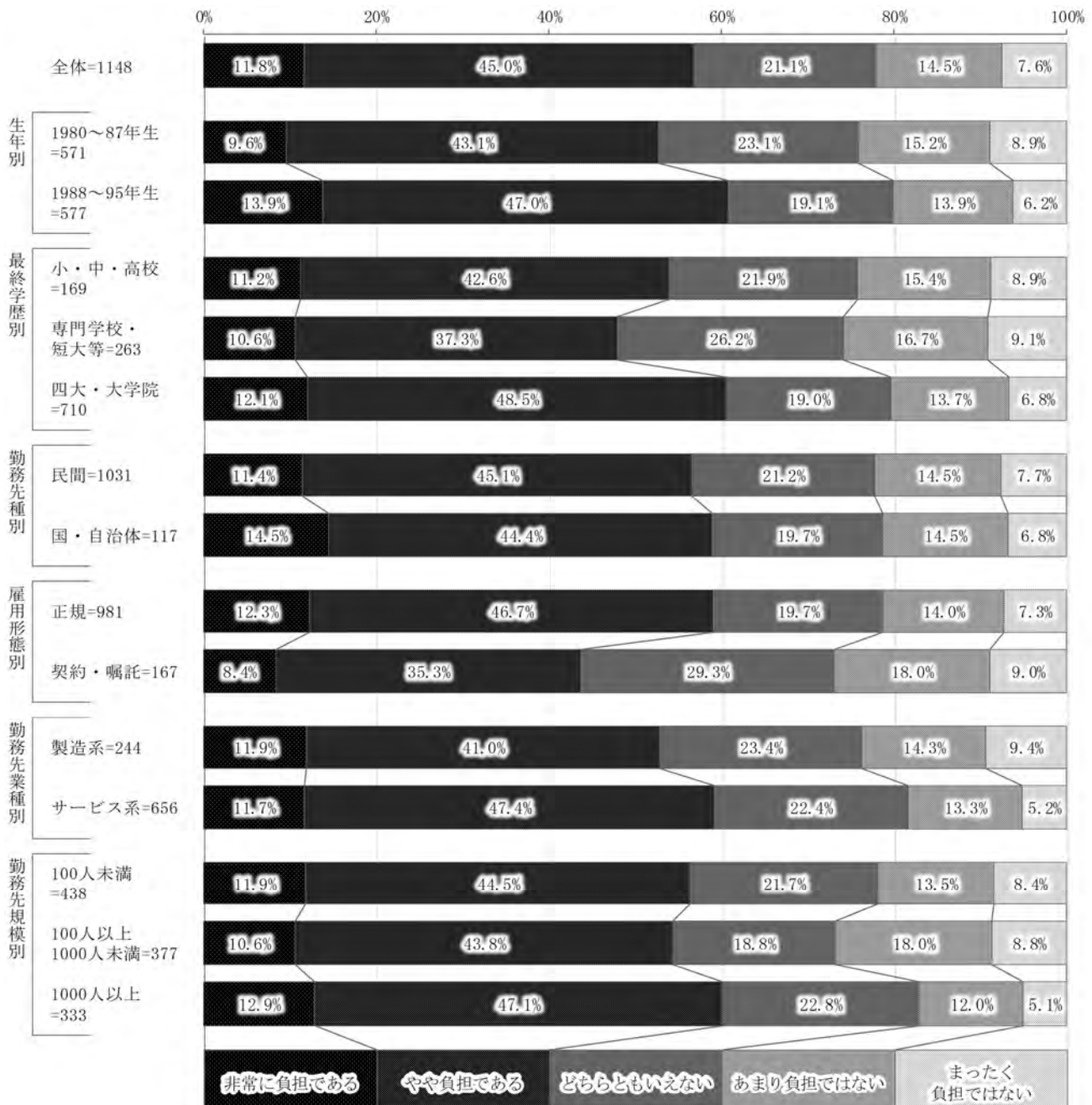
図表 11.1.月経不調の負担度（期間別）【単一選択】

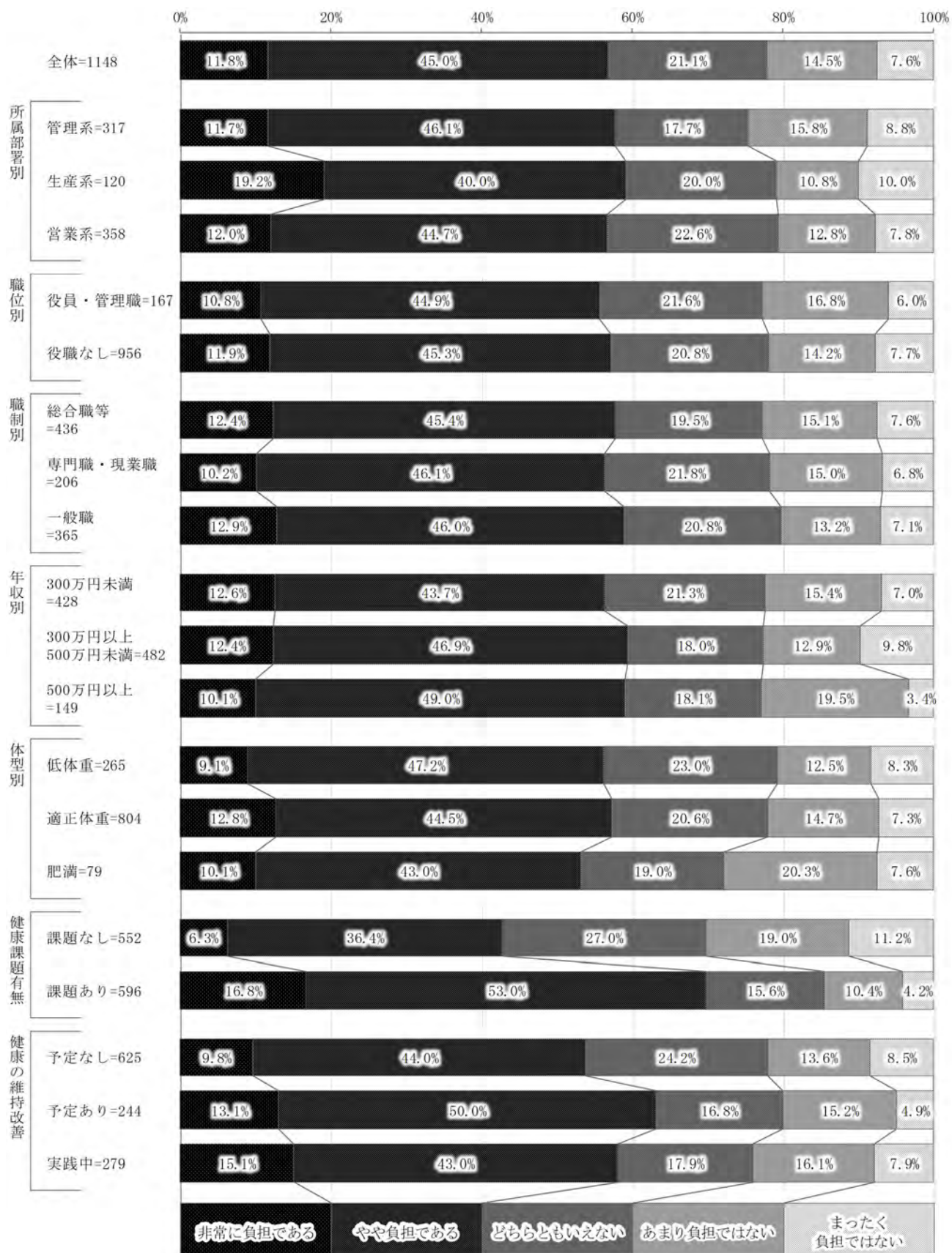


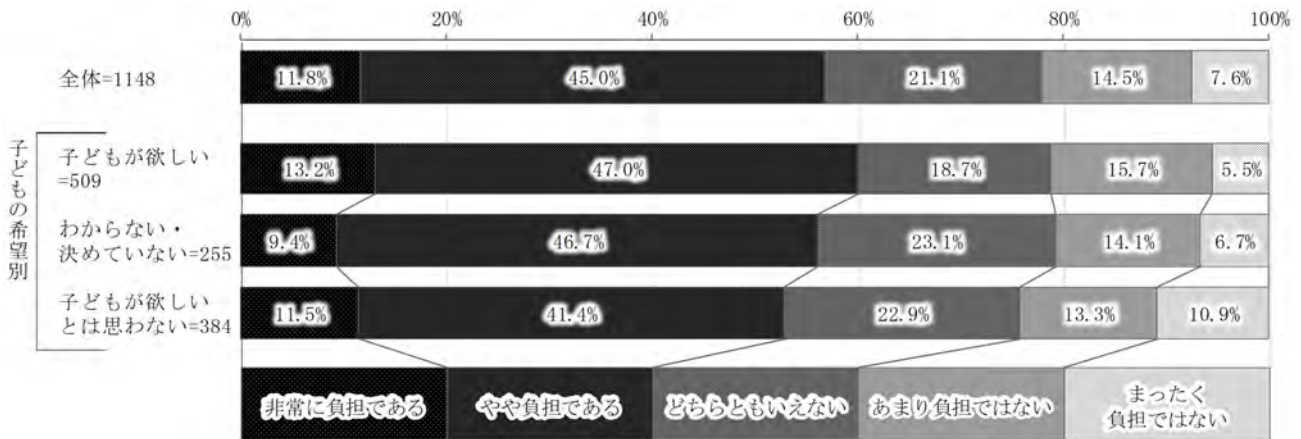
11.1.1. 月経不調の負担度（月経期間）

- 月経期間の不調について、おおよその頻度と負担を尋ねたところ、全体では「やや負担である」が45.0%と最も多く、「非常に負担である」を合わせると約6割に及ぶ。
- 「やや負担である」「非常に負担である」の計は、雇用形態別で正規の回答者が多い。

図表 11.1.1.月経不調の負担度（月経期間）[単一選択]



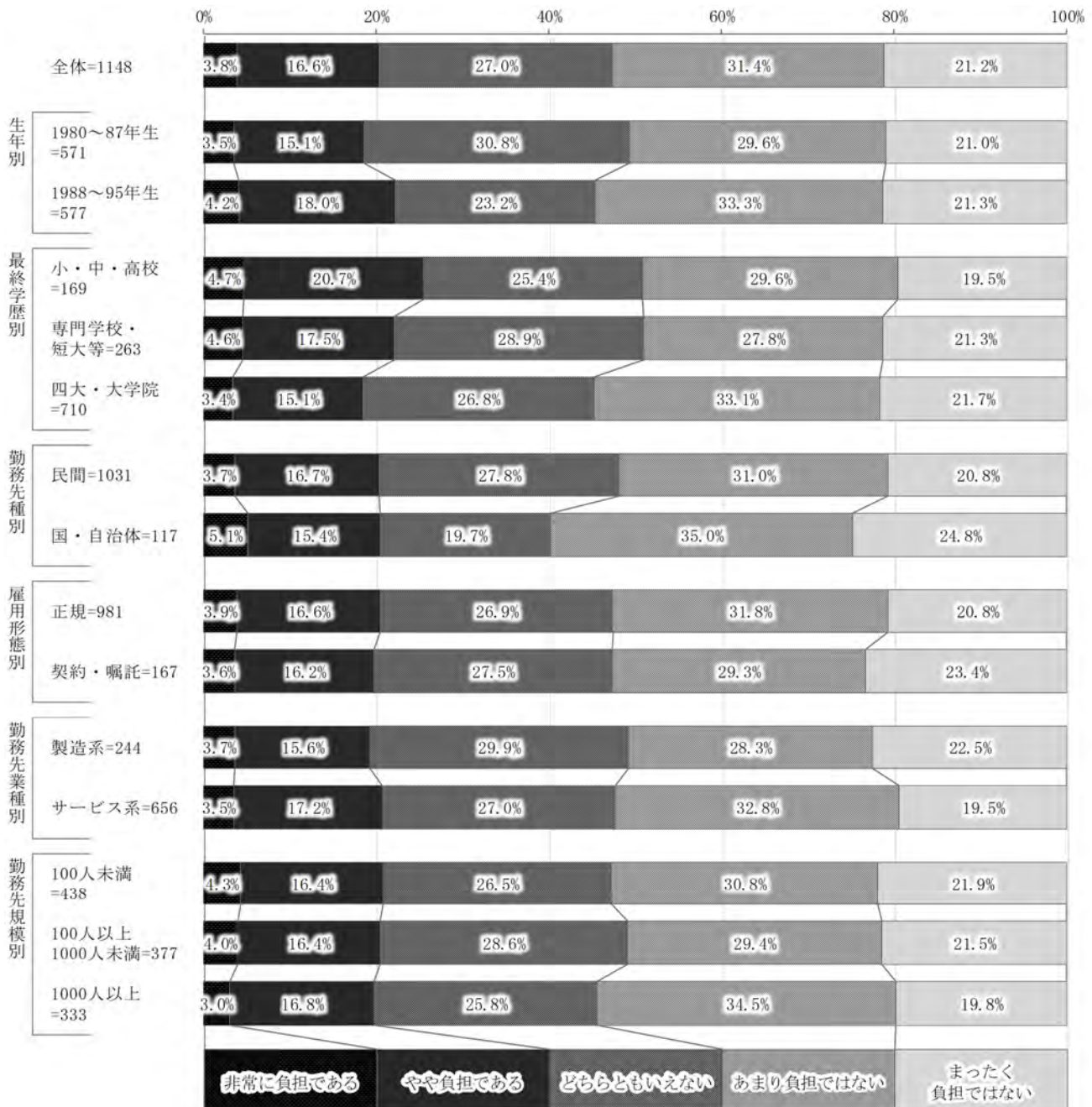


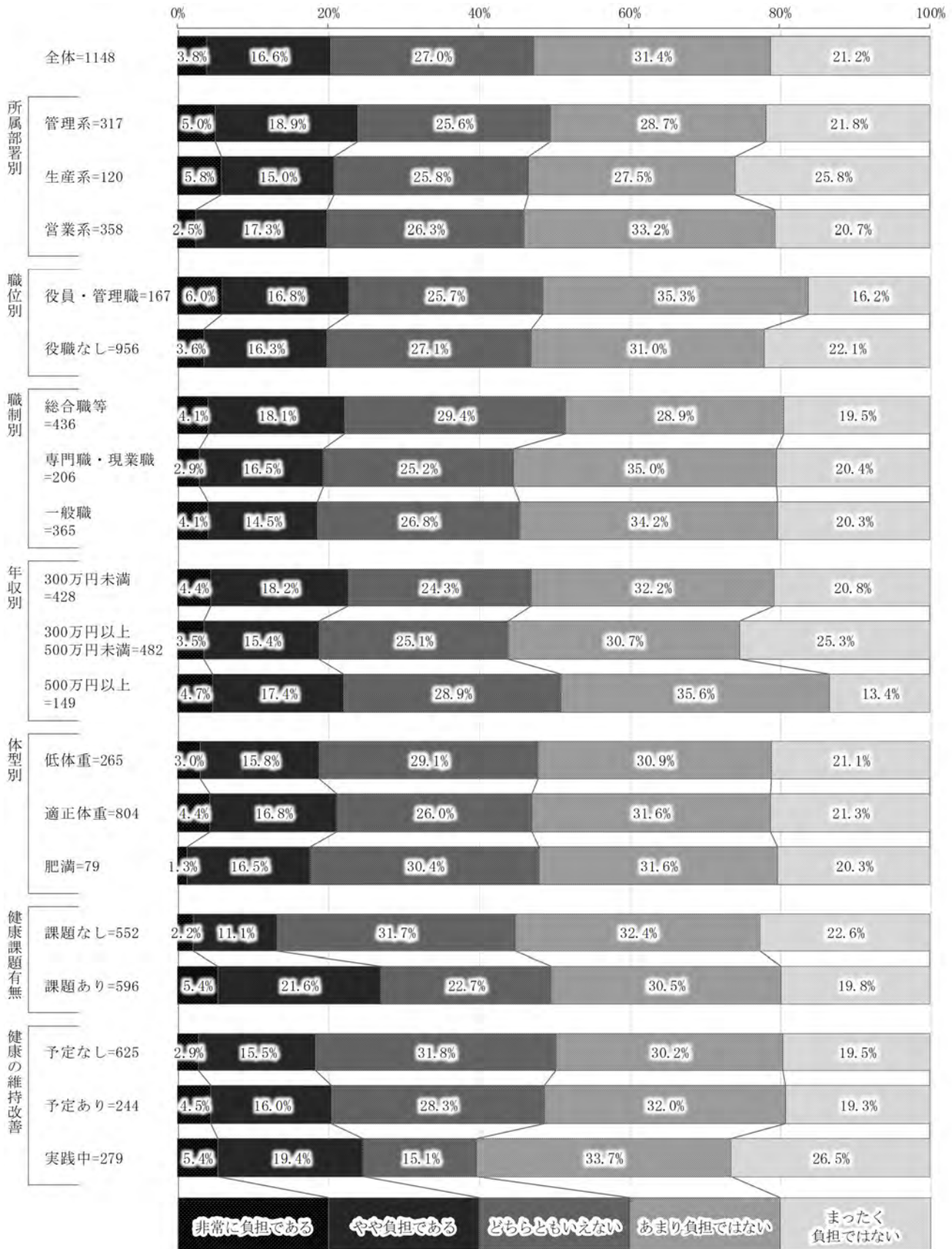


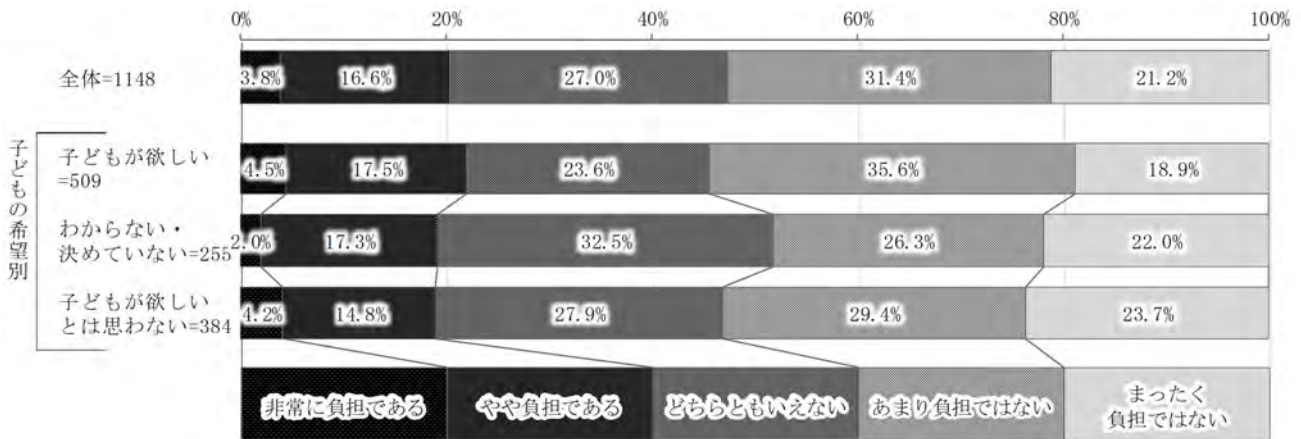
11.1.2. 月経不調の負担度（月経後）

- 月経後（排卵期前）の不調について、おおよその頻度と負担を尋ねたところ、全体では「あまり負担ではない」が31.4%と最も多く、「まったく負担ではない」を合わせると5割を超えた。

図表 11.1.2.月経不調の負担度（月経後）【単一選択】



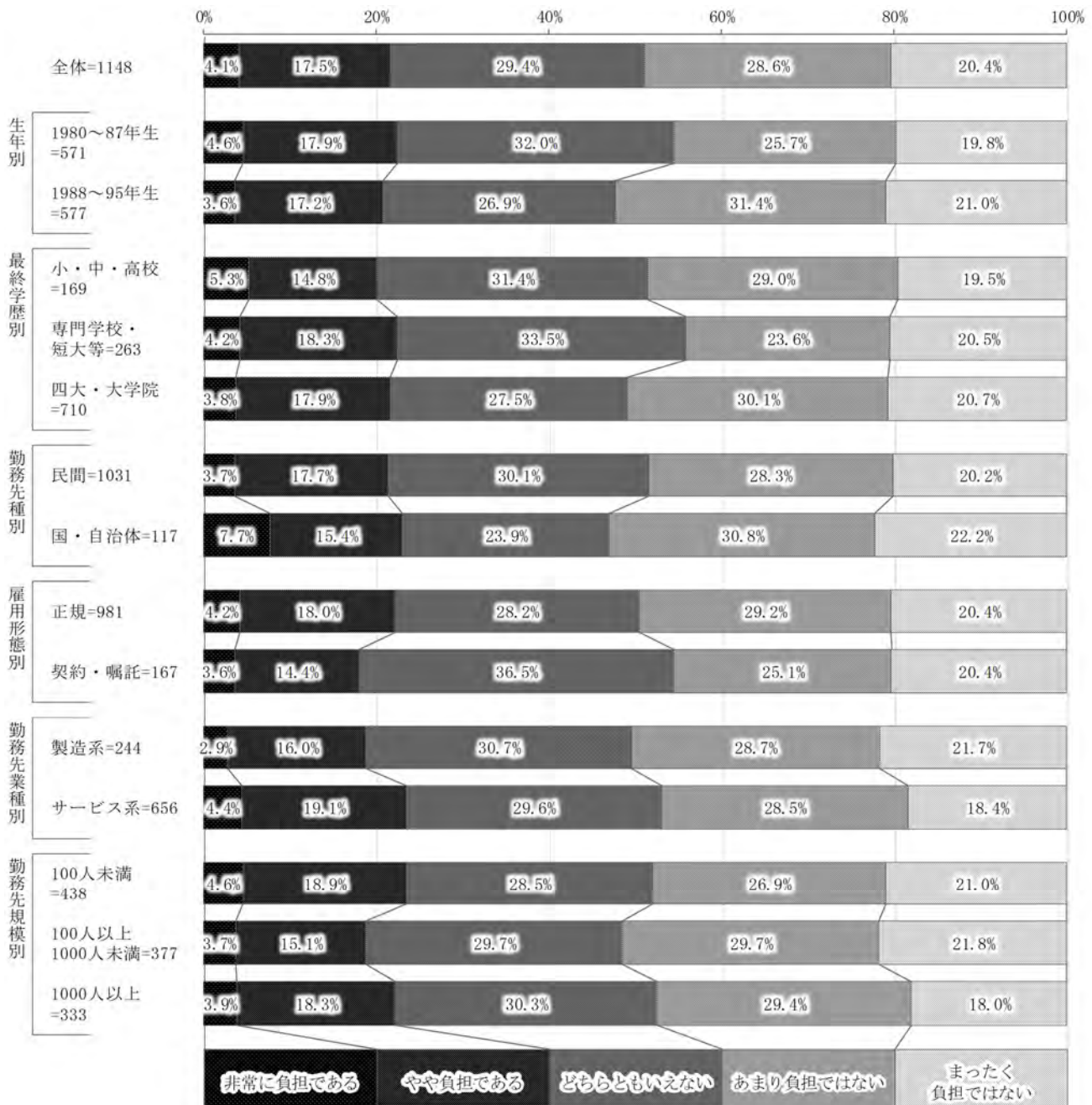


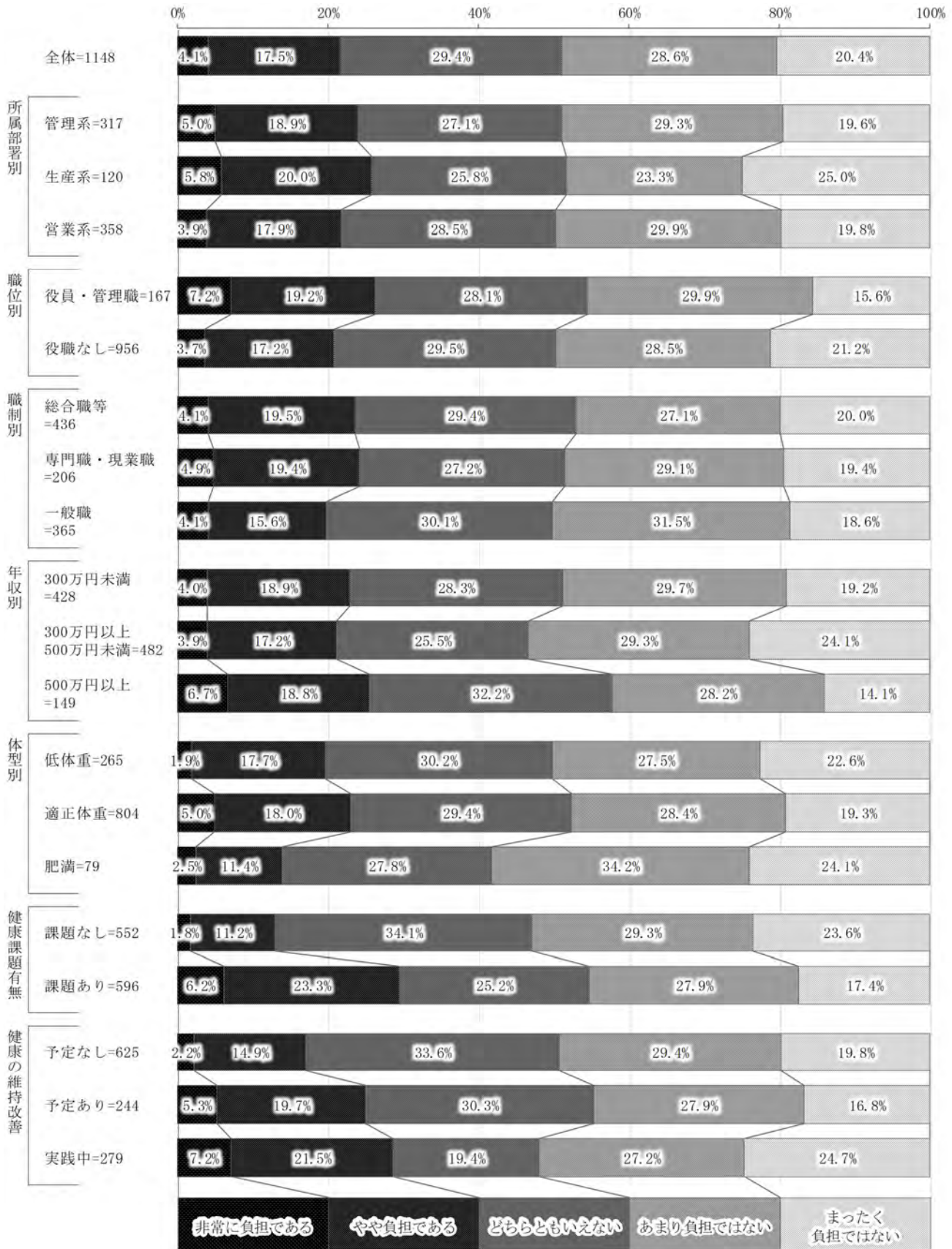


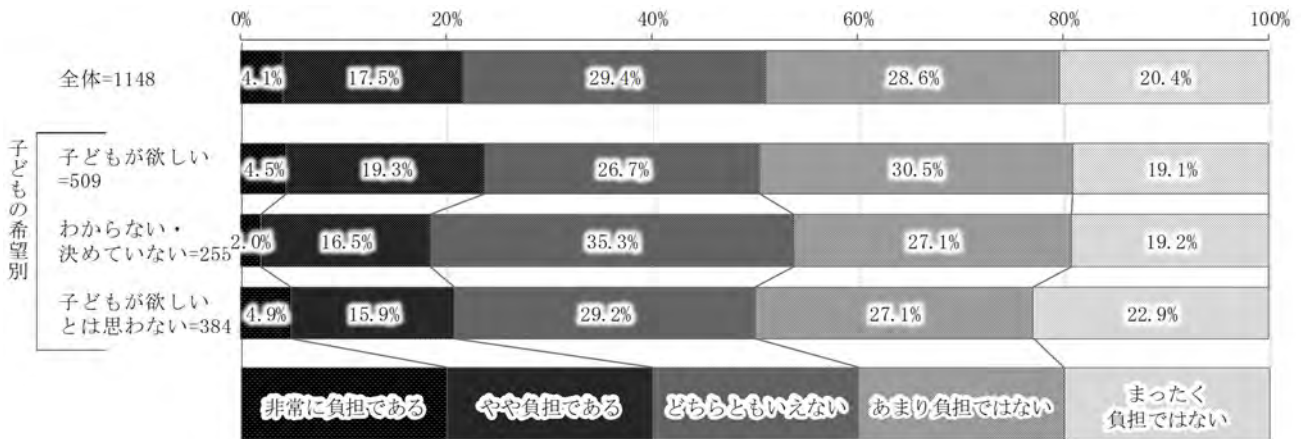
11.1.3. 月経不調の負担度（排卵期）

- ・排卵期（月経後7日～10日後）の不調について、おおよその頻度と負担を尋ねたところ、全体では「まったく負担ではない」「あまり負担ではない」の計が49.0%と、「やや負担である」「非常に負担である」の2倍を超えた。

図表 11.1.3.月経不調の負担度（排卵期）[単一選択]



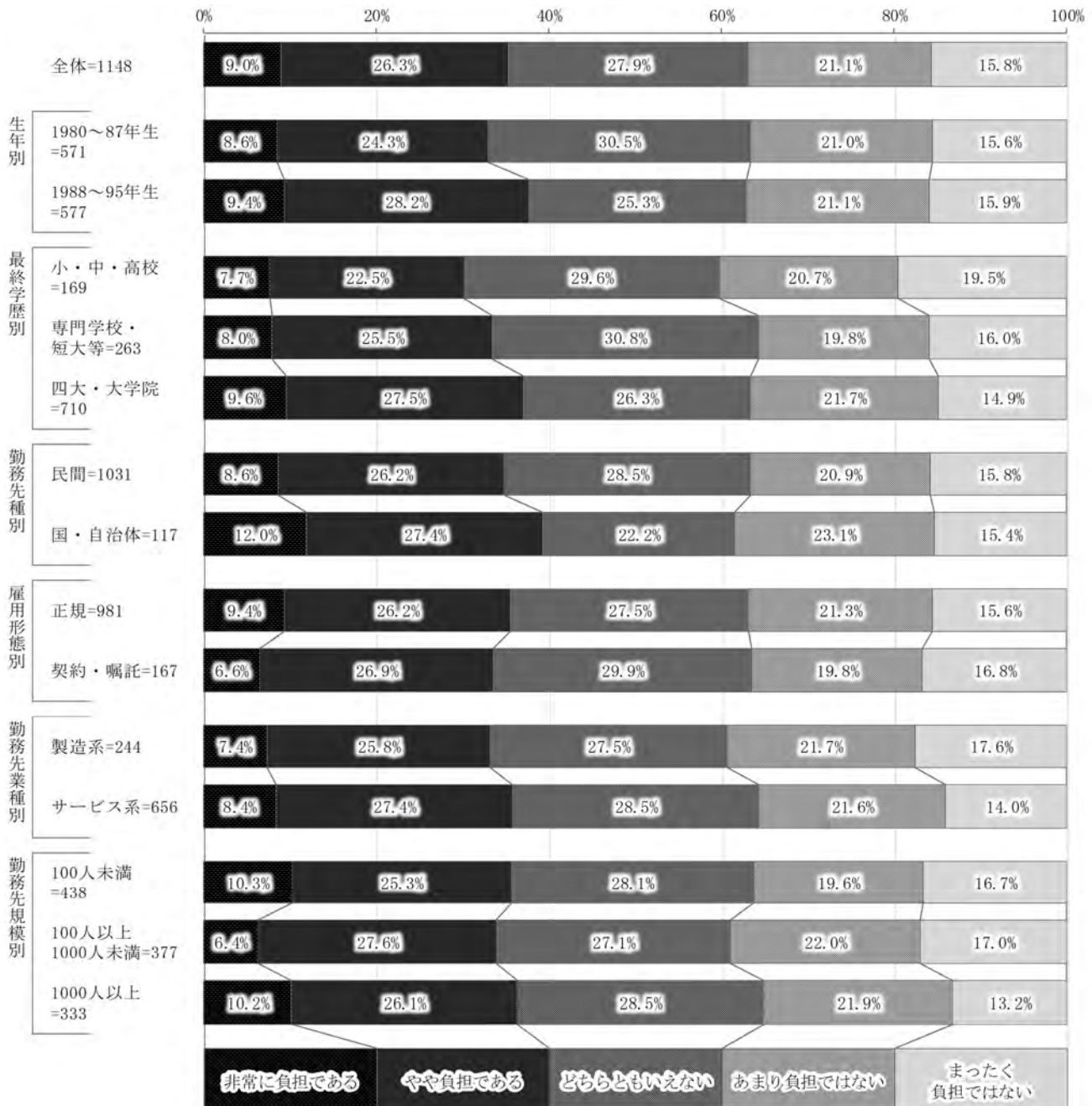


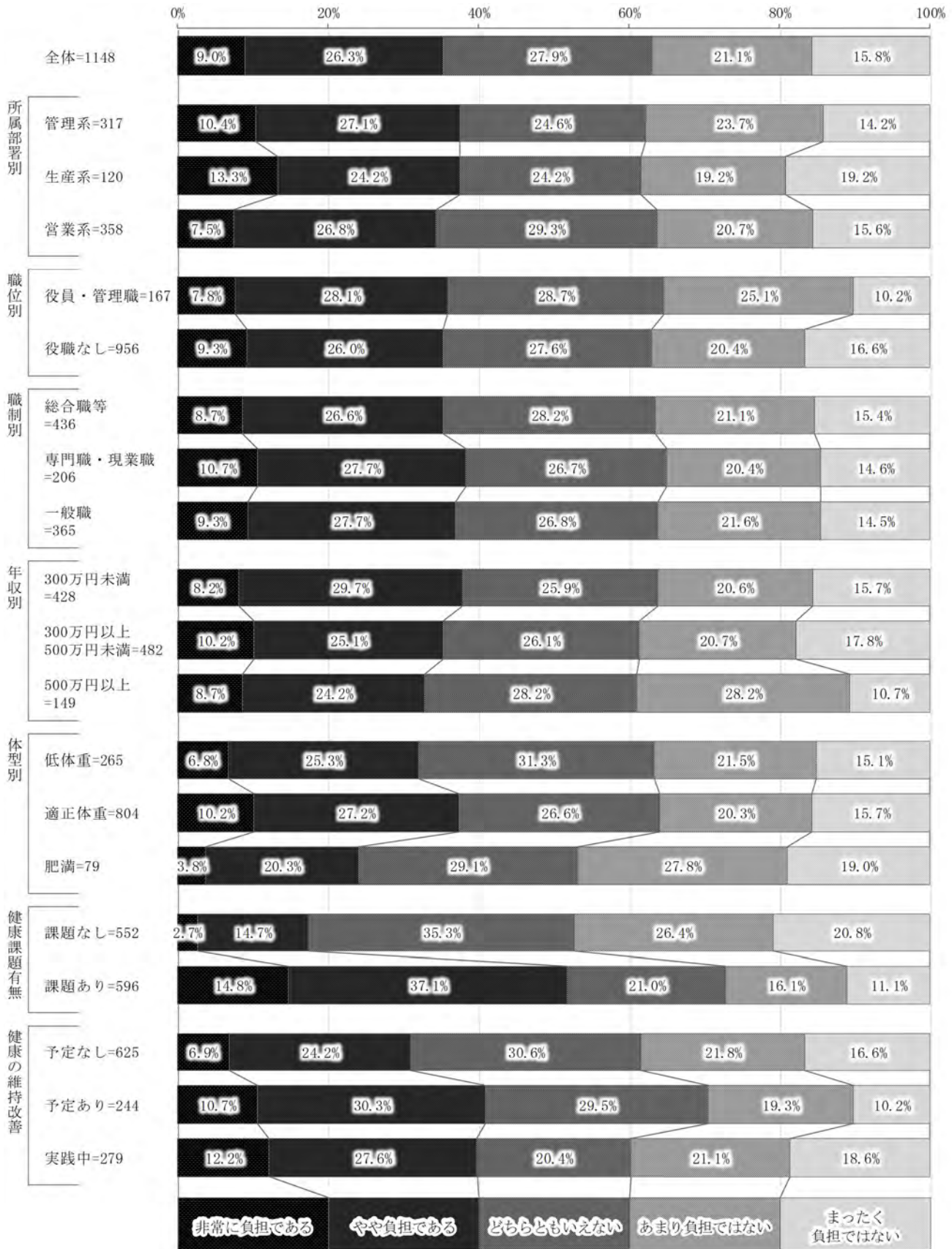


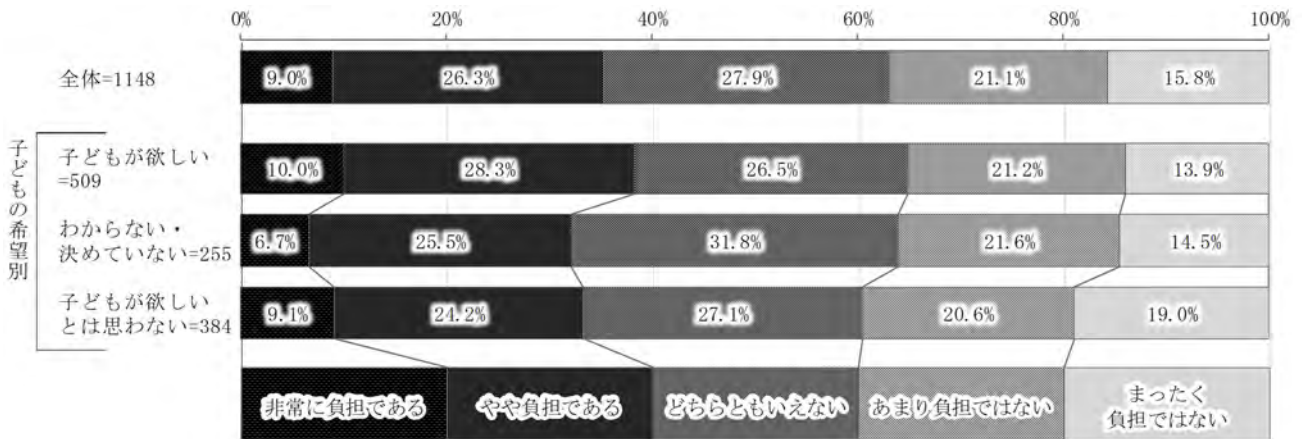
11.1.4. 月経不調の負担度（排卵期後）

- 排卵期後（月経前）の不調について、おおよその頻度と負担を尋ねたところ、全体では「非常に負担である」「やや負担である」の計 35.3%と、「あまり負担ではない」「まったく負担ではない」の計 36.8%はほぼ同じだった。
- 体型別で肥満の回答者の「まったく負担ではない」「あまり負担ではない」の計が多い。

図表 11.1.4.月経不調の負担度（排卵期後）[単一選択]



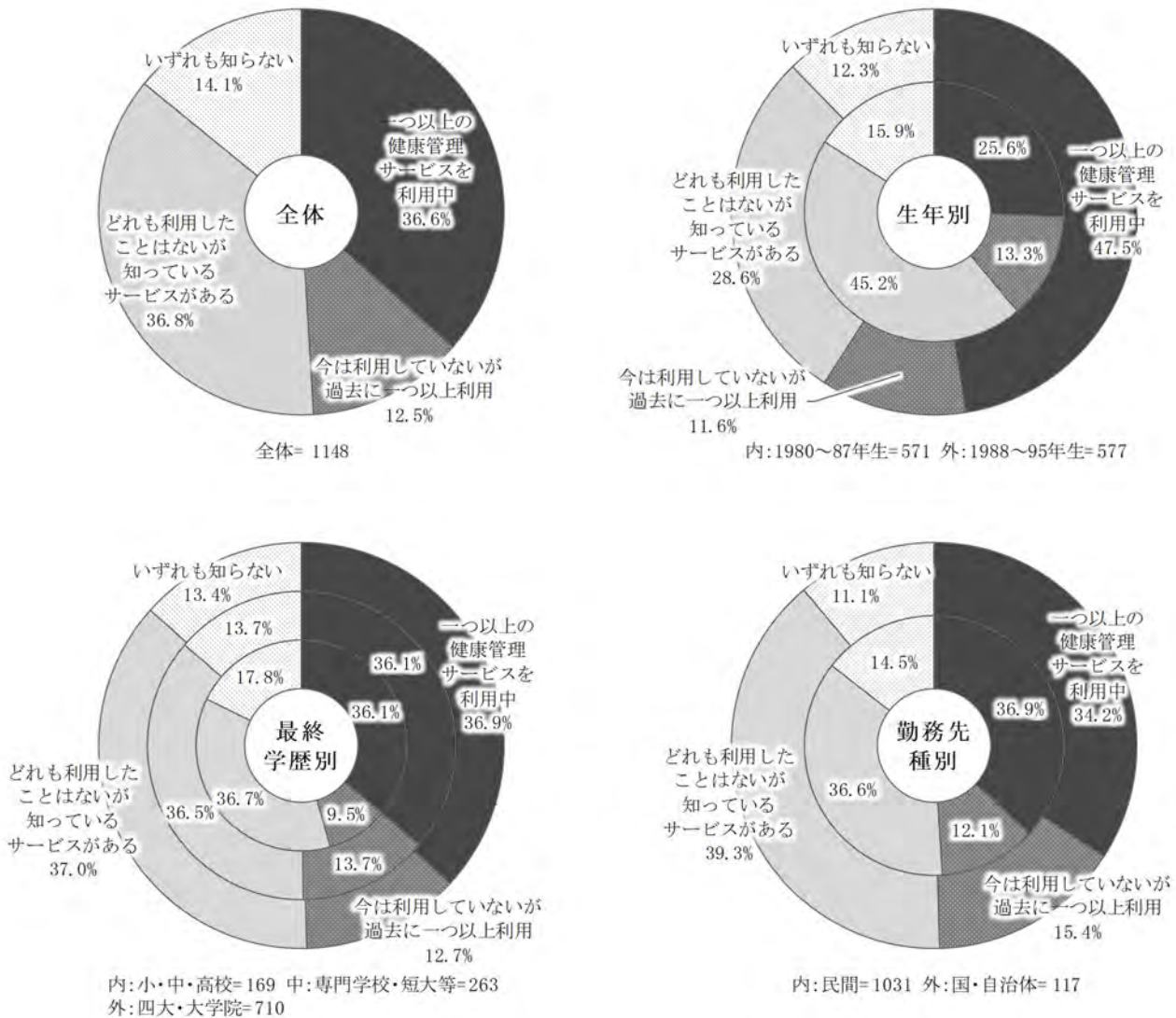


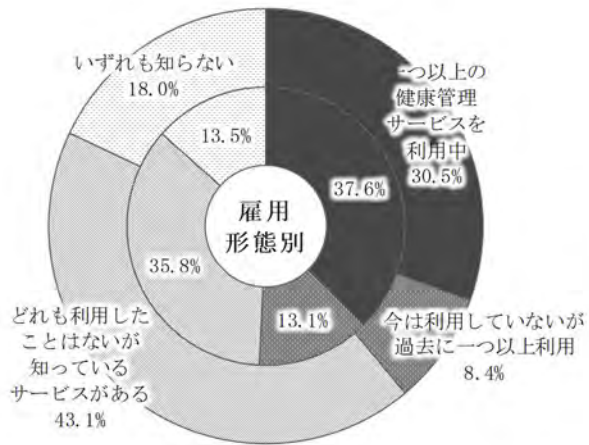


12. 健康管理サービスの利用・認知

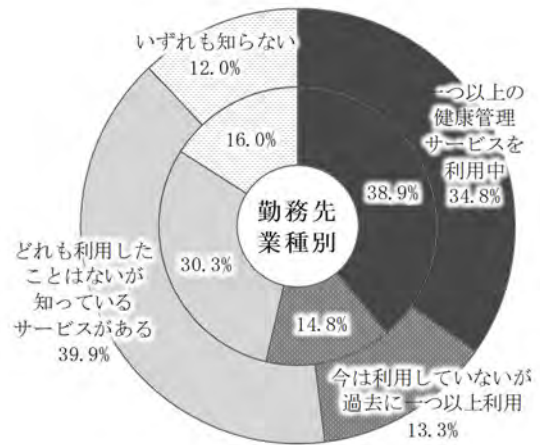
- 知っている健康管理サービス、利用したことのある健康管理サービスを尋ね、「一つ以上の健康管理サービスを利用中」「今は利用していないが過去に一つ以上利用」「どれも利用したことはないが知っているサービスがある」「いずれも知らない」で集計したところ、全体では「どれも利用したことはないが知っているサービスがある」36.8%、「一つ以上の健康管理サービスを利用中」36.6%の順に多い。
- 生年別では、1988～95年生の回答者の「一つ以上の健康管理サービスを利用中」、1980～87年生の回答者の「どれも利用したことはないが知っているサービスがある」が多い。
- 体型別では、肥満の回答者の「どれも利用したことはないが知っているサービスがある」が多い。
- 健康課題有無では、課題ありの回答者の「一つ以上の健康管理サービスを利用中」、課題なしの回答者の「いずれも知らない」が多い。
- 子どもの希望別では、子どもが欲しい回答者、わからない・決めていない回答者の順に「一つ以上の健康管理サービスを利用中」の回答が多い。

図表 12.健康管理サービスの利用・認知[単一選択]

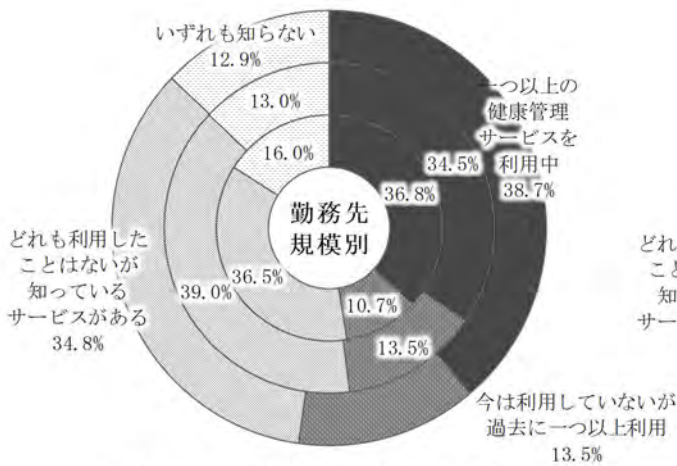




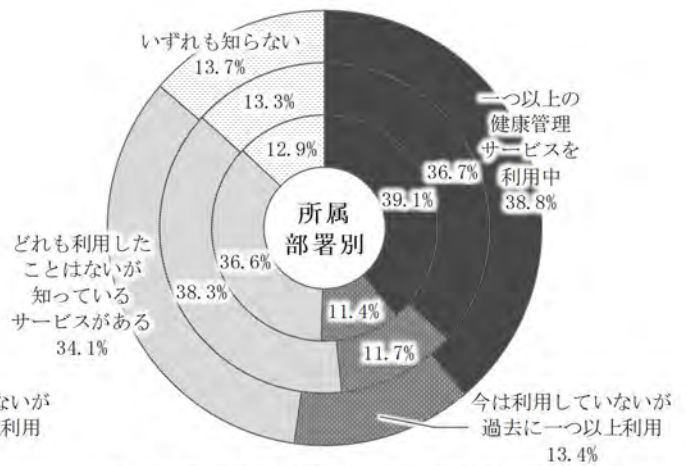
内:正規=981 外:契約・嘱託=167



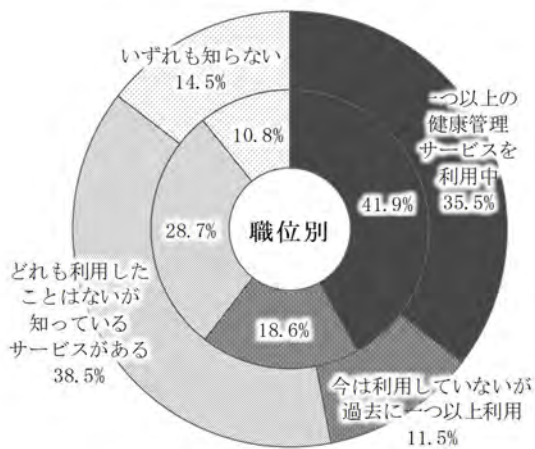
内:製造系=244 外:サービス系=656



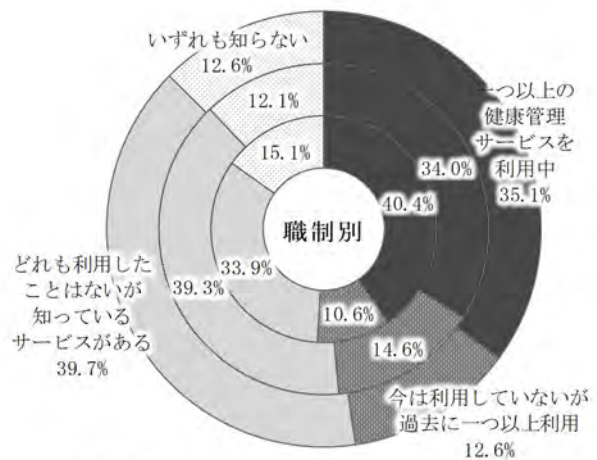
内:100人未満=438 中:100人以上1000人未満=377 外:1000人以上=333



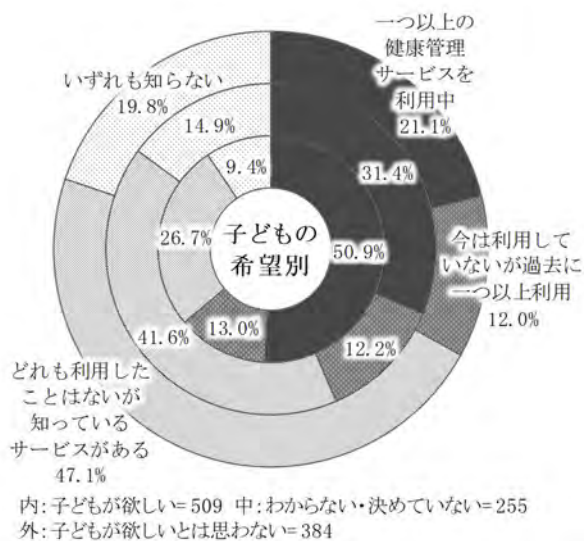
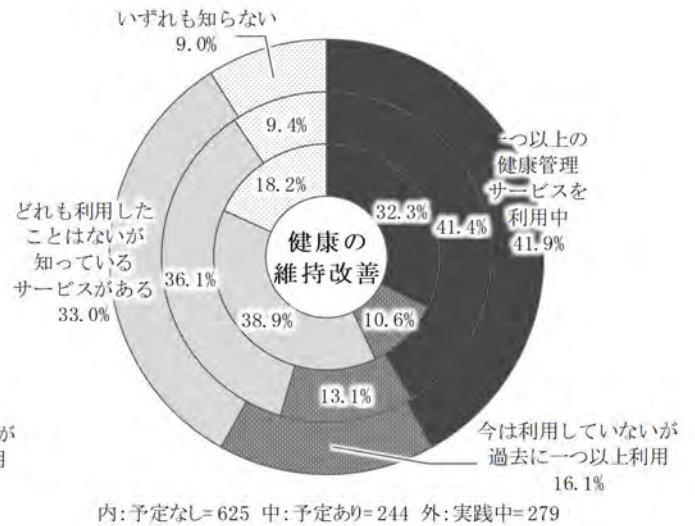
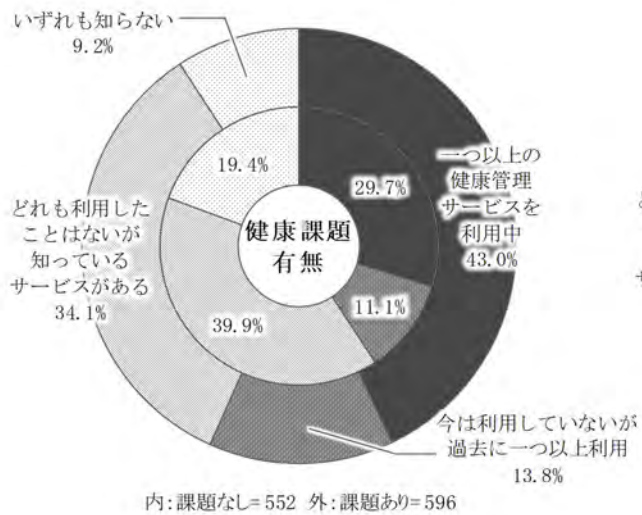
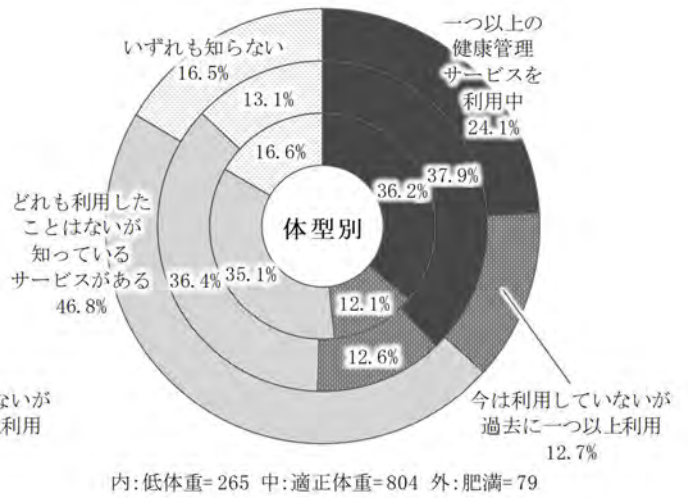
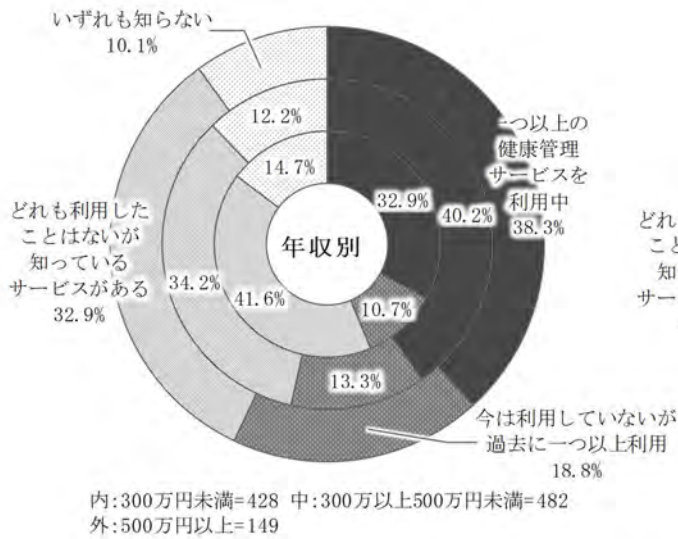
内:管理系=317 中:生産系=120 外:営業系=358



内:役員・管理職=167 外:役職なし=956



内:総合職等=436 中:専門職・現業職=206 外:一般職=365



12.1. 健康管理サービスの利用・認知（サービス別）

- 知っている健康管理サービス、利用したことのある健康管理サービスを尋ねたところ、全体で「利用中」が多いのは、「ルナルナ」29.4%で、次いで「ラルーン」6.9%が多かった。他のサービスは、1%以下であった。

図表 12.1.健康管理サービスの利用・認知（サービス別）[単一選択]

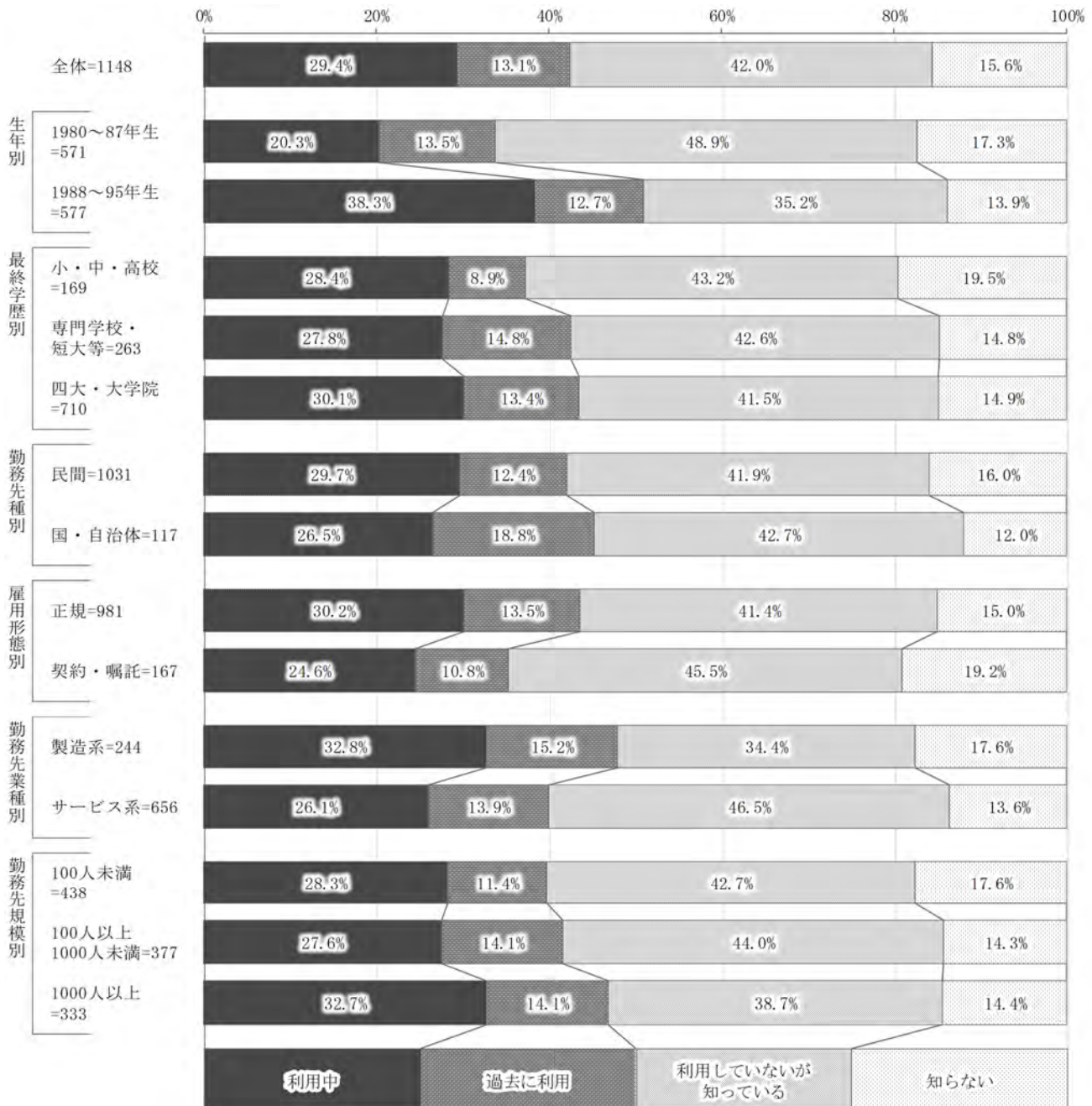


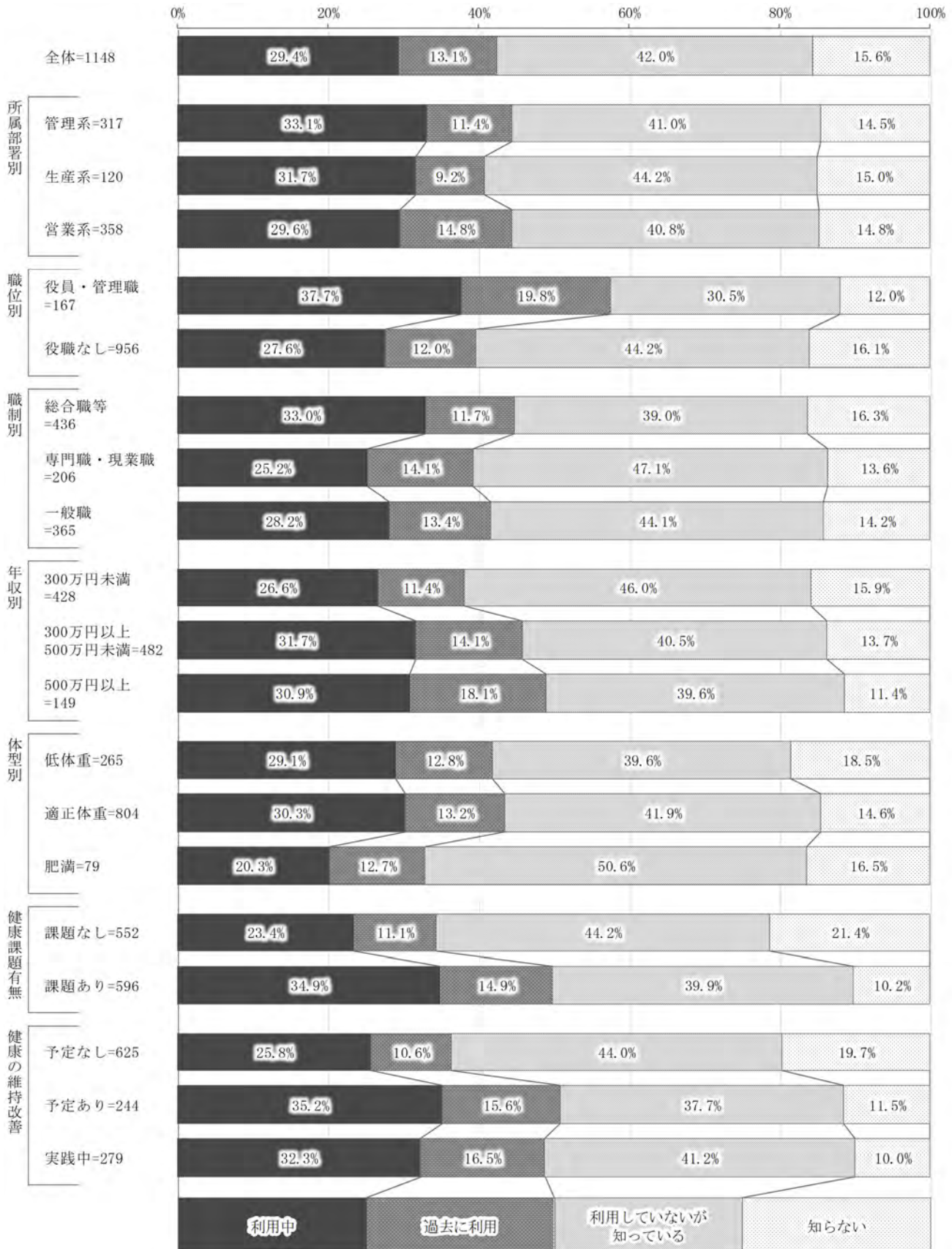
注 「その他」には、「iOS -ヘルスケア」「eggy」「FiNC」「Flo」「Google Fit」「ムーン」「ninaru」「OMRON connect」「ソフィアプリ」「ヤーズフレックス服用サポートアプリ」「女子カレ」があった。

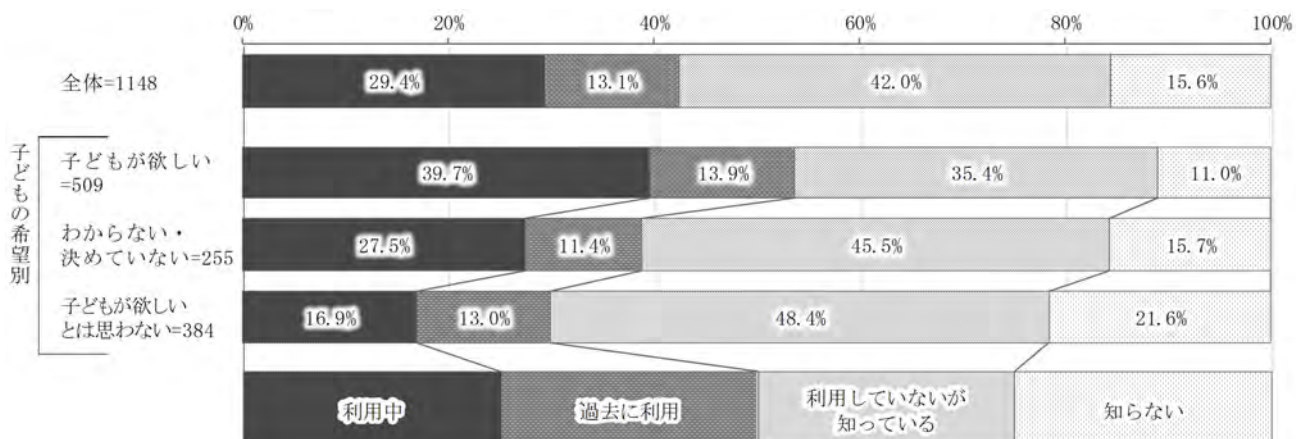
12.1.1. 健康管理サービスの利用・認知（ルナルナ）

- 健康管理サービス「ルナルナ」について、知っているまたは利用したことはあるか尋ねたところ、全体では「利用していないが知っている」が42.0%と最も多く、次いで「利用中」が29.4%と多かった。
- 「利用中」は、生年別で1988～95年生の回答者、職位別で役員・管理職の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が最も多い。
- 「知らない」は、健康課題有無で課題なしの回答者が多い。

図表 12.1.1. 健康管理サービスの利用・認知（ルナルナ）【単一選択】







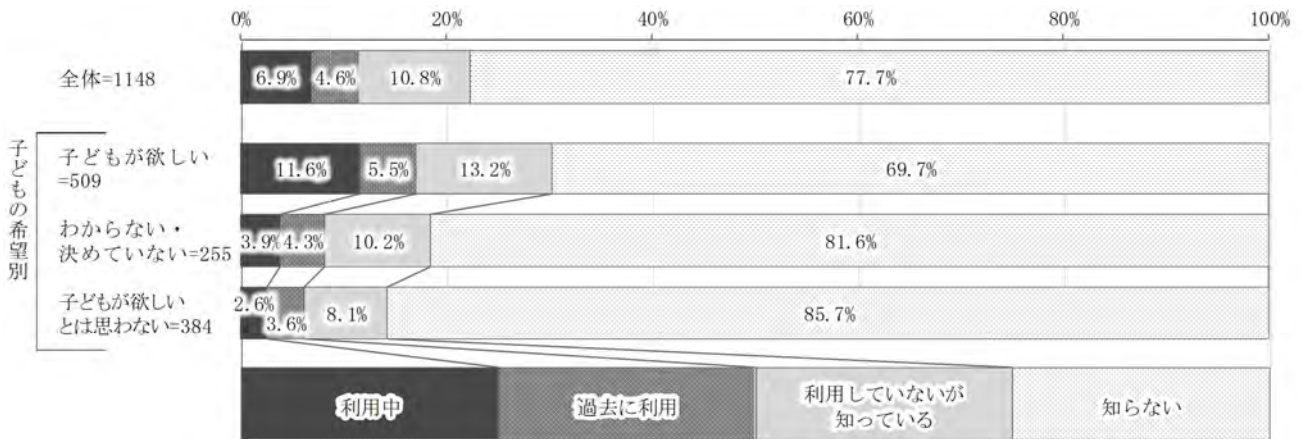
12.1.2. 健康管理サービスの利用・認知（ラルーン）

- 健康管理サービス「ラルーン」について、知っているまたは利用したことはあるか尋ねたところ、全体では「知らない」が77.7%と最も多く、次いで「利用していないが知っている」が10.8%だった。
- 「知らない」は、子どもの希望別で子どもが欲しいとは思わない回答者、わからない・決めていない回答者の順に多い。

図表 12.1.2. 健康管理サービスの利用・認知（ラルーン） [単一選択]



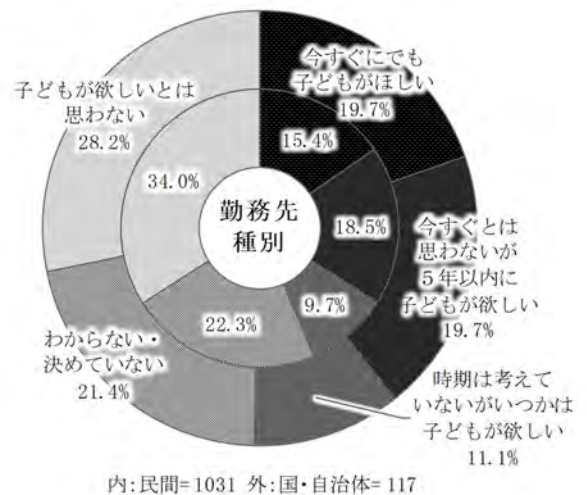
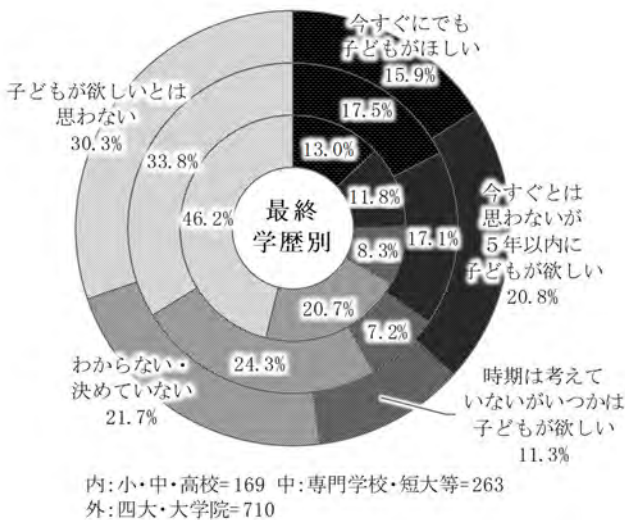
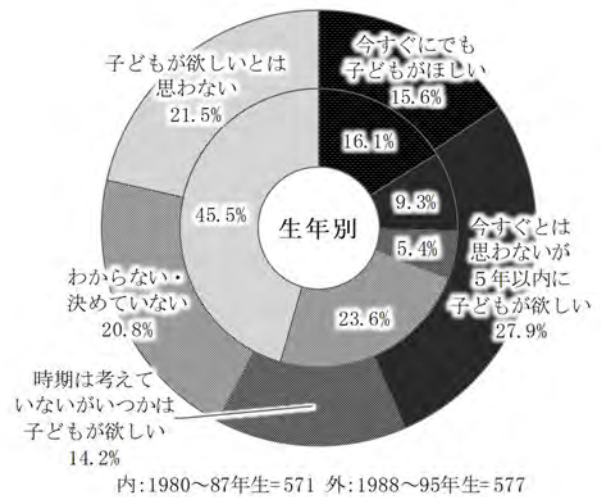
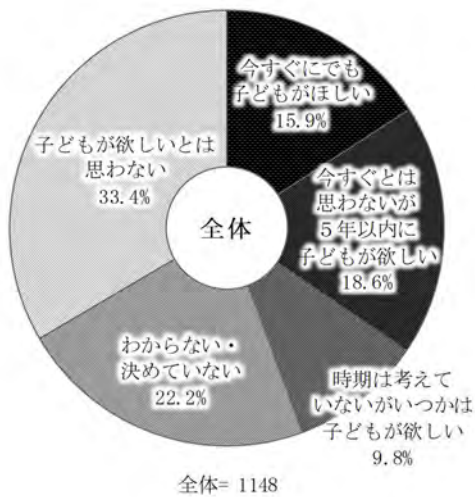


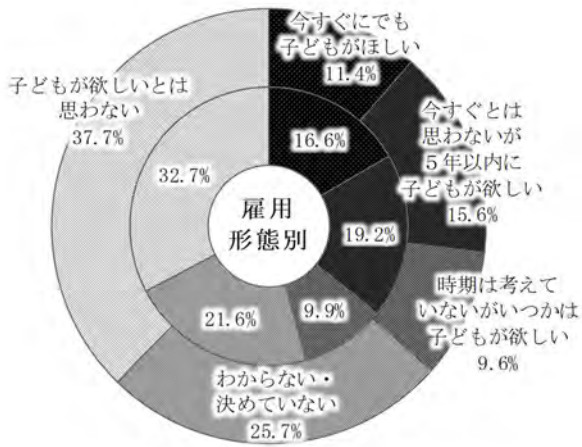


13. 子どもの希望

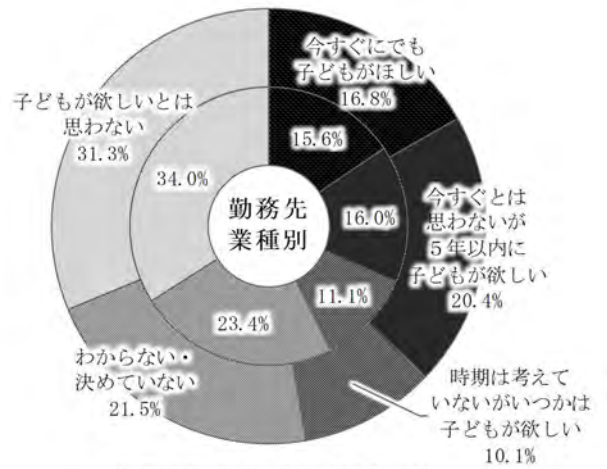
- 子どもが欲しいと思っているか尋ねたところ、全体では「子どもが欲しいとは思わない」が 33.4%と最も多く、「子どもが欲しい」の計は 44.3%だった。
- 「子どもが欲しい」の計は、生年別で 1988～95 年生の回答者が多く、なかでも「今すぐとは思わないが 5年以内に子どもが欲しい」が多い。
- 健康課題有無で課題ありの回答者も多く、なかでも「今すぐにでも子どもが欲しい」が多い。
- 職位別で役員・管理職の回答者、年収別で 300 万円以上 500 万円未満の回答者と 500 万円以上の回答者、体型別で適正体重の回答者と低体重の回答者、健康の維持改善で予定ありの回答者、実践中の回答者も「子どもが欲しい」の計が多い。

図表 13.子どもの希望[単一選択]

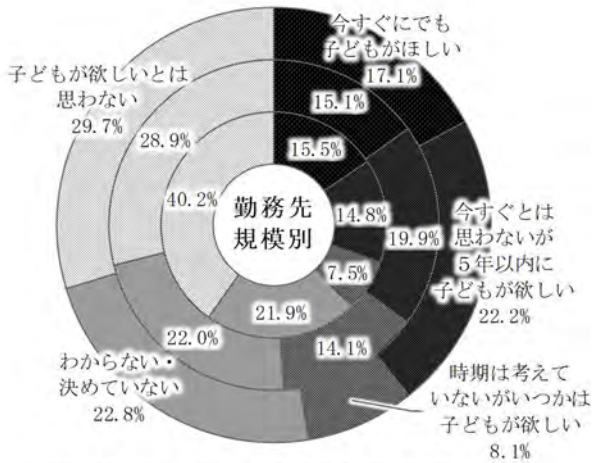




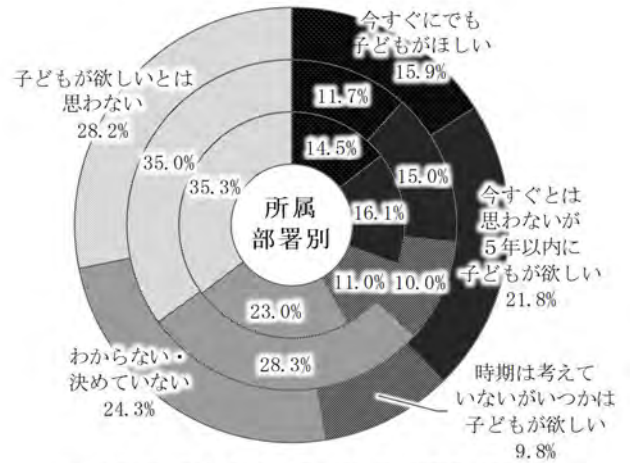
内:正規=981 外:契約・嘱託=167



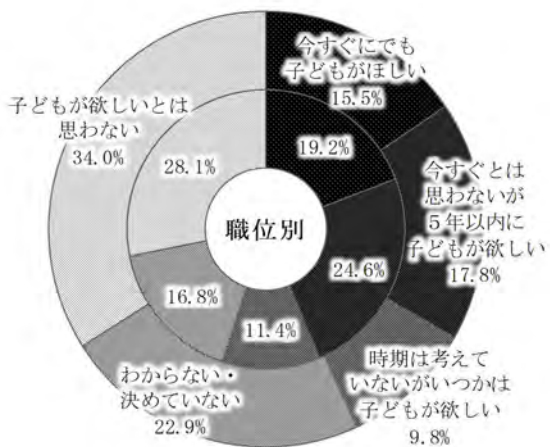
内:製造系=244 外:サービス系=656



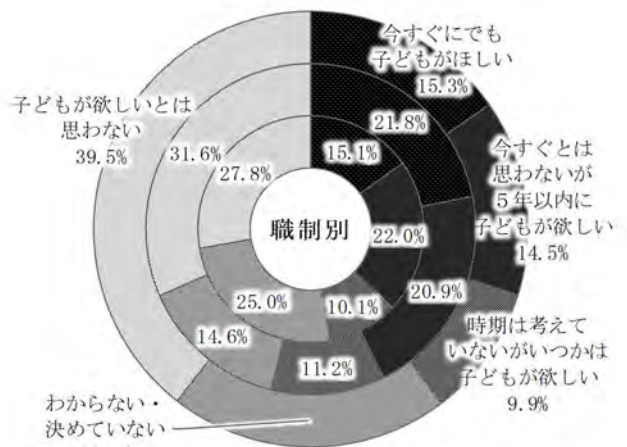
内:100人未満=438 中:100人以上1000人未満=377 外:1000人以上=333



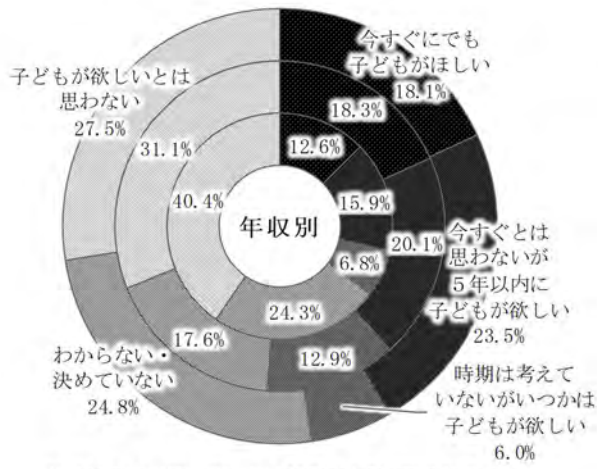
内:管理系=317 中:生産系=120 外:営業系=358



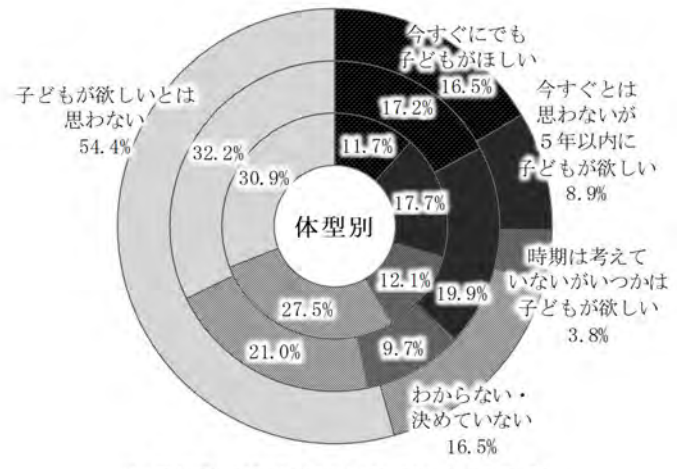
内:役員・管理職=167 外:役職なし=956



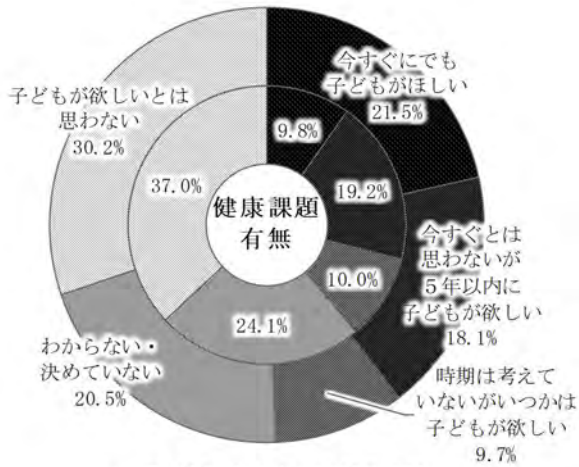
内:総合職等=436 中:専門職・現業職=206 外:一般職=365



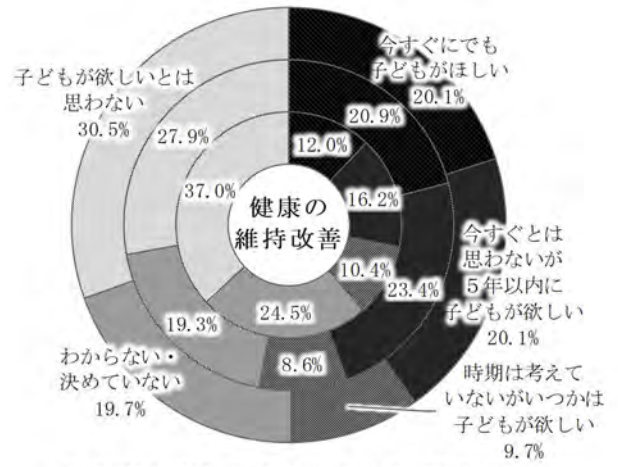
内: 300万円未満=428 中: 300万以上500万円未満=482
外: 500万円以上=149



内: 低体重=265 中: 適正体重=804 外: 肥満=79



内: 課題なし=552 外: 課題あり=596

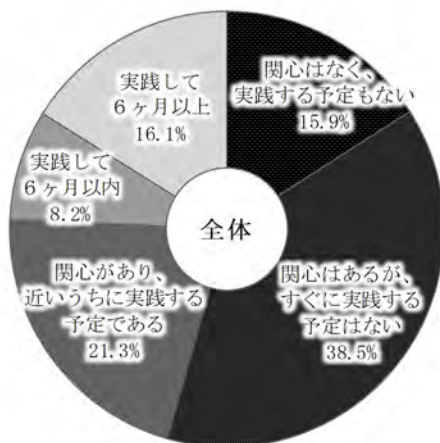


内: 予定なし=625 中: 予定あり=244 外: 実践中=279

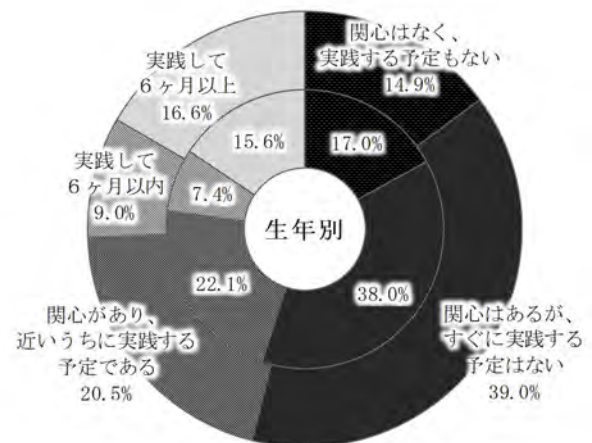
14. 健康の維持改善

- 自身の健康に関心はあるか、また、健康の維持・改善を行う予定（定期的な運動、食生活の改善、禁煙、規則正しい睡眠など、健康の維持・改善に関わる活動を含む）はあるか尋ねたところ、全体では「関心はあるが、すぐ実践する予定はない」が 38.5%と最も多く、次いで「関心があり、近いうちに実践する予定である」が 21.3%と多い。
- 「関心はあるが、すぐ実践する予定はない」は、所属部署別で生産系の回答者、職位別で役職なしの回答者が多い。
- 「関心はなく、実践する予定もない」は、体型別で肥満の回答者、健康課題有無で課題なしの回答者、子どもの希望別で子どもが欲しいとは思わない回答者が多い。

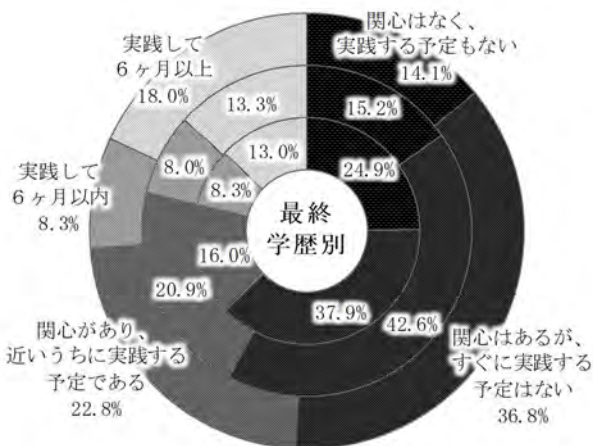
図表 14.健康の維持改善[単一選択]



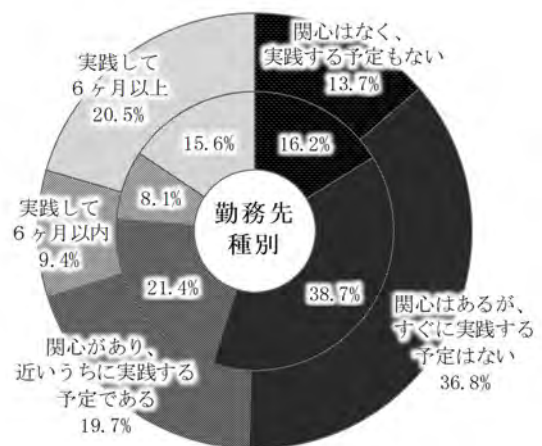
全体= 1148



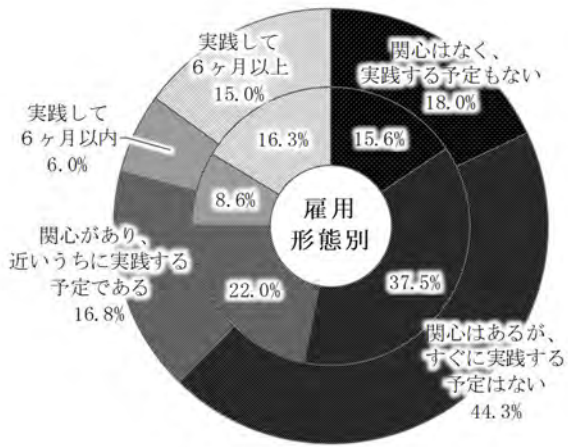
内:1980~87年生=571 外:1988~95年生=577



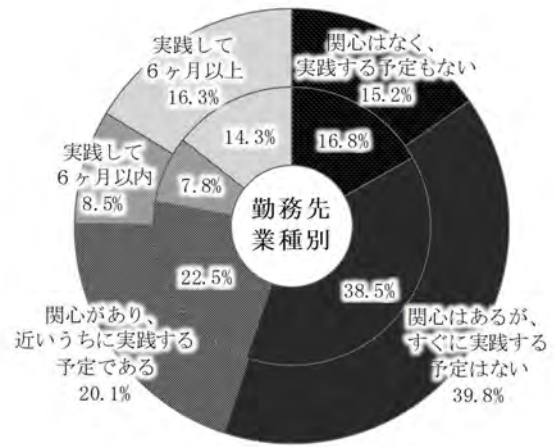
内:小・中・高校=169 中:専門学校・短大等=263 外:四大・大学院=710



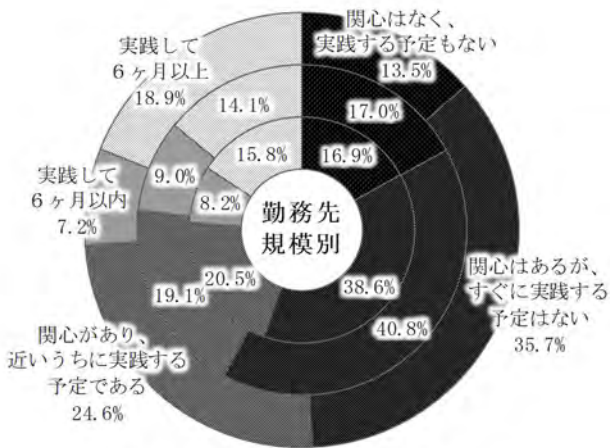
内:民間=1031 外:国・自治体=117



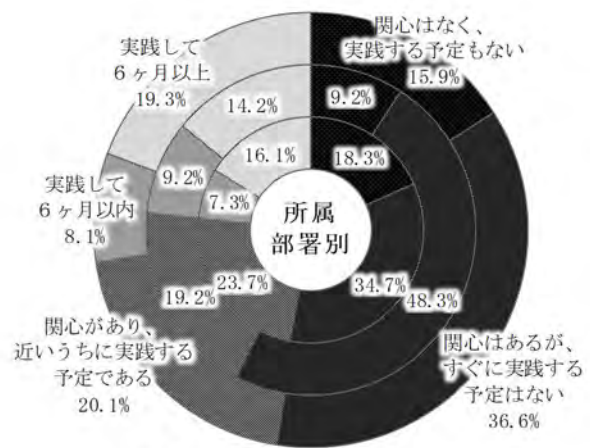
内:正規=981 外:契約・嘱託=167



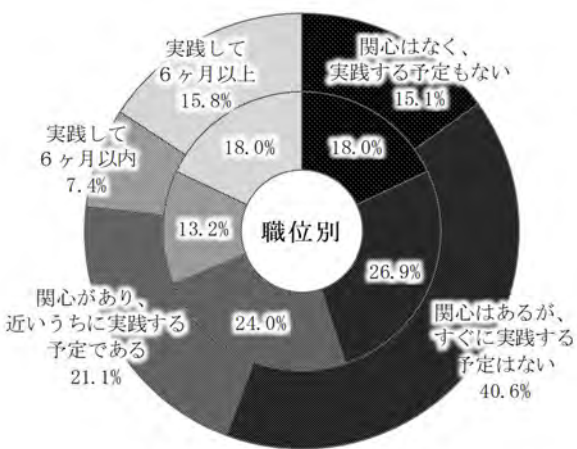
内:製造系=244 外:サービス系=656



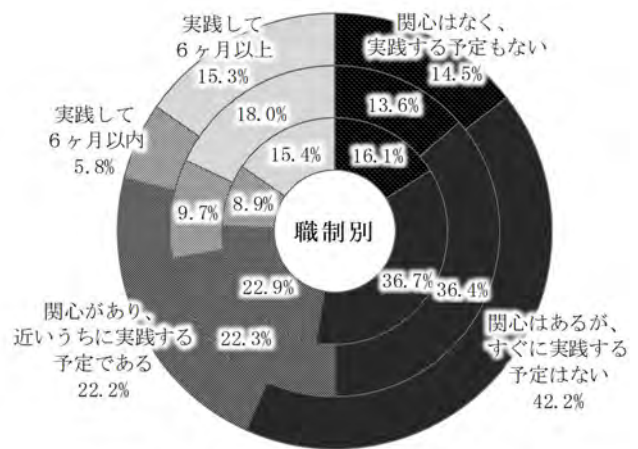
内:100人未満=438 中:100人以上1000人未満=377
外:1000人以上=333



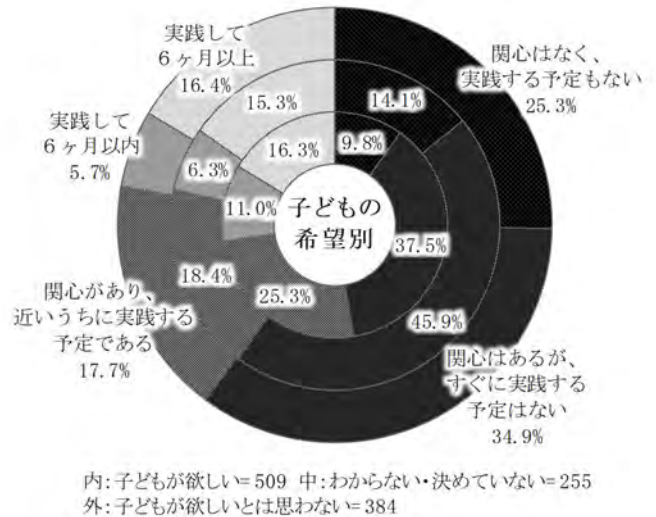
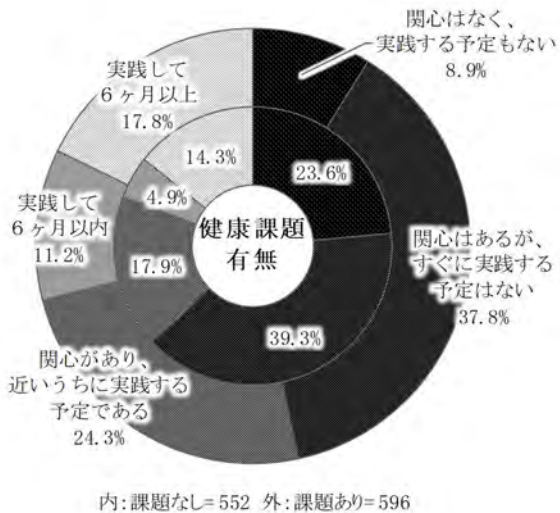
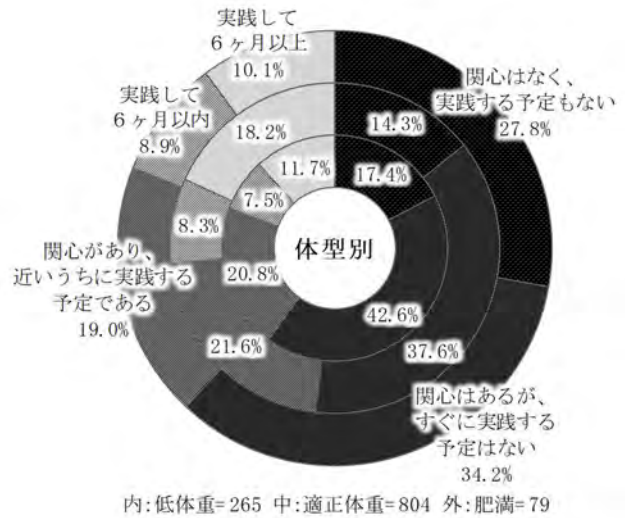
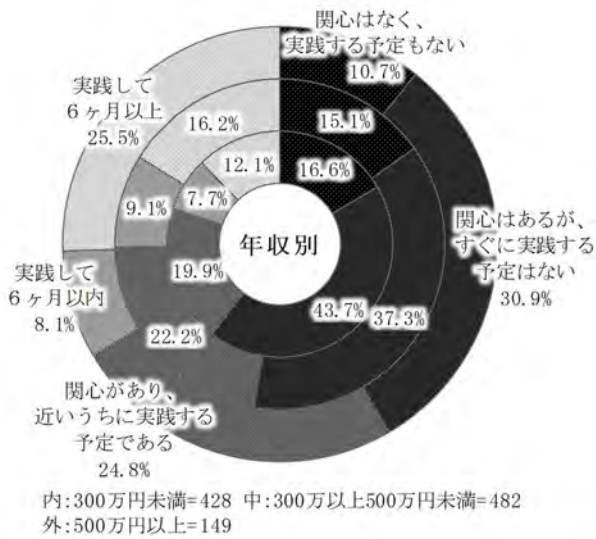
内:管理系=317 中:生産系=120 外:営業系=358



内:役員・管理職=167 外:役職なし=956



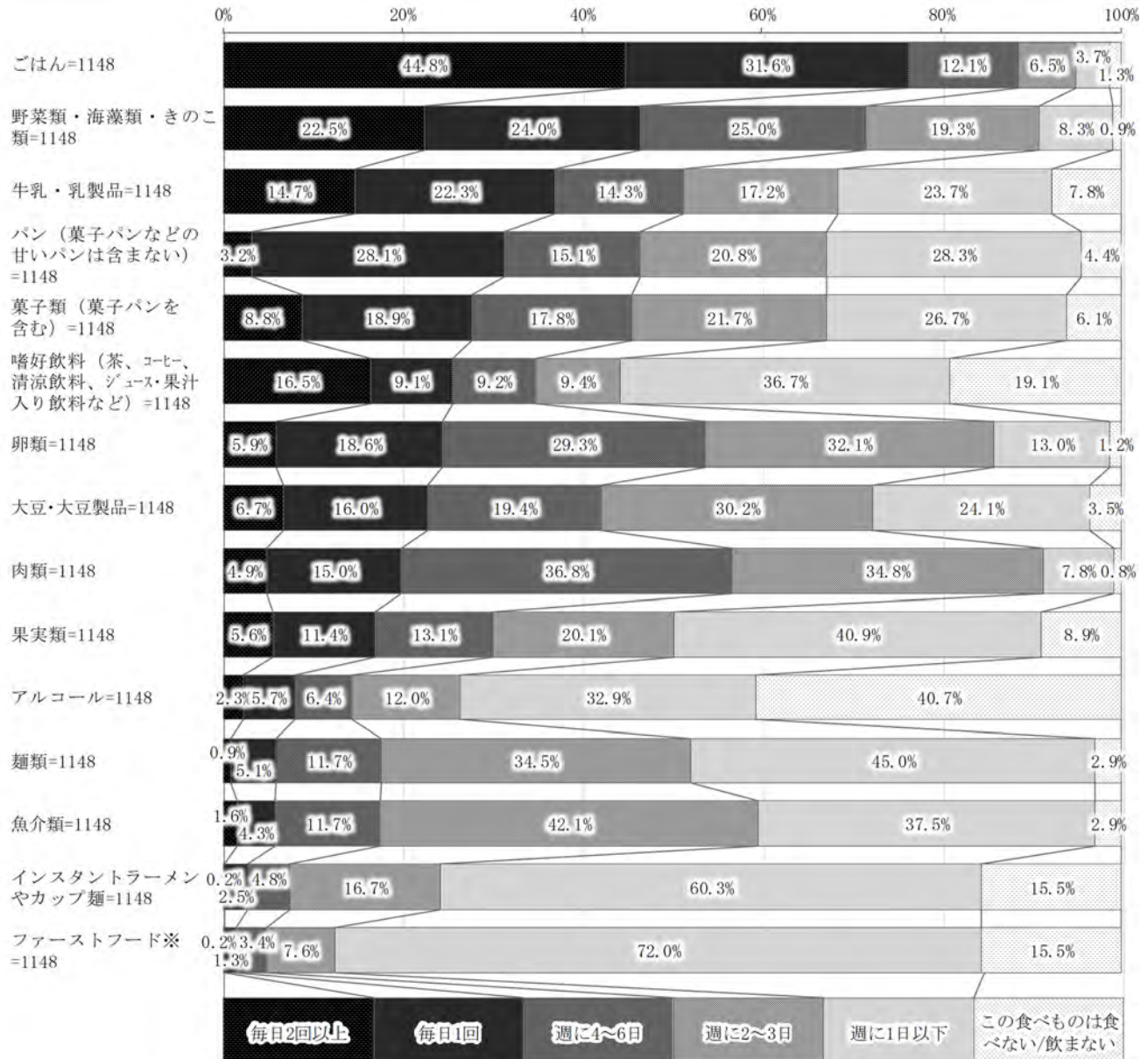
内:総合職等=436 中:専門職・現業職=206 外:一般職=365



15. 食品の摂取頻度

- 概ね 1 か月を振り返った食品の摂取頻度を尋ねたところ、毎日摂取している食品は、全体では「ごはん」が 76.4%と最も多く、次いで「野菜類・海藻類・きのこ類」46.5%、「牛乳・乳製品」37.0%の順に多い。

図表 15.食品の摂取頻度[単一選択]

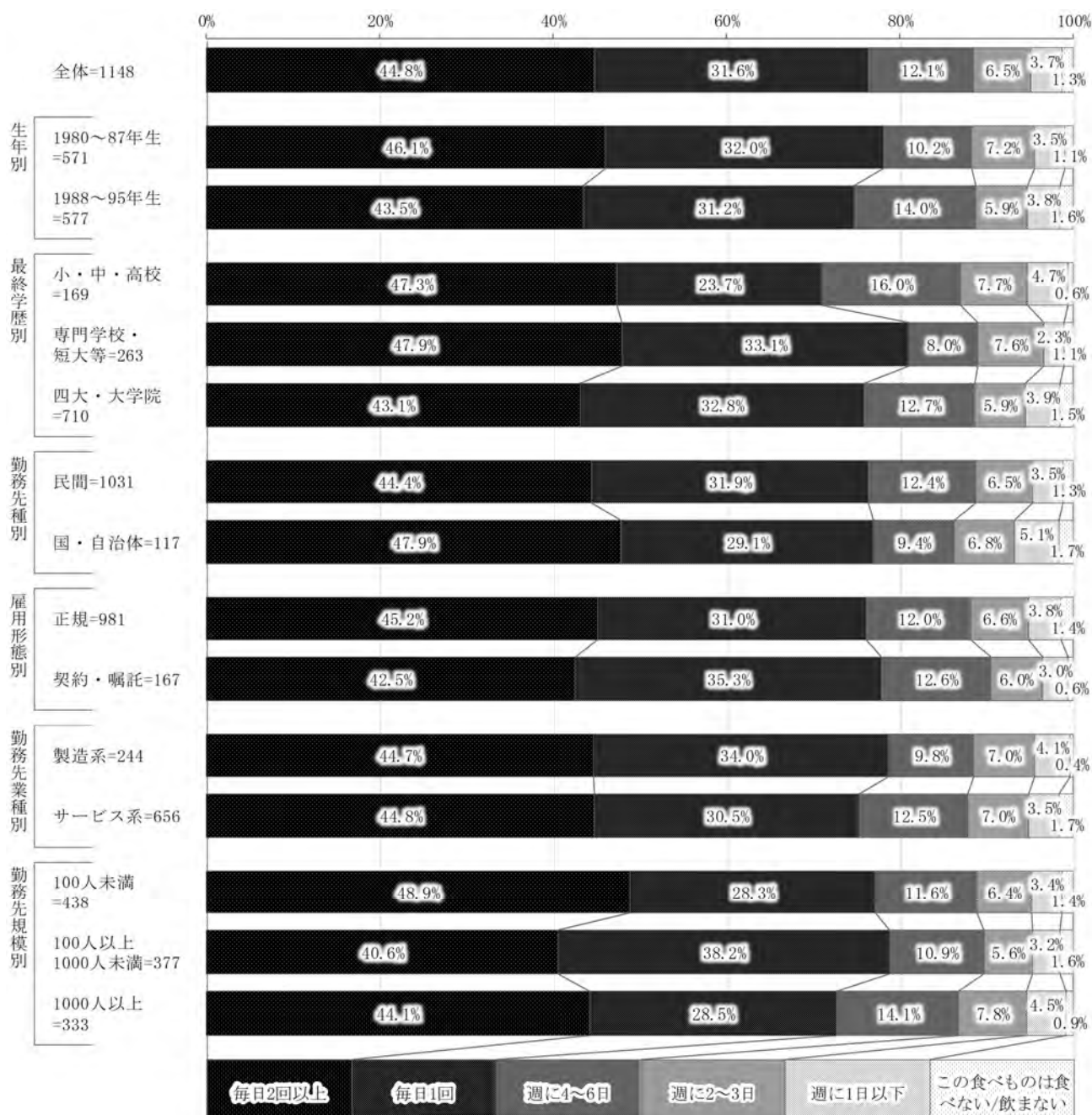


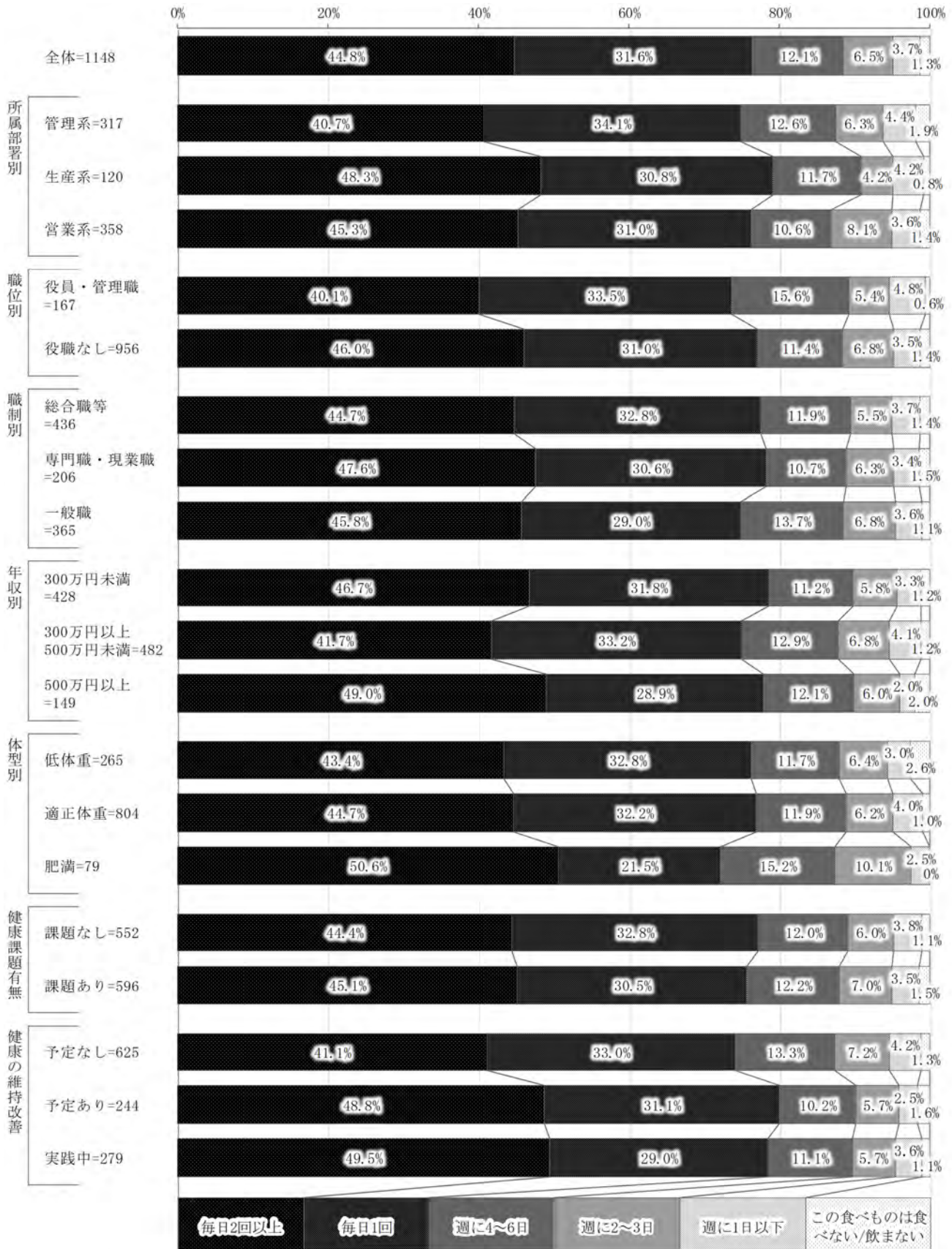
※ 短時間で調理などされ、すぐに食べることができるハンバーガーやドーナツ、ピザなどの手軽な食事や食品

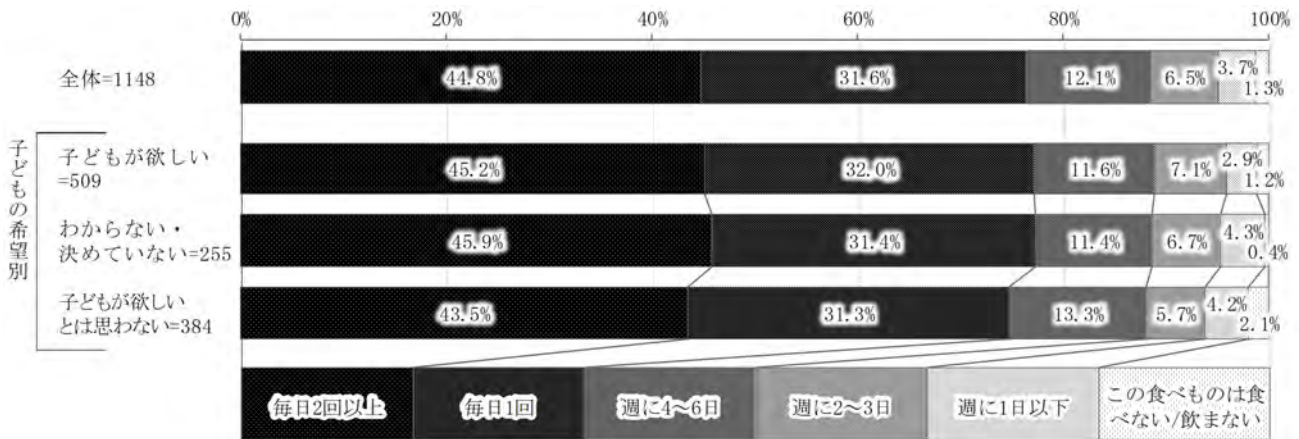
15.1. 食品の摂取頻度（ごはん）

- 概ね1か月を振り返ったごはんの摂取頻度を尋ねたところ、全体では「毎日2回以上」が44.8%と最も多く、「毎日1回」を合わせると約8割に及ぶ。
- 「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は、最終学歴別で専門学校・短大等の回答者が若干多い。

図表 15.1.食品の摂取頻度（ごはん）【単一選択】



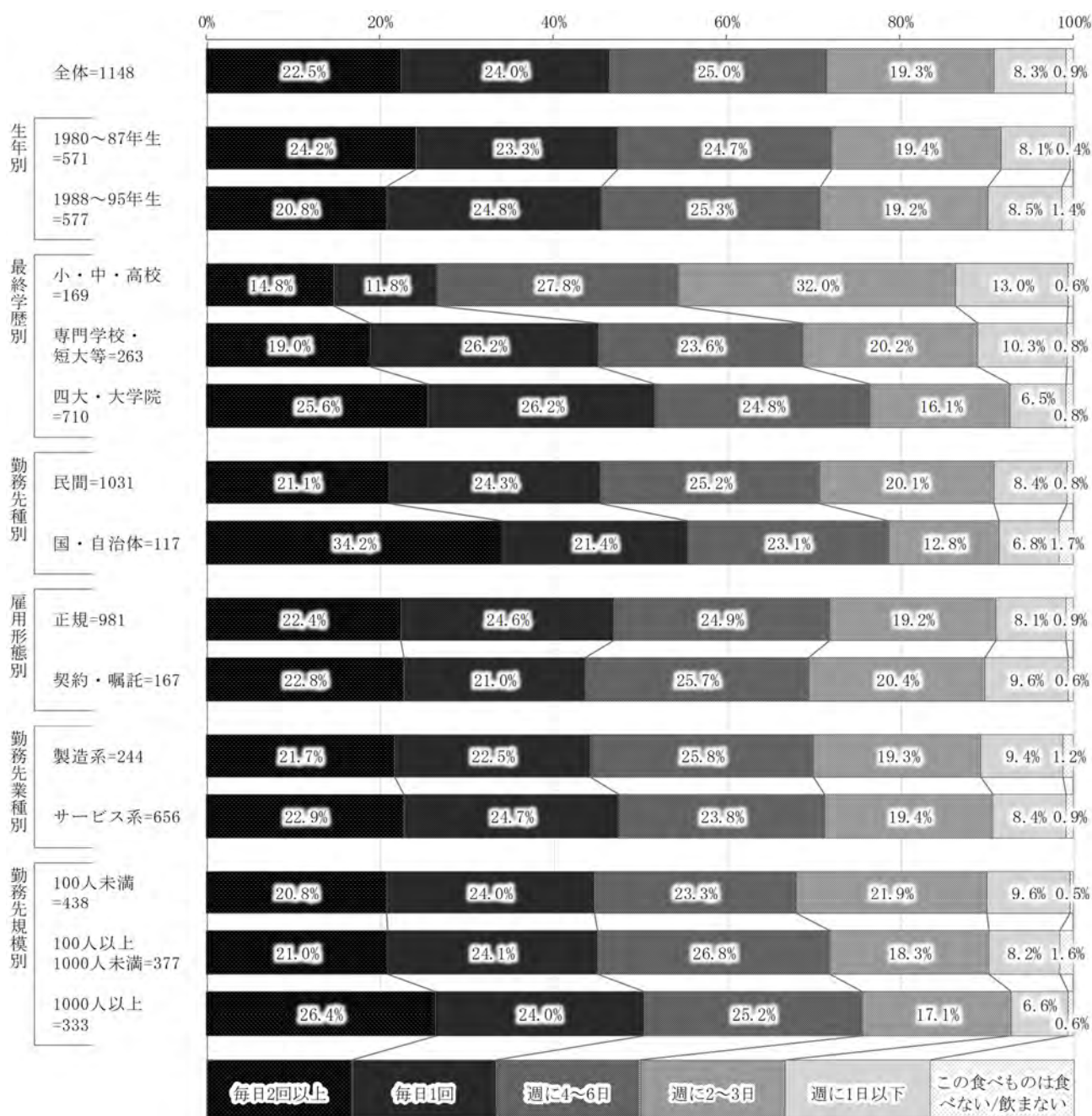


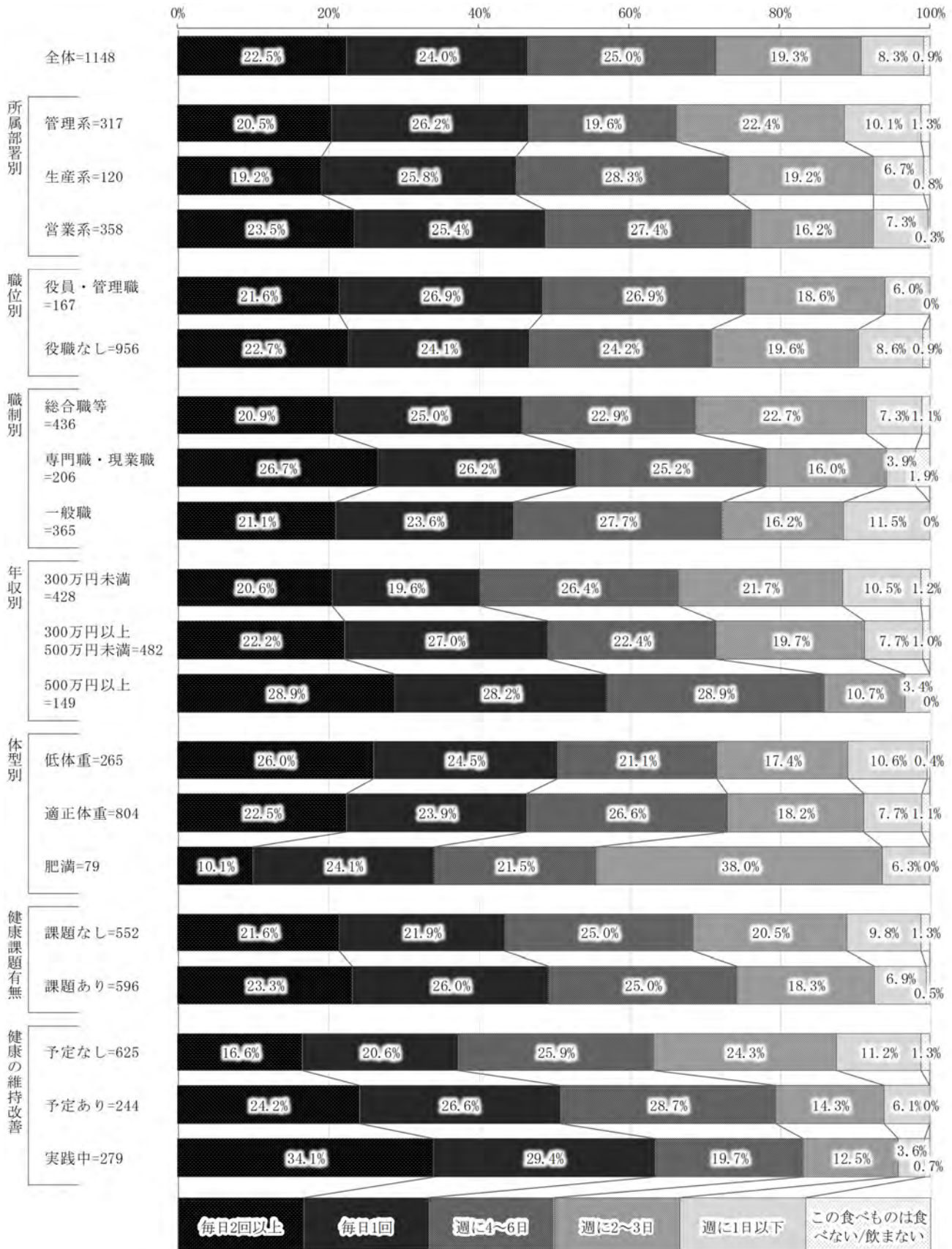


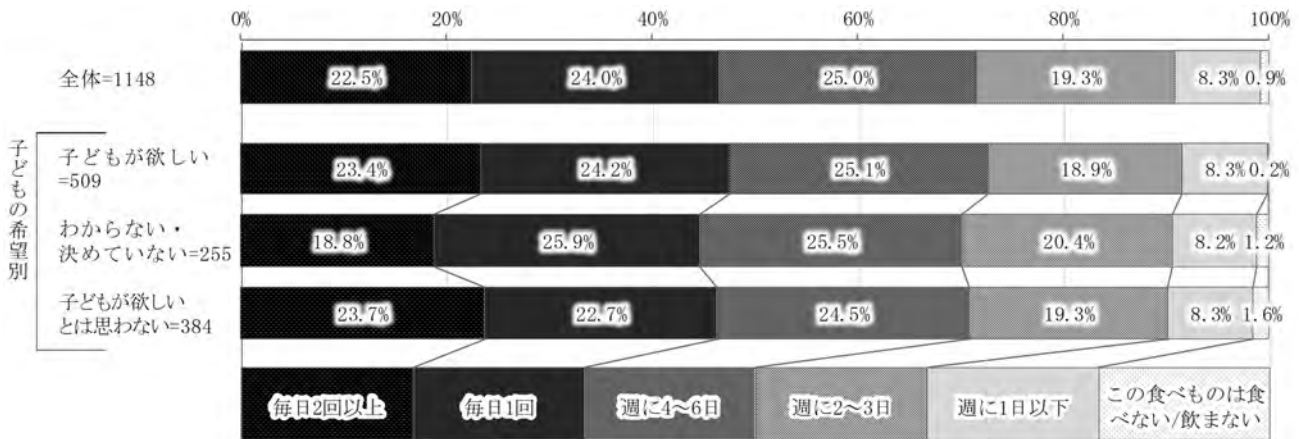
15.2. 食品の摂取頻度（野菜類・海藻類・きのこ類）

- 概ね1か月を振り返った野菜類・海藻類・きのこ類の摂取頻度を尋ねたところ、全体では「週に4～6日」が25.0%と最も多く、次いで「毎日1回」も24.0%と同程度あった。「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は約5割だった。
- 野菜類・海藻類・きのこ類の摂取頻度について、「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は、最終学歴別で四大・大学院の回答者、専門学校・短大等の回答者、小・中・高校の回答者の順に多い。
- 野菜類・海藻類・きのこ類の摂取頻度について、「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は、年収別では、500万円以上の回答者、300万円以上500万円未満の回答者、300万円未満の順に多い。
- 野菜類・海藻類・きのこ類の摂取頻度について、「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は、体型別で低体重の回答者、適正体重の回答者、肥満の回答者の順に多い。

図表 15.2.食品の摂取頻度（野菜類・海藻類・きのこ類）[単一選択]



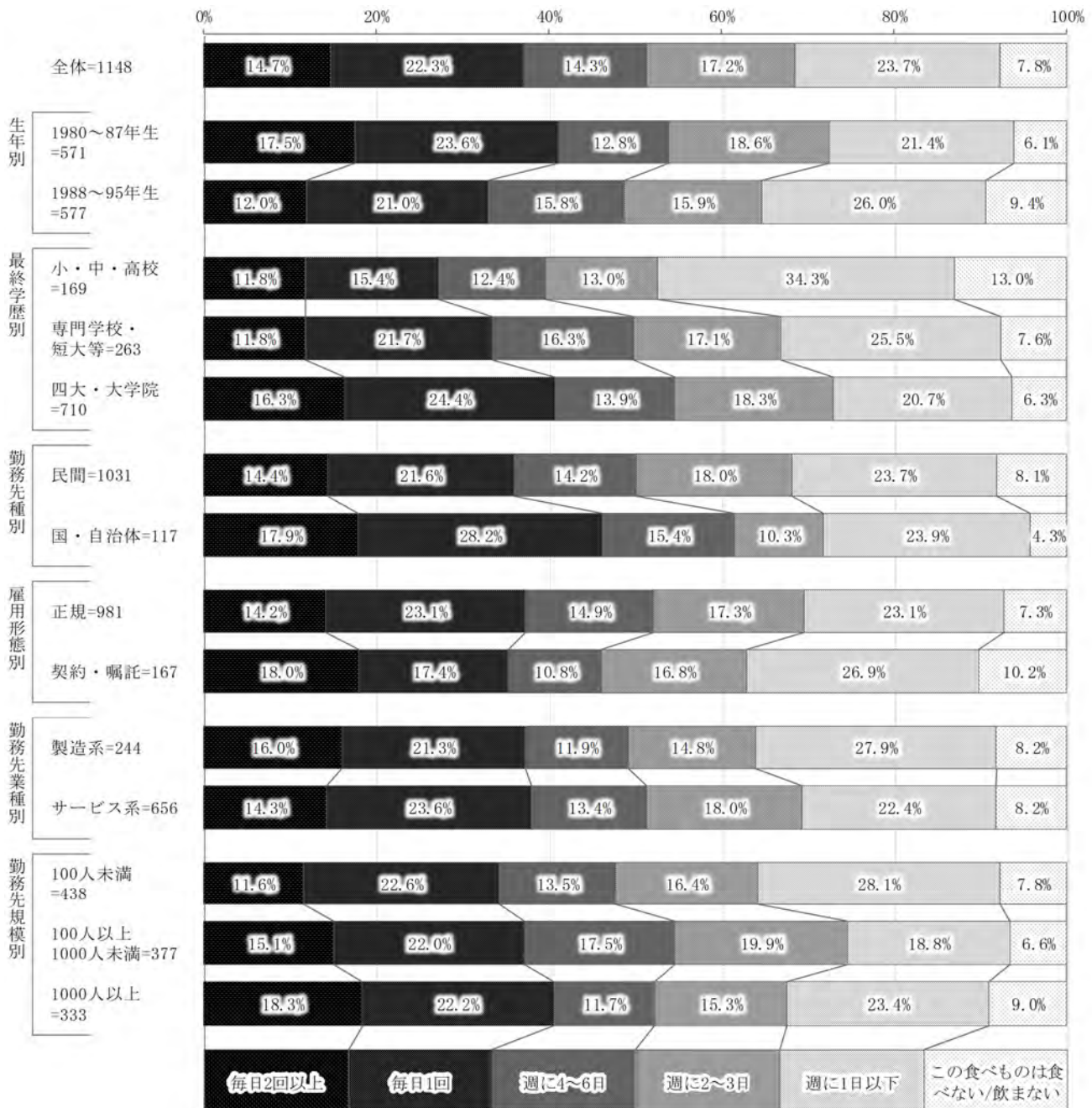


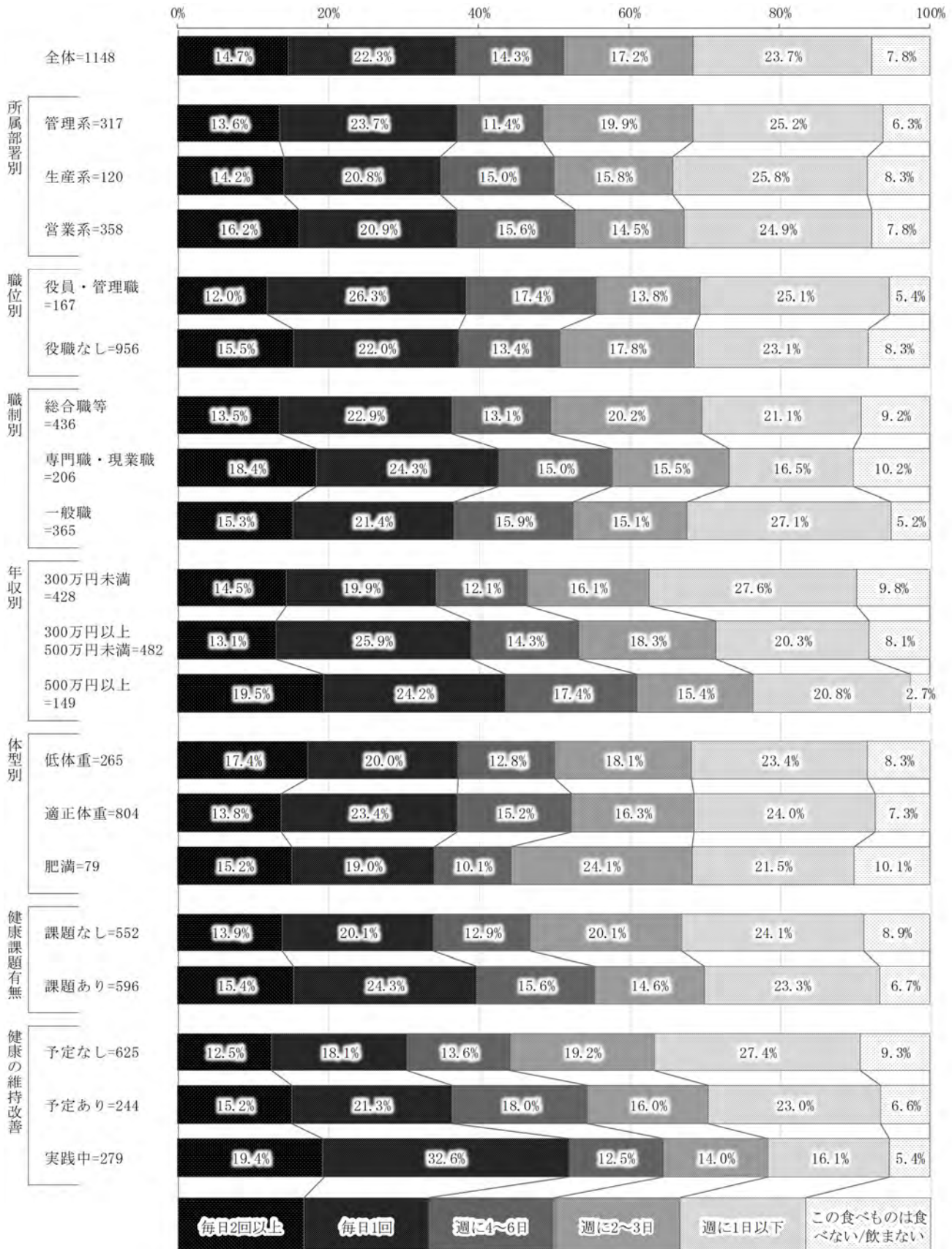


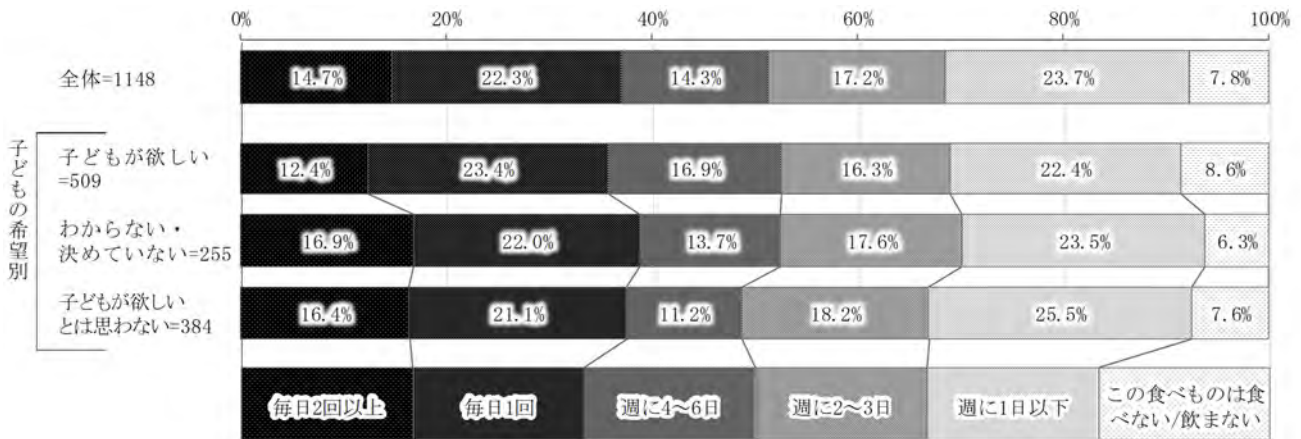
15.3. 食品の摂取頻度（牛乳・乳製品）

- 概ね1か月を振り返った牛乳・乳製品の摂取頻度を尋ねたところ、全体では「週に1日以下」が23.7%と最も多く、「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は4割に満たない。
- 牛乳・乳製品の摂取頻度について、「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は、勤務先種別で国・自治体の回答者も多い。
- 牛乳・乳製品の摂取頻度「週に1日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計は、最終学歴別で小・中・高校の回答者、専門学校・短大等の回答者、四大・大学院の回答者の順に多い。

図表 15.3.食品の摂取頻度（牛乳・乳製品）[単一選択]



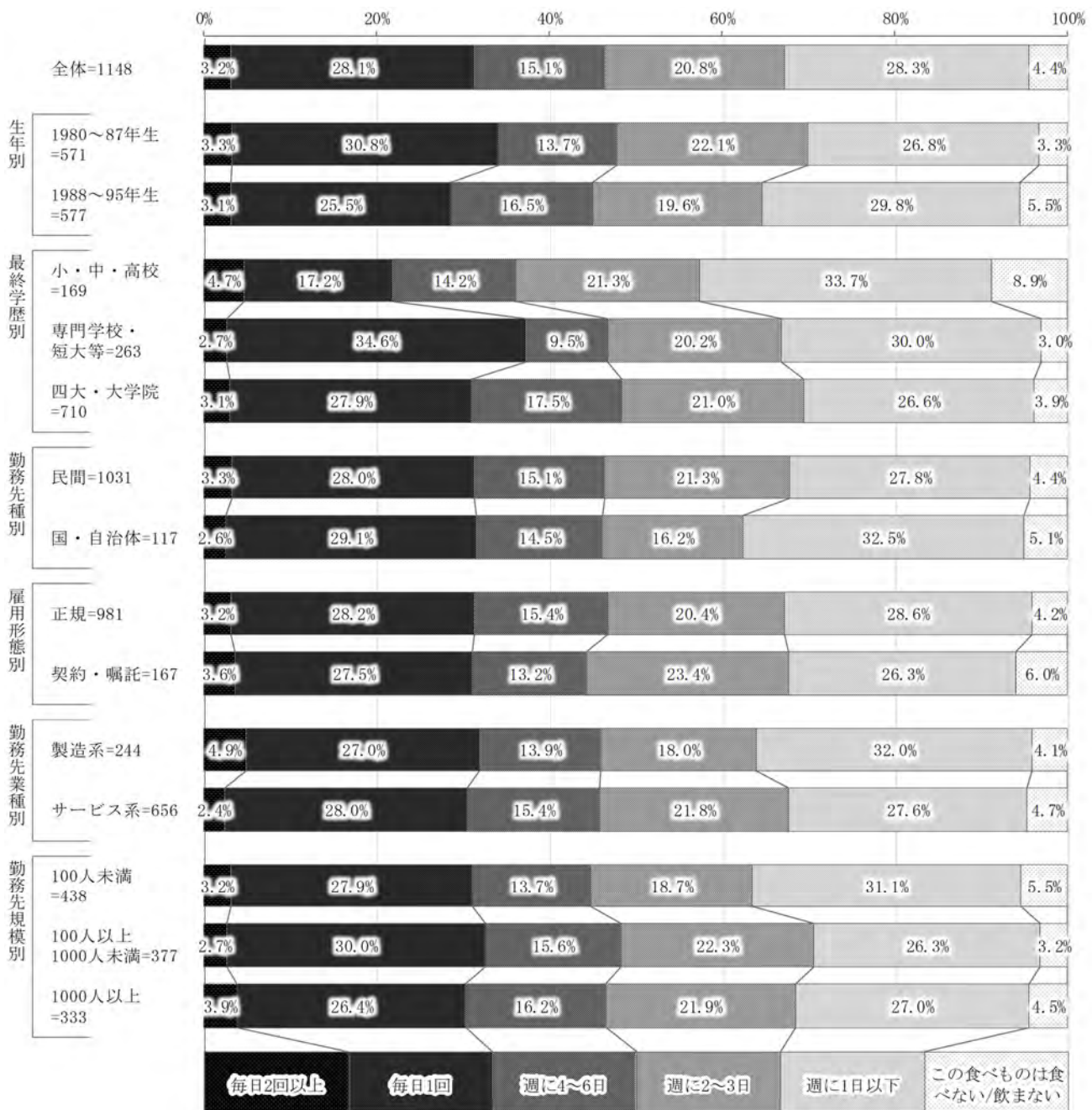


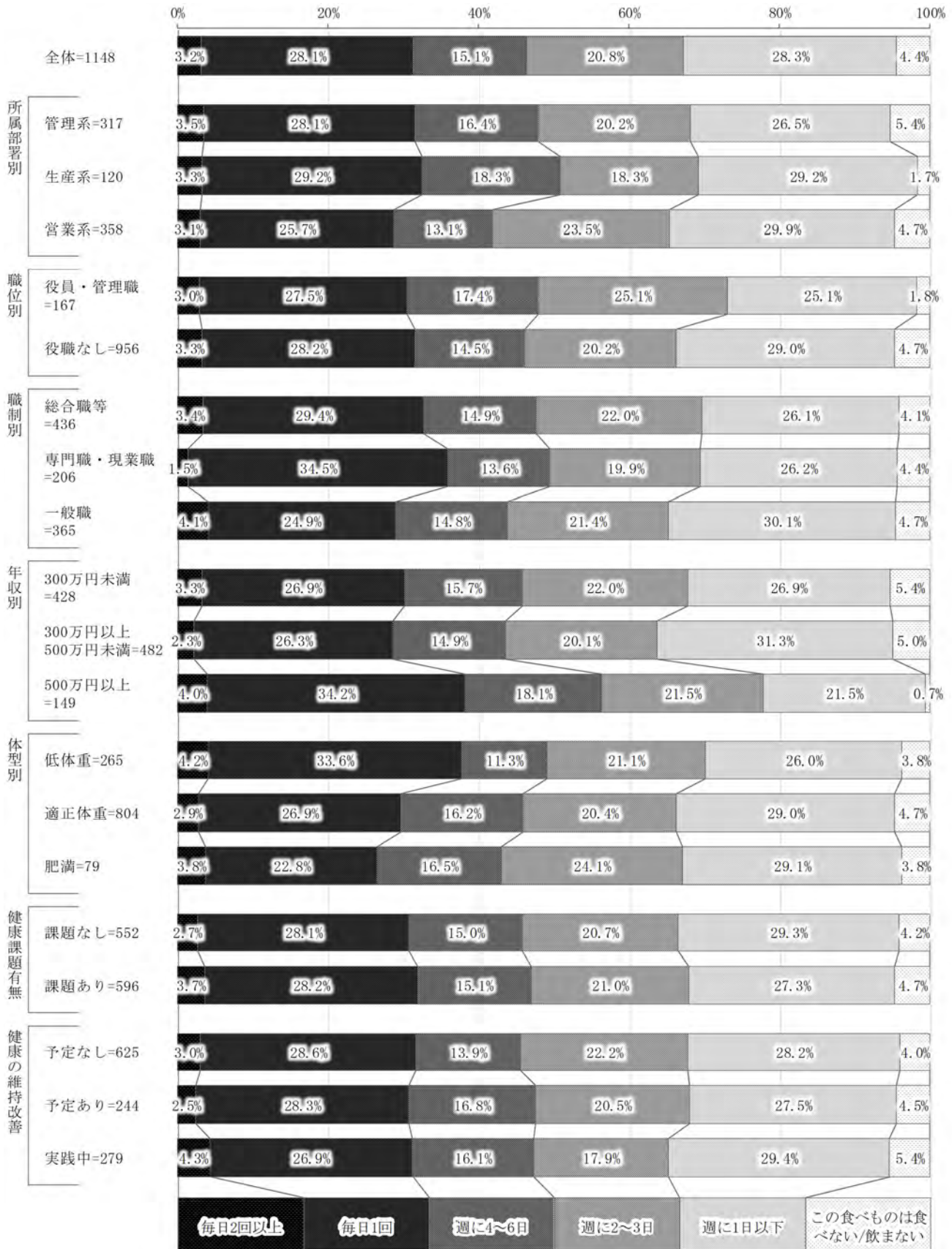


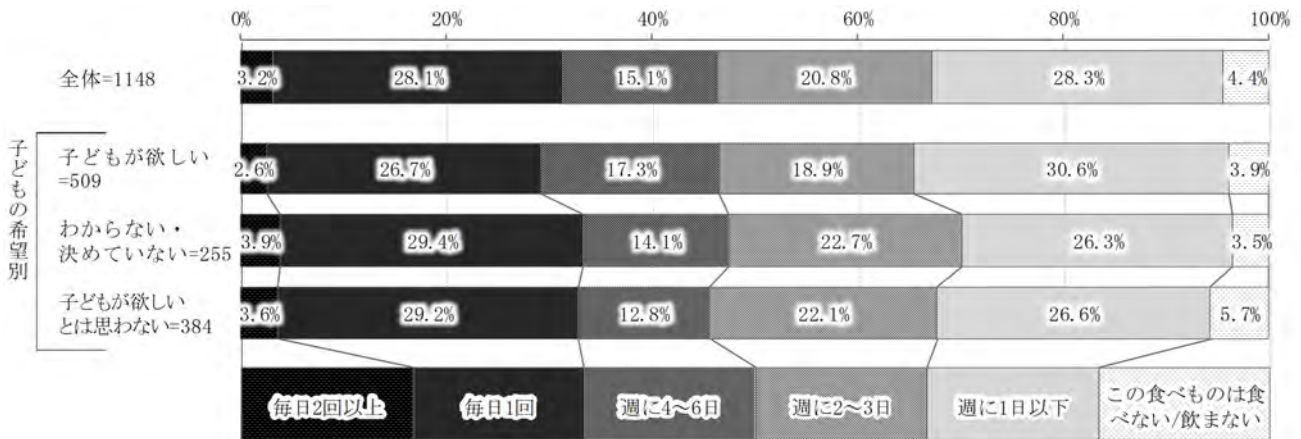
15.4. 食品の摂取頻度（パン）

- 概ね 1 か月を振り返ったパン（菓子パンなどの甘いパンは除く）の摂取頻度を尋ねたところ、全体では「週に 1 日以下」が 23.7%と最も多く、次いで「毎日 1 回」も 28.1%と同程度あった。「毎日 2 回以上」と「毎日 1 回」の計は約 3 割だった。
- パン（菓子パンなどの甘いパンは除く）の摂取頻度について、「毎日 2 回以上」と「毎日 1 回」の計は、最終学歴別で専門学校・短大等の回答者、四大・大学院の回答者、小・中・高校の回答者の順に多い。
- パン（菓子パンなどの甘いパンは除く）の摂取頻度について、「毎日 2 回以上」と「毎日 1 回」の計は、体型別で低体重の回答者、適正体重の回答者、肥満の回答者の順に多い。

図表 15.4.食品の摂取頻度（パン）【単一選択】



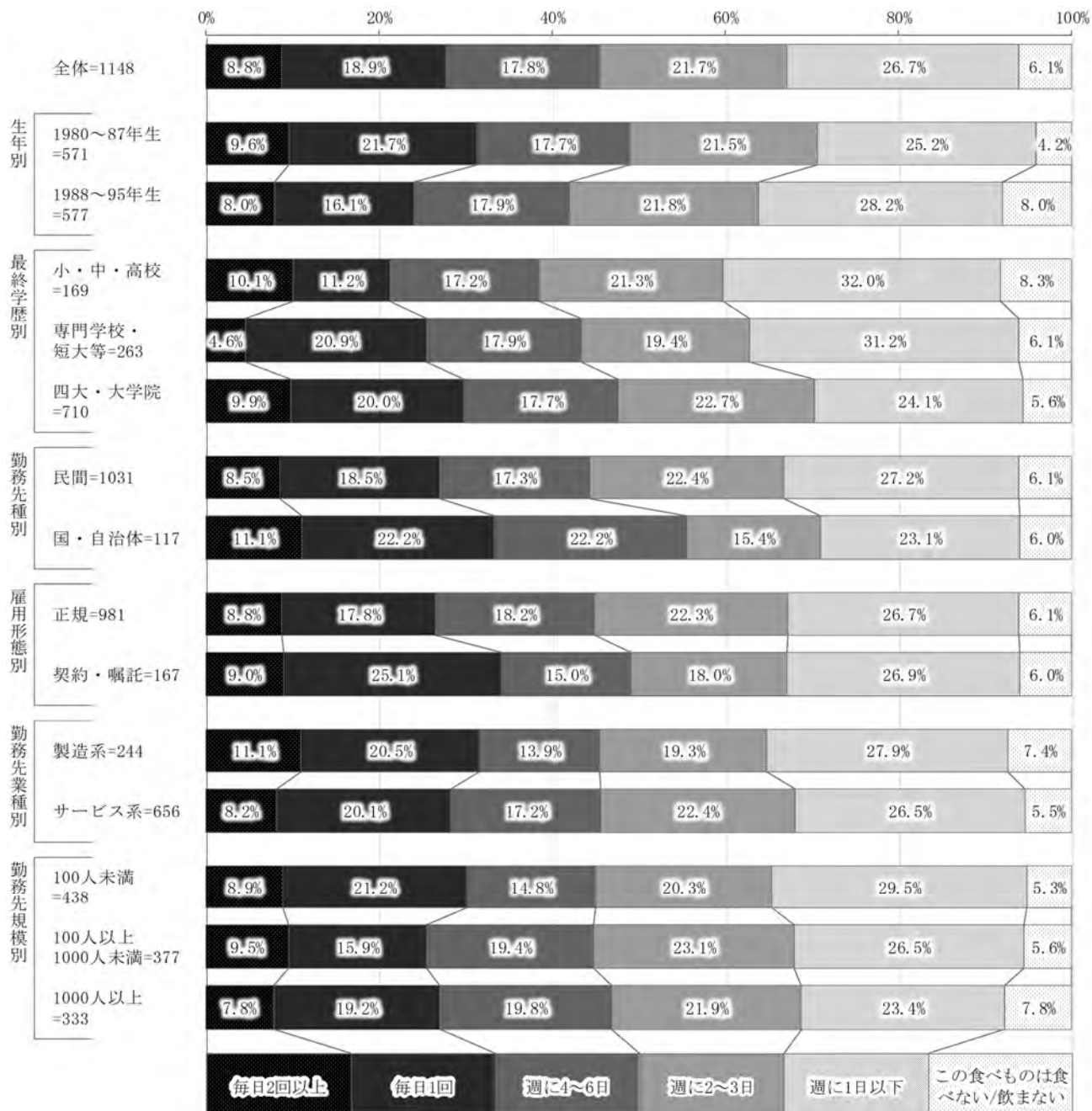


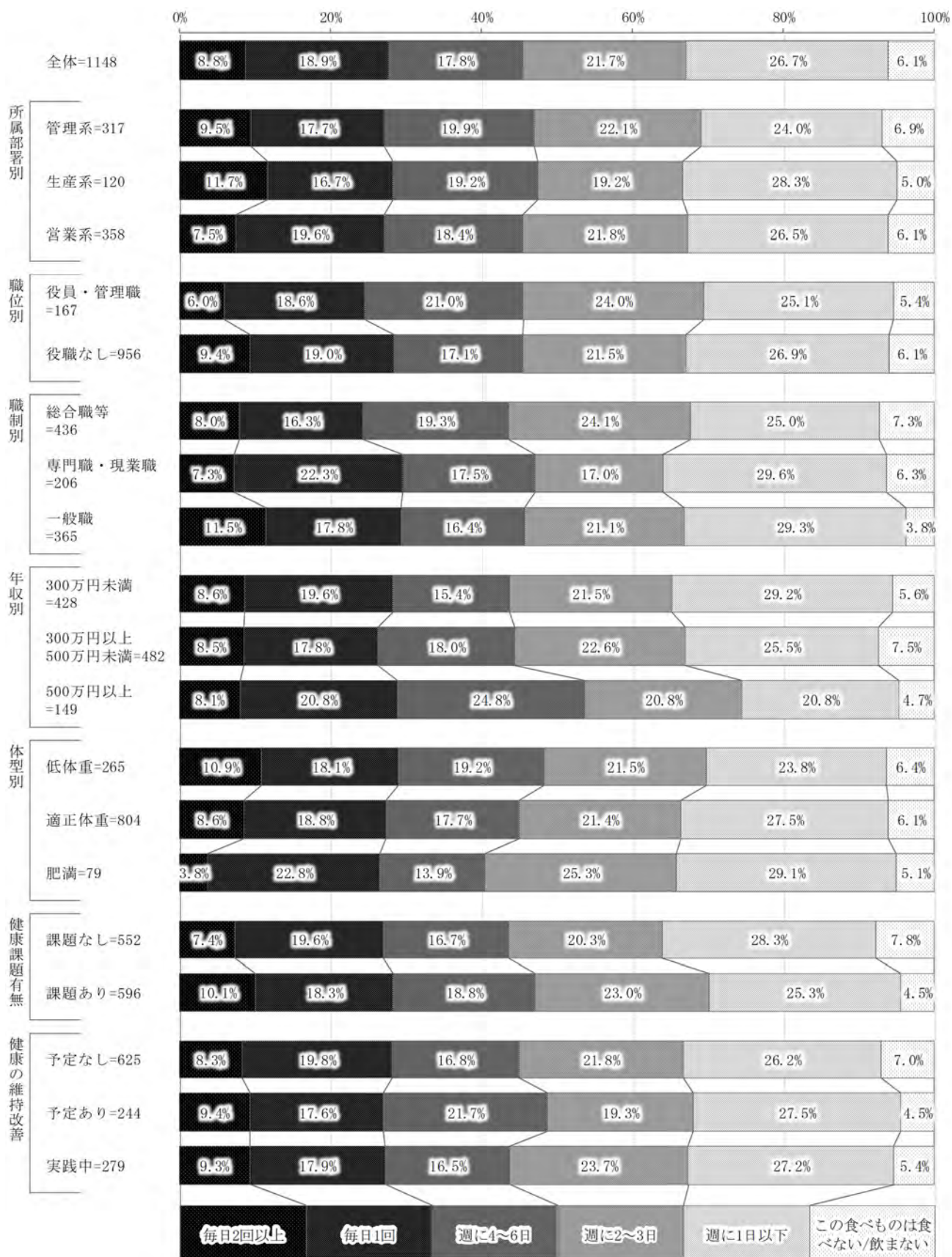


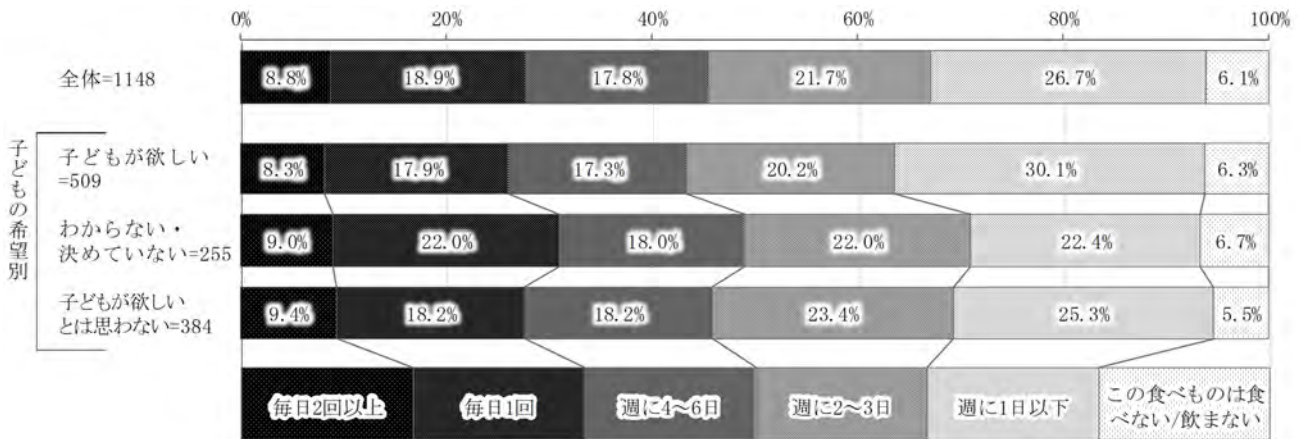
15.5. 食品の摂取頻度（菓子類）

- 概ね1か月を振り返った菓子類（菓子パンを含む）の摂取頻度を尋ねたところ、全体では「週に1日以下」が26.7%と最も多く、「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は3割に満たない。
- 菓子類（菓子パンを含む）の摂取頻度について、属性による差異はあまりないが、「週に1日以下」「この食べものは食べない/飲まない」の計は、最終学歴別で小・中・高校の回答者、専門学校・短大等の回答者、四大・大学院の回答者の順に多い。

図表 15.5.食品の摂取頻度（菓子類）[単一選択]



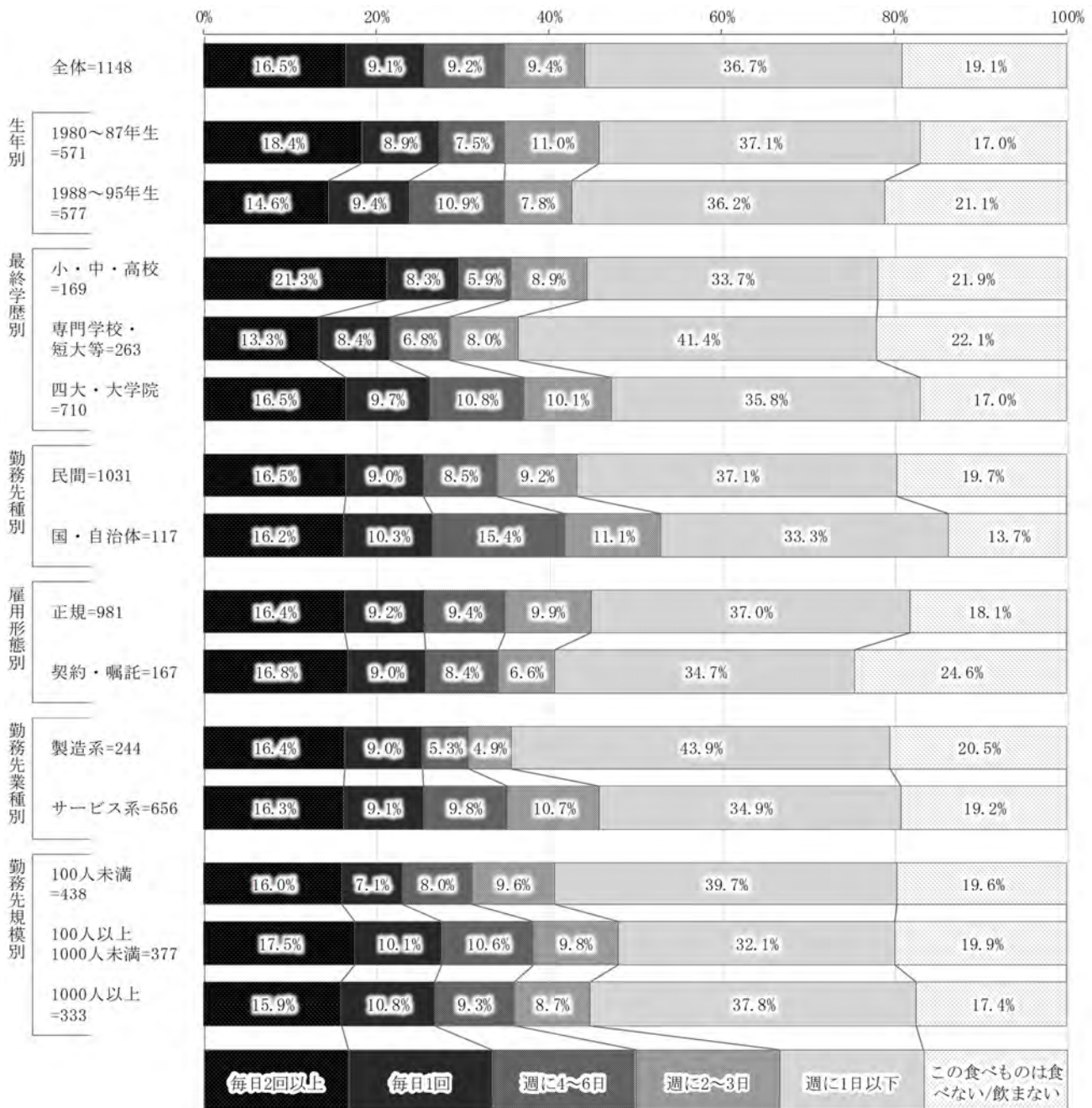


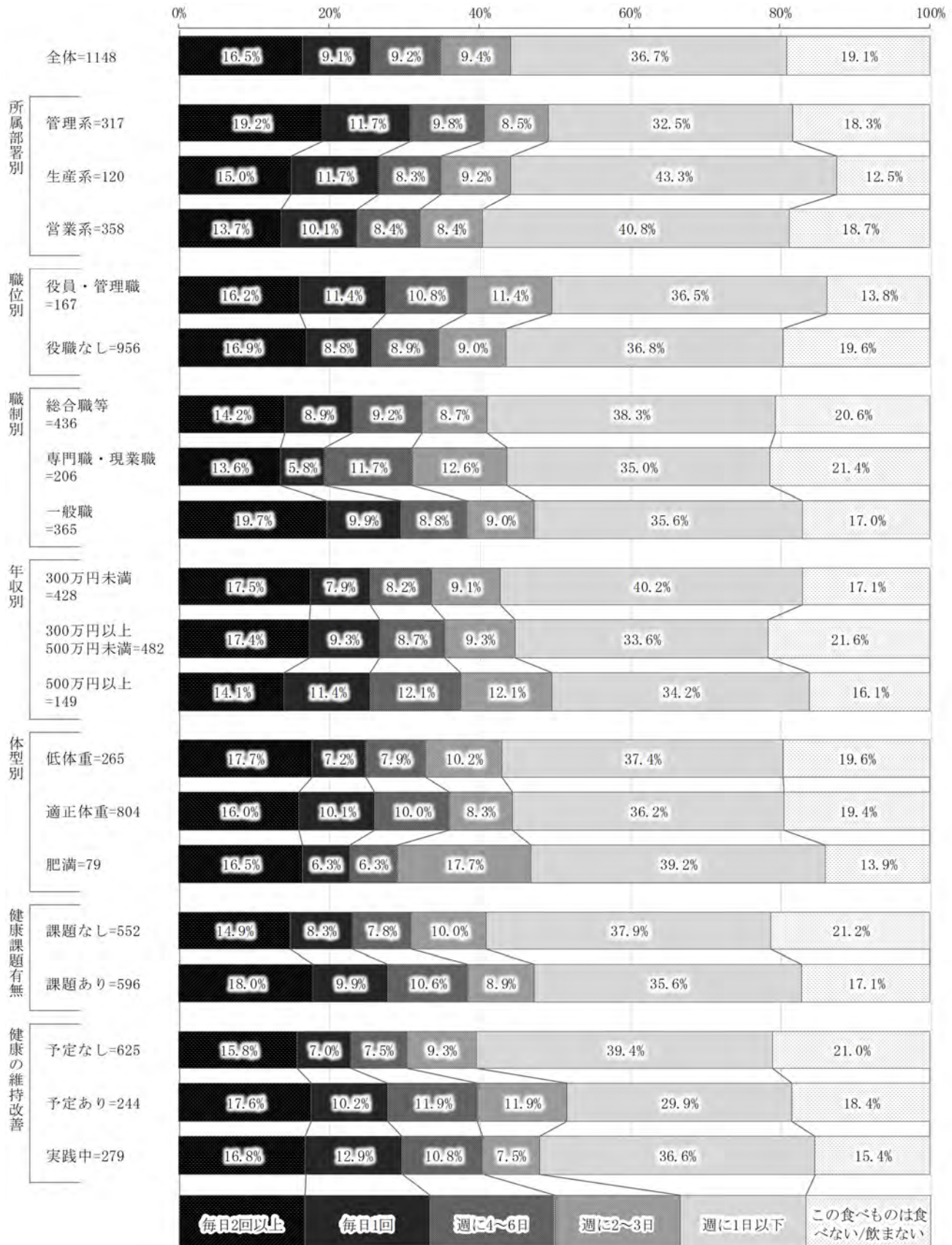


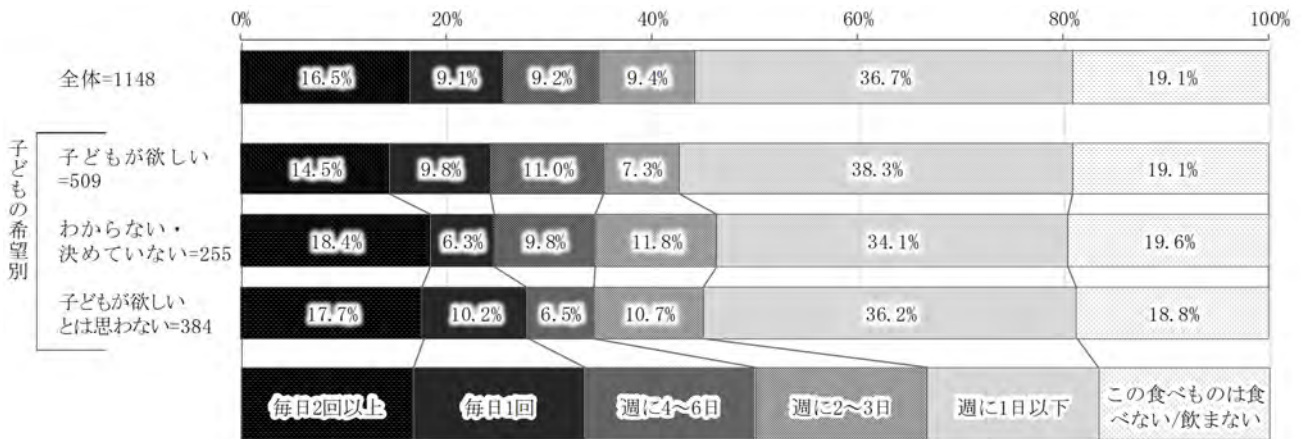
15.6. 食品の摂取頻度（嗜好飲料）

- 概ね1か月を振り返った嗜好飲料（茶、コーヒー、清涼飲料、ジュース・果汁入り飲料など）の摂取頻度を尋ねたところ、全体では「週に1日以下」が36.7%と最も多く、「週に1日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計が約6割に及ぶ。
- 嗜好飲料の摂取頻度について、属性による差異はあまりないが、「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は、職制別で一般職の回答者、総合職等の回答者、専門職・現業職の回答者の順に多い。
- 嗜好飲料の摂取頻度について、「週に1日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計は、最終学歴別で専門学校・短大等の回答者、小・中・高校の回答者、四大・大学院の回答者の順に多い。

図表 15.6.食品の摂取頻度（嗜好飲料）【単一選択】



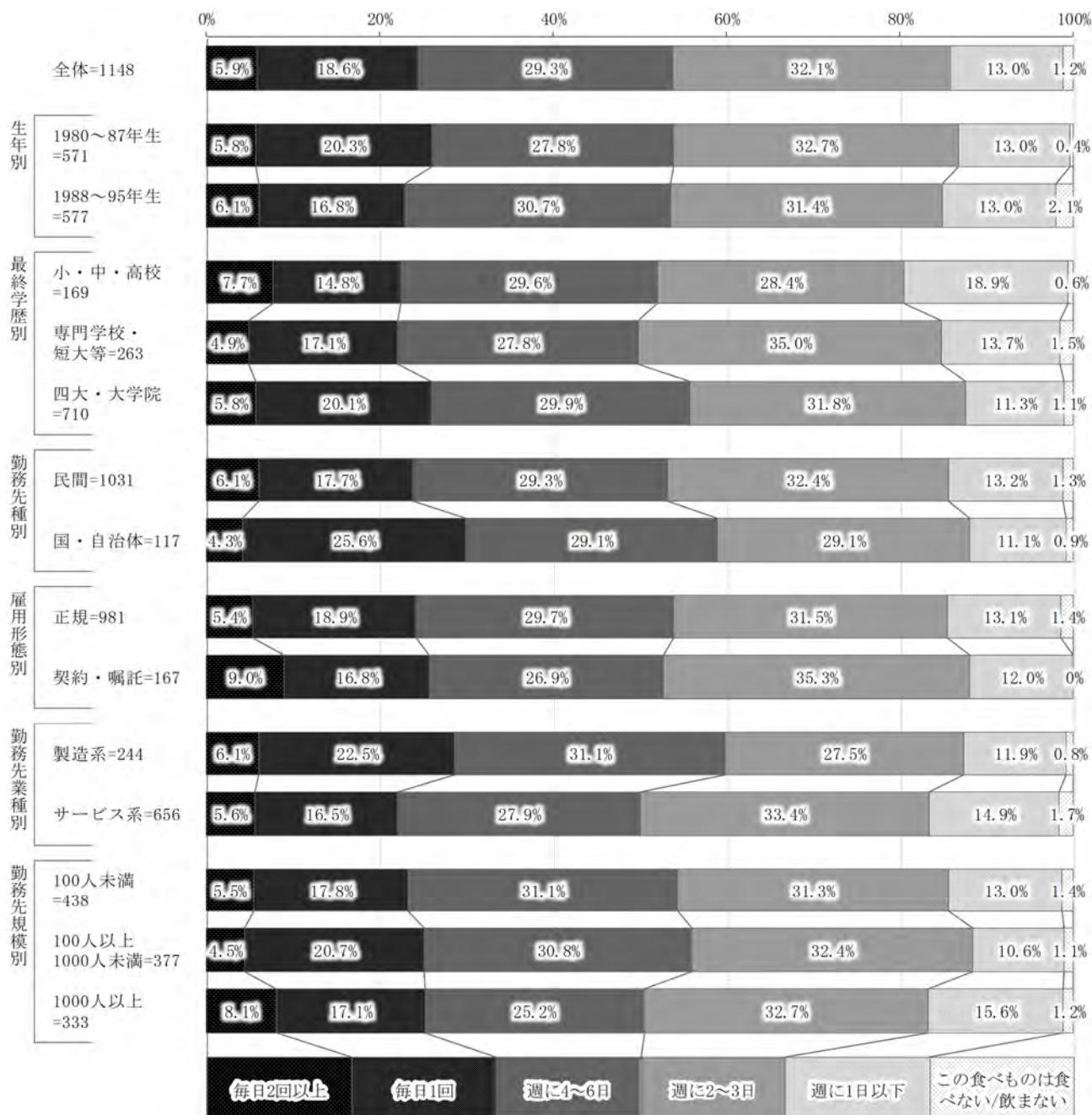


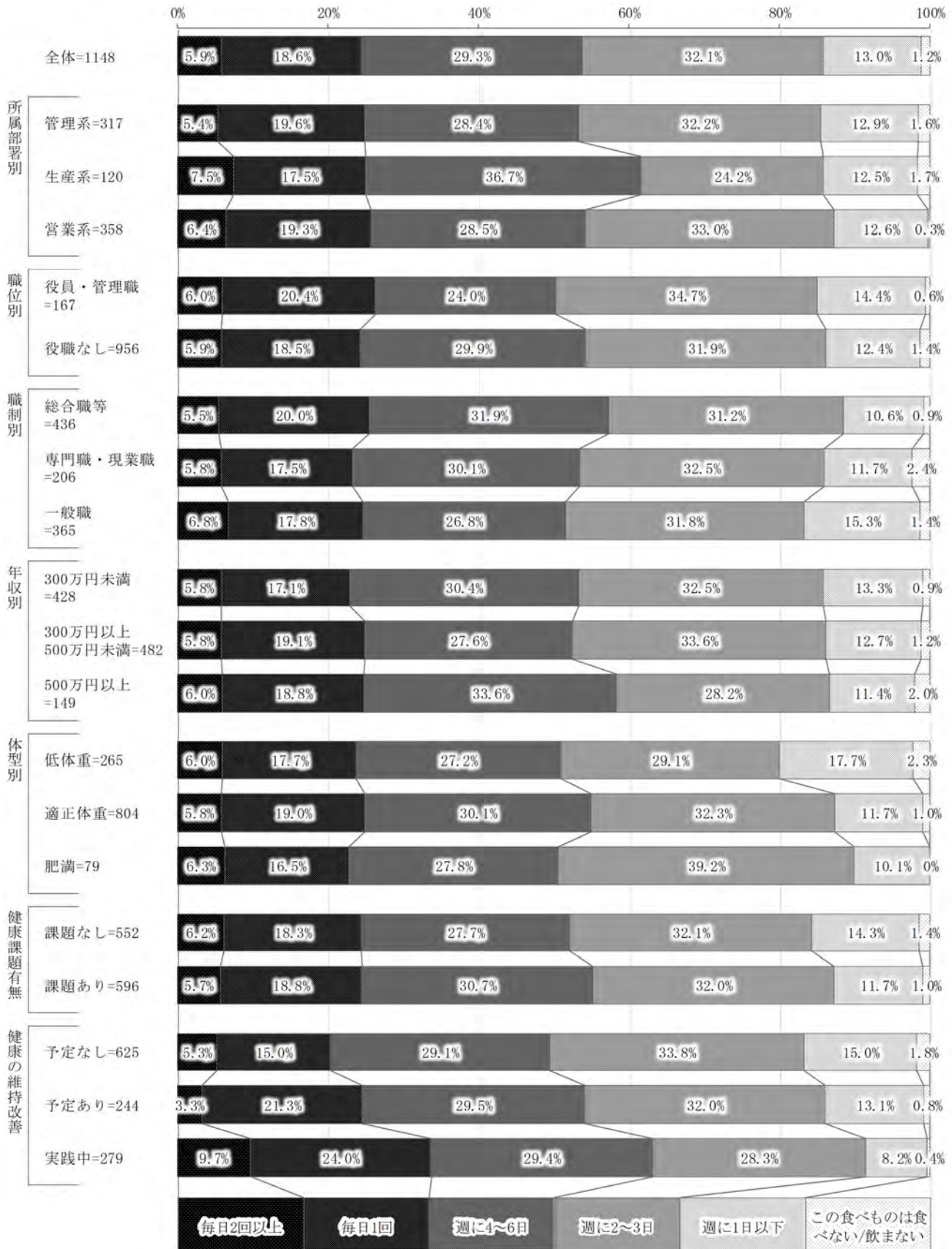


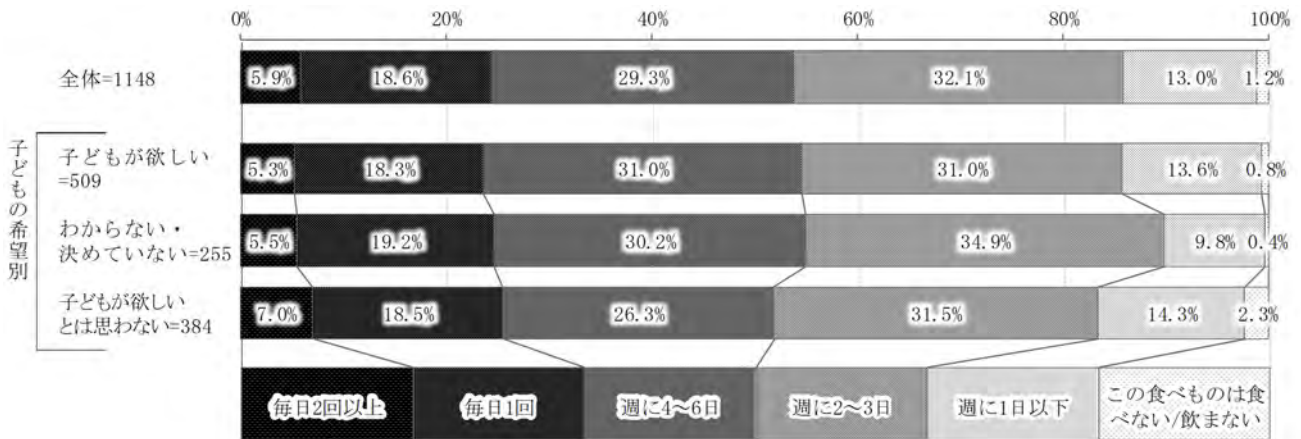
15.7. 食品の摂取頻度（卵類）

- 概ね1か月に振り返った卵類の摂取頻度を尋ねたところ、全体では「週に2~3日」が32.1%と最も多く、次いで「週に4~6日」も29.3%と同程度あった。「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は約2割だった。
- 卵類の摂取頻度について、属性による差異はあまりない。

図表 15.7.食品の摂取頻度（卵類）[単一選択]



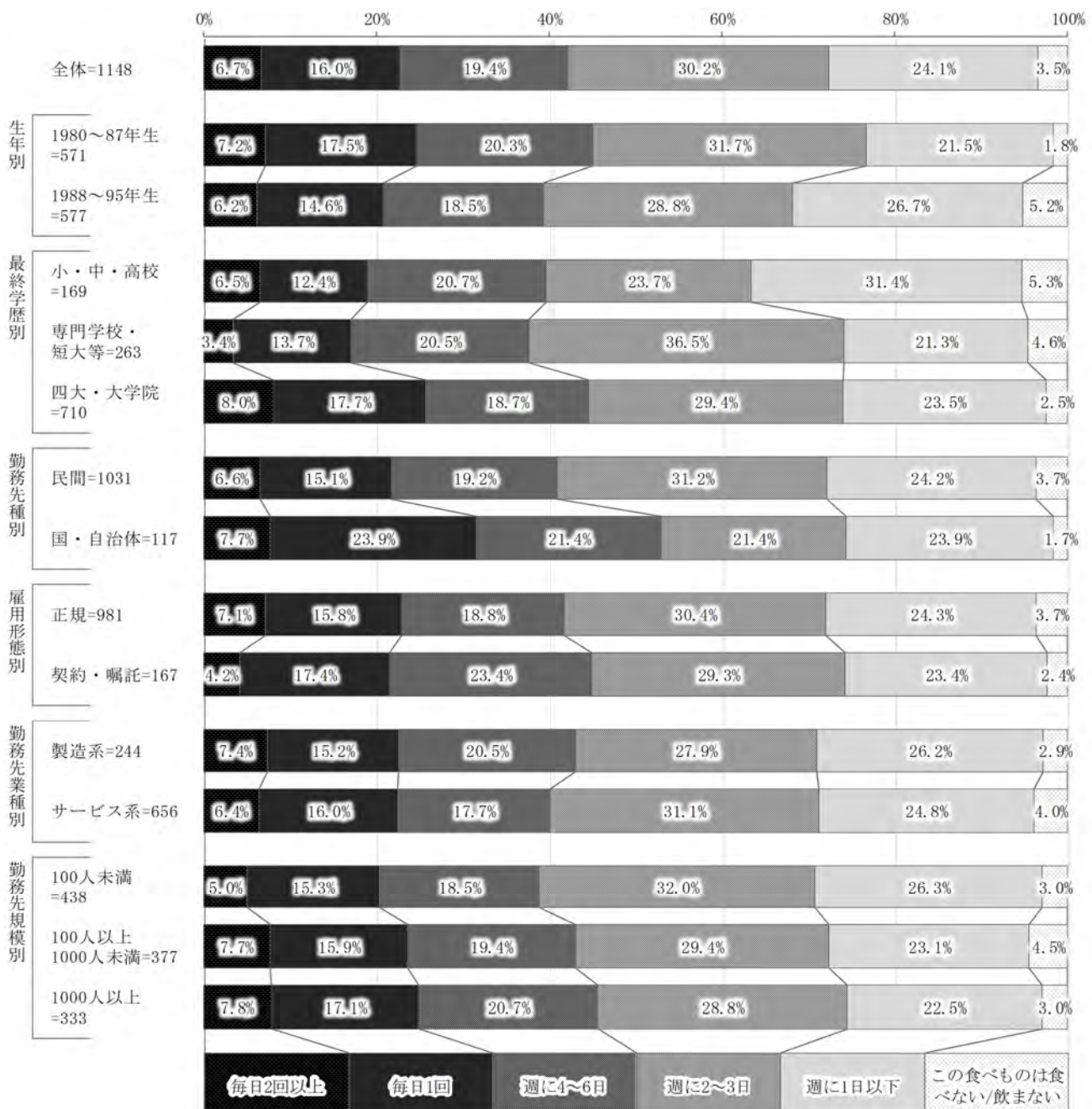


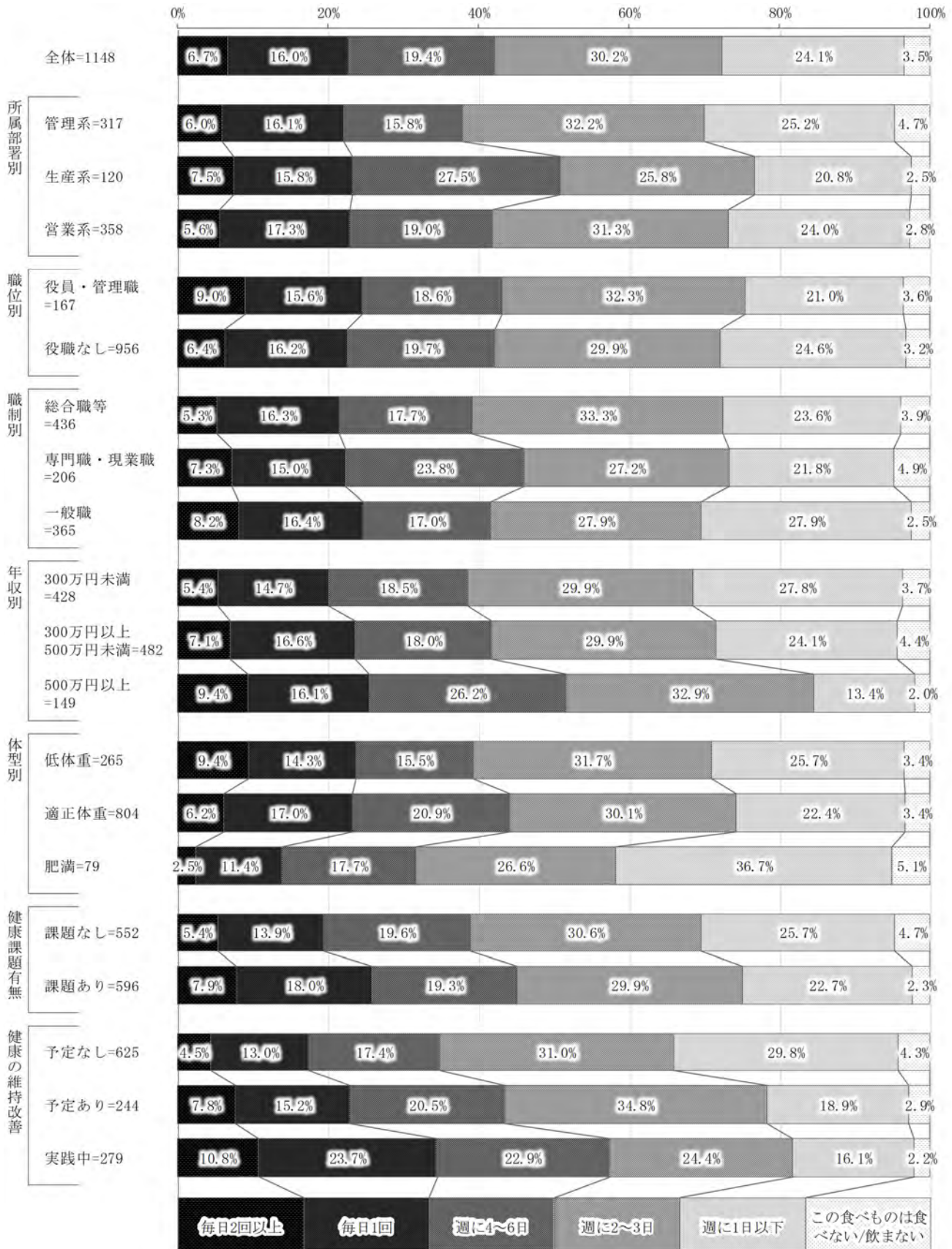


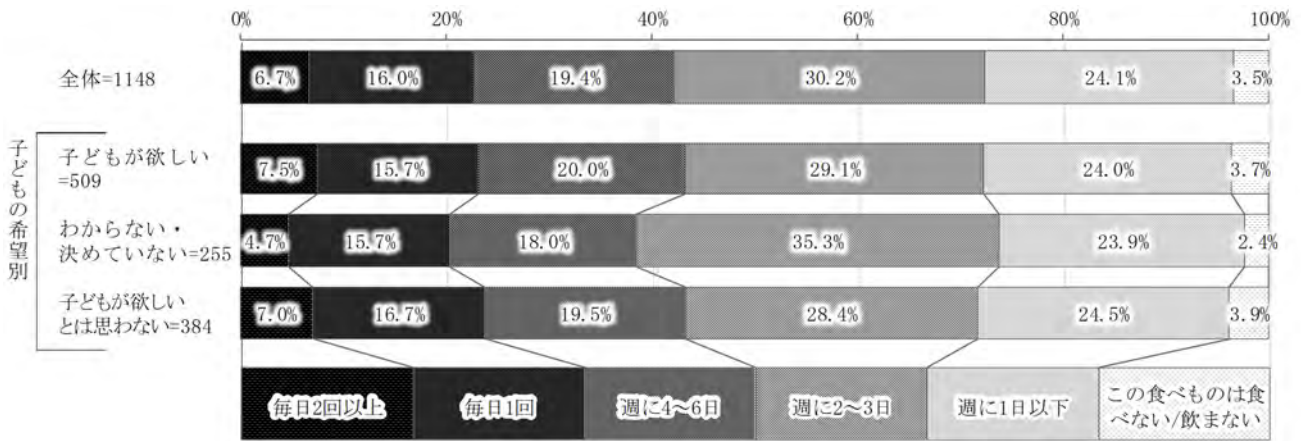
15.8. 食品の摂取頻度（大豆・大豆製品）

- 概ね1か月を振り返った大豆・大豆製品の摂取頻度を尋ねたところ、「週に2～3日」が30.2%と最も多く、「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は約2割だった。
- 大豆・大豆製品の摂取頻度について、「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は、健康の維持改善で実践中の回答者、予定の回答者、予定なしの回答者の順に多い。
- 大豆・大豆製品の摂取頻度について、「週に1日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計は、最終学歴別で小・中・高校の回答者、四大・大学院の回答者、専門学校・短大等の回答者の順に多い。
- 大豆・大豆製品の摂取頻度について、体型別では、肥満の回答者、低体重の回答者、適正体重の回答者の順に多い。

図表 15.8.食品の摂取頻度（大豆・大豆製品）[単一選択]



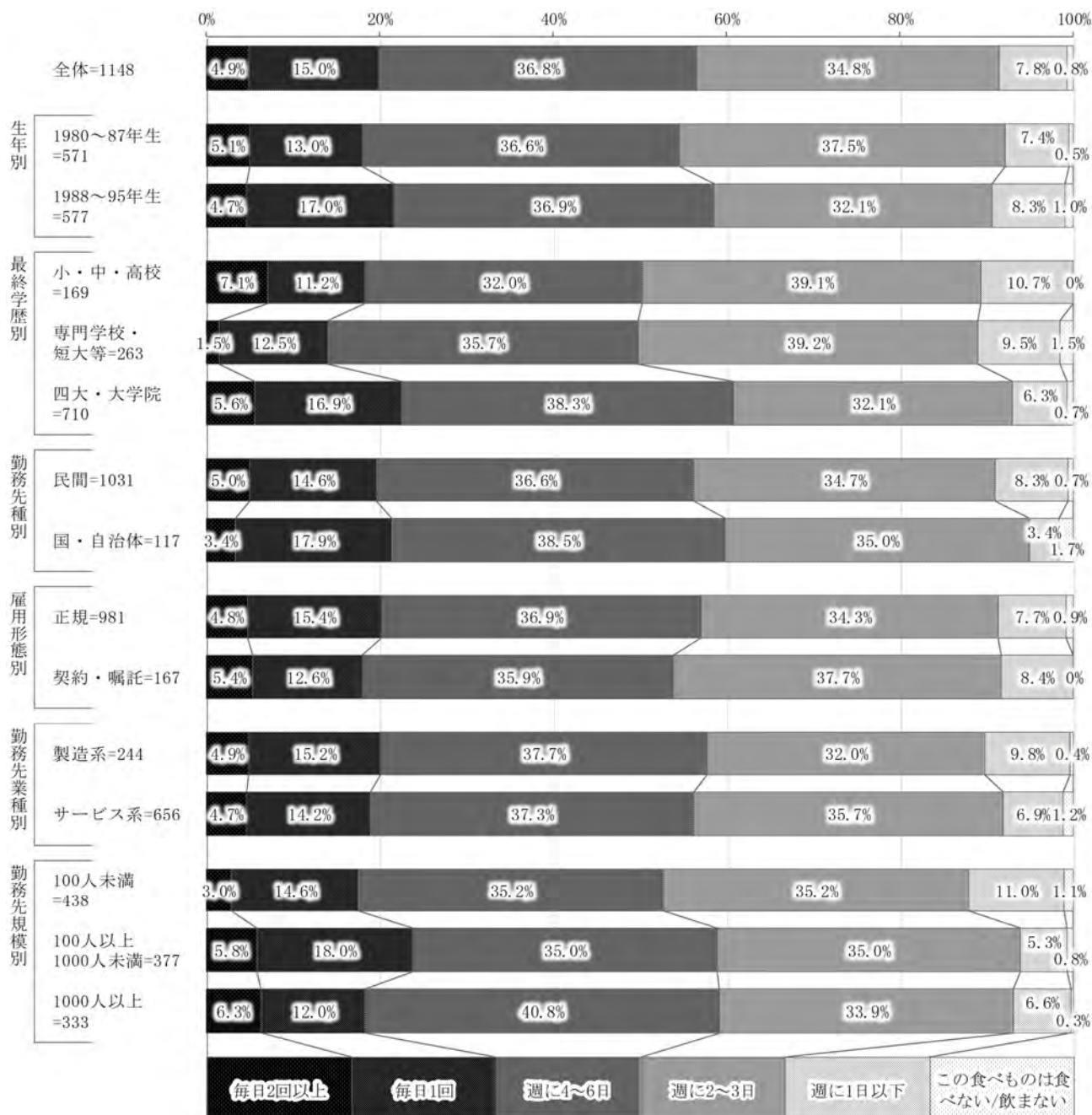


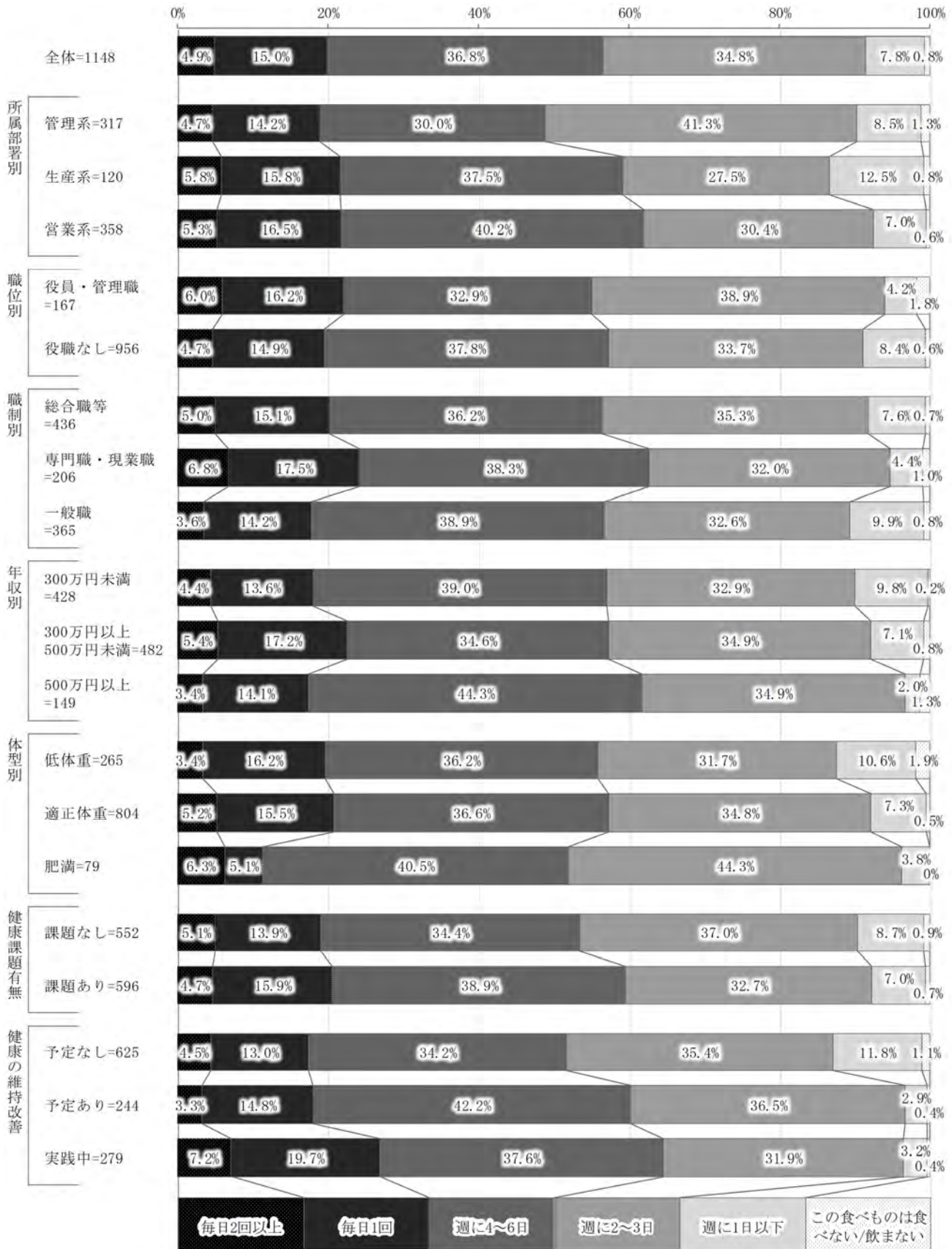


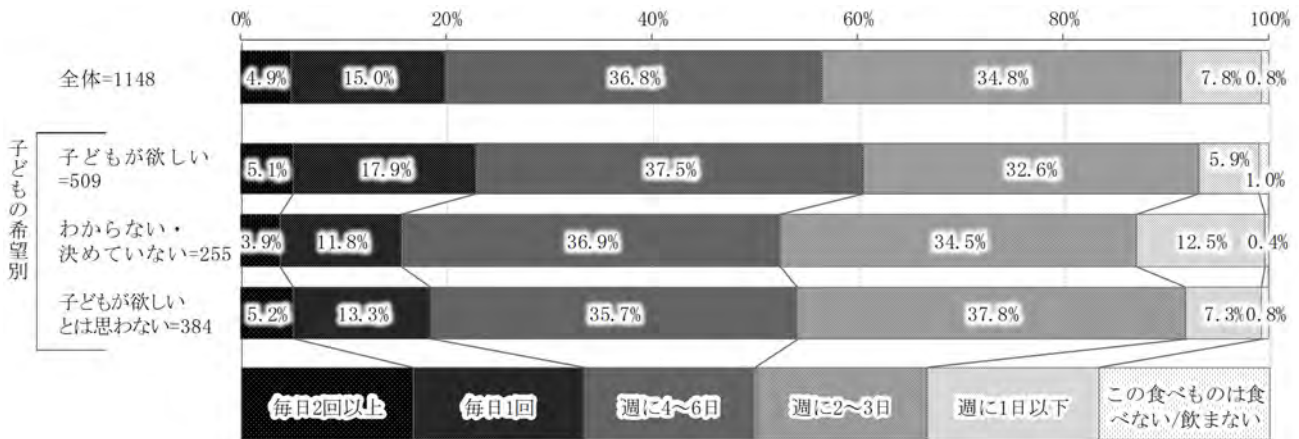
15.9. 食品の摂取頻度（肉類）

- 概ね1か月を振り返った肉類の摂取頻度を尋ねたところ、全体では「週に4~6日」が36.8%と最も多く、次いで「週に2~3日」も34.8%と同程度あった。「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は2割に満たない。
- 肉類の摂取頻度について、属性による差異はあまりない。

図表 15.9.食品の摂取頻度（肉類）[単一選択]



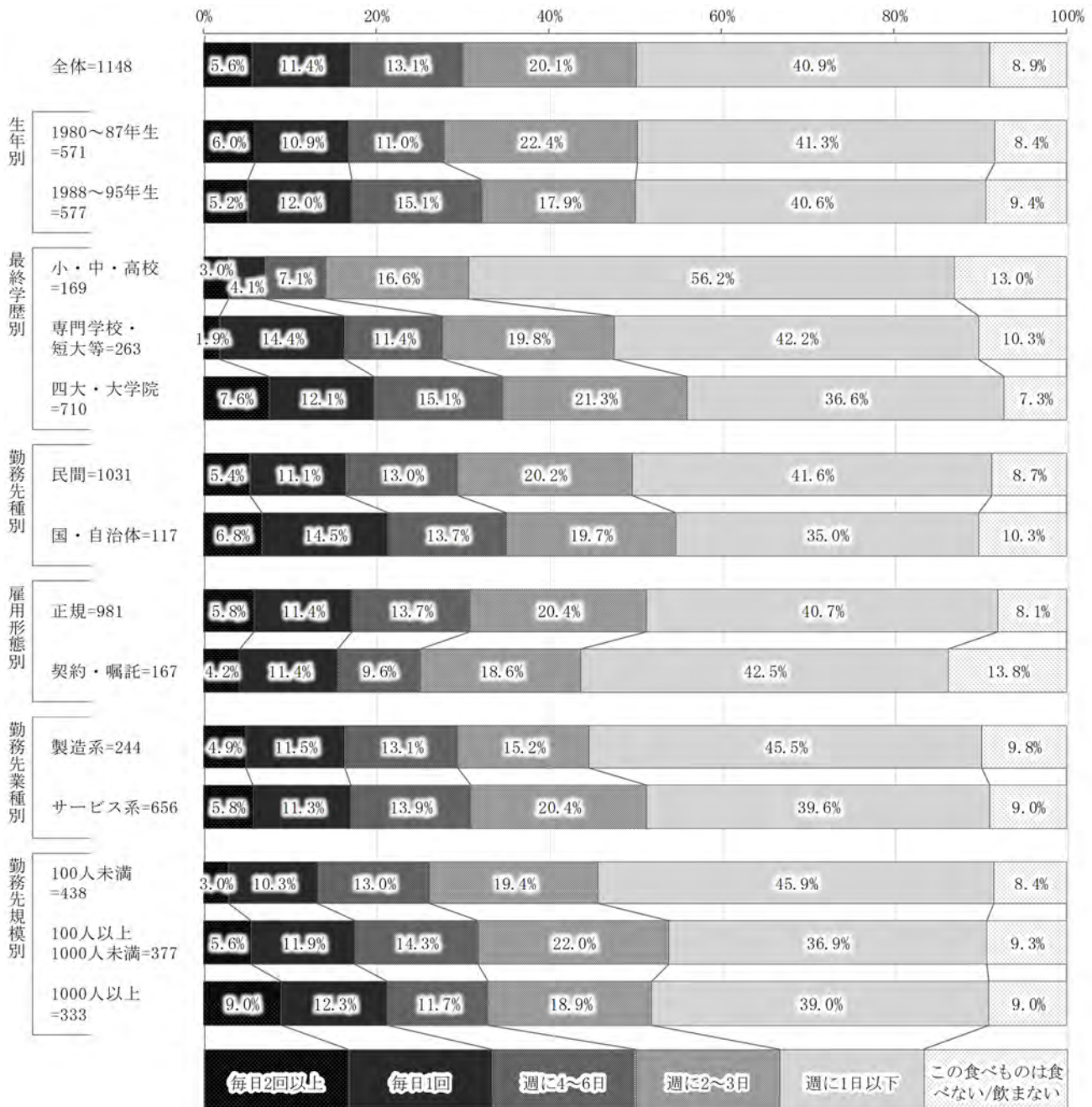


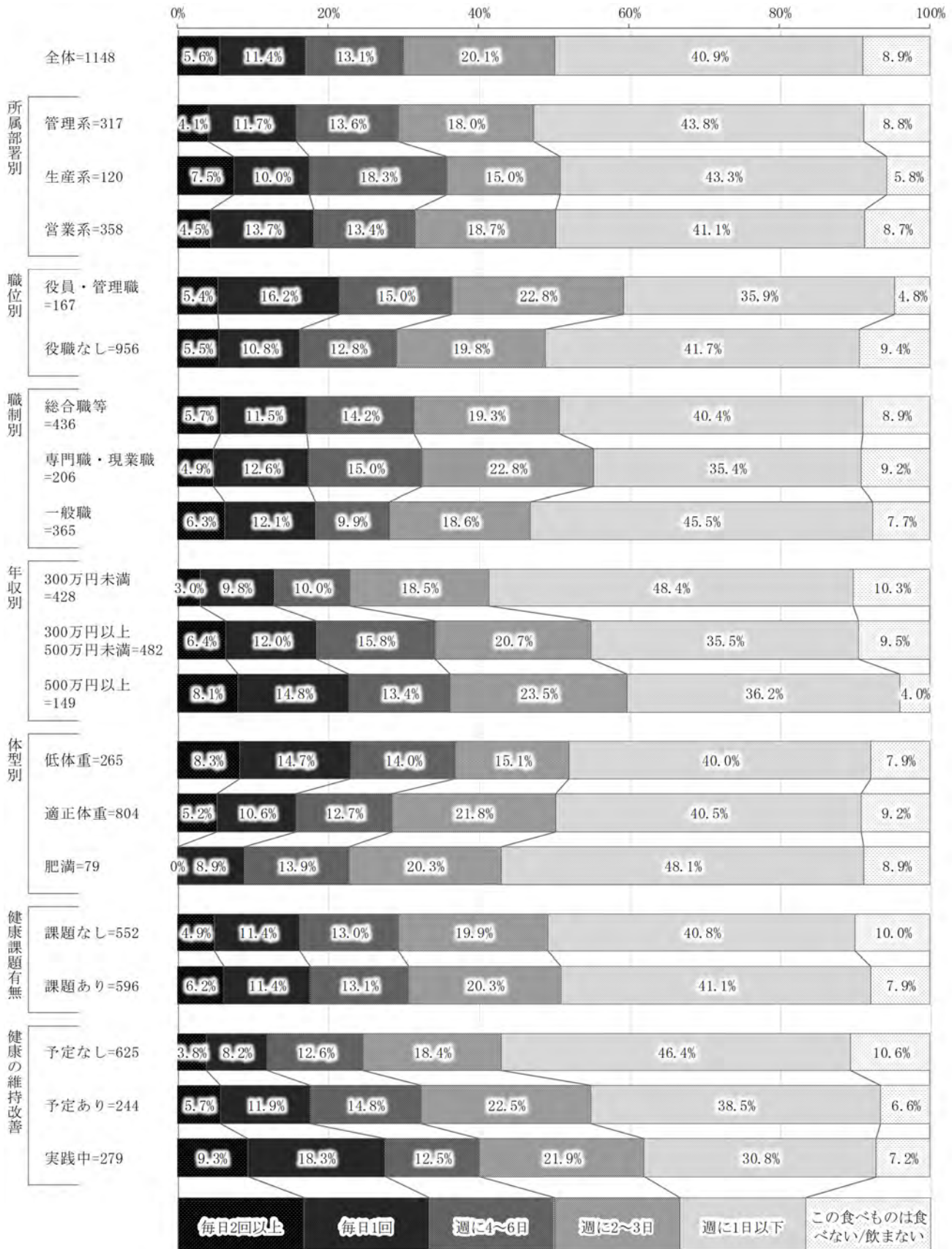


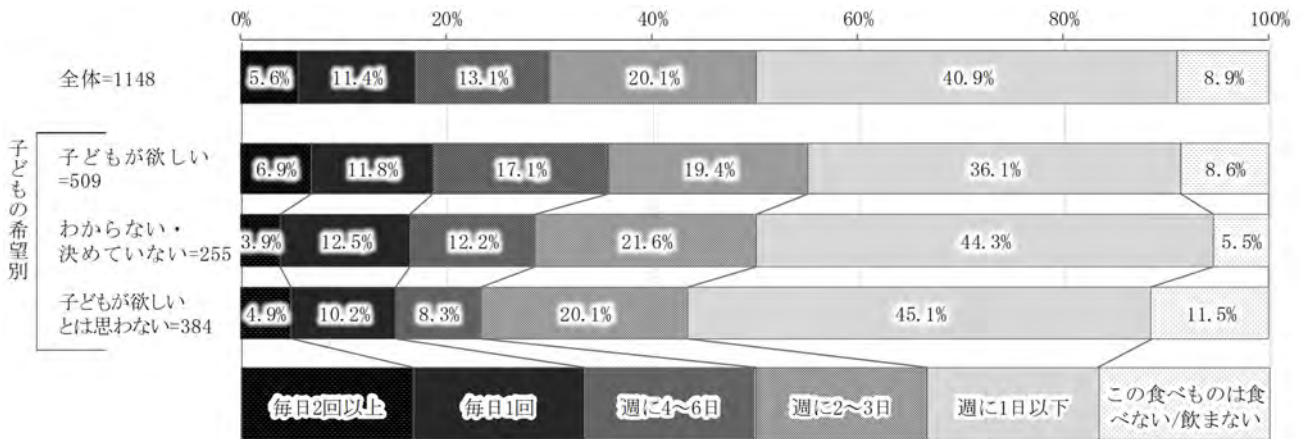
15.10. 食品の摂取頻度（果実類）

- 概ね1か月を振り返った果実類の摂取頻度を尋ねたところ、全体では「週に1日以下」が40.9%と最も多く、「週に1日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計は約5割に及ぶ。
- 果実類の摂取頻度について、「毎日2回以上」と「毎日1回」の計は、体型別で低体重の回答者、適正体重の回答者、肥満の回答者が多い。
- 果実類の摂取頻度について、「週に1日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計は、最終学歴別で小・中・高校の回答者、専門学校・短大等の回答者、最終学歴別で四大・大学院の回答者の順に多い。
- 果実類の摂取頻度について、健康の維持改善では、予定なしの回答者、予定ありの回答者、実践中の回答者の順に多い。

図表 15.10.食品の摂取頻度（果実類）【単一選択】



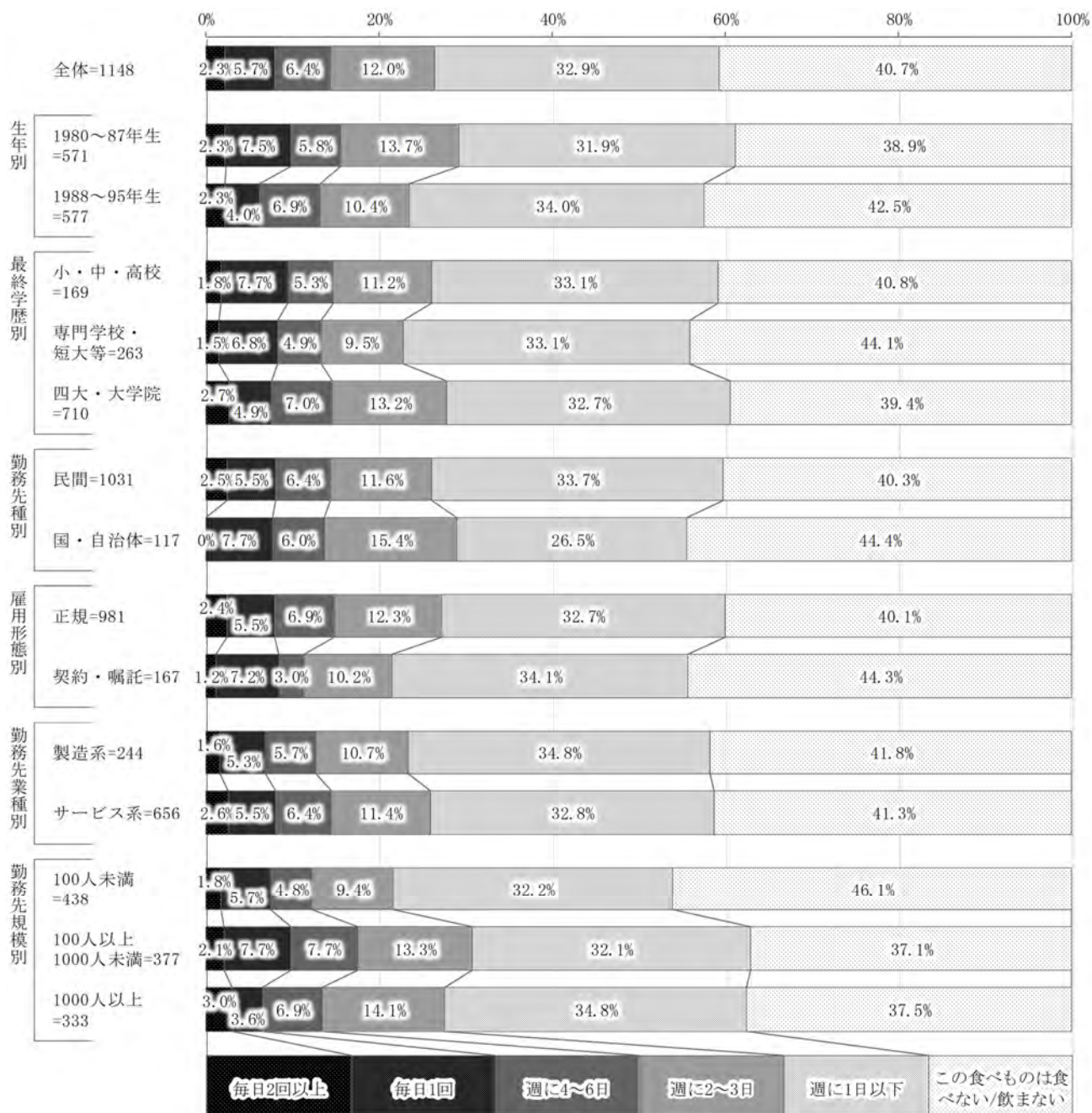


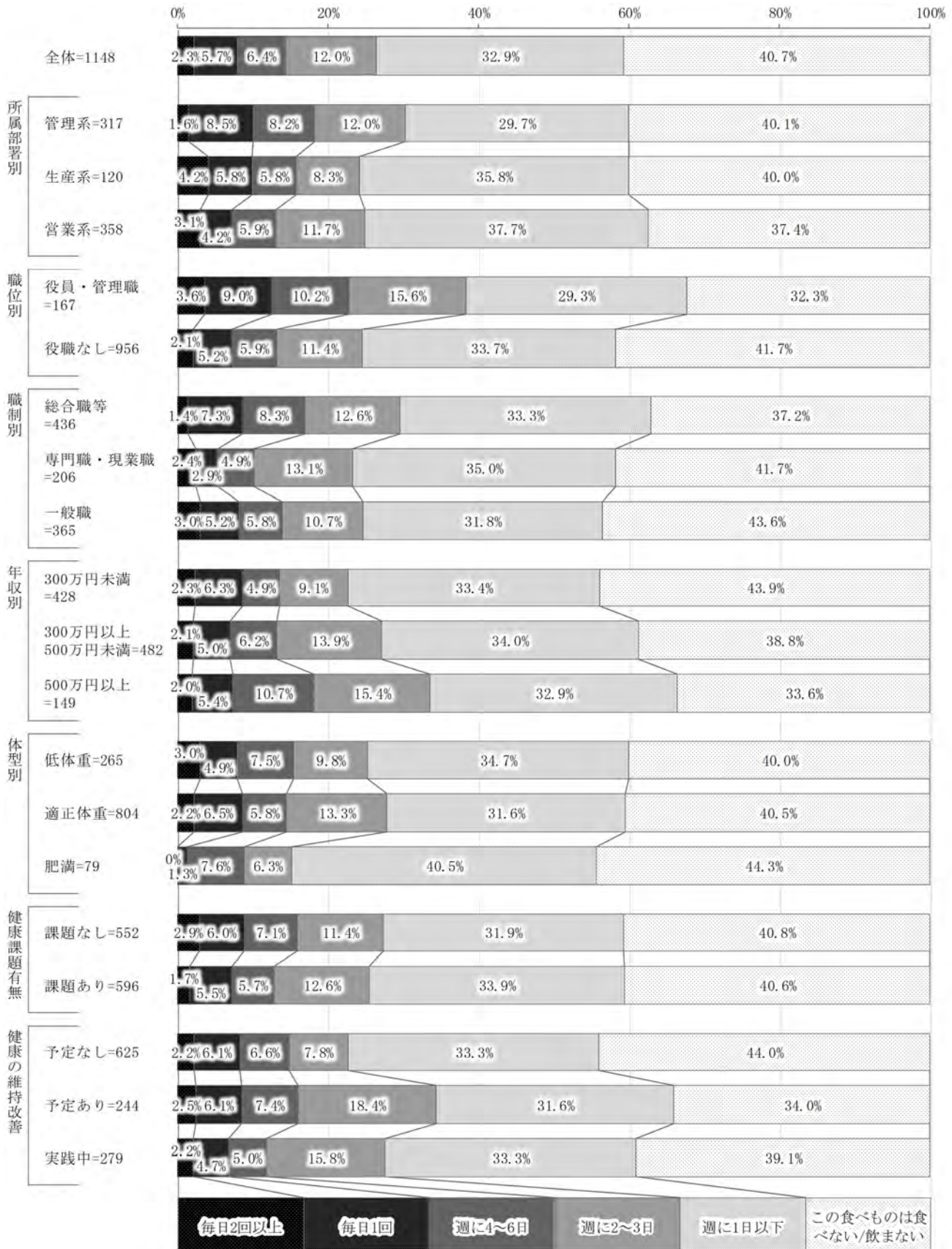


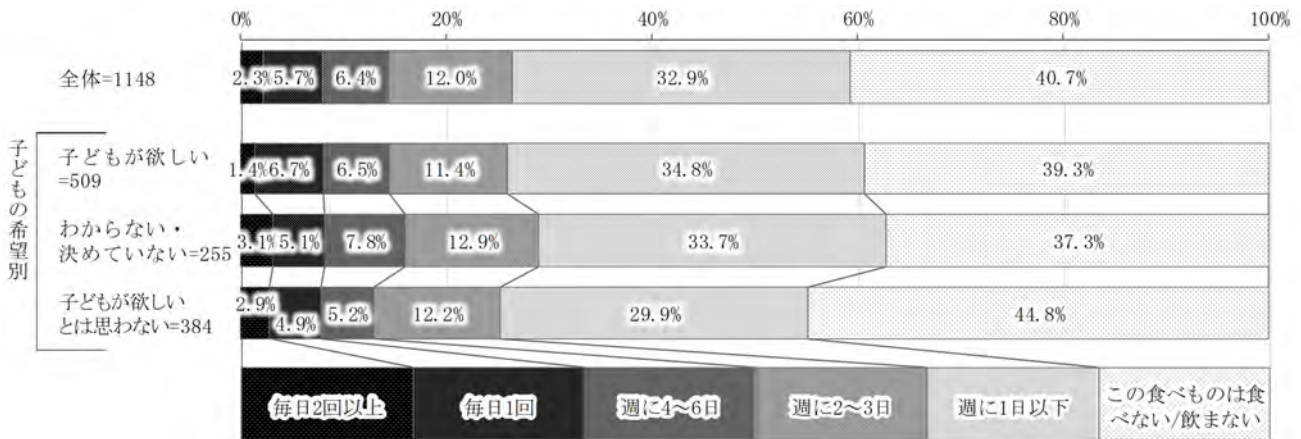
15.11. 食品の摂取頻度（アルコール）

- 概ね 1 か月を振り返ったアルコールの摂取頻度を尋ねたところ、全体では「この食べものは食べない／飲まない」が 40.7%と最も多く、「週に 1 日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計は 7 割を超える。
- アルコールの摂取頻度について、体型別では肥満の回答者、低体重の回答者、適正体重の回答者の順に多い。

図表 15.11.食品の摂取頻度（アルコール）【単一選択】



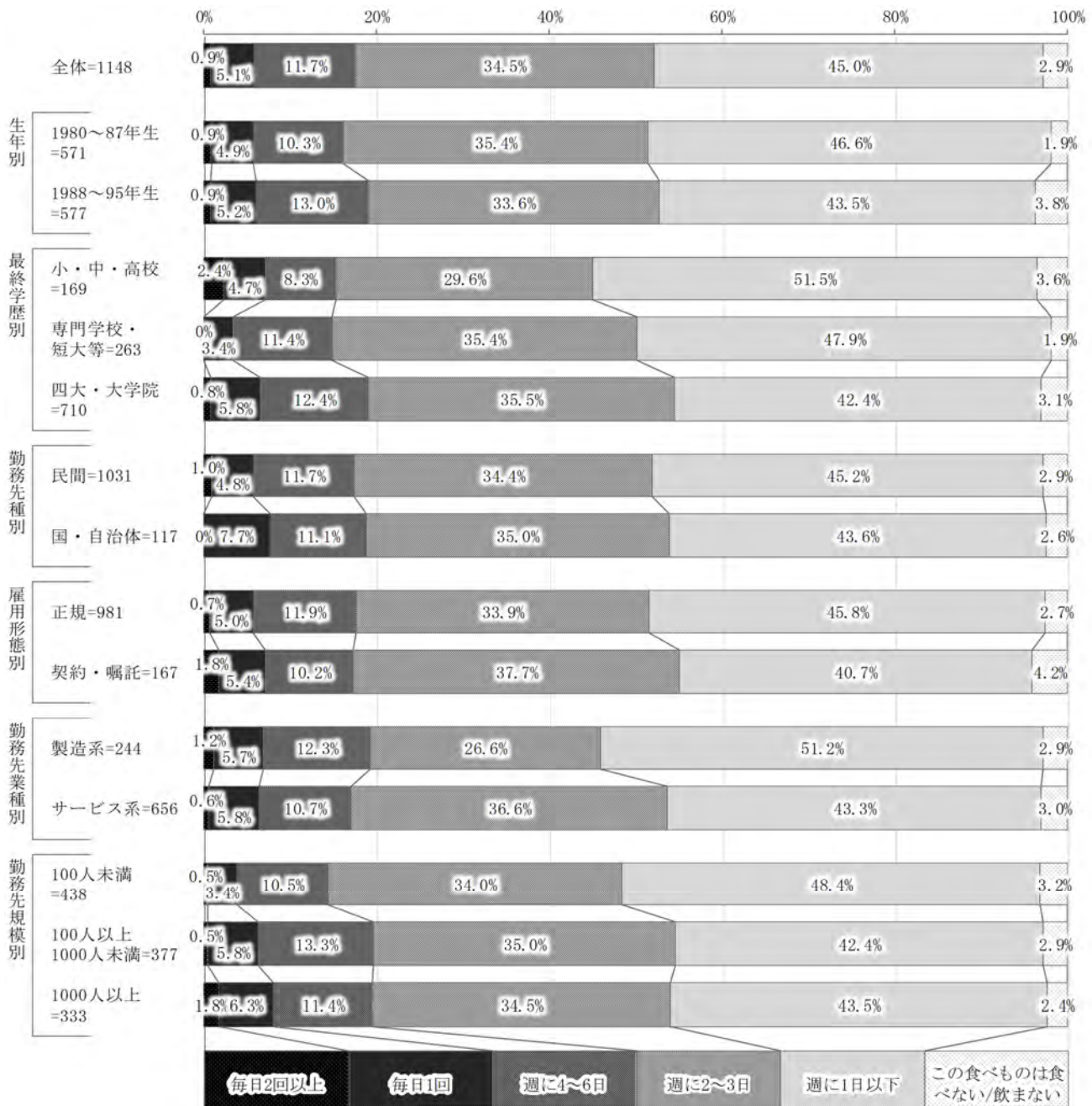


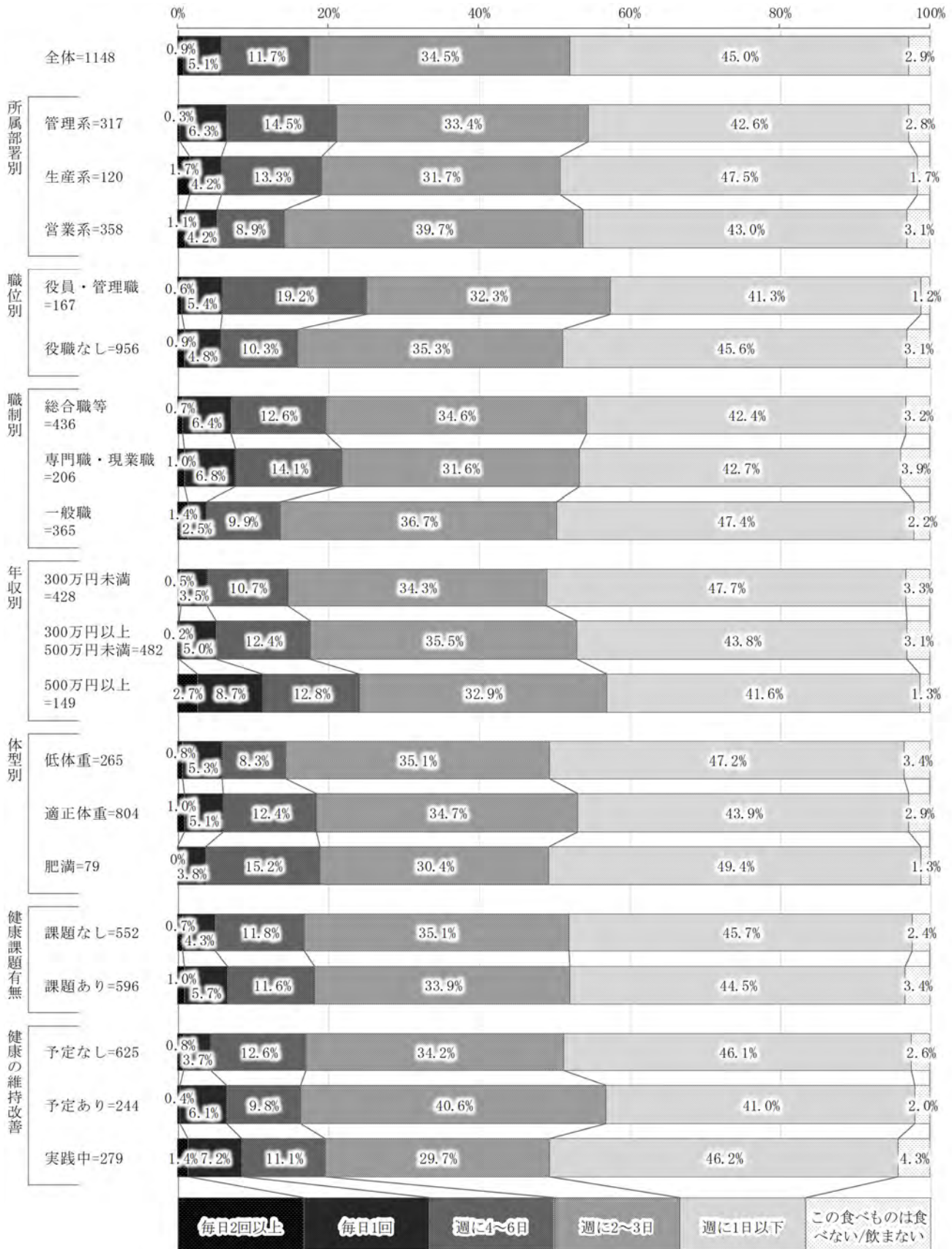


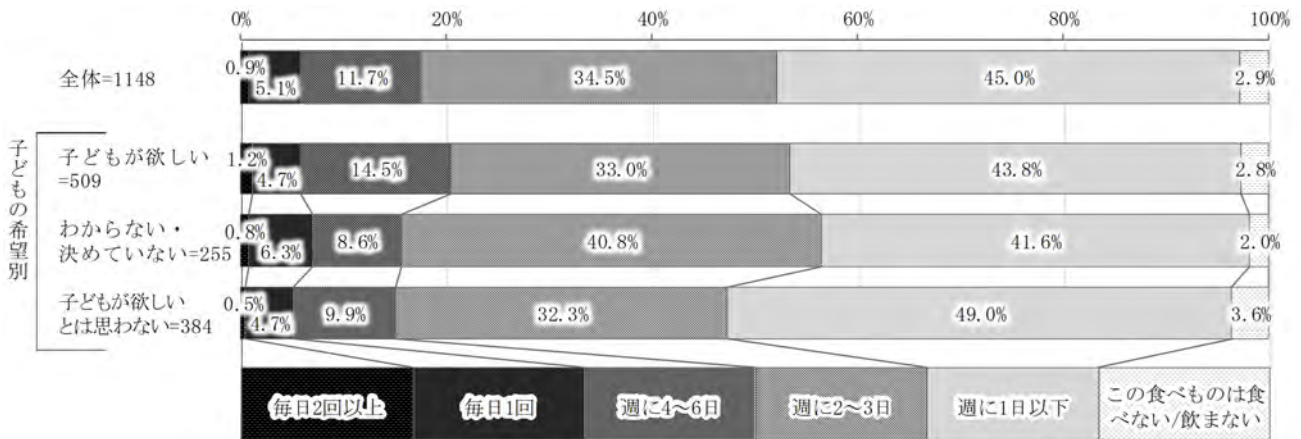
15.12. 食品の摂取頻度（麺類）

- 概ね1か月を振り返った麺類の摂取頻度を尋ねたところ、全体では「週に1日以下」が45.0%と最も多く、「週に1日以下」「この食べものは食べない/飲まない」の計は約5割に及ぶ。
- 麺類の摂取頻度について、属性による差異はあまりない。

図表 15.12.食品の摂取頻度（麺類）[単一選択]



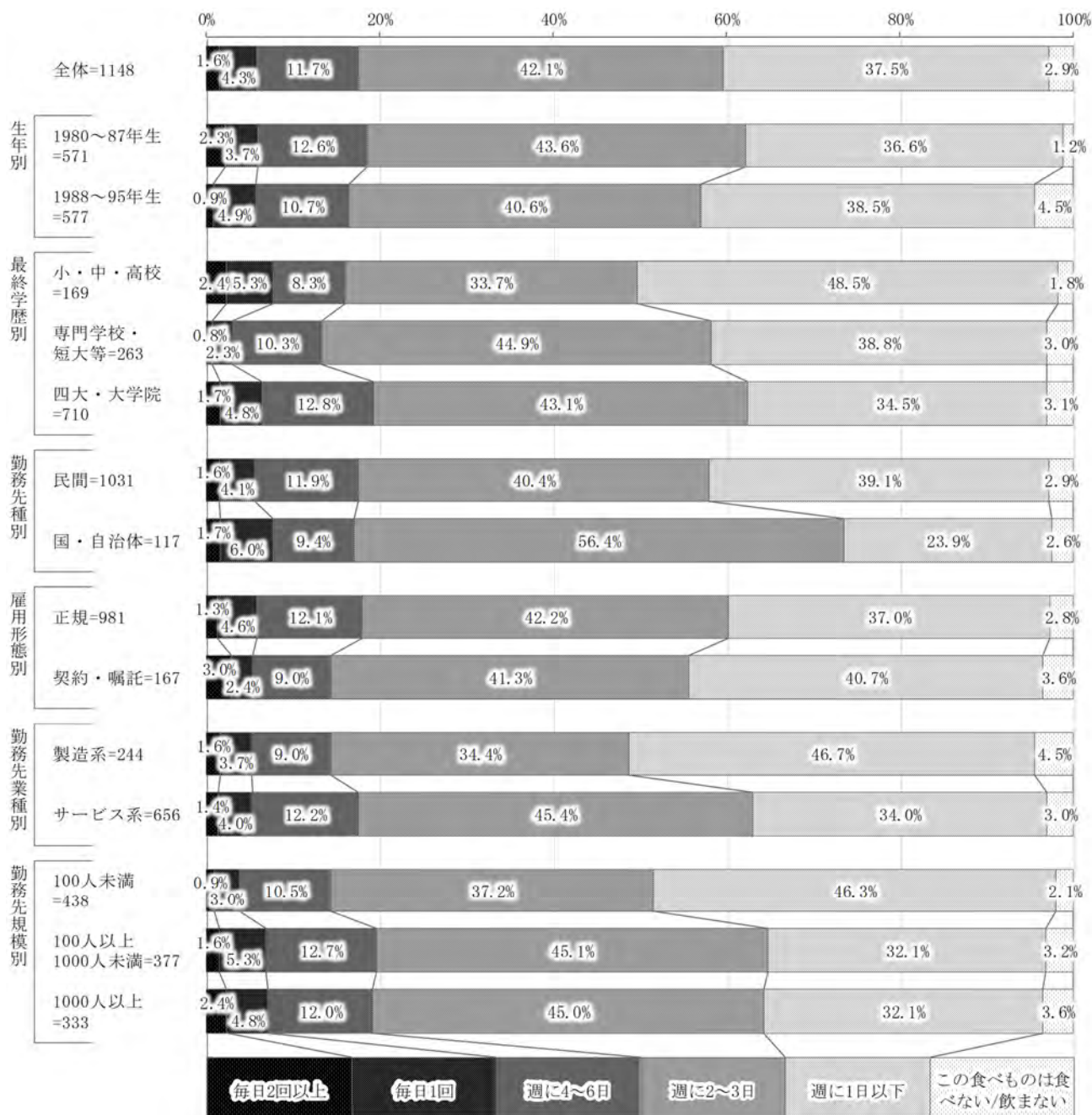


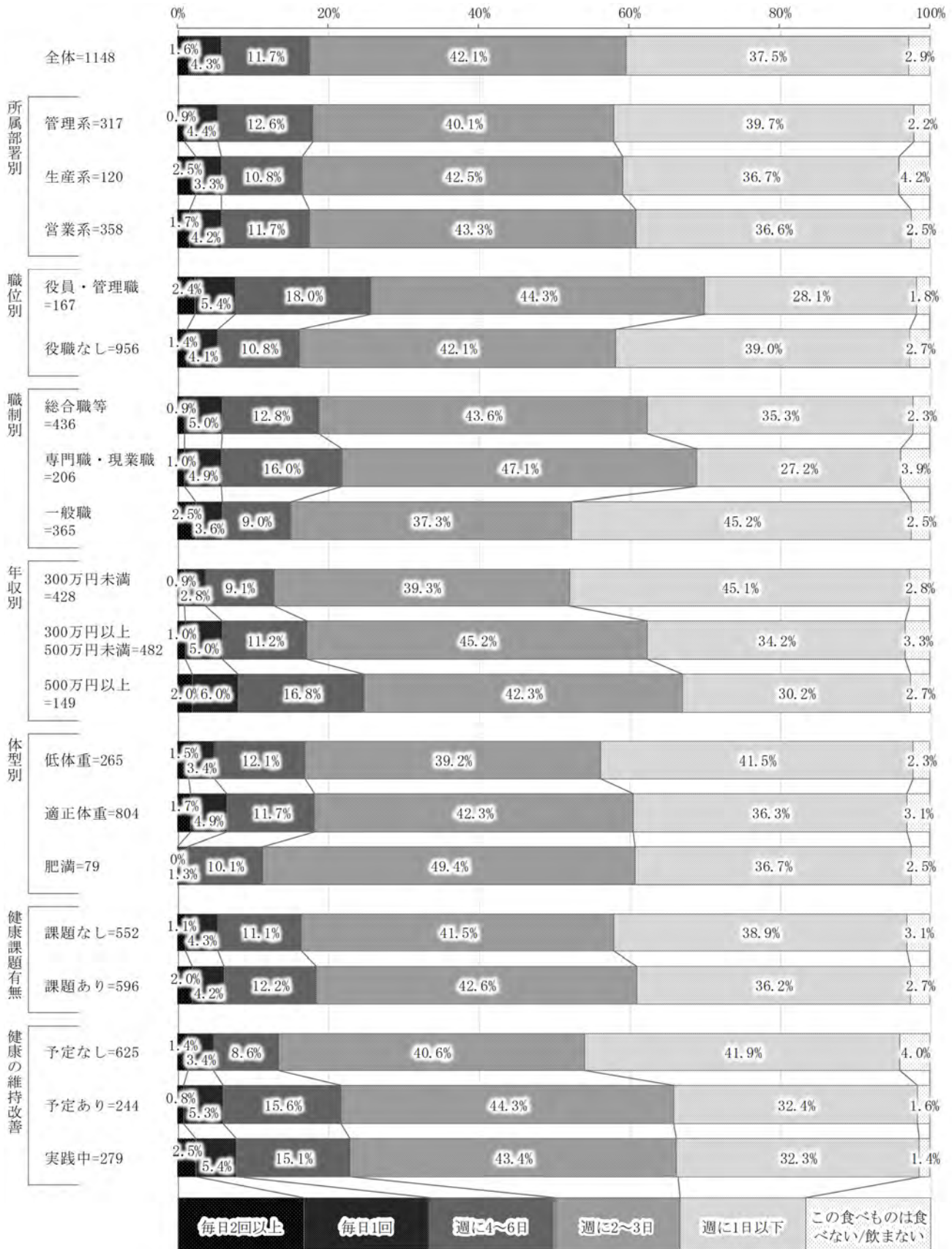


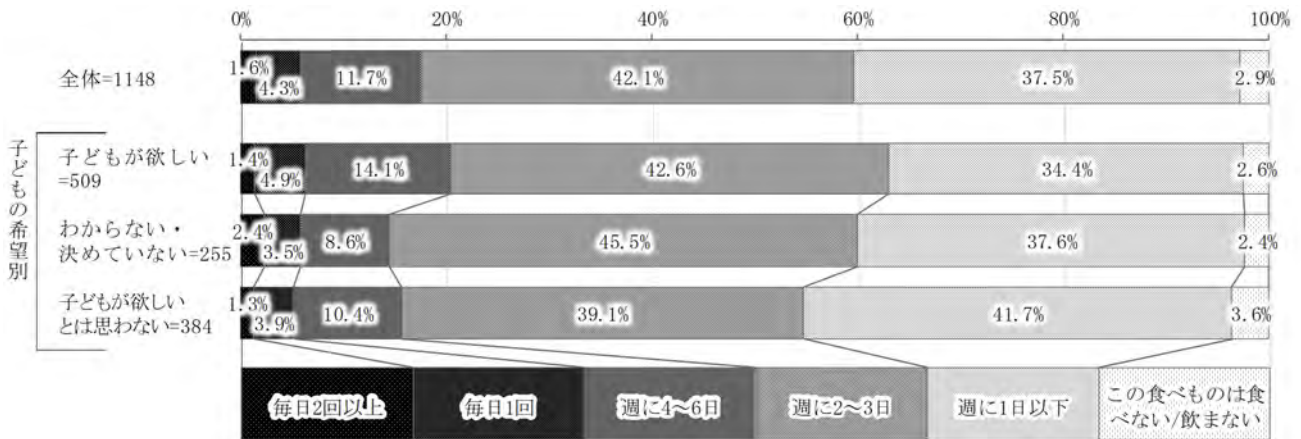
15.13. 食品の摂取頻度（魚介類）

- 概ね1か月を振り返った魚介類の摂取頻度を尋ねたところ、全体では「週に2~3日」が42.1%と最も多く、次いで「週に4~6日」も37.5%と同程度あった。「週に1日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計は4割を超える。
- 魚介類の摂取頻度について、「週に1日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計は、最終学歴別で小・中・高校の回答者、専門学校・短大等の回答者、四大・大学院の回答者の順に多い。

図表 15.13.食品の摂取頻度（魚介類）【単一選択】



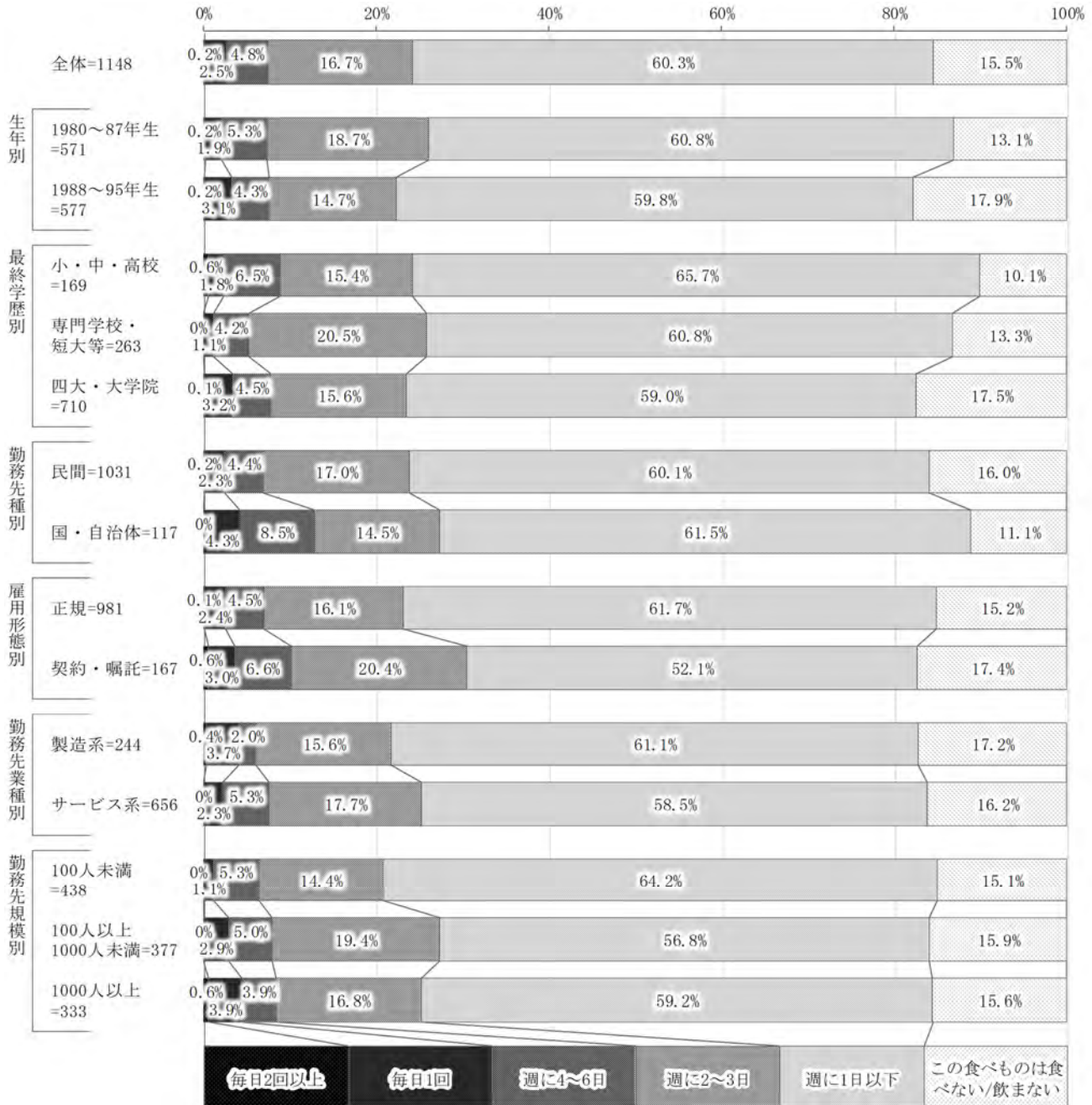


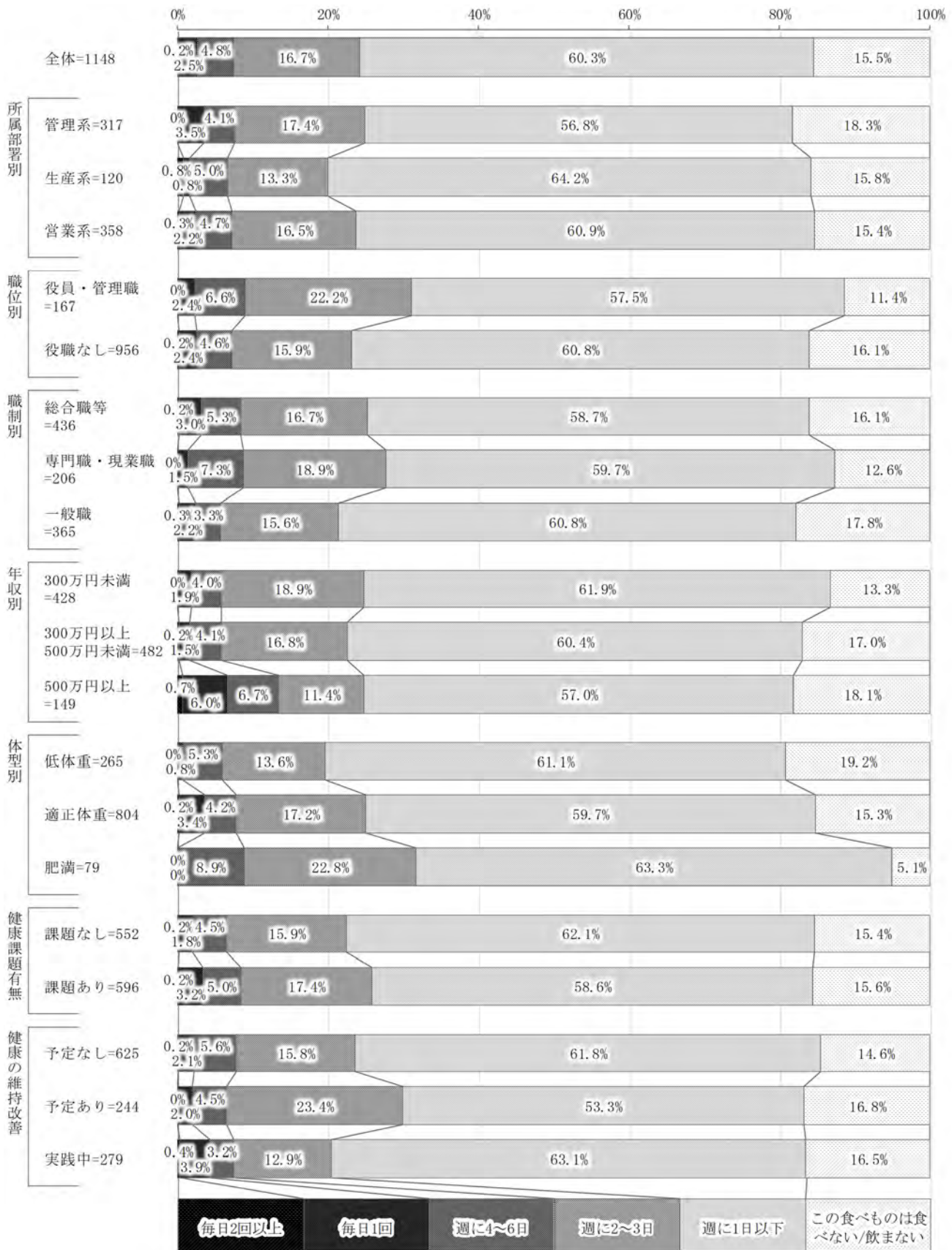


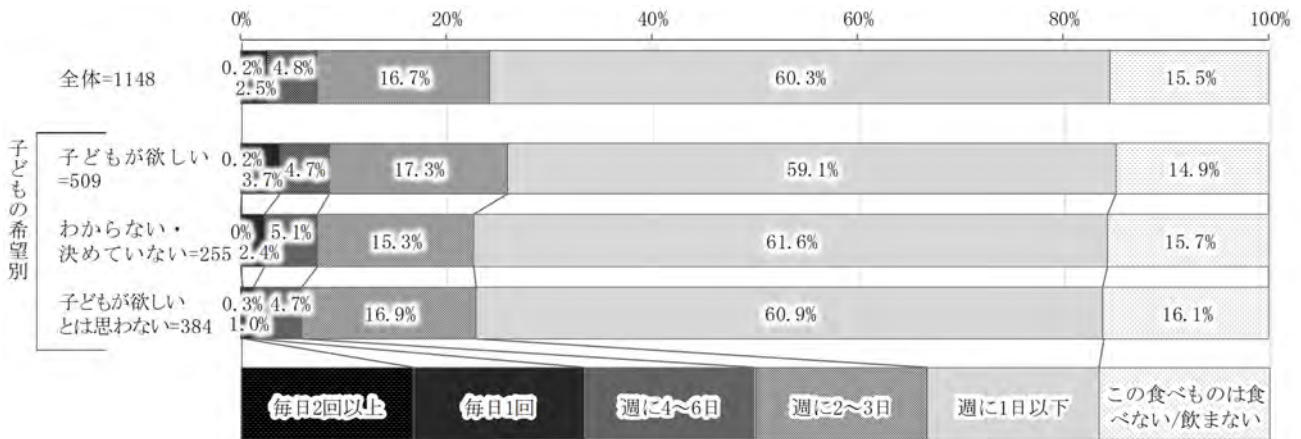
15.14. 食品の摂取頻度（インスタントラーメンやカップ麺）

- 概ね1か月を振り返ったインスタントラーメンやカップ麺の摂取頻度を尋ねたところ、全体では「週に1日以下」が60.3%と最も多く、「週に1日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計は約8割に及ぶ。
- インスタントラーメンやカップ麺の摂取頻度について、「週に1日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計は、体型別で低体重の回答者、適正体重の回答者、肥満の回答者の順に多い。

図表 15.14.食品の摂取頻度（インスタントラーメンやカップ麺）【単一選択】



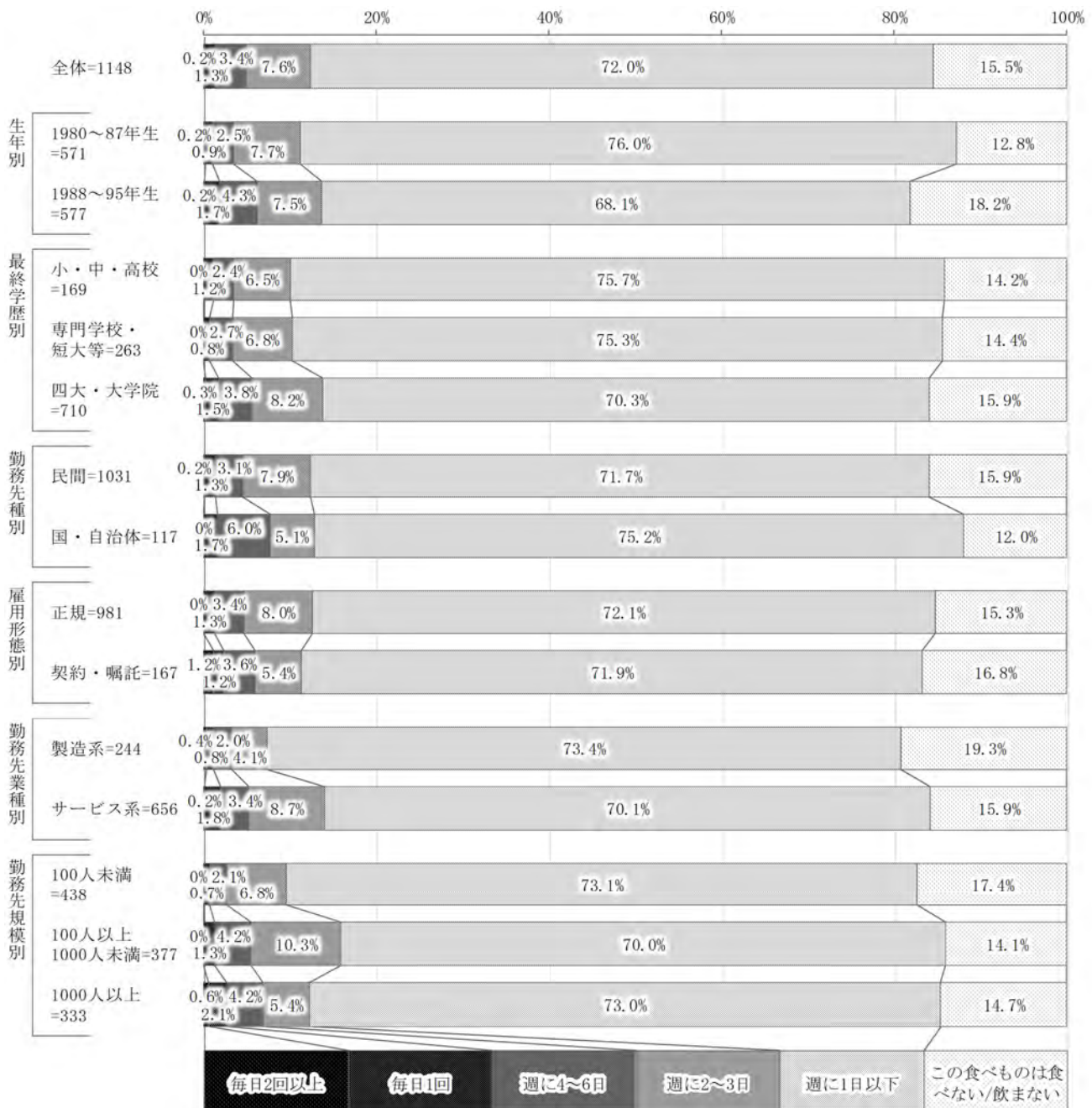


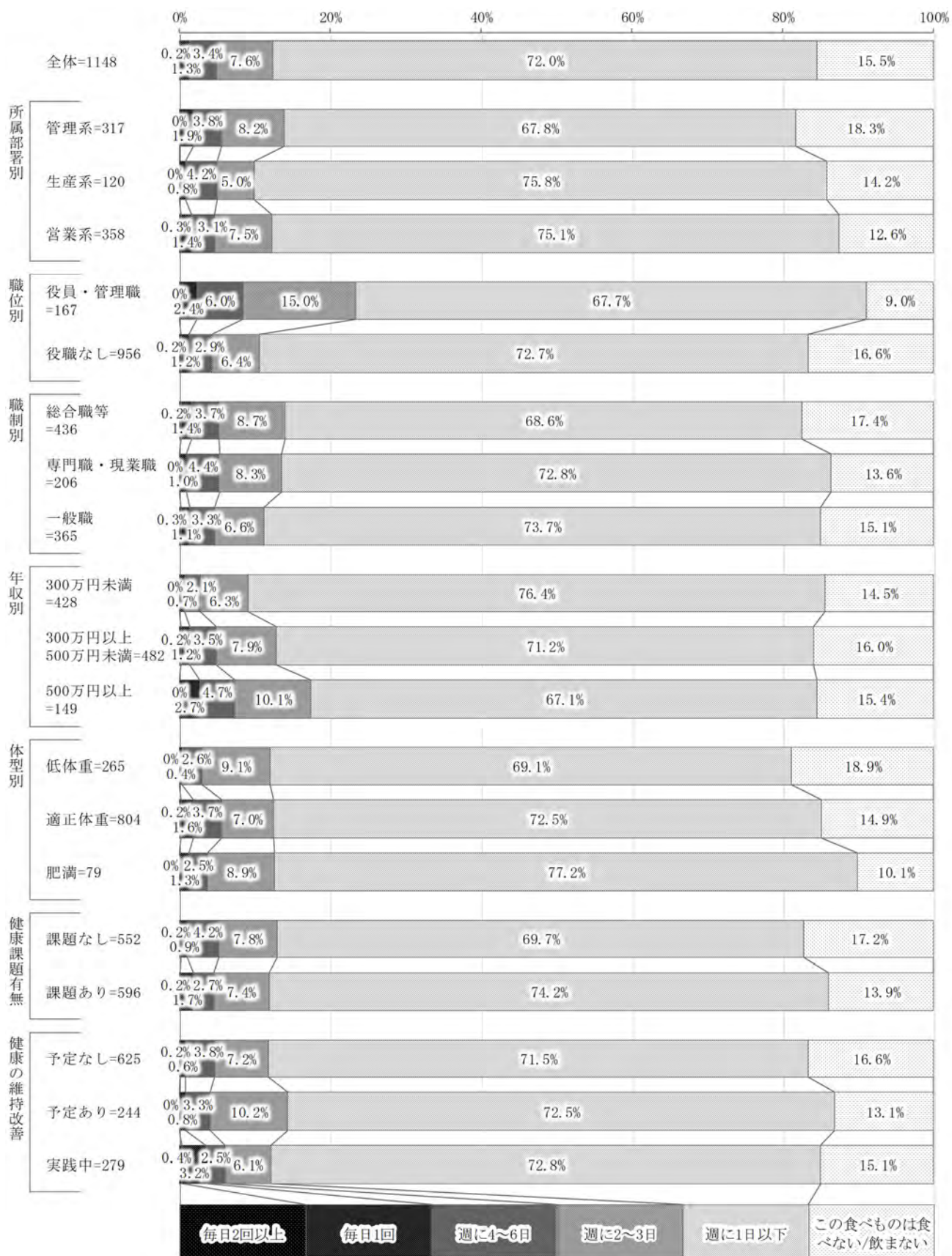


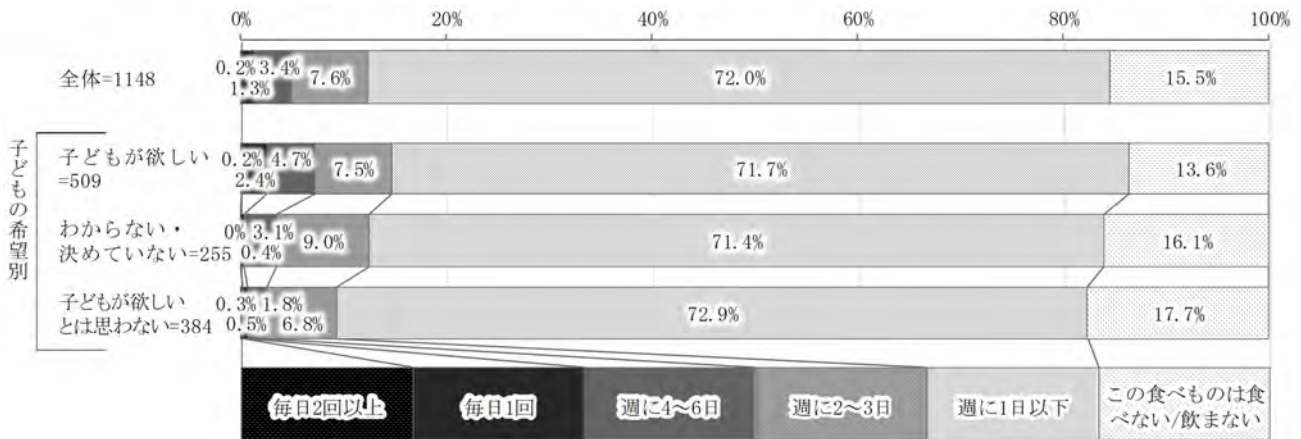
15.15. 食品の摂取頻度（ファーストフード）

- 概ね 1 か月を振り返ったファーストフード（短時間で調理などされ、すぐに食べることができるハンバーガーやドーナツ、ピザなどの手軽な食事や食品）の摂取頻度を尋ねたところ、全体では「週に 1 日以下」が 72.0%と最も多く、「週に 1 日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計は約 9 割と大多数だった。
- ファーストフードの摂取頻度について、「週に 1 日以下」「この食べものは食べない／飲まない」の計は、職位別で役職なしの回答者が多い。

図表 15.15.食品の摂取頻度（ファーストフード）【単一選択】



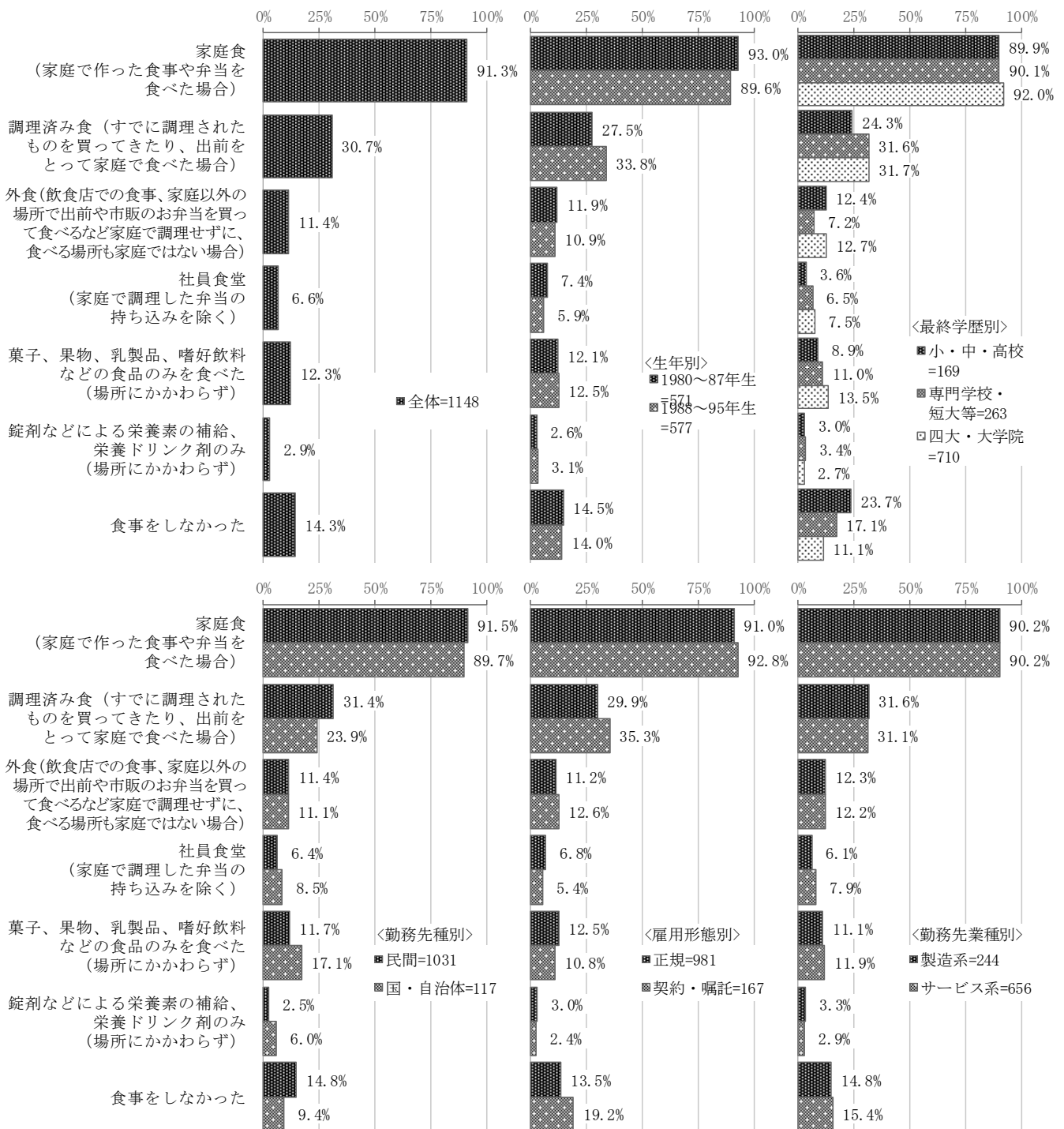


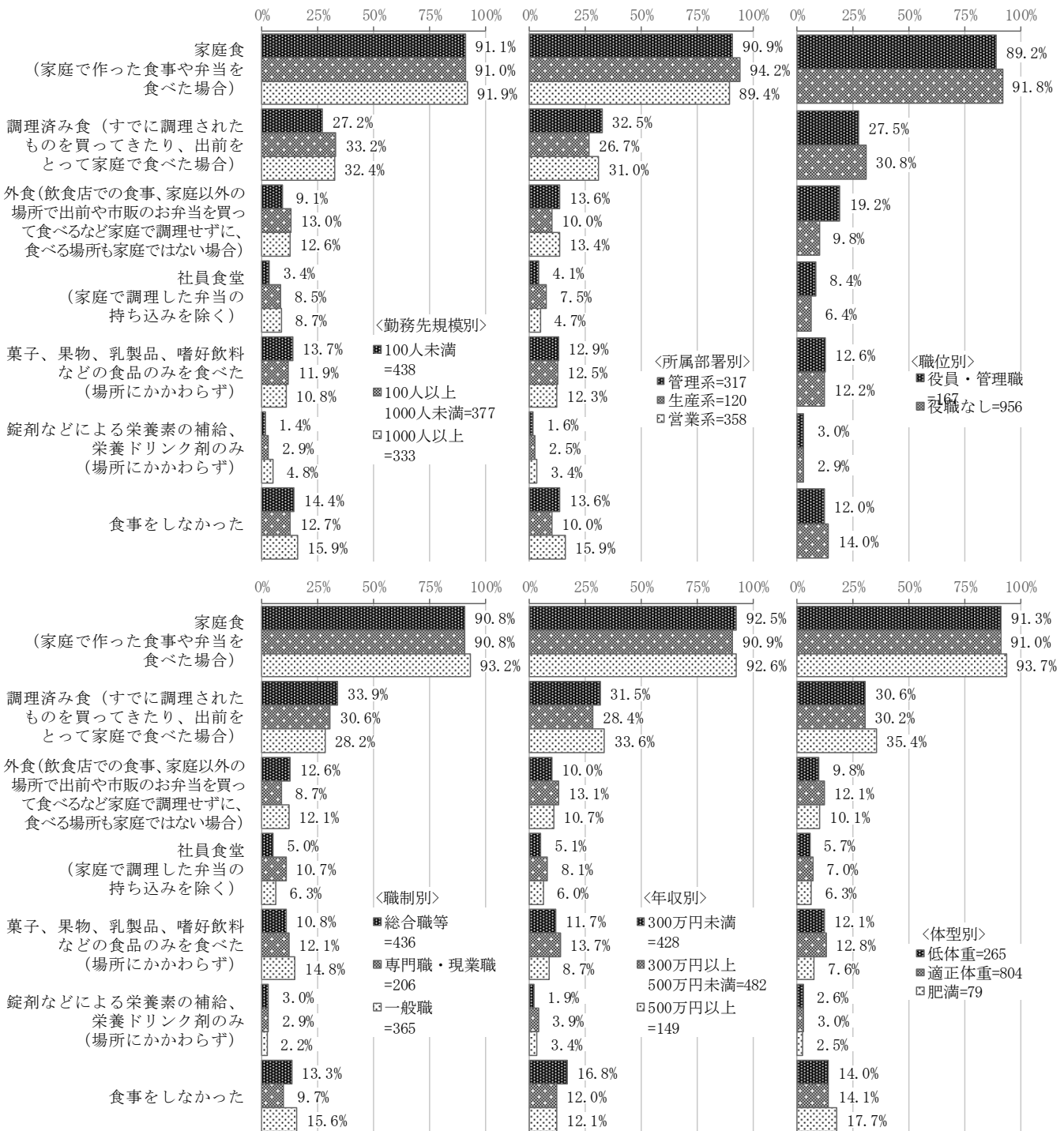


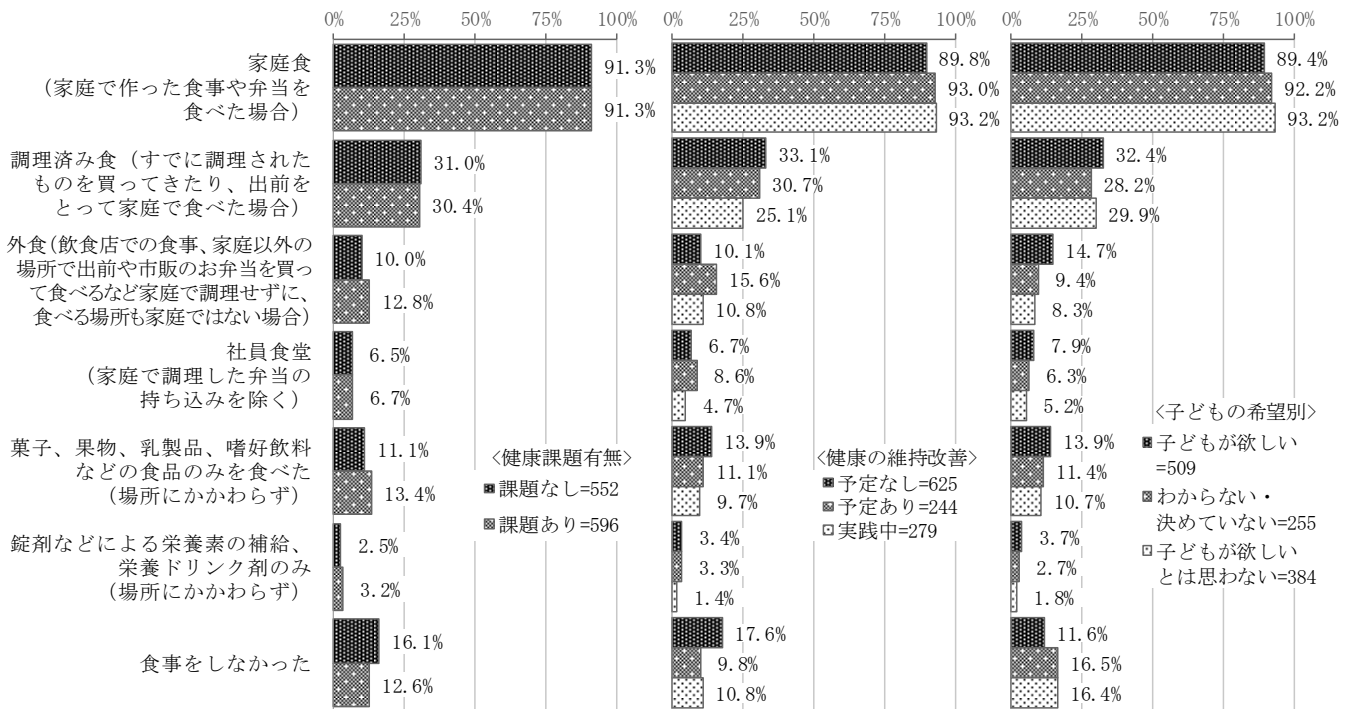
16. 食事形態（一日）

- 概ね 1 か月を振り返って、主な食事形態を尋ね、朝食・昼食・夕食いずれかで選択された項目を複数選択として集計したところ、全体では「家庭食」が 91.3%と最も多く、次いで「調理済み食」が 30.7%と多い。他の項目は約 1 割以下だった。
- 最終学歴別には「食事をしなかった」という回答は、小・中・高校、専門学校・短大等、四大・大学院の順に多い。
- 職位別で役員・管理職の回答者の「外食」が若干多い。

図表 16. 食事形態（一日）【複数選択】



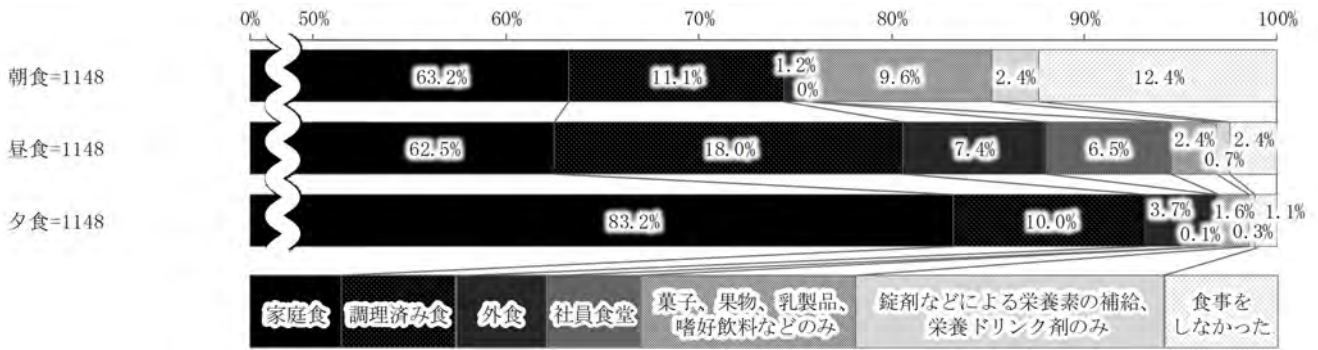




16.1. 食事形態（朝食・昼食・夕食別）

- 概ね 1 か月を振り返って、朝食・昼食・夕食として食べた主な食事形態について尋ねたところ、全体の家庭食の割合は「朝食」「昼食」は、6割を超え、「夕食」は8割を超える。
- 「朝食」は、「食事をしなかった」が次いで多く 12.4%だった。

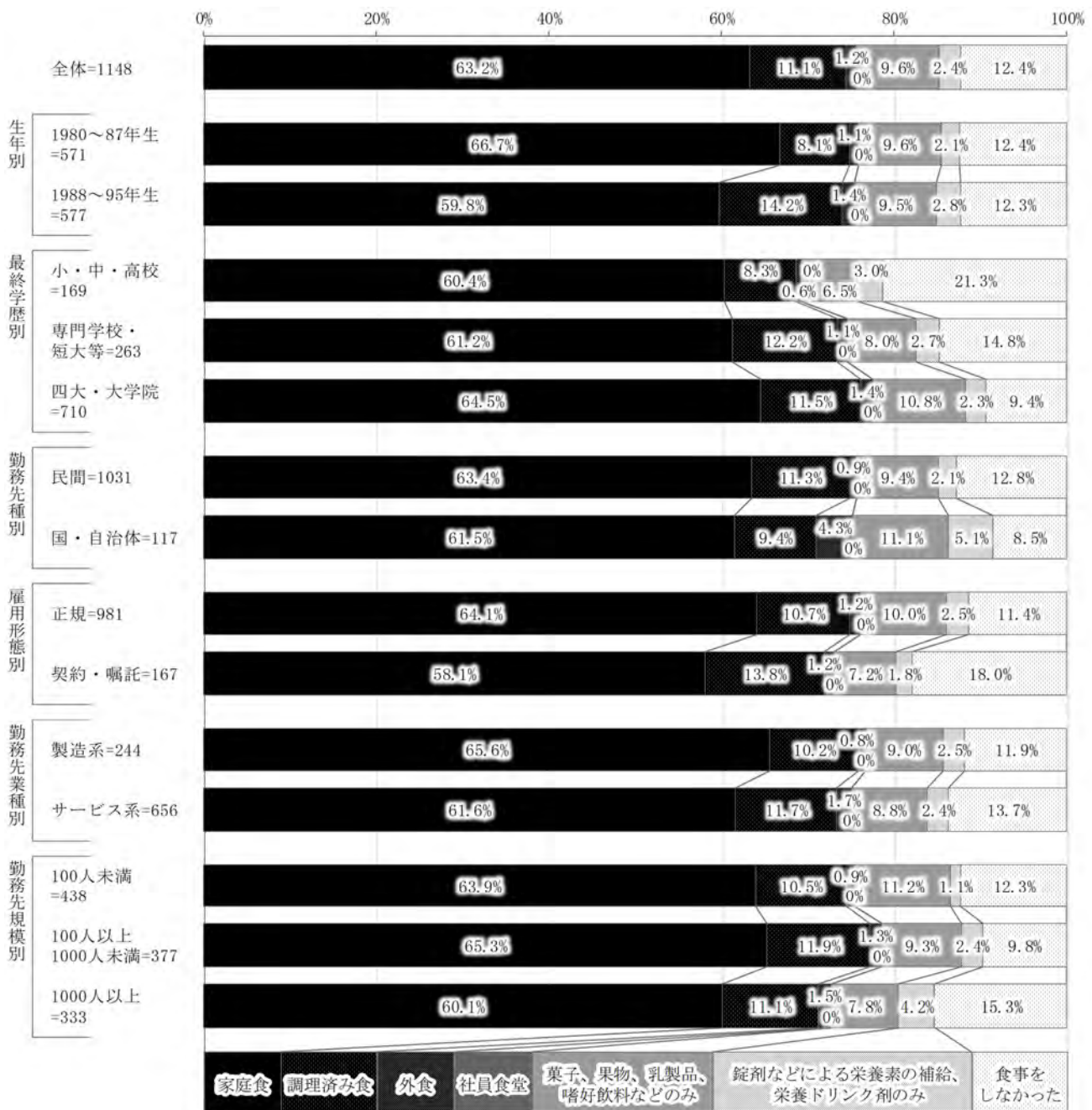
図表 16.1. 食事形態（朝食・昼食・夕食別）[単一選択]

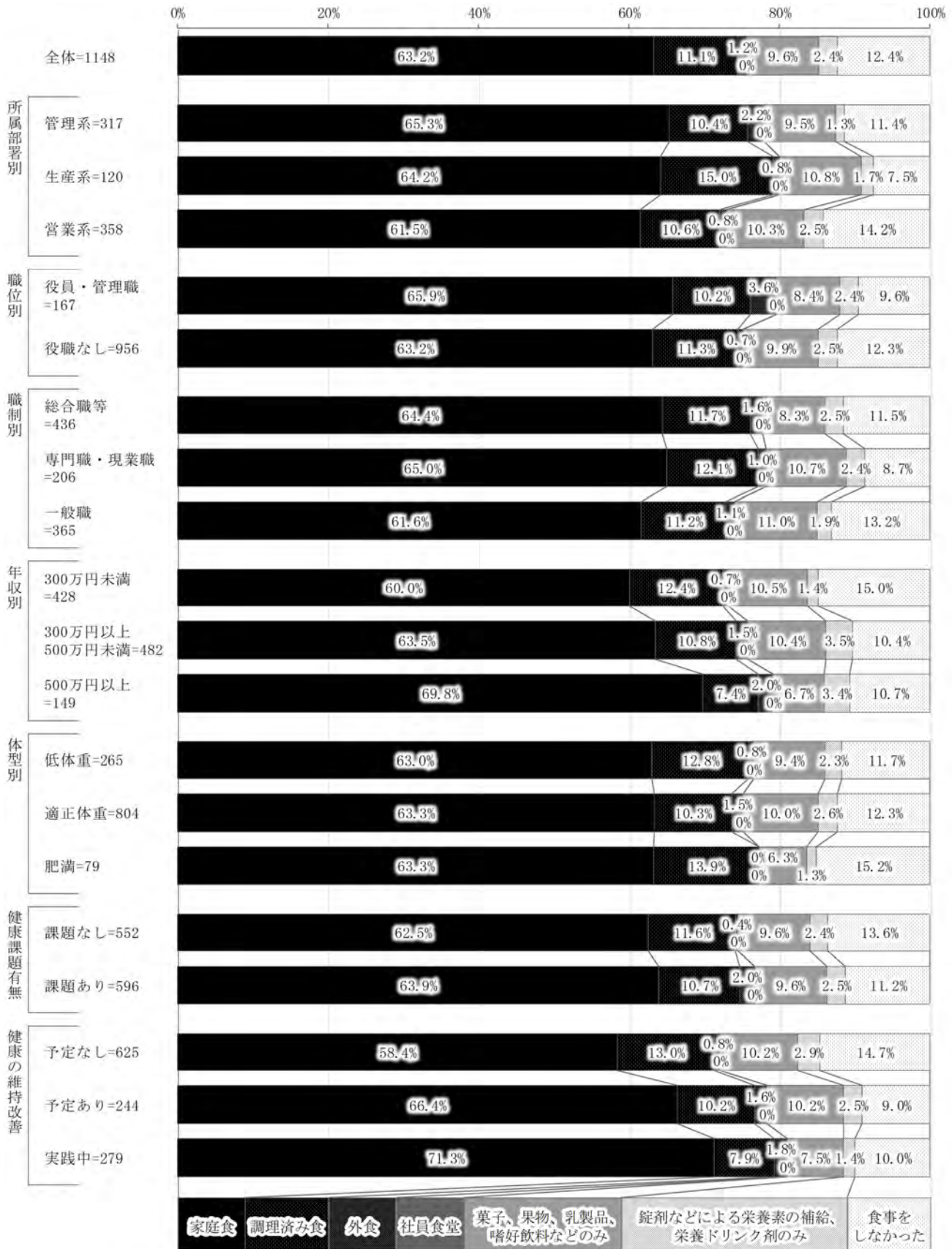


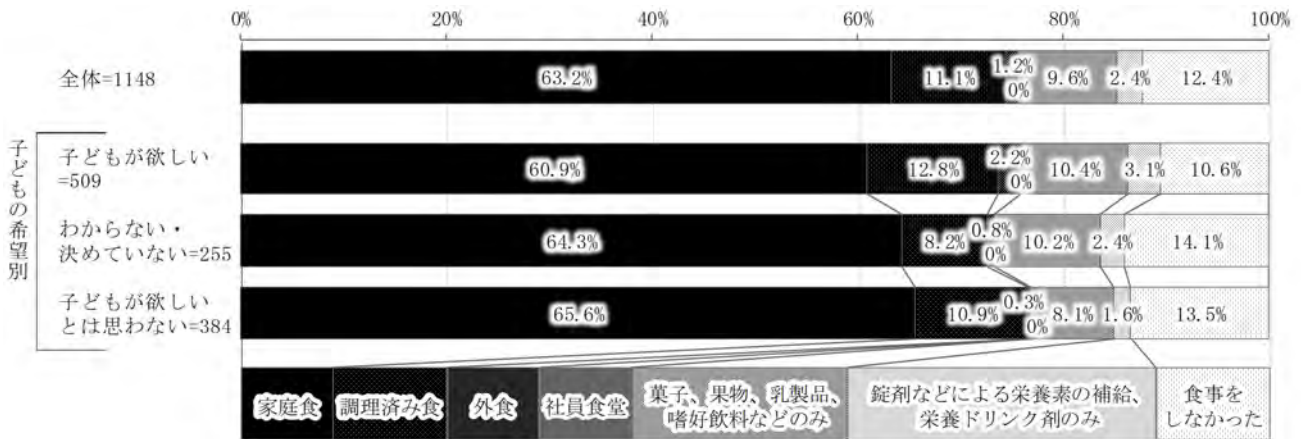
16.1.1. 食事形態（朝食）

- 概ね1か月を振り返って、朝食として食べた主な食事形態について尋ねたところ、全体では「家庭食」が63.2%と最も多く、「食事をしなかった」12.4%、「調理済み食」11.1%、「菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみ」9.6%が続く。
- 属性による差異はあまりないが、「家庭食」は、生年別で1980～87年生の回答者、雇用形態別で正規の回答者、年収別で500万円以上の回答者、健康の維持改善で実践中の回答者、予定ありの回答者が若干多い。
- 「調理済み食」は、生年別で1988～95年生の回答者が若干多い。

図表 16.1.1. 食事形態（朝食）[単一選択]



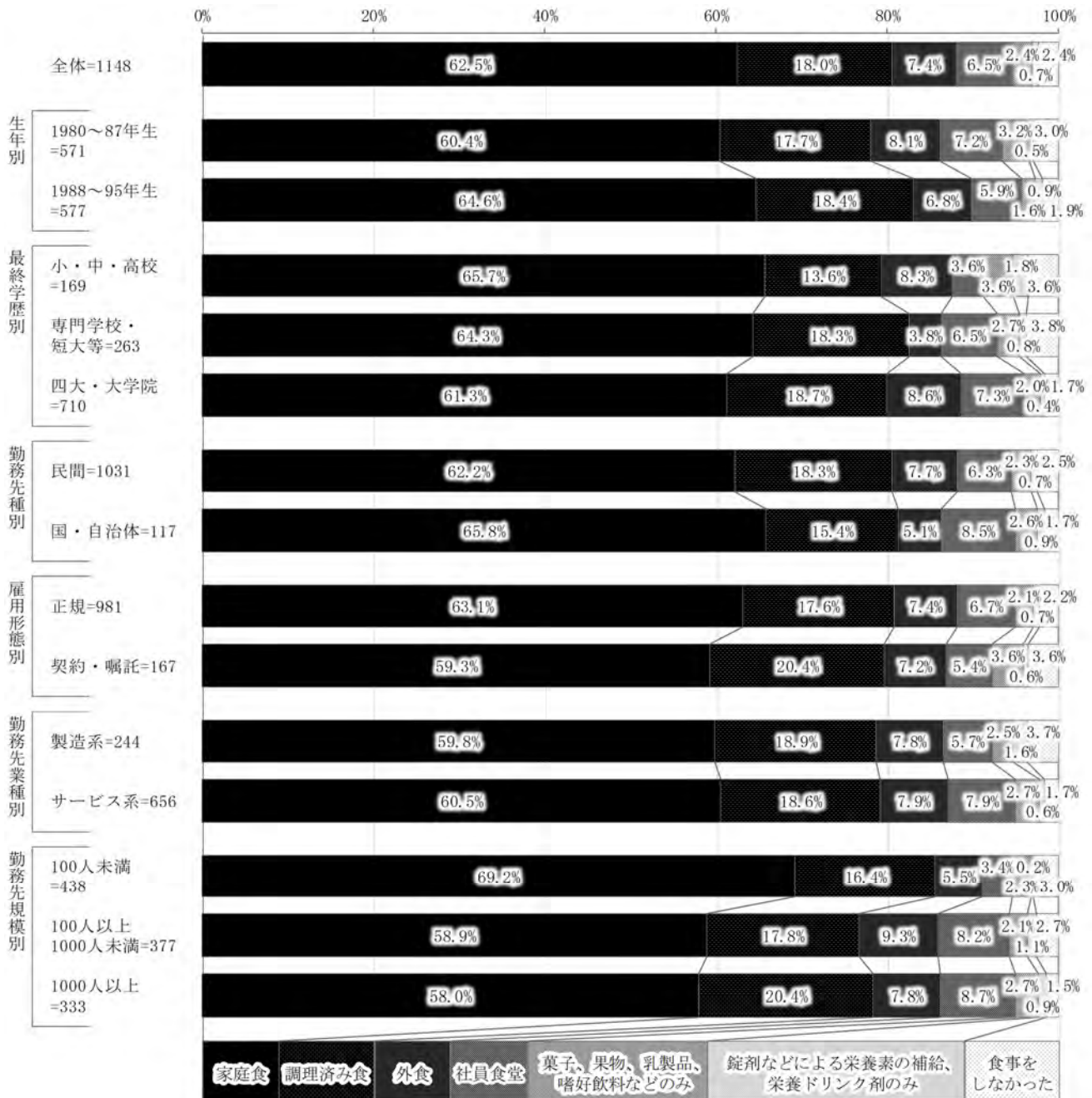


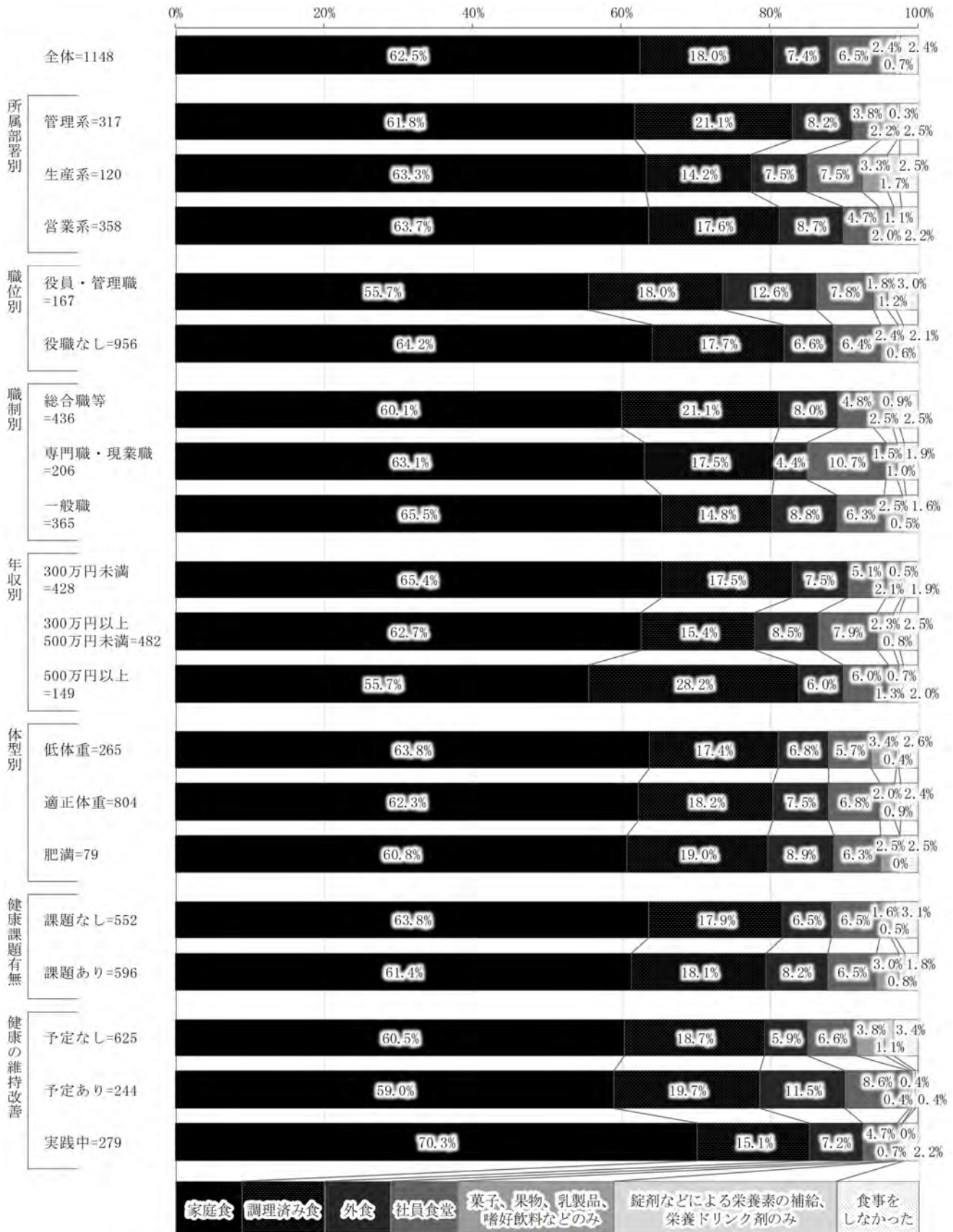


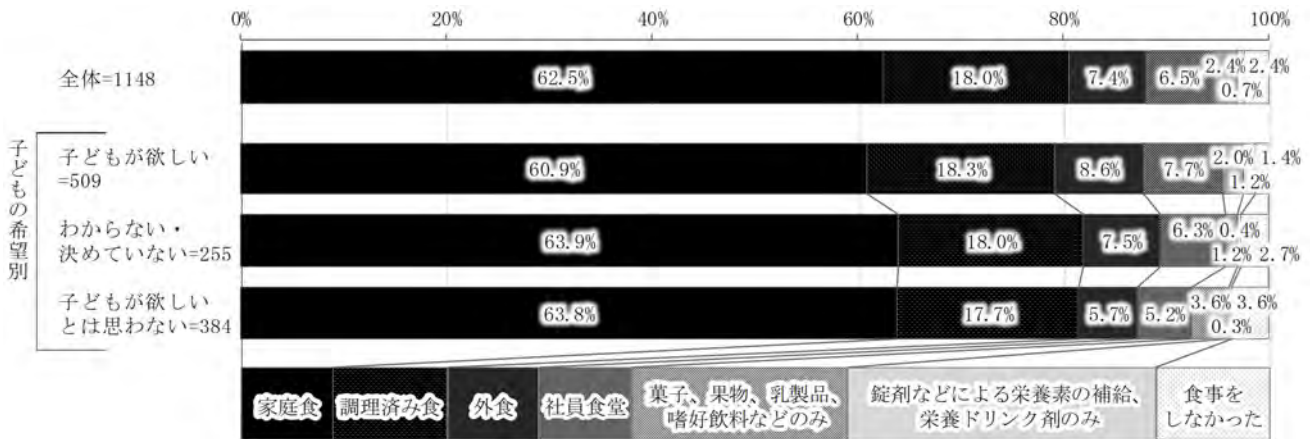
16.1.2. 食事形態（昼食）

- 概ね1か月を振り返って、昼食として食べた主な食事形態について尋ねたところ、全体では「家庭食」が62.5%と最も多く、次いで「調理済み食」18.0%が多い。
- 「家庭食」は、勤務先規模別で100人未満の回答者が多く、健康の維持改善で実践中の回答者が若干多い。
- 「調理済み食」は、年収別で500万円以上の回答者が多い。

図表 16.1.2. 食事形態（昼食）【単一選択】



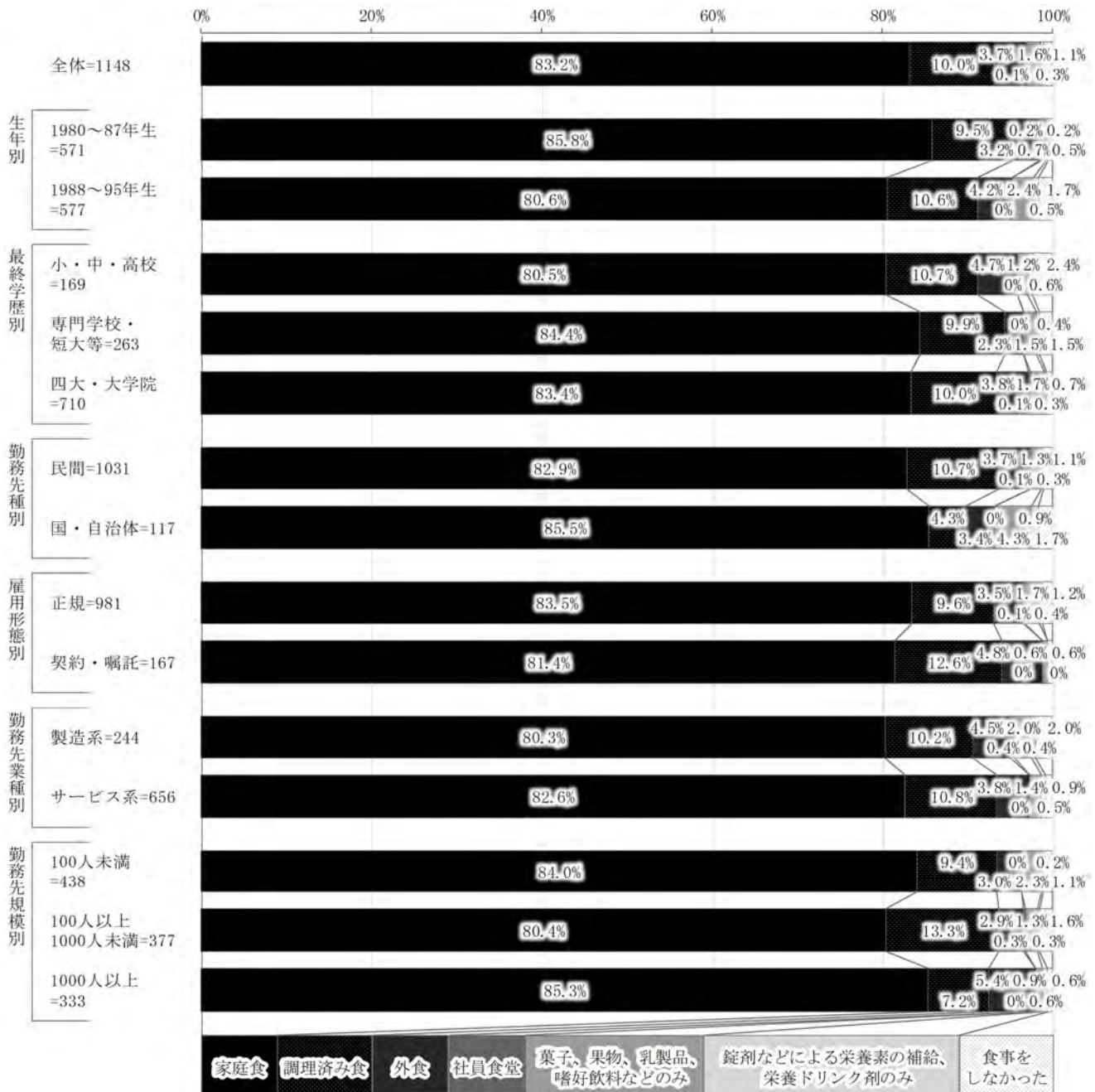


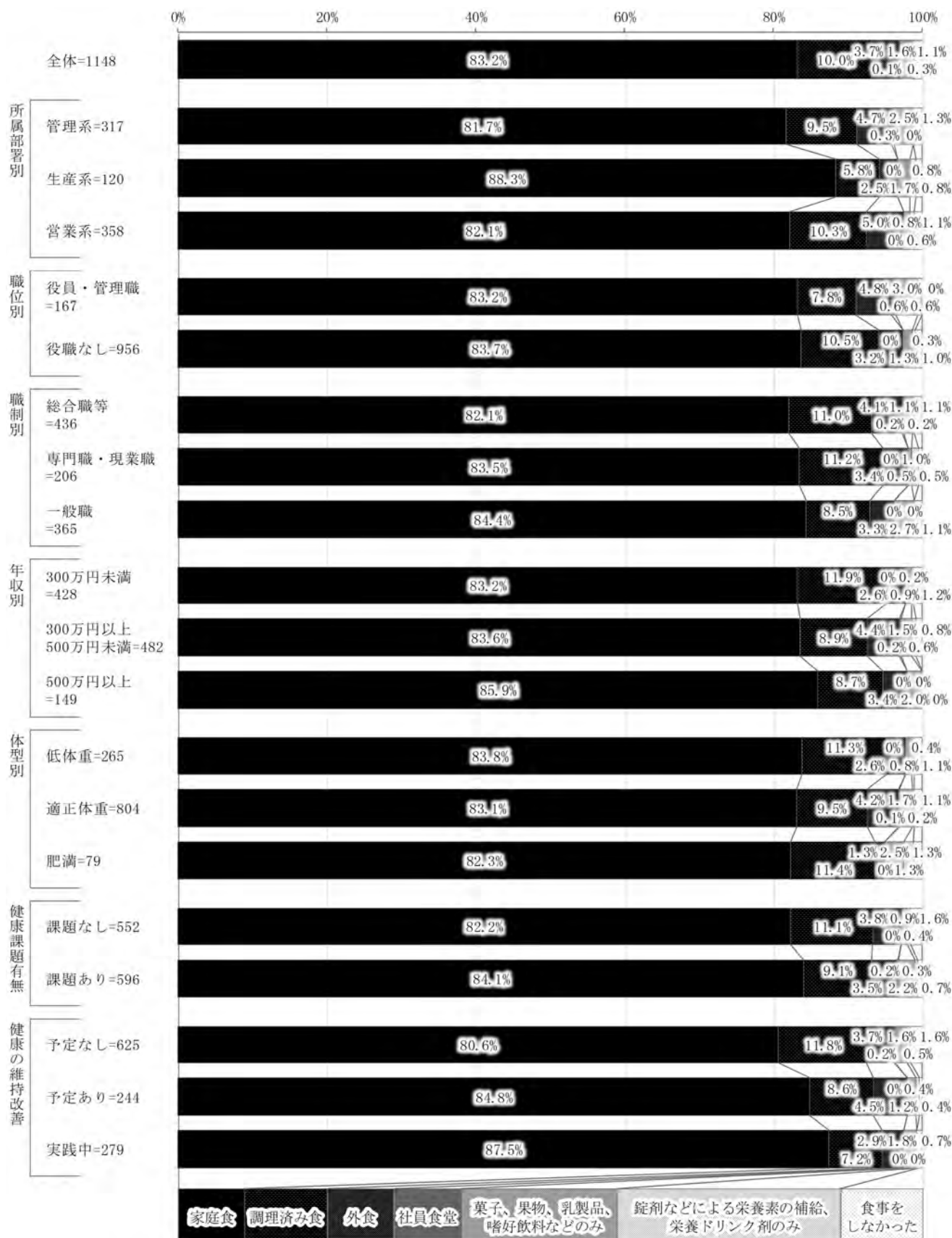


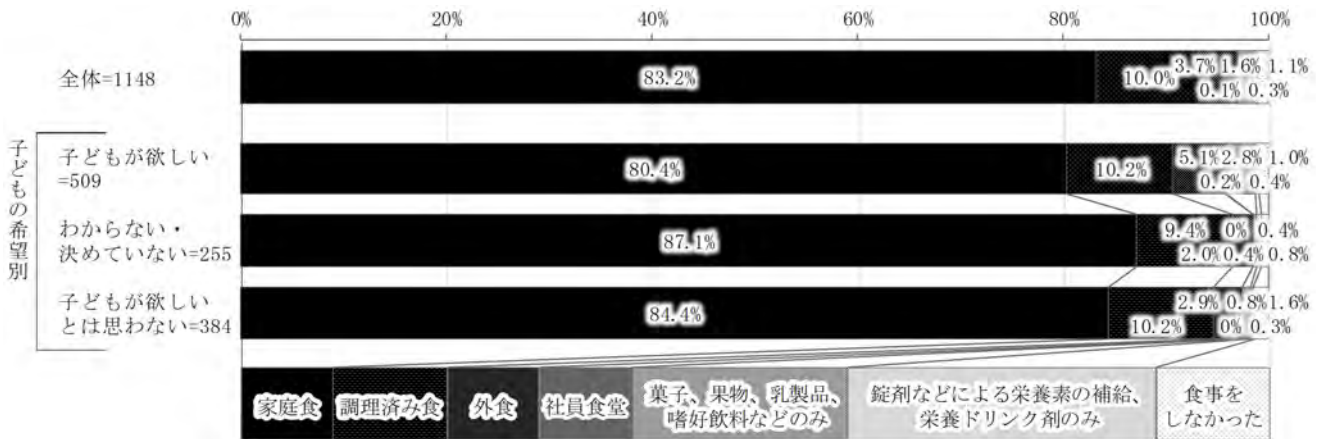
16.1.3. 食事形態（夕食）

- 概ね1か月を振り返って、夕食として食べた主な食事形態について尋ねたところ、全体では「家庭食」が83.2%と最も多く、次いで「調理済み食」が10.0%と多い。
- 属性による差異はあまりないが、「家庭食」は、所属部署別で生産系の回答者、健康の維持改善で実践中の回答者が若干多い。
- 「調理済み食」は、勤務先種別で民間の回答者が多い。

図表 16.1.3. 食事形態（夕食） [単一選択]



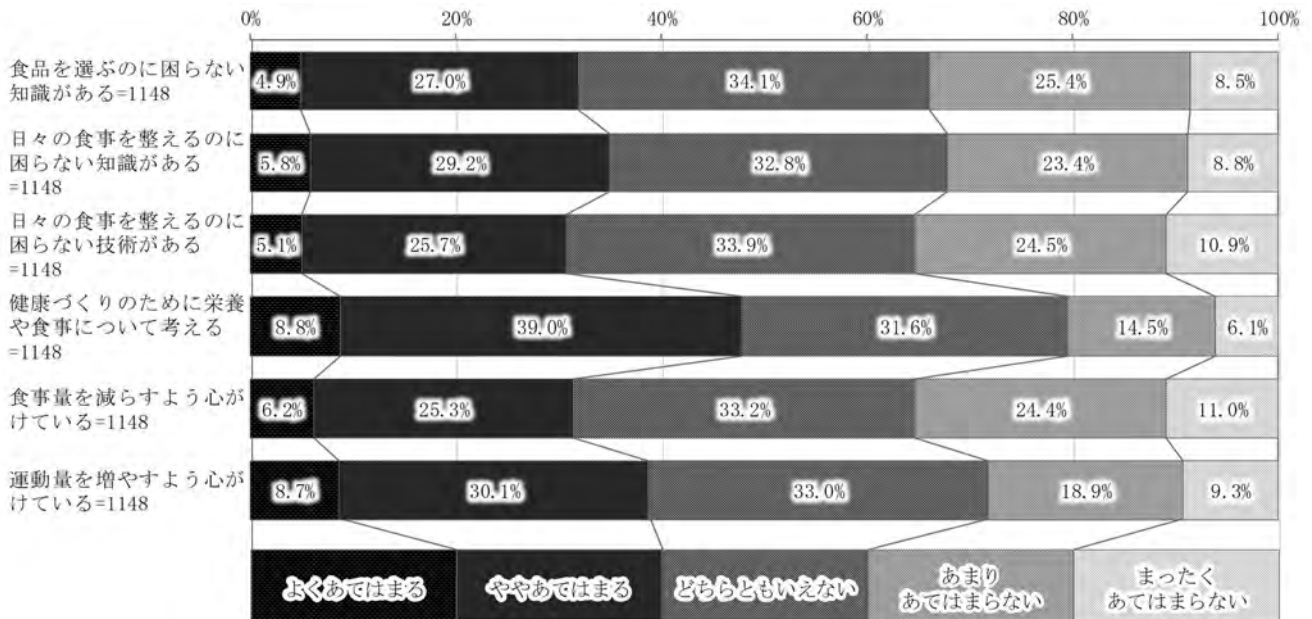




17. 食事・運動への意識

- 食事や運動等について下記項目を尋ねたところ、全体では「健康づくりのために栄養や食事について考える」の「よくあてはまる」8.8%が最も多く、「ややあてはまる」を合わせると約5割に及ぶ。
- 次いで「運動量を増やすよう心がけている」の「よくあてはまる」8.7%が多く、「ややあてはまる」を合わせると約4割に及ぶ。

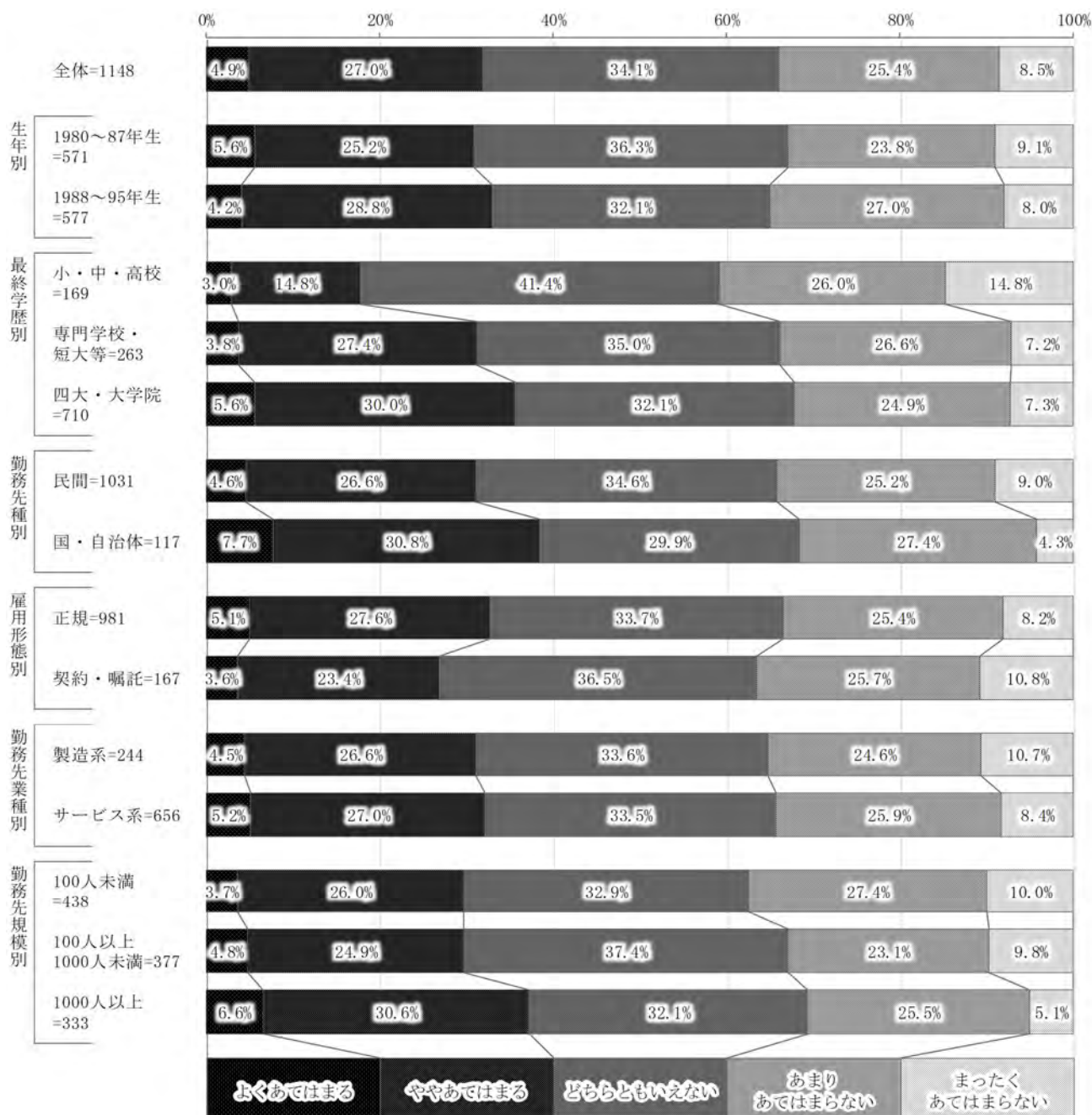
図表 17. 食事・運動への意識[単一選択]

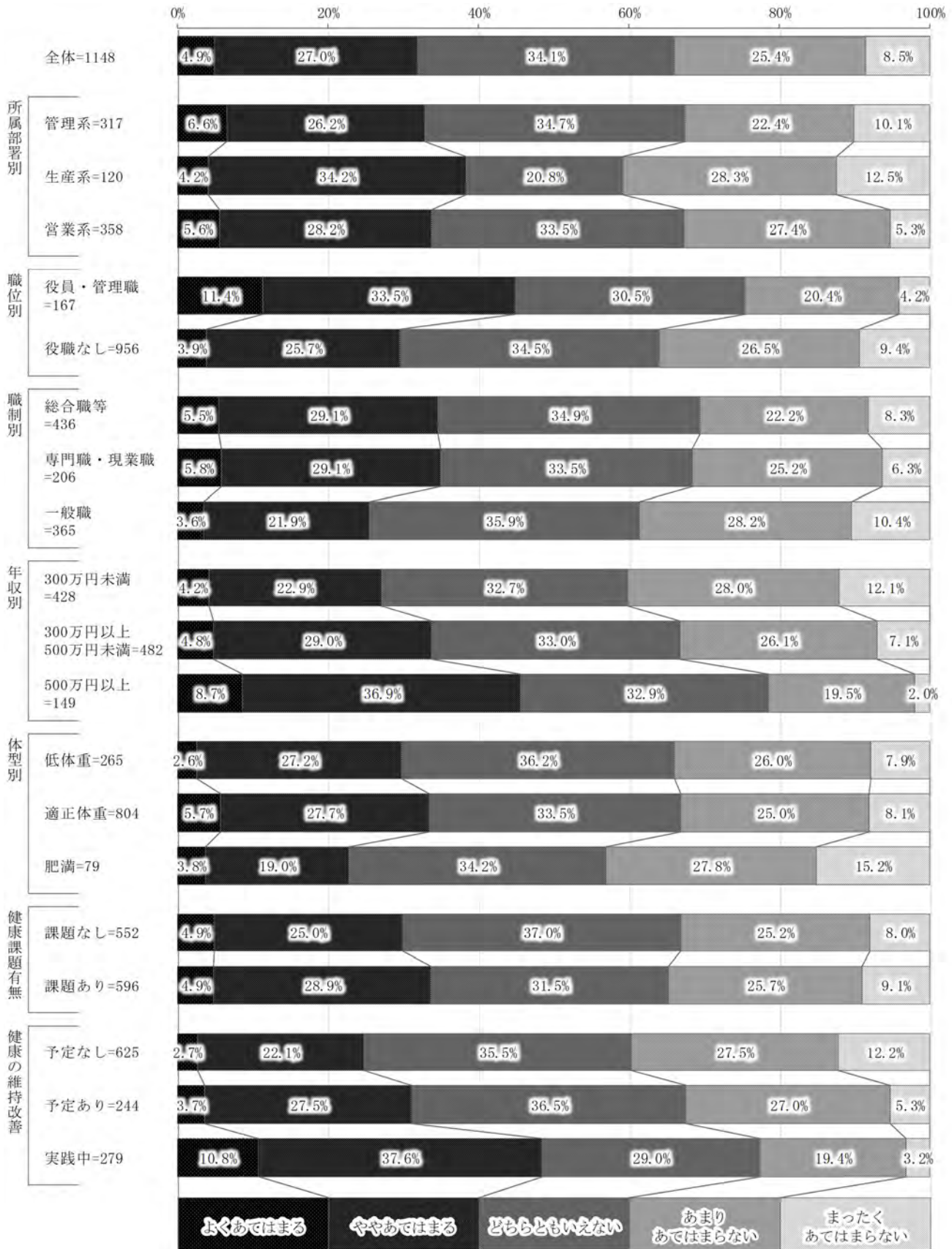


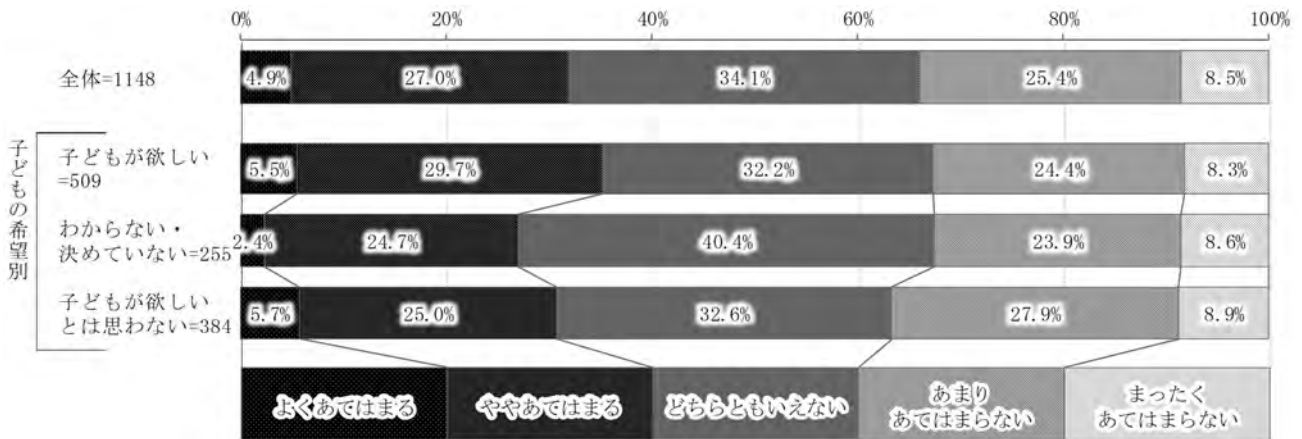
17.1. 食事・運動への意識（食品を選ぶのに困らない知識がある）

- 食品を選ぶのに困らない知識があるか尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が34.1%と最も多く、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の計と「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の計は、どちらも約3割だった。
- 「よくあてはまる」「ややあてはまる」の計は、最終学歴別で、四大・大学院の回答者と専門学校・短大等の回答者、職位別で役員・管理職の回答者、年収別で500万円以上の回答者、健康の維持改善で実践中の回答者が多い。

図表 17.1. 食事・運動への意識（食品を選ぶのに困らない知識がある）[単一選択]



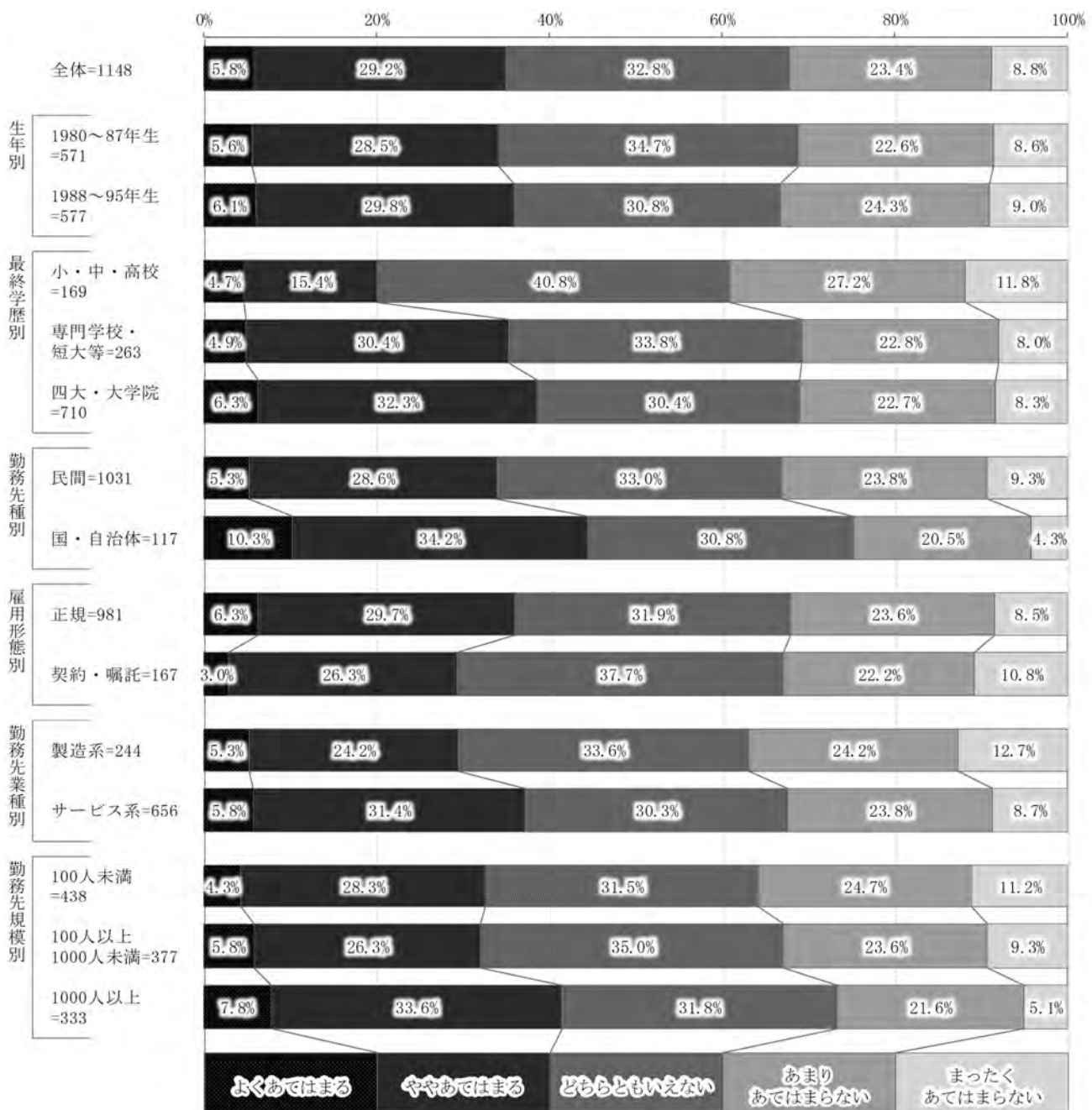


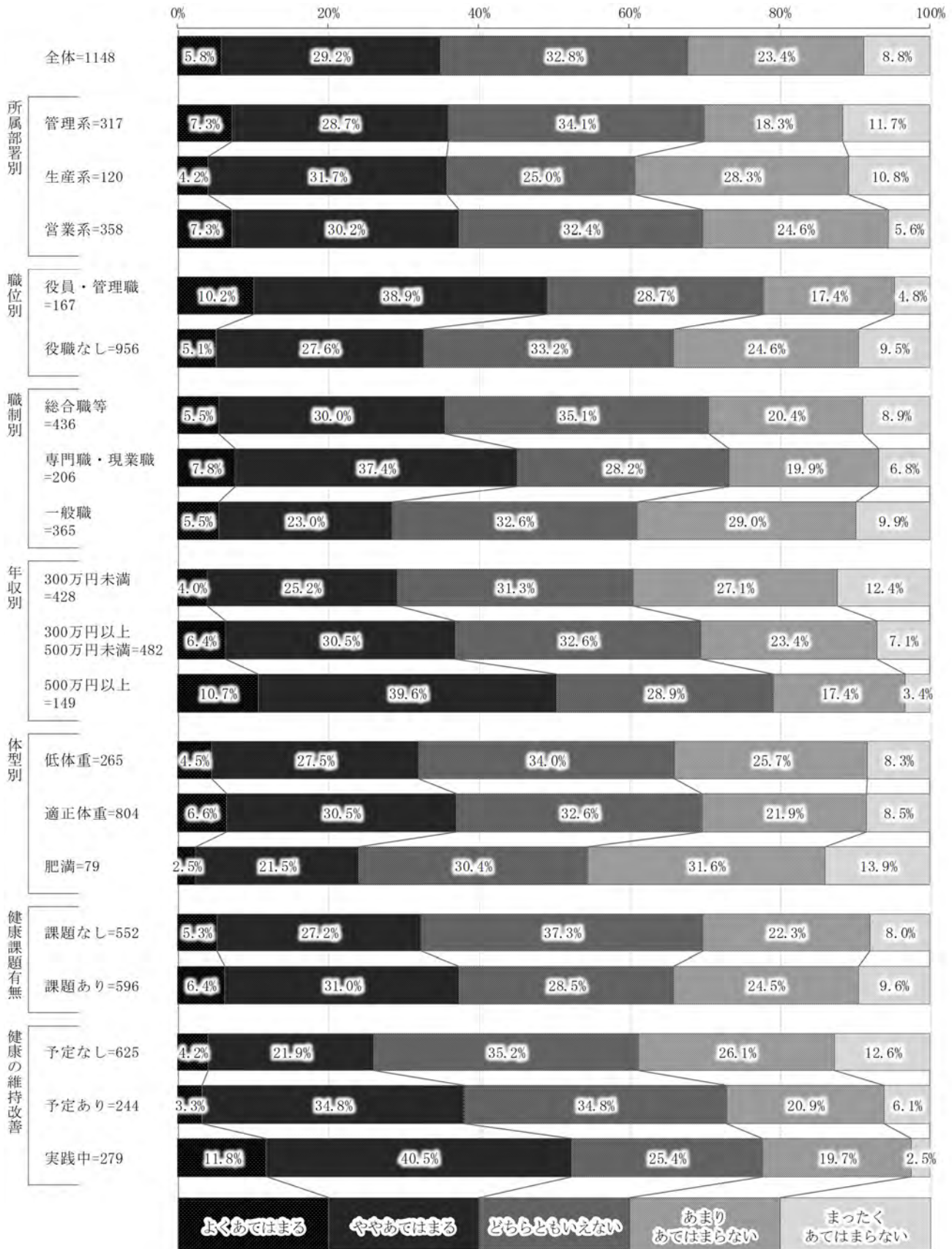


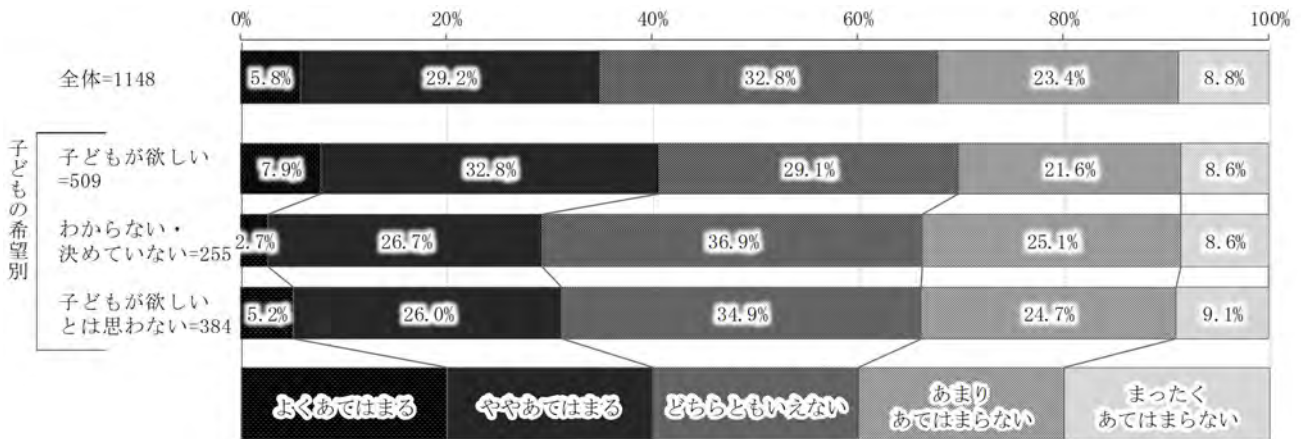
17.2. 食事・運動への意識（日々の食事を整えるのに困らない知識がある）

- 日々の食事を整えるのに困らない知識があるか尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が32.8%と最も多く、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の計は35.0%、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の計は32.2%とあまり差はなかった。
- 「よくあてはまる」「ややあてはまる」の計は、最終学歴別で、四大・大学院の回答者と専門学校・短大等の回答者、勤務先種別で国・自治体の回答者、職位別で役員・管理職の回答者が多い。年収が高いほど多い傾向で500万円以上の回答者が多く、健康の維持改善は実践中の回答者、予定ありの回答者の順で多い傾向だった。

図表 17.2. 食事・運動への意識（日々の食事を整えるのに困らない知識がある）[単一選択]



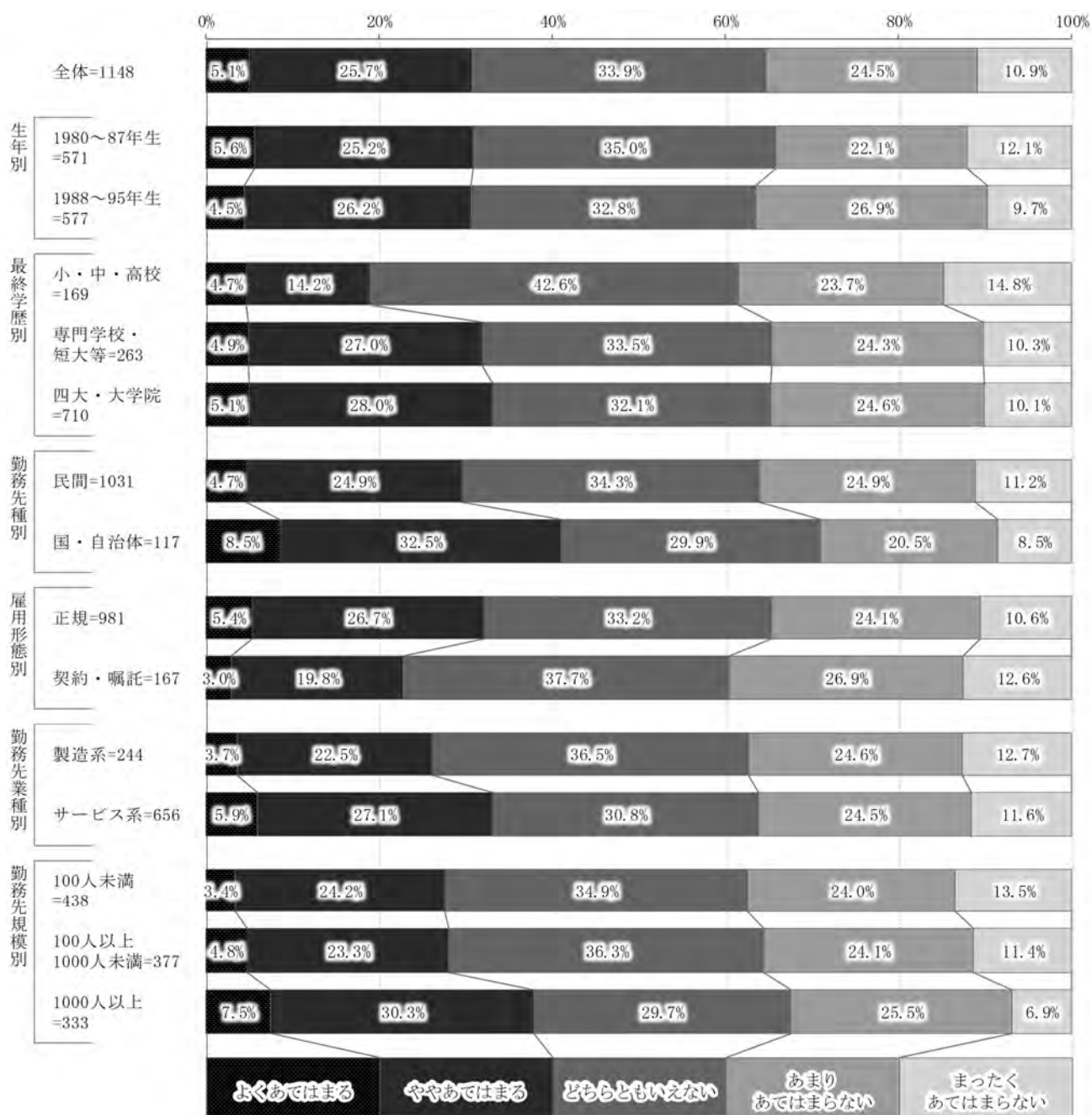


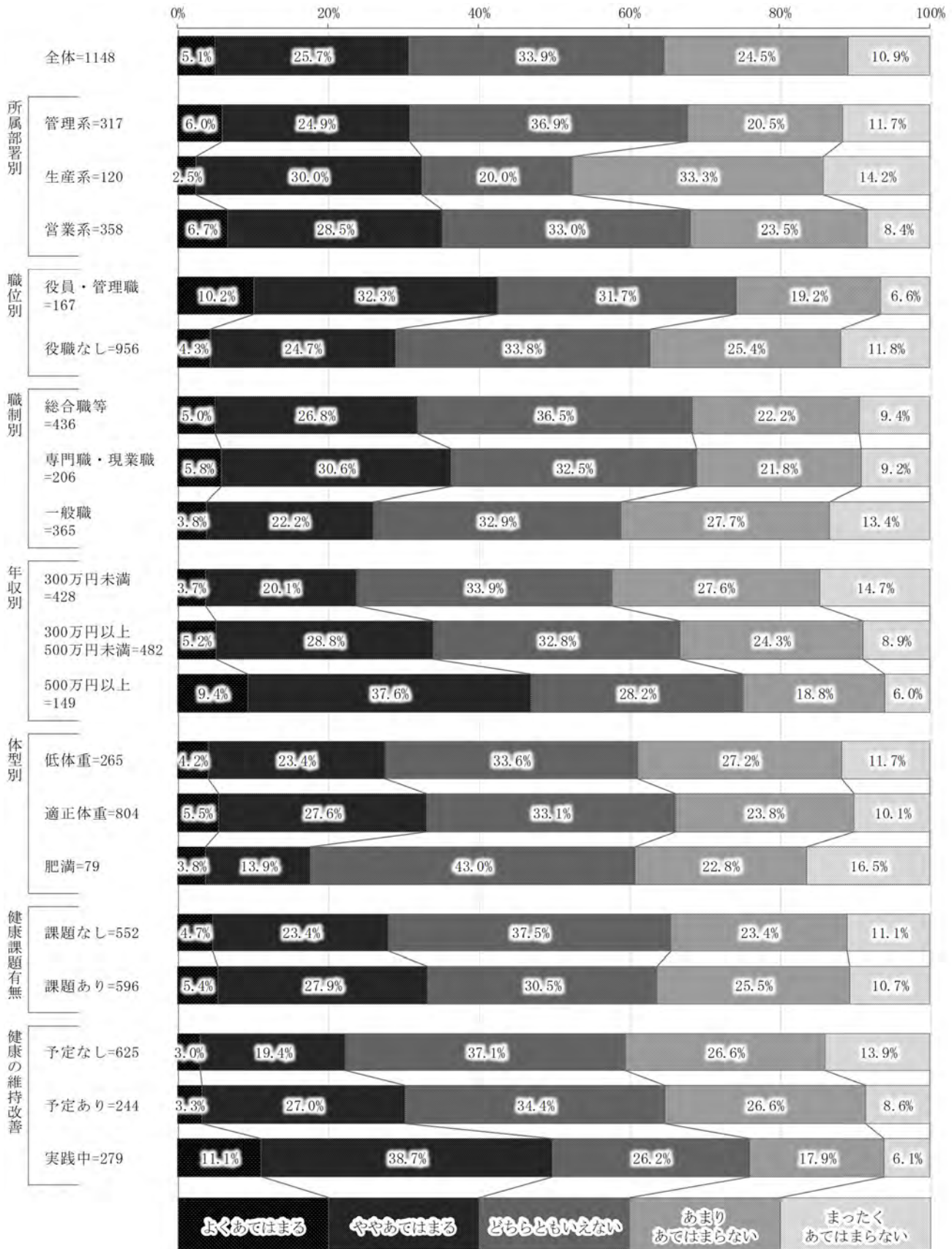


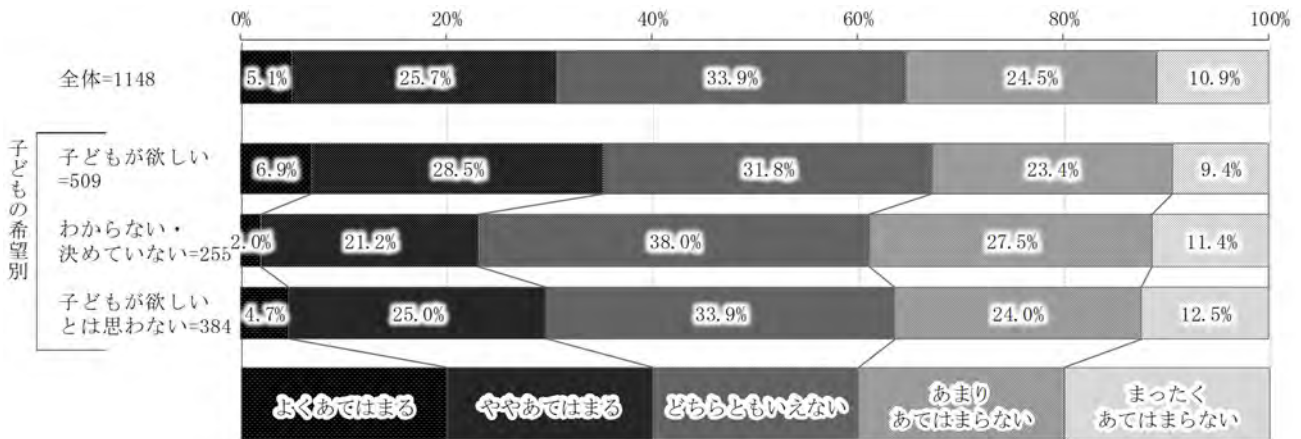
17.3. 食事・運動への意識（日々の食事を整えるのに困らない技術がある）

- 日々の食事を整えるのに困らない技術があるか尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が33.9%と最も多く、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の計は30.7%、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の計は35.4%とあまり差はなかった。
- 「よくあてはまる」「ややあてはまる」の計は、最終学歴別で四大・大学院の回答者と専門学校・短大等の回答者、勤務先種別で国・自治体の回答者、職位別で役員・管理職の回答者が多い。年収が高いほど多い傾向で500万円以上の回答者、300万円以上500万円未満の回答者の順に多く、健康の維持改善は実践中の回答者から予定あり、予定なしの回答者の順で多い傾向だった。

図表 17.3. 食事・運動への意識（日々の食事を整えるのに困らない技術がある）【単一選択】



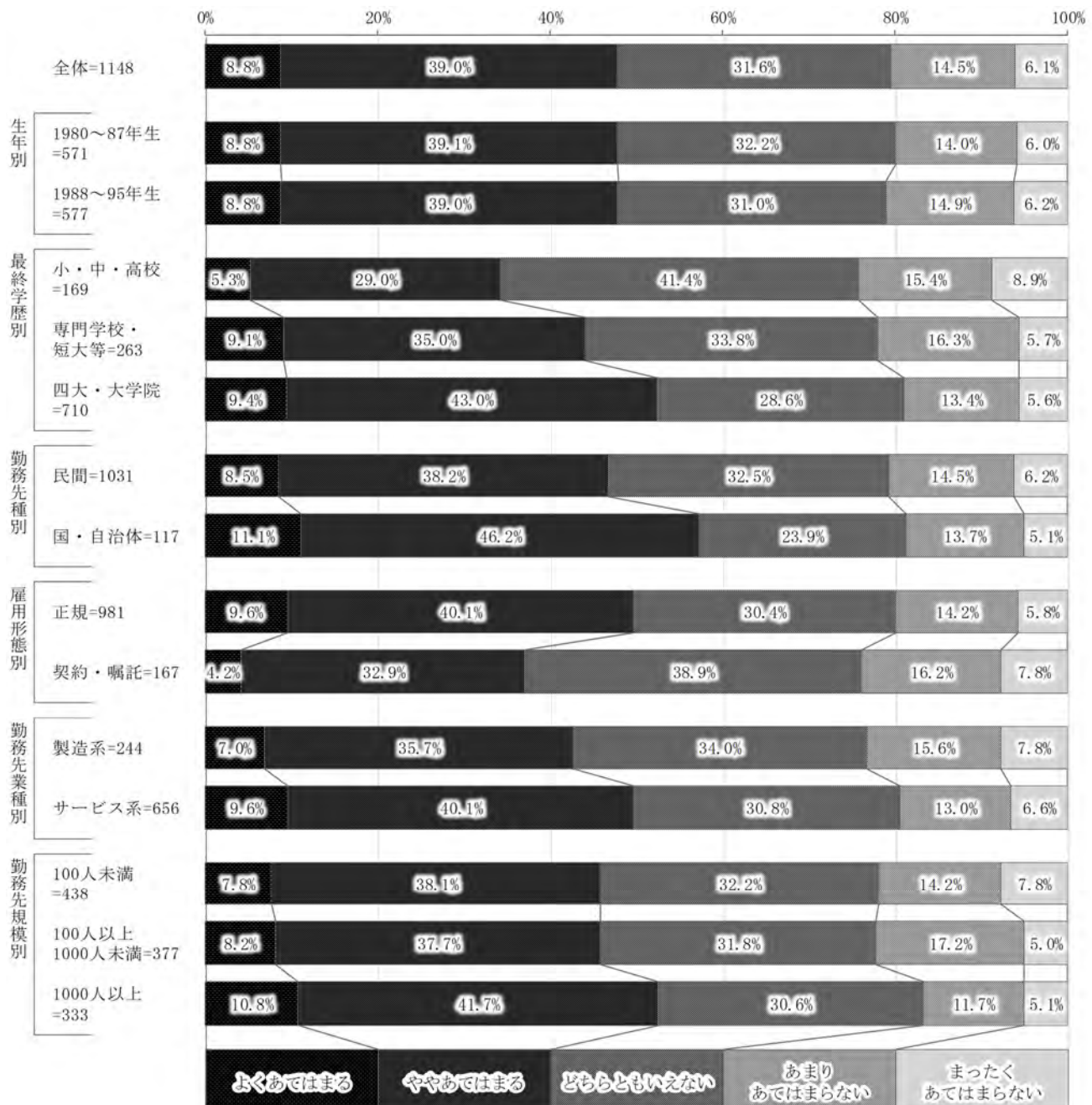


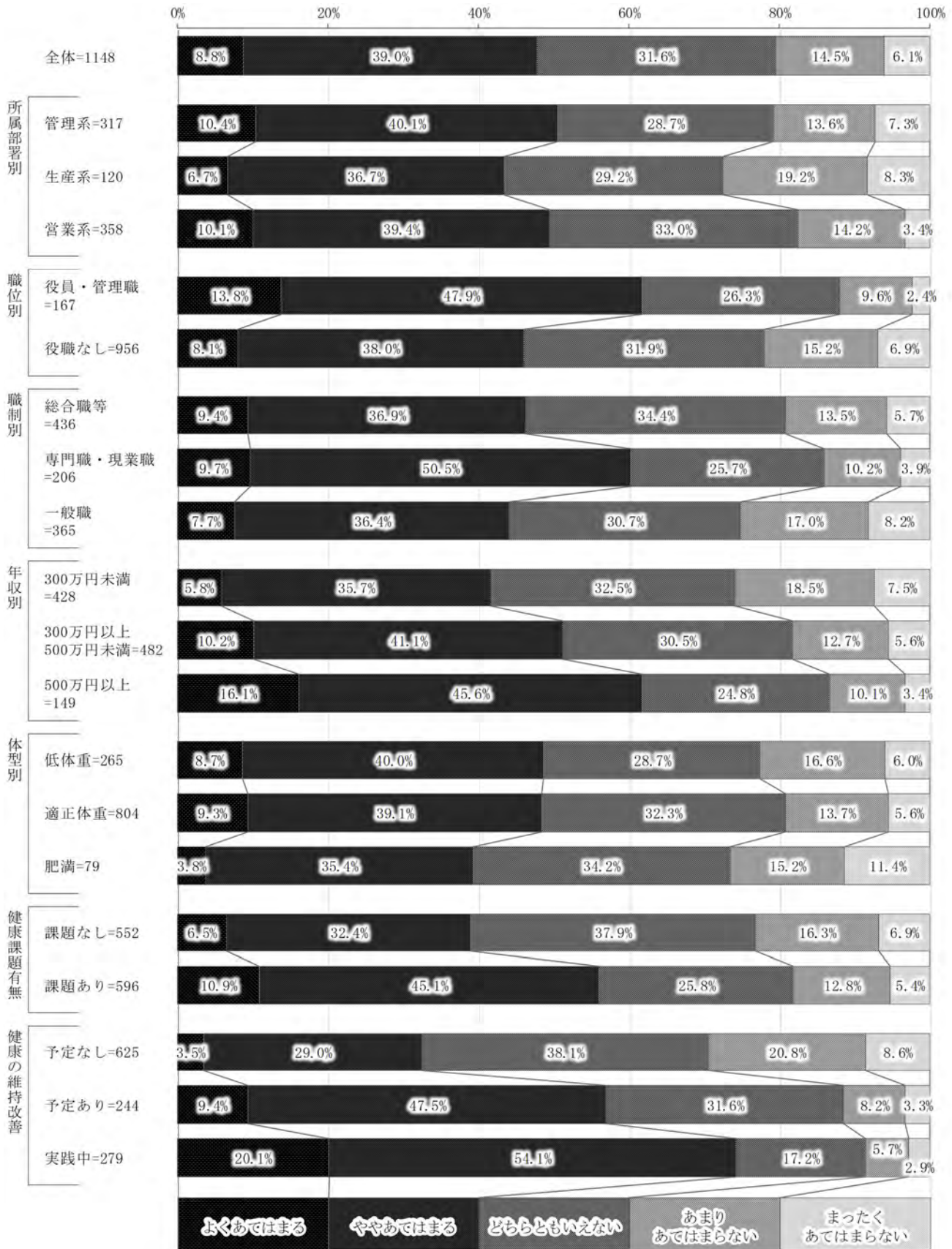


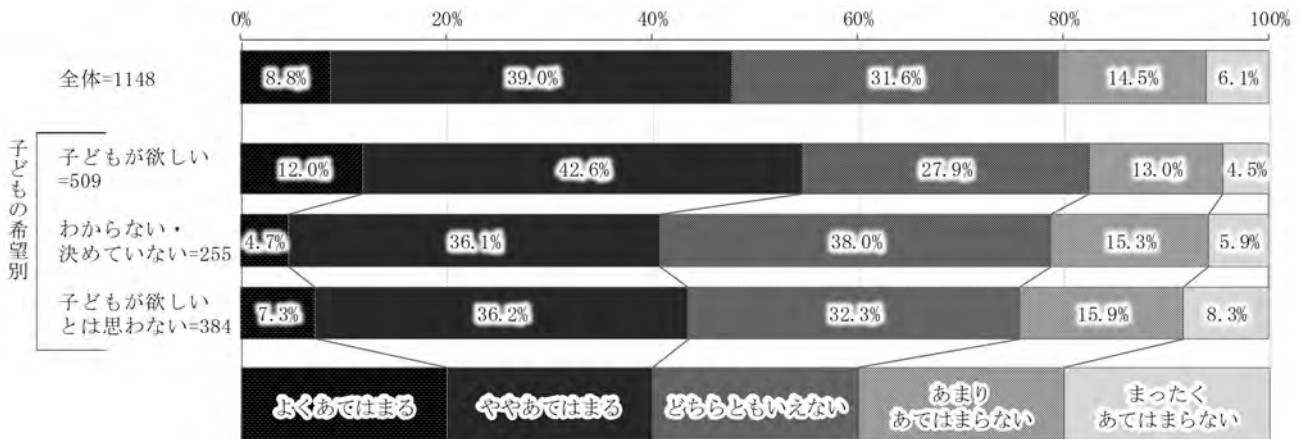
17.4. 食事・運動への意識（健康づくりのために栄養や食事について考える）

- 健康づくりのために栄養や食事について考えるか尋ねたところ、全体では「ややあてはまる」39.0%と最も多く、「よくあてはまる」を合わせると約5割に及び、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の計は約2割に止まった。
- 「よくあてはまる」「ややあてはまる」の計は、子どもが欲しい回答者において、約半数以上に上る。年収は高い回答者ほど多い傾向で、500万円以上の回答者では約6割に上る。

図表 17.4. 食事・運動への意識（健康づくりのために栄養や食事について考える）[単一選択]



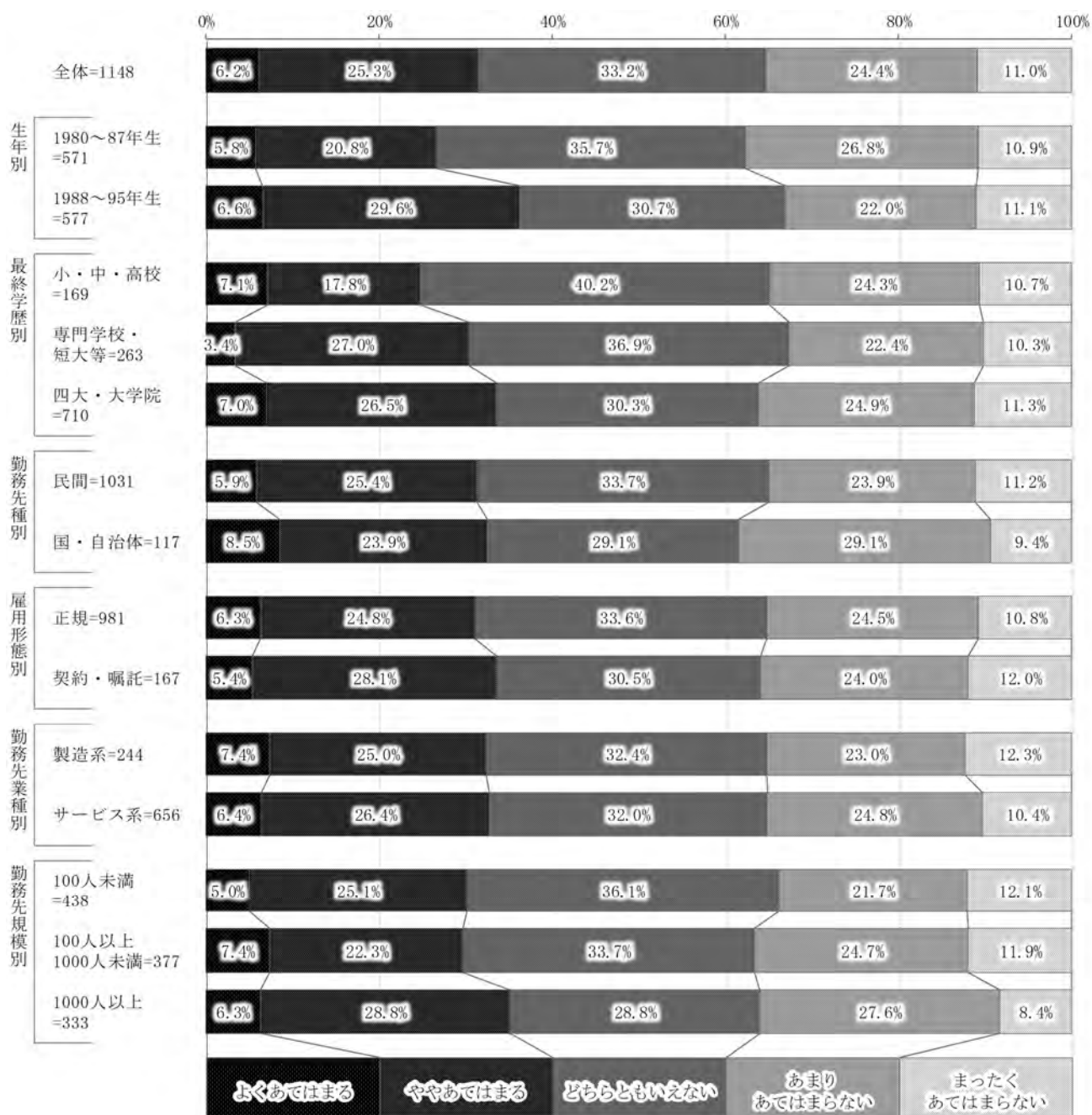


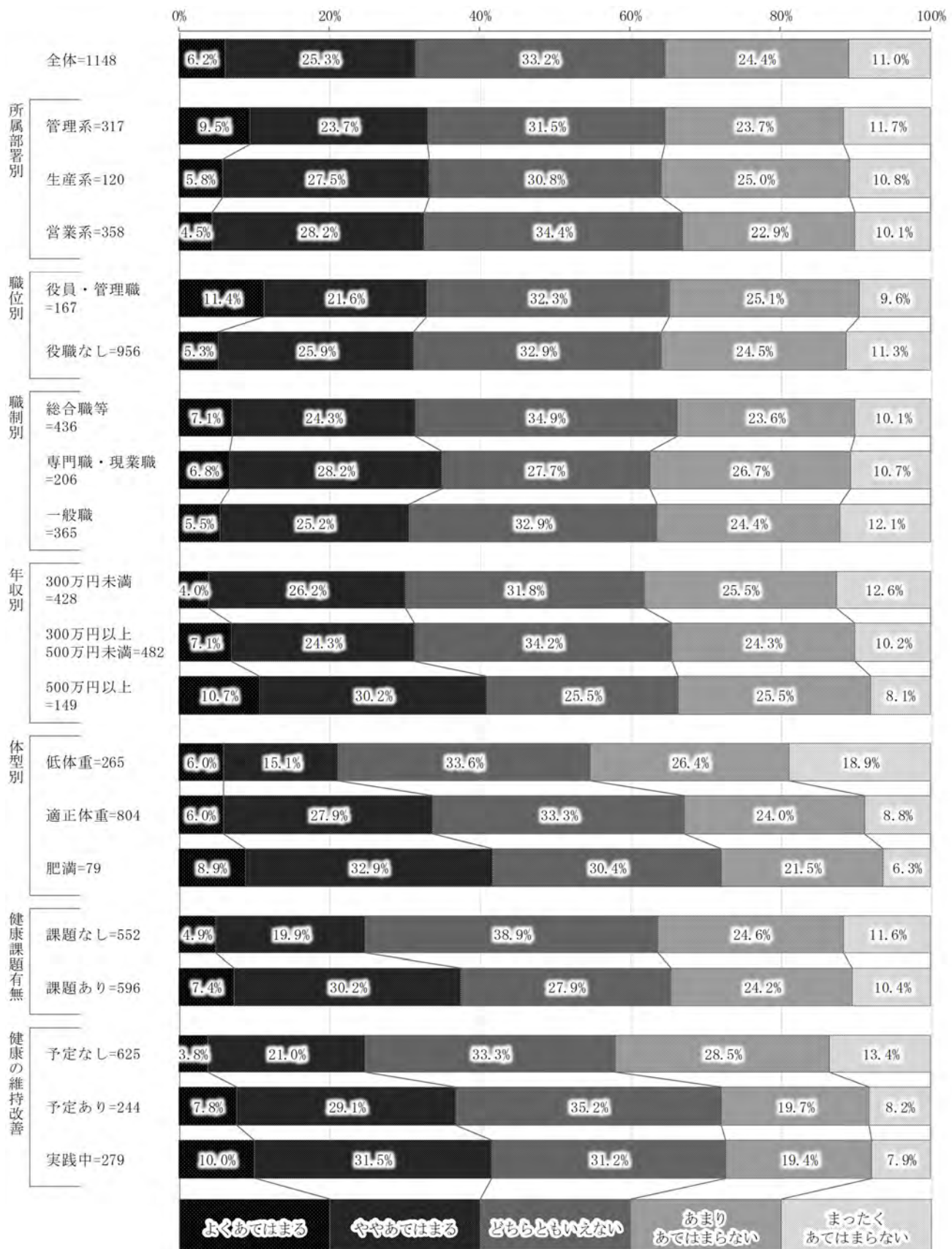


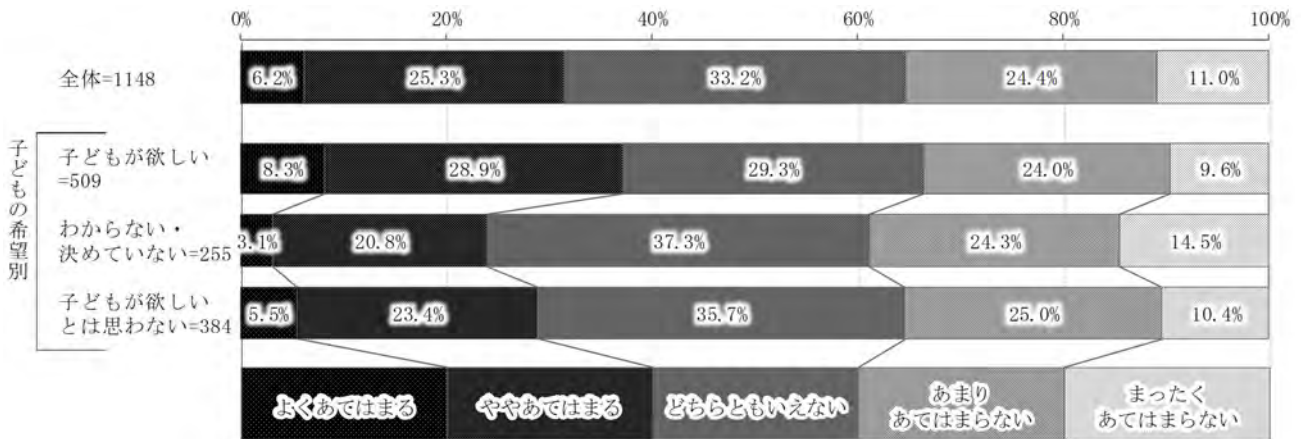
17.5. 食事・運動への意識（食事量を減らすよう心がけている）

- ・食事量を減らすよう心がけているか尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が33.2%と最も多く、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の計は31.4%、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の計は35.4%とあまり差はなかった。
- ・「よくあてはまる」「ややあてはまる」の計は、体型別で肥満の回答者、適正体重の回答者の順で多く、健康の維持改善では実践中の回答者、予定ありの回答者の順で多い傾向だった。また、健康課題有無で課題ありの回答者も多い。また、生年別で1988～95年生の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者も若干多い。

図表 17.5. 食事・運動への意識（食事量を減らすよう心がけている）【単一選択】



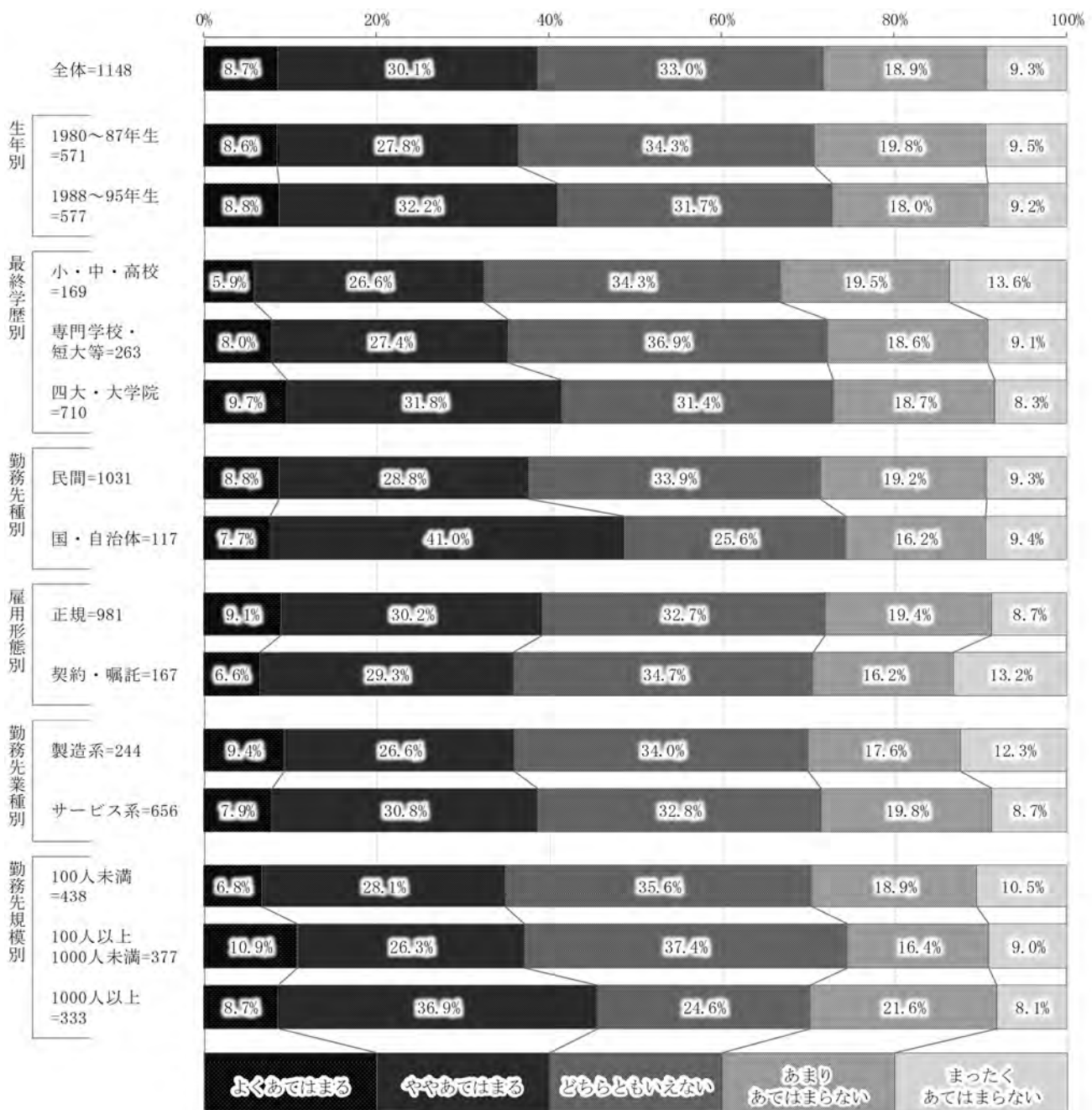


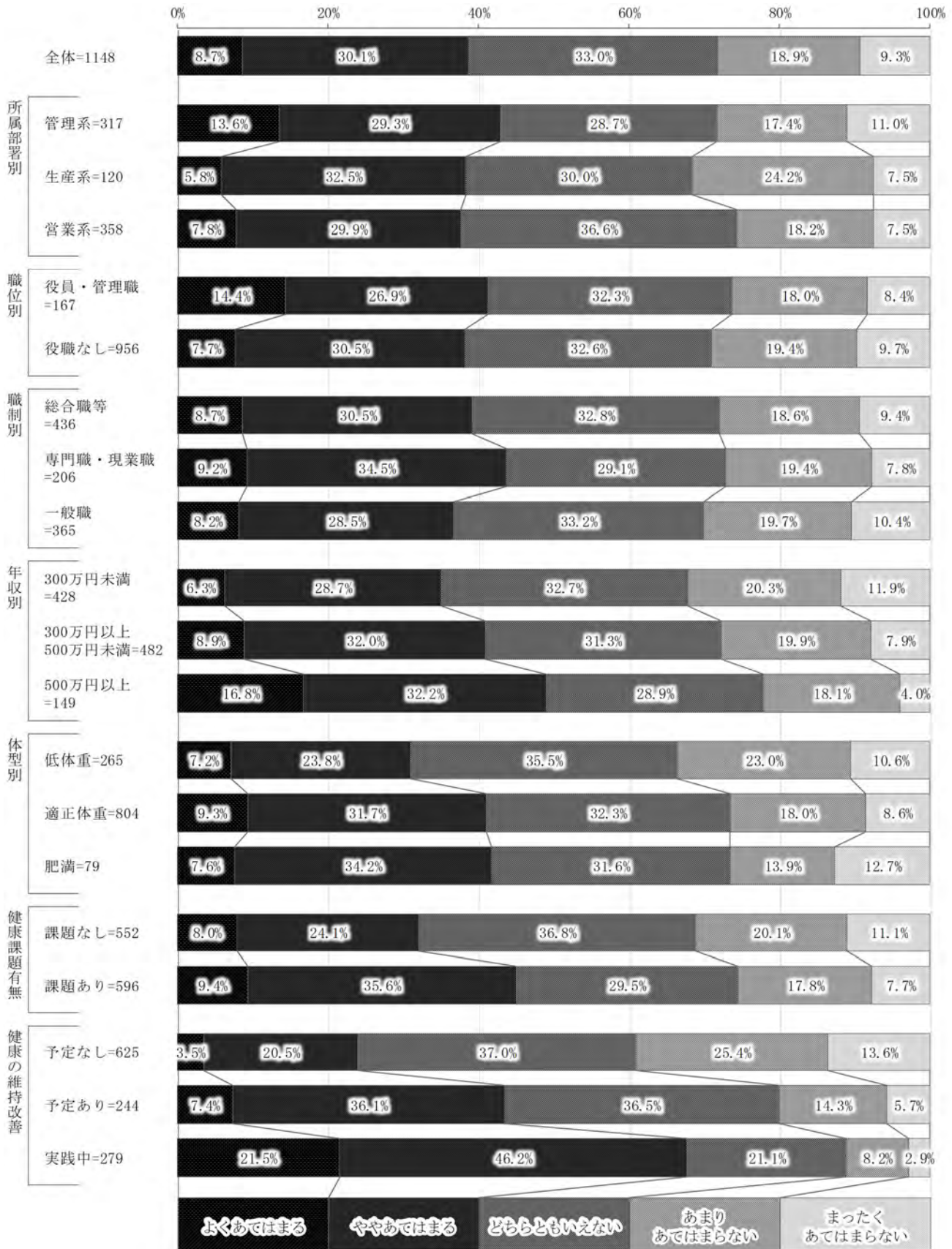


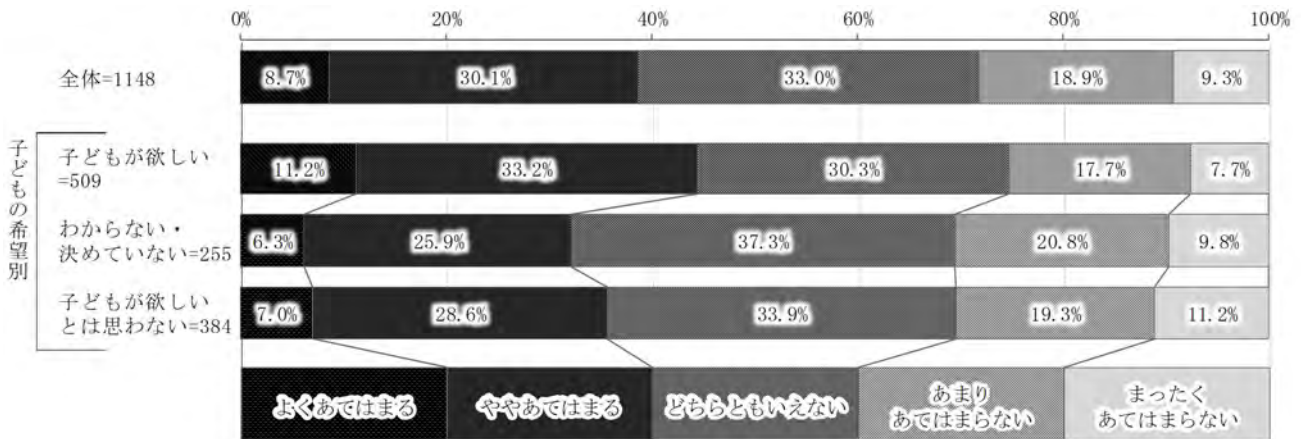
17.6. 食事・運動への意識（運動量を増やすよう心がけている）

- 運動量を増やすよう心がけているか尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が33.0%と最も多く、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の計が約4割に対し、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の計は3割に満たなかった。
- 「よくあてはまる」「ややあてはまる」の計は、体型別で肥満の回答者と適正体重の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者が多い。年収が高いほど多い傾向で500万円以上の回答者、300万円以上500万円未満の回答者と多く、健康の維持改善は実践中の回答者、予定ありの回答者の順で多い傾向で、とくに実践中の回答者は「よくあてはまる」のみでも多い。

図表 17.6. 食事・運動への意識（運動量を増やすよう心がけている）[単一選択]



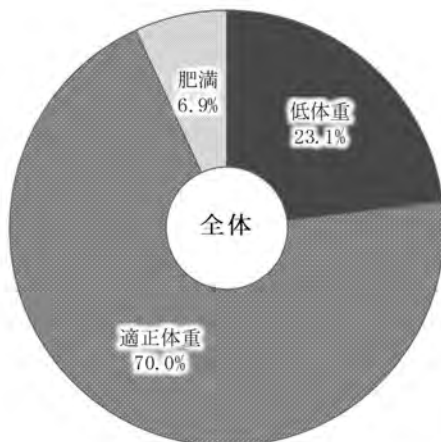




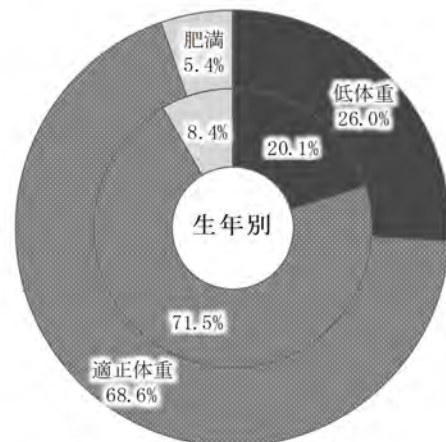
18. 体型

- 現在の身長と体重を尋ね、日本肥満学会の分類により、BMI (Body Mass Index=体重 kg÷(身長 m)²) が 25 以上を肥満、18.5 未満を低体重、その他を適正体重として集計したところ、全体では「適正体重」70.0%と最も多く、次いで「低体重」23.1%、「肥満」6.9%の順だった。
- 最終学歴別で小・中・高校の回答者の「肥満」、所属部署別で営業系の回答者の「適正体重」、年収別で 500 万円以上の回答者の「低体重」が若干多い。

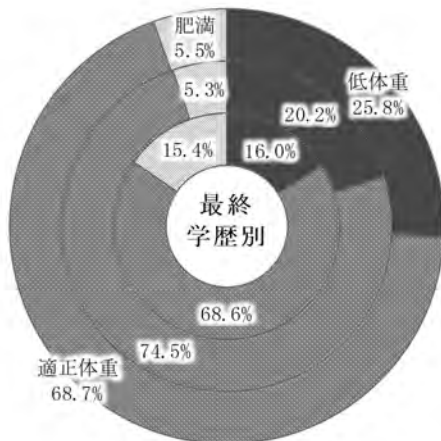
図表 18.体型[単一選択]



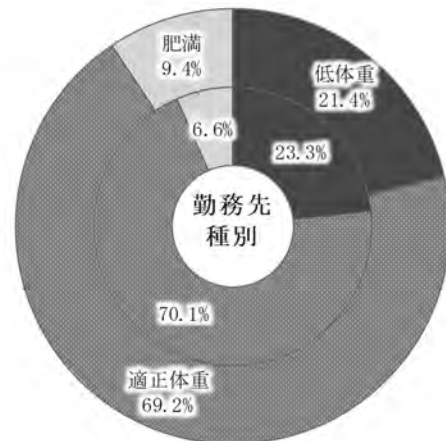
全体= 1148



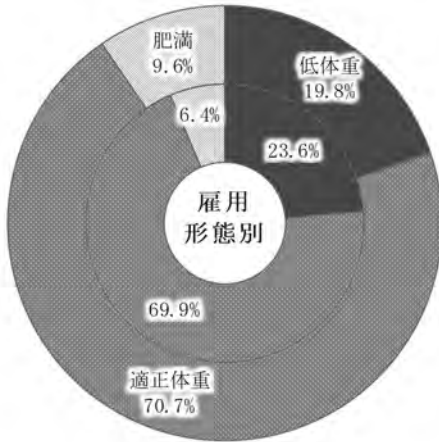
内:1980~87年生=571 外:1988~95年生=577



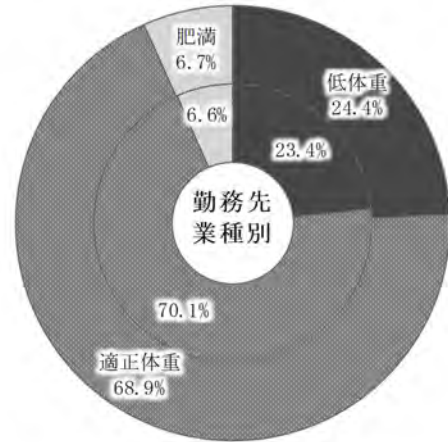
内:小・中・高校=169 中:専門学校・短大等=263
外:四大・大学院=710



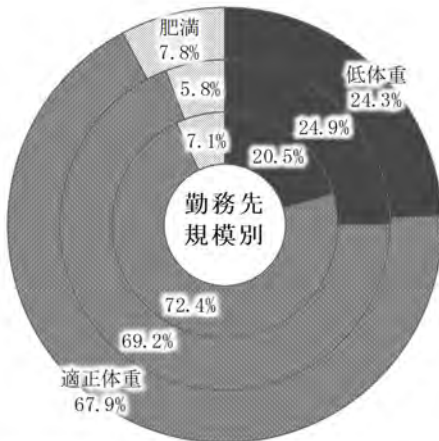
内:民間=1031 外:国・自治体=117



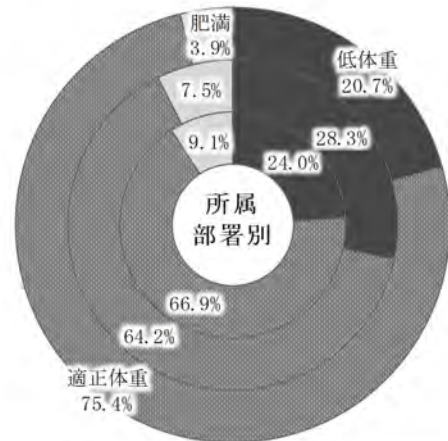
内: 正規=981 外: 契約・嘱託=167



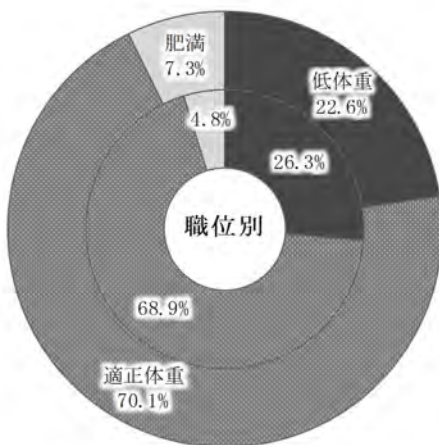
内: 製造系=244 外: サービス系=656



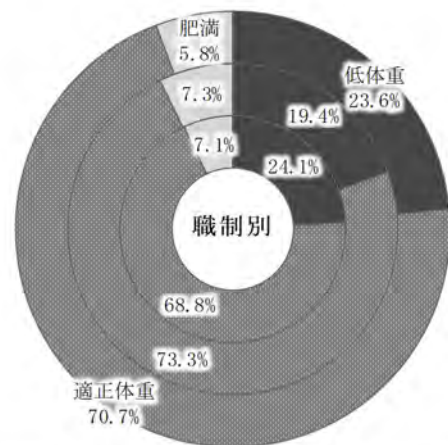
内: 100人未満=438 中: 100人以上1000人未満=377 外: 1000人以上=333



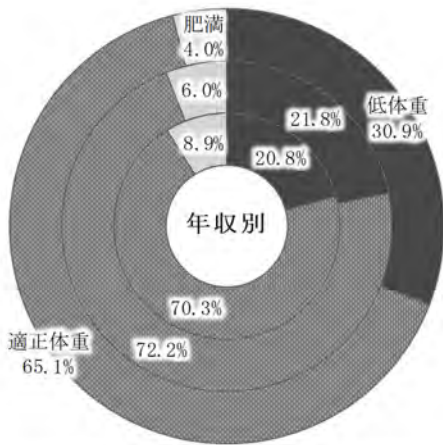
内: 管理系=317 中: 生産系=120 外: 営業系=358



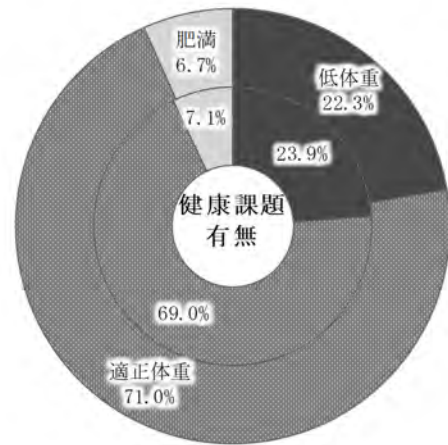
内: 役員・管理職=167 外: 役職なし=956



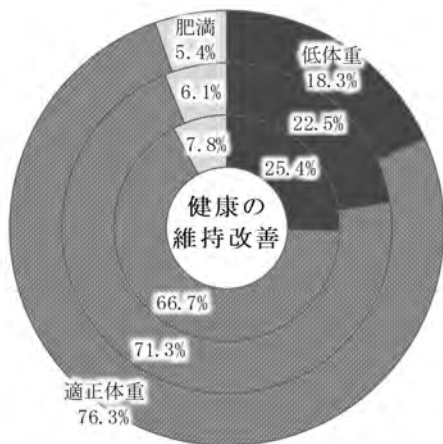
内: 総合職等=436 中: 専門職・現業職=206 外: 一般職=365



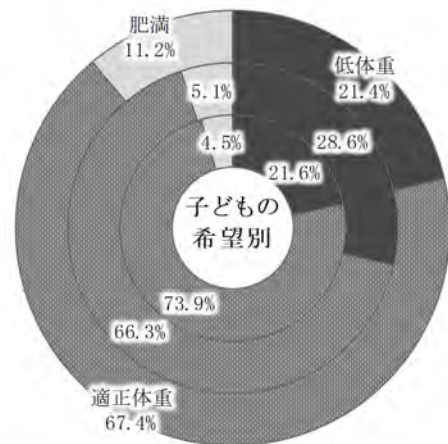
内: 300万円未満=428 中: 300万以上500万円未満=482
外: 500万円以上=149



内: 課題なし=552 外: 課題あり=596



内: 予定なし=625 中: 予定あり=244 外: 実践中=279

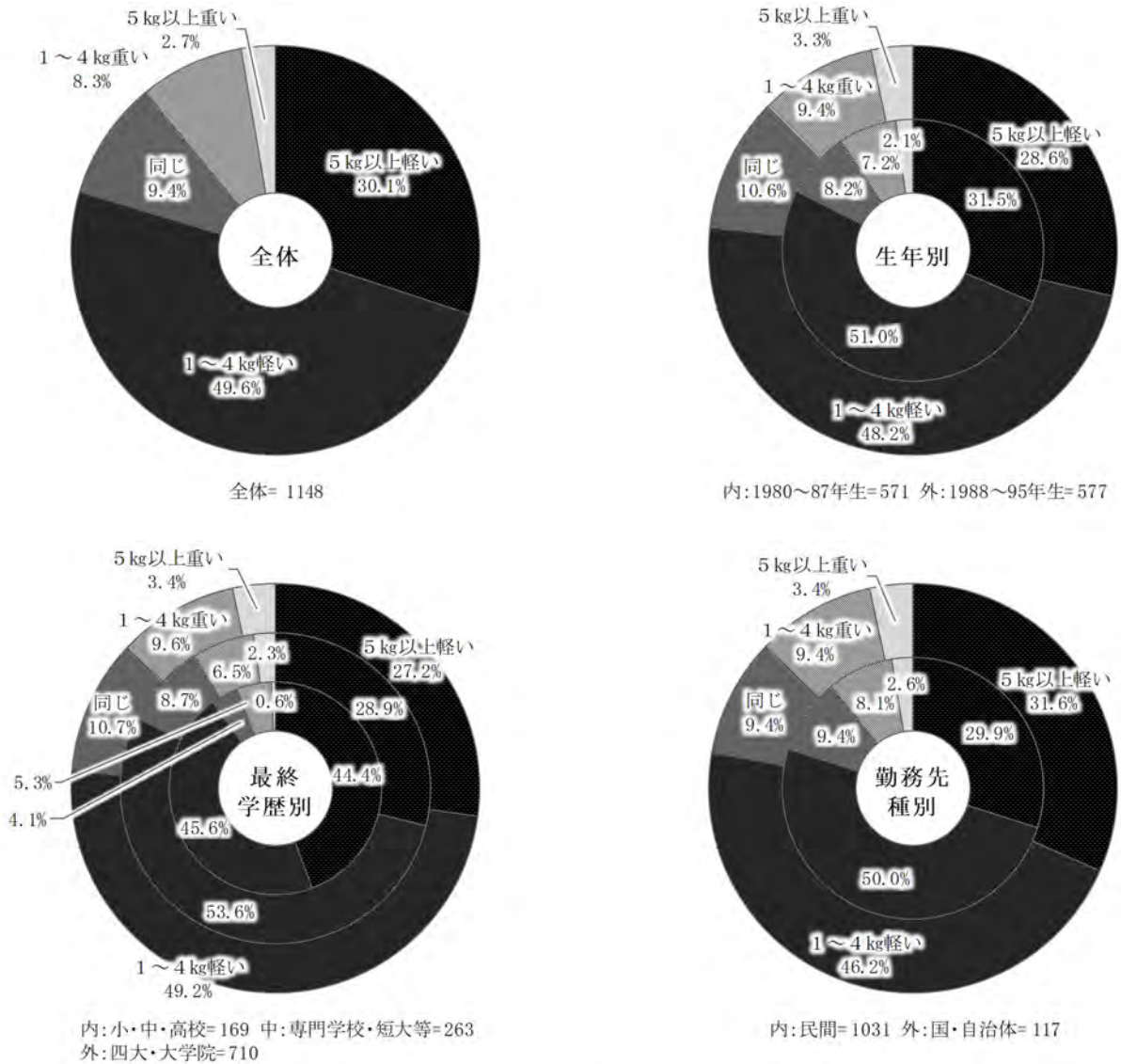


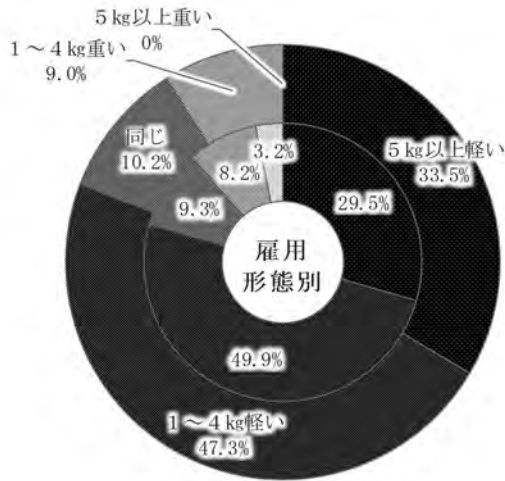
内: 子どもが欲しい=509 中: わからない・決めていない=255
外: 子どもが欲しいとは思わない=384

19. 理想体重（現在の体重比）

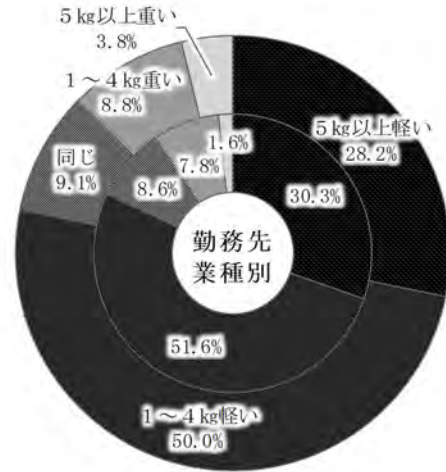
- 理想体重を尋ね、現在の体重と比較し「5 kg 以上軽い」「1～4 kg 軽い」「同じ」「1～4 kg 重い」「5 kg 以上重い」の5段階で集計したところ、全体では「1～4 kg 軽い」が49.6%と最も多く、次いで「5 kg 以上軽い」が30.1%と多い。
- 体型別で低体重の回答者、適正体重の回答者は「1～4 kg 軽い」最も多く、肥満の回答者は「5 kg 以上軽い」が大部分を占めた。

図表 19.理想体重（現在の体重比）[単一選択]

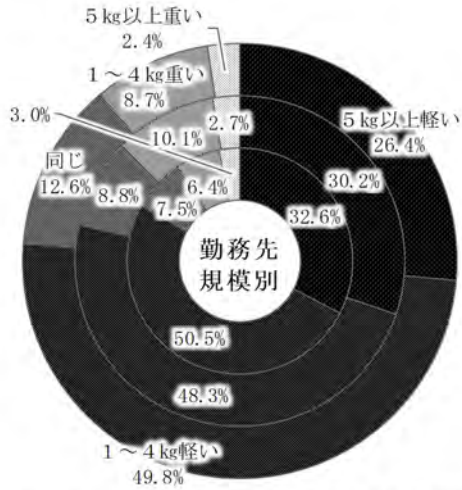




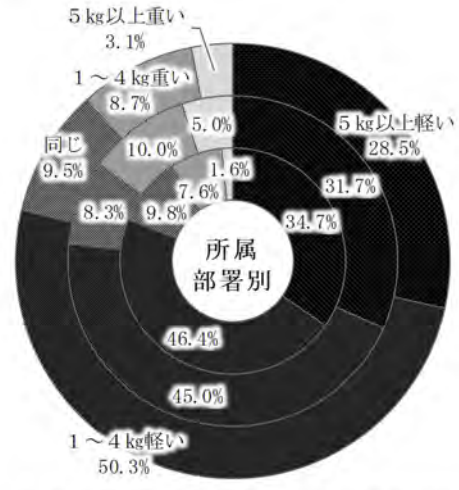
内: 正規=981 外: 契約・嘱託=167



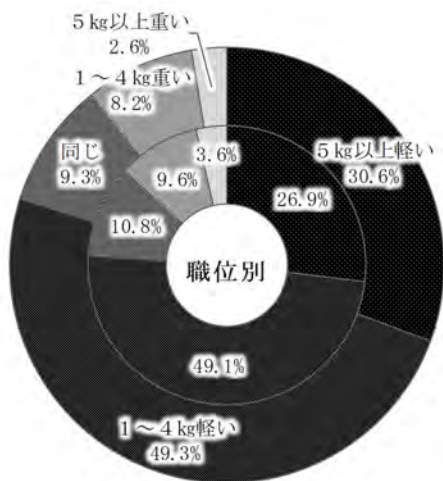
内: 製造系=244 外: サービス系=656



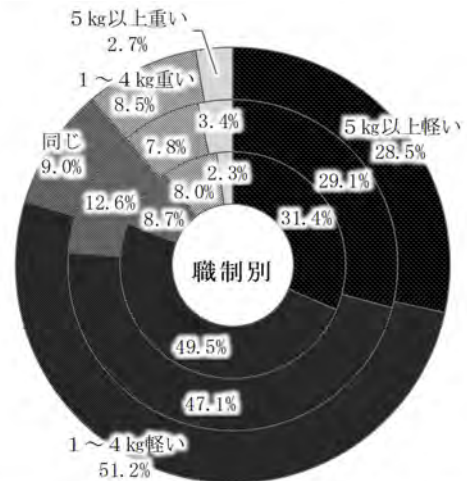
内: 100人未満=438 中: 100人以上1000人未満=377 外: 1000人以上=333



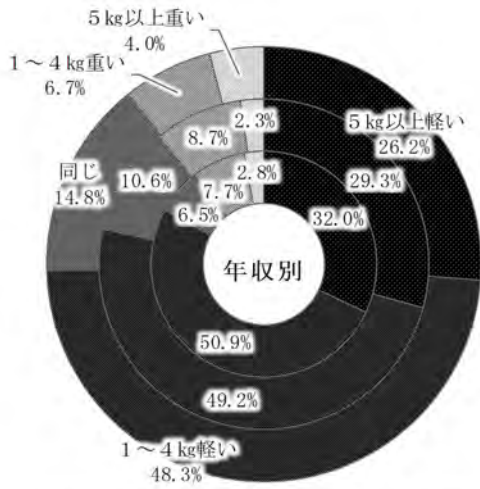
内: 管理系=317 中: 生産系=120 外: 営業系=358



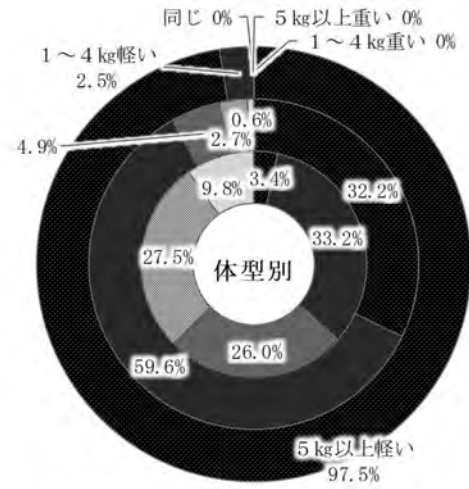
内: 役員・管理職=167 外: 役職なし=956



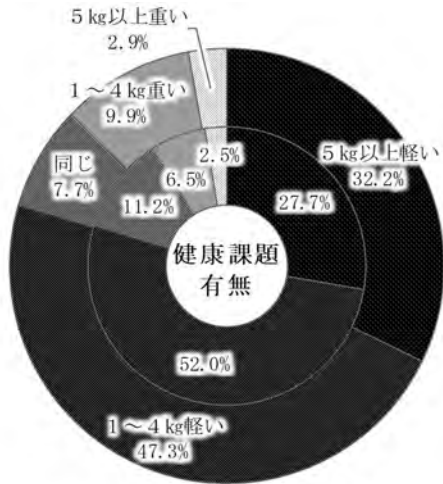
内: 総合職等=436 中: 専門職・現業職=206 外: 一般職=365



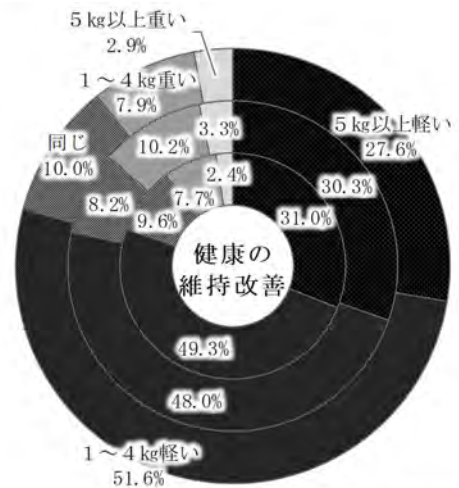
内: 300万円未満=428 中: 300万以上500万円未満=482
外: 500万円以上=149



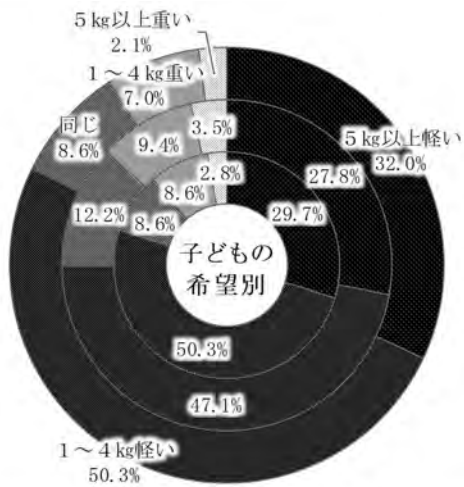
内: 低体重=265 中: 適正体重=804 外: 肥満=79



内: 課題なし=552 外: 課題あり=596



内: 予定なし=625 中: 予定あり=244 外: 実践中=279

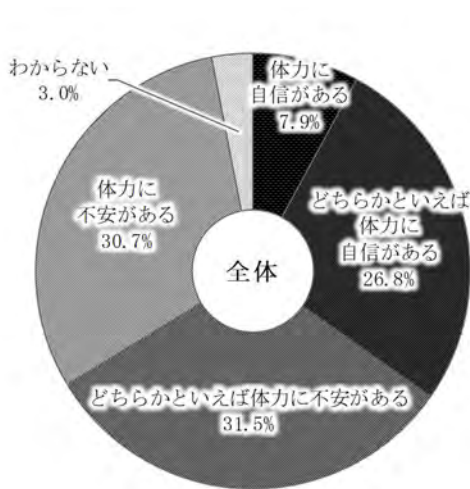


内: 子どもが欲しい=509 中: わからない・決めていない=255
外: 子どもが欲しいとは思わない=384

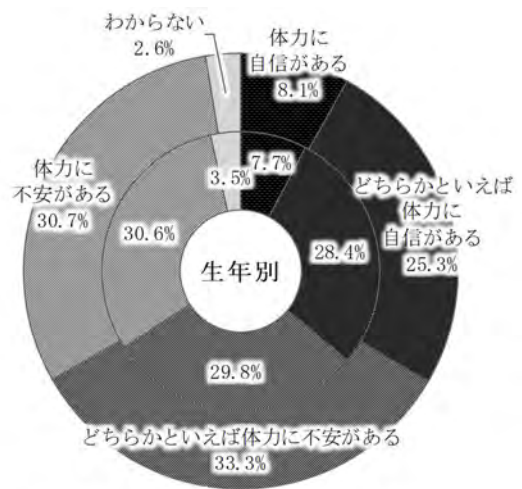
20. 体力

- 自身の体力についてどのように感じているか尋ねたところ、全体では「どちらかといえば体力に不安がある」が31.5%と最も多く、「体力に不安がある」を合わせると6割を超えた。
- 雇用形態別で契約・嘱託の回答者は「体力に不安がある」が多く、「どちらかといえば体力に不安がある」を合わせると7割を超えた。
- 職位別で役職なしの回答者は「体力に不安がある」が多く、「どちらかといえば体力に不安がある」を合わせると6割を超えた。
- 健康の維持改善で実践中の回答者は「体力に自信がある」「どちらかといえば体力に自信がある」の計が多い。

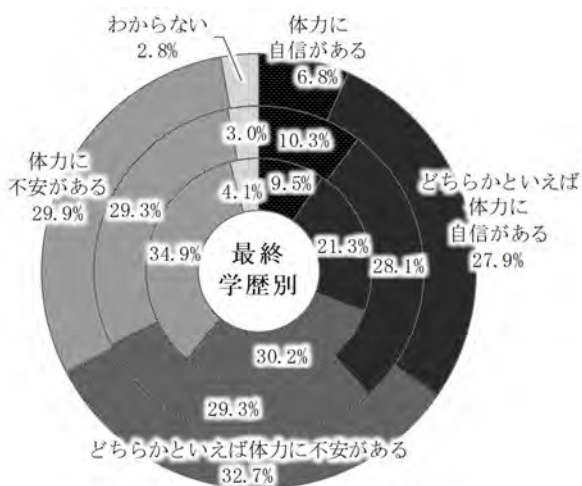
図表 20.体力[単一選択]



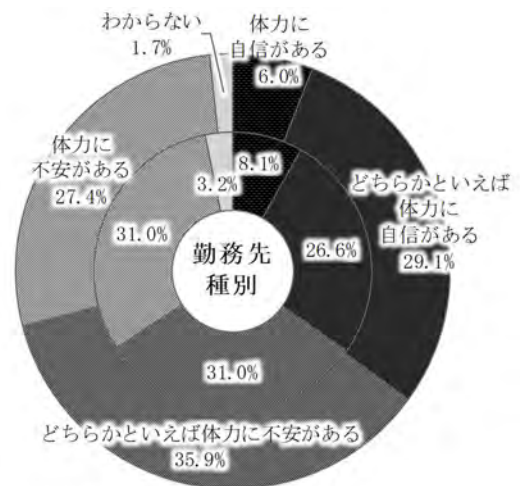
全体= 1148



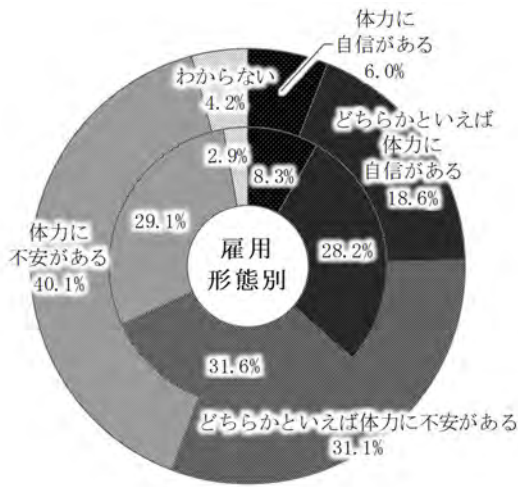
内:1980~87年生=571 外:1988~95年生=577



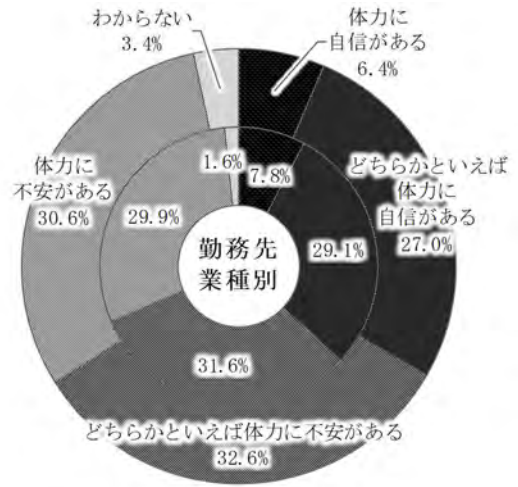
内:小・中・高校=169 中:専門学校・短大等=263
外:四大・大学院=710



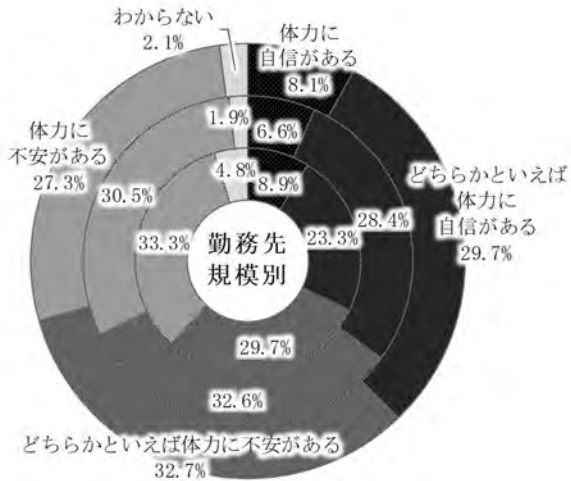
内:民間=1031 外:国・自治体=117



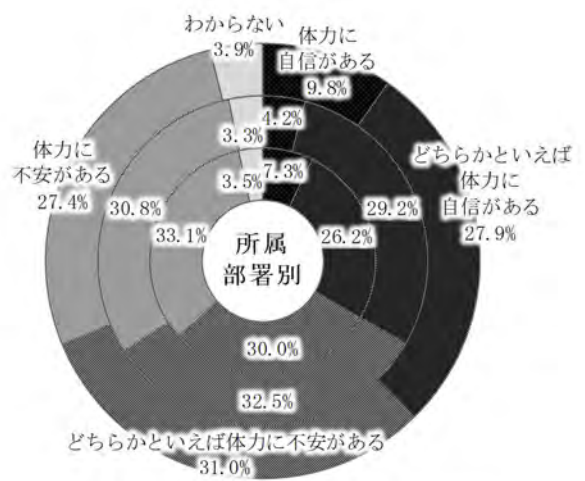
内:正規=981 外:契約・嘱託=167



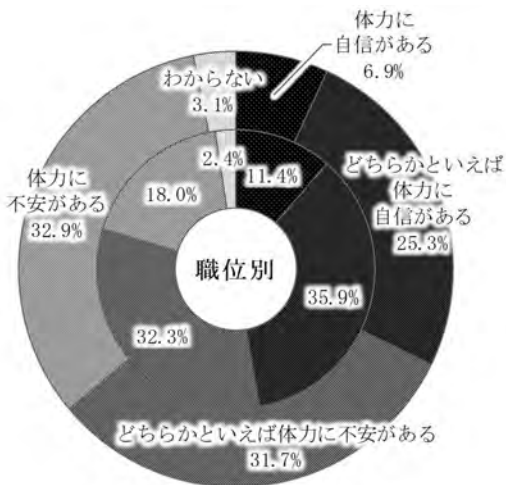
内:製造系=244 外:サービス系=656



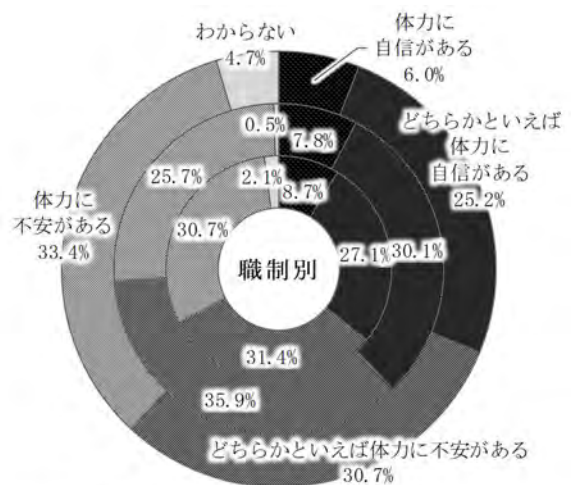
内:100人未満=438 中:100人以上1000人未満=377
外:1000人以上=333



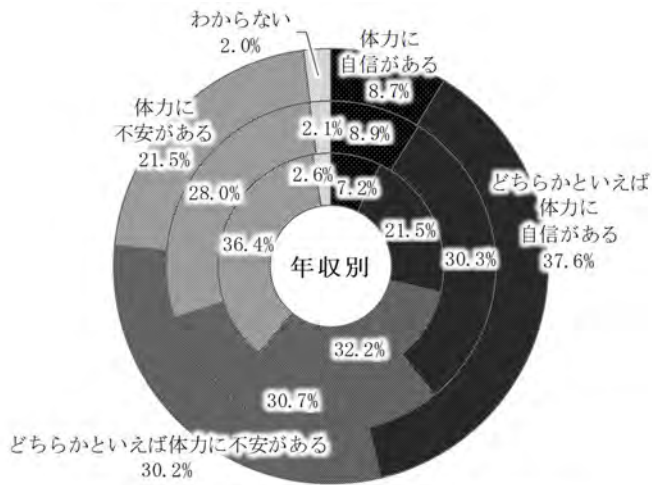
内:管理系=317 中:生産系=120 外:営業系=358



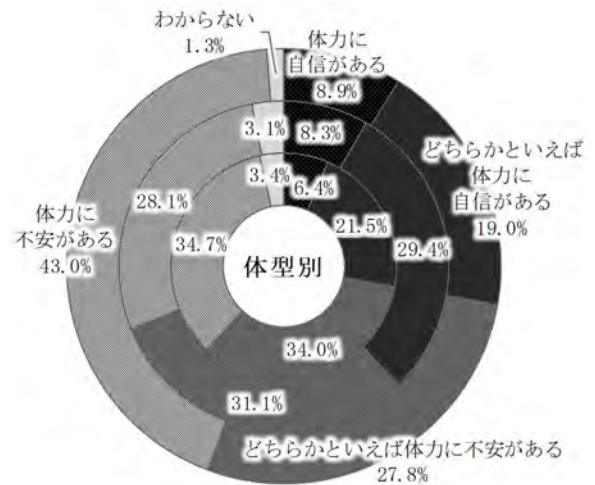
内:役員・管理職=167 外:役職なし=956



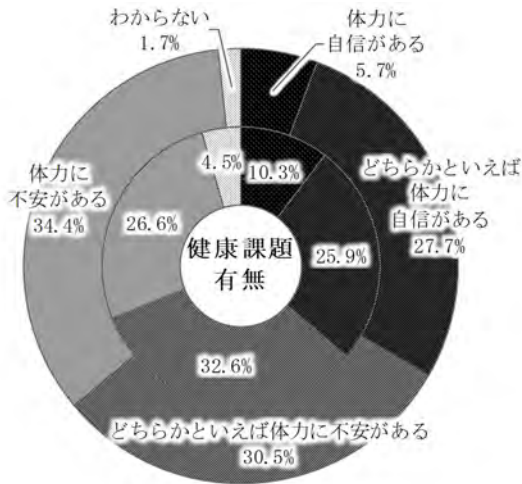
内:総合職等=436 中:専門職・現業職=206 外:一般職=365



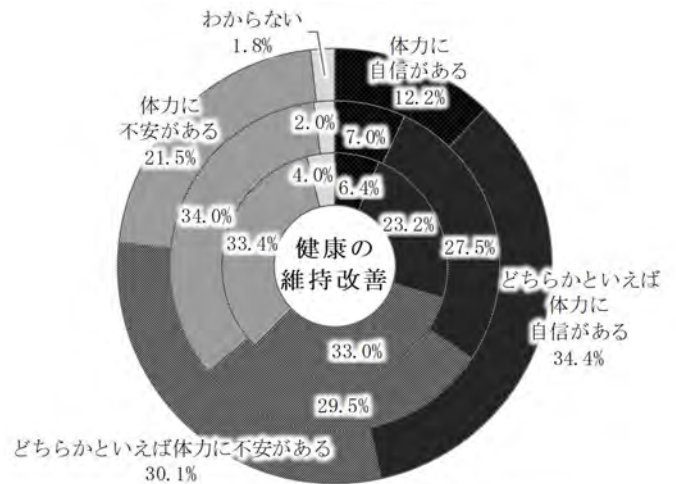
内: 300万円未満=428 中: 300万以上500万円未満=482
外: 500万円以上=149



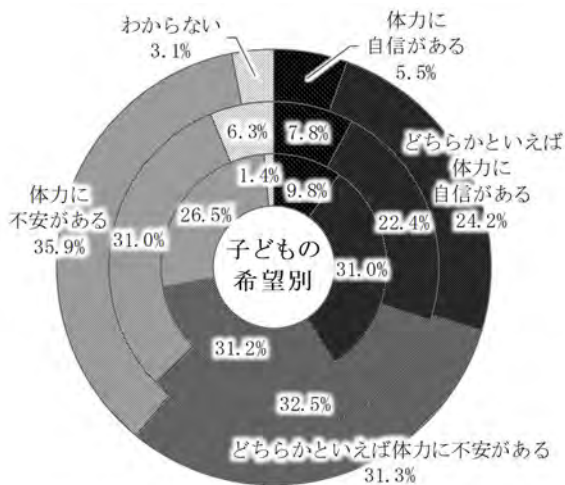
内: 低体重=265 中: 適正体重=804 外: 肥満=79



内: 課題なし=552 外: 課題あり=596



内: 予定なし=625 中: 予定あり=244 外: 実践中=279

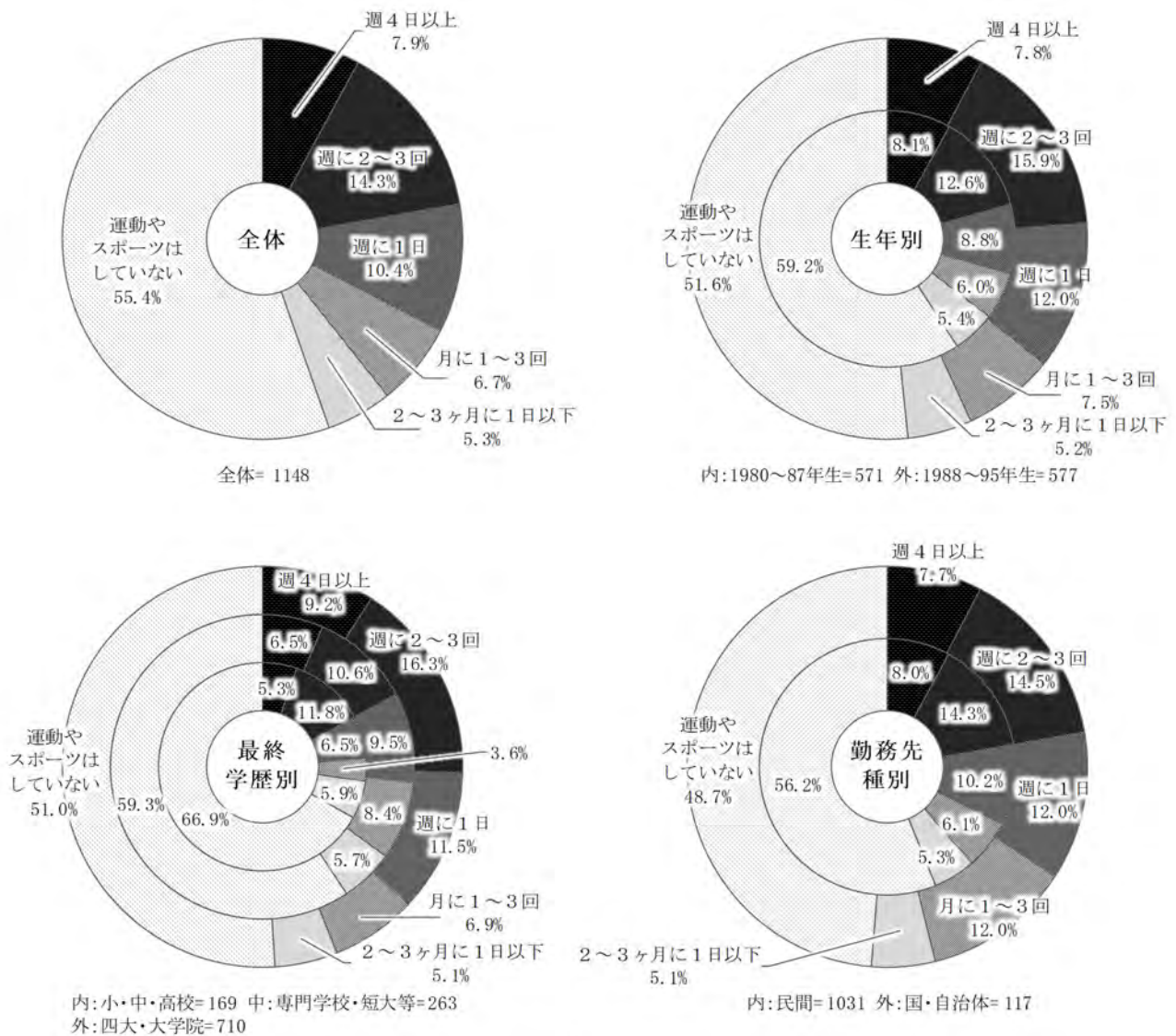


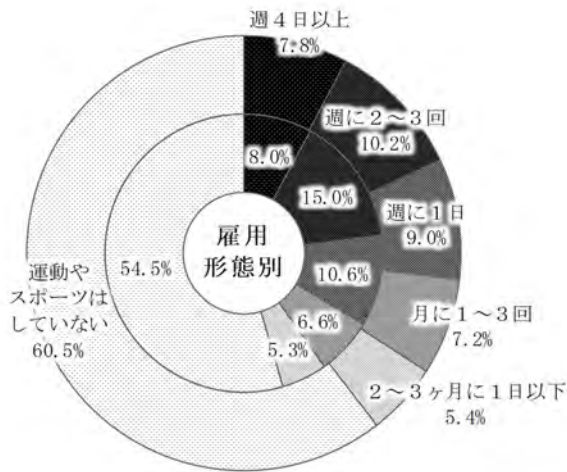
内: 子どもが欲しい=509 中: わからない・決めていない=255
外: 子どもが欲しいとは思わない=384

21. 運動量

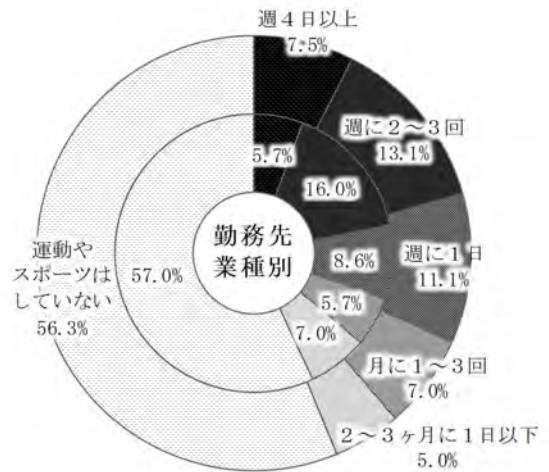
- 過去1年間の間でどのくらい運動やスポーツを行っているか尋ねたところ、全体では「運動やスポーツはしていない」が55.4%と最も多い。
- 「運動やスポーツはしていない」は、健康の維持改善で予定なしの回答者、予定ありの回答者と続き、実践中の回答者は「週に2～3回」が最も多い。
- 「運動やスポーツはしていない」は、職位別で役職なしの回答者が多く、年収別は低いほど多く、300万円未満の回答者、健康の維持改善で予定なしの回答者、予定ありの回答者、子どもの希望別で子どもが欲しいとは思わない回答者、わからない・決めていない回答者が多い。

図表 21.運動量[単一選択]

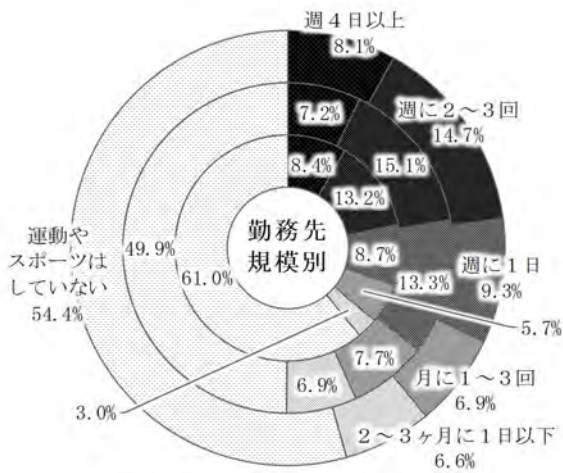




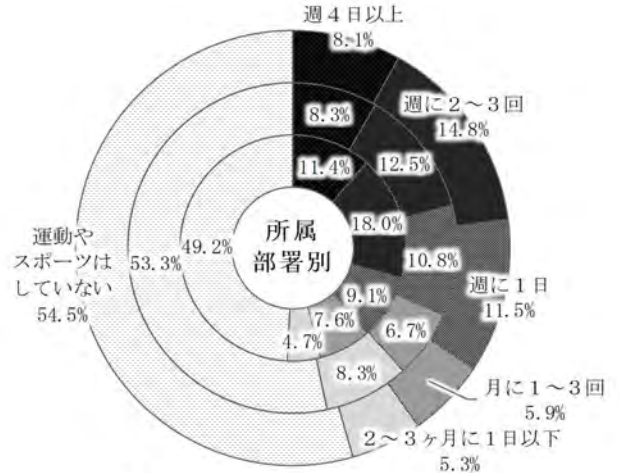
内:正規=981 外:契約・嘱託=167



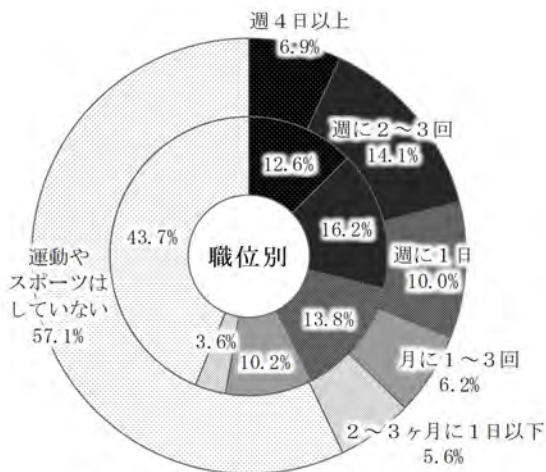
内:製造系=244 外:サービス系=656



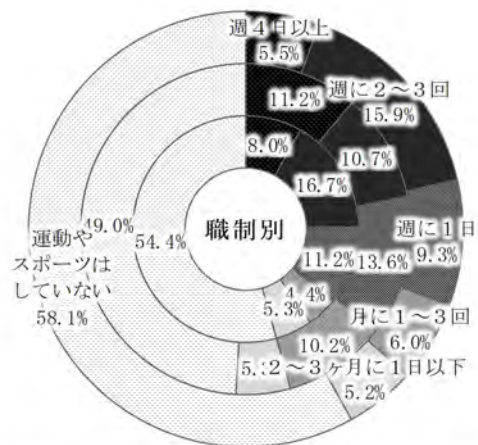
内:100人未満=438 中:100人以上1000人未満=377 外:1000人以上=333



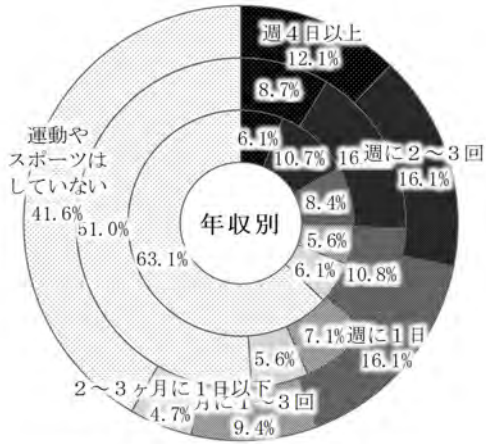
内:管理系=317 中:生産系=120 外:営業系=358



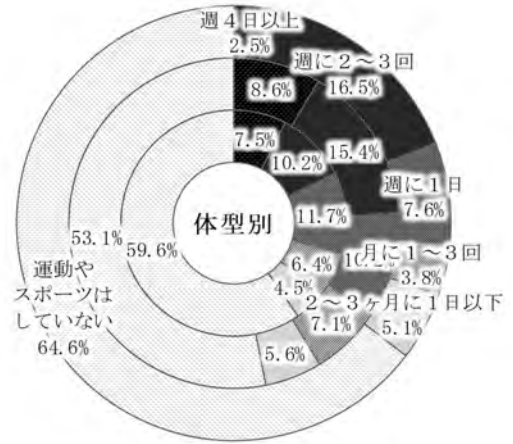
内:役員・管理職=167 外:役職なし=956



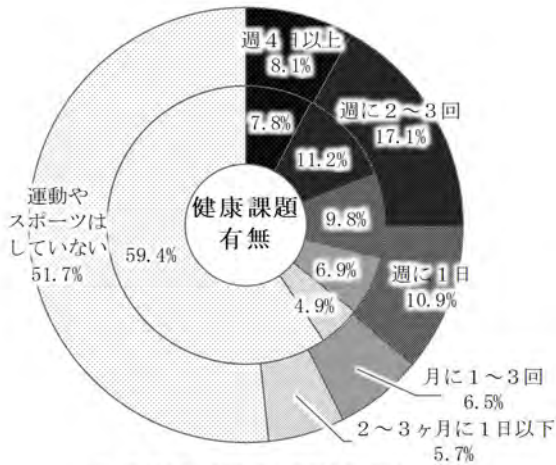
内:総合職等=436 中:専門職・現業職=206 外:一般職=365



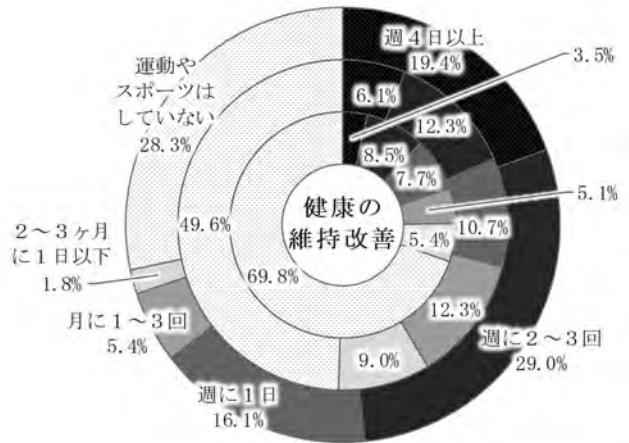
内: 300万円未満=428 中: 300万以上500万円未満=482
外: 500万円以上=149



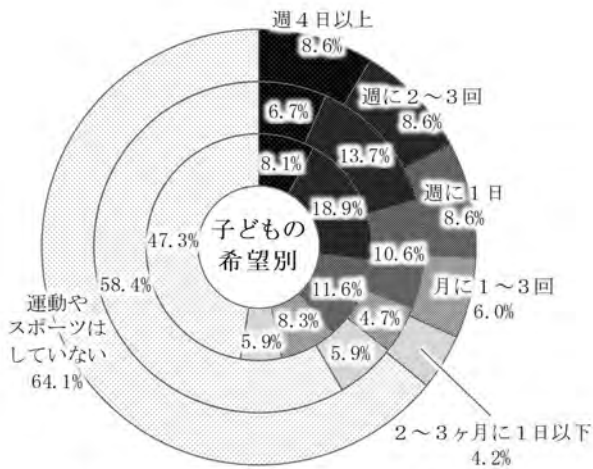
内: 低体重=265 中: 適正体重=804 外: 肥満=79



内: 課題なし=552 外: 課題あり=596



内: 予定なし=625 中: 予定あり=244 外: 実践中=279

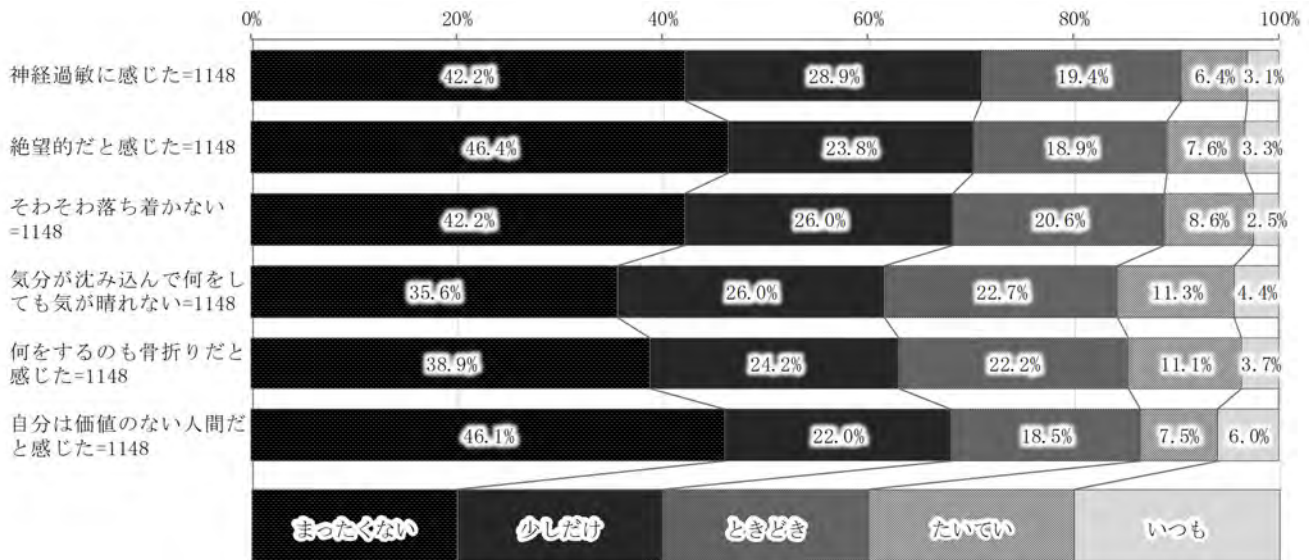


内: 子どもが欲しい=509 中: わからない・決めていない=255
外: 子どもが欲しいとは思わない=384

22. 自覚している精神状態

- 過去 30 日の間に感じた状態の頻度を尋ねたところ、「いつも」と「たいてい」の計は、全体では「気分が沈み込んで何をしても気が晴れない」15.7%、「何をするのも骨折りだと感じた」14.7%、「自分は価値のない人間だと感じた」13.5%の順に多かった。

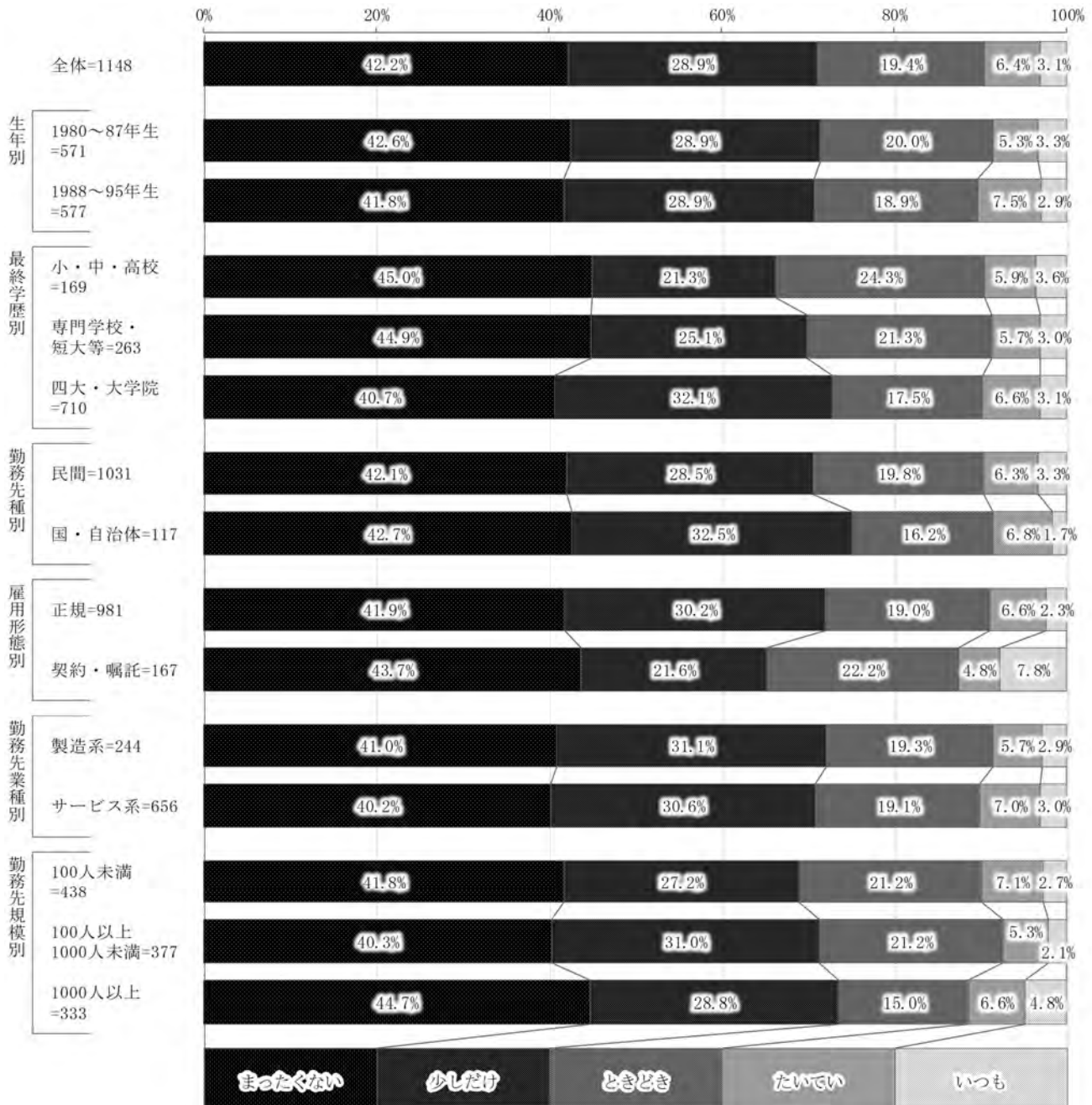
図表 22. 自覚している精神状態 [単一選択]

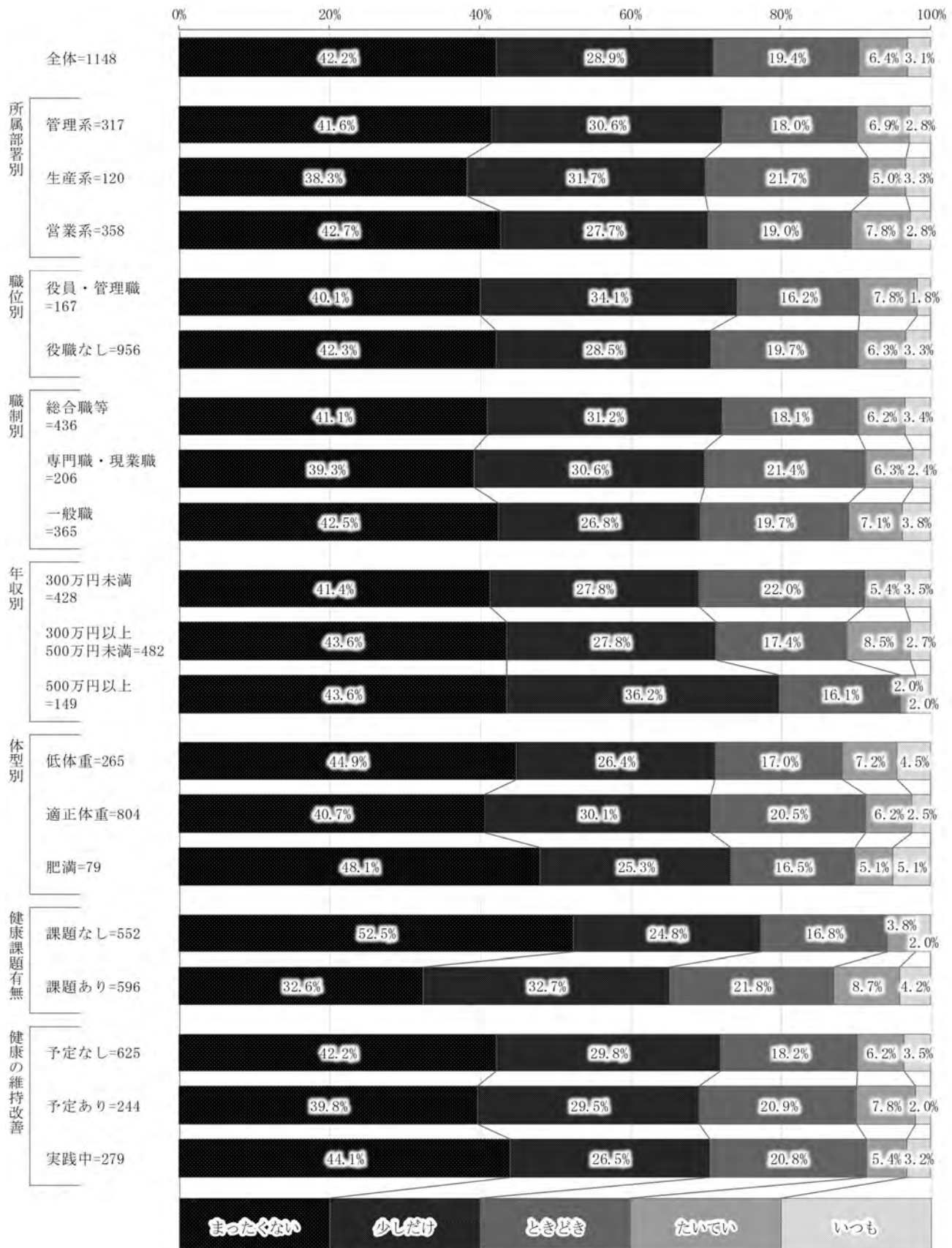


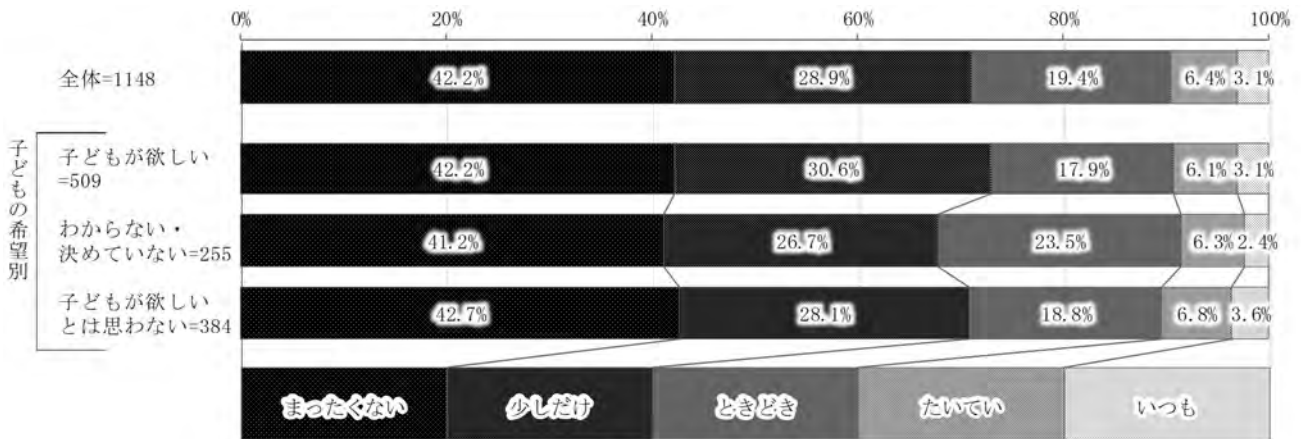
22.1. 自覚している精神状態（神経過敏に感じた）

- 過去 30 日の間に神経過敏に感じた頻度を尋ねたところ、「いつも」と「たいてい」の計は、全体では 9.5% だった。
- 健康課題有無で課題ありの回答者は、「まったくない」が少ない。

図表 22.1. 自覚している精神状態（神経過敏に感じた）[単一選択]



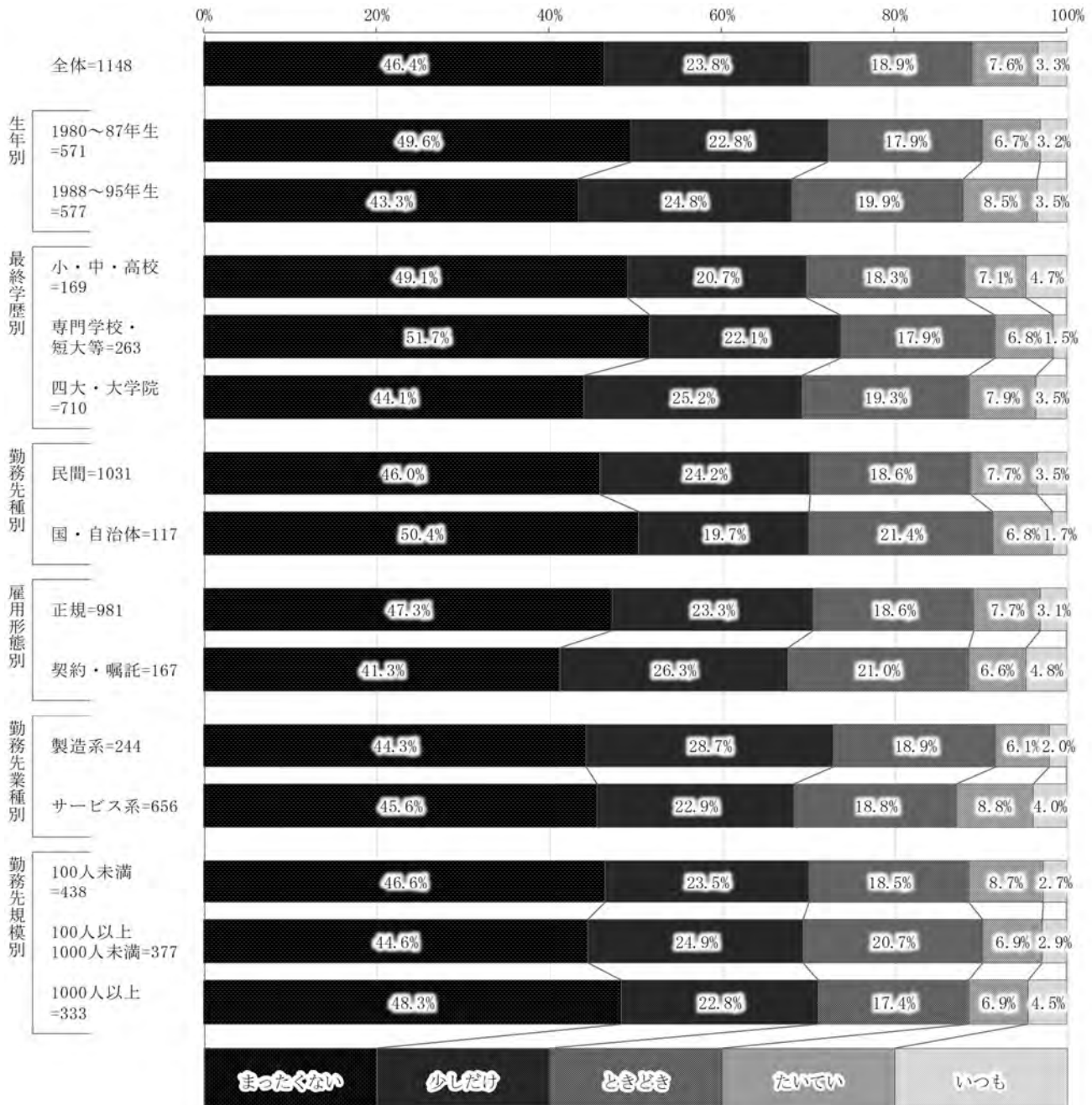


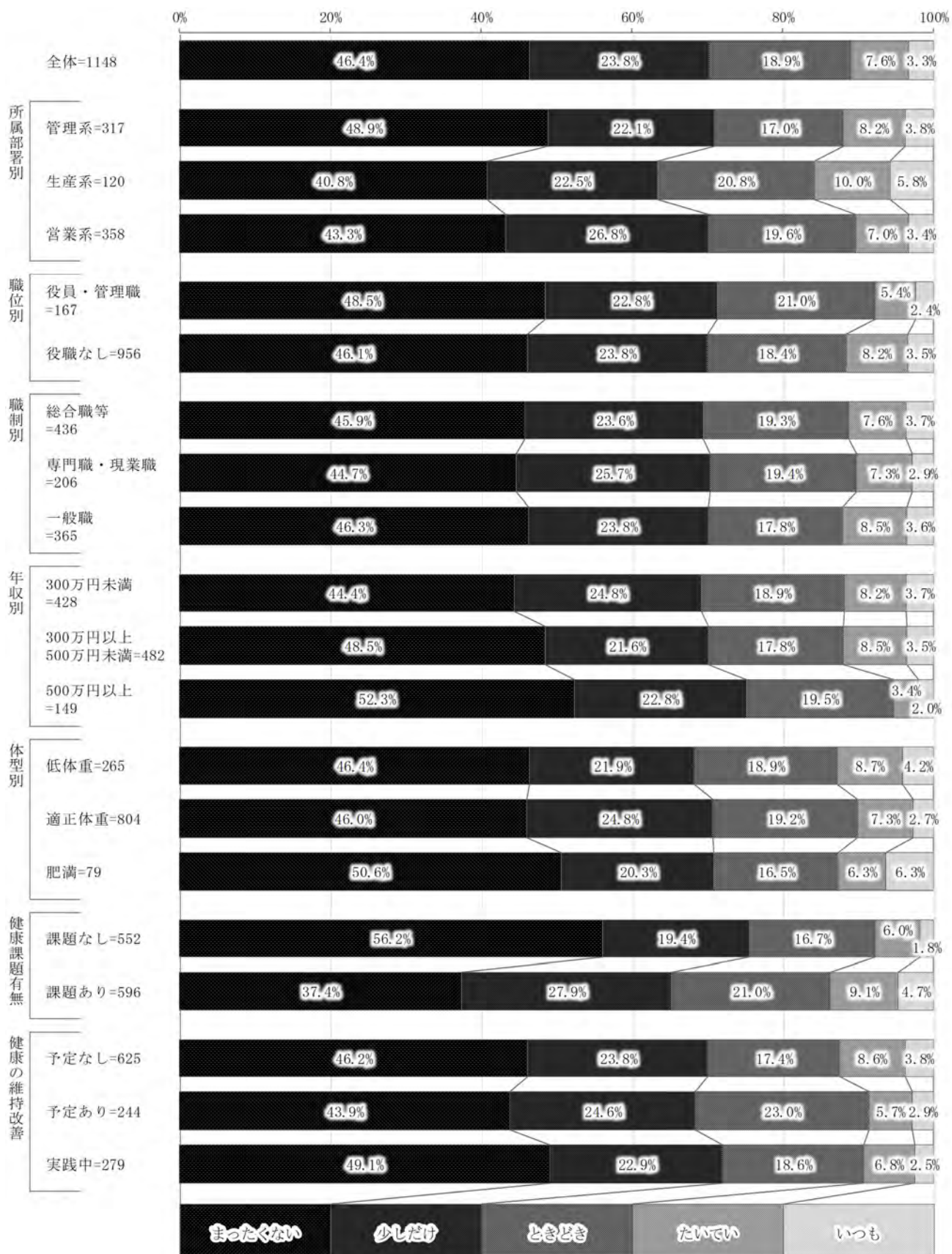


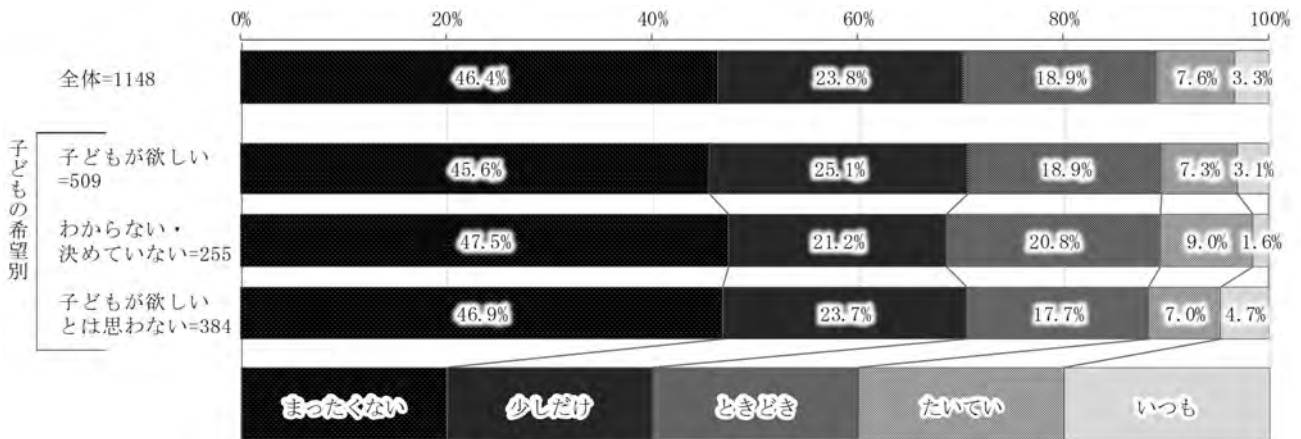
22.2. 自覚している精神状態（絶望的だと感じた）

- 過去 30 日の間に絶望的だと感じた頻度を尋ねたところ、「いつも」と「たいてい」の計は、全体では 10.9% だった。
- 健康課題有無で課題ありの回答者は、「まったくない」が少ない。

図表 22.2. 自覚している精神状態（絶望的だと感じた）[単一選択]



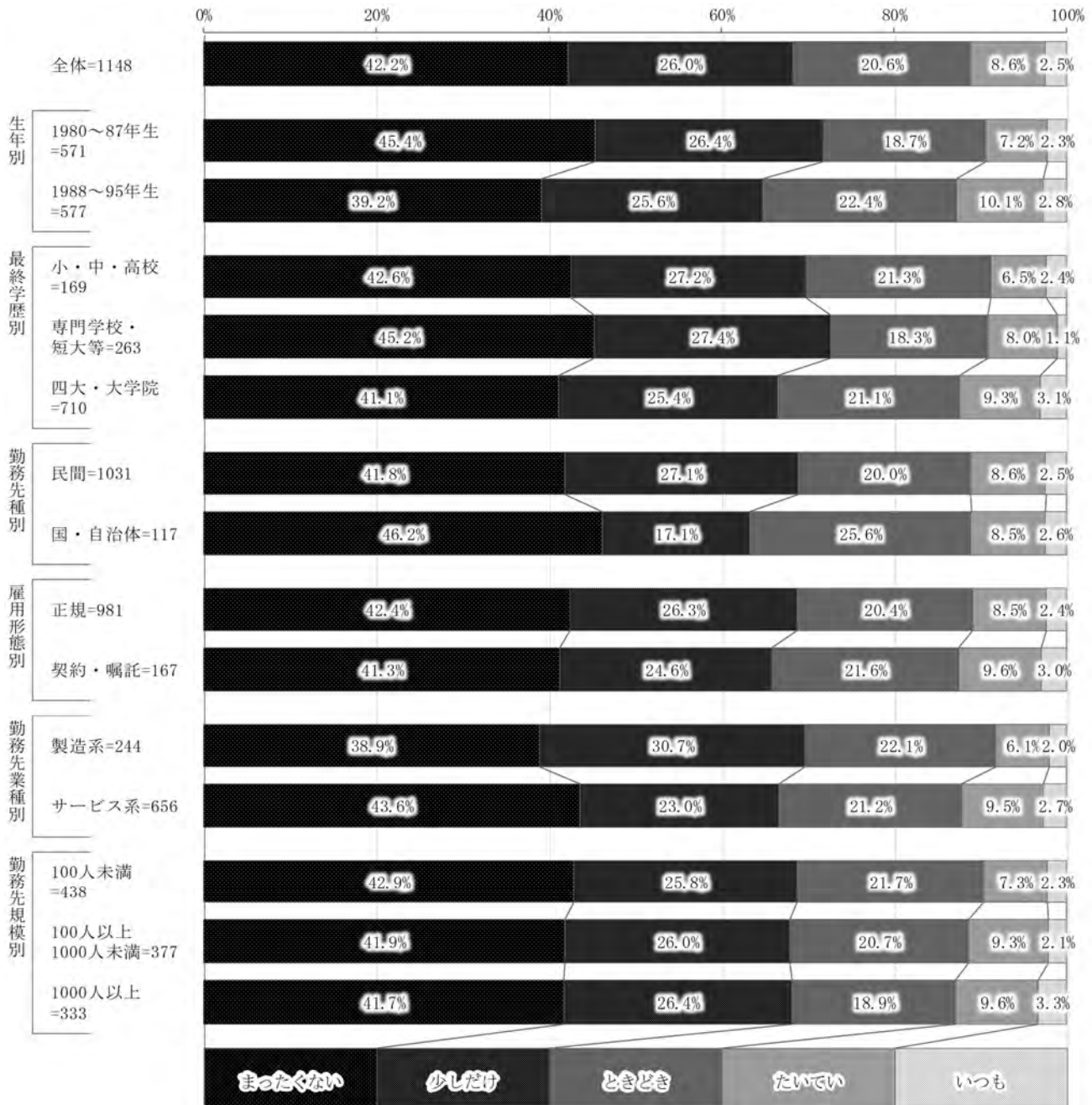


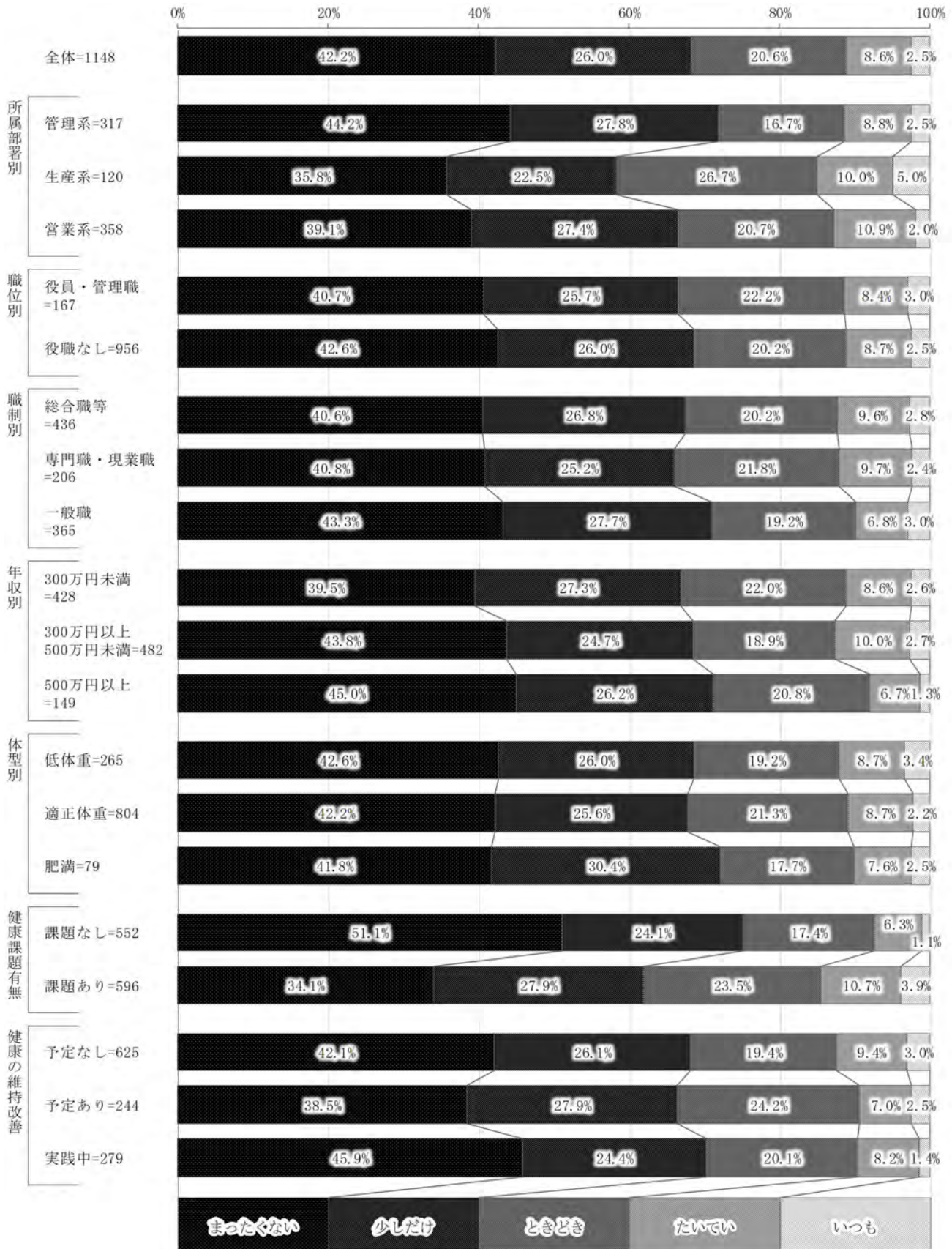


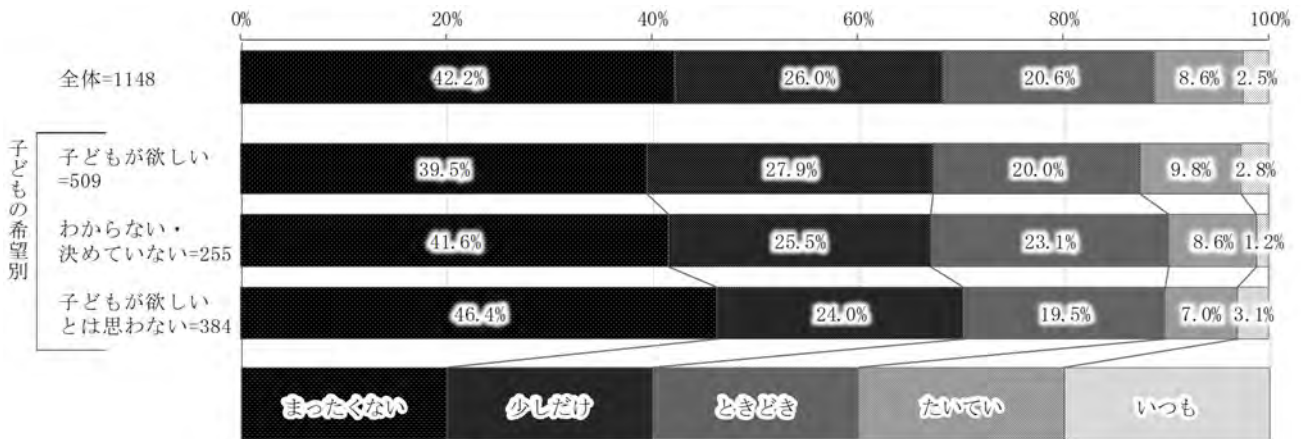
22.3. 自覚している精神状態（そわそわ落ち着かない）

- 過去 30 日の間にそわそわ落ち着かないと感じた頻度を尋ねたところ、「いつも」と「たいてい」の計は、全体では 11.1% だった。
- 健康課題有無で課題ありの回答者は、「まったくない」が少ない。

図表 22.3. 自覚している精神状態（そわそわ落ち着かない） [単一選択]



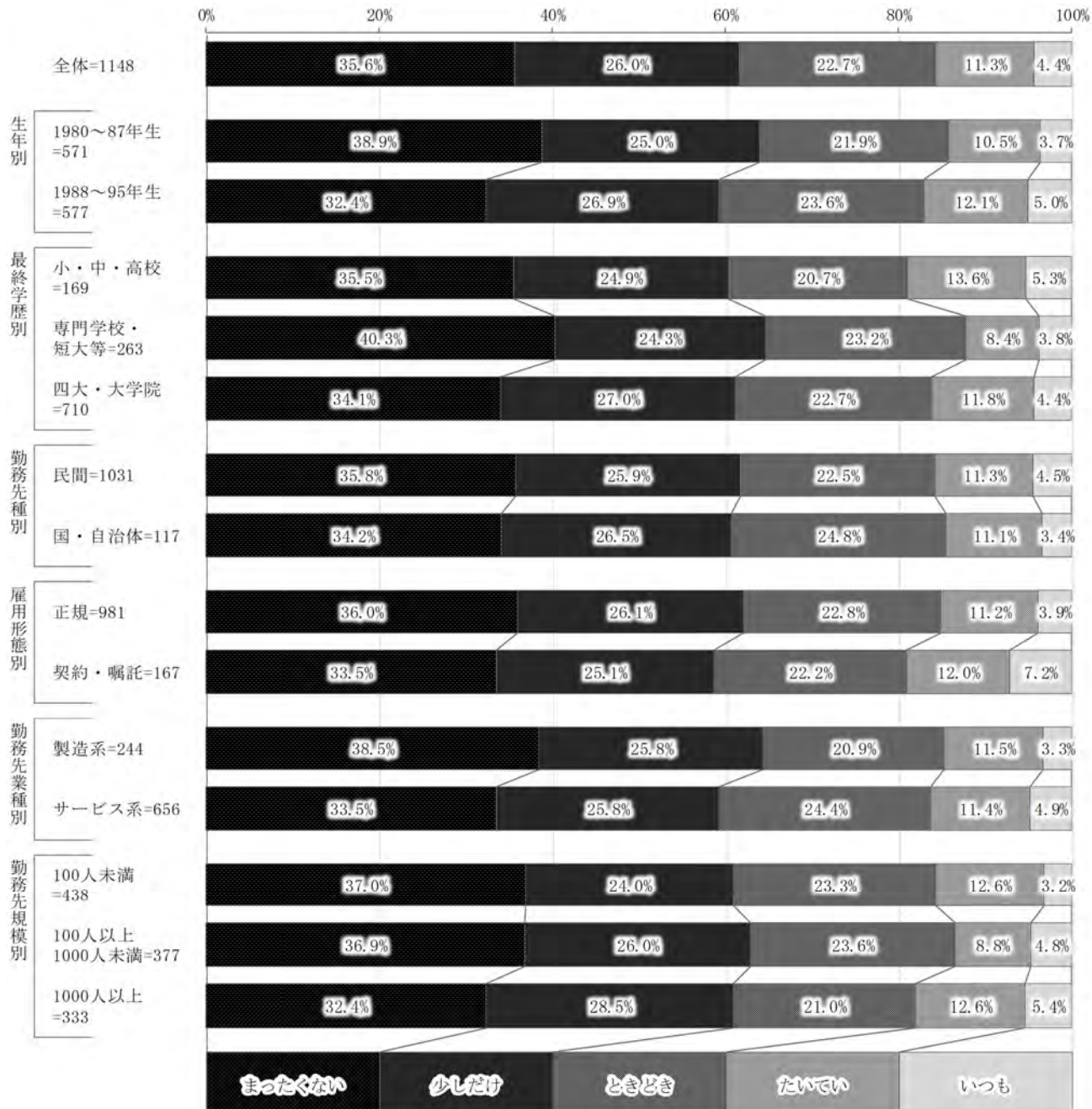


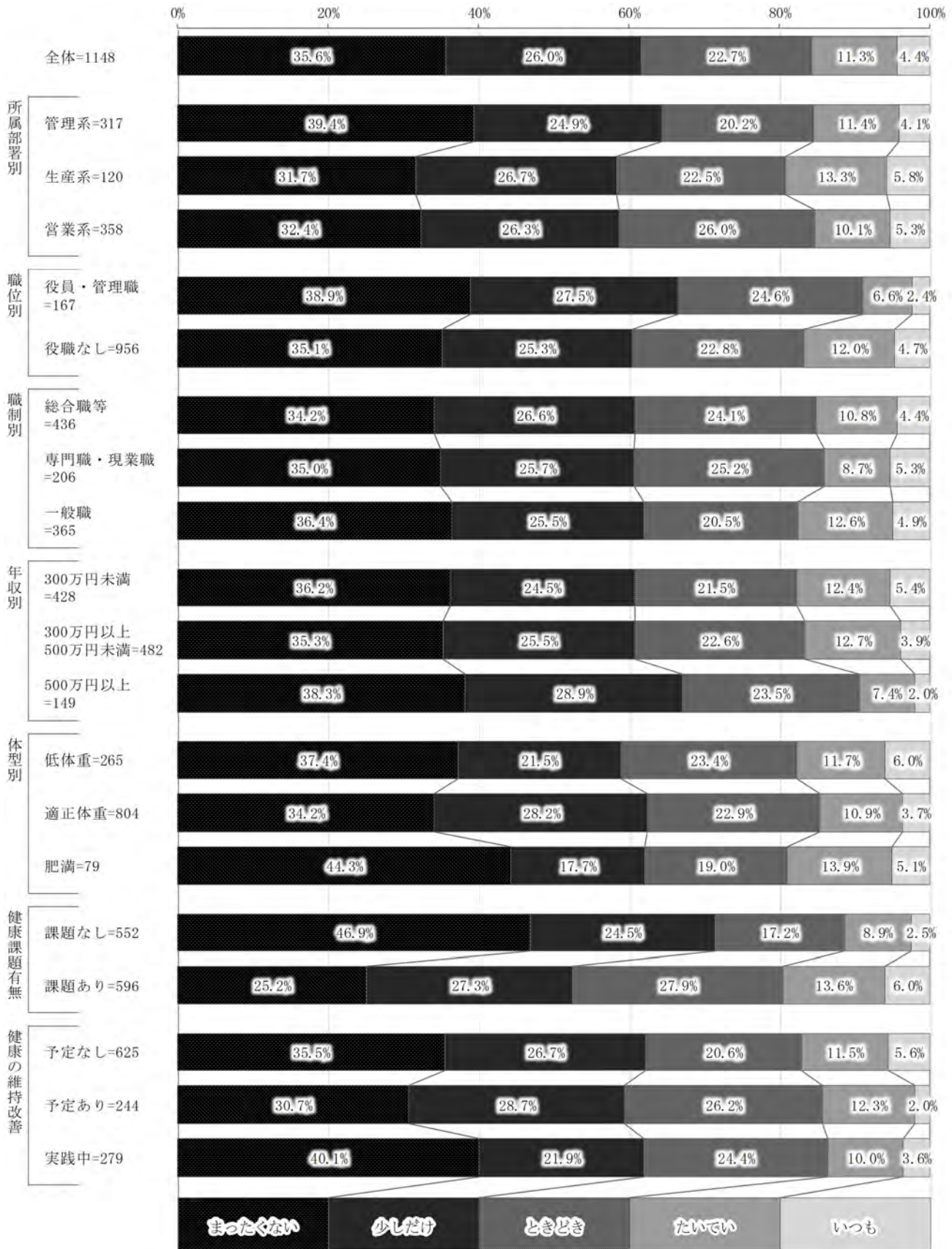


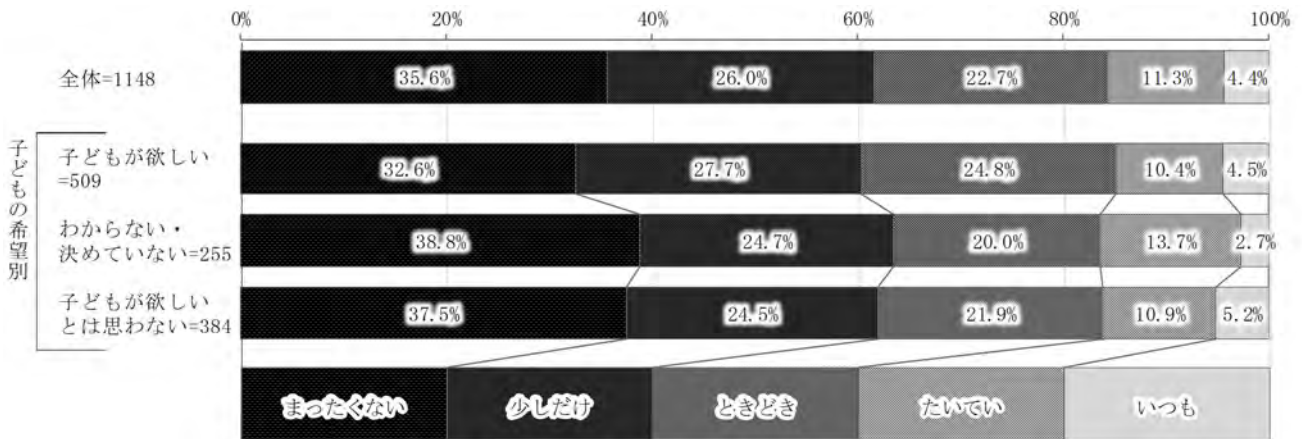
22.4. 自覚している精神状態（気分が沈み込んで何をしても気が晴れない）

- 過去 30 日の間に気分が沈み込んで何をしても気が晴れないと感じた頻度を尋ねたところ、「いつも」と「たいてい」の計は、全体では 15.7% で、設問した精神状態のうち最も多かった。
- 健康課題有無で課題ありの回答者は、「まったくない」が少ない。

図表 22.4. 自覚している精神状態（気分が沈み込んで何をしても気が晴れない） [単一選択]



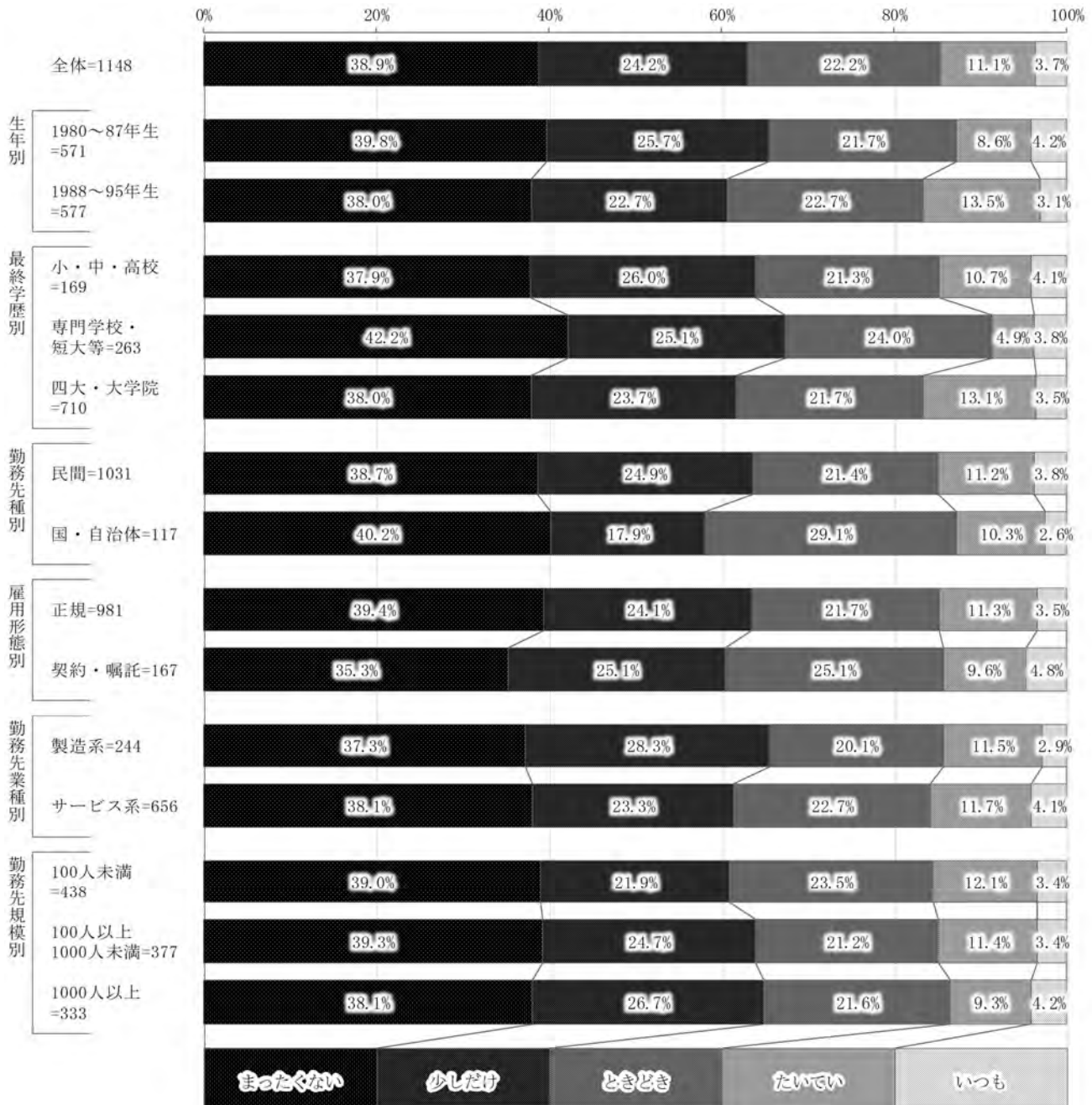


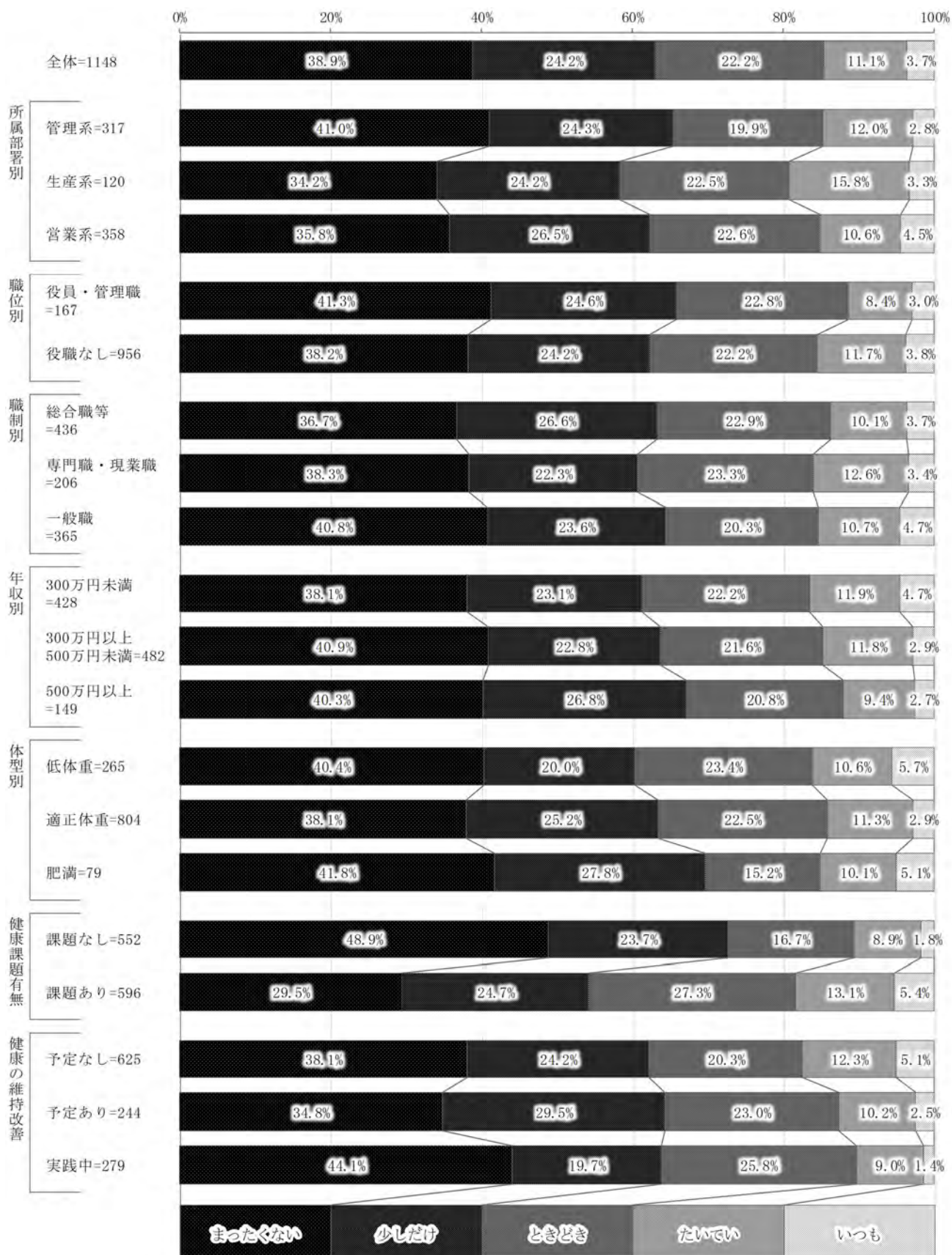


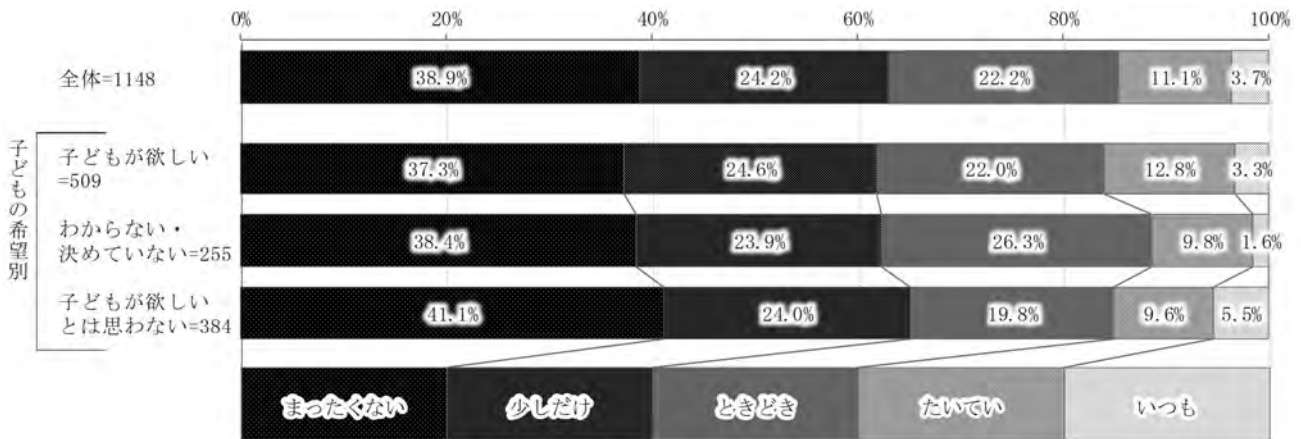
22.5. 自覚している精神状態（何をするのも骨折りだと感じた）

- 過去 30 日の間に何をするのも骨折りだと感じた頻度を尋ねたところ、「いつも」と「たいてい」の計は、全体では 14.7% で、設問した精神状態のうち 2 番目に多かった。
- 健康課題有無で課題ありの回答者は、「まったくない」が少ない。

図表 22.5. 自覚している精神状態（何をするのも骨折りだと感じた） [単一選択]



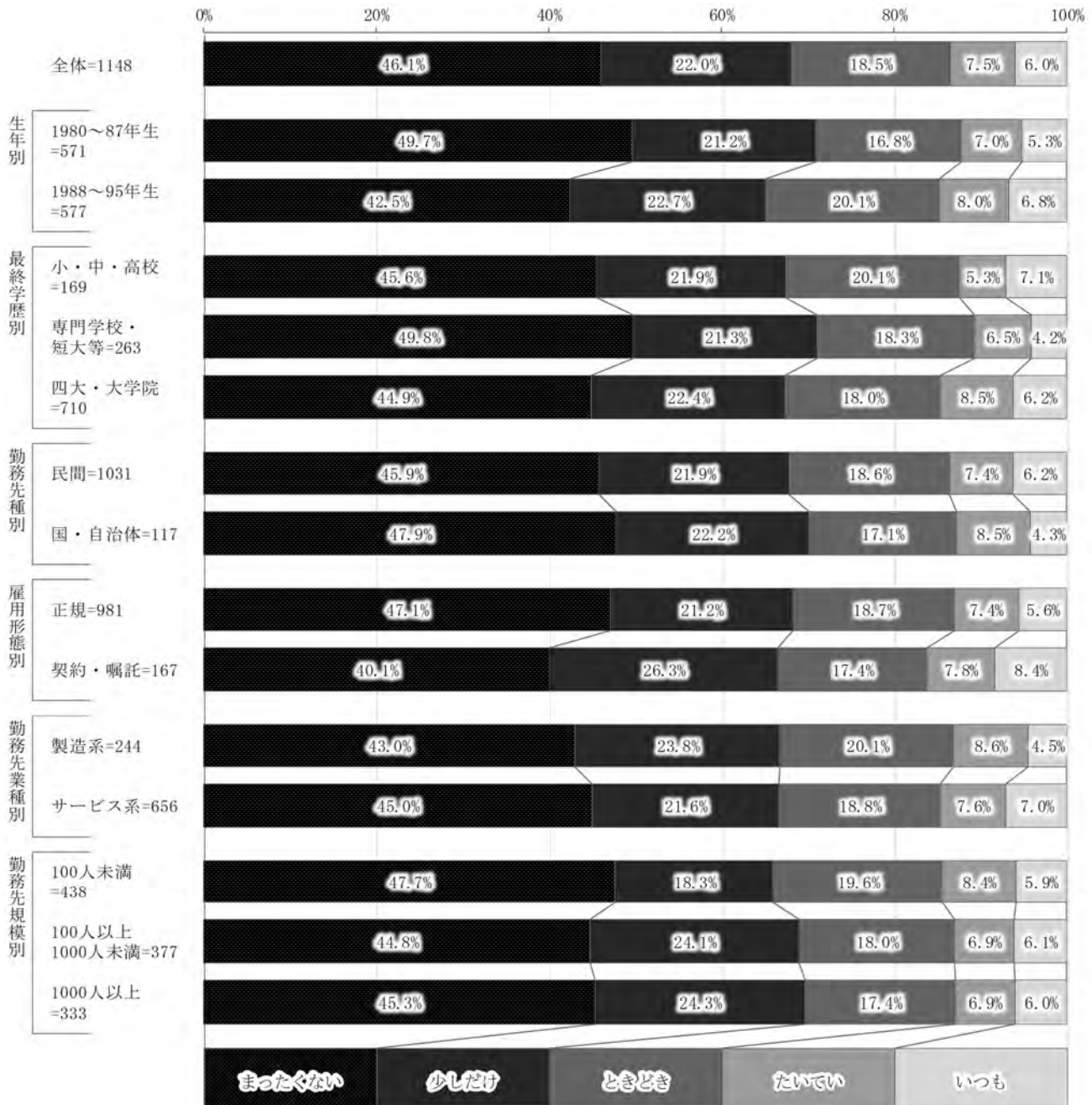


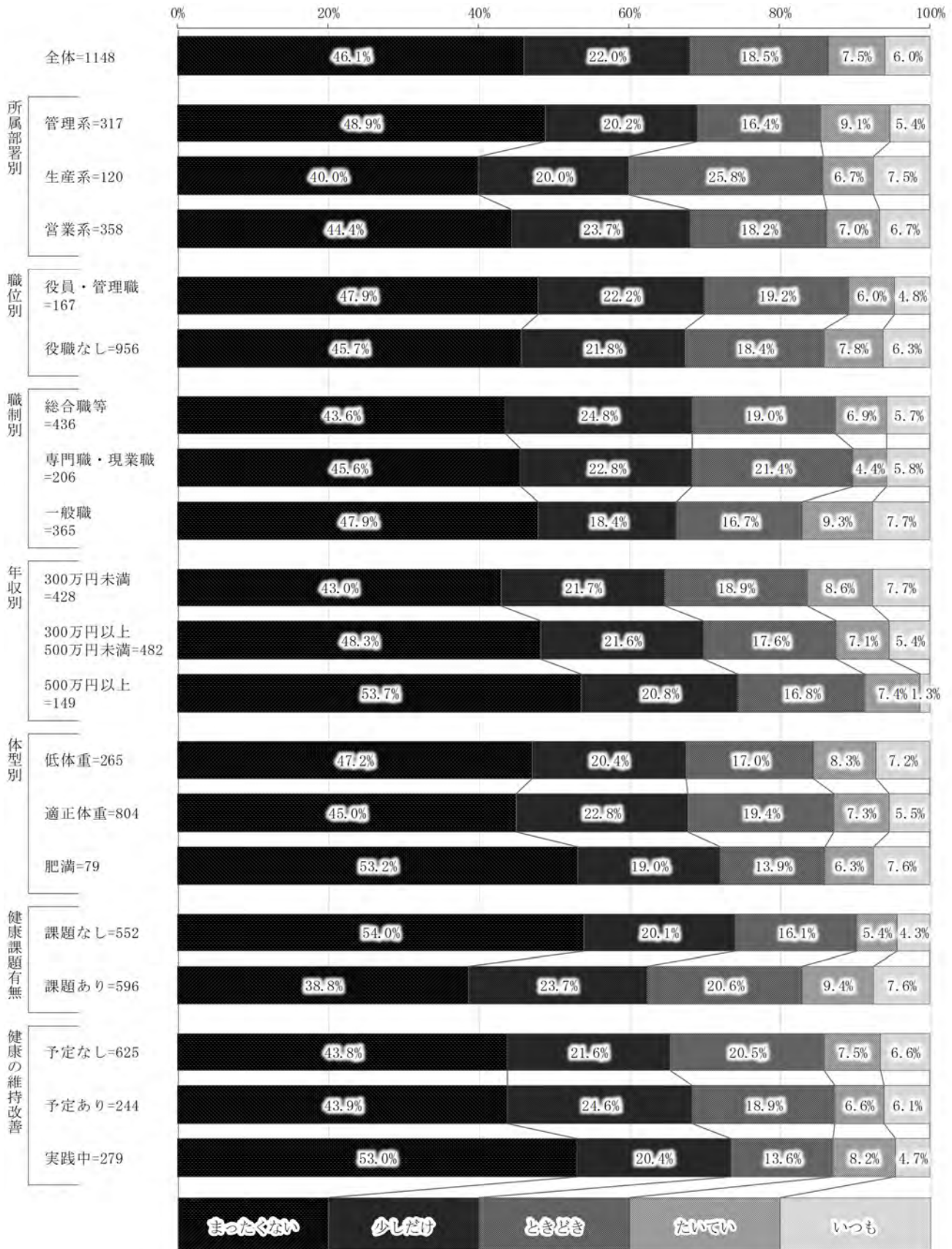


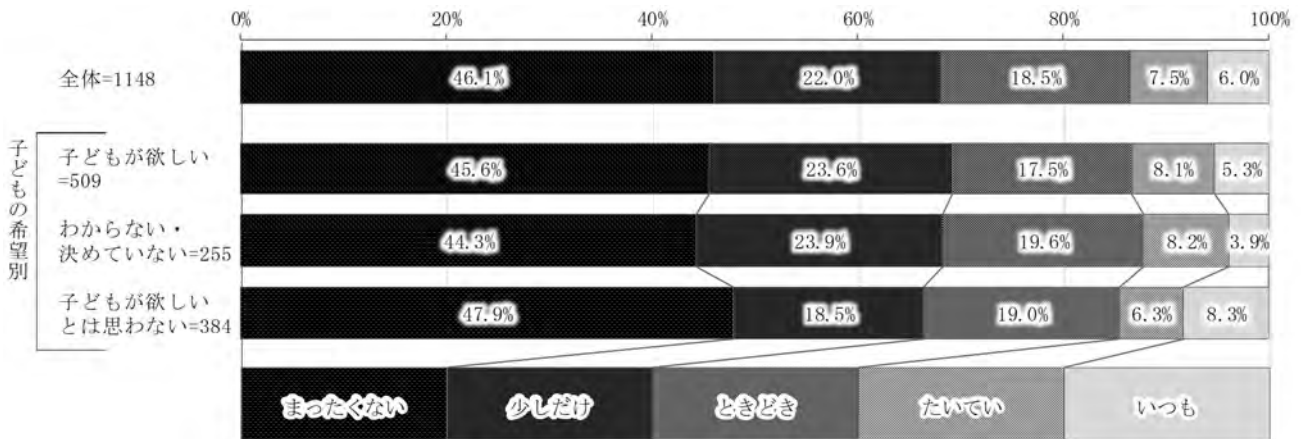
22.6. 自覚している精神状態（自分は価値のない人間だと感じた）

- 過去 30 日の間に自分は価値のない人間だと感じた頻度を尋ねたところ、「いつも」と「たいてい」の計は、全体では 13.5% で、設問した精神状態のうち 3 番目に多かった。
- 健康課題有無で課題ありの回答者は、「まったくない」が少ない。

図表 22.6. 自覚している精神状態（自分は価値のない人間だと感じた）[単一選択]



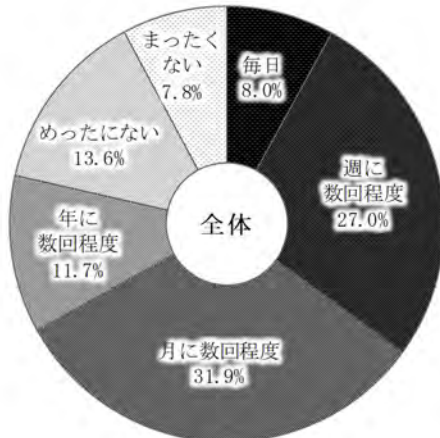




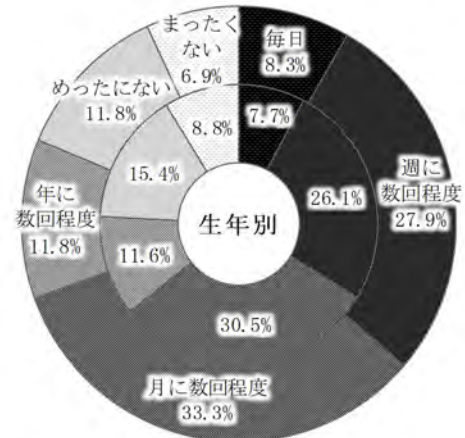
23. 感情の変化の頻度

- 落ち込み、イライラ、ハイテンションなどの感情の変化を感じる頻度を尋ねたところ、全体では「月に数回程度」が31.9%、「週に数回程度」が27.0%の順に多かった。
- 健康課題有無で課題ありの回答者は「週に数回程度」が多く、課題なしの回答者は「まったくない」が多い。

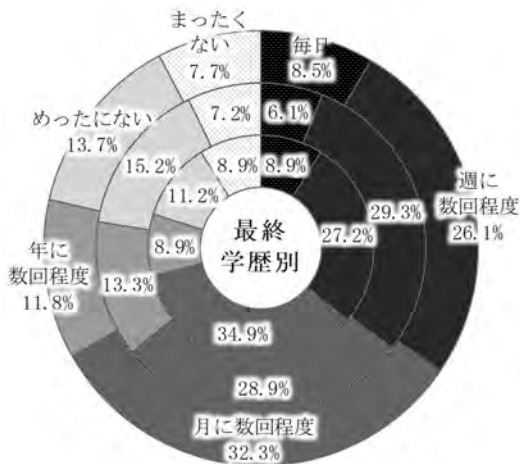
図表 23.感情の変化の頻度[単一選択]



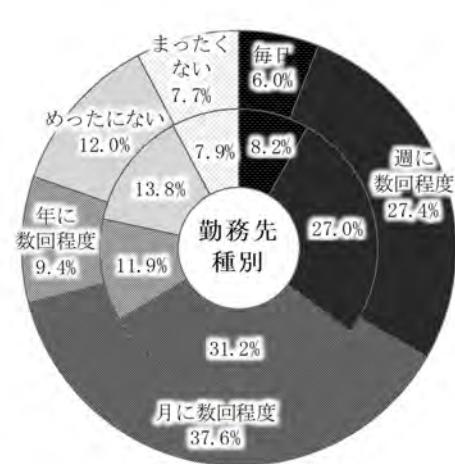
全体= 1148



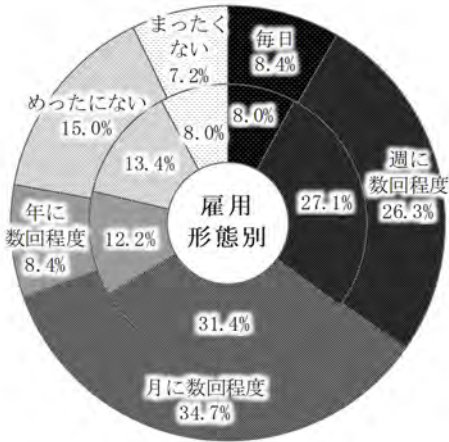
内: 1980~87年生=571 外: 1988~95年生= 577



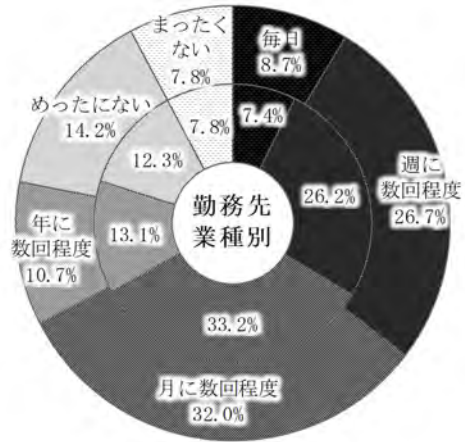
内: 小・中・高校= 169 中: 専門学校・短大等=263
外: 四大・大学院=710



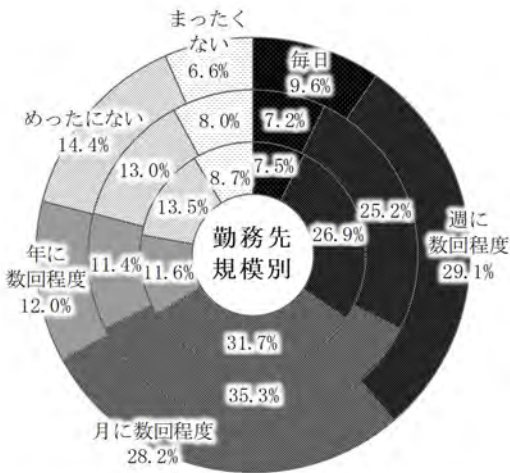
内: 民間=1031 外: 国・自治体= 117



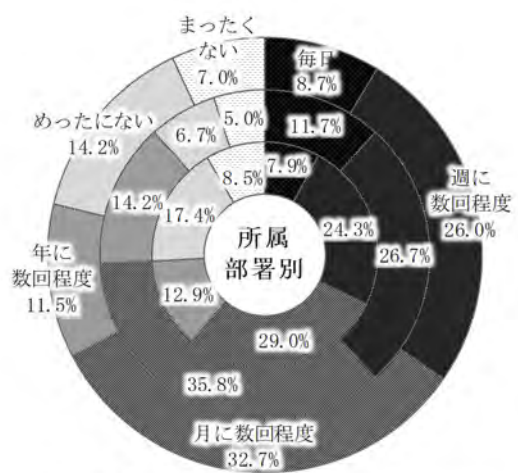
内:正規=981 外:契約・嘱託=167



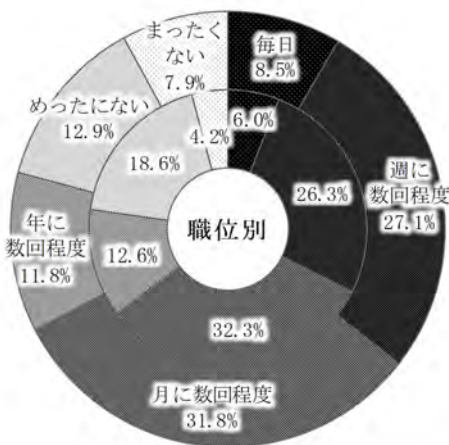
内:製造系=244 外:サービス系=656



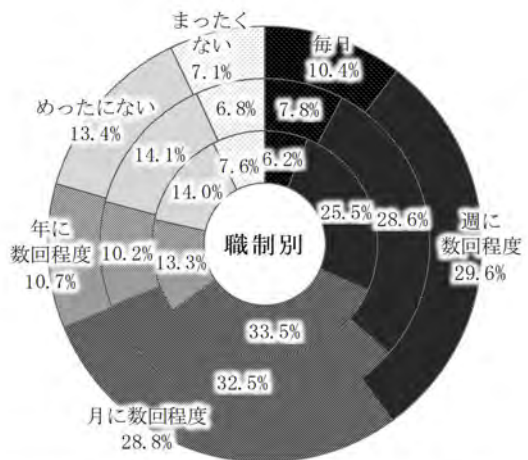
内:100人未満=438 中:100人以上1000人未満=377
外:1000人以上=333



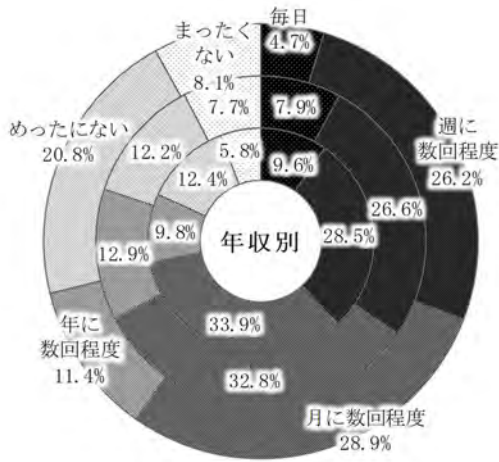
内:管理系=317 中:生産系=120 外:営業系=358



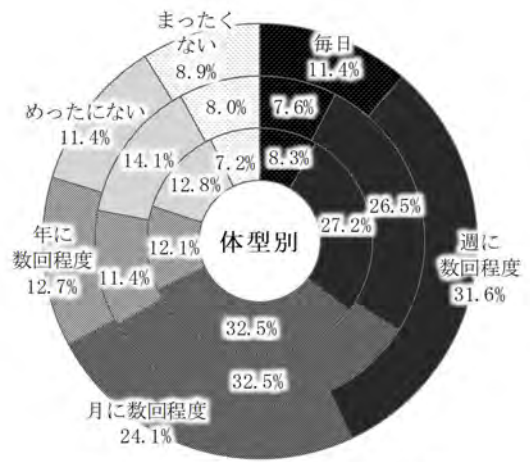
内:役員・管理職=167 外:役職なし=956



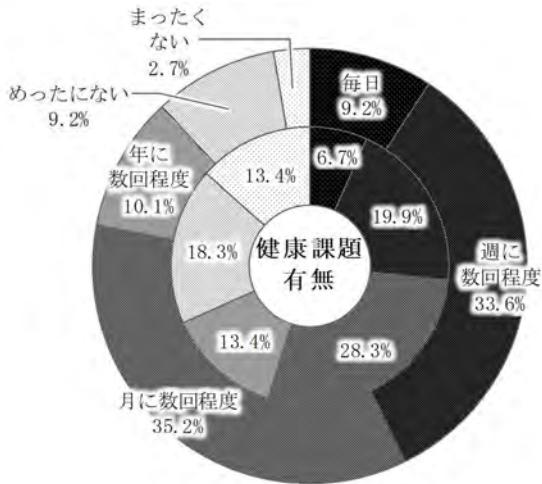
内:総合職等=436 中:専門職・現業職=206 外:一般職=365



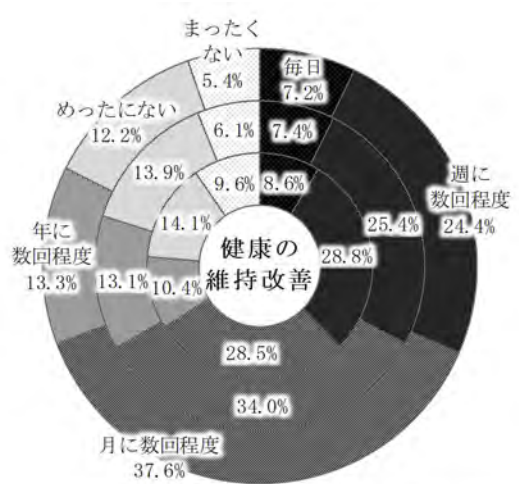
内: 300万円未満=428 中: 300万以上500万円未満=482
外: 500万円以上=149



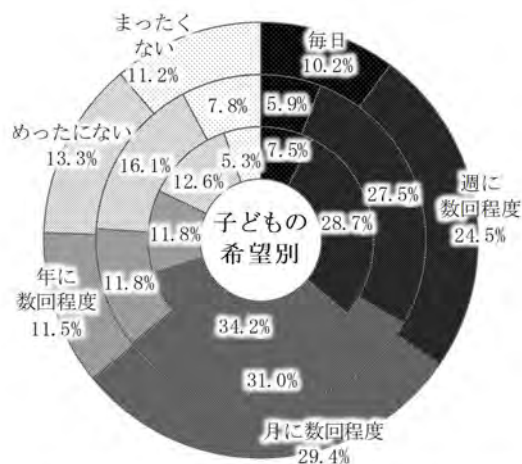
内: 低体重=265 中: 適正体重=804 外: 肥満=79



内: 課題なし=552 外: 課題あり=596



内: 予定なし=625 中: 予定あり=244 外: 実践中=279

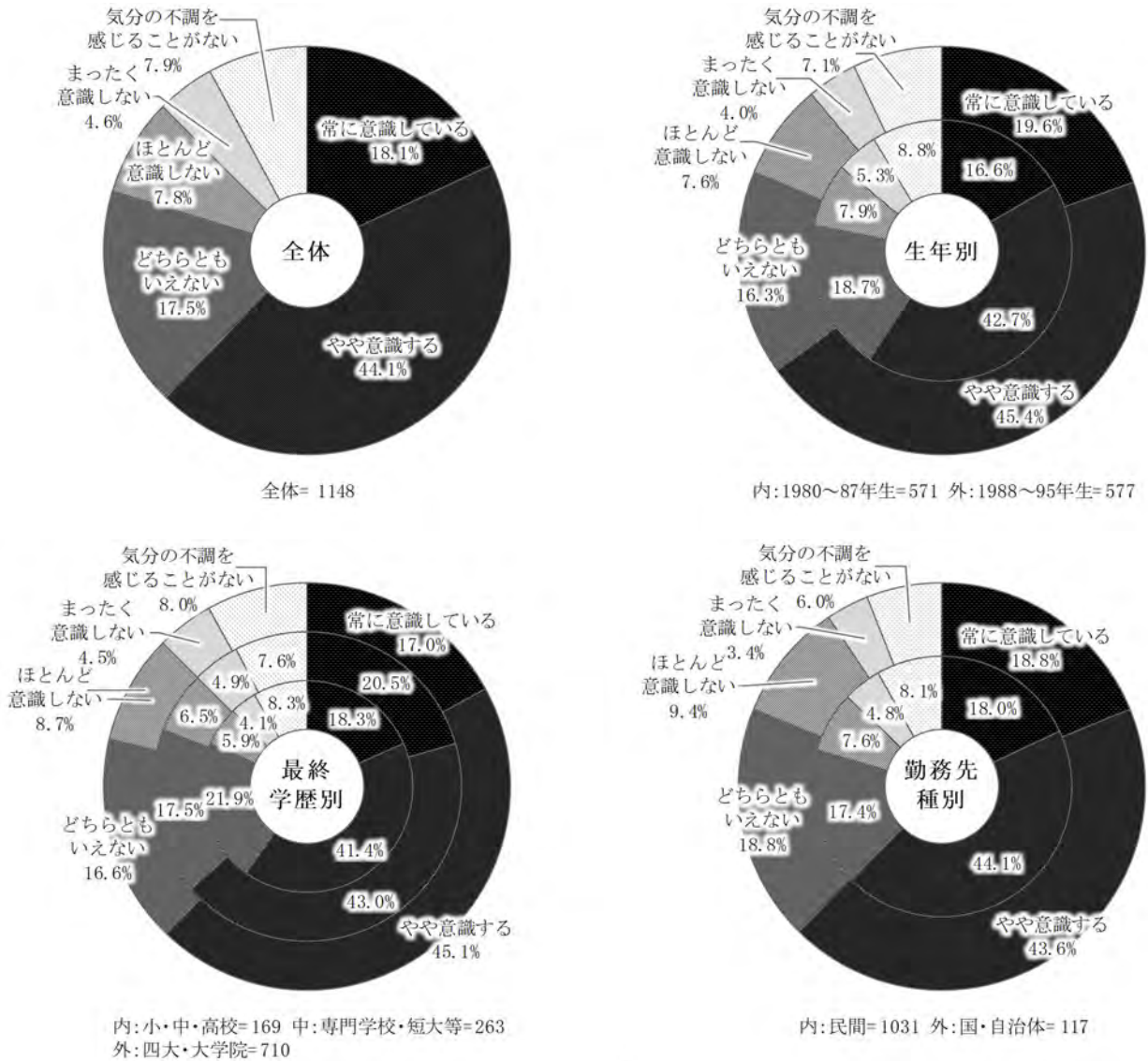


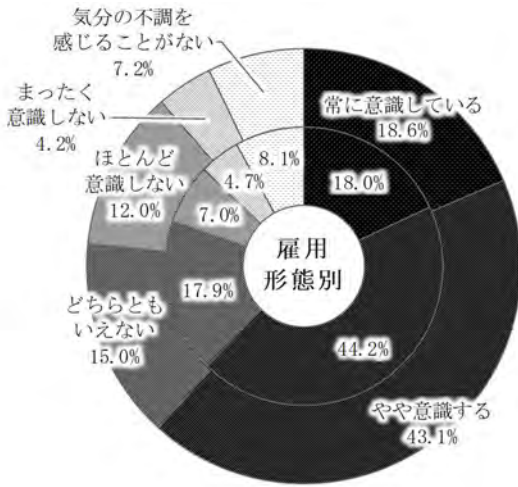
内: 子どもが欲しい=509 中: わからない・決めていない=255
外: 子どもが欲しいとは思わない=384

24. 気分の不調の業務影響への意識

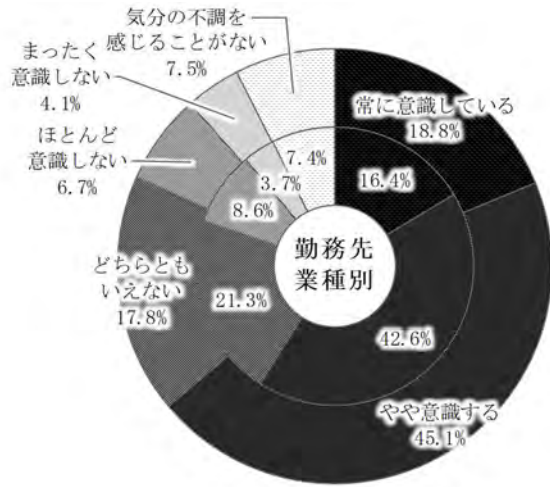
- 仕事をする上で気分の不調（落ちこみ、いらいら、不安など）を表に出さないように意識をしているか尋ねたところ、全体では「やや意識する」が44.1%と最も多く、「常に意識している」を合わせると6割を超えた。
- 「常に意識している」「やや意識する」の計は、所属部署別で営業系の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で実践中の回答者が多い。

図表 24.気分の不調の業務影響への意識[単一選択]

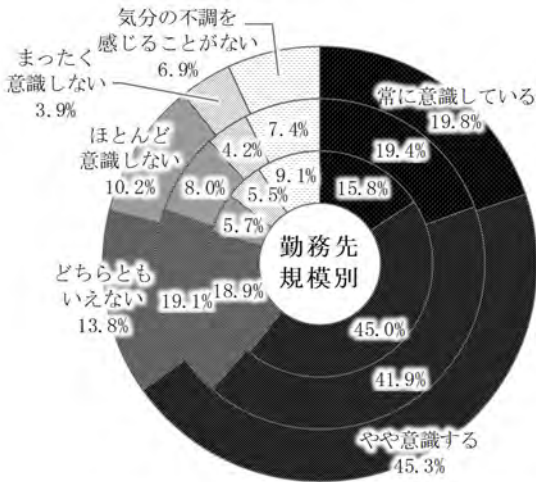




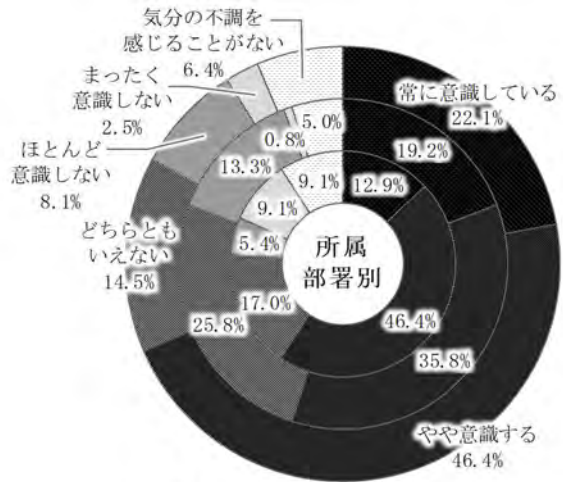
内:正規=981 外:契約・嘱託=167



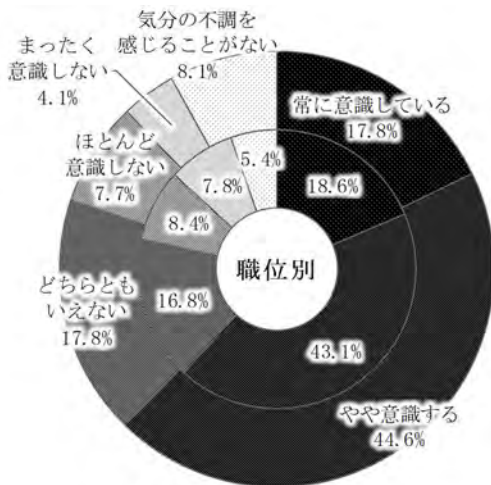
内:製造系=244 外:サービス系=656



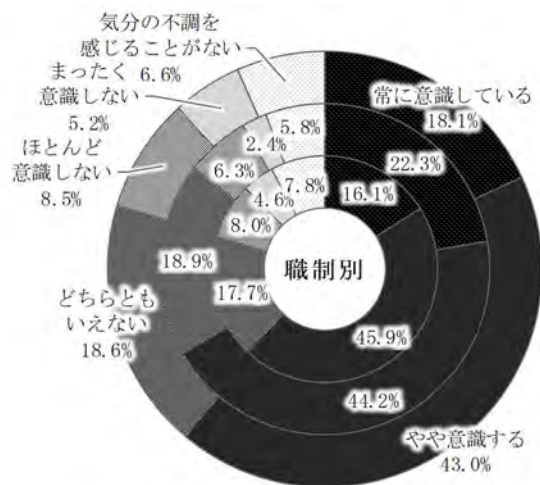
内:100人未満=438 中:100人以上1000人未満=377 外:1000人以上=333



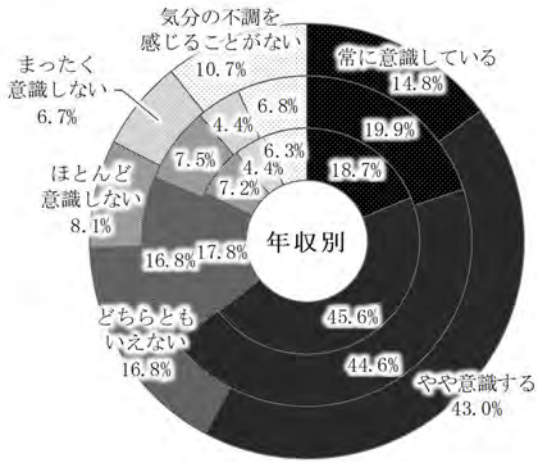
内:管理系=317 中:生産系=120 外:営業系=358



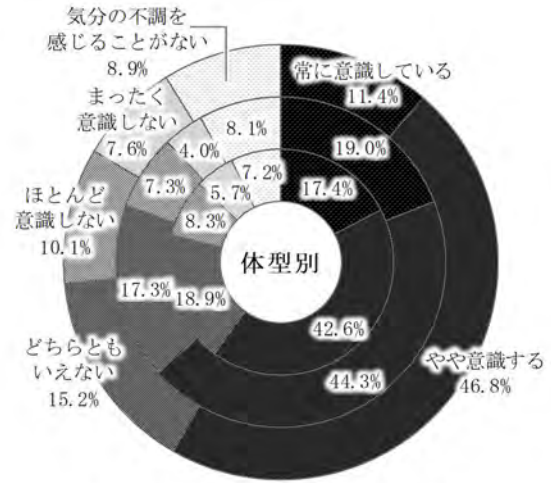
内:役員・管理職=167 外:役職なし=956



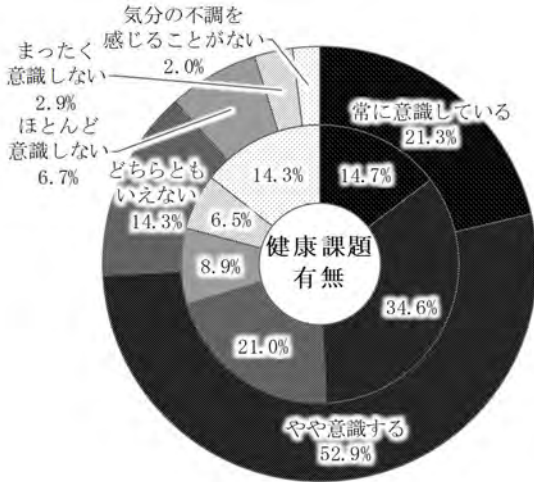
内:総合職等=436 中:専門職・現業職=206 外:一般職=365



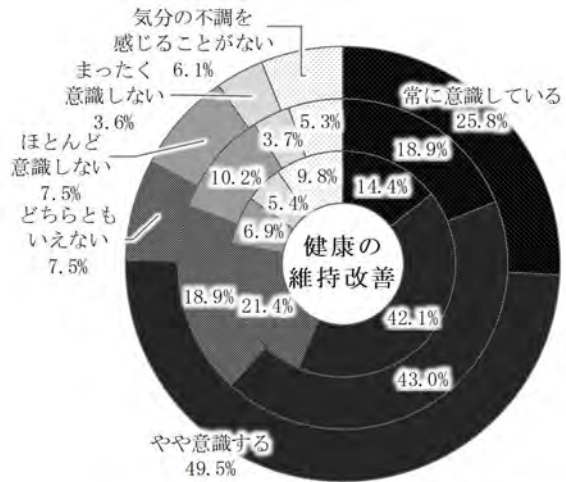
内: 300万円未満=428 中: 300万以上500万円未満=482
外: 500万円以上=149



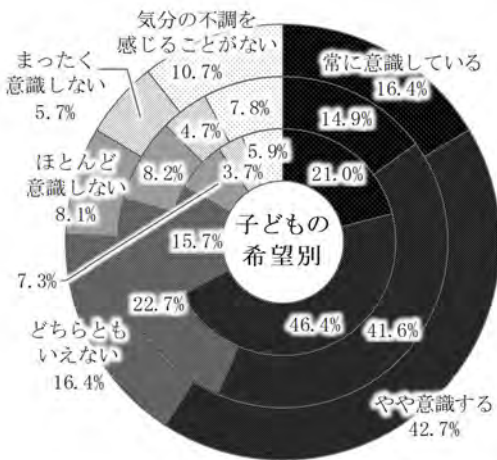
内: 低体重=265 中: 適正体重=804 外: 肥満=79



内: 課題なし=552 外: 課題あり=596



内: 予定なし=625 中: 予定あり=244 外: 実践中=279

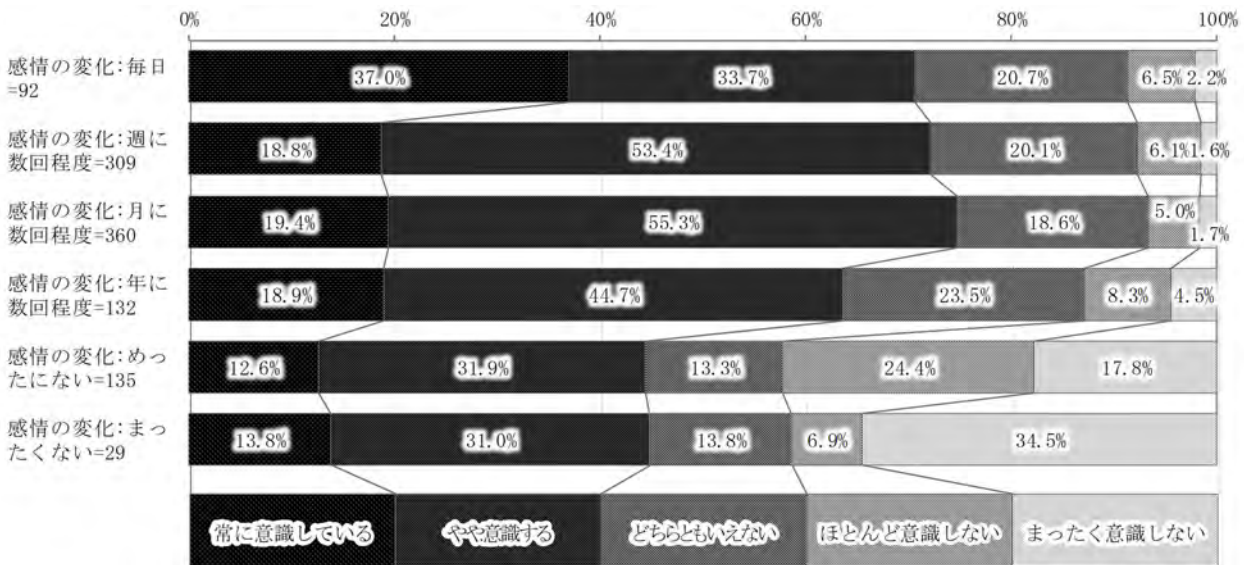


内: 子どもが欲しい=509 中: わからない・決めていない=255
外: 子どもが欲しいとは思わない=384

24.1. 気分の不調の業務影響への意識（感情の変化の頻度別）

- 仕事をする上で気分の不調（落ちこみ、いらいら、不安など）を表に出さないように意識をしているか尋ねた結果を、感情の変化の頻度別に集計したところ、感情の変化を毎日感じている回答者は、仕事をする上で気分の不調を「常に意識している」が37.0%と多い。
- 感情の変化をめったに感じない回答者とまったく感じない回答者は、気分の不調を「ほとんど意識しない」「まったく意識しない」の計が4割を超え、なかでも感情の変化をまったく感じない回答者は、気分の不調を「まったく意識しない」が34.5%と多い。

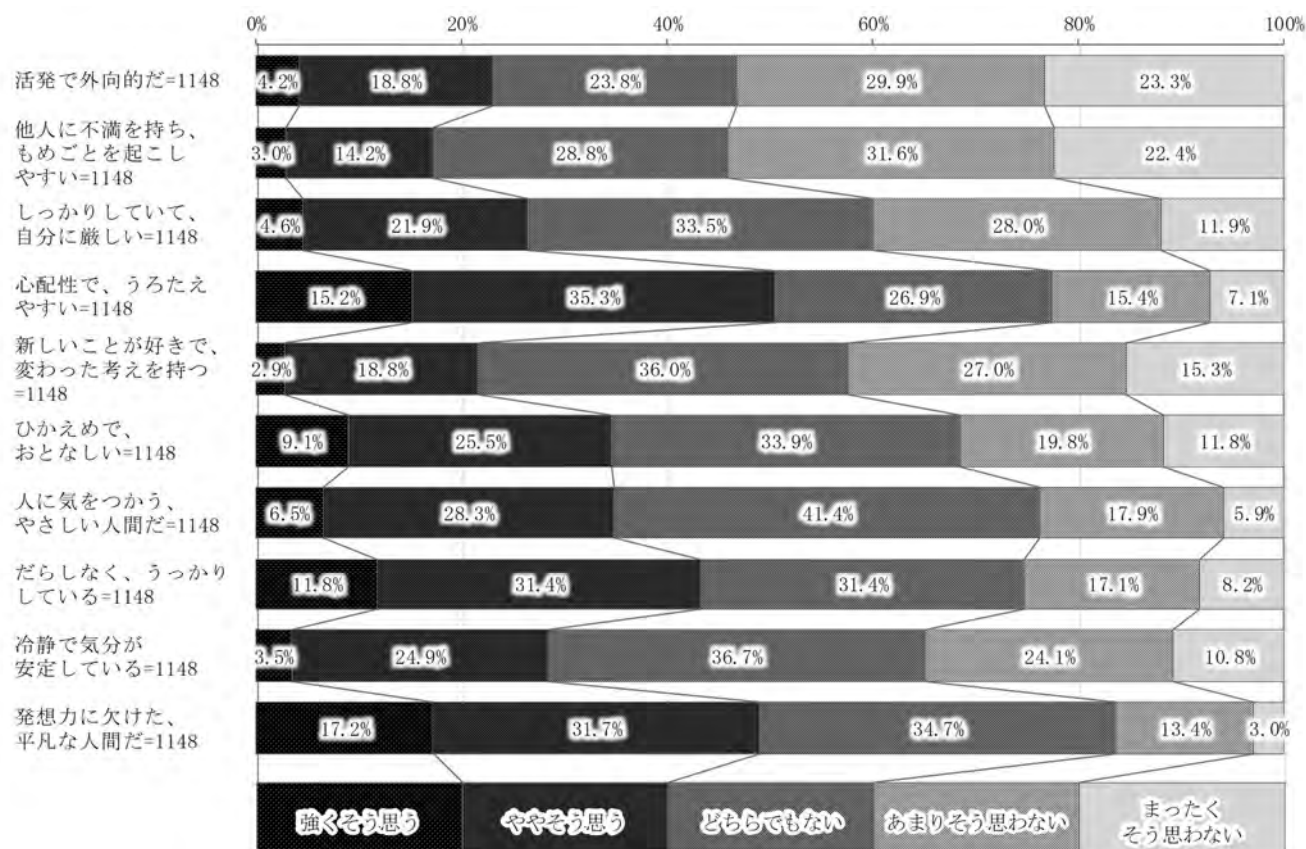
図表 24.1. 気分の不調の業務影響への意識（感情の変化の頻度別）【単一選択】



25. 自認している性格

- 性格（パーソナリティ）について尋ねたところ、「強くそう思う」と「ややそう思う」の計は、全体では「心配性で、うろたえやすい」50.5%、「発想力に欠けた、平凡な人間だ」49.0%、「だらしなく、うっかりしている」43.3%の順に多かった。

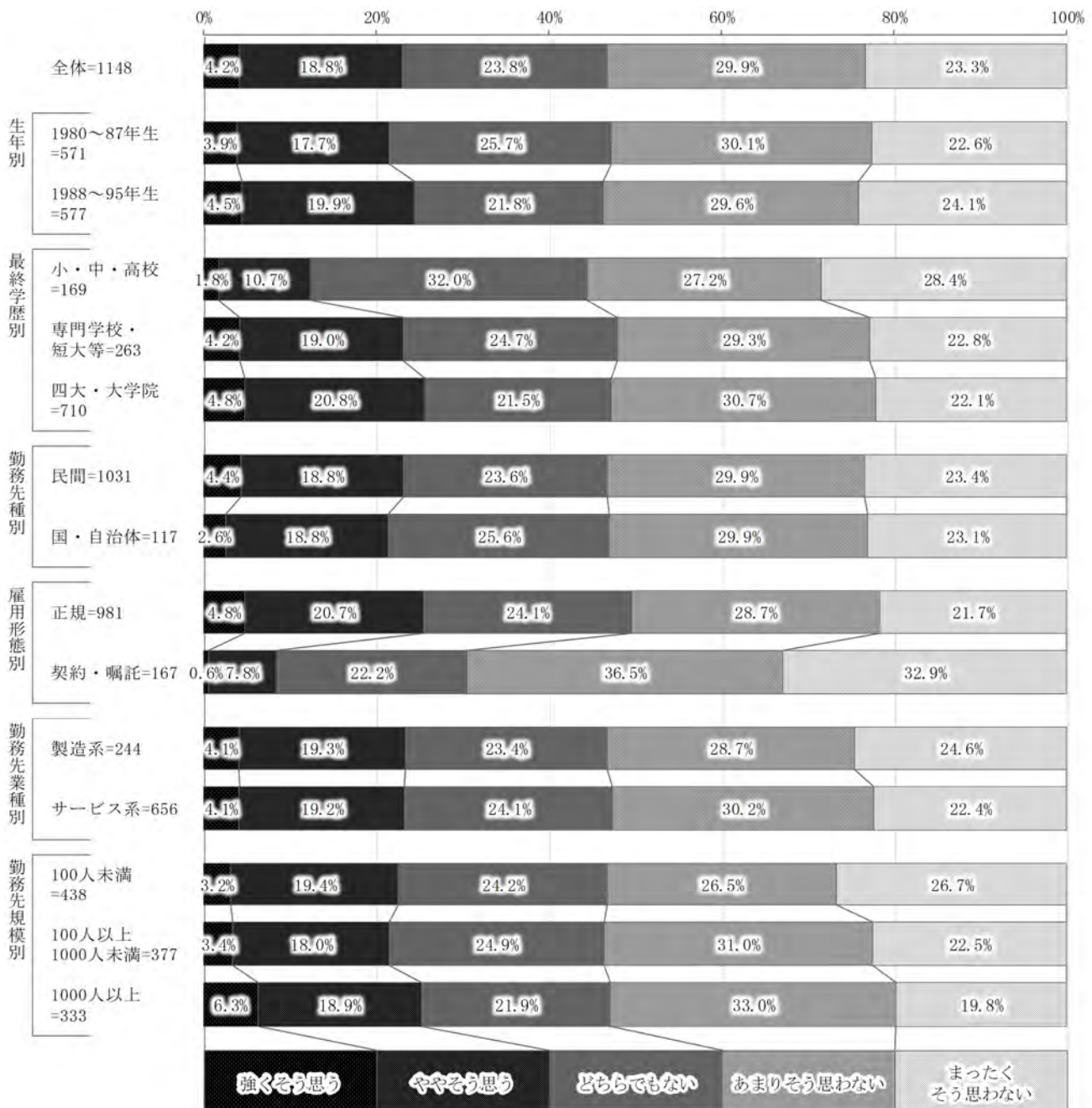
図表 25.自認している性格[単一選択]

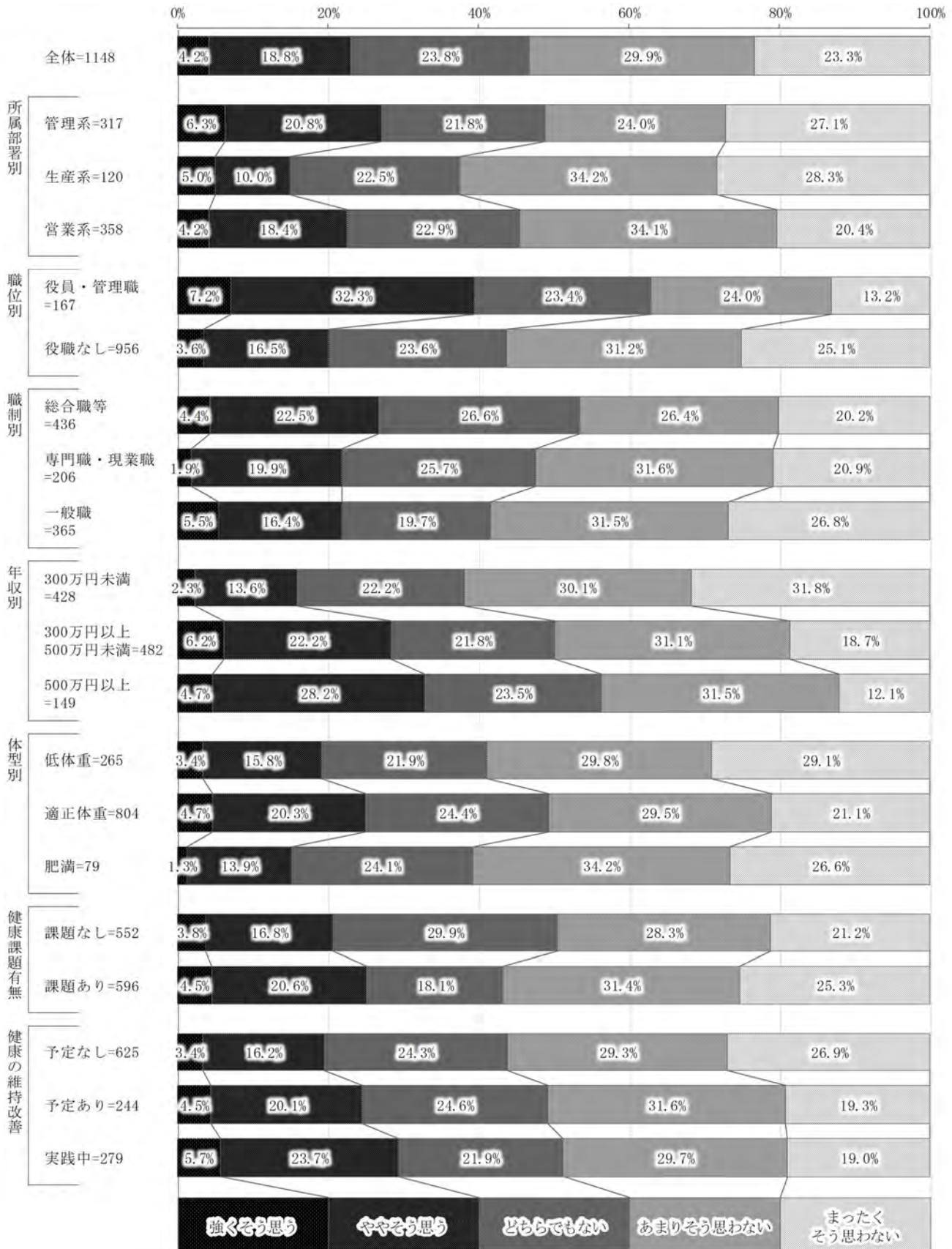


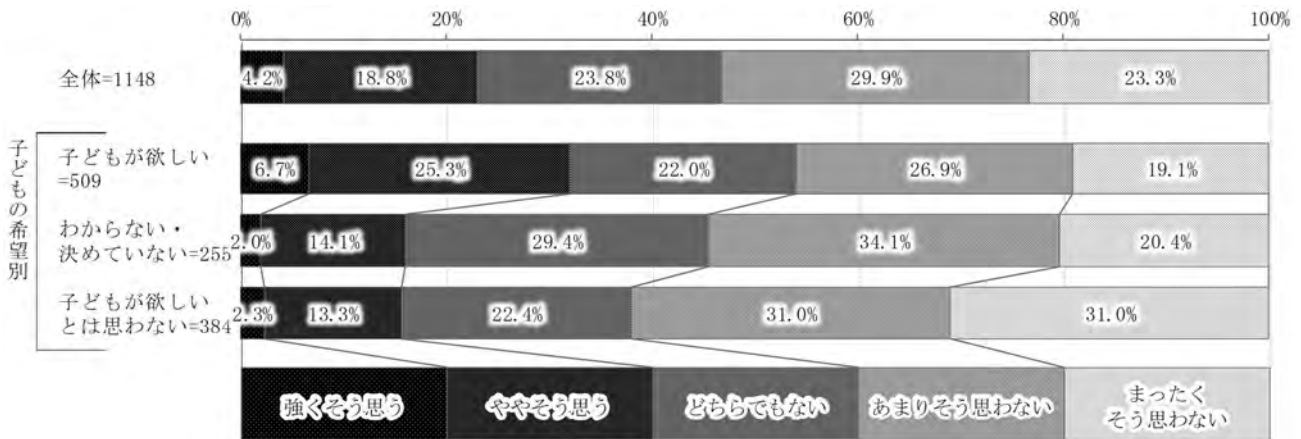
25.1. 自認している性格（活発で外向的だ）

- 性格（パーソナリティ）について活発で外向的か尋ねたところ、全体では「あまりそう思わない」が29.9%と最も多く、「まったくそう思わない」を合わせると5割を超え、「強くそう思う」「ややそう思う」の計は約2割に止まった。
- 「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は、雇用形態別で契約・嘱託の回答者が多く、「まったくそう思わない」だけでも多い。
- 「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は、所属部署別で生産系の回答者が若干多い。
- 「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は、職位別で役職なしの回答者が多く、「まったくそう思わない」だけでも多い。
- 「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は、年収別で300万円未満の回答者が多く、「まったくそう思わない」だけでも多い。
- 子どもの希望別で子どもが欲しい回答者は、「強くそう思う」「ややそう思う」の計が多い。

図表 25.1. 自認している性格（活発で外向的だ）[単一選択]



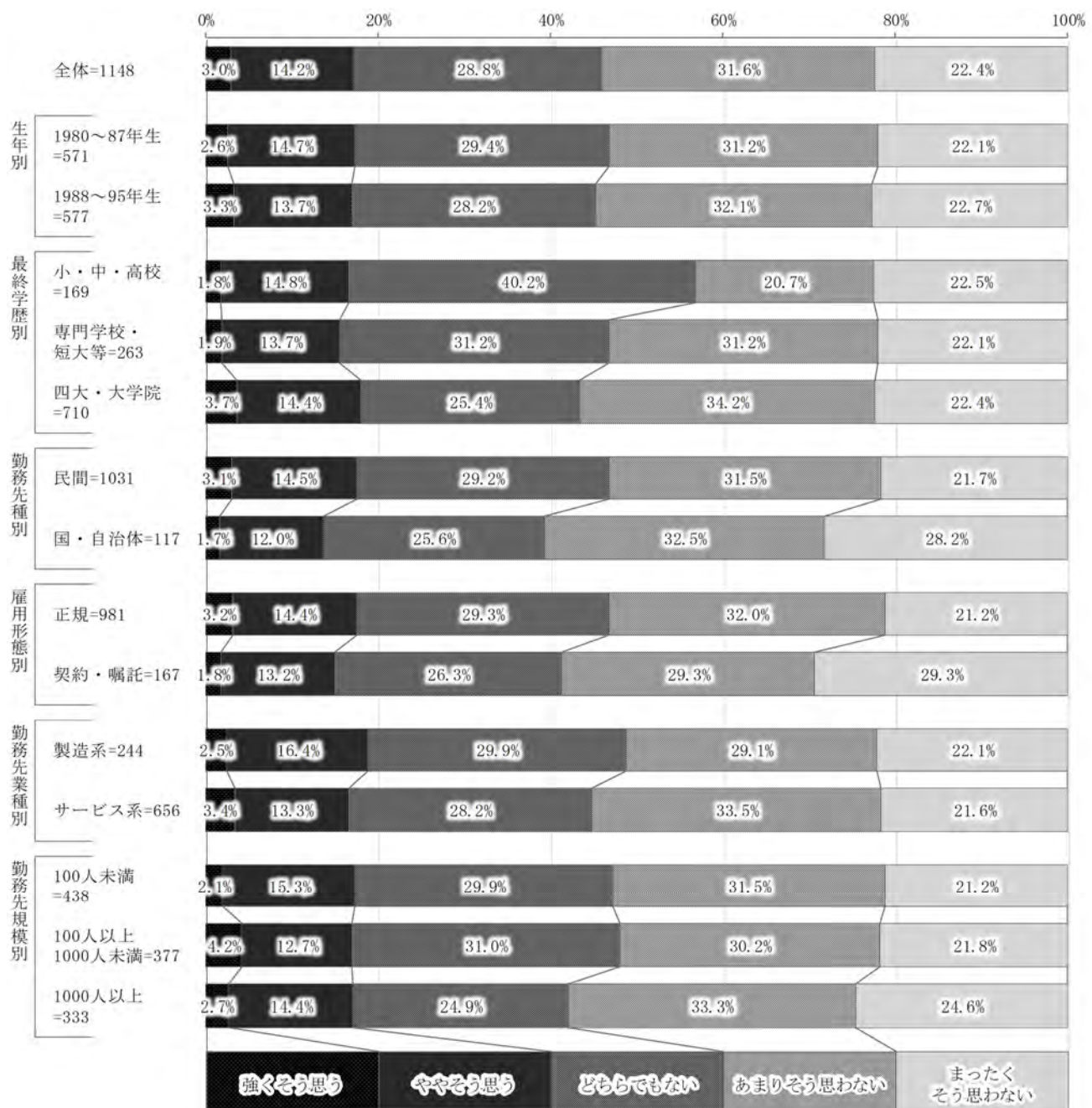


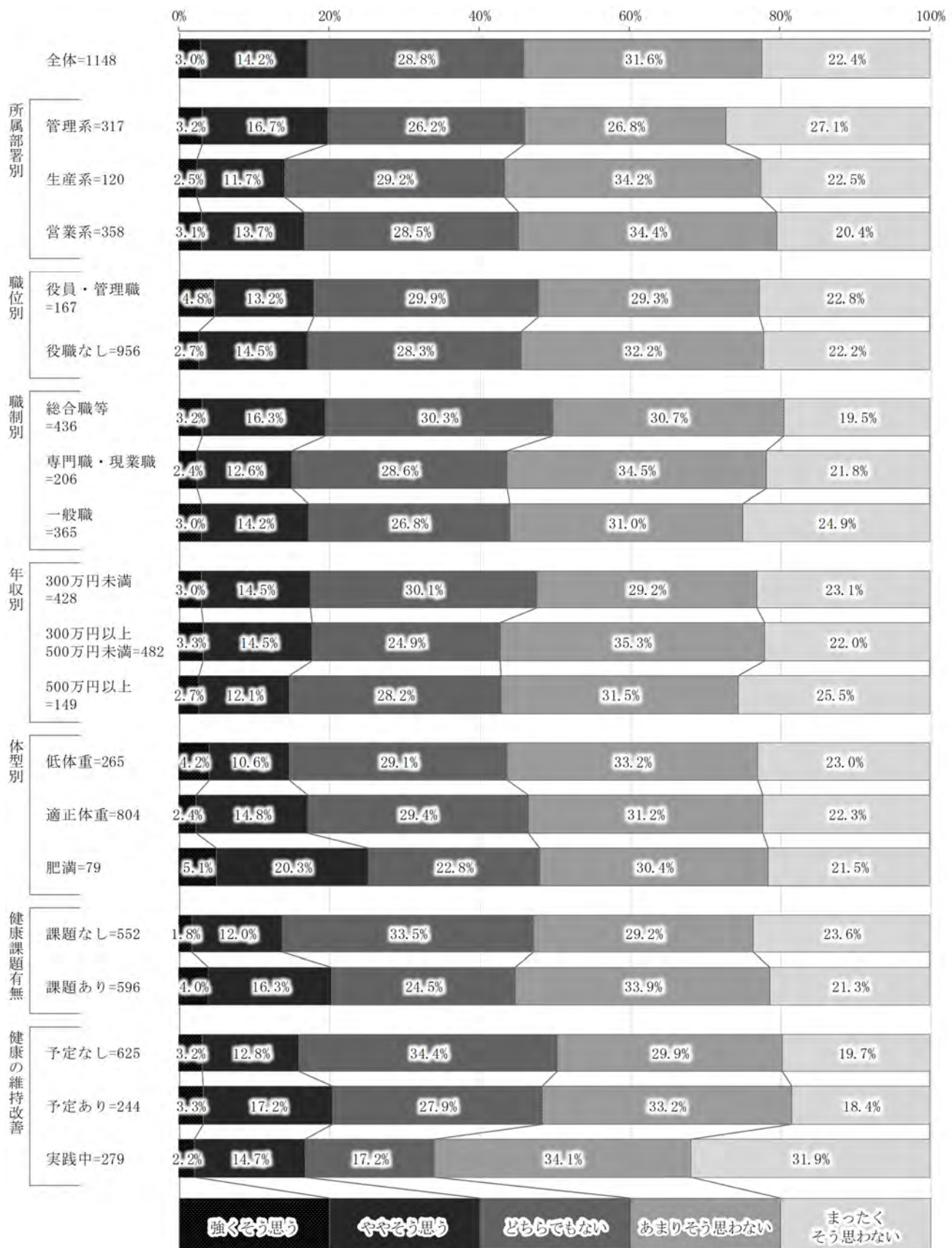


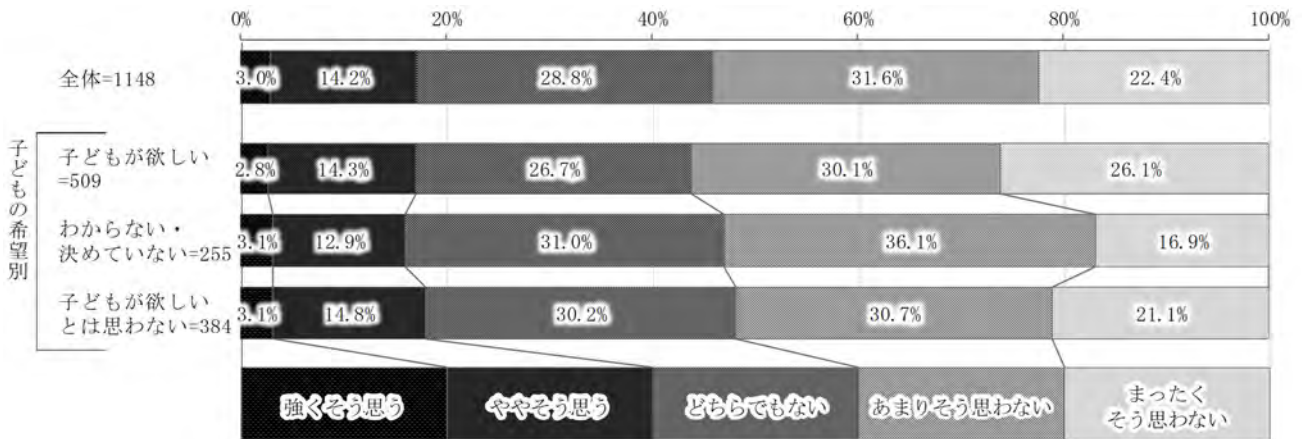
25.2. 自認している性格（他人に不満を持ち、もめごとを起こしやすい）

- 性格（パーソナリティ）について他人に不満を持ち、もめごとを起こしやすいか尋ねたところ、全体では「あまりそう思わない」が31.6%と最も多く、「まったくそう思わない」を合わせると5割を超え、「強くそう思う」「ややそう思う」の計は約2割に止まった。
- 「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は、最終学歴別で四大・大学院の回答者と専門学校・短大等の回答者が多い。
- 「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は、健康の維持改善で実践中の回答者が多く、「まったくそう思わない」だけでも多い。

図表 25.2. 自認している性格（他人に不満を持ち、もめごとを起こしやすい） [単一選択]



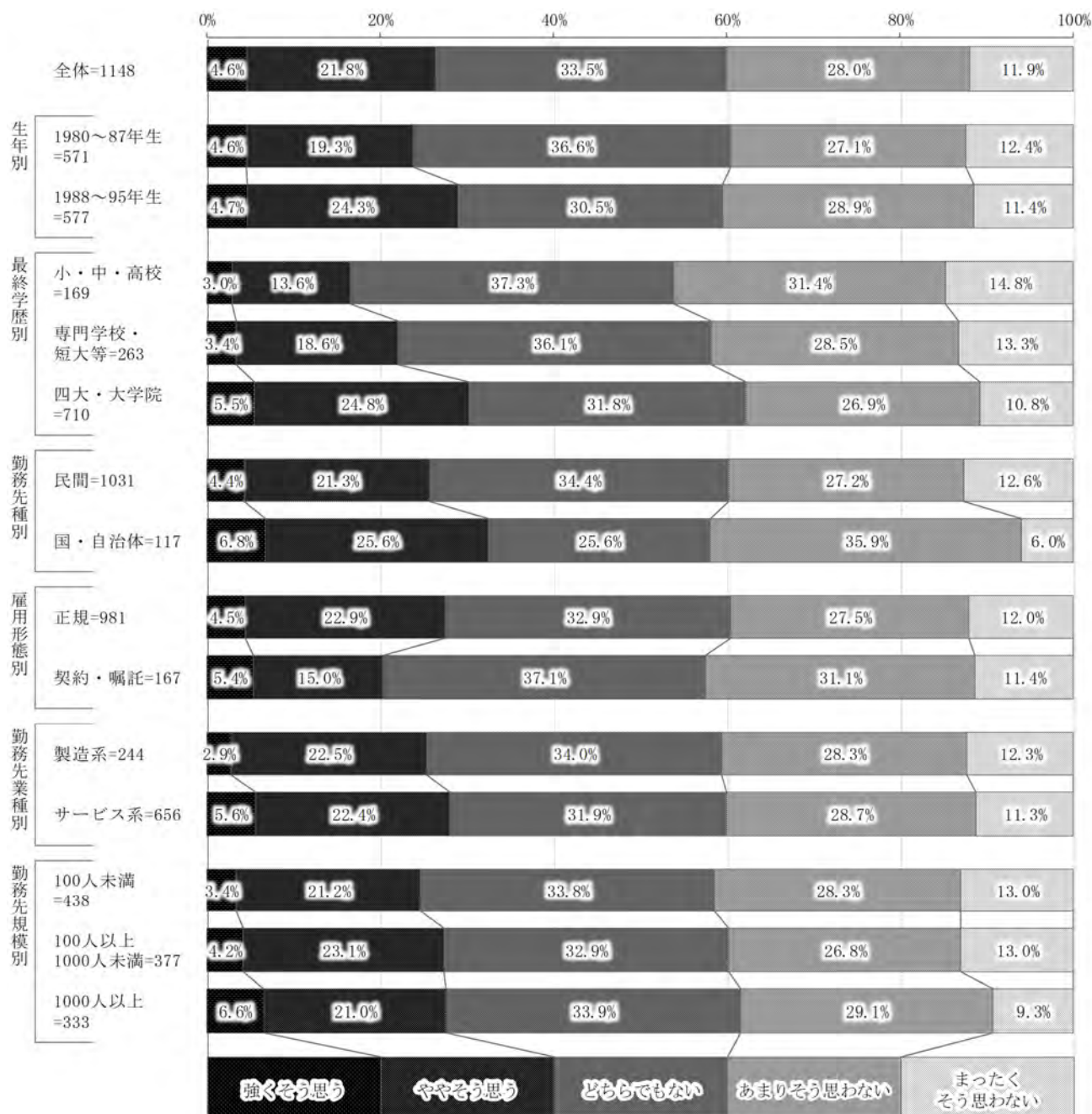


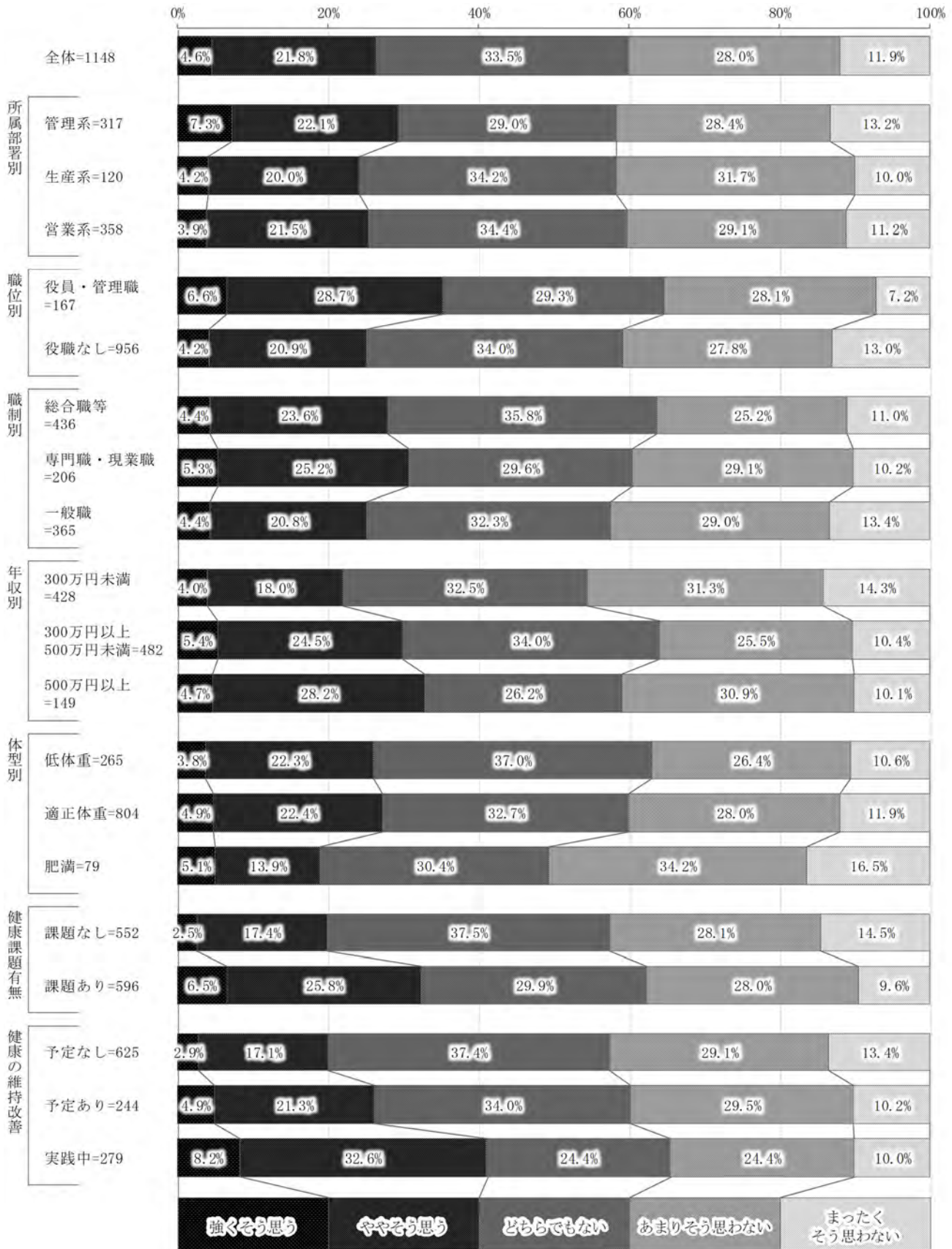


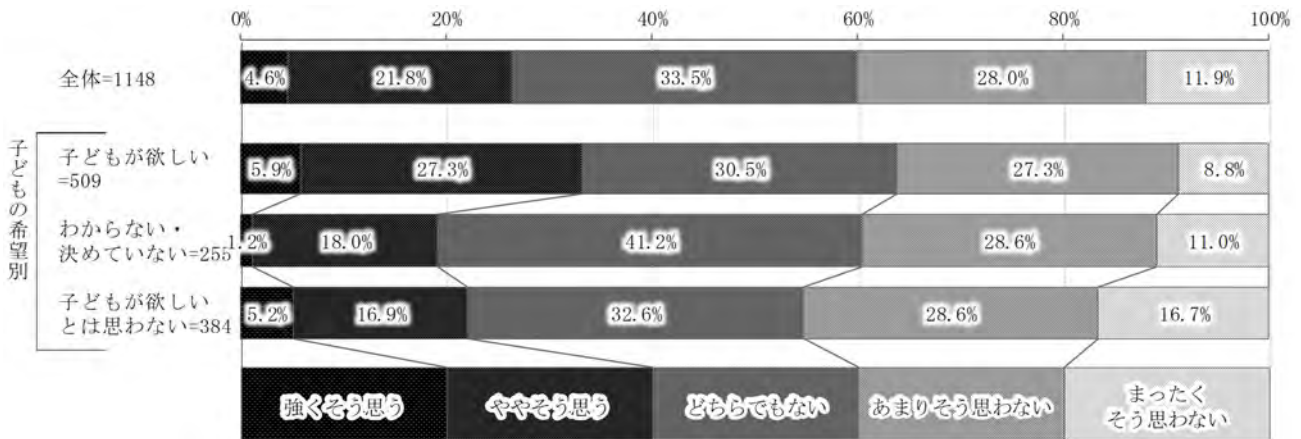
25.3. 自認している性格（しっかりしていて、自分に厳しい）

- 性格（パーソナリティ）についてしっかりしていて、自分に厳しいか尋ねたところ、全体では「どちらでもない」が33.5%と最も多く、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約4割に及び、「強くそう思う」「ややそう思う」の計は3割に満たなかった。
- 「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は、体型別で肥満の回答者が多い。
- 「強くそう思う」「ややそう思う」の計は、職位別で役員・管理職の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で実践中の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。

図表 25.3. 自認している性格（しっかりしていて、自分に厳しい） [単一選択]



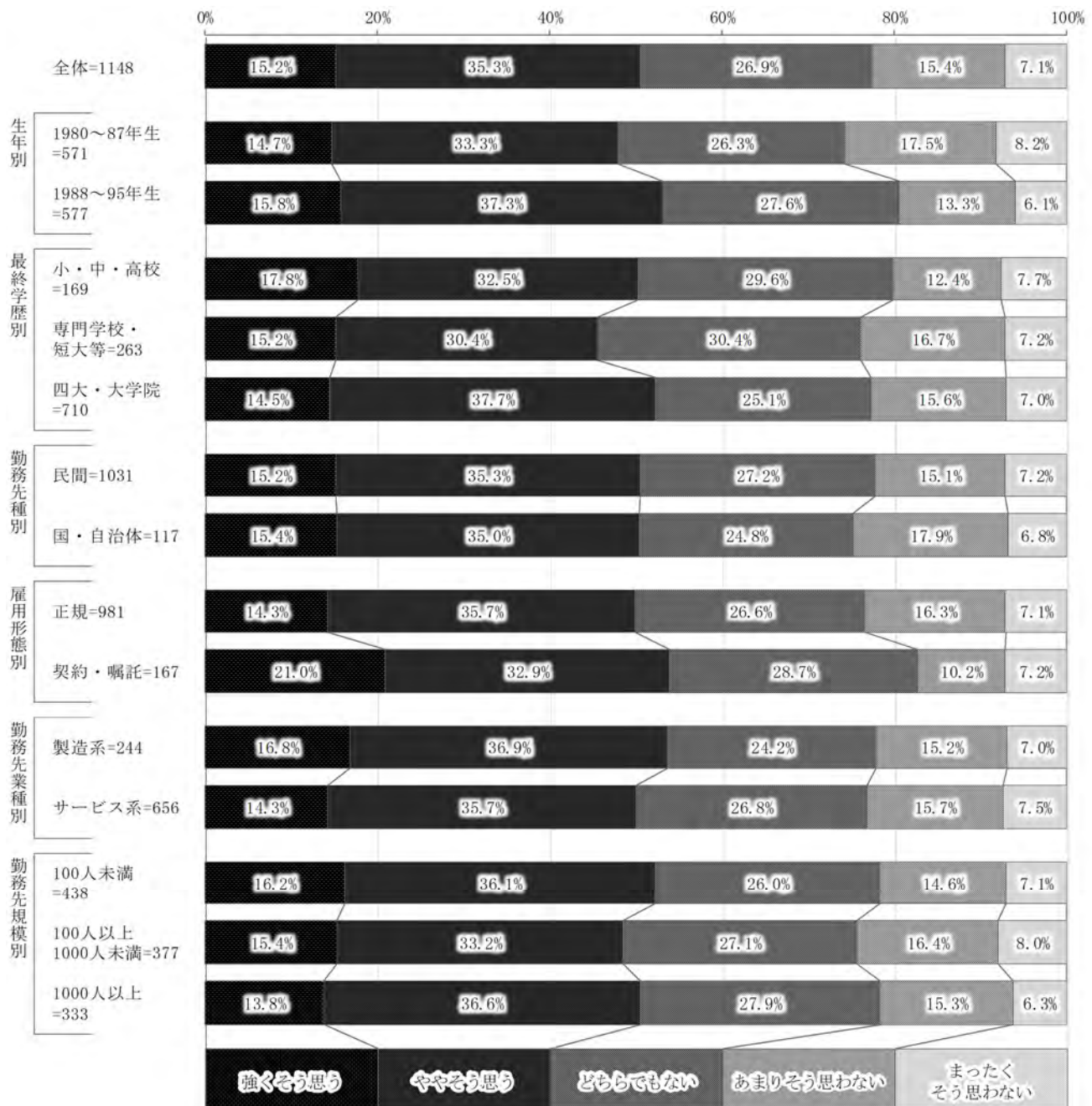


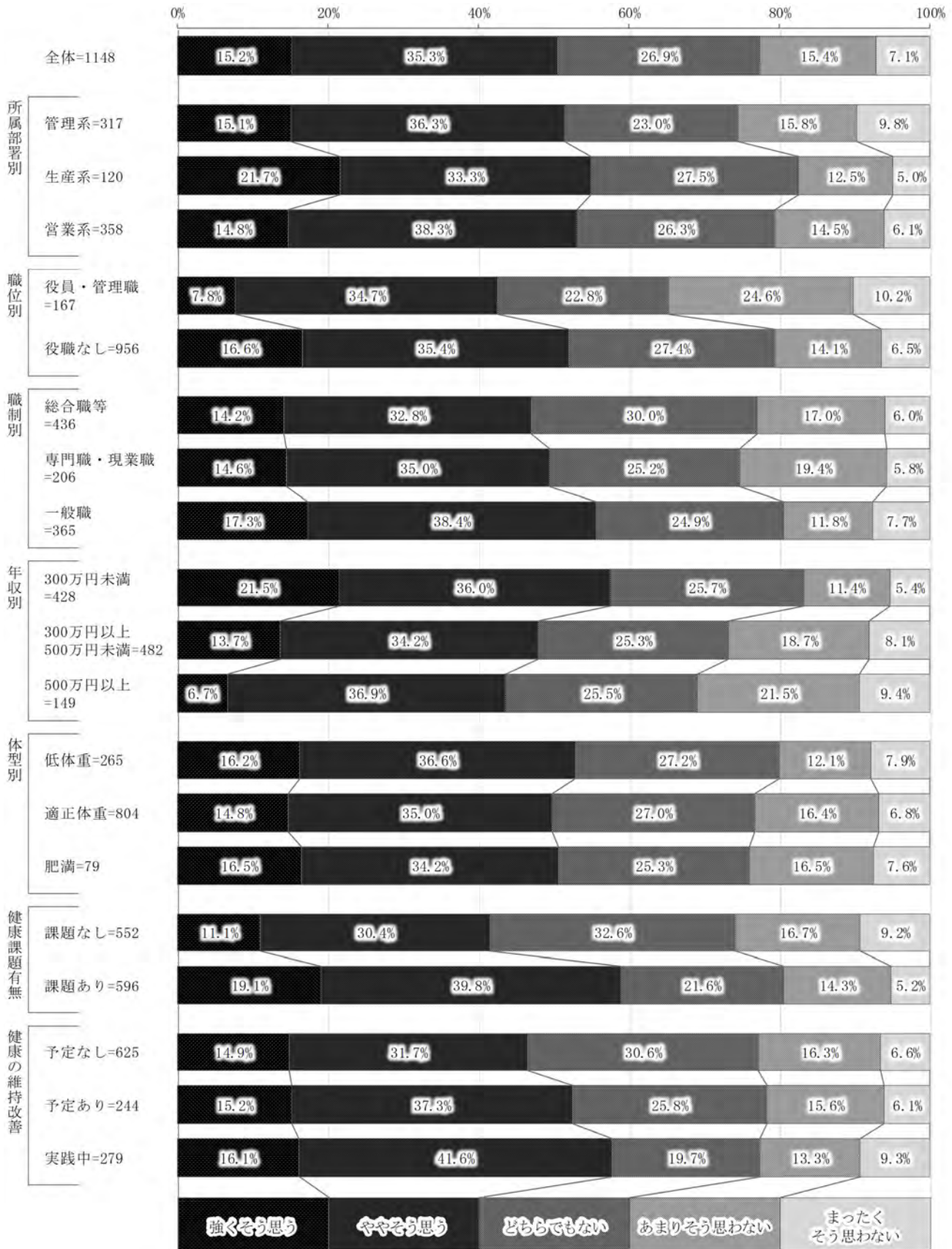


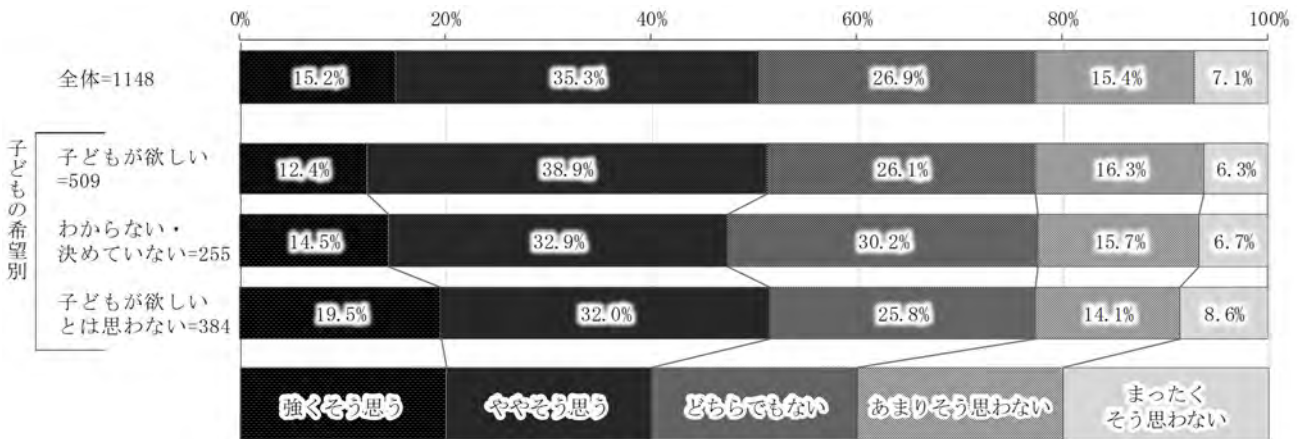
25.4. 自認している性格（心配性で、うろたえやすい）

- 性格（パーソナリティ）について心配性で、うろたえやすいか尋ねたところ、全体では「ややそう思う」が35.3%と最も多く、「強くそう思う」を合わせると5割を超え、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約2割に止まった。
- 「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は、職位別で役員・管理職の回答者が多い。
- 「強くそう思う」「ややそう思う」の計は、健康課題有無で課題ありの回答者が多い。

図表 25.4. 自認している性格（心配性で、うろたえやすい）【単一選択】



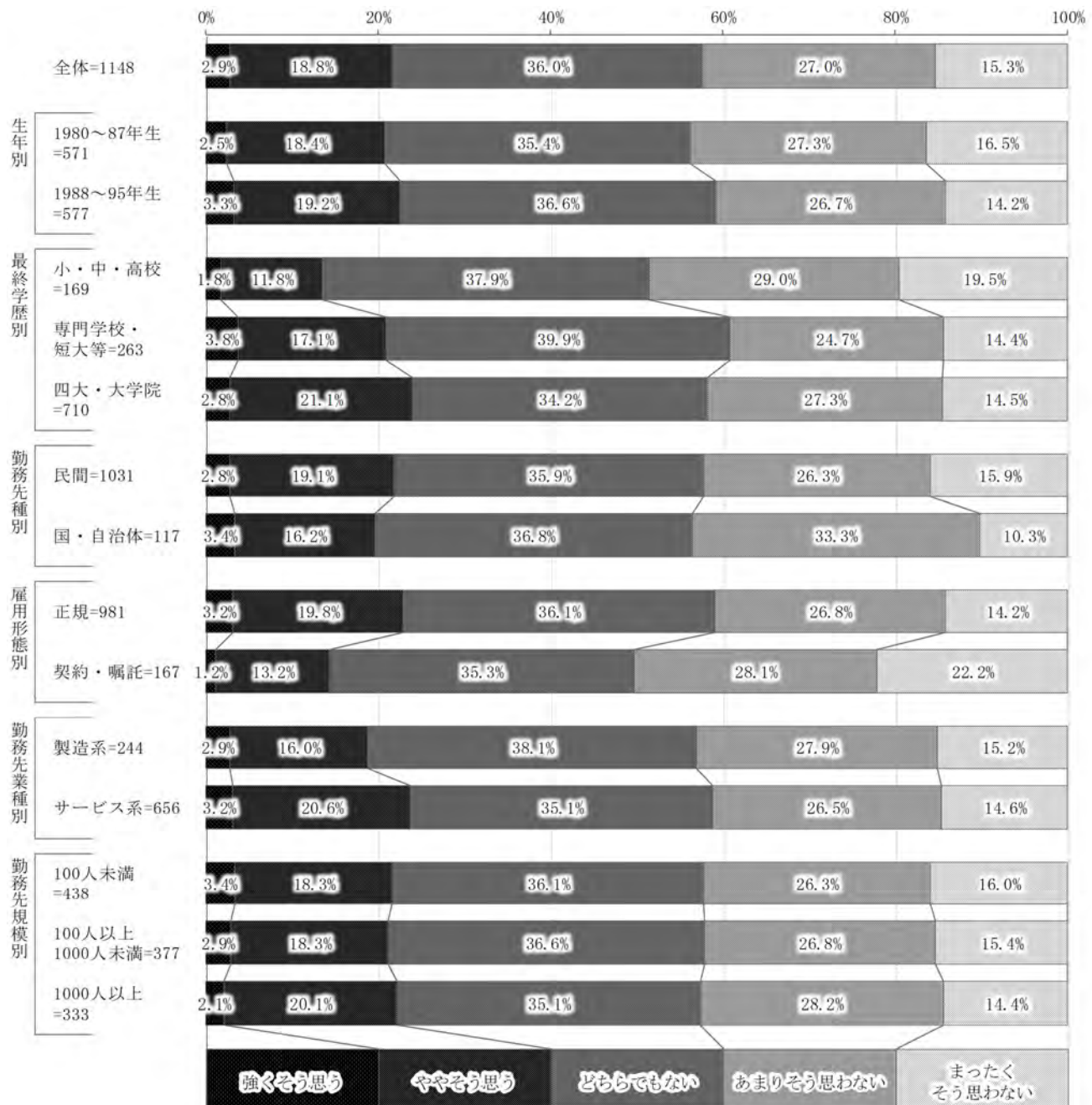


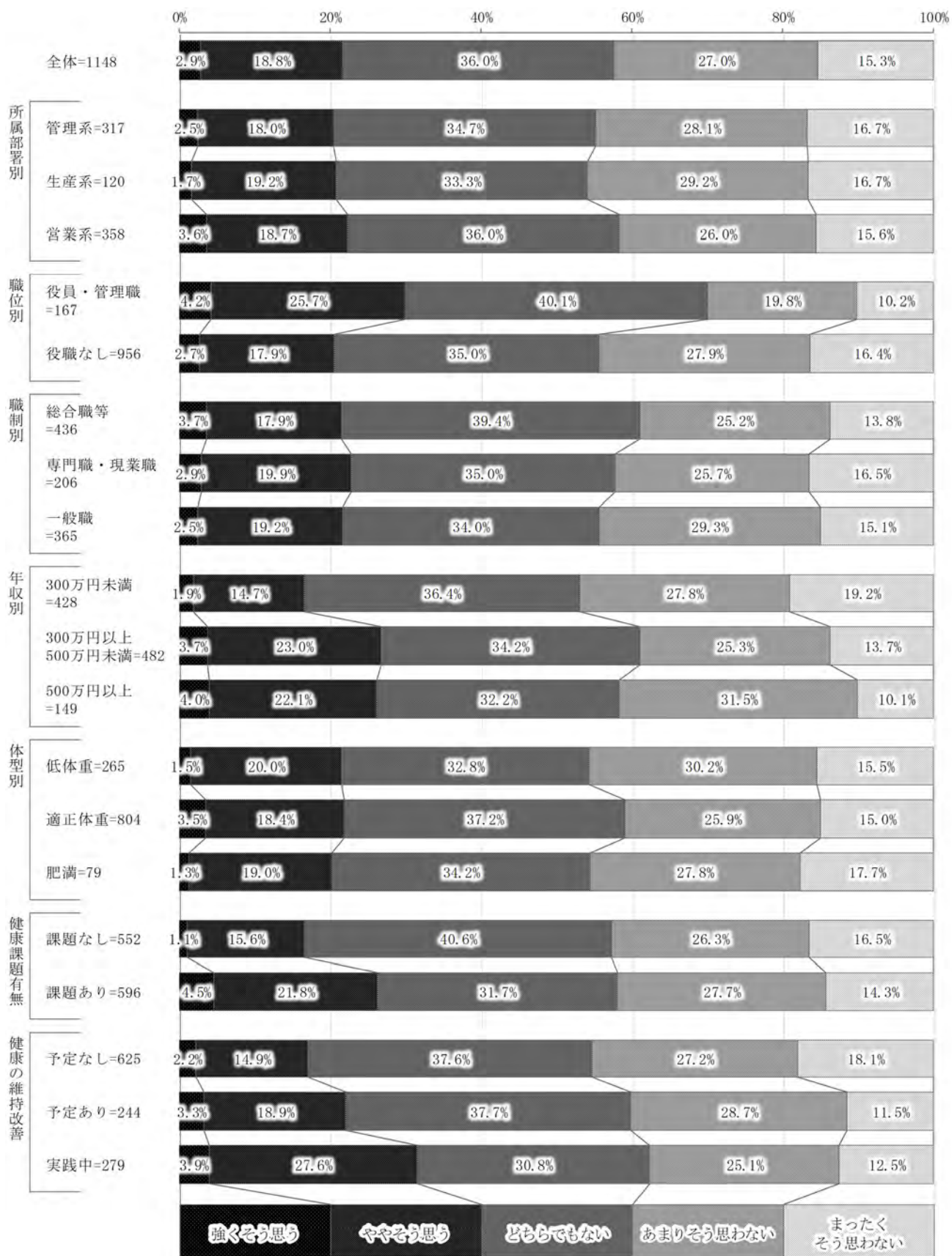


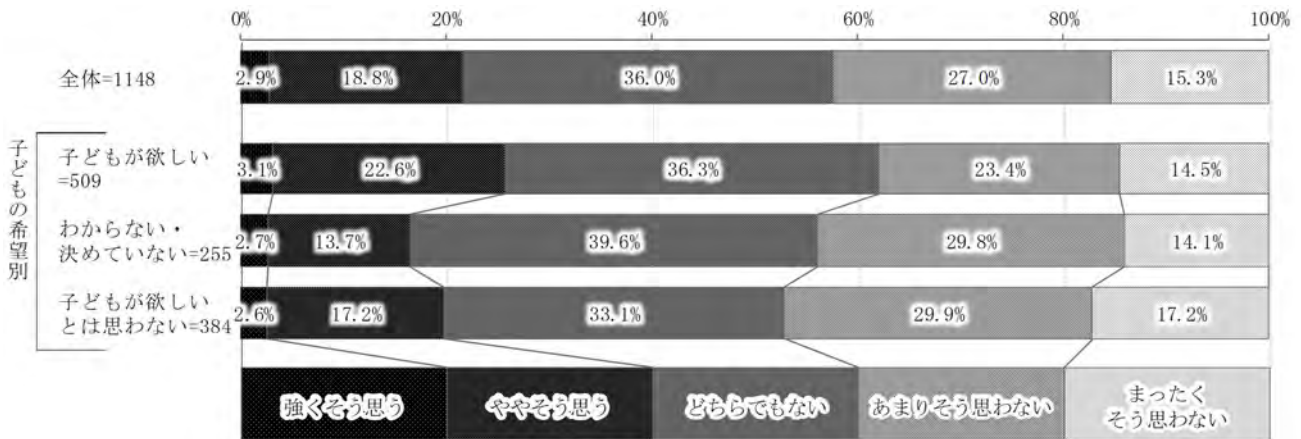
25.5. 自認している性格（新しいことが好きで、変わった考えを持つ）

- 性格（パーソナリティ）について新しいことが好きで、変わった考えを持つか尋ねたところ、全体では「どちらでもない」が36.0%と最も多く、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は4割を超え、「強くそう思う」「ややそう思う」の計は約2割に止まった。
- 「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は、職位別で役職なしの回答者が多い。

図表 25.5. 自認している性格（新しいことが好きで、変わった考えを持つ） [単一選択]



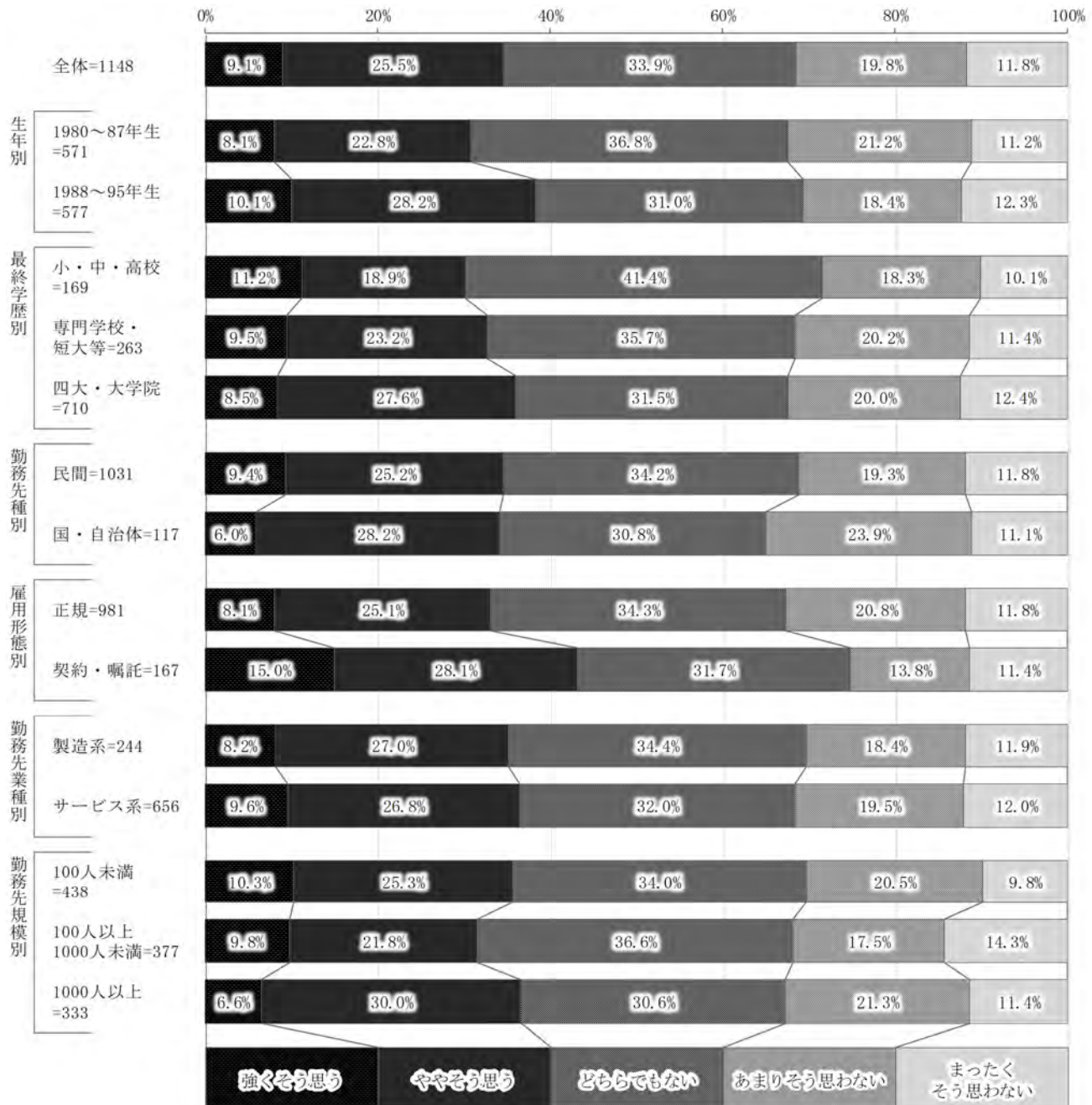


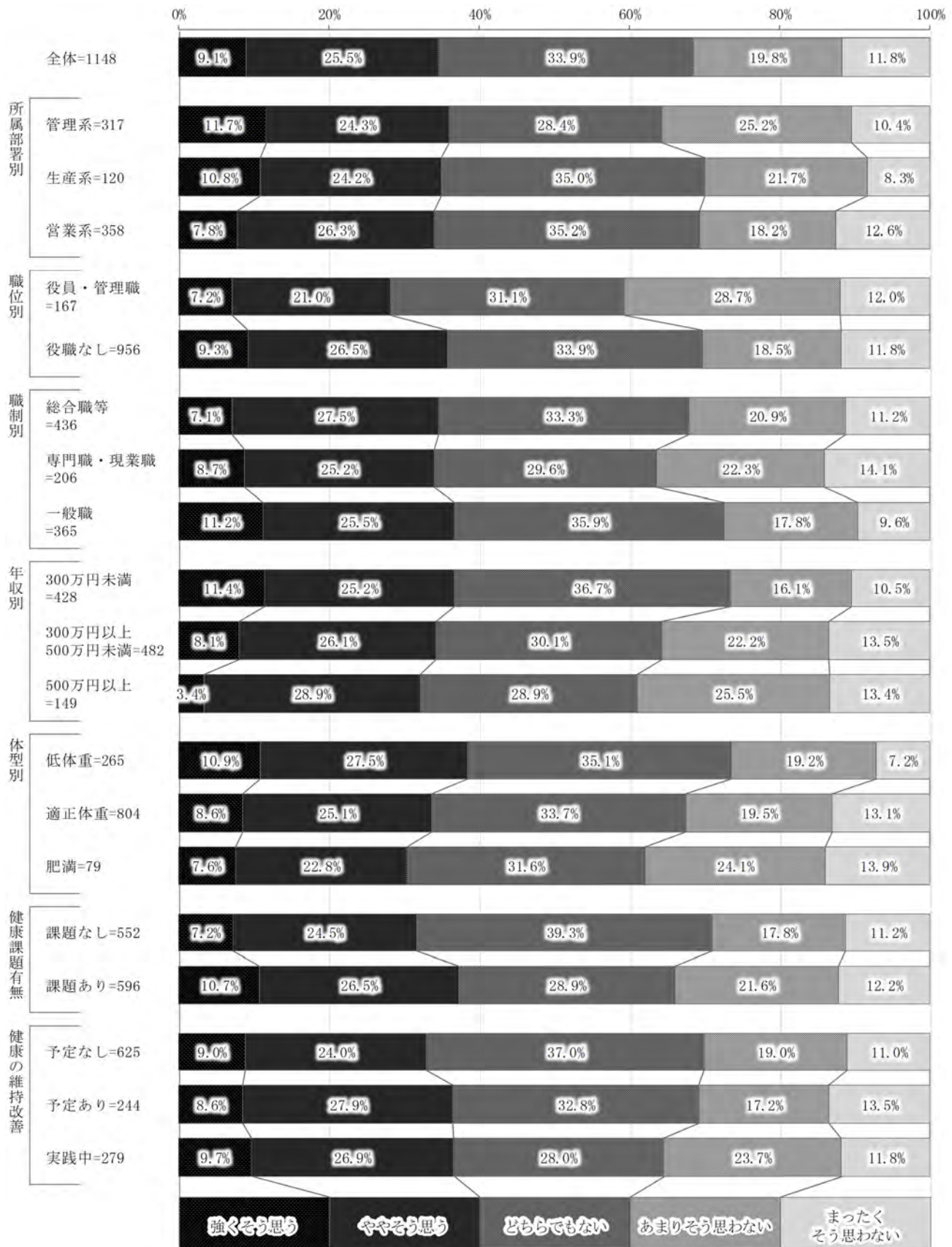


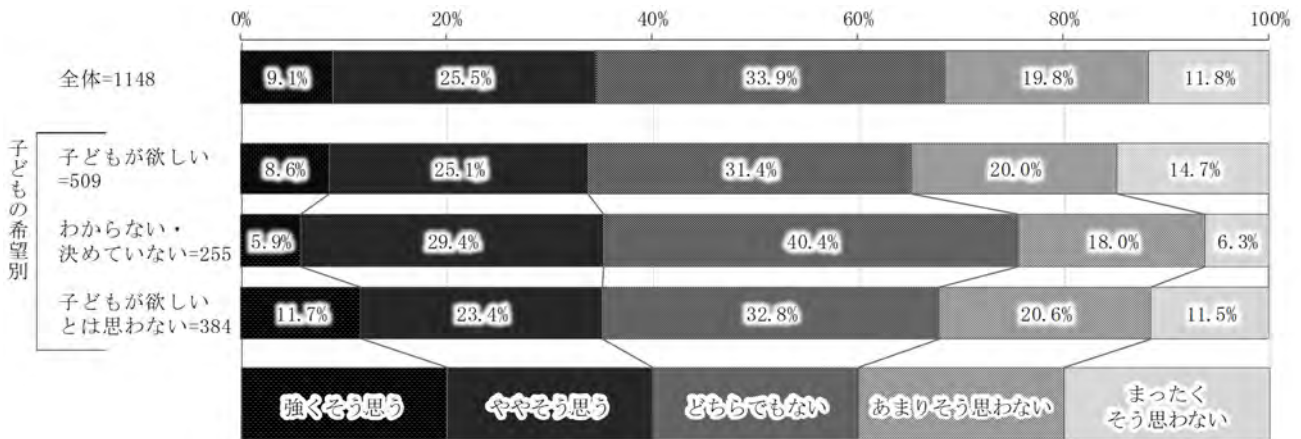
25.6. 自認している性格（ひかえめで、おとなしい）

- 性格（パーソナリティ）についてひかえめで、おとなしいか尋ねたところ、全体では「どちらでもない」が33.9%と最も多く、「強くそう思う」「ややそう思う」の計と「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計も約3割だった。
- 「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は、職位別で役員・管理職の回答者が多い。

図表 25.6. 自認している性格（ひかえめで、おとなしい）【単一選択】



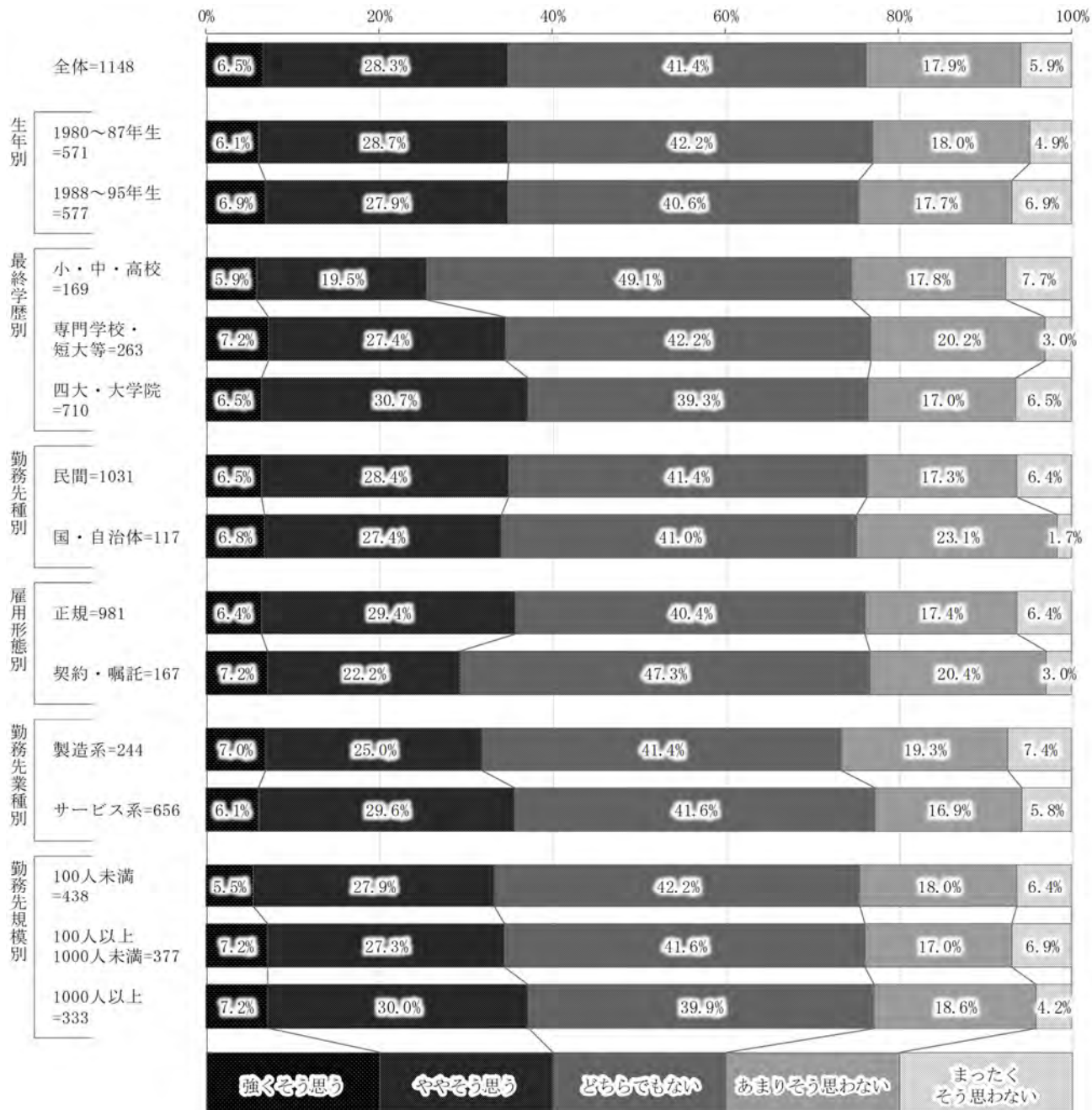


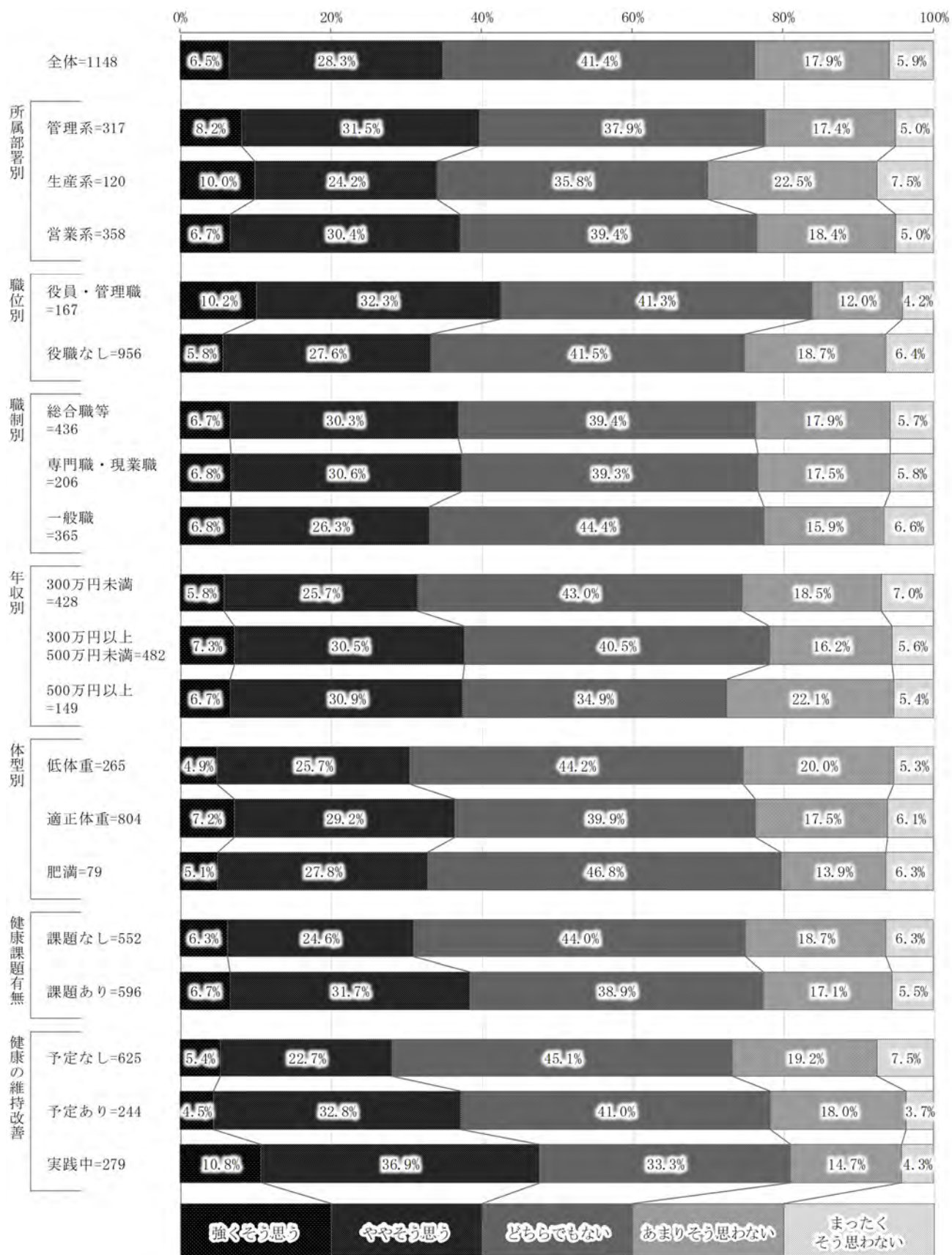


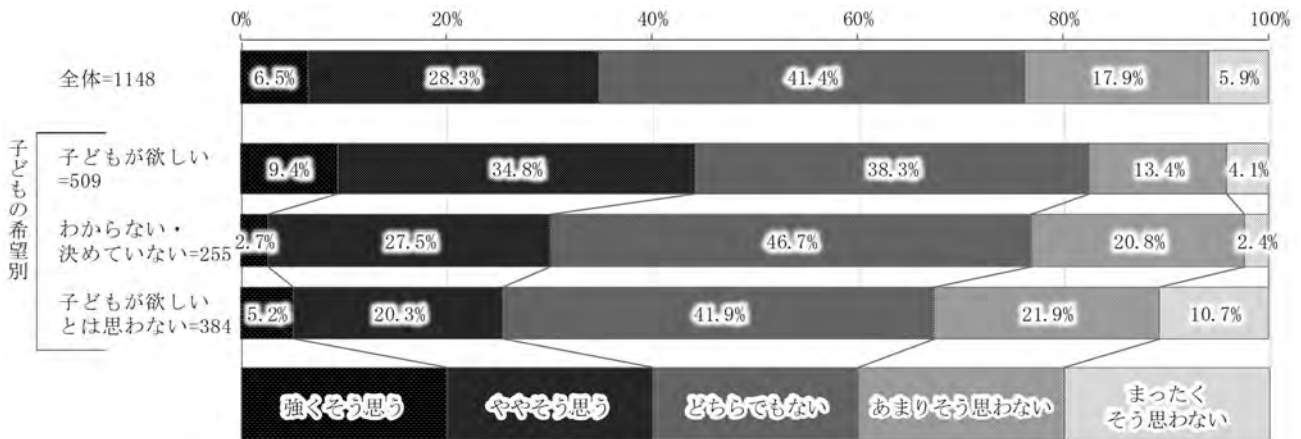
25.7. 自認している性格（人に気をつかう、やさしい人間だ）

- 性格（パーソナリティ）について人に気をつかう、やさしい人間か尋ねたところ、全体では「どちらでもない」が41.4%と最も多く、「強くそう思う」「ややそう思う」の計は3割を超え、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約2割に止まった。
- 「強くそう思う」「ややそう思う」の計は、健康の維持改善で実践中の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。

図表 25.7. 自認している性格（人に気をつかう、やさしい人間だ）【単一選択】



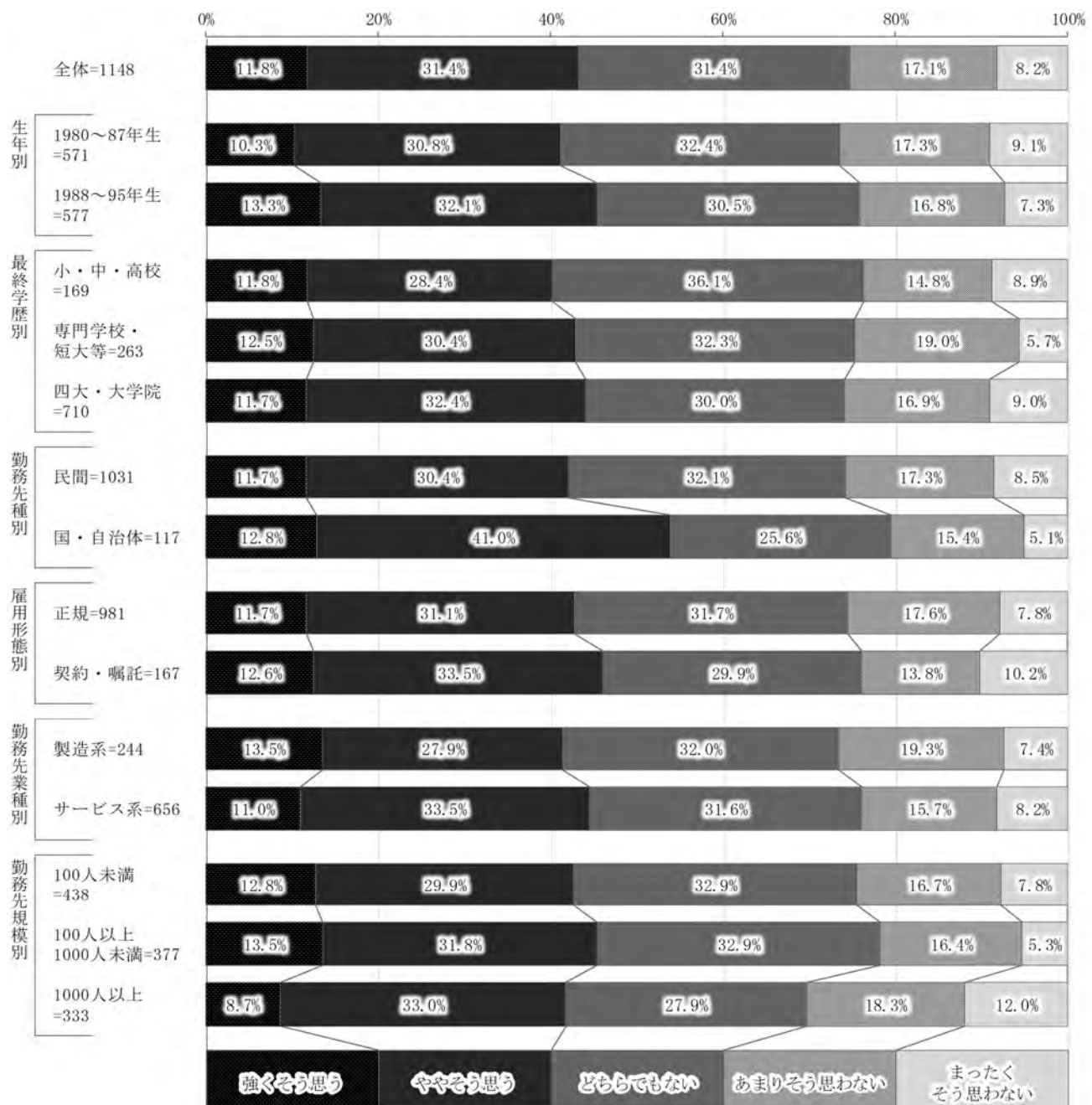


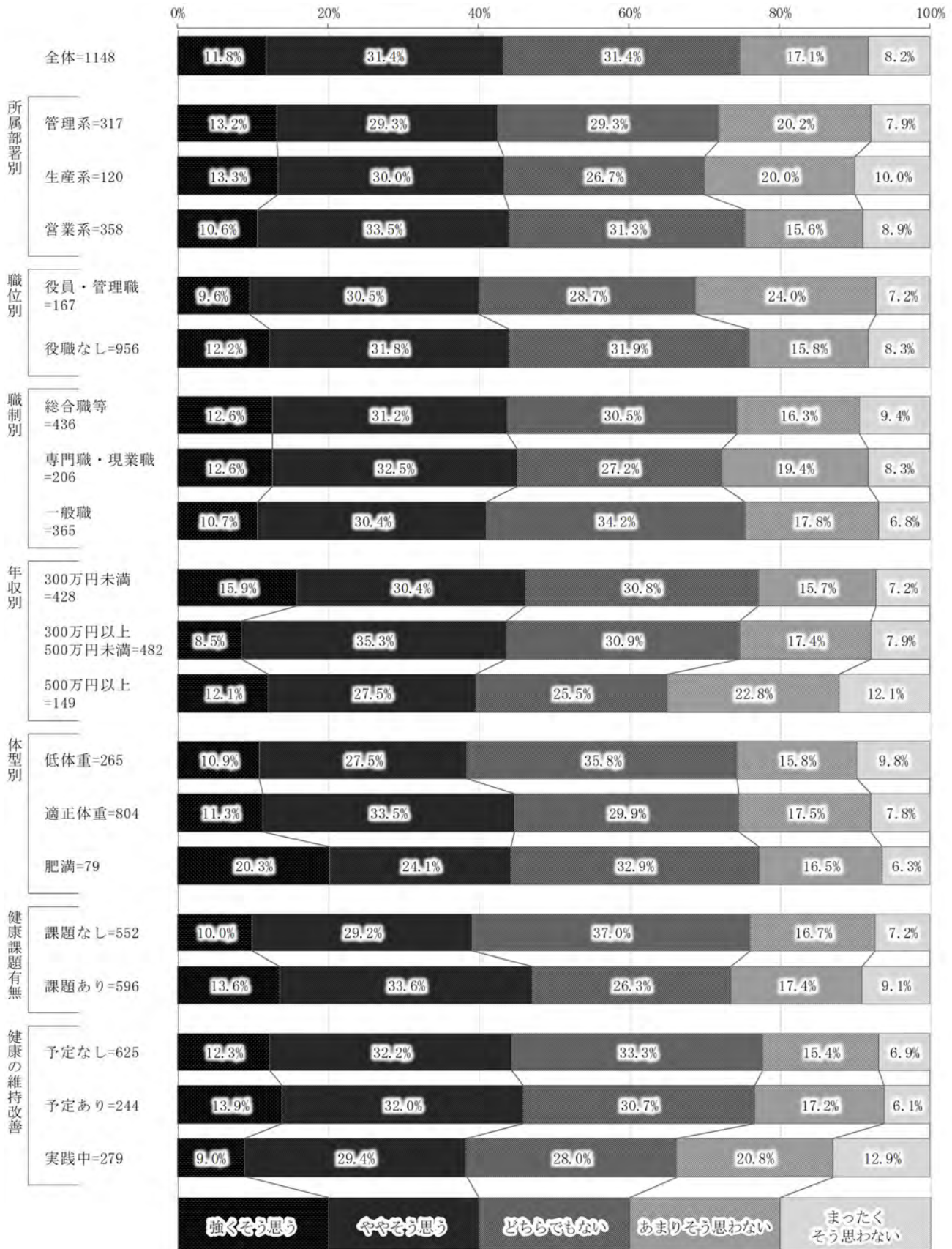


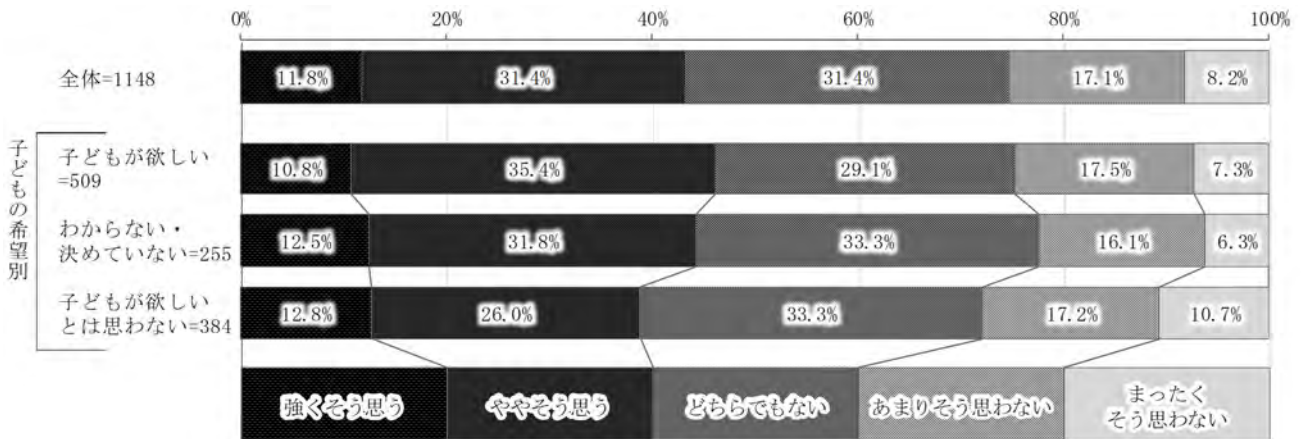
25.8. 自認している性格（だらしなく、うっかりしている）

- 性格（パーソナリティ）についてだらしなく、うっかりしているか尋ねたところ、全体では「ややそう思う」「どちらでもない」がともに31.4%と最も多く、「強くそう思う」「ややそう思う」の計が4割を超え、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は3割に満たなかった。
- 「強くそう思う」「ややそう思う」の計は、勤務先種別で国・自治体の回答者が多い。
- 「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は、健康の維持改善で実践中の回答者が多い。

図表 25.8. 自認している性格（だらしなく、うっかりしている）【単一選択】



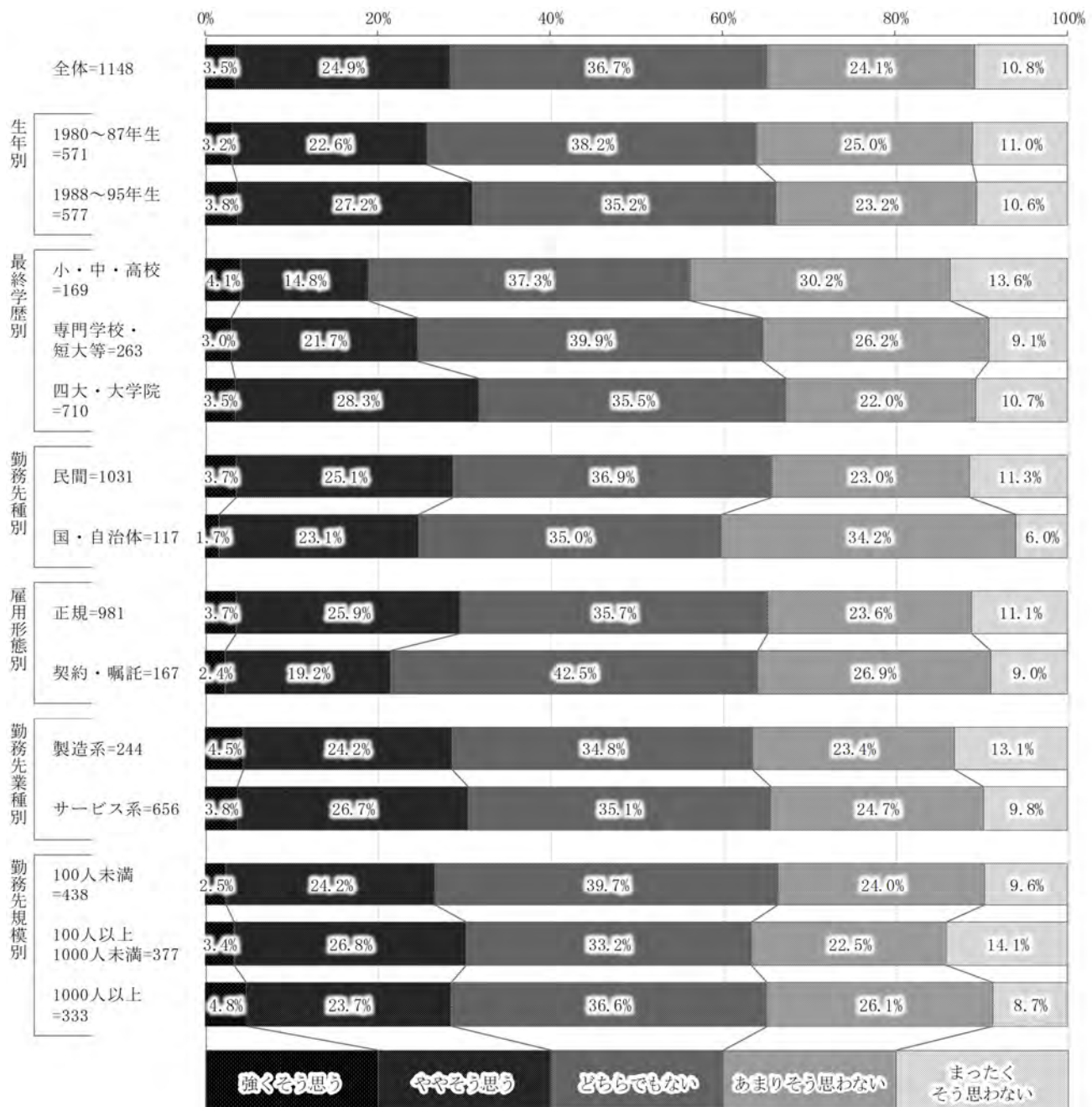


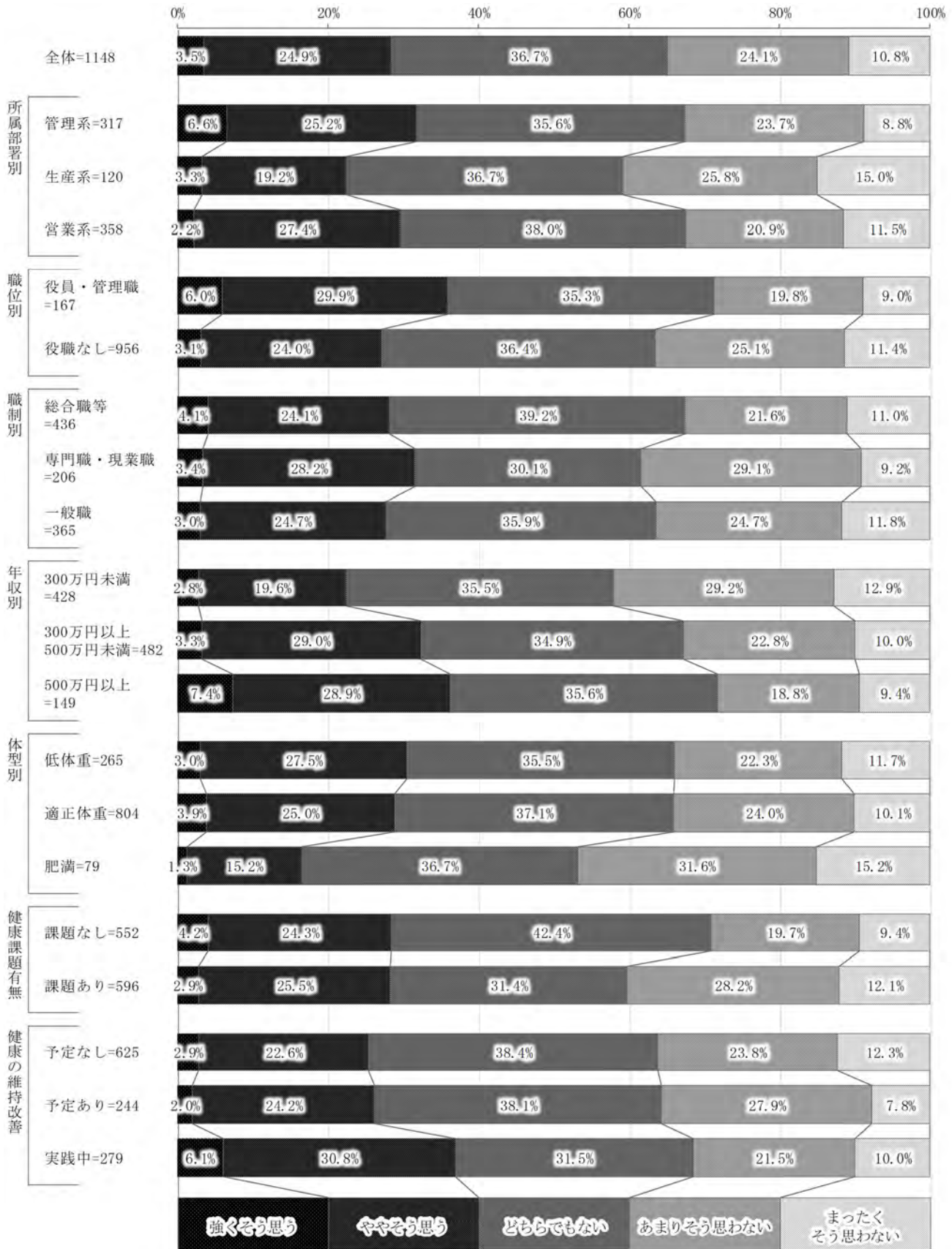


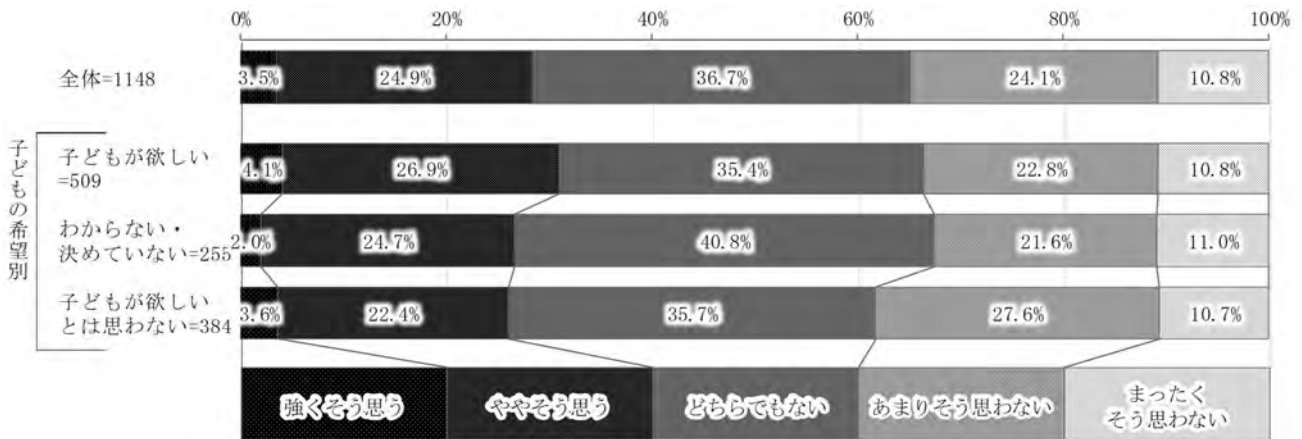
25.9. 自認している性格（冷静で気分が安定している）

- 性格（パーソナリティ）について冷静で気分が安定しているか尋ねたところ、全体では「どちらでもない」が36.7%と最も多く、「強くそう思う」「ややそう思う」の計と「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計とも約3割だった。
- 「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は、体型別で肥満の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者が多い。
- 「強くそう思う」「ややそう思う」の計は、健康の維持改善で実践中の回答者が多い。

図表 25.9. 自認している性格（冷静で気分が安定している） [単一選択]



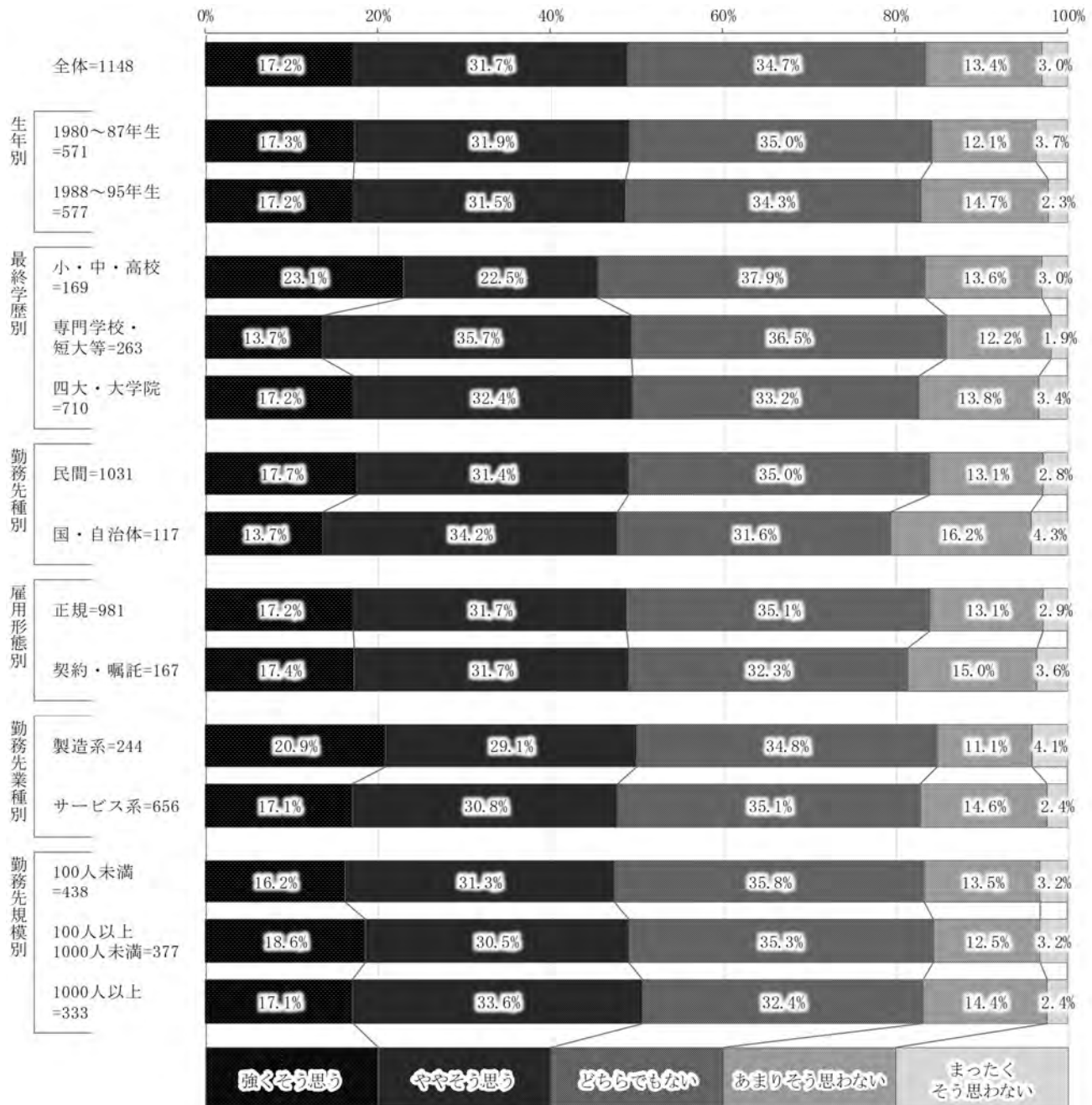


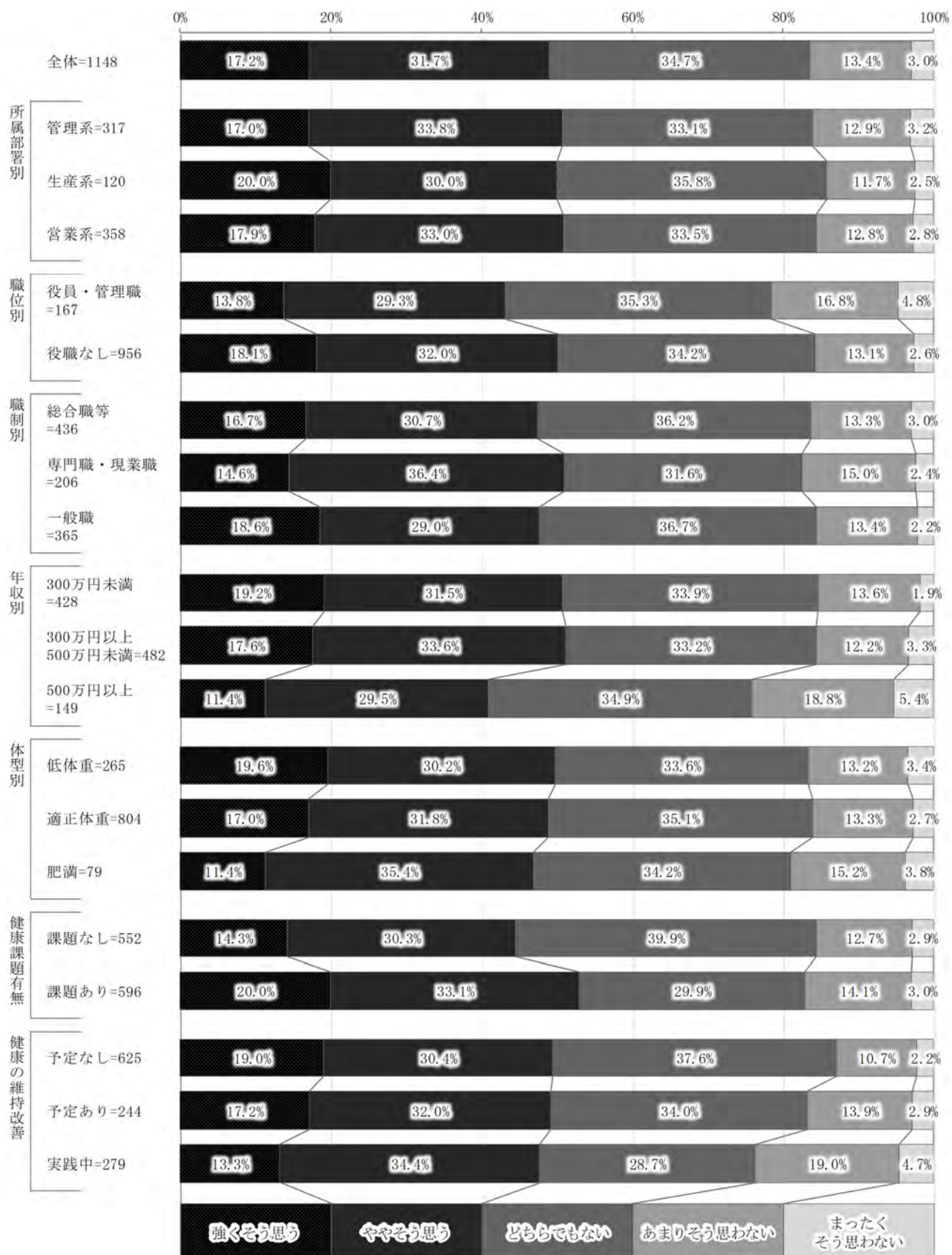


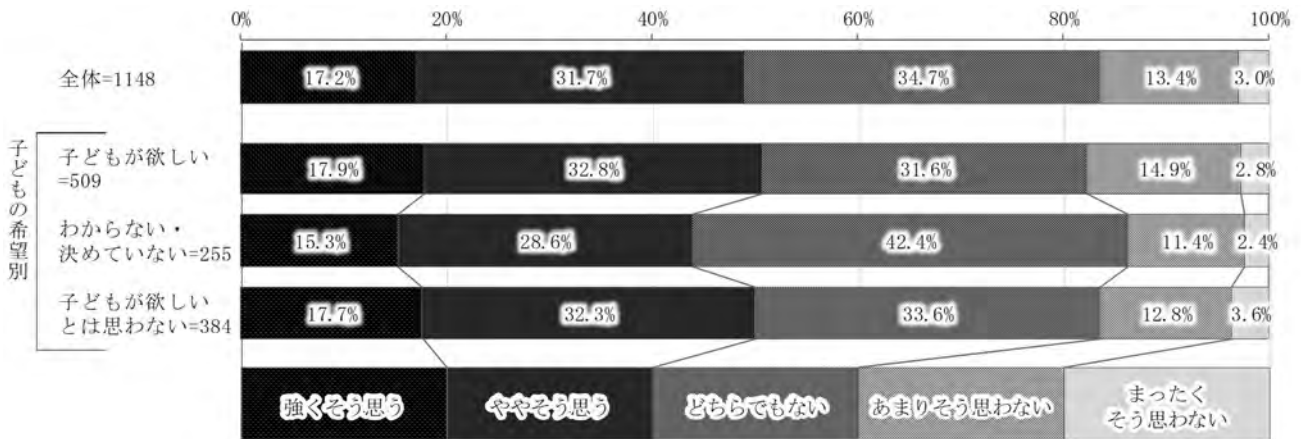
25.10. 自認している性格（発想力に欠けた、平凡な人間だ）

- 性格（パーソナリティ）について発想力に欠けた、平凡な人間か尋ねたところ、全体では「どちらでもない」が34.7%と最も多く、「強くそう思う」「ややそう思う」の計は約5割に及び、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は2割に満たなかった。
- 「強くそう思う」「ややそう思う」の計は、健康課題有無で課題ありの回答者が若干多い。

図表 25.10. 自認している性格（発想力に欠けた、平凡な人間だ） [単一選択]



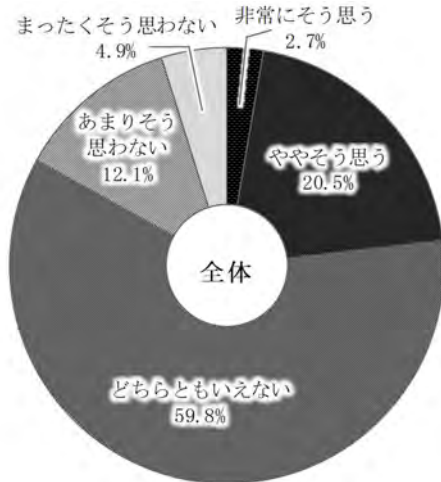




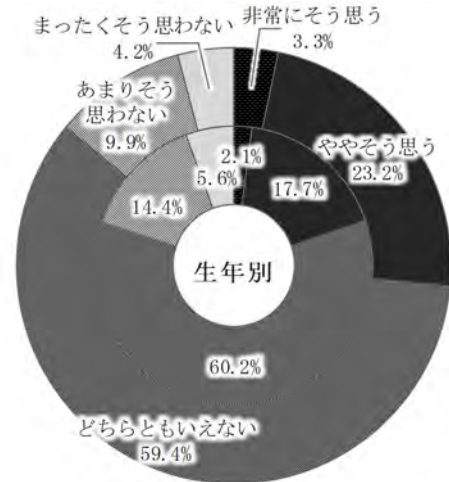
26. 女性活躍社会の動向の認知度

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の変化を「就業機会の増加」など次項にあげる認知機会それぞれについて尋ね、平均値で集計したところ、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、全体では2割を超え、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は2割に満たなかった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、健康課題有無で課題ありの回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。

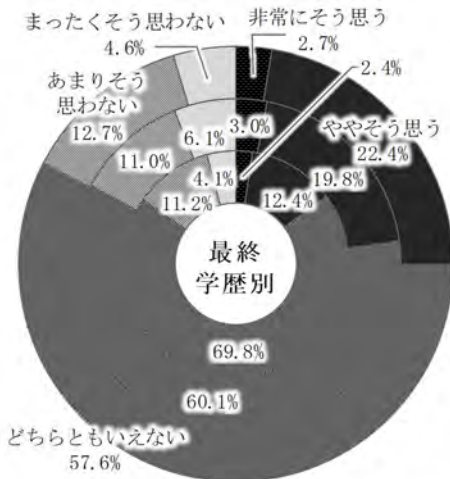
図表 26.女性活躍社会の動向の認知度[単一選択]



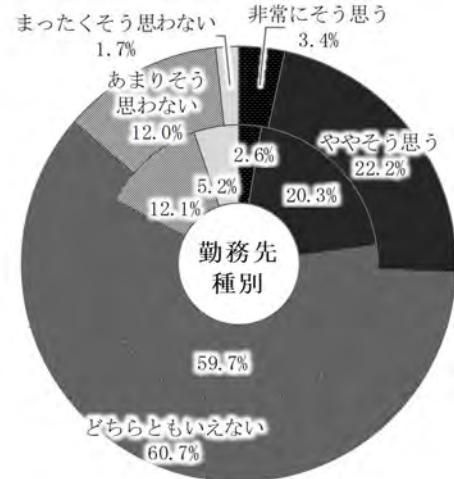
全体= 1148



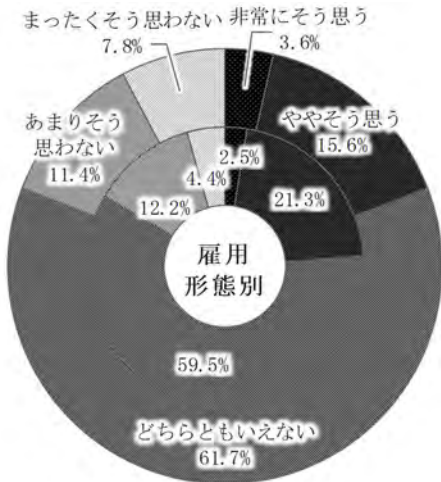
内:1980~87年生=571 外:1988~95年生=577



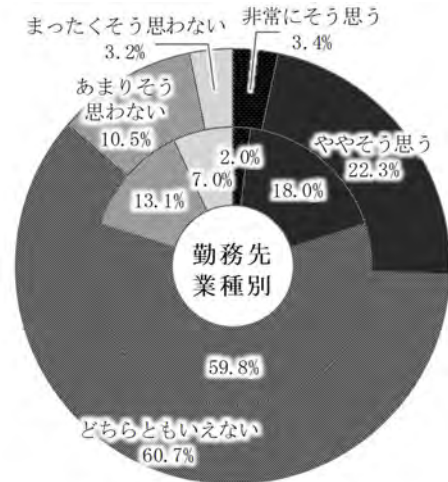
内:小・中・高校=169 中:専門学校・短大等=263
外:四大・大学院=710



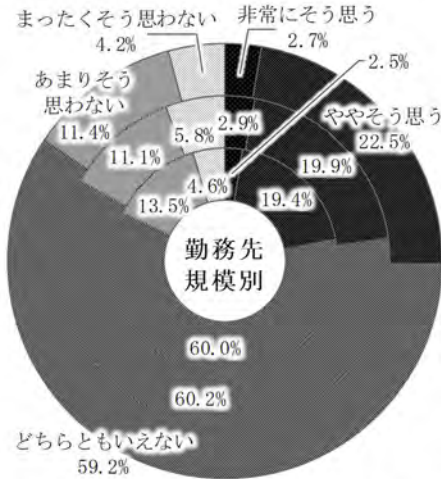
内:民間=1031 外:国・自治体=117



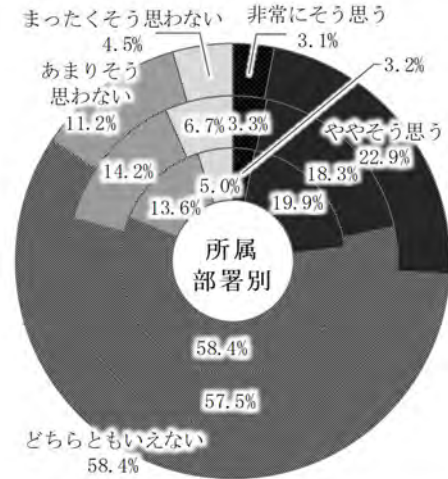
内: 正規=981 外: 契約・嘱託=167



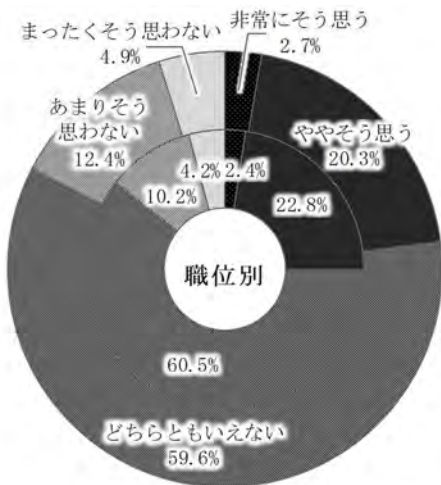
内: 製造系=244 外: サービス系=656



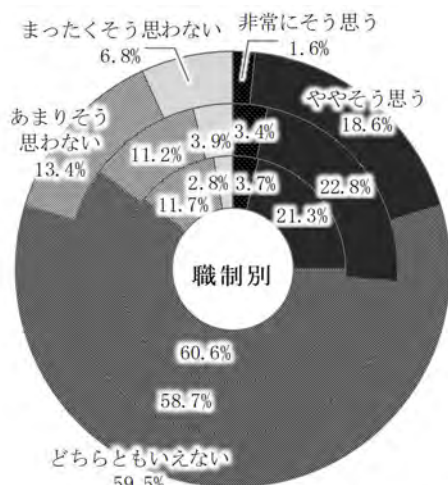
内: 100人未満=438 中: 100人以上1000人未満=377 外: 1000人以上=333



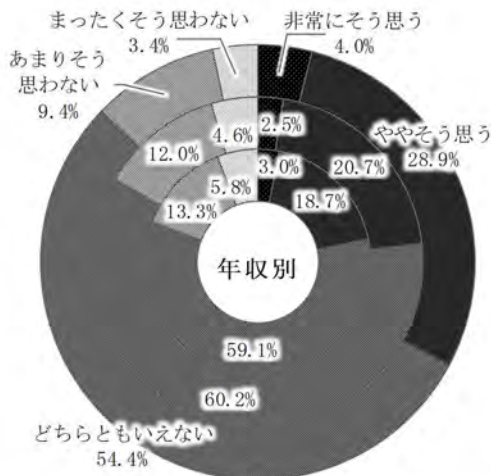
内: 管理系=317 中: 生産系=120 外: 営業系=358



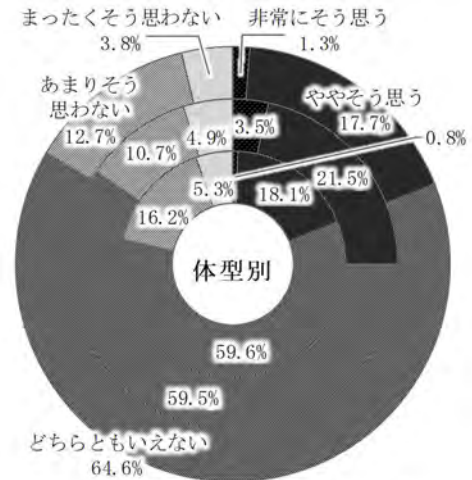
内: 役員・管理職=167 外: 役職なし=956



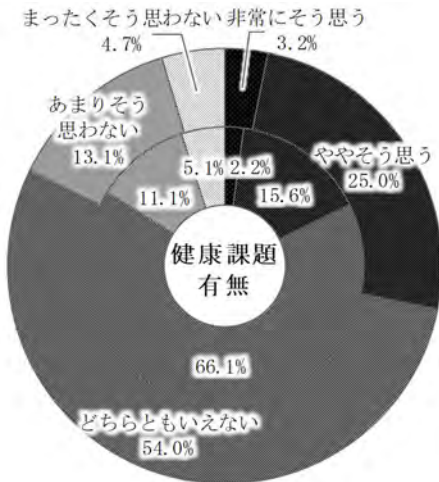
内: 総合職等=436 中: 専門職・現業職=206 外: 一般職=365



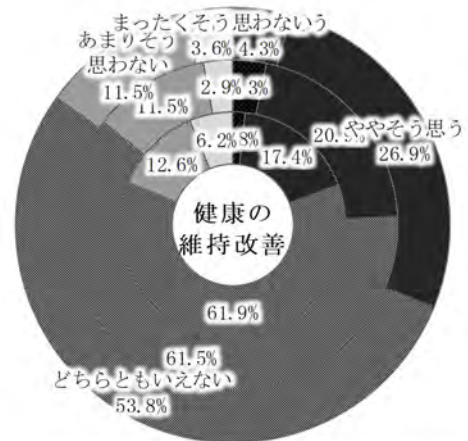
内:300万円未満=428 中:300万以上500万円未満=482
外:500万円以上=149



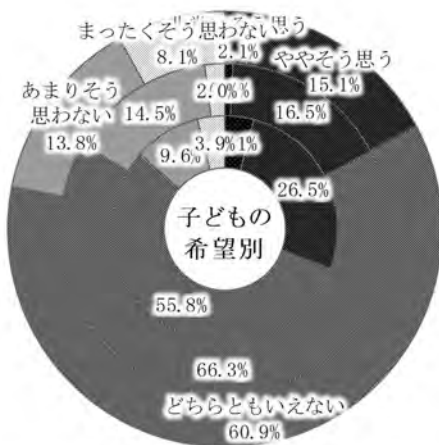
内:低体重=265 中:適正体重=804 外:肥満=79



内:課題なし=552 外:課題あり=596



内:予定なし=625 中:予定あり=244 外:実践中=279

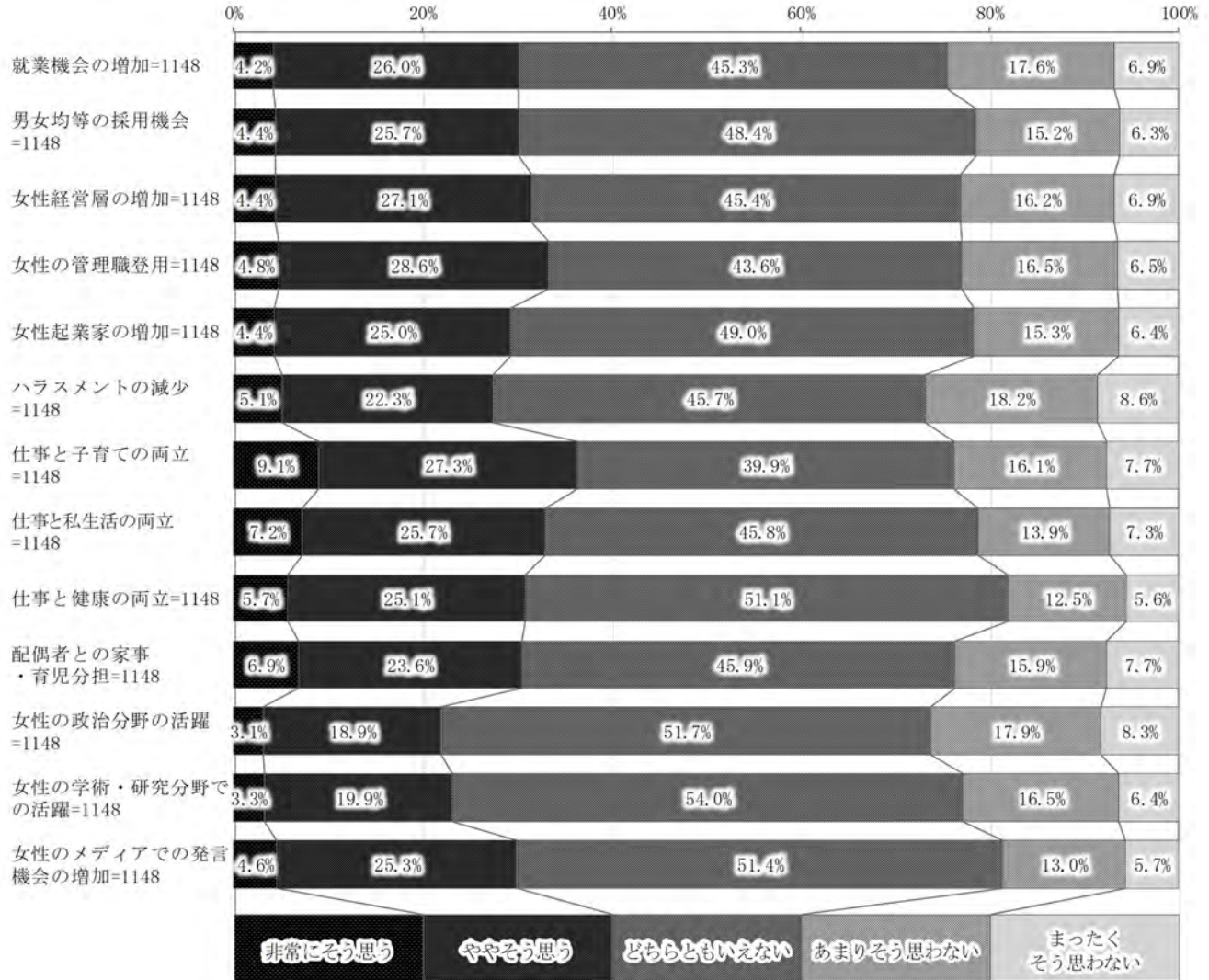


内:子どもが欲しい=509 中:わからない・決めていない=255
外:子どもが欲しいとは思わない=384

26.1. 女性活躍社会の動向の認知度（認知機会別）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の変化について尋ねたところ、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、全体では「仕事と子育ての両立」36.3%、「女性の管理職登用」33.4%、「仕事と私生活の両立」32.9%の順に多かった。

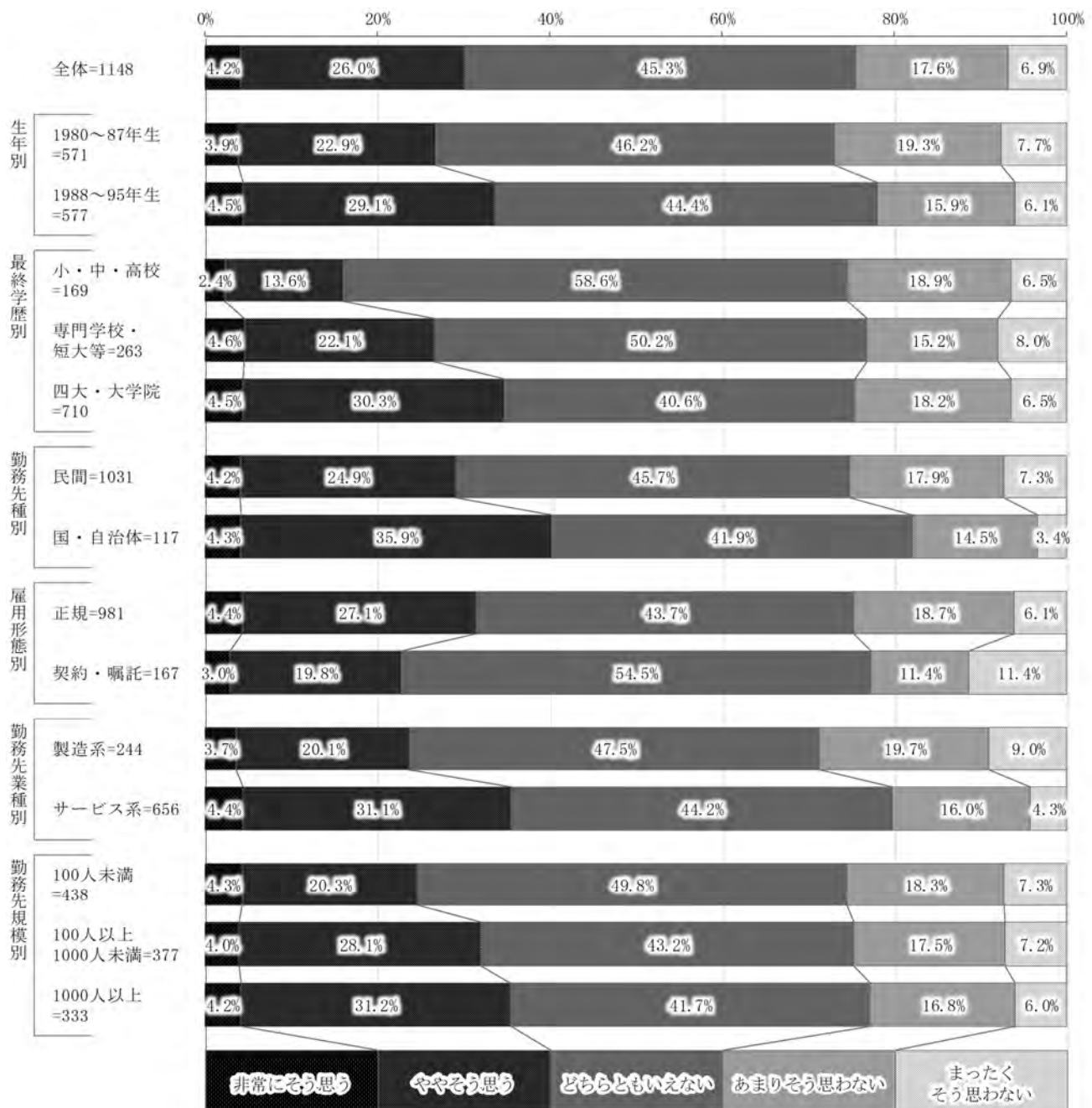
図表 26.1. 女性活躍社会の動向の認知度（認知機会別）[単一選択]

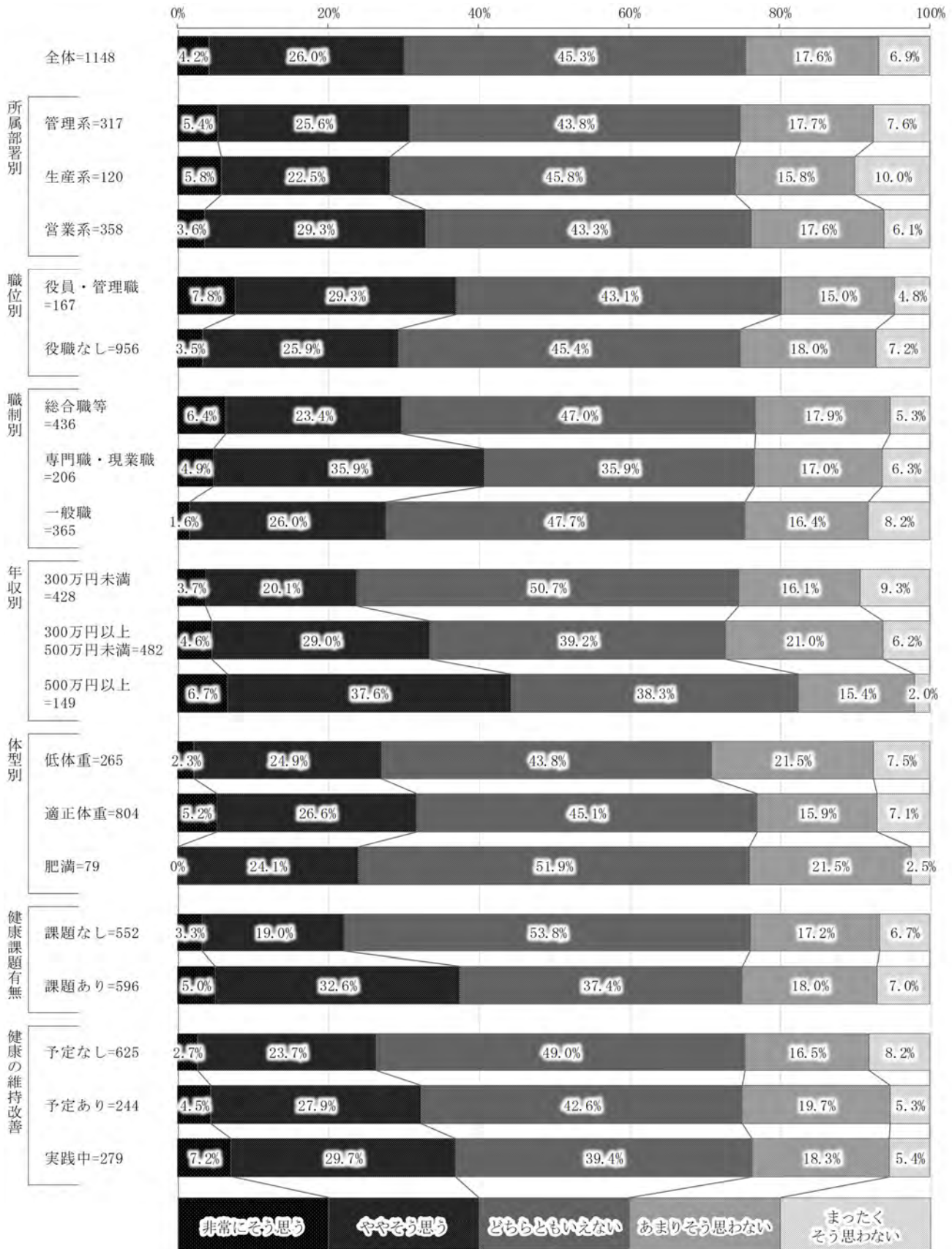


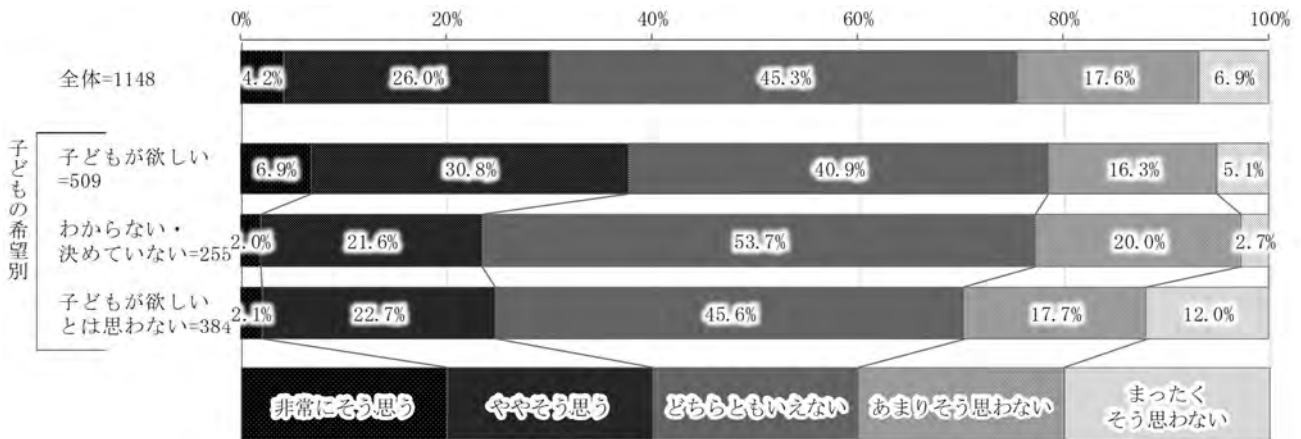
26.1.1. 女性活躍社会の動向の認知度（就業機会の増加）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の就業機会の増加について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が45.3%と最も多く、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は3割を超え、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約2割に止まった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、最終学歴別で四大・大学院の回答者と専門学校・短大等の回答者、勤務先種別で国・自治体の回答者、勤務先業種別でサービス系の回答者、職制別で専門職・現業職の回答者、年収別で500万円以上の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。

図表 26.1.1.女性活躍社会の動向の認知度（就業機会の増加）【単一選択】



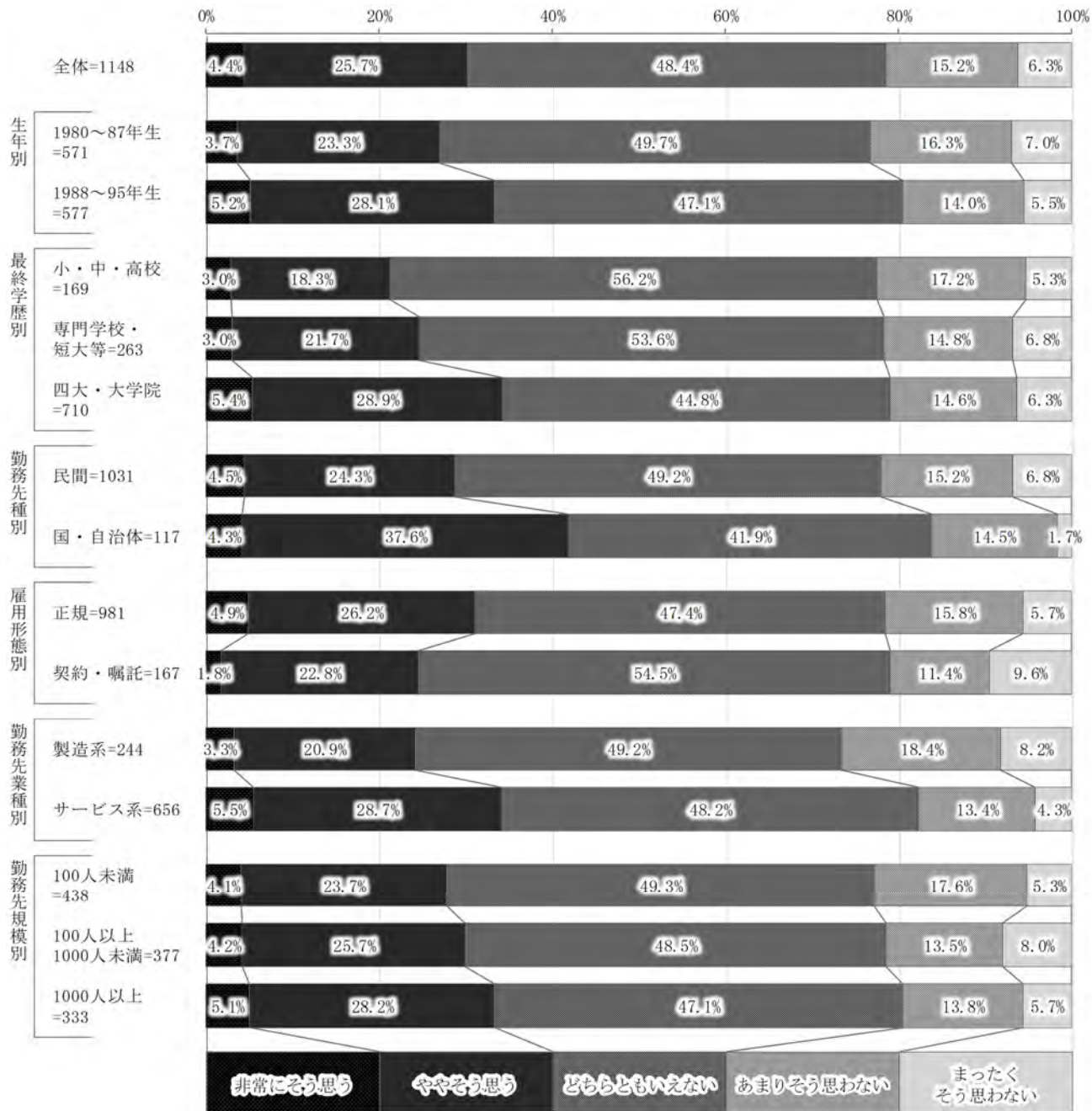


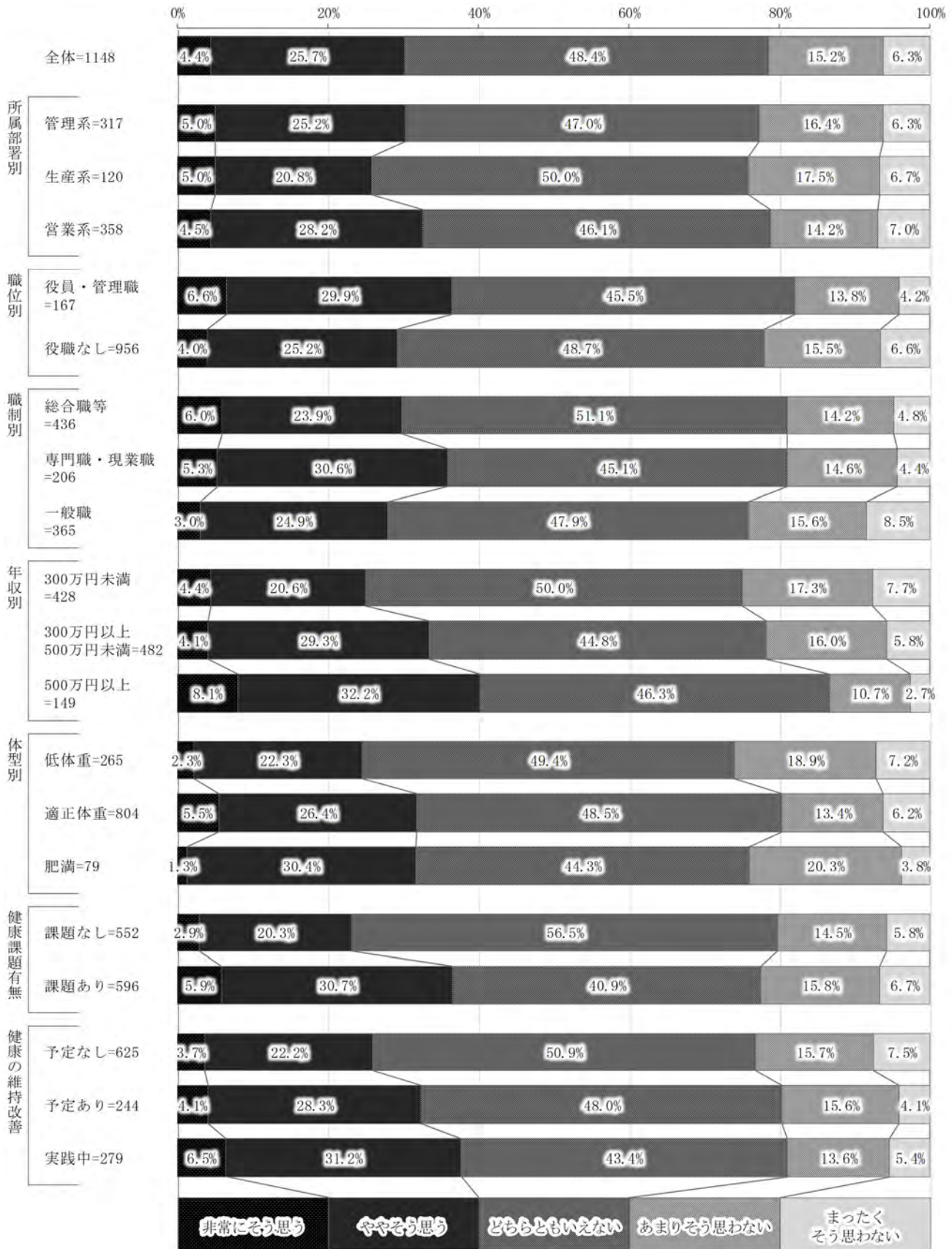


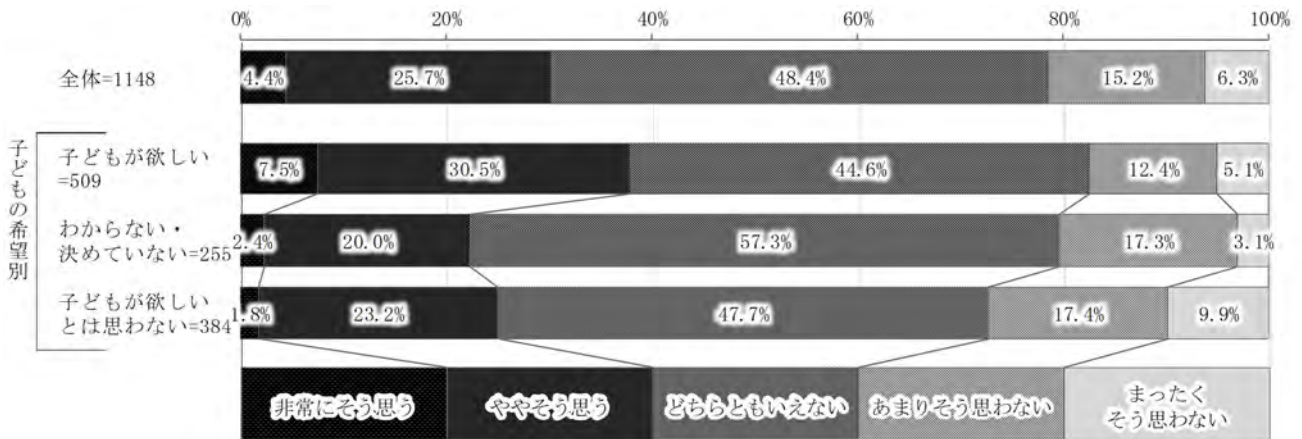
26.1.2. 女性活躍社会の動向の認知度（男女均等の採用機会）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の男女均等の採用機会について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が48.4%と最も多く、「ややそう思う」「あまりそう思う」の計は3割を超え、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約2割に止まった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、勤務先種別で国・自治体の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。

図表 26.1.2. 女性活躍社会の動向の認知度（男女均等の採用機会）【単一選択】



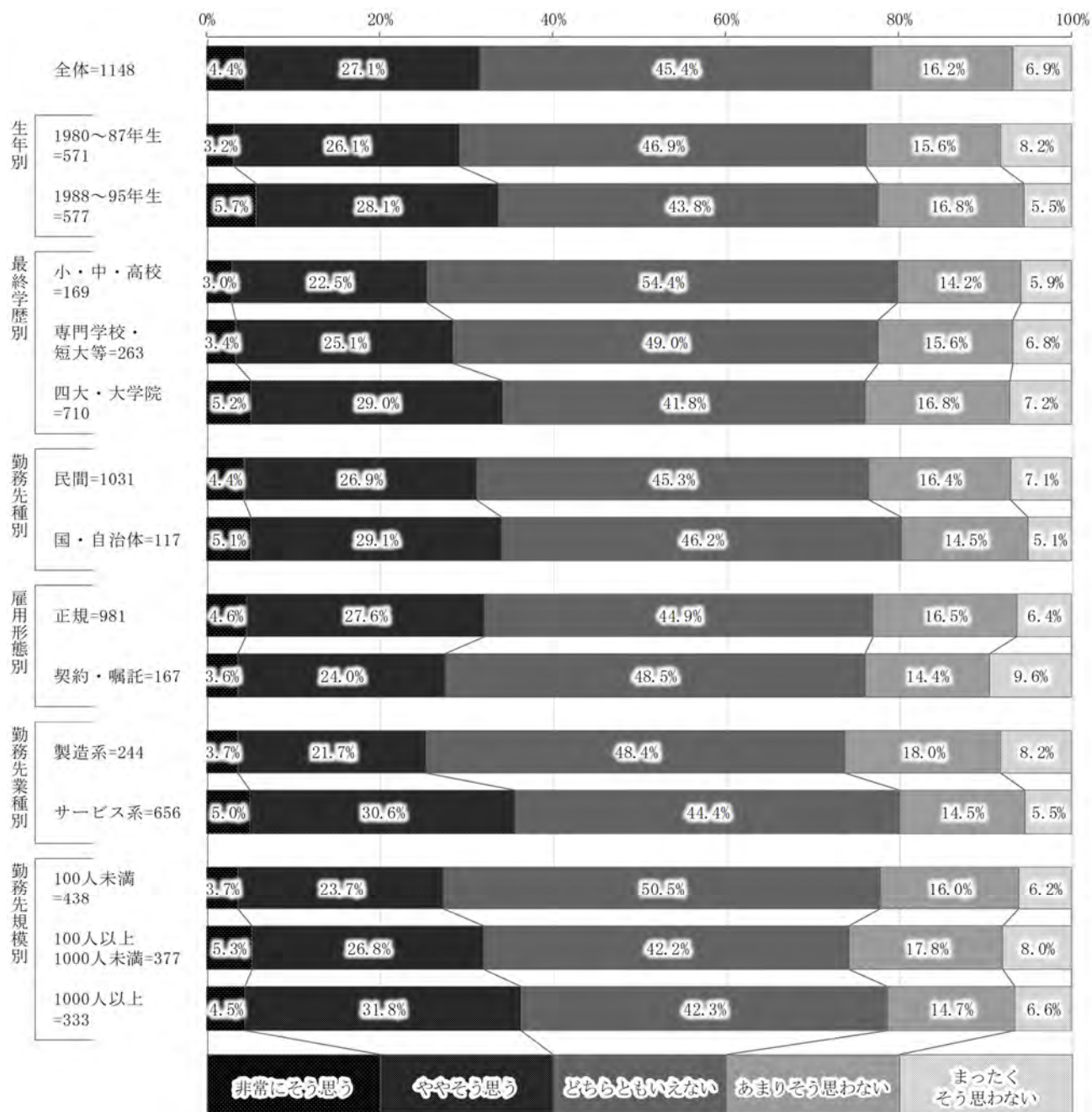


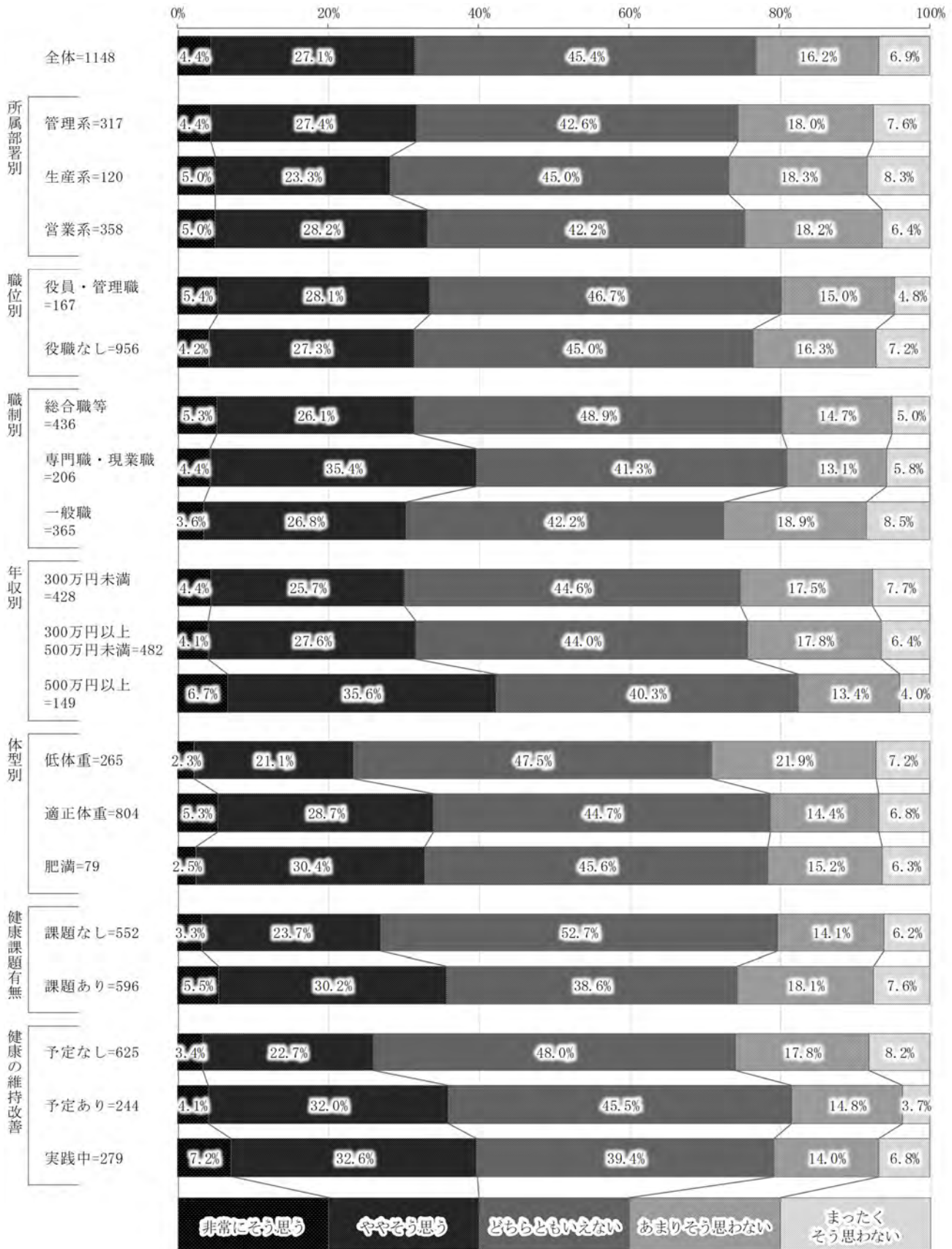


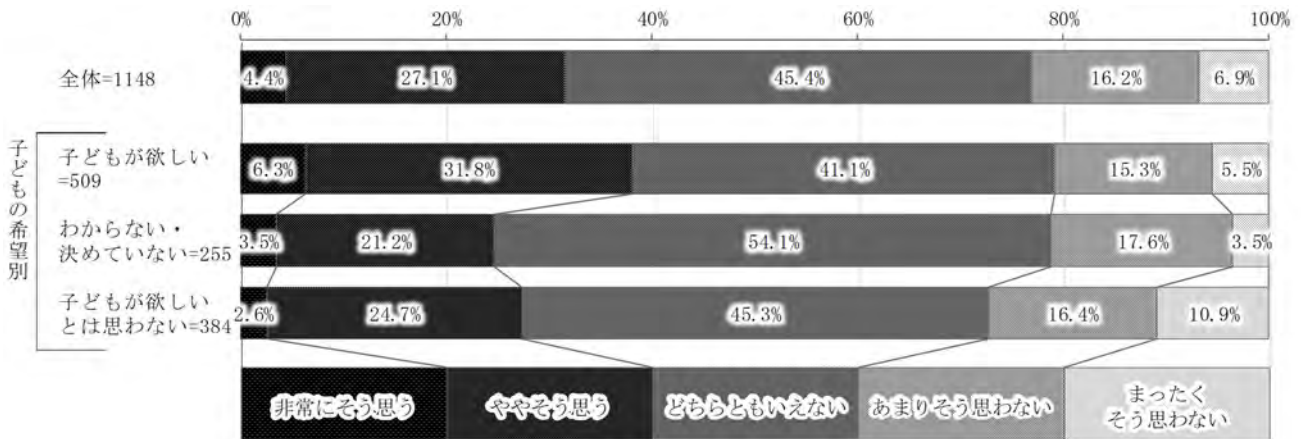
26.1.3. 女性活躍社会の動向の認知度（女性経営層の増加）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の女性経営層の増加について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が45.4%と最も多く、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は3割を超え、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約2割に止まった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、勤務先業種別でサービス系の回答者、年収別で500万円以上の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。

図表 26.1.3. 女性活躍社会の動向の認知度（女性経営層の増加）[単一選択]



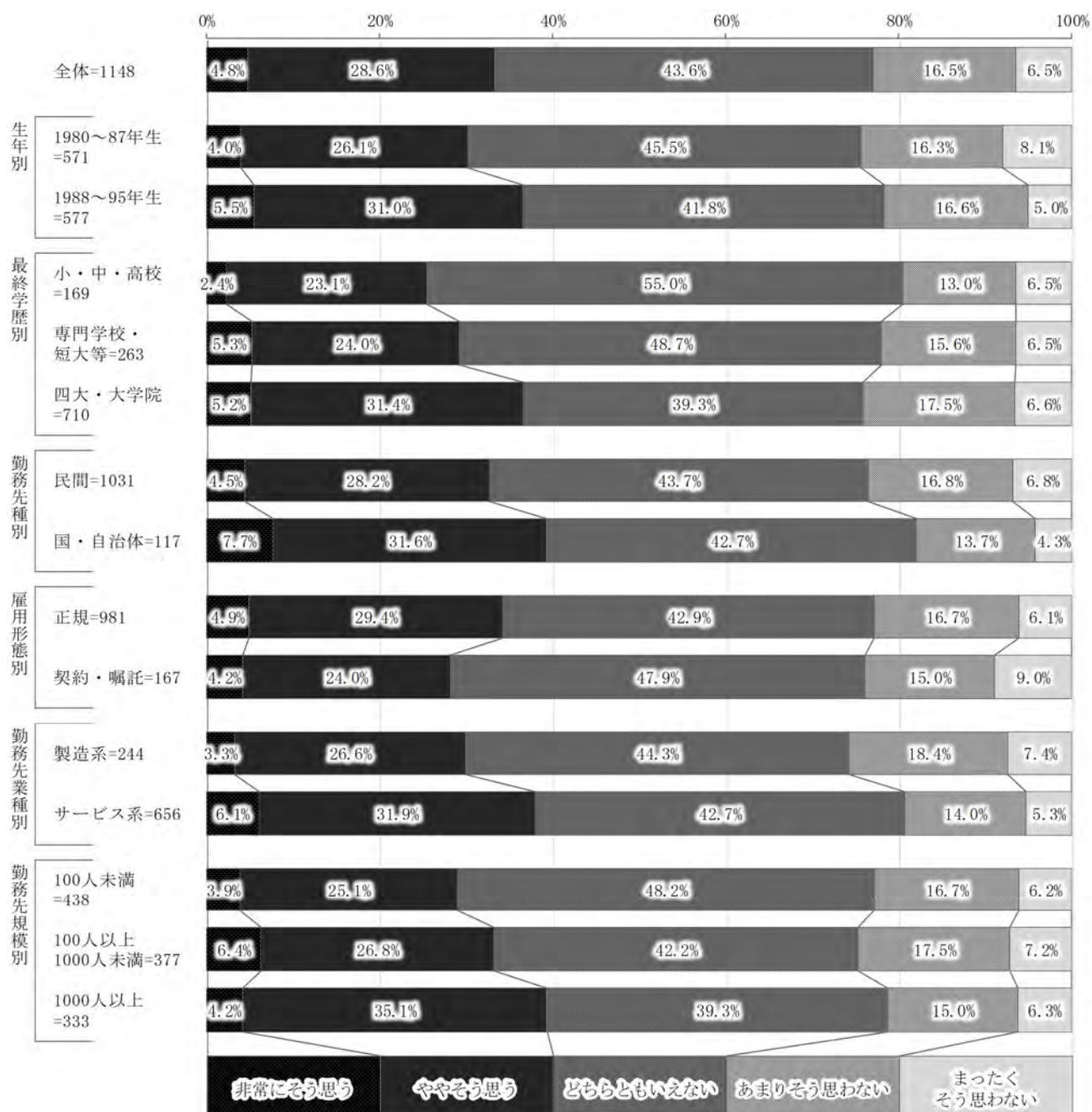


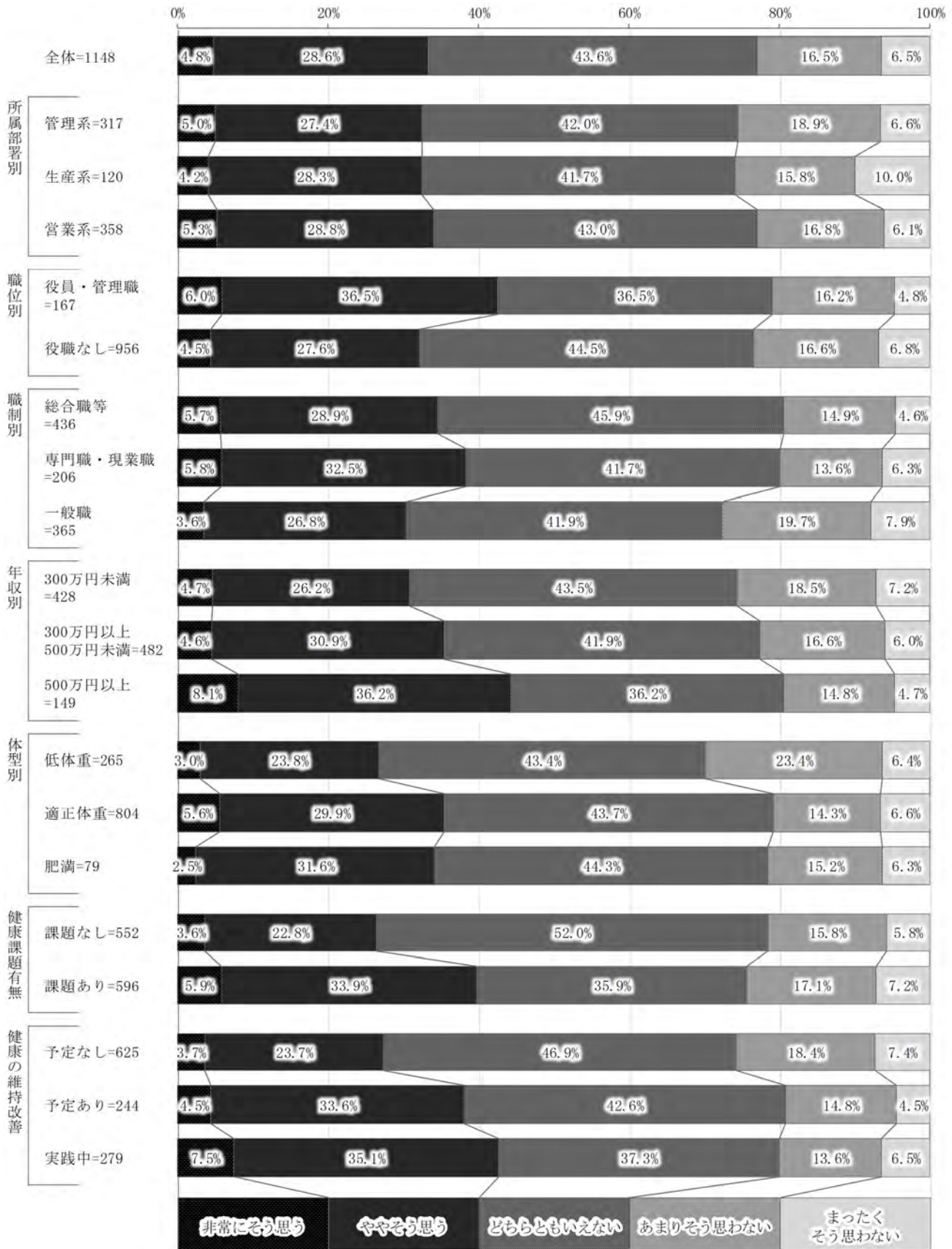


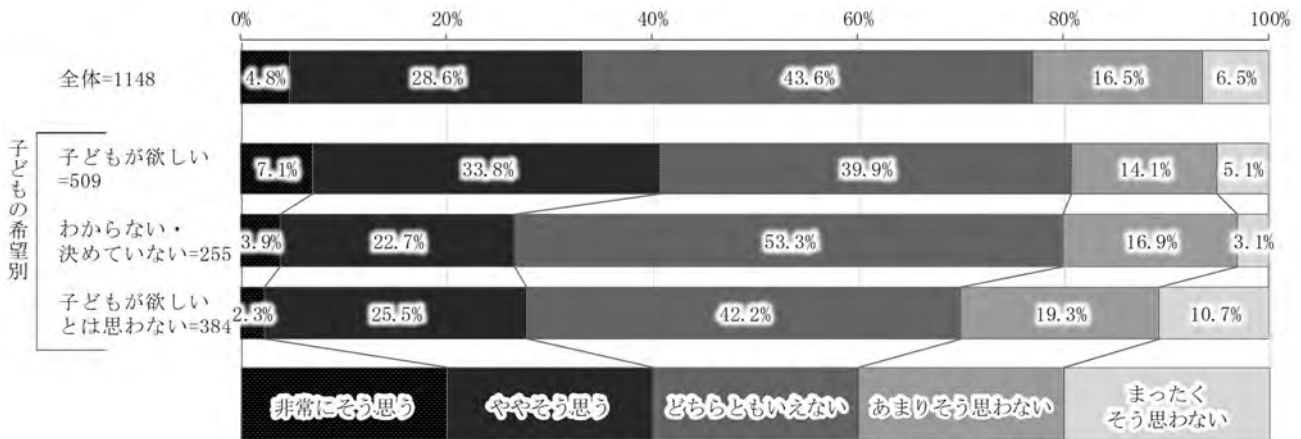
26.1.4. 女性活躍社会の動向の認知度（女性の管理職登用）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の女性の管理職登用について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が43.6%と最も多く、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は3割を超え、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約2割に止まった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、職位別で役員・管理職の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で実践中の回答者と予定ありの回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。

図表 26.1.4. 女性活躍社会の動向の認知度（女性の管理職登用）[単一選択]



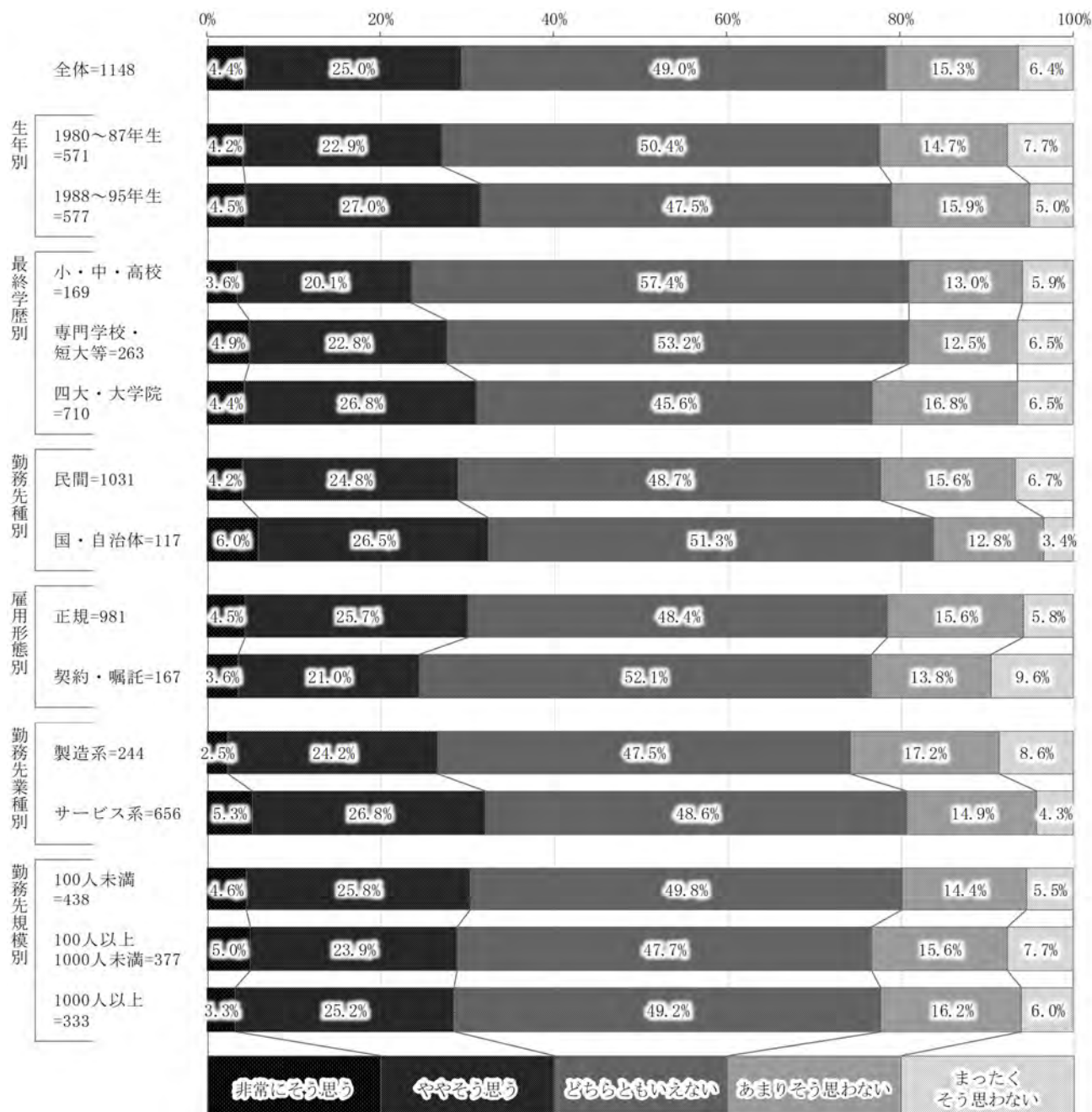


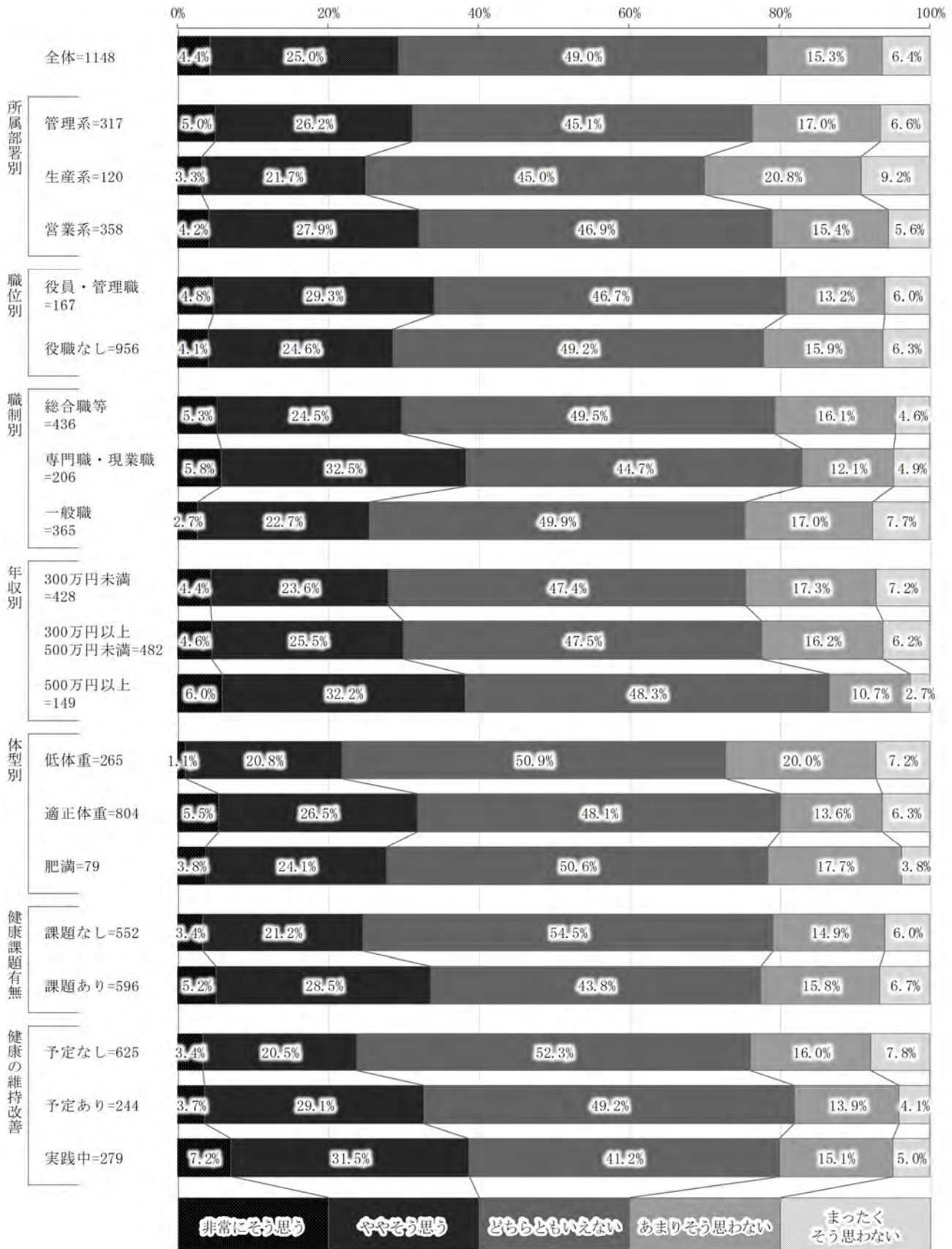


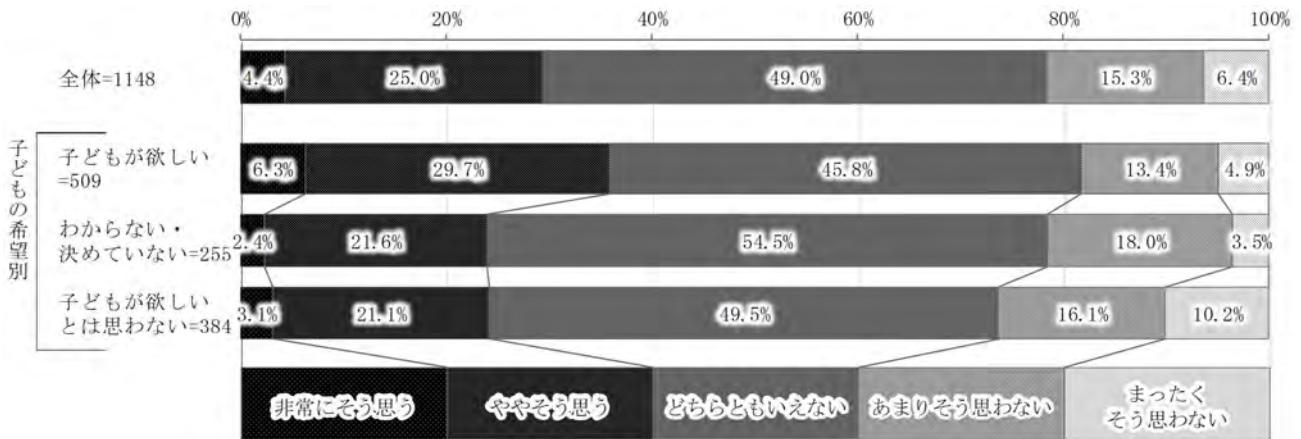
26.1.5. 女性活躍社会の動向の認知度（女性起業家の増加）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の女性起業家の増加について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が49.0%と最も多く、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は約3割に及び、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約2割に止まった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。

図表 26.1.5. 女性活躍社会の動向の認知度（女性起業家の増加）【単一選択】



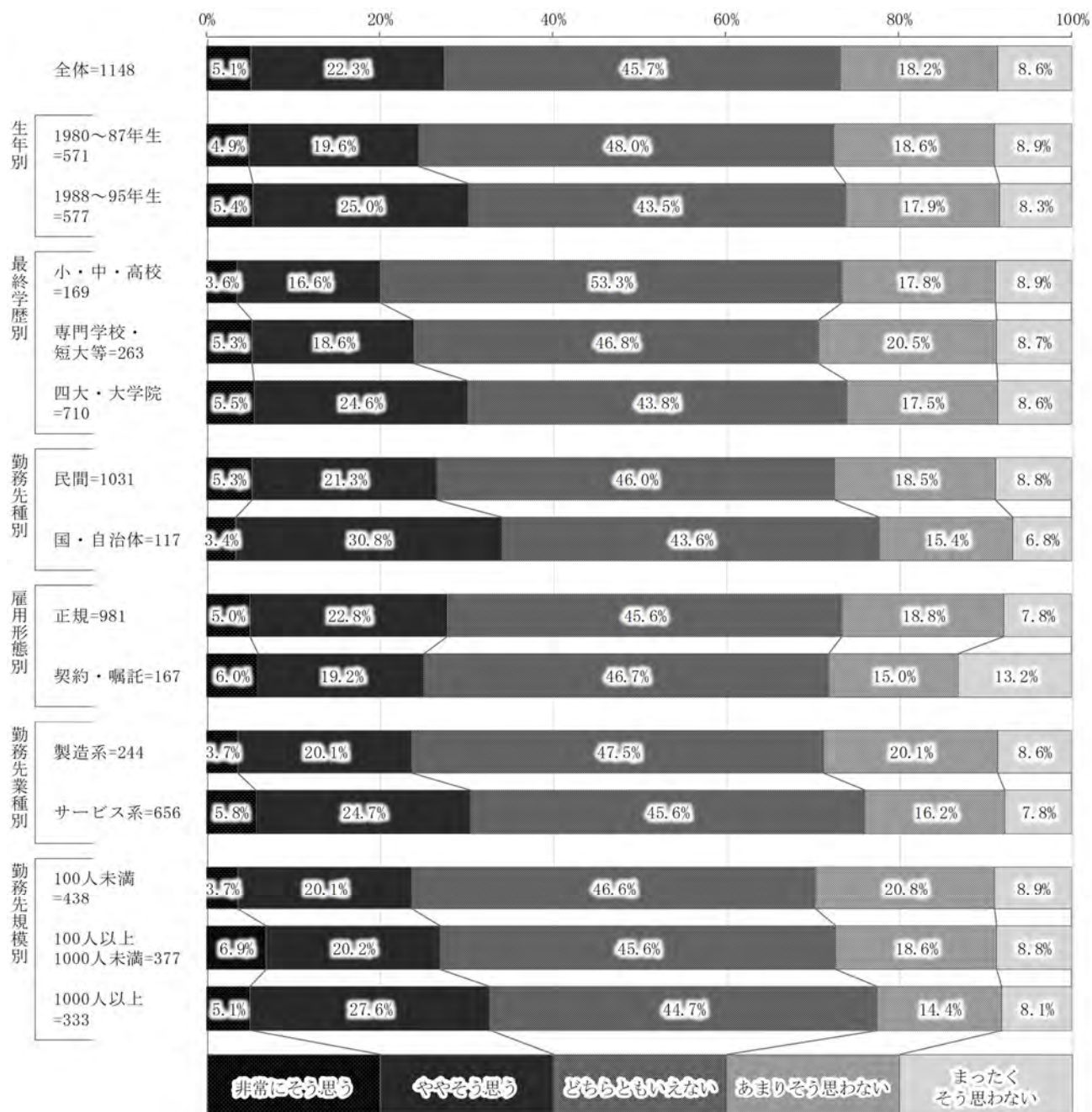


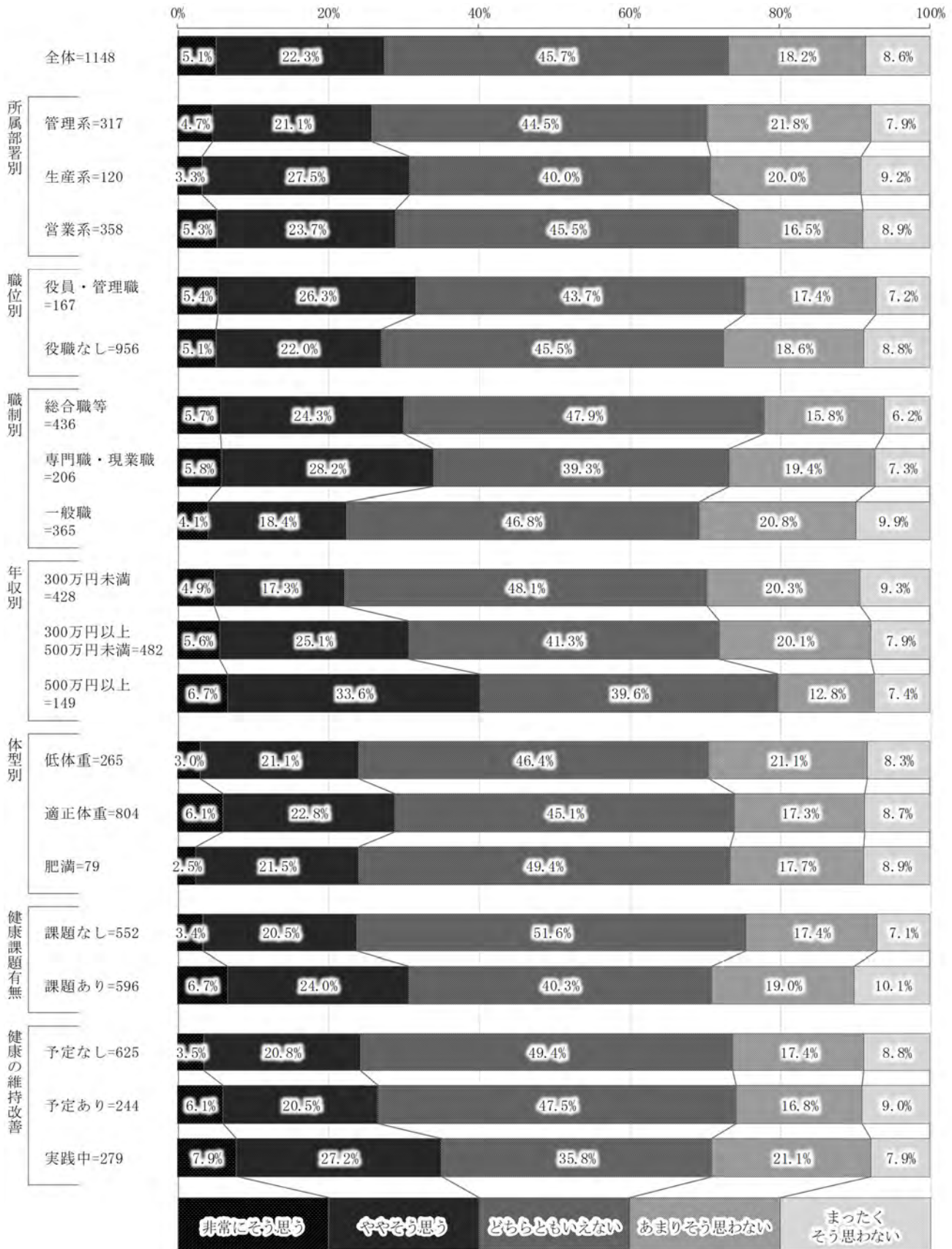


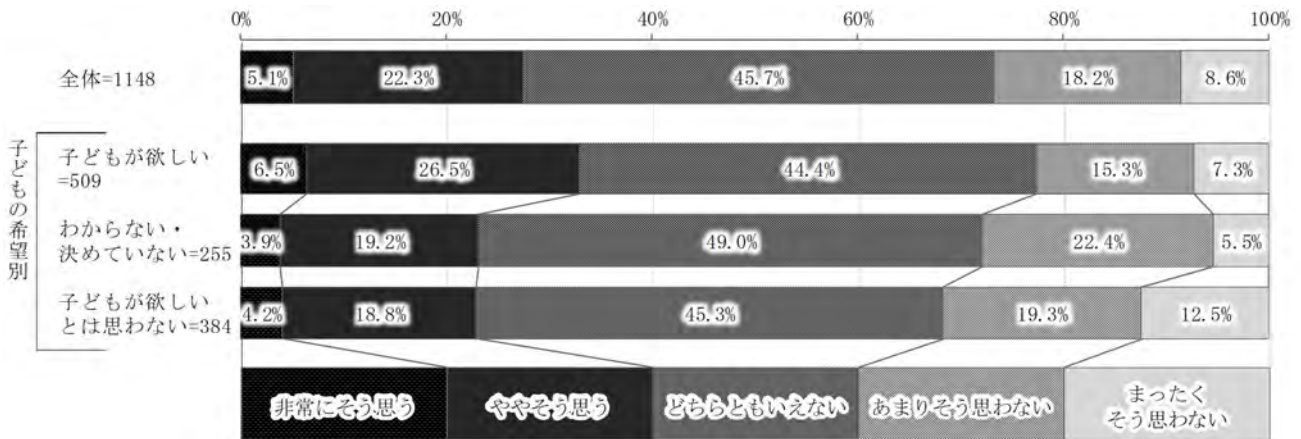
26.1.6. 女性活躍社会の動向の認知度（ハラスメントの減少）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年のハラスメントの減少について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が45.7%と最も多く、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計と「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計とも約3割だった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、年収別で500万円以上の回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が若干多い。

図表 26.1.6. 女性活躍社会の動向の認知度（ハラスメントの減少）【単一選択】



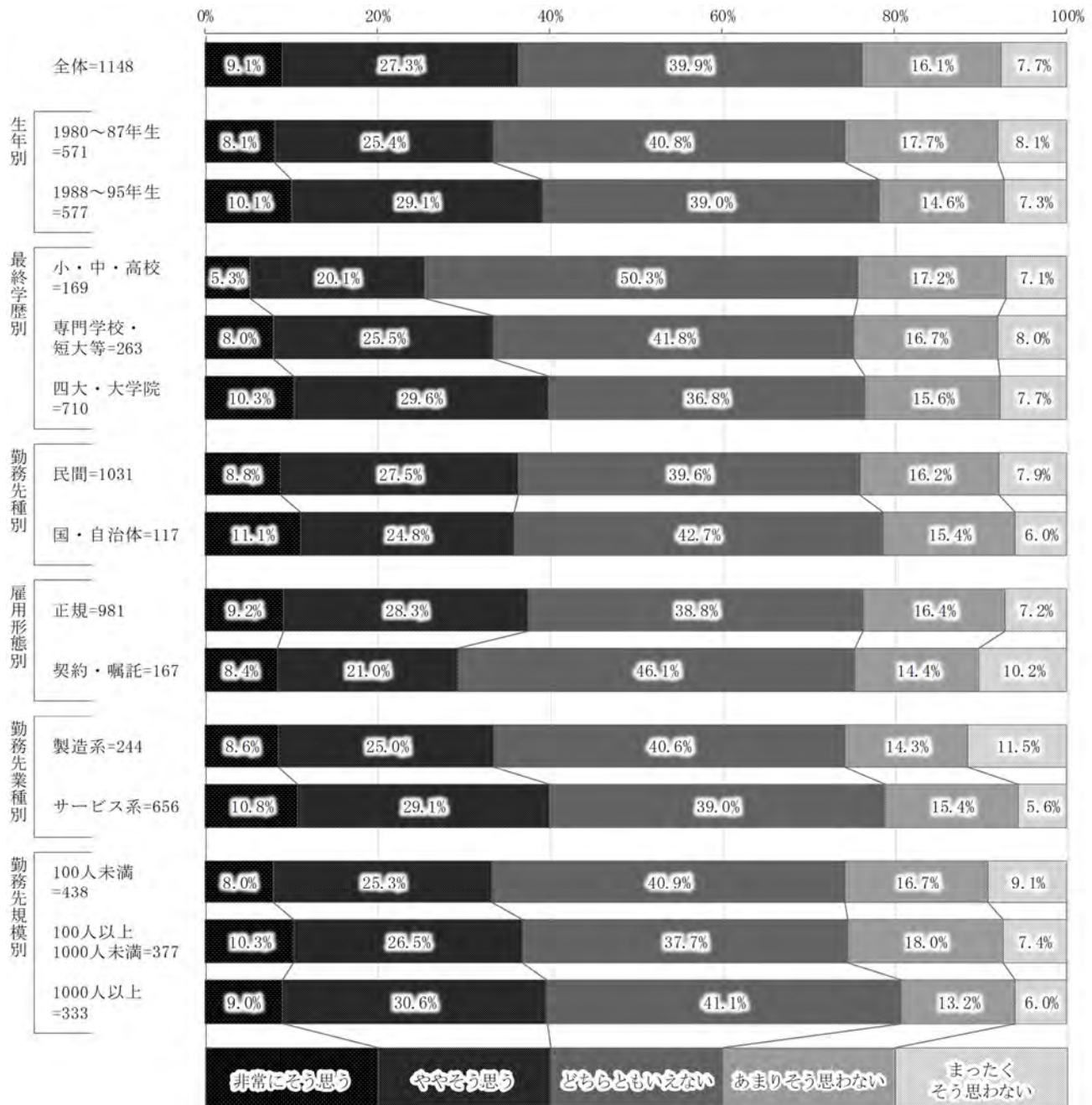


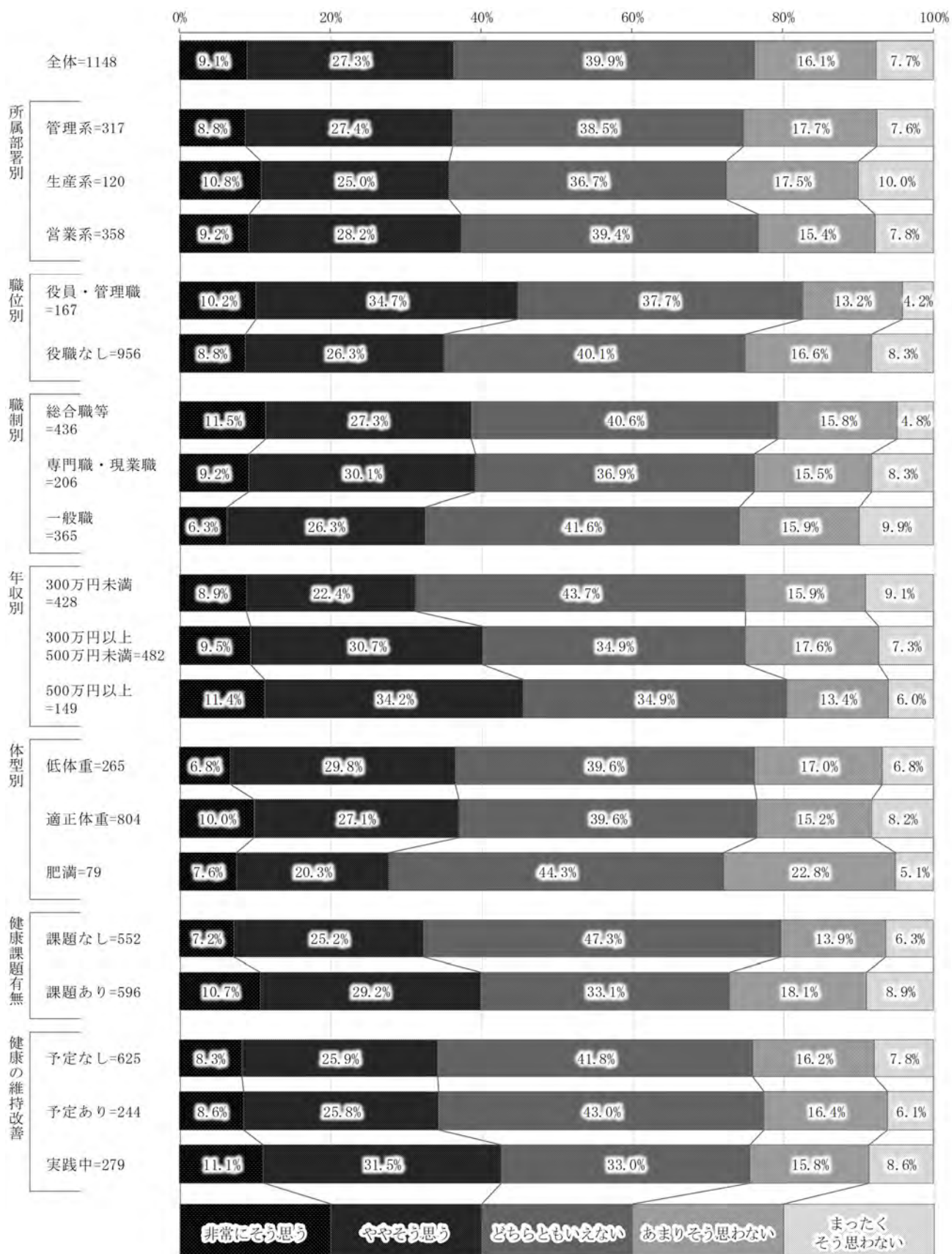


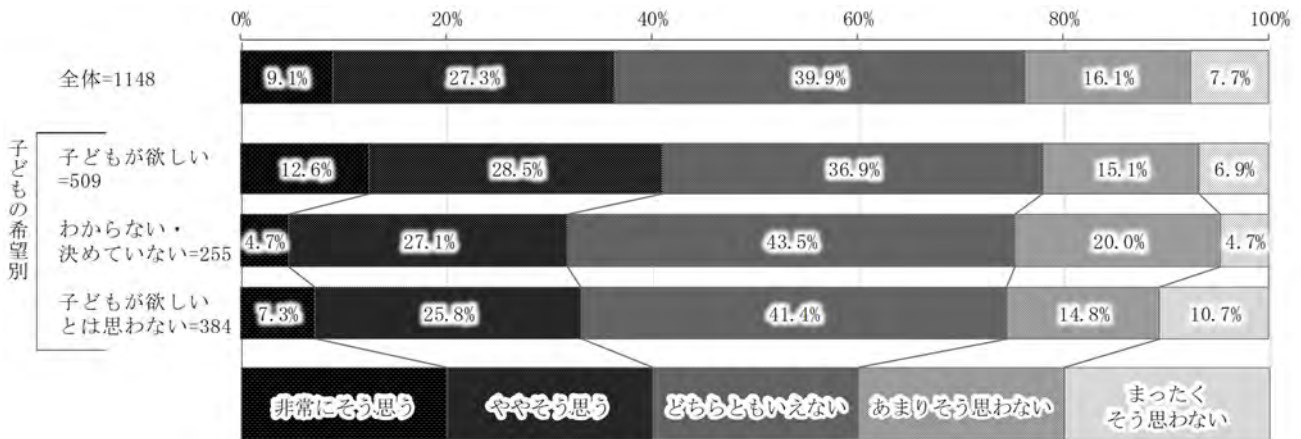
26.1.7. 女性活躍社会の動向の認知度（仕事と子育ての両立）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の仕事と子育ての両立について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が39.9%と最も多く、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は約4割に及び、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約2割に止まった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、年収別で500万円以上の回答者と300万円以上500万円未満の回答者、体型別で適正体重の回答者と低体重の回答者が若干多い。

図表 26.1.7. 女性活躍社会の動向の認知度（仕事と子育ての両立）【単一選択】



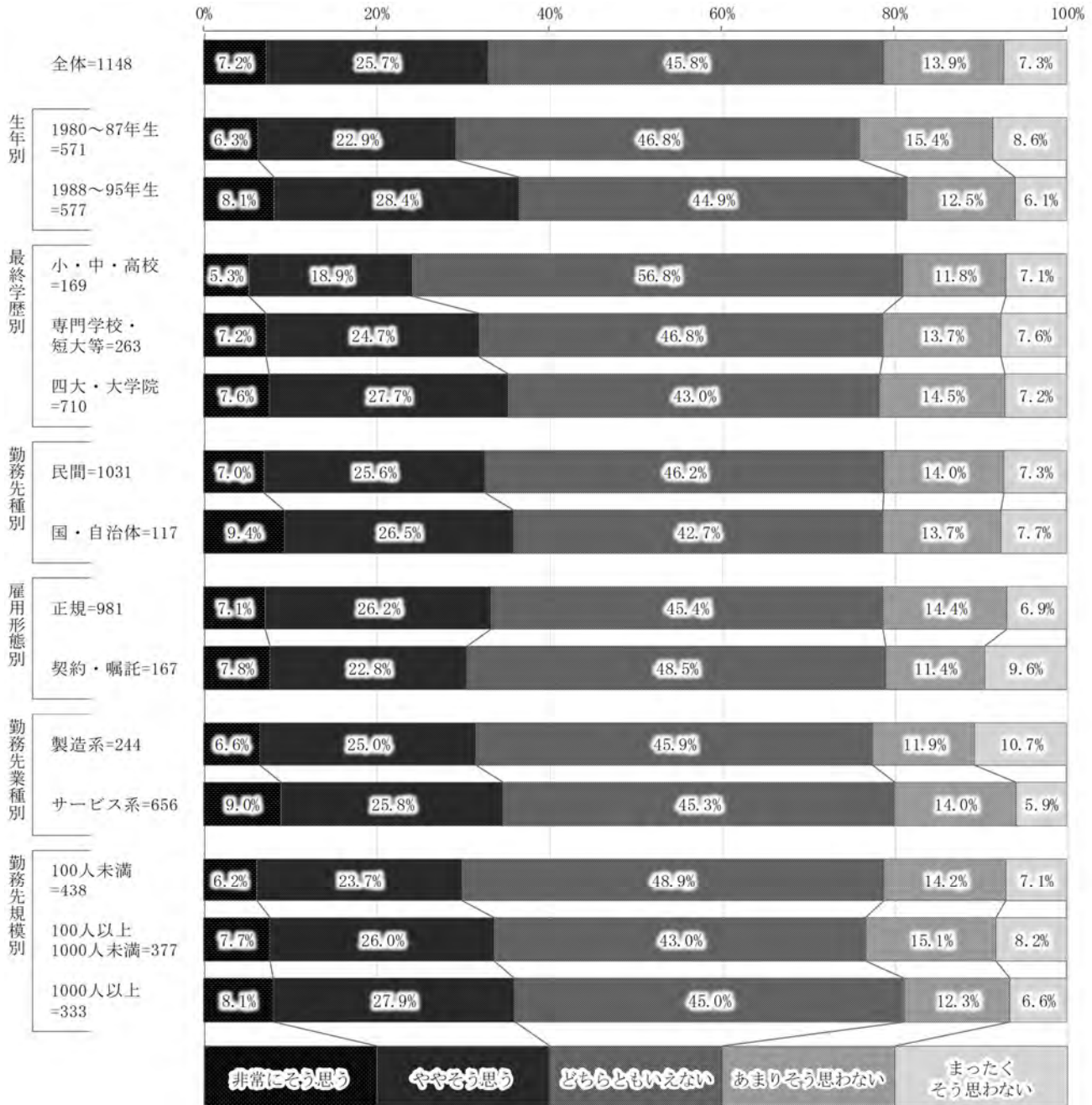


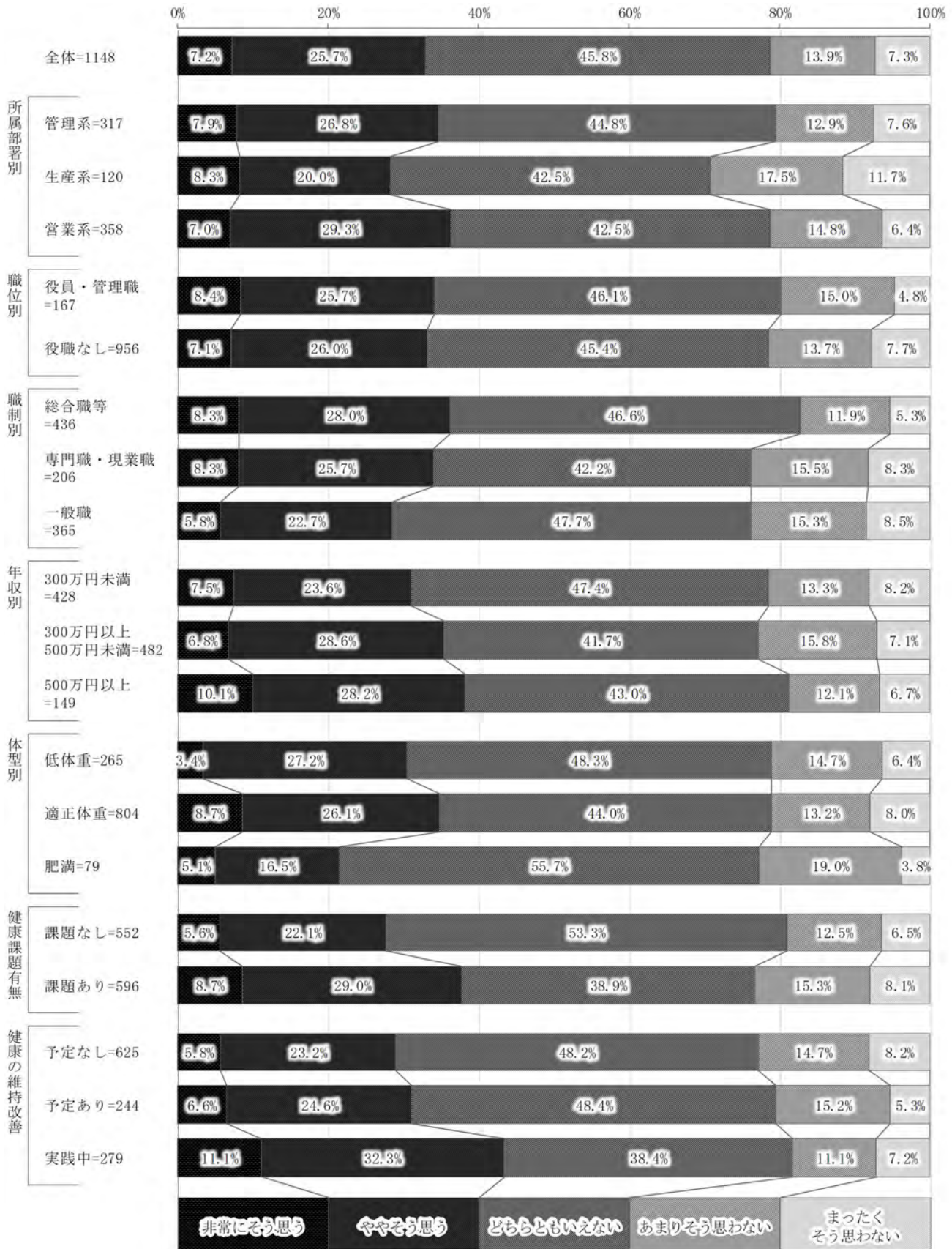


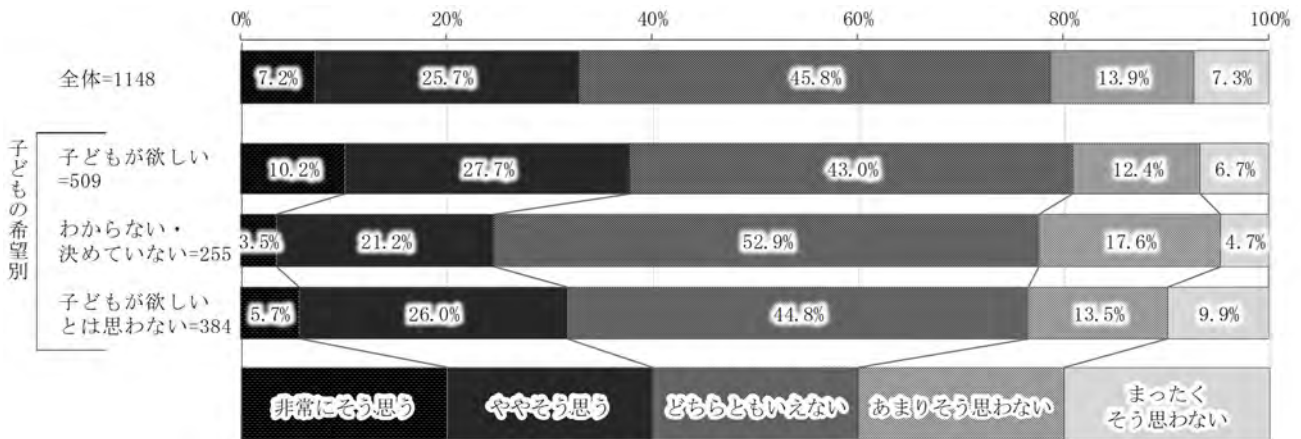
26.1.8. 女性活躍社会の動向の認知度（仕事と私生活の両立）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の仕事と私生活の両立について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が45.8%と最も多く、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は3割を超え、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約2割に止まった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で実践中の回答者が多い。

図表 26.1.8. 女性活躍社会の動向の認知度（仕事と私生活の両立）【単一選択】



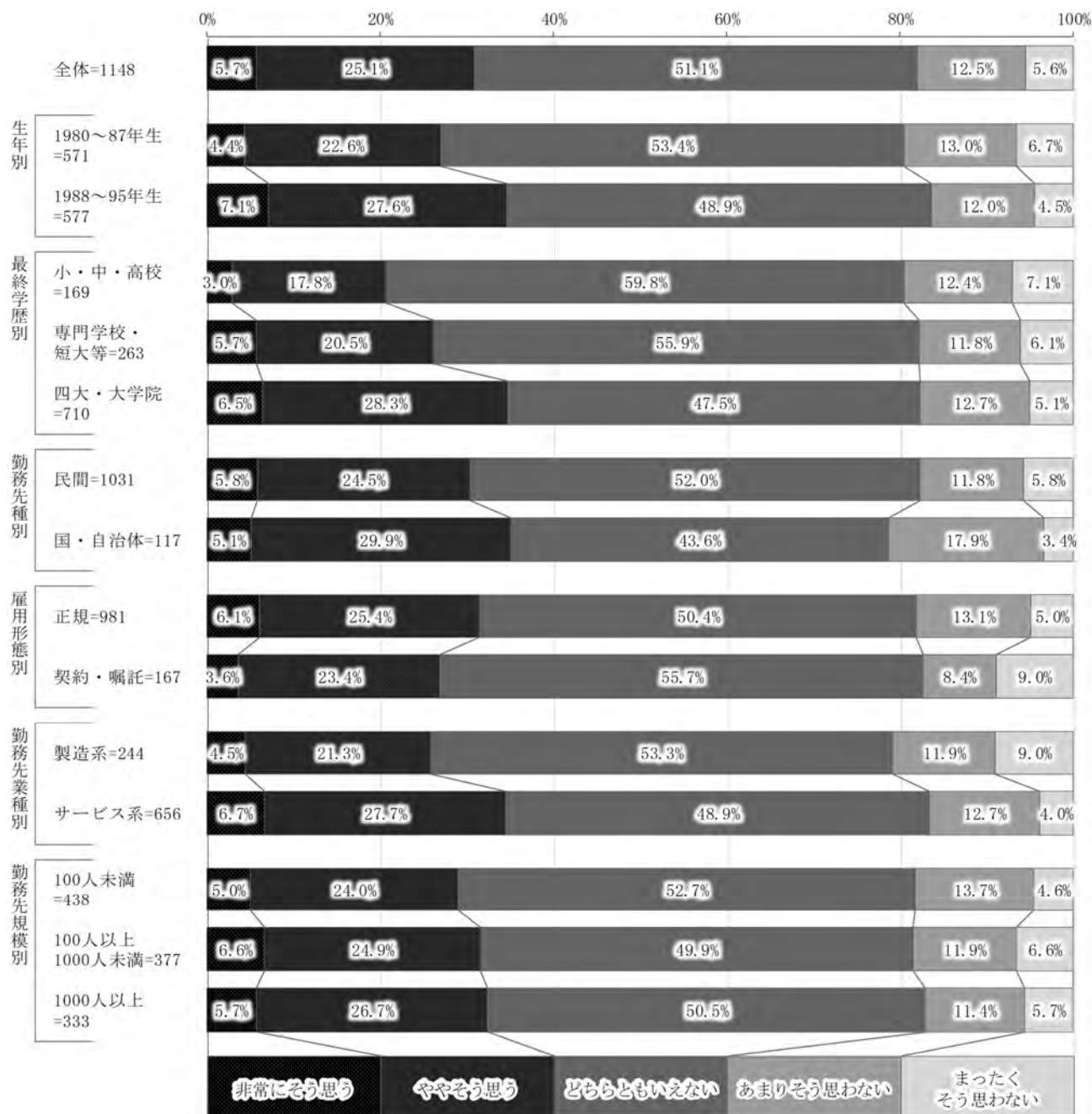


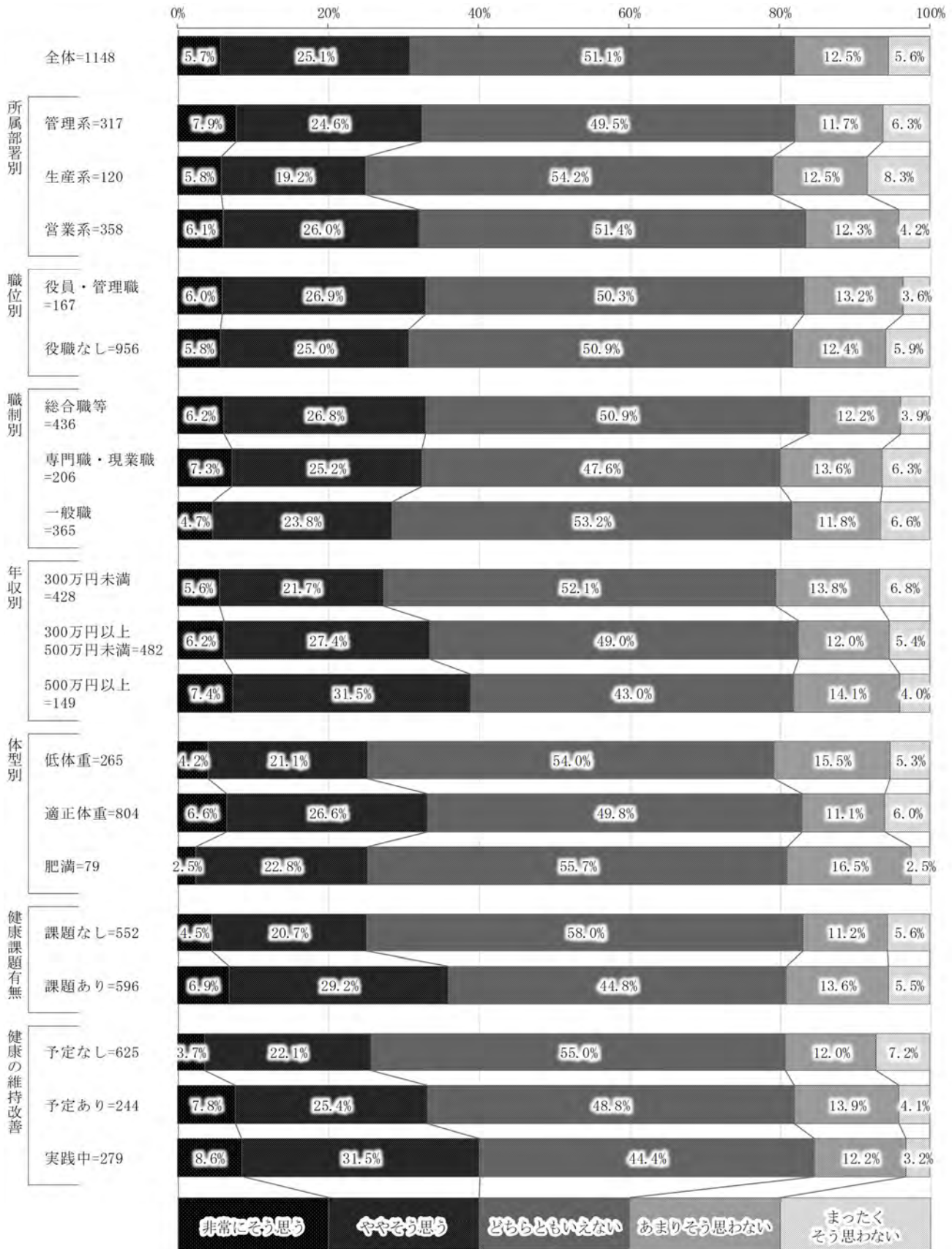


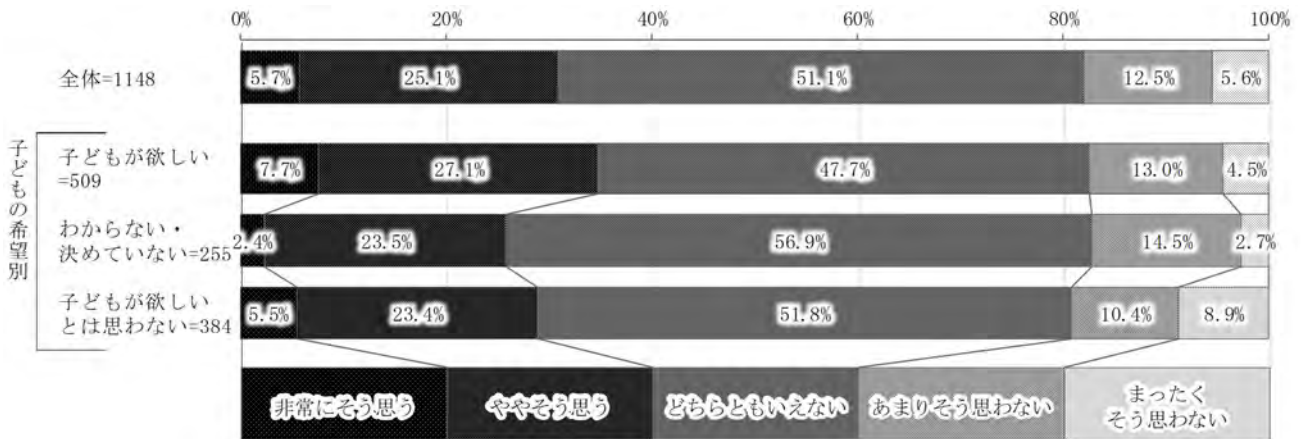
26.1.9. 女性活躍社会の動向の認知度（仕事と健康の両立）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の仕事と健康の両立について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が51.1%と最も多く、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は3割を超え、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は2割に満たなかった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、健康課題有無で課題ありの回答者が多い。

図表 26.1.9. 女性活躍社会の動向の認知度（仕事と健康の両立）【単一選択】



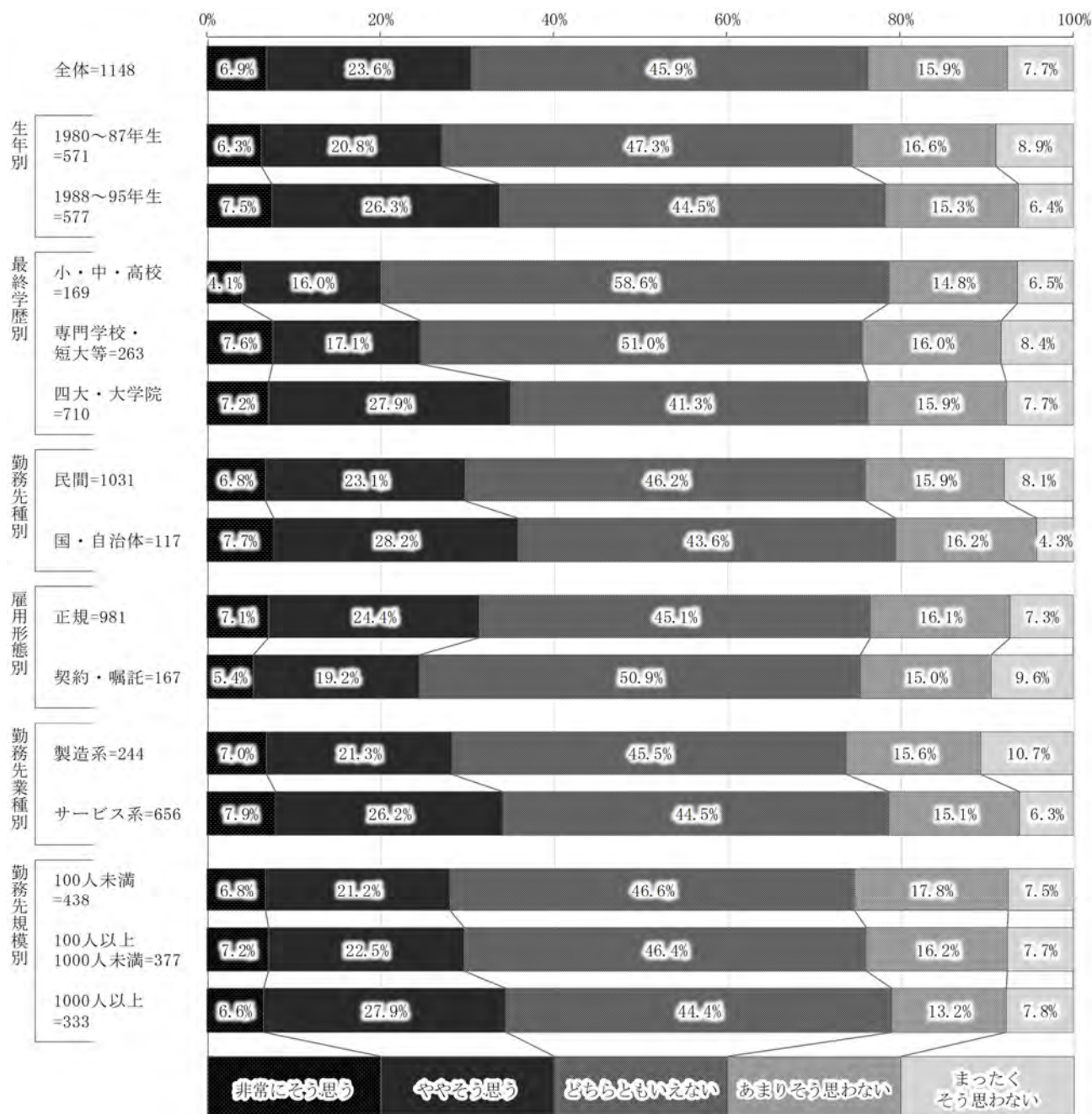


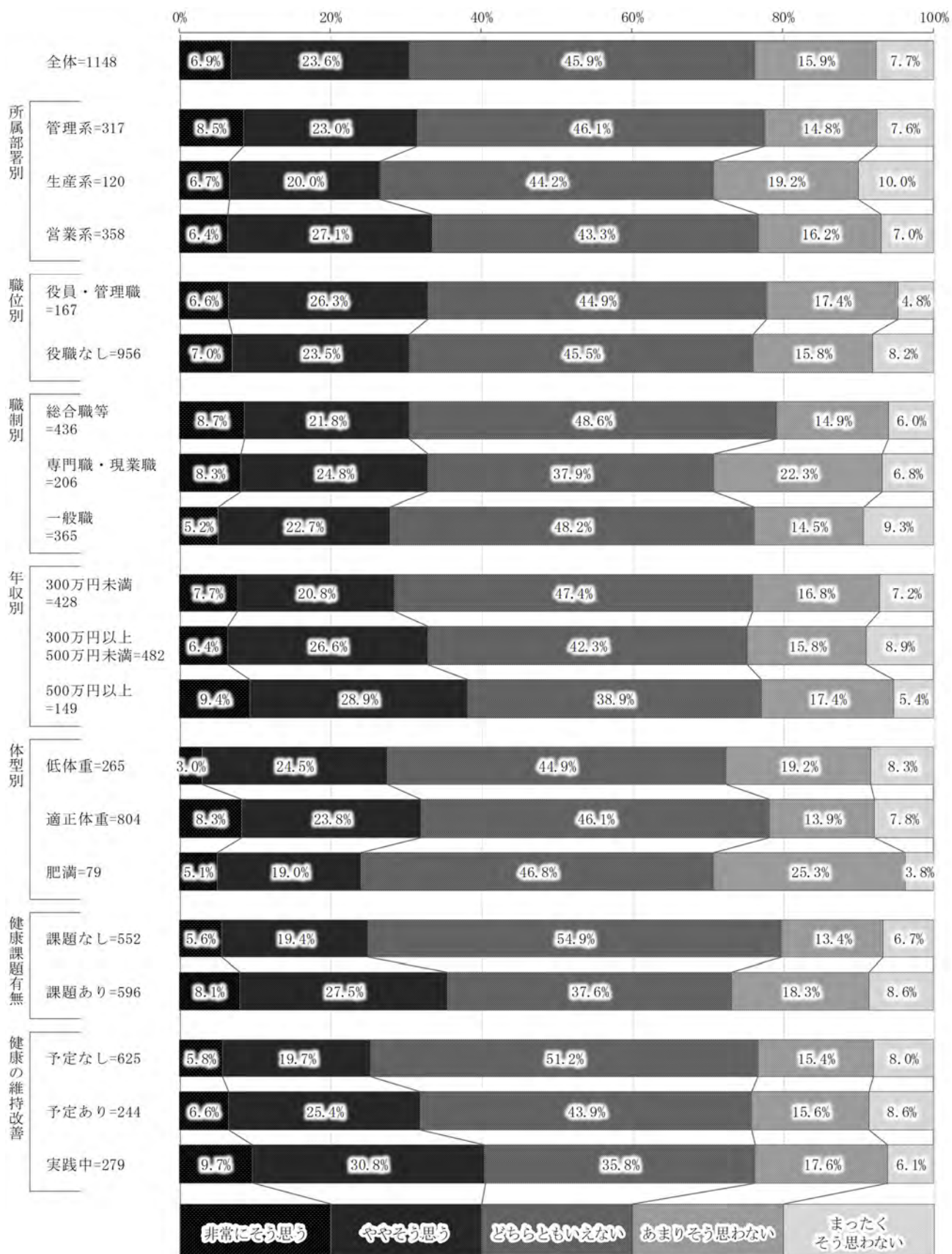


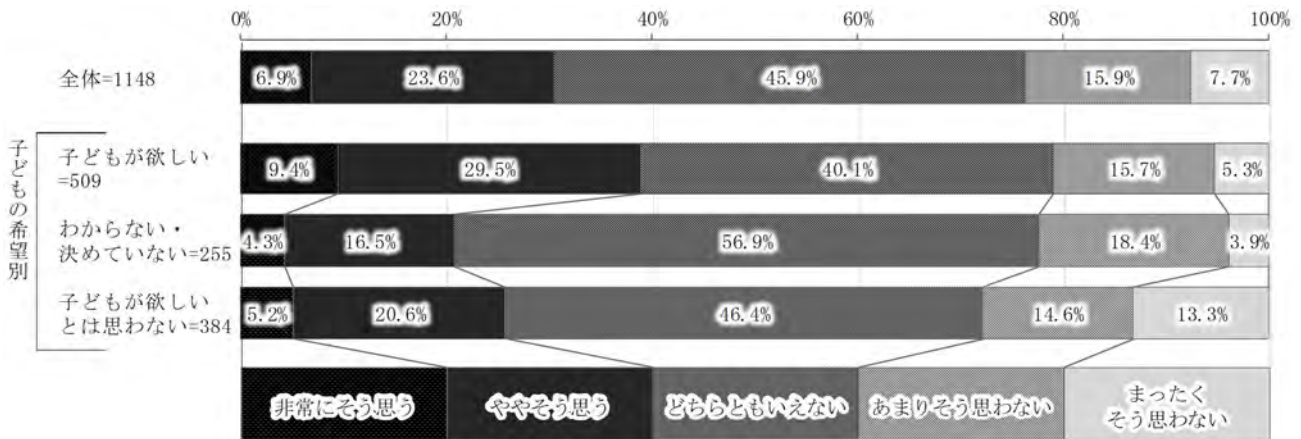
26.1.10. 女性活躍社会の動向の認知度（配偶者との家事・育児分担）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の配偶者との家事・育児分担について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が45.9%と最も多く、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は3割を超え、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約2割に止まった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、最終学歴別で四大・大学院の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者が多い。

図表 26.1.10. 女性活躍社会の動向の認知度（配偶者との家事・育児分担）【単一選択】



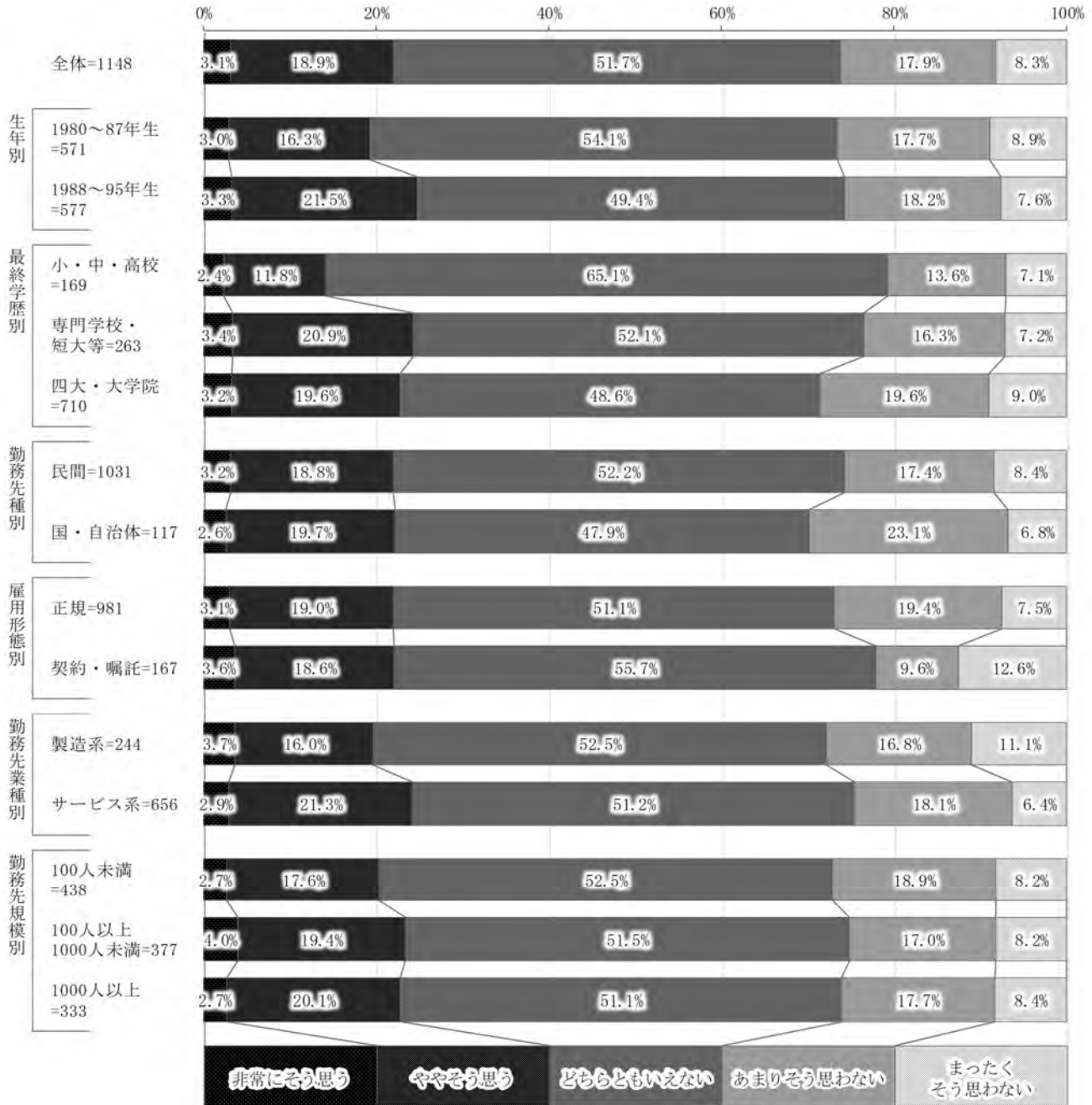


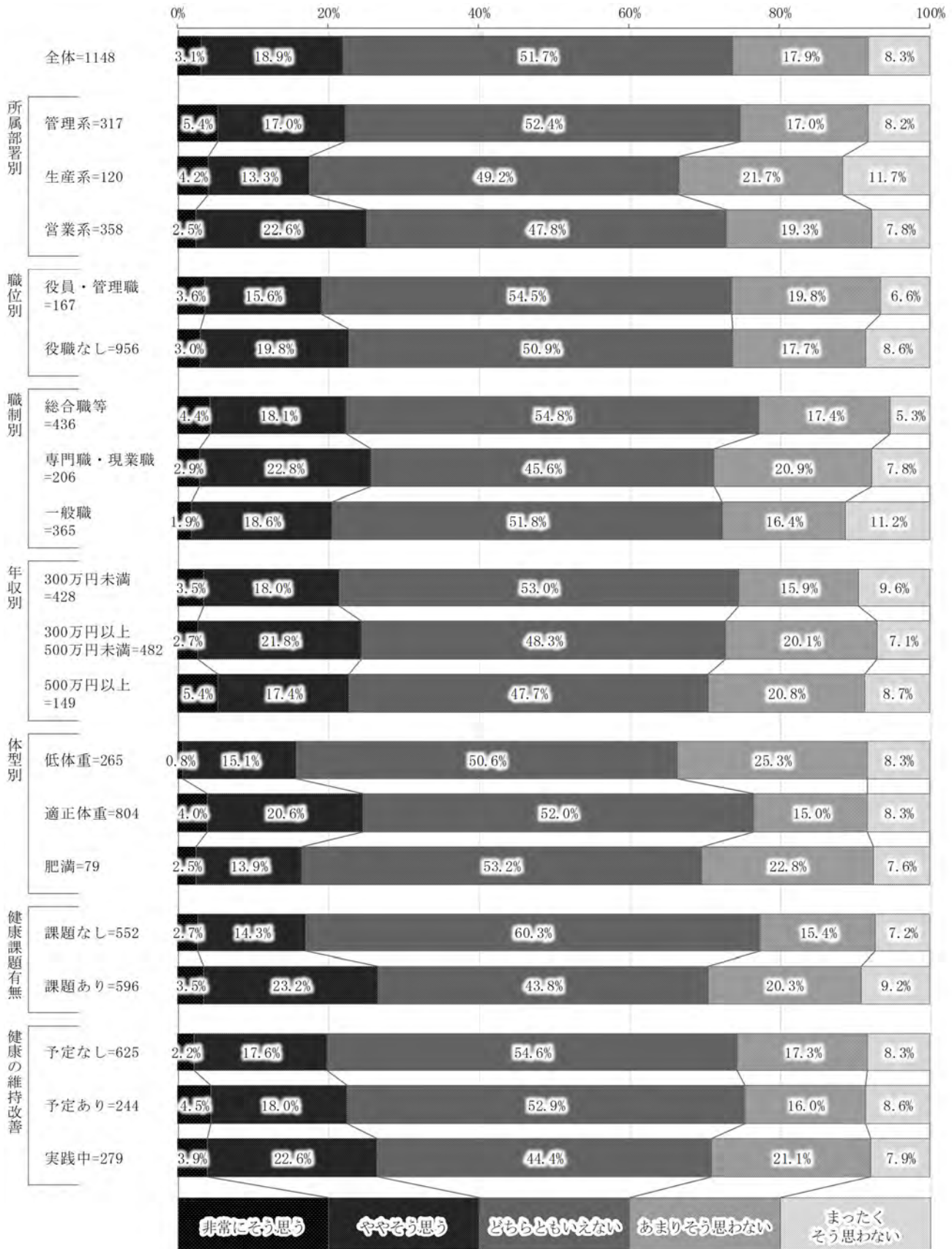


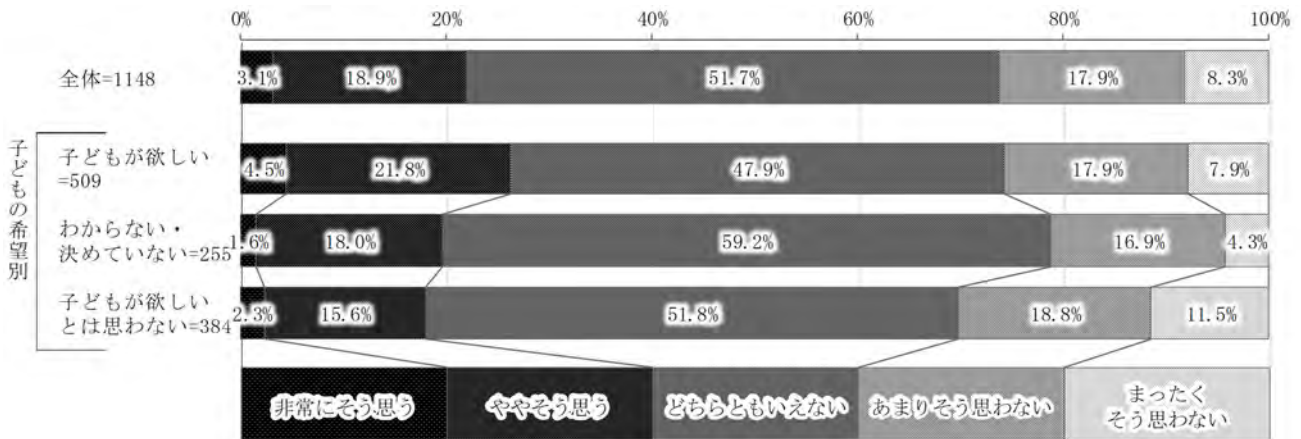
26.1.11. 女性活躍社会の動向の認知度（女性の政治分野の活躍）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の女性の政治分野の活躍について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が51.7%と最も多く、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は約2割に止まり、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約3割に及んだ。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、健康課題有無で課題ありの回答者が若干多い。

図表 26.1.11. 女性活躍社会の動向の認知度（女性の政治分野の活躍） [単一選択]



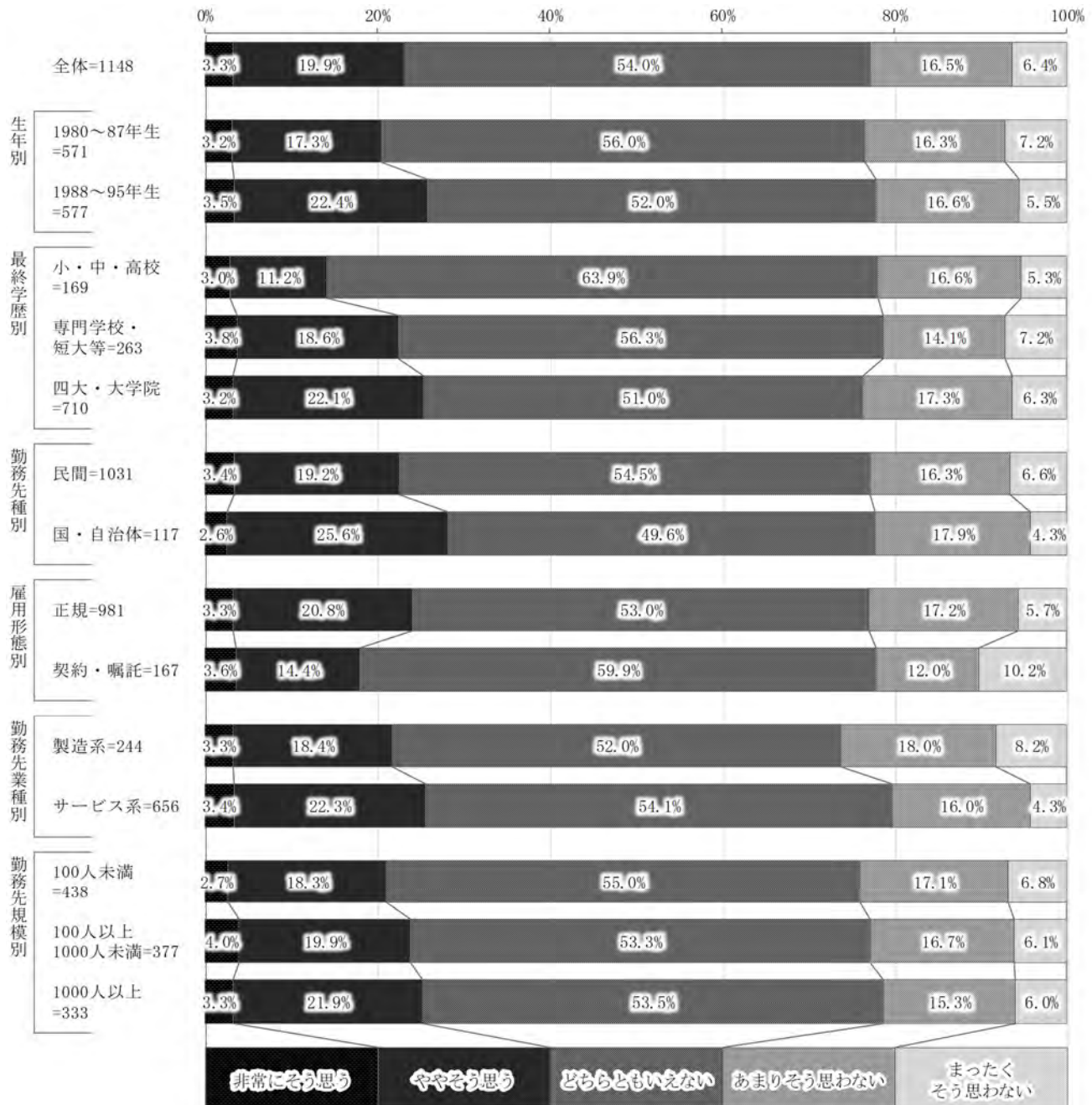


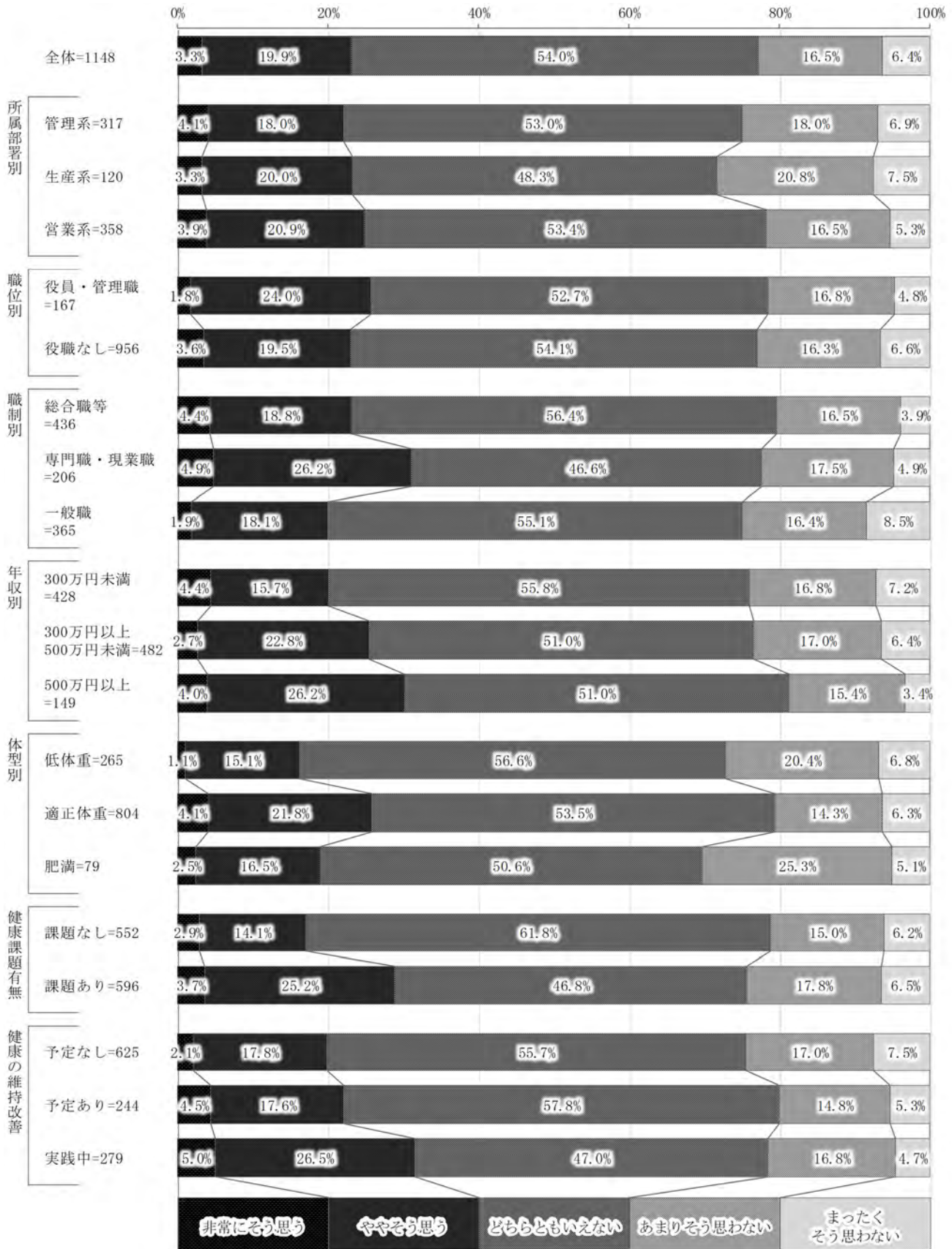


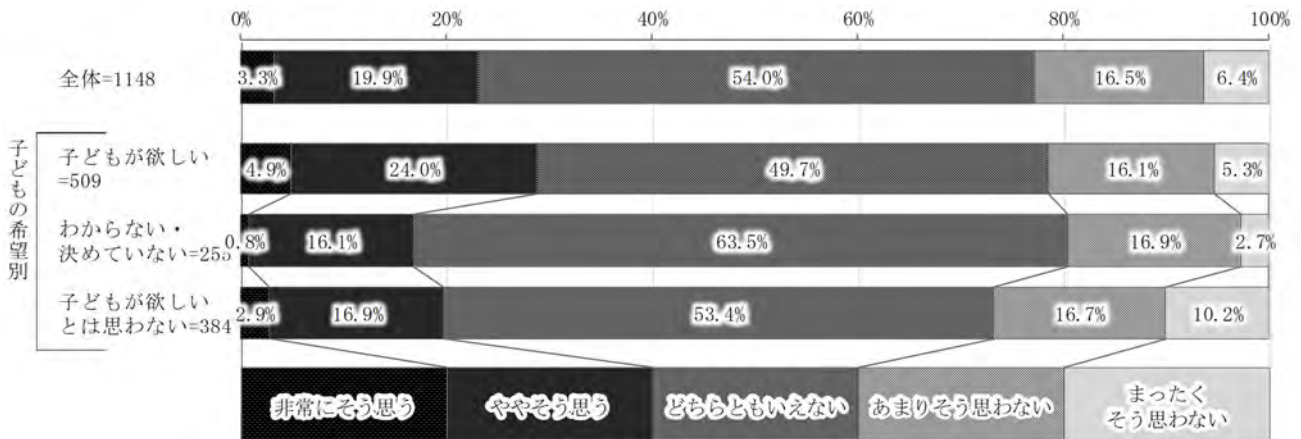
26.1.12. 女性活躍社会の動向の認知度（女性の学術・研究分野での活躍）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の女性の学術・研究分野での活躍について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が54.0%と最も多く、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計と「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計とも約2割だった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、健康課題有無で課題ありの回答者が多い。

図表 26.1.12. 女性活躍社会の動向の認知度（女性の学術・研究分野での活躍） [単一選択]



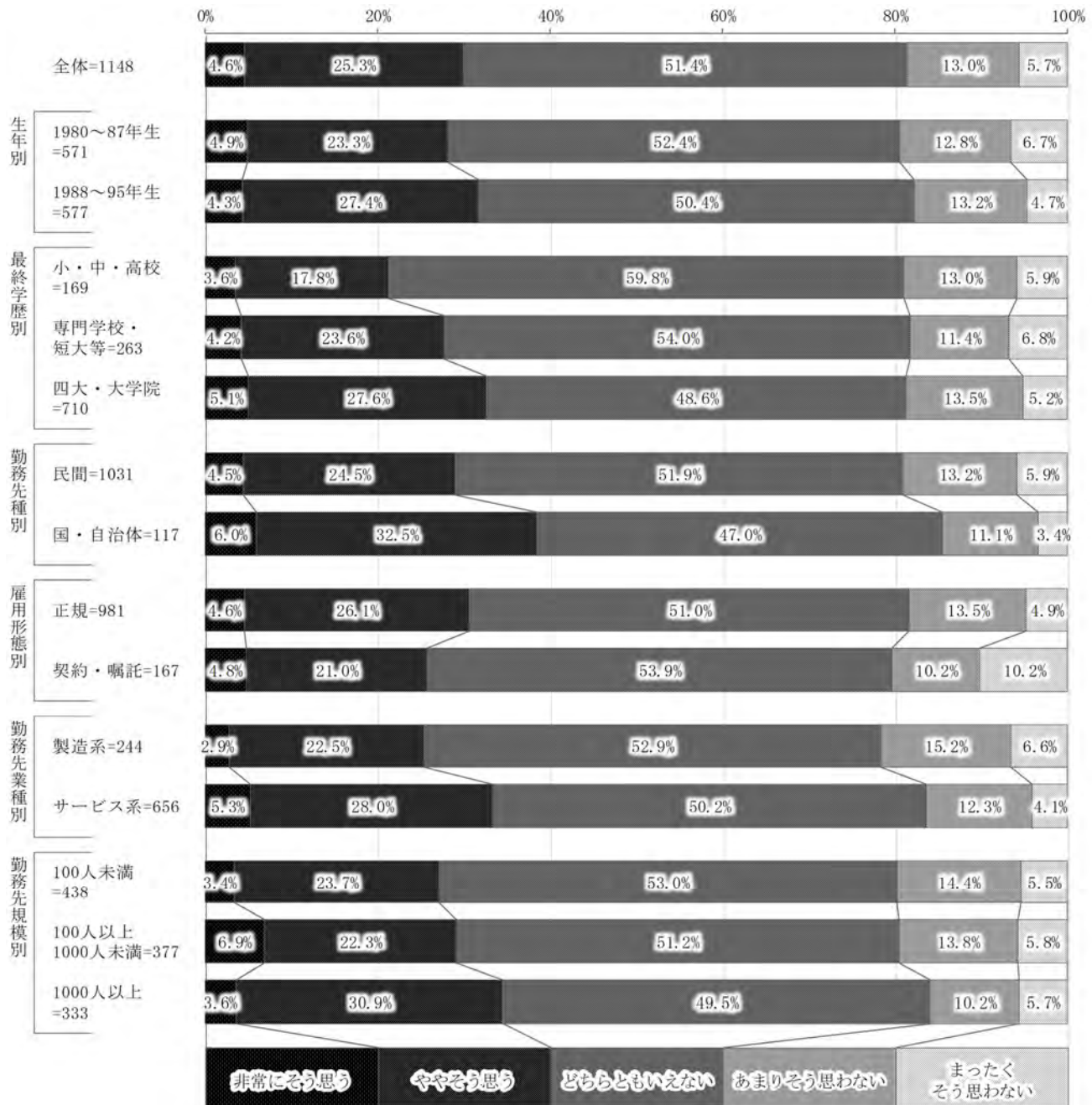


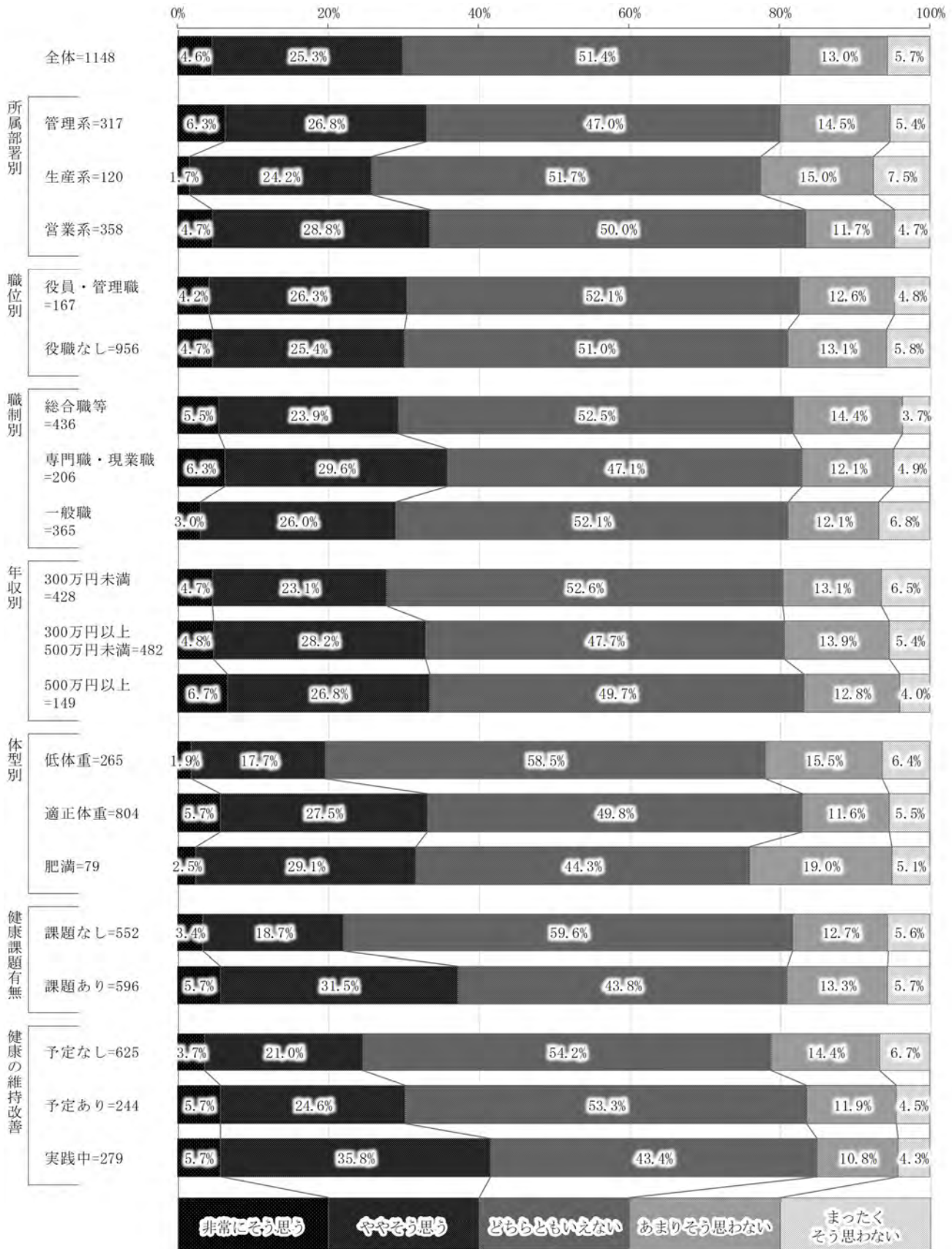


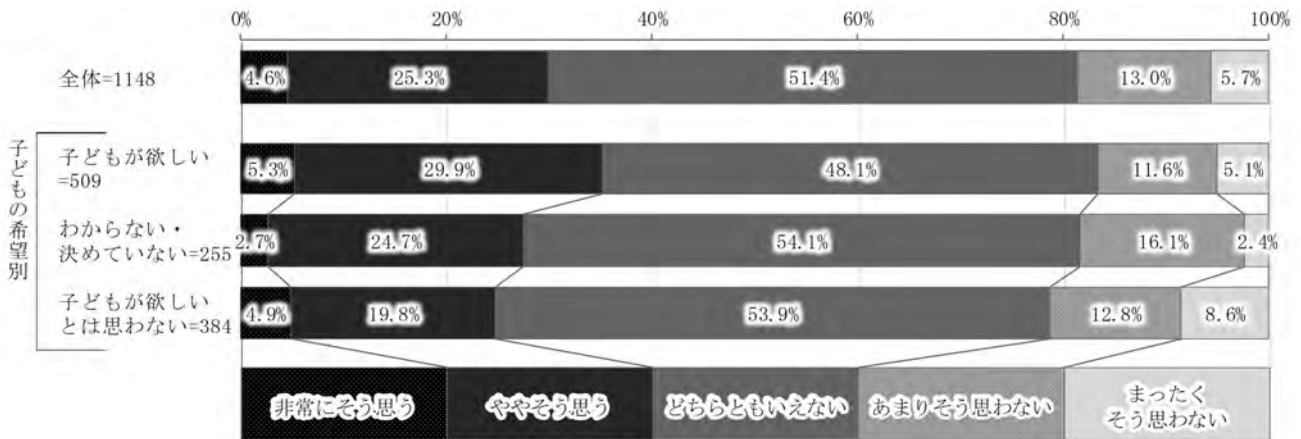
26.1.13. 女性活躍社会の動向の認知度（女性のメディアでの発言機会の増加）

- 女性が活躍しやすい社会に向けた、ここ数年の女性のメディアでの発言機会の増加について尋ねたところ、全体では「どちらともいえない」が51.4%と最も多く、「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は約3割に及び、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の計は約2割に止まった。
- 「非常にそう思う」「ややそう思う」の計は、体型別で適正体重の回答者と肥満の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者、健康の維持改善で実践中の回答者が多い。

図表 26.1.13. 女性活躍社会の動向の認知度（女性のメディアでの発言機会の増加）【単一選択】







27. 女性が活躍するために必要なこと（自由意見）

今後、女性が活躍していく上で、必要だと感じていることを尋ねたところ、以下の回答を得た。

女性の意識（一部抜粋）同様回答 58 件

- 女性も男性と同じように働きたい、稼ぎたいという意志を持つこと。会社が出産や子育ての理解を持ち育休などの制度をしっかりと持つこと。
- 自分の意見を持ち、発信する事。

健康（一部抜粋）同様回答 13 件

- 健康な体と体力。

女性の地位向上（管理職、議員の増加等）（一部抜粋）同様回答 40 件

- 女性にも昇級できる機会をふやすこと。
- 政治や国としての活動で女性を選出して活躍することで、国民にも伝わり、民間でも女性が活躍していけると思う。

女性が働きやすい職場（一部抜粋）同様回答 31 件

- 女性が働きやすい職場、そういった制度や社会システム。メディアでは子供がいる女性の働き方が注目されやすいが、現実的にそれを支えている独身女性、既婚で子供のいない女性こそ働きやすい（子持ちのフォローをしても不満を持ちにくい）職場作りが必要だと思う。

家庭との両立のしやすさ（一部抜粋）同様回答 35 件

- 妊娠、出産、育児と仕事の両立をもっと後押しする。

出産・子育てしやすい職場環境（一部抜粋）同様回答 71 件

- 子育てと仕事を両立するための環境。送り迎えなど柔軟に対応できるような仕組み。
- 出産後に復帰しやすい環境を作る。そのためには配偶者と互いの職場の協力が不可欠。
- 妊娠や子育てをきっかけにキャリアを諦めることのないような仕組み。

産休・育休・生理休暇の充実（一部抜粋）同様回答 34 件

- 産休育休制度が未熟である。産休育休期間は短いし減額も生活への負担が大きい。

子育て支援（アウトソーシング含む）（一部抜粋）同様回答 36 件

- 今の日本は子供を産んでも家事も育児も仕事も全部しろという雰囲気、でも保育所はあいてない、家事代行サービス、ベビーシッターなどは高すぎる状況でまず社会進出というなら子育て環境を整えるべきだと思う。何もかも女性の負担が大きすぎる。

賃金・雇用の向上（一部抜粋）同様回答 40 件

- 赤ちゃん、幼児がいることで就業時間と出勤日が減ることに対して給料を下げないで欲しい。時短社員でもせめて新卒の初任給くらいの額をもらいたい。
- 賃金面の平等と、結婚、出産、家事、育児等の役割分担でも男女平等であること。

周囲の理解・協力（一部抜粋）同様回答 94 件

- 会社や家族の理解やサポート。
- 社会全体の理解力のアップ。
- 上司の理解 会社の理解。
- 社会全体が考えを変えないといけない。国のトップはとくに。

男性の意識改革、家事・育児分担（一部抜粋）同様回答 109 件

- 育児に関する男性の意識の改革（自分の子どもを育てるのに他人事だと思っている、主体的に関わろうとする人が少ない）
- 「有害な男性らしさ」を持たないように男子を教育していくこと。
- 家事育児は女性と決めつけないところ、自然と男女でできるようになる社会が必要。
- 女性が女性に関わる問題について考える・行動するだけでなく、男性が自分ごとの問題として捉えていくこと。
- 男性の理解、会社での男女平等性、婚姻による就職の可否をなくす。

女性の身体的特徴への理解（一部抜粋）同様回答 29 件

- 子供の頃からしっかりした性や健康に関する教育を学校などで実施し理解につなげる。職場や家庭での話し合いをするきっかけをつくる 女性の中でも症状の重さは違うのでわかりあえる環境をつくる。

男女平等、個人としての尊重（一部抜粋）同様回答 181 件

- 男女問わず能力のある人が活躍すべきだと思う。
- 男性が、女性が、と区別しない環境。男性だろうが女性だろうが、必要な手助けを気兼ねなく求めることのできる風潮。
- まだ男性に下に見られがちな風習があるので、仕事を頑張っているから仕事以外の場面でも偉いとゆう感覚を持つ人が減るといいと思います。
- 高齢の男性が女性軽視をやめる事。若い人は女性軽視発言はほとんどないですが、高齢の方の不謹慎な発言、態度がメディアを騒がせることがあるからです。自分の会社の社長もそんな雰囲気を持っています。
- 男女差別がなくなること。女性を見た目で差別することがなくなること。
- 男性女性を分けた考え方そのものが差別だと感じる。いちいち明言することが問題。結局男尊女卑の思考の男性は多くて、女性性を売り物にしたアイドルが売れてしまっているかぎり終わりはないと思う。

民間・行政のサポート・法改正（一部抜粋）同様回答 59 件

- 国と企業が協力して制度整備、利用を促進すること。
- 子育てを含む家事全般で、何か支援があること。
- 不妊治療への理解。

その他ユニークな回答（一部抜粋）

- 「女性の権利」や「女性の活躍」を意識過ぎない事。
- 活躍したいと思っている人を活躍させること。（活躍したいと思っていない人に強要してほしくない。）
- 一部の女性が「女」を強調して不必要に女性の立場を強めようとしているが、無駄な行動をして日本を貶める行為をしなければいいと思う。
- 子供を産み、育てる以上、男性と同じようには働けないということをもっと世の中が理解したうえで、男性の3分の1程度で働くのが普通という社会であること。
- 自分は女性だが、社会で活躍したいとは思っていない。そういう人間もいること、活躍したい人間もいること、個人の能力ややる気ごとに対応すべき問題だと思う。
- 主婦を望む女子大生が3割いることを忘れないで欲しい。

- 天皇制度で女性も可能になること。
- 不平不満を言うだけで終わらずに具体的な改善をやるまで話し合う必要がある。

28. 地方部で働く女性増加に必要なこと（自由意見）

現在、多くの女性が都市部で働くことを求めていることが、日本社会の課題のひとつとなっているが、地方部で働く女性を増やすために必要なことを尋ねたところ、以下の回答を得た。

利便性向上（インフラ・交通網整備）（一部抜粋）同様回答 51 件

- 沢山の商業施設を作ったり出会いの場を沢山設ける。
- 交通網の発展。

地方の活性化・都市部との格差解消（一部抜粋）同様回答 35 件

- 地方で働くことにメリットを感じられるような改革 地方で働いても都心で働くときと同じような生活・給料が保障される。

地方のアピール（一部抜粋）同様回答 18 件

- その地方でしか出来ない仕事、産業をアピールすること。

支援制度（一部抜粋）同様回答 41 件

- 自治体独自の税金還元など、その地域で働くことで税金の優遇などがあるとよいと思う。
- 住居や雇用の確保。

福利厚生 の 充実（一部抜粋）同様回答 18 件

- 女性特有の病気を受診できる医療機関の発達と、会社の連携。

職場環境の改善（キャリアアップ、賃金アップ）（一部抜粋）同様回答 203 件

- 都市部で働くよりも地方で働くほうがメリットがあると思わせること。賃金や福利厚生、子供の養育環境など。
- 都市部と同じ賃金設定に近づけること。都市部よりも子育て支援などの補助をしっかりと出し魅力をアピールすること。
- 給料をあげる。医療体制の充実。
- 地方部で独身者でも満足に給与が得られながら働くことのできる場所・会社。
- 賃金 UP と保育園などの施設の充実。コロナ禍に関わらずリモートワーク OK、フレックス OK の自由な働き方。
- 企業での女性社員の起用、昇格等の充実。
- 独身でも子持ちでも働きやすい雰囲気が必要。

出産・育児支援（一部抜粋）同様回答 101 件

- 子育てしやすい環境が都市部並みに地方にも配置されること。
- 託児所や学童保育、小児科の充実 リモートワークしやすい環境と体制。
- 子供を持つ女性に対する上司の理解 有給の取りやすさ。
- 地方部で育児・家庭のサポートが充実していること。雇用機会が十分にあることのアピール。

柔軟な働き方（勤務形態・リモートワーク・ワークライフバランス）（一部抜粋）同様回答 78 件

- 多様な働き方を企業側が認めること。
- フレックスなどそれぞれが働きやすい時間帯で働ける環境整備。
- DX の推進により、場所を問わず働けるようにすること。
- 仕事とプライベートを両立しやすい環境。

企業誘致・雇用確保（一部抜粋）同様回答 98 件

- 正規雇用と給与を増やし、雇用と収入を安定させる。昇進や待遇について同一労働の男女に差をつけない。古いジェンダー観の経営をやめる。
- 地方部での女性職の増加（数がそもそも少ない）、ハラスメントなどの対応体制強化、給与面の充実、家族と暮らさなくても生きていける制度。
- 地方での職業選択を増やす。企業が地方での採用を増やし、都市部と変わらない賃金になる。
- 女性といっても「独身女性」「既婚で子供のいない女性」「既婚で子供がいる女性」では働き方、求めるもの、必要なものが全く違うので、それぞれへのアプローチが必要だと思う。特に家庭を持つ女性では自分の一存では地方部には行けないし、「仕事より家庭優先」という人にとっては「地方で働く」ということに魅力を感じにくそう。子育てや家族にとってメリットがあるなら地方に引っ越す人もいるかもしれないが、イコール「地方で働きたい」ということではないので、地方で働く女性が増えたりはしないと思う（引っ越しても専業主婦とか）。独身女性の立場からすると、地方は仕事が少ない（あっても工場などで、女性が好んで就きたい職業ではないと思う）。仕事がないのは死活問題になるので、「都市部の仕事をリモートなどで地方でもできる。なおかつプライベートは地方の方が充実している」「地方ならではの仕事がたくさんある」という状況であれば増えるかもしれない。

男女平等・ジェンダーロール解消・意識改革（一部抜粋）同様回答 88 件

- 地方ほど、男女不平等や家事・介護を女性に求める意識が強い。仕事自体が少ないので、より女性が不利な就職を強いられる。
- 仕事に一般職やアシスタントのポジションだけに女性をおかない、地方に多い制服を着用させない、飲み会で手伝い係にさせない。
- 学力や常識、広い視野で物事を捉える力。女性の役割というより、1人の人間としてどうキャリアを重ねたいか。学校教育のみならず、地域としてのありかた(女性＝結婚退職)のような地域はまだ多い。
- 婚姻の必要性を問わないこと。

男性の理解・協力（一部抜粋）同様回答 15 件

- 男性も家で過ごす時間を増やし、家事・育児を平等に行う事が出来れば、仕事面でも男女が平等になると思います。

家庭・周囲の理解・協力・受容（一部抜粋）同様回答 29 件

- 会社や家族の理解とサポート。
- 地元の人間の排他的な雰囲気など人間関係の煩わしさの解消。肉体労働以外の雇用を増やすこと。

環境改善（一部抜粋）同様回答 23 件

- 家族で住みやすい環境整備。

その他ユニークな回答（一部抜粋）

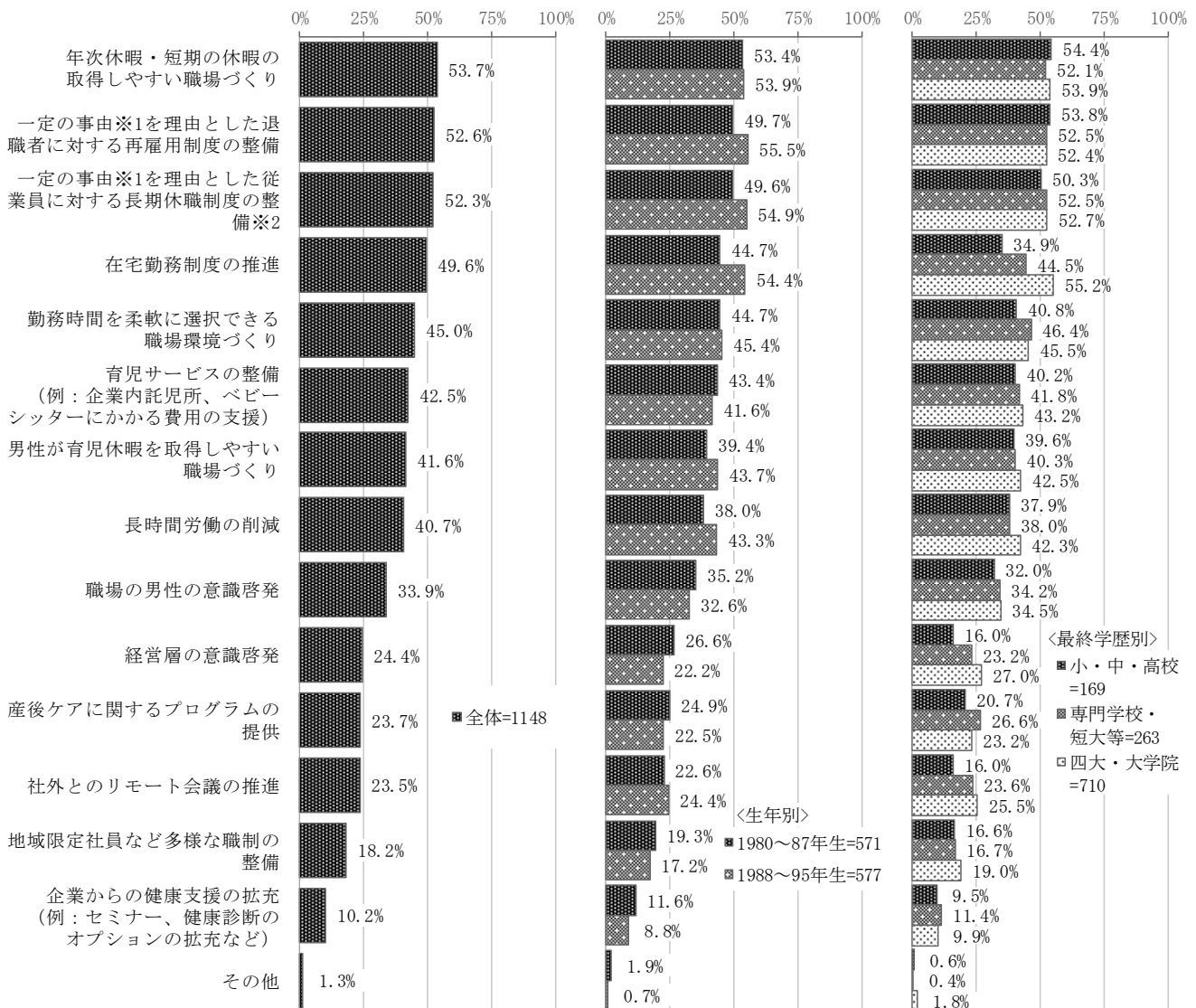
- 仕事以外にも、婚活や健康面などプライベートなサポートも導入していく。
- 男性と同じような体力。
- 自立。
- 地方の政治から変わらないと、住民の意識も変わらないと思います。
- 女性が増えたら女性同士のいじめが増える 防ぐためのなにかが必要。

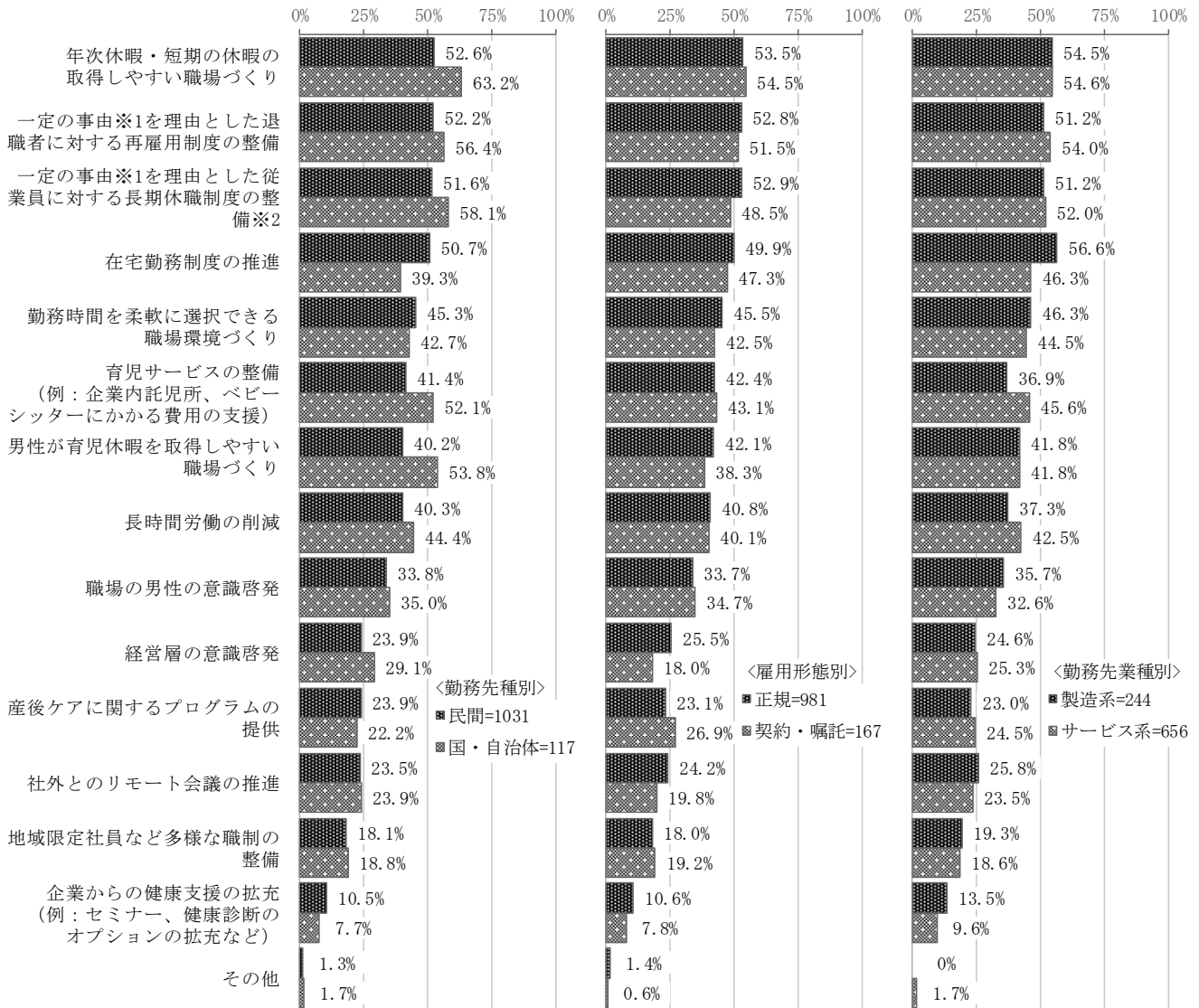
- 女性が都市部で働く意欲があることが、日本社会の課題となる意味が分からない。好きなところで働けばいい。
- 私も地方で働きたくないのも難しいと思う。

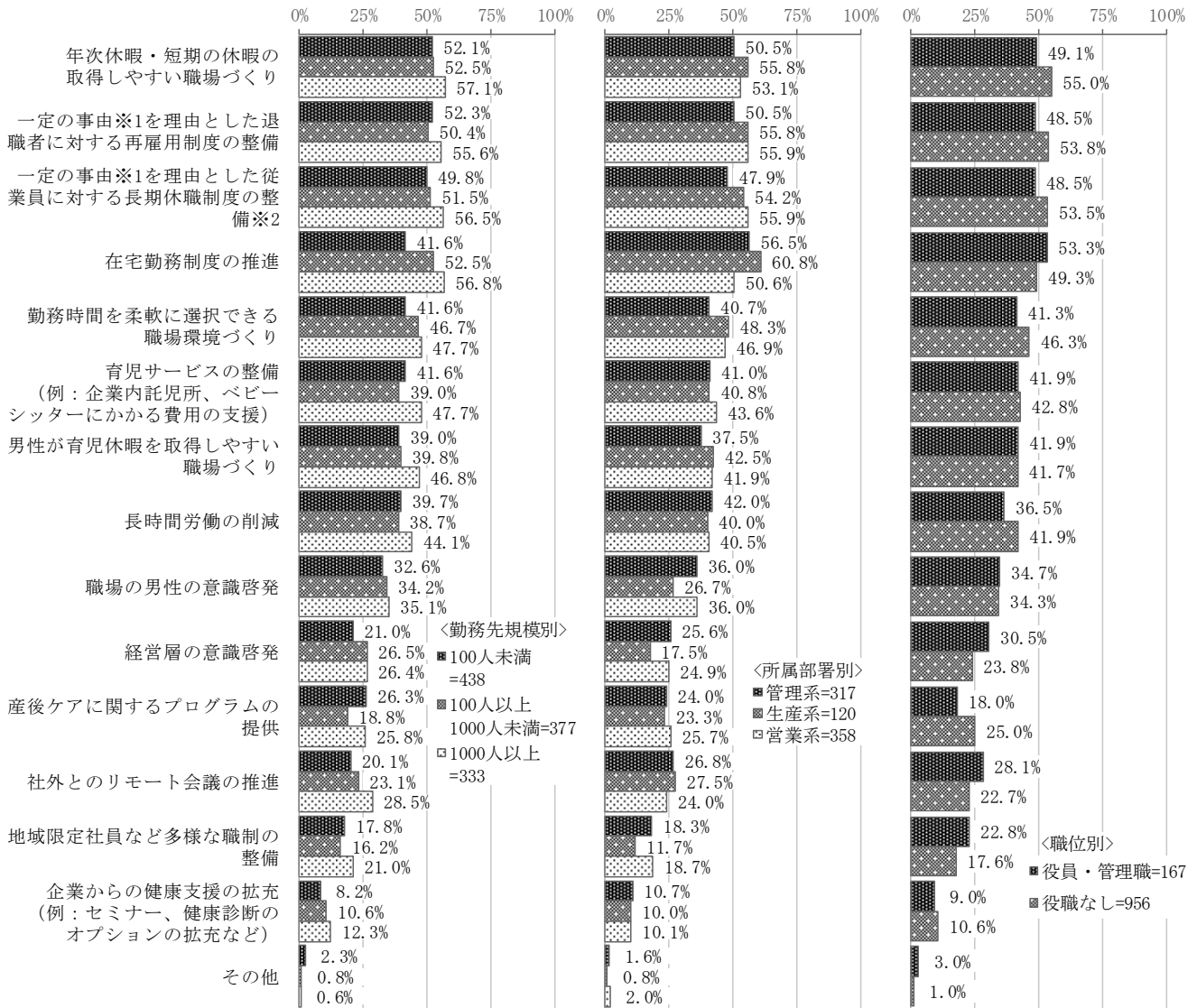
29. 勤労女性の健康維持に必要なこと

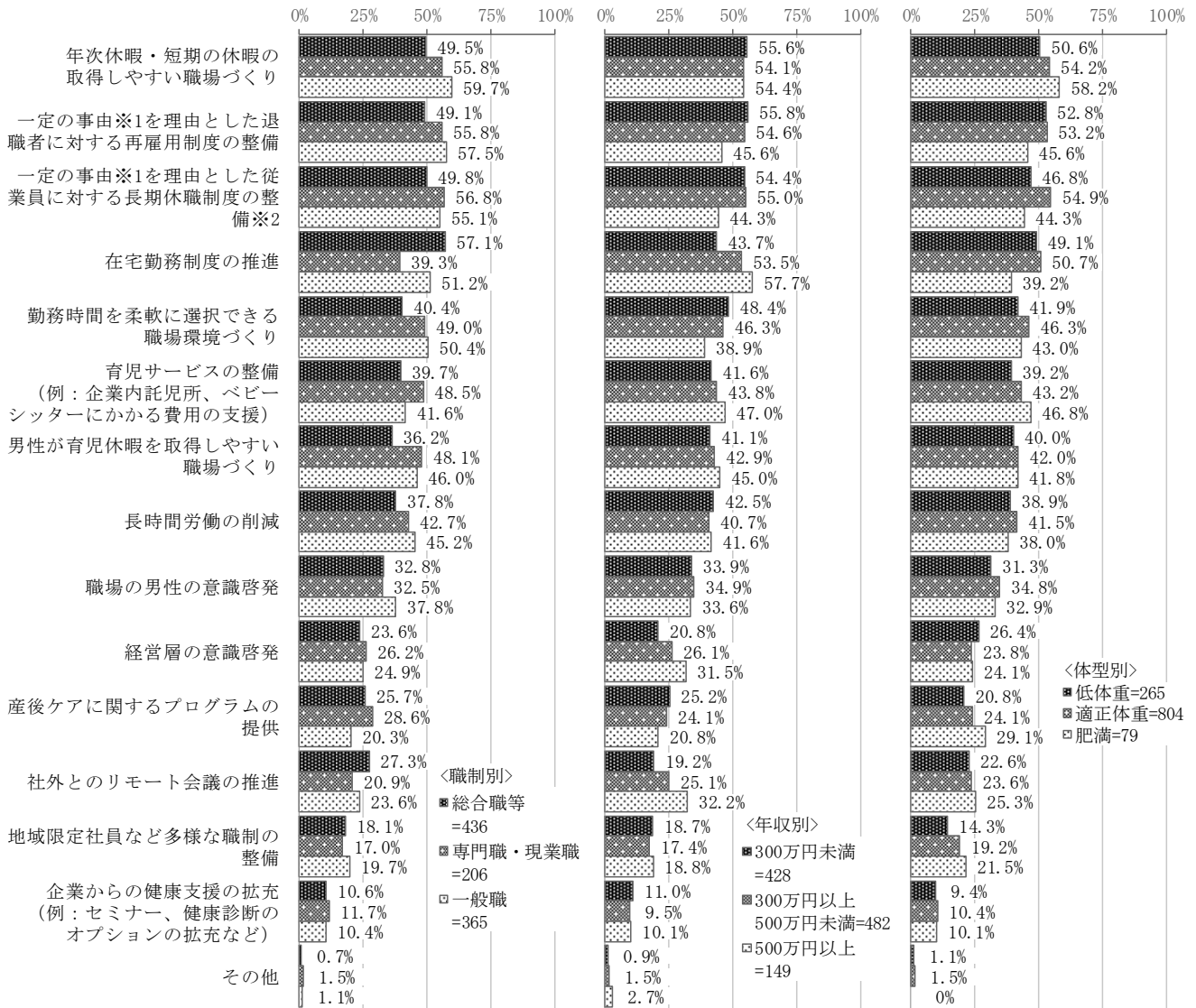
- 女性が仕事を続けながら、健康を維持していくために必要だと思うことを尋ねたところ、全体では「年次休暇・短期の休暇の取得しやすい職場づくり」53.7%、「一定の事由※1を理由とした退職者に対する再雇用制度の整備」52.6%、「一定の事由※1を理由とした従業員に対する長期休職制度の整備※2」52.3%の順に多かった。
- 「在宅勤務制度の推進」は、属性別で違いがみられ、最終学歴別で四大・大学院の回答者、勤務先種別で民間の回答者、勤務先業種別で製造系の回答者、勤務先規模別で1000人以上の回答者と100人以上1000人未満の回答者、職制別で総合職等の回答者と一般職の回答者、年収別で500万円以上の回答者、健康の維持改善で実践中の回答者と予定ありの回答者、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者とわからない・決めていない回答者が多い。
- 勤務先種別で国・自治体の回答者は、「年次休暇・短期の休暇の取得しやすい職場づくり」、「男性が育児休暇を取得しやすい職場づくり」、「育児サービスの整備」が多い。
- 年収別で300万円以上500万円未満の回答者と300万円未満の回答者は、それぞれ「一定の事由※1を理由とした従業員に対する長期休職制度の整備※2」が多い。
- 健康課題有無で課題ありの回答者は、ほとんどの項目で多い傾向がみられる。
- 健康の維持改善で実践中の回答者と予定ありの回答者は、「一定の事由※1を理由とした退職者に対する再雇用制度の整備」「男性が育児休暇を取得しやすい職場づくり」「職場の男性の意識啓発」が多い。

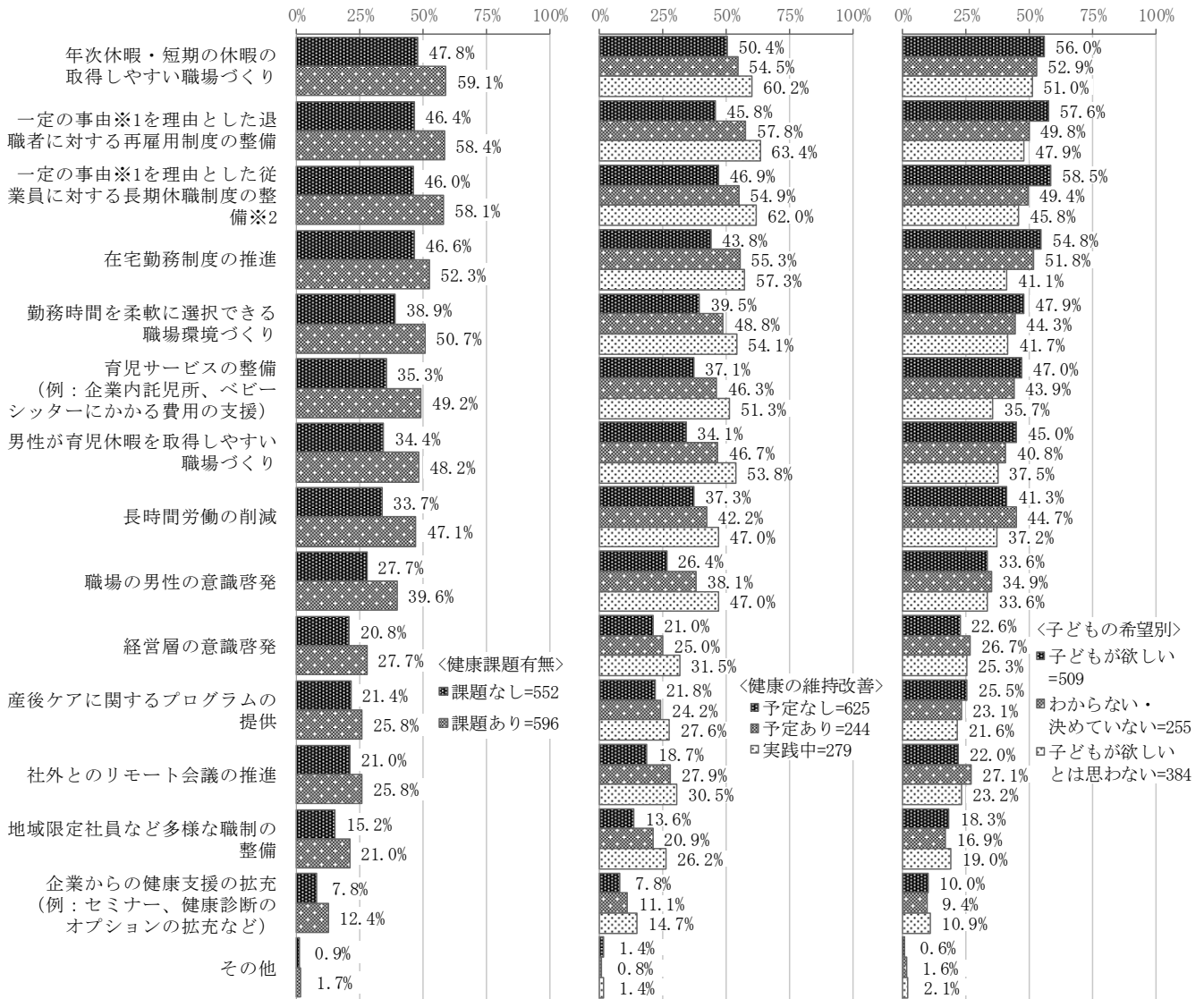
図表 29. 勤労女性の健康維持に必要なこと【複数選択】











※1 一定の事由（出産・育児、介護、疾病、不妊治療）

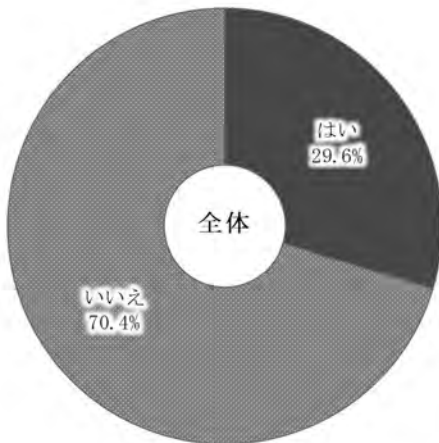
※2 長期休職制度の整備（法律で定めがあるものは法定を超えた期間）

注 「その他」には、「賃金アップ」「代替職員の確保」「週休3日制」「有給休暇を増やす」「カウンセリング制度等の導入」「医療のできる保育園」「逆マタハラ撲滅」「フォローする側の支援」「自分にあった職場選びと体調管理」「伴侶の協力」「育児系は各家庭（ひとり親は行政）で解決すべき。貧しくて結婚出来ない女もいる。」があった。

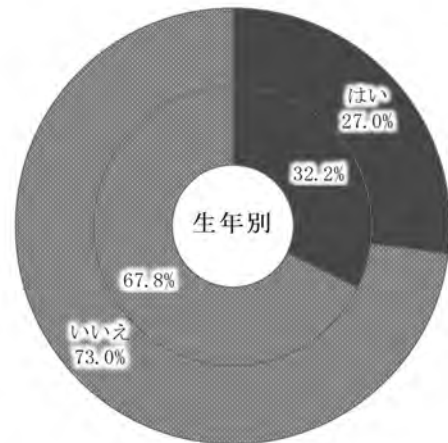
30. 現職を定年まで継続する意思

- 自身が定年まで現在の勤め先に勤めることを前提にキャリアプランを考えているか尋ねたところ、全体では「いいえ」が7割を超え、「はい」は3割に満たなかった。
- 「はい」は、年収別で高いほど多く、500万円以上の回答者、300万円以上500万円未満の回答者の順で多い。健康の維持改善では実践中の回答者、予定ありの回答者、予定なしの回答者の順だった。また、最終学歴別で四大・大学院の回答者、勤務先種別で国・自治体の回答者、雇用形態別で正規の回答者、職位別で役員・管理職の回答者、健康課題有無で課題ありの回答者が多い。

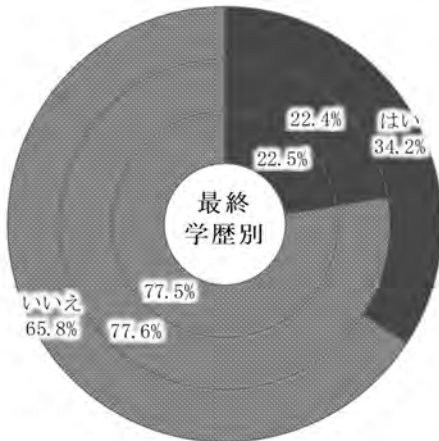
図表 30. 現職を定年まで継続する意思【単一選択】



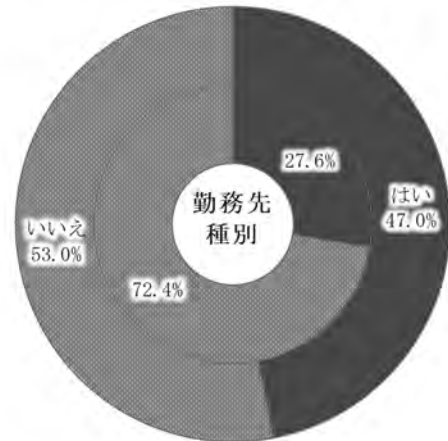
全体= 1148



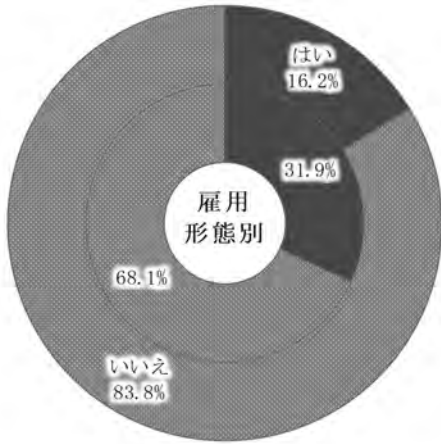
内:1980~87年生=571 外:1988~95年生=577



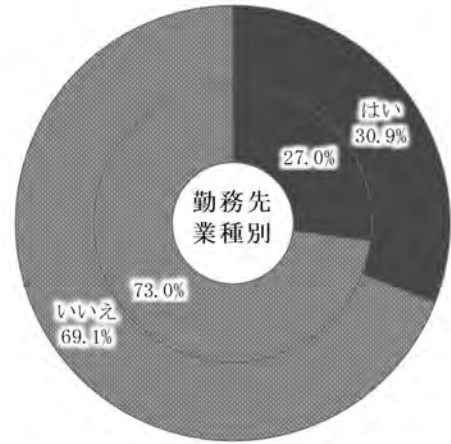
内:小・中・高校=169 中:専門学校・短大等=263
外:四大・大学院=710



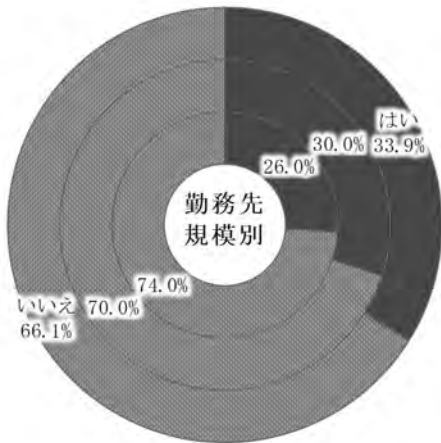
内:民間=1031 外:国・自治体=117



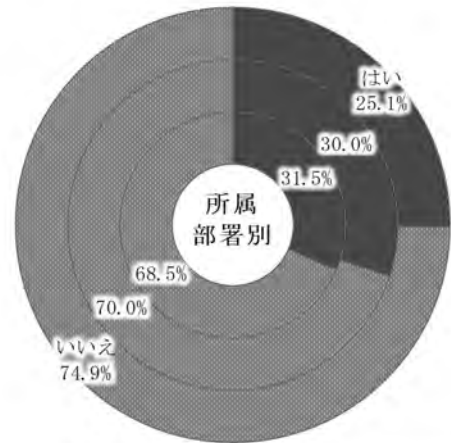
内: 正規=981 外: 契約・嘱託=167



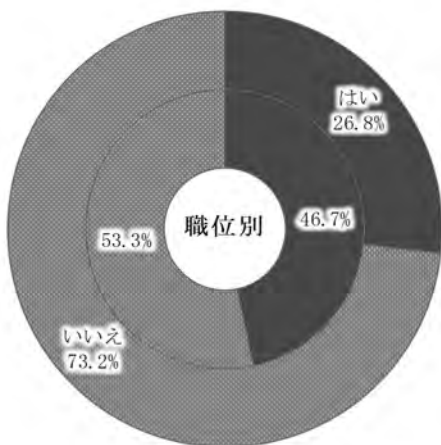
内: 製造系=244 外: サービス系=656



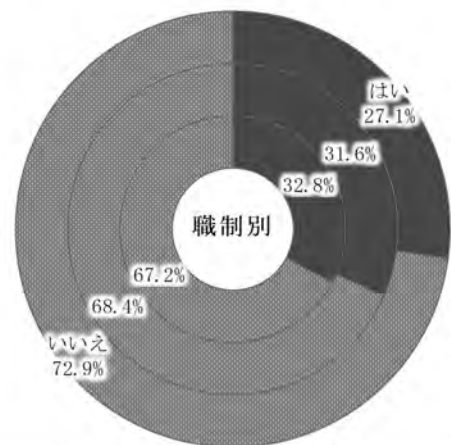
内: 100人未満=438 中: 100人以上1000人未満=377
外: 1000人以上=333



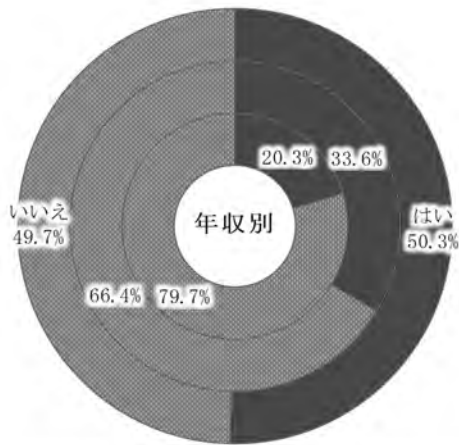
内: 管理系=317 中: 生産系=120 外: 営業系=358



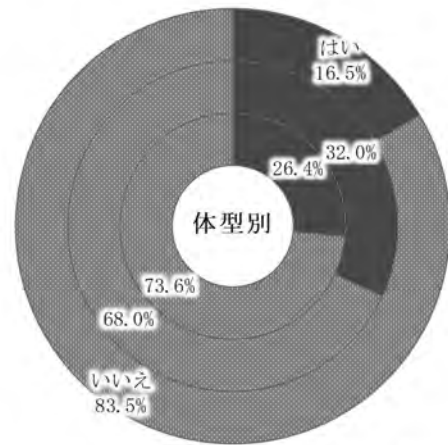
内: 役員・管理職=167 外: 役職なし=956



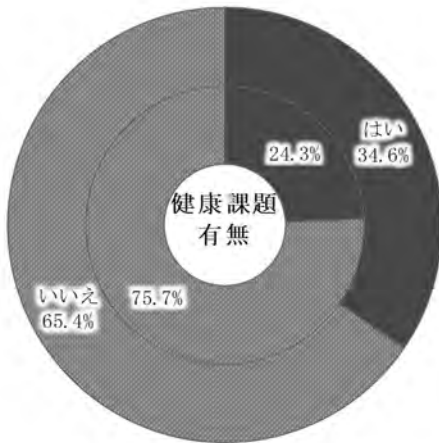
内: 総合職等=436 中: 専門職・現業職=206 外: 一般職=365



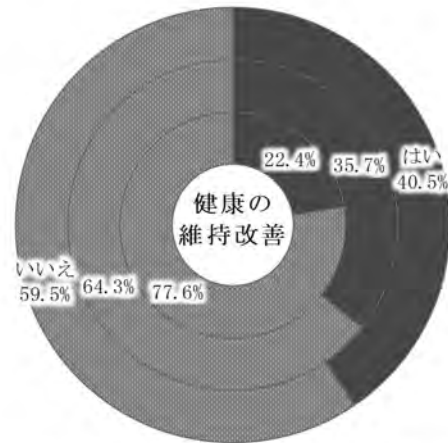
内: 300万円未満=428 中: 300万以上500万円未満=482
外: 500万円以上=149



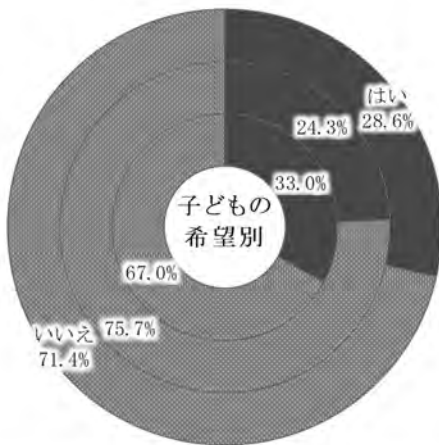
内: 低体重=265 中: 適正体重=804 外: 肥満=79



内: 課題なし=552 外: 課題あり=596



内: 予定なし=625 中: 予定あり=244 外: 実践中=279

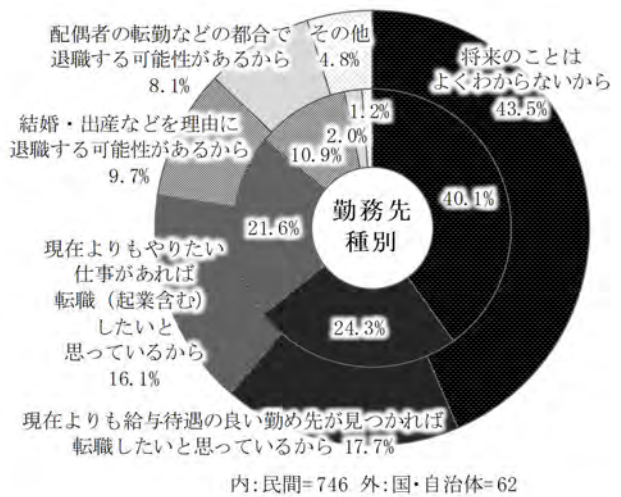
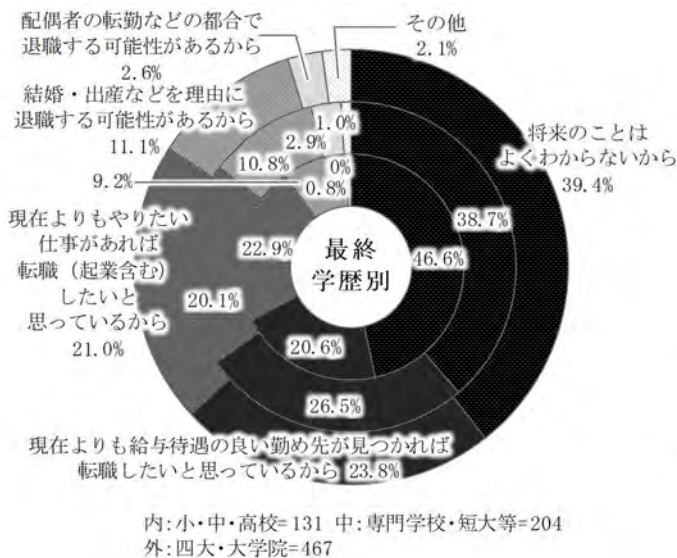
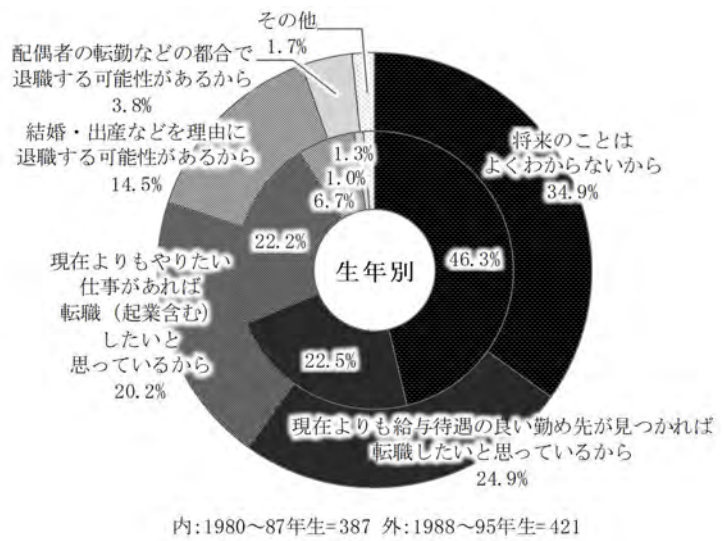
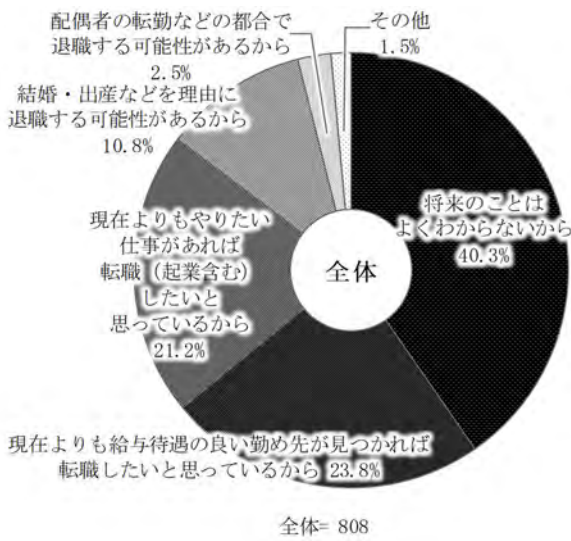


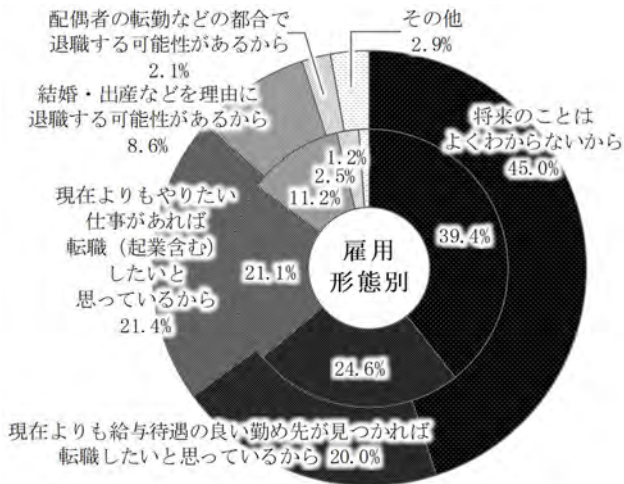
内: 子どもが欲しい=509 中: わからない・決めていない=255
外: 子どもが欲しいとは思わない=384

31. 転職希望の理由

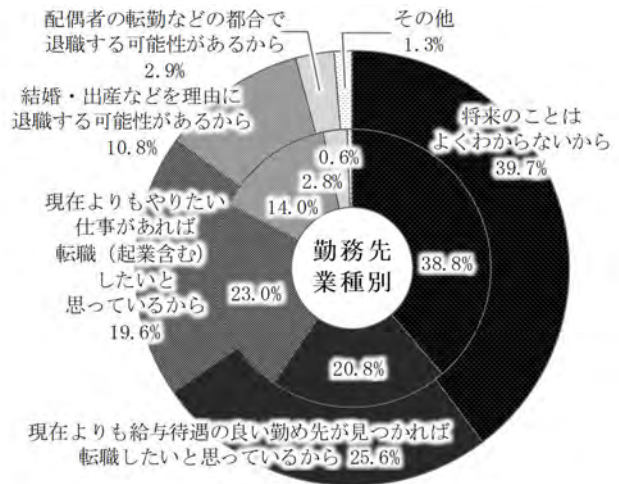
- 「定年まで現在の勤め先に勤めることを前提にキャリアプランを考えているか」に「いいえ」を選択した回答者にその理由を尋ねたところ、全体では「将来のことはよくわからないから」が40.3%と最も多く、「現在よりも給与待遇の良い勤め先が見つければ転職したいと思っているから」が23.8%、「現在よりもやりたい仕事があれば転職（起業含む）したいと思っているから」が21.2%と続いた。
- 生年別で1980～87年生の回答者は「将来のことはよくわからないから」が多く、子どもの希望別で子どもが欲しい回答者は「結婚・出産などを理由に退職する可能性があるから」、わからない・決めていない回答者と子どもが欲しいとは思わない回答者は「将来のことはよくわからないから」が多い。

図表 31. 転職希望の理由 [単一選択]

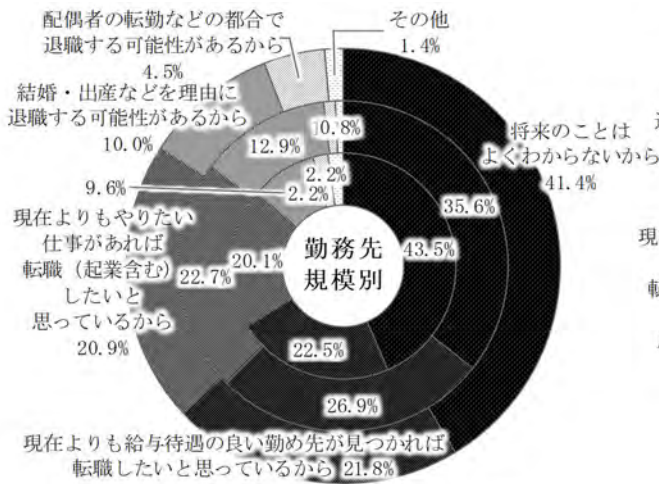




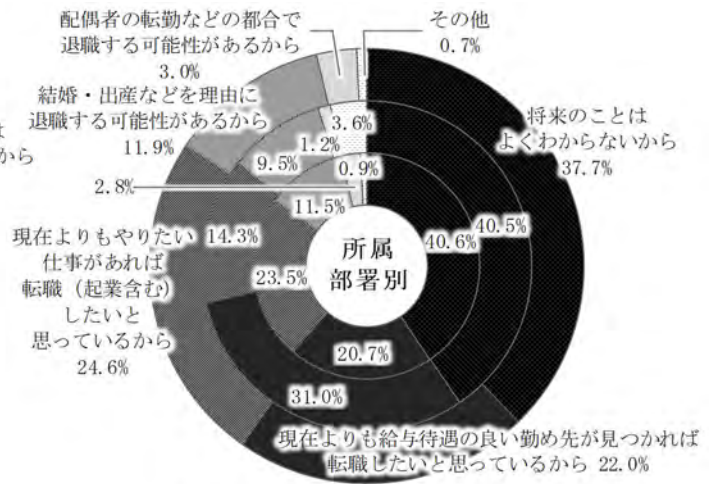
内:正規=668 外:契約・嘱託=140



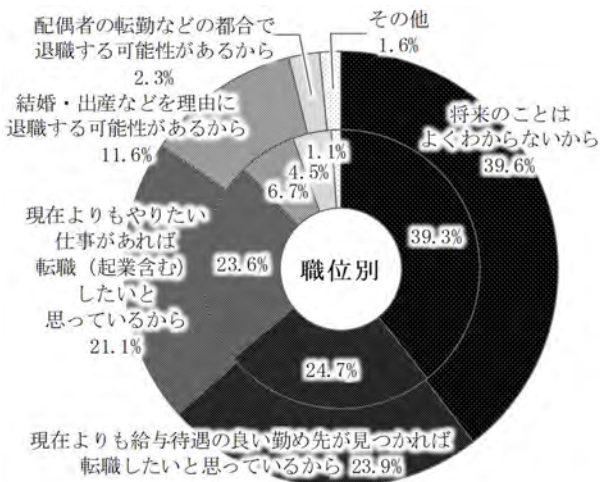
内:製造系=178 外:サービス系=453



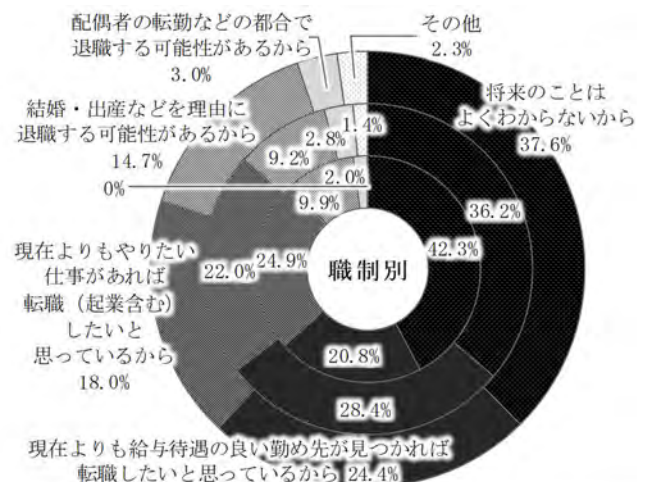
内:100人未満=324 中:100人以上1000人未満=264 外:1000人以上=220



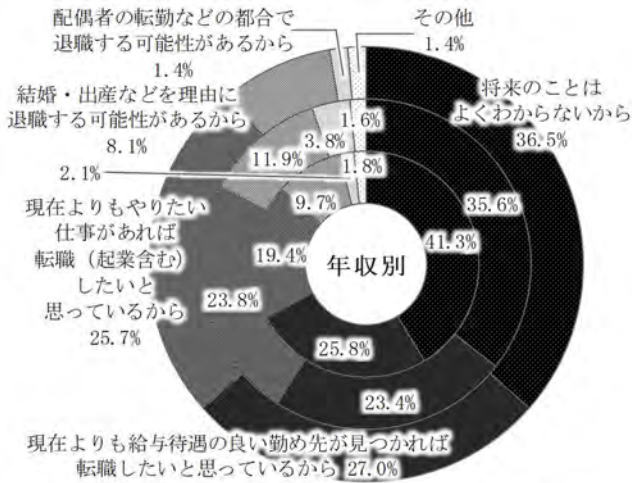
内:管理系=217 中:生産系=84 外:営業系=268



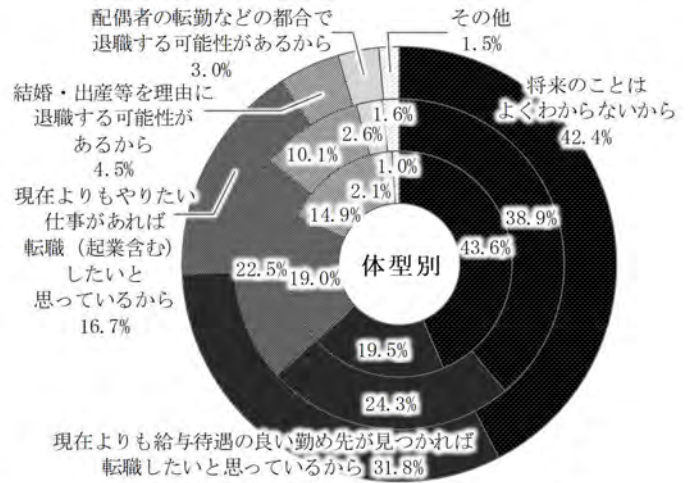
内:役員・管理職=89 外:役職なし=700



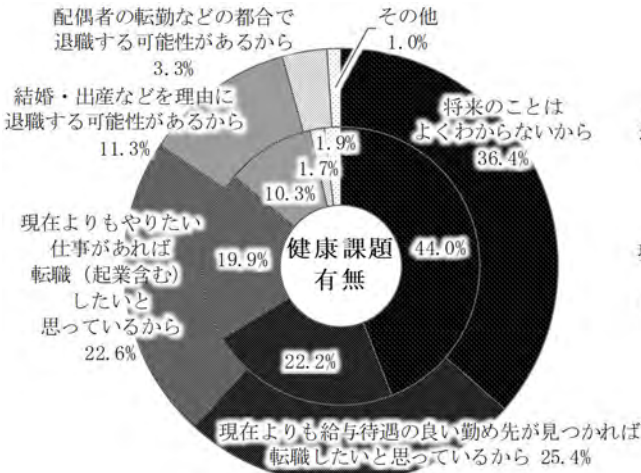
内:総合職等=293 中:専門職・現業職=141 外:一般職=266



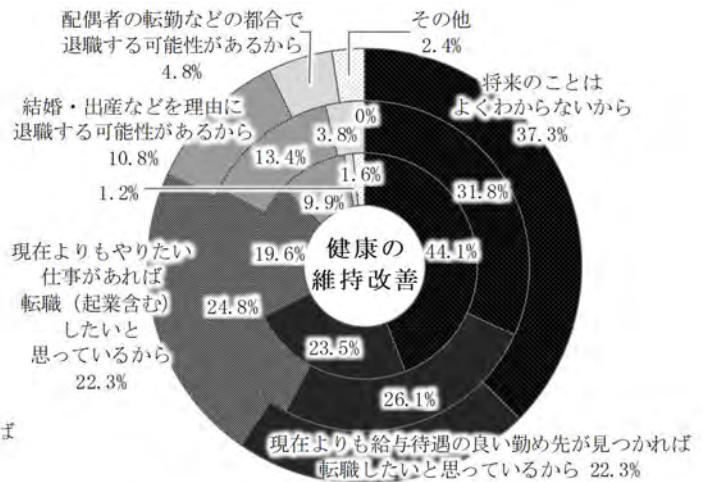
内:300万円未満=341 中:300万以上500万円未満=320
外:500万円以上=74



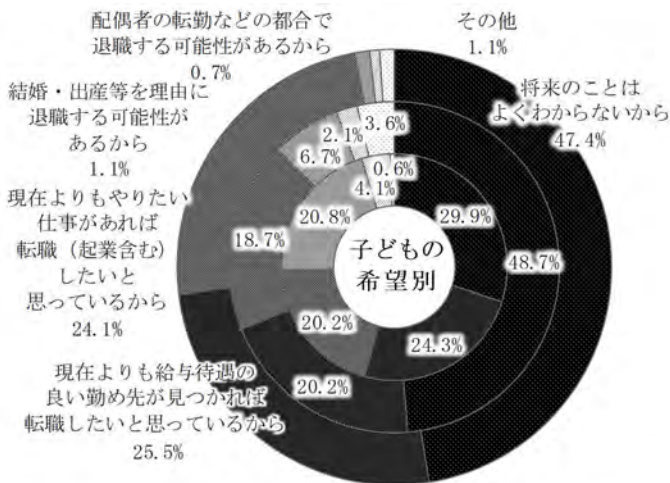
内:低体重=195 中:適正体重=547 外:肥満=66



内:課題なし=418 外:課題あり=390



内:予定なし=485 中:予定あり=157 外:実践中=166



内:子どもが欲しい=341 中:わからない・決めていない=193
外:子どもが欲しいとは思わない=274

注 「その他」には、「できるだけ働きたくない」「とりあえず就職したかったから」「元々教職に移るつもりで一般企業に入社したため」「契約社員のため」「雇用に期限があるため」「経営者の後継がないから」「今の会社は家から遠いので転職したい」「今の会社は働きづらく子供の休みの日に休みの会社で働きたい」「子育てしながら仕事を続けることに限界を感じる」「大学なのでキャリアアップするような制度がない」「定年まで職場がないから」「留学の夢があるから」があった。

<本調査に関する問い合わせ先>

株式会社日本総合研究所

専門分野：フェムテック

マネジャー 泰平 苑子

yasuhira.sonoko@jri.co.jp

専門分野：女性のメンタルヘルス

スペシャリスト 沢村 香苗

sawamura.kanae@jri.co.jp

専門分野：女性の働き方・食生活及び栄養

スペシャリスト 小島 明子

kojima.akiko@jri.co.jp